

深田古墳群 深田遺跡（第2・3次）  
双ツ塚西方遺跡 中島遺跡 双ツ塚遺跡（第3次）  
金沢川遺跡（第1・2次） 発掘調査報告  
～鈴鹿市東玉垣町・柳町・岸岡町所在～

2023（令和5）年3月

三重県埋蔵文化財センター











双ツ塚遺跡（第3次）出土遺物



金沢川遺跡（第2次）S X 80出土遺物



## 例 言

1. 本書は、平成30年度から令和2年度に実施した農地整備事業（経営体育成型）鈴鹿川沿岸6期地区に伴う深田古墳群・深田遺跡（第2・3次）・双ツ塚西方遺跡・中島遺跡・双ツ塚遺跡（第3次）・金沢川遺跡（第1・2次）の発掘調査報告書である。
2. 調査地は、三重県鈴鹿市東玉垣町・柳町・岸岡町に所在する。
3. 本遺跡の調査は、三重県教育委員会が三重県農林水産部から依頼を受けて労務提供による工事立会として実施した。施工業者は、下記のとおりである。発掘調査及び整理作業の経費は、三重県農林水産部から執行委任を受けて作業を実施した。  
〔平成30年度〕 有限会社磯部組 〔平成31（令和元）年度〕 有限会社磯部組、衣笠土木有限会社  
〔令和2年度〕 有限会社磯部組、衣笠土木有限会社
4. 各遺跡の発掘調査期間及び面積は、以下のとおりである。  
深田1・2号墳、深田遺跡（第2次） 平成30年10月15日～平成30年12月18日 740㎡  
深田遺跡（第3次） 令和元年11月5日～令和2年1月10日 525㎡  
双ツ塚西方遺跡 平成30年12月19日～平成31年2月22日 504㎡  
中島遺跡 令和元年9月2日～令和2年1月20日 1,890㎡  
双ツ塚遺跡（第3次） 令和2年1月14日～令和2年1月27日 228.06㎡  
金沢川遺跡（第1次） 令和元年7月16日～令和元年9月3日 343㎡  
金沢川遺跡（第2次） 令和2年8月4日～令和3年2月4日 2,367㎡
5. 調査及び整理作業・報告書作成の体制は、以下のとおりである。  
調査主体 三重県教育委員会 調査担当 三重県埋蔵文化財センター 調査研究1課  
〔平成30年度〕 深田古墳群、深田遺跡（第2次）、双ツ塚西方遺跡  
課長 竹内英昭、主幹兼課長代理 穂積裕昌、課長代理 伊藤文彦、主幹 中井英幸 中村法道、主査 倉野雅文  
〔平成31（令和元）年度〕 深田遺跡（第3次）、中島遺跡、双ツ塚遺跡（第3次）、金沢川遺跡（第1次）  
課長 穂積裕昌、主幹兼課長代理 原田恵理子 角正芳浩、主幹 中村法道、主査 倉野雅文、主任 元座範子、技師 水谷俊司、主事 若井啓奨、研修員 山西隆治  
〔令和2年度〕 金沢川遺跡（第2次）  
課長 穂積裕昌、主幹兼課長代理 角正芳浩、主幹 中川 明、主査 櫻井拓馬、主任 元座範子、技師 土橋明梨紗 樋口太地  
〔令和3年度〕 整理作業  
課長 小濱 学、主幹兼課長代理 原田恵理子、課長代理 櫻井拓馬、主幹 萩原義彦  
主査 土橋明梨紗 樋口太地  
〔令和4年度〕 整理作業・報告書作成  
課長 小濱 学、主幹兼課長代理 原田恵理子、課長代理 櫻井拓馬、主幹 萩原義彦 佐藤嘉晃、主査 田中久生、主任 長谷川市太郎、技師 土橋明梨紗
6. 当報告書の作成事務は、三重県埋蔵文化財センター調査研究1課が担当し、本書の執筆は穂積、原田、土橋が行い、文責は目次及び文中に記した。編集は原田・土橋が担当した。遺構の写真撮影は各調査担当が、出土遺物の写真撮影は田中が行った。また、出土遺物の集合写真撮影は田中が行い、佐藤・長谷川・土橋が補佐した。
7. 調査図面・写真・出土遺物は、三重県埋蔵文化財センターにて保管している。

## 凡 例

1. 本書で使用した地図類は、国土地理院発行の1:25,000数値地図「鈴鹿」、三重県共有デジタル図などの地図類を用いている。なお、三重県共有デジタル地図は、三重県市町総合事務組合管理者の承認を得て使用している（令和4年4月6日付三総合地第1号）。範囲確認調査坑位置図及び調査区位置図に使用した事業計画図は三重県農林水産部の提供による。
2. 本書で用いた座標は世界測地系に基づくものである。方位は第VI座標系の座標北で示した。
3. 標高は東京湾平均海面（T.P.）を基準とした。
4. 本書で用いる遺構略号は以下のとおりである。  
SA：柱列・欄干 SD：溝・周溝 SE：井戸 SF：カマド SH：堅穴建物  
SK：土坑 SR：流路 SX：墓 SZ：落ち込み・不明遺構 Pit：柱穴
5. 土色の表記は、小山正忠・竹原秀雄編『新版標準土色帖』（日本色研事業株式会社、1967年初版）に拠った。
6. 遺物実測図の縮尺は基本的に1：4とした。それ以外の縮尺の場合は、別途明記した。
7. 註は各章の文末に付し、参考文献も註に記した。
8. 写真図版中の遺物に付した番号は、各遺物の報告番号と対応する。遺物写真は縮尺不同である。

# 目次

第I章 前言	…………… (原田恵理子) ……	1
第1節 調査の経緯と経過		
第2節 調査の方法		
第II章 位置と環境	…………… (穂積 裕昌) ……	5
第1節 地理的環境		
第2節 歴史的環境		
第III章 深田古墳群、深田遺跡 (第2・3次)	…………… (穂積裕昌・原田恵理子) ……	11
第1節 調査の概要		
第2節 遺構		
第3節 遺物		
第4節 小結		
第IV章 双ツ塚西方遺跡	…………… (穂積 裕昌) ……	84
第1節 調査の概要		
第2節 遺構		
第3節 遺物		
第4節 小結		
第V章 中島遺跡	…………… (原田恵理子) ……	96
第1節 調査の概要		
第2節 遺構		
第3節 遺物		
第4節 小結		
第VI章 双ツ塚遺跡 (第3次)	…………… (原田恵理子) ……	176
第1節 調査の概要		
第2節 遺構		
第3節 遺物		
第4節 小結		
第VII章 金沢川遺跡 (第1・2次)	…………… (土橋明梨紗) ……	194
第1節 調査の概要		
第2節 遺構		
第3節 遺物		
第4節 小結		
第VIII章 自然科学分析	……………	241
第1節 中島遺跡・深田遺跡 (第3次) にかかる微化石分析 (一般社団法人 文化財科学研究センター)		
第2節 金沢川遺跡 (第1次) ・中島遺跡における樹種同定・昆虫同定 (パリノ・サーヴェイ株式会社)		
第3節 金沢川遺跡 (第2次) における樹種同定及び植物遺体同定 (一般社団法人 文化財科学研究センター)		
第4節 金沢川遺跡 (第2次) 出土鉄滓の調査 (日鉄テクノロジー株式会社 九州営業所)		
第IX章 総括	…………… (原田恵理子) ……	263

# 挿図目次

第1-1図 調査区位置図1	・・・	1	第III-45図 深田遺跡(第3次)D区遺物実測図3	・・・	63
第1-2図 調査区位置図2	・・・	1	第III-46図 深田遺跡(第3次)D区遺物実測図4	・・・	64
第1-3図 範囲確認調査坑位置図1	・・・	3	第III-47図 深田古墳群の古墳想定復元	・・・	68
第1-4図 範囲確認調査坑位置図2	・・・	3	第III-48図 参考：寺谷古墳群の古墳配置	・・・	68
第II-1図 土地条件図	・・・	6	第IV-1図 双ツ塚西方遺跡平面図1	・・・	85
第II-2図 遺跡位置図	・・・	8	第IV-2図 双ツ塚西方遺跡平面図2	・・・	86
第III-1図 深田遺跡(第2次)A区平面図1	・・・	12	第IV-3図 双ツ塚西方遺跡平面図3	・・・	87
第III-2図 深田遺跡(第2次)A区平面図2	・・・	13	第IV-4図 双ツ塚西方遺跡平面図4	・・・	88
第III-3図 深田遺跡(第2次)A区平面図3	・・・	14	第IV-5図 双ツ塚西方遺跡土層断面図1	・・・	89
第III-4図 深田遺跡(第2次)A区土層断面図1	・・・	15	第IV-6図 双ツ塚西方遺跡土層断面図2	・・・	90
第III-5図 深田遺跡(第2次)A区土層断面図2	・・・	16	第IV-7図 双ツ塚西方遺跡S Z 2, S K3~7平面図・断面図	・・・	91
第III-6図 深田遺跡(第2次)A区S D 8平面図・断面図・土層断面図	・・・	17	第IV-8図 双ツ塚西方遺跡遺物実測図	・・・	92
第III-7図 深田遺跡(第2次)A区S D 7・8平面図・土層断面図	・・・	18	第V-1図 中島遺跡A区平面図	・・・	97
第III-8図 深田遺跡(第2次)A区S K 10・S D 9平面図・土層断面図	・・・	19	第V-2図 中島遺跡A区土層断面図1	・・・	98
第III-9図 深田遺跡(第2次)B区平面図1	・・・	20	第V-3図 中島遺跡A区土層断面図2	・・・	99
第III-10図 深田遺跡(第2次)B区平面図2、S K 24, S D 21・22, B 7P11平面図・土層断面図	・・・	21	第V-4図 中島遺跡B区平面図1	・・・	100
第III-11図 深田遺跡(第2次)B区土層断面図1	・・・	22	第V-5図 中島遺跡B区平面図2	・・・	101
第III-12図 深田遺跡(第2次)B区土層断面図2	・・・	23	第V-6図 中島遺跡B区土層断面図1	・・・	102
第III-13図 深田遺跡(第2次)C区平面図1	・・・	24	第V-7図 中島遺跡B区土層断面図2	・・・	103
第III-14図 深田遺跡(第2次)C区平面図2、S K 27平面図・土層断面図	・・・	25	第V-8図 中島遺跡B区S F 137周辺図	・・・	104
第III-15図 深田遺跡(第2次)C区土層断面図1	・・・	26	第V-9図 中島遺跡C区平面図1	・・・	105
第III-16図 深田遺跡(第2次)C区土層断面図2	・・・	27	第V-10図 中島遺跡C区平面図2、S K 204・211, S D 209平面図・断面図	・・・	106
第III-17図 深田遺跡(第3次)D区平面図1	・・・	30	第V-11図 中島遺跡C区土層断面図1	・・・	107
第III-18図 深田遺跡(第3次)D区平面図2	・・・	31	第V-12図 中島遺跡C区土層断面図2	・・・	108
第III-19図 深田遺跡(第3次)D区平面図3	・・・	32	第V-13図 中島遺跡D区平面図1	・・・	109
第III-20図 深田遺跡(第3次)D区平面図4	・・・	33	第V-14図 中島遺跡D区平面図2	・・・	110
第III-21図 深田遺跡(第3次)D区土層断面図1	・・・	34	第V-15図 中島遺跡D区土層断面図1	・・・	111
第III-22図 深田遺跡(第3次)D区土層断面図2	・・・	35	第V-16図 中島遺跡D区土層断面図2	・・・	112
第III-23図 深田遺跡(第3次)D区土層断面図3	・・・	36	第V-17図 中島遺跡D区S H 330, S E 322, S K 323平面図・断面図	・・・	113
第III-24図 深田遺跡(第3次)D区S H 41・49・58・75, S K 57平面図・S K 57遺物出土状況図	・・・	37	第V-18図 中島遺跡E区平面図1	・・・	115
第III-25図 深田遺跡(第3次)D区S H 61・66, S K 64, S Z 67平面図・断面図	・・・	38	第V-19図 中島遺跡E区平面図2	・・・	116
第III-26図 深田遺跡(第3次)D区S H 68・76平面図・断面図	・・・	39	第V-20図 中島遺跡E区土層断面図1	・・・	117
第III-27図 深田遺跡(第2次)A区遺物実測図1	・・・	41	第V-21図 中島遺跡E区土層断面図2	・・・	118
第III-28図 深田遺跡(第2次)A区遺物実測図2	・・・	42	第V-22図 中島遺跡E区S K 406・420・421・423平面図・断面図	・・・	119
第III-29図 深田遺跡(第2次)A区遺物実測図3	・・・	43	第V-23図 中島遺跡F区平面図・土層断面図	・・・	120
第III-30図 深田遺跡(第2次)A区遺物実測図4	・・・	44	第V-24図 中島遺跡G区平面図1	・・・	121
第III-31図 深田遺跡(第2次)A区遺物実測図5	・・・	46	第V-25図 中島遺跡G区平面図2	・・・	122
第III-32図 深田遺跡(第2次)A区遺物実測図6	・・・	47	第V-26図 中島遺跡G区平面図3	・・・	123
第III-33図 深田遺跡(第2次)A区遺物実測図7	・・・	48	第V-27図 中島遺跡G区土層断面図1	・・・	124
第III-34図 深田遺跡(第2次)A区遺物実測図8	・・・	50	第V-28図 中島遺跡G区土層断面図2	・・・	125
第III-35図 深田遺跡(第2次)A区遺物実測図9	・・・	51	第V-29図 中島遺跡G区S E 613, S K 607~611平面図・断面図	・・・	126
第III-36図 深田遺跡(第2次)A区遺物実測図10	・・・	52	第V-30図 中島遺跡H区平面図1	・・・	127
第III-37図 深田遺跡(第2次)A区遺物実測図11	・・・	53	第V-31図 中島遺跡H区平面図2	・・・	128
第III-38図 深田遺跡(第2次)A区遺物実測図12	・・・	55	第V-32図 中島遺跡H区平面図3	・・・	129
第III-39図 深田遺跡(第2次)A区遺物実測図13	・・・	56	第V-33図 中島遺跡H区土層断面図1	・・・	130
第III-40図 深田遺跡(第2次)A区遺物実測図14	・・・	58	第V-34図 中島遺跡H区土層断面図2	・・・	131
第III-41図 深田遺跡(第2次)B区遺物実測図	・・・	59	第V-35図 中島遺跡A区遺物実測図	・・・	132
第III-42図 深田遺跡(第2次)C区遺物実測図	・・・	60	第V-36図 中島遺跡B区遺物実測図1	・・・	133
第III-43図 深田遺跡(第3次)D区遺物実測図1	・・・	61	第V-37図 中島遺跡B区遺物実測図2	・・・	134
第III-44図 深田遺跡(第3次)D区遺物実測図2	・・・	62	第V-38図 中島遺跡B区遺物実測図3	・・・	135
			第V-39図 中島遺跡B区遺物実測図4	・・・	136
			第V-40図 中島遺跡C区遺物実測図1	・・・	137
			第V-41図 中島遺跡C区遺物実測図2	・・・	138

第V-42図	中島遺跡C区遺物実測図3	・・・139
第V-43図	中島遺跡D区遺物実測図1	・・・141
第V-44図	中島遺跡D区遺物実測図2	・・・142
第V-45図	中島遺跡D区遺物実測図3	・・・143
第V-46図	中島遺跡D区遺物実測図4	・・・144
第V-47図	中島遺跡D区遺物実測図5	・・・145
第V-48図	中島遺跡D区遺物実測図6	・・・146
第V-49図	中島遺跡D区遺物実測図7	・・・147
第V-50図	中島遺跡D区遺物実測図8	・・・148
第V-51図	中島遺跡E区遺物実測図1	・・・149
第V-52図	中島遺跡E区遺物実測図2	・・・150
第V-53図	中島遺跡E区遺物実測図3	・・・151
第V-54図	中島遺跡E区遺物実測図4	・・・152
第V-55図	中島遺跡F区遺物実測図	・・・153
第V-56図	中島遺跡G区遺物実測図	・・・154
第V-57図	中島遺跡H区遺物実測図	・・・156
第VI-1図	双ツ塚遺跡(第3次)a区平面図1	・・・177
第VI-2図	双ツ塚遺跡(第3次)a区平面図2	・・・178
第VI-3図	双ツ塚遺跡(第3次)a区土層断面図	・・・179
第VI-4図	双ツ塚遺跡(第3次)a区SK5平面図・断面図	・・・180
第VI-5図	双ツ塚遺跡(第3次)b区平面図・土層断面図	・・・181
第VI-6図	双ツ塚遺跡(第3次)a区遺物実測図1	・・・182
第VI-7図	双ツ塚遺跡(第3次)a区遺物実測図2	・・・183
第VI-8図	双ツ塚遺跡(第3次)a区遺物実測図3	・・・184
第VI-9図	双ツ塚遺跡(第3次)a区遺物実測図4	・・・185
第VI-10図	双ツ塚遺跡(第3次)a区遺物実測図5	・・・186
第VI-11図	双ツ塚遺跡(第3次)a区遺物実測図6	・・・187
第VI-12図	双ツ塚遺跡(第3次)a区遺物実測図7	・・・188
第VI-13図	双ツ塚遺跡(第3次)a区遺物実測図8	・・・189
第VII-1図	金沢川遺跡(第1次)A区平面図・土層断面図	・・・195
第VII-2図	金沢川遺跡(第1次)SK1・12平面図・土層断面図	・・・196
第VII-3図	金沢川遺跡(第1次)B区平面図	・・・197
第VII-4図	金沢川遺跡(第1次)B区平面図	・・・198
第VII-5図	金沢川遺跡(第1次)C区平面図・土層断面図	・・・199
第VII-6図	金沢川遺跡(第2次)1区平面図・柱状図	・・・201
第VII-7図	金沢川遺跡(第2次)1・2区平面図1	・・・202
第VII-8図	金沢川遺跡(第2次)1・2区平面図2	・・・203
第VII-9図	金沢川遺跡(第2次)1・2区平面図3・土層断面図1	・・・204
第VII-10図	金沢川遺跡(第2次)1・2区土層断面図2	・・・205
第VII-11図	金沢川遺跡(第2次)2区平面図1	・・・206
第VII-12図	金沢川遺跡(第2次)2区平面図2・柱状図	・・・207
第VII-13図	金沢川遺跡(第2次)3区平面図1	・・・209
第VII-14図	金沢川遺跡(第2次)3区平面図2	・・・210
第VII-15図	金沢川遺跡(第2次)3区平面図3・土層断面図1	・・・211
第VII-16図	金沢川遺跡(第2次)3区土層断面図2・柱状図	・・・212
第VII-17図	金沢川遺跡(第2次)3区S X 80平面図・土層断面図	・・・213
第VII-18図	金沢川遺跡(第2次)4区平面図1・土層断面図1	・・・214
第VII-19図	金沢川遺跡(第2次)4区平面図2・土層断面図2	・・・215
第VII-20図	金沢川遺跡(第2次)5区平面図・柱状図	・・・216
第VII-21図	金沢川遺跡(第2次)6区平面図1	・・・218
第VII-22図	金沢川遺跡(第2次)6区平面図2・土層断面図1	・・・219
第VII-23図	金沢川遺跡(第2次)6区土層断面図2	・・・220
第VII-24図	金沢川遺跡(第2次)7区平面図	・・・221
第VII-25図	金沢川遺跡(第2次)7区土層断面図	・・・222
第VII-26図	金沢川遺跡(第2次)8区平面図・柱状図	・・・223
第VII-27図	金沢川遺跡範囲確認調査遺物実測図	・・・225
第VII-28図	金沢川遺跡(第1次)遺物実測図1	・・・226
第VII-29図	金沢川遺跡(第1次)遺物実測図2	・・・227
第VII-30図	金沢川遺跡(第1次)遺物実測図3	・・・228
第VII-31図	金沢川遺跡(第2次)遺物実測図1	・・・229
第VII-32図	金沢川遺跡(第2次)遺物実測図2	・・・230
第VII-33図	金沢川遺跡(第2次)遺物実測図3	・・・231
第VII-34図	金沢川遺跡(第2次)遺物実測図4	・・・232
第VII-35図	金沢川遺跡(第2次)6区周辺表採遺物	・・・232
第VIII-1図	中島遺跡・深田遺跡(第3次)における花粉ダイアグラム	・・・243
第VIII-2図	中島遺跡・深田遺跡(第3次)における樹木花粉ダイアグラム	・・・243
第VIII-3図	中島遺跡・深田遺跡(第3次)の花粉	・・・244
第VIII-4図	中島遺跡・深田遺跡(第3次)における植物珪酸体分析結果	・・・246
第VIII-5図	中島遺跡・深田遺跡(第3次)における植物珪酸体(プラント・オーバー)	・・・247
第VIII-6図	中島遺跡・深田遺跡(第3次)における主要珪藻ダイアグラム	・・・251
第VIII-7図	中島遺跡・深田遺跡(第3次)の珪藻	・・・251
第VIII-8図	金沢川遺跡(第1次)の木材	・・・255
第VIII-9図	中島遺跡の木材	・・・255
第VIII-10図	中島遺跡の炭化材	・・・255
第VIII-11図	中島遺跡の昆虫	・・・255
第VIII-12図	金沢川遺跡(第2次)の木材	・・・257
第VIII-13図	金沢川遺跡(第2次)の植物遺体	・・・257
第VIII-14図	金沢川遺跡(第2次)の純形鍍治洋の顕微鏡組織・EPM調査1	・・・260
第VIII-15図	金沢川遺跡(第2次)の純形鍍治洋の顕微鏡組織・EPM調査2	・・・260
第IX-1図	各遺跡調査概略図1	・・・264
第IX-2図	各遺跡調査概略図2	・・・265

## 写真図版目次

巻頭写真図版	上、双ツ塚遺跡(第3次)出土遺物	
	下、金沢川遺跡(第2次)S X 80出土遺物	
写真図版1	深田遺跡(第2次)A区全景、A区全景、S D 8、S D 8	・・・267
写真図版2	深田遺跡(第2次)S D 8遺物出土状況、S D 8遺物出土状況	・・・268
写真図版3	深田遺跡(第2次)S D 8完掘状況、S D 9、S K 10検出状況、S D 9遺物出土状況、S K 10	・・・269

写真図版4	深田遺跡(第2次)S D 2、S D 3、S D 4、S D 6、S D 12、S D 13	・・・270
写真図版5	深田遺跡(第2次)B4-7、B8-9、S D 17、S Z 16遺物出土状況、S Z 16	・・・271
写真図版6	深田遺跡(第2次)S D 18・B7Pit1、S D 18・B7Pit1、S D 19、S D 20、S D 21、S D 21	・・・272
写真図版7	深田遺跡(第2次)S D 21・22、S K 24、S K 24、S Z 23	・・・273

写真図版8 深田遺跡(第2次) C5-12, C14-17, C21-25, S D25・S Z 26	・ ・ ・ 274
写真図版9 深田遺跡(第2次) S D25, S K27, S R28, S K27, S R28	・ ・ ・ 275
写真図版10 深田遺跡(第3次)d1-4, d5-9, d10-15, d16-22	・ ・ ・ 276
写真図版11 深田遺跡(第3次)d28-32, d31-32, d33-36	・ ・ ・ 277
写真図版12 深田遺跡(第3次)d37-38, d39-41, d41-44, d45-46, d47-48, d49-50, d50-51	・ ・ ・ 278
写真図版13 深田遺跡(第3次) S D31, S Z 33, S D31, S Z 33土壌試料採取状況, S D37, S K39, S D37, S D43・45	・ ・ ・ 279
写真図版14 深田遺跡(第3次) S H49, S H76, S D55・56, S H53, S K 57, S H58	・ ・ ・ 280
写真図版15 深田遺跡(第3次) S H61, S H66, S H58, d21P13, S H66P18, S Z 67	・ ・ ・ 281
写真図版16 深田遺跡(第3次) S Z 67・S D69, S H68, S H68, S H68, S H68, S D72, S Z 71, S D73	・ ・ ・ 282
写真図版17 深田遺跡(第2次)A区出土遺物1	・ ・ ・ 283
写真図版18 深田遺跡(第2次)A区出土遺物2	・ ・ ・ 284
写真図版19 深田遺跡(第2次)A区出土遺物3	・ ・ ・ 285
写真図版20 深田遺跡(第2次)A区出土遺物4	・ ・ ・ 286
写真図版21 深田遺跡(第2次)A-C区出土遺物	・ ・ ・ 287
写真図版22 深田遺跡(第3次)D区出土遺物1	・ ・ ・ 288
写真図版23 深田遺跡(第3次)D区出土遺物2	・ ・ ・ 289
写真図版24 双ツ塚西方遺跡A2-5, A2-7, A9-18, A18-24	・ ・ ・ 290
写真図版25 双ツ塚西方遺跡A25-37, A37-49, S D1, S Z 2, S D1, S K 3	・ ・ ・ 291
写真図版26 双ツ塚西方遺跡 S K4, S K4・5, S K4, S K6, S K6・7, S K7, A48・49P1	・ ・ ・ 292
写真図版27 双ツ塚西方遺跡出土遺物	・ ・ ・ 293
写真図版28 中島遺跡 A6・7, 作業風景, S D2付近土層, A11, A6-10	・ ・ ・ 294
写真図版29 中島遺跡調査前風景, B4-6, B1-3, B1-6, B7-10	・ ・ ・ 295
写真図版30 中島遺跡B11-16, B11-20, B16-21, S K101, S D102, S F136, S F137F土坑	・ ・ ・ 296
写真図版31 中島遺跡 F137, S H115, 土壌サンプル採取状況, C3・4, C5・6	・ ・ ・ 297
写真図版32 中島遺跡C8-11, C11-15, C19・20, C4木出土状況, S K208	・ ・ ・ 298
写真図版33 中島遺跡 S K214, S K215, S K218, S K215, S K217	・ ・ ・ 299
写真図版34 中島遺跡D1-3, D2	・ ・ ・ 300
写真図版35 中島遺跡D15-17, D17-21, S E322, S E322, S D311	・ ・ ・ 301
写真図版36 中島遺跡 S K323, S K323, S K323, S D325, D15P18	・ ・ ・ 302
写真図版37 中島遺跡 S H330, S D335・336	・ ・ ・ 303
写真図版38 中島遺跡E1, E2-4, E4-6, E9-11	・ ・ ・ 304
写真図版39 中島遺跡E11・12, E13・14, E15・16, E17	・ ・ ・ 305
写真図版40 中島遺跡E17・18, E18・19, E19-22, S K403	・ ・ ・ 306
写真図版41 中島遺跡 S K404, S K406, S K404, S K406, S D407, S D408, S D407, S K409	・ ・ ・ 307
写真図版42 中島遺跡 S D410, S D410, S D411, S D411, S D411, S D412	・ ・ ・ 308
写真図版43 中島遺跡E18包含層遺物出土状況, S D416, S D415, S D417, S D419, S K420, S K421, S K422	・ ・ ・ 309

写真図版44 中島遺跡F区全景, F区全景	・ ・ ・ 310
写真図版45 中島遺跡G1-2, G2-3, G3-5, G5-8	・ ・ ・ 311
写真図版46 中島遺跡G8-10, G11-14, G14-18, G14-18	・ ・ ・ 312
写真図版47 中島遺跡G19-24, G19-24, G23・24	・ ・ ・ 313
写真図版48 中島遺跡 S D601, S D602, S D603・604, S K605, S D606, S K605, S K607	・ ・ ・ 314
写真図版49 中島遺跡 S K608, S K609, S K608, S K609, S K610, S K612, S K611, S E613	・ ・ ・ 315
写真図版50 中島遺跡H・2, H3-5, H5-7, H9・10	・ ・ ・ 316
写真図版51 中島遺跡H10・11, H11・12, H11-13, H16-18	・ ・ ・ 317
写真図版52 中島遺跡H18-21, H21-24, H26-28, H29・30	・ ・ ・ 318
写真図版53 中島遺跡H30-32, H33-35, S D707, S D708, S D708	・ ・ ・ 319
写真図版54 中島遺跡A・B区出土遺物	・ ・ ・ 320
写真図版55 中島遺跡B・C区出土遺物	・ ・ ・ 321
写真図版56 中島遺跡C区出土遺物	・ ・ ・ 322
写真図版57 中島遺跡C・D区出土遺物	・ ・ ・ 323
写真図版58 中島遺跡D区出土遺物1	・ ・ ・ 324
写真図版59 中島遺跡D区出土遺物2	・ ・ ・ 325
写真図版60 中島遺跡D・E区出土遺物	・ ・ ・ 326
写真図版61 中島遺跡E・F区出土遺物	・ ・ ・ 327
写真図版62 中島遺跡F-H区出土遺物	・ ・ ・ 328
写真図版63 双ツ塚遺跡(第3次)a1-6, a5-13, a13-18	・ ・ ・ 329
写真図版64 双ツ塚遺跡(第3次) S D2・3, S K4, S K4, S K4, S K4	・ ・ ・ 330
写真図版65 双ツ塚遺跡(第3次) S K4-7, S Z 9, a11pit, b区全景	・ ・ ・ 331
写真図版66 双ツ塚遺跡(第3次)a区出土遺物1	・ ・ ・ 332
写真図版67 双ツ塚遺跡(第3次)a区出土遺物2	・ ・ ・ 333
写真図版68 双ツ塚遺跡(第3次)a区出土遺物3	・ ・ ・ 334
写真図版69 金沢川遺跡(第1次)A1区全景, A1区 S K1断面, A2区全景, A3区全景, A4・5区全景, A6区全景, A7区全景, A8区全景	・ ・ ・ 335
写真図版70 金沢川遺跡(第1次)A9区全景, B1区全景, B2区全景, B3区全景, B4・5区全景, B6・7区全景, B8区全景, B9・10区全景	・ ・ ・ 336
写真図版71 金沢川遺跡(第1次)B11・12区全景, B13・14区全景, B15区全景, B16・17区全景, B16区 S F26断面	・ ・ ・ 337
写真図版72 金沢川遺跡(第1次)B16区 S F 26, B18・19区全景, S K 28, C1-5区全景, C1-5区全景, C1区 S D30・S K32, C1区 S K31, C1区 S K32南側断面, C3区 S K29南側断面	・ ・ ・ 338
写真図版73 金沢川遺跡(第2次)1-1区全景, 1-3区全景, 1-5区全景, 1-9区全景	・ ・ ・ 339
写真図版74 金沢川遺跡(第2次)1-10区全景, 1-12区全景, 1-14区 S K48遺物出土状況, 1-16区全景	・ ・ ・ 340
写真図版75 金沢川遺跡(第2次)1-19区全景, 1-24区全景, 1-25区全景, 1-26区全景	・ ・ ・ 341
写真図版76 金沢川遺跡(第2次)1-28区全景, 2-1区全景, 2-2区全景, 2-3区全景, 2-5区全景, 2-6区全景	・ ・ ・ 342
写真図版77 金沢川遺跡(第2次)2-4区全景, 2-8区全景, 2-11区全景, 2-7区全景, 2-12区全景, 2-13区全景	・ ・ ・ 343
写真図版78 金沢川遺跡(第2次)2-21区全景, 2-22区全景, 2-24区全景, 2-25区全景	・ ・ ・ 344
写真図版79 金沢川遺跡(第2次)3-9区全景, 3-10区全景, 3-11区全景, 3-12区全景	・ ・ ・ 345
写真図版80 金沢川遺跡(第2次)3区 S X80遺物出土状況, 3区 S X80, 3区 S K86遺物出土状況, 3区 S K89, 3-16区全景, 3-17区全景	・ ・ ・ 346

写真図版81 金沢川遺跡(第2次)4-10区全景,5-1区全景, 5-2区東半全景,5-2区西半全景,6-0区P1:2門面視出土状 況,6-3区P1:32柱根出土状況,6区SK108,6-3区全景	・・・347
写真図版82 金沢川遺跡(第2次)6-2区全景,6-4区全景,6-5 区全景,6-6区全景	・・・348
写真図版83 金沢川遺跡(第2次)7-1区全景,7-3区全景, 7-4区全景,8-5区全景,8-6区全景	・・・349
写真図版84 金沢川遺跡(範囲確認調査)出土遺物1	・・・350
写真図版85 金沢川遺跡(第1次)出土遺物2	・・・351
写真図版86 金沢川遺跡(第1次)出土遺物3	・・・352

写真図版87 金沢川遺跡(第1次)出土遺物4	・・・353
写真図版88 金沢川遺跡(第1・2次)出土遺物5・出土遺物6	・・・354
写真図版89 金沢川遺跡(第2次)出土遺物7	・・・355
写真図版90 金沢川遺跡(第2次)出土遺物8	・・・356
写真図版91 金沢川遺跡(第2次)出土遺物9	・・・357
写真図版92 金沢川遺跡(第2次)出土遺物10	・・・358
写真図版93 金沢川遺跡(第2次)出土遺物11	・・・359
写真図版94 金沢川遺跡(第2次)出土遺物12	・・・360
写真図版95 金沢川遺跡(第2次)出土遺物13	・・・361

## 目 次

第Ⅲ-1表 深田古墳群・深田遺跡(第2・3次)遺構一覽表1	・・・71
第Ⅲ-2表 深田古墳群・深田遺跡(第2・3次)遺構一覽表2	・・・72
第Ⅲ-3表 深田古墳群・深田遺跡(第2次)遺物観察表1	・・・72
第Ⅲ-4表 深田古墳群・深田遺跡(第2次)遺物観察表2	・・・73
第Ⅲ-5表 深田古墳群・深田遺跡(第2次)遺物観察表3	・・・74
第Ⅲ-6表 深田古墳群・深田遺跡(第2次)遺物観察表4	・・・75
第Ⅲ-7表 深田古墳群・深田遺跡(第2次)遺物観察表5	・・・76
第Ⅲ-8表 深田古墳群・深田遺跡(第2次)遺物観察表6	・・・77
第Ⅲ-9表 深田古墳群・深田遺跡(第2次)遺物観察表7	・・・78
第Ⅲ-10表 深田古墳群・深田遺跡(第2次)遺物観察表8	・・・79
第Ⅲ-11表 深田古墳群・深田遺跡(第2次)石製品観察表	・・・79
第Ⅲ-12表 深田古墳群・深田遺跡(第2次)木製品観察表	・・・79
第Ⅲ-13表 深田遺跡(第3次)遺物観察表1	・・・80
第Ⅲ-14表 深田遺跡(第3次)遺物観察表2	・・・81
第Ⅲ-15表 深田遺跡(第3次)遺物観察表3	・・・82
第Ⅲ-16表 深田遺跡(第3次)遺物観察表4	・・・83
第Ⅲ-17表 深田遺跡(第3次)石製品観察表	・・・83
第Ⅳ-1表 双ツ塚西方遺跡遺物観察表1	・・・94
第Ⅳ-2表 双ツ塚西方遺跡遺物観察表2	・・・95
第Ⅳ-2表 双ツ塚西方遺跡金属製品観察表	・・・95
第Ⅴ-1表 中島遺跡遺構一覽表1	・・・159
第Ⅴ-2表 中島遺跡遺構一覽表2	・・・160
第Ⅴ-3表 中島遺跡遺物観察表1	・・・161
第Ⅴ-4表 中島遺跡遺物観察表2	・・・162
第Ⅴ-5表 中島遺跡遺物観察表3	・・・163
第Ⅴ-6表 中島遺跡遺物観察表4	・・・164
第Ⅴ-7表 中島遺跡遺物観察表5	・・・165

第Ⅴ-8表 中島遺跡遺物観察表6	・・・166
第Ⅴ-9表 中島遺跡遺物観察表7	・・・167
第Ⅴ-10表 中島遺跡遺物観察表8	・・・168
第Ⅴ-11表 中島遺跡遺物観察表9	・・・169
第Ⅴ-12表 中島遺跡遺物観察表10	・・・170
第Ⅴ-13表 中島遺跡遺物観察表11	・・・171
第Ⅴ-14表 中島遺跡遺物観察表12	・・・172
第Ⅴ-15表 中島遺跡遺物観察表13	・・・173
第Ⅴ-16表 中島遺跡遺物観察表14	・・・174
第Ⅴ-17表 中島遺跡遺物観察表15	・・・175
第Ⅴ-18表 中島遺跡石製品観察表	・・・175
第Ⅴ-19表 中島遺跡木製品観察表	・・・175
第Ⅵ-1表 双ツ塚遺跡(第3次)遺構一覽表	・・・191
第Ⅵ-2表 双ツ塚遺跡(第3次)遺物観察表1	・・・191
第Ⅵ-3表 双ツ塚遺跡(第3次)遺物観察表2	・・・192
第Ⅵ-4表 双ツ塚遺跡(第3次)遺物観察表3	・・・193
第Ⅵ-5表 双ツ塚遺跡(第3次)石製品観察表	・・・193
第Ⅶ-1表 金沢川遺跡範囲確認調査遺構一覽表	・・・235
第Ⅶ-2表 金沢川遺跡(第1次)遺構一覽表	・・・235
第Ⅶ-3表 金沢川遺跡(第2次)遺構一覽表1	・・・236
第Ⅶ-4表 金沢川遺跡(第2次)遺構一覽表2	・・・236
第Ⅶ-5表 金沢川遺跡範囲確認調査遺物観察表	・・・236
第Ⅶ-6表 金沢川遺跡(第1次)遺物観察表	・・・237
第Ⅶ-7表 金沢川遺跡(第2次)遺物観察表1	・・・238
第Ⅶ-8表 金沢川遺跡(第2次)遺物観察表2	・・・239
第Ⅶ-9表 金沢川遺跡(第2次)遺物観察表3	・・・240
第Ⅶ-1表 中島遺跡・深田遺跡(第3次)分析資料	・・・241
第Ⅶ-2表 中島遺跡・深田遺跡(第3次)における花粉分析 結果	・・・242
第Ⅶ-3表 中島遺跡・深田遺跡(第3次)における植物珪酸 体分析結果	・・・246
第Ⅶ-4表 中島遺跡・深田遺跡(第3次)における珪素分析 結果	・・・249
第Ⅶ-5表 金沢川遺跡(第1次)・中島遺跡樹種同定結果	・・・253
第Ⅶ-6表 中島遺跡昆虫同定結果	・・・255
第Ⅶ-7表 金沢川遺跡(第2次)樹種同定結果	・・・257
第Ⅶ-8表 金沢川遺跡(第2次)供試材の化学組成	・・・260



# 第I章 前 言

## 第1節 調査の経緯と経過

### 1. 調査に至る経緯

鈴鹿市玉垣町、柳町、岸岡町が所在する金沢川右岸は、昭和52・53年度に県営圃場整備事業が実施された。これは、地区内の用排水路並びに道路の整備・区画整理を行い近代農業経営の安定を図ることを目的としたものである。

この事業から約40年が経過し、地域農業の経営のあり方も、個別経営・担い手農業から生産組織中心の農業へ移行する転換期となっている。このような状況のなか、平成28年度に、三重県農林水産部基盤整備課から「鈴鹿川沿岸6期地区農業競争力強化基盤整備事業」（平成30年度以降、「農地整備事業（経営体育成型）鈴鹿川沿岸6期地区」）の計画がもち

あがった。農業用水施設を現在の開水路からパイプライン（暗渠）化し、開水路部分だった箇所は農道に拡幅するものである。

工事施工箇所のうち埋蔵文化財埋蔵地内は、範囲確認調査を行い、記録保存調査対象範囲の絞り込みを進めた。その範囲が確定した箇所及び施工場所の状況により、事前調査をすることが困難な箇所は労務提供の形で工事時に立会調査を実施した。（原田）

### 2. 既往の調査

昭和52年度・53年度の県営圃場整備事業に伴い、深田遺跡・双ツ塚遺跡・塚越3号墳は発掘調査が実施された。各調査概要は以下のとおりである。

深田遺跡（第1次） 昭和53年11～12月に1,400㎡



第I-1図 調査区位置図1 (1:10,000)



第I-2図 調査区位置図2 (1:10,000)

が調査された。調査区は遺跡西寄りのA区と北東側のB区に分かれる。A区は弥生時代中期後葉の土坑1基、古墳時代の溝3条・土坑1基、奈良時代の掘立柱建物1棟を確認した。古墳時代の溝からは円筒埴輪や形象埴輪片の出土が多数認められ、古墳の周溝である可能性も示唆される。B区は弥生時代終末から古墳時代初頭にかけての竪穴建物5棟、時期不明の柵状遺構等を確認した。遺物は、古式土師器のほか土師器・須恵器・土唾・砥石・鉄製品などが出土した。

**双ツ塚遺跡（第1次）** 昭和53年3月に1,500㎡調査された。A～C区に分かれており、竪穴建物4棟、溝2条、円形素掘りの井戸4基、掘立柱建物3棟を確認した。竪穴建物は弥生時代終末期から古墳時代後期に属するとみられている。溝1条と井戸2基は弥生時代終末期から古墳時代前期に限定される。掘立柱建物は南と北の2群にまとまる。掘立柱建物の中には2間×4間及び3間×3間の総柱建物も確認し、柱穴からは平安時代後期の遺物が出土している。建物の棟方向は付近一帯の条理地帯の方向と相当異なっている。

**双ツ塚遺跡（第2次）** 昭和53年6月に1,000㎡調査された。D区は約350㎡、E区は約650㎡である。

D区は、2間×2間、3間×6間の掘立柱建物2棟を確認した。遺物は、灰釉陶器、須恵器、土師器、平瓦片がある。

E区は弥生時代終末から古墳時代前半の溝1条、平安時代の掘立柱建物4棟があり、そのうち1棟は東柱をもつ2間×2間の倉庫とみられる。このほか平安時代から鎌倉時代の井戸2基を確認した。遺物は、弥生土器、土師器、須恵器、灰釉陶器、山茶碗が出土した。

**塚越3号墳** 昭和52年10月に調査が行われた。長径8.5m、短径6m、高さ1.5m以上の墳丘をもつ古墳である。周溝は、幅0.9～1.4m、深さ30cmで、古墳の西側から南側にかけて確認された。主体部は墳丘のほぼ中央現存墳丘下約40cmで認められ、長さ3.85m、幅1.15m、深さ50cmの墓壇内に長さ3.2m、幅0.7m、深さ15cmの木棺を直葬したと推定されている。時期は6世紀中頃である。(原田)

### 3. 調査の経過

経過は以下のとおりである。

**深田古墳群・深田遺跡（第2・3次）** 第2次調査は、平成30年に鈴鹿市東玉垣町の事業地内において実施した。調査地点は、昭和53年度に実施した第1次調査A地区の南側にあたる。調査区は、A区、B区、C区の3箇所ある。A区の調査過程で、古墳の周溝を確認した。調査の成果を基に、深田古墳群1号墳・2号墳・3号墳として把握することとなった。古墳以外にも、古墳時代から中世にかけての溝・土坑・自然流路等を調査区内で確認した。狭小な調査区であったが、新たな成果を得られた。

第3次調査は、令和元年から令和2年にかけて鈴鹿市東玉垣町の事業地内において実施した。昭和53年度に実施した深田遺跡第1次調査B地区の南側にあたり、調査区の東側は中島遺跡A区に隣接する。標高の高い調査区中央東寄りの地点で古墳時代の竪穴建物9棟以上を確認した。これ以外の地点は標高が低くなり、遺構は希薄となるようである。弥生時代から中世にかけて、土坑や溝を調査区内で確認した。狭小な調査区であったが新たな成果を得ることができた。

**双ツ塚西方遺跡** 鈴鹿市東玉垣町の事業地内において、平成30年から平成31年にかけて実施した。調査地点は、深田遺跡の東南側に隣接し、双ツ塚遺跡の西方に位置する。既設の道路内に新たに埋置する水路部分のみを対象とした。調査地点が既設の道路部分であった関係上、遺構検出面も含め、後世の造成によって削平された状態にある。このため、遺構密度は非常に疎で、溝2条、土坑5基、浅い落ち込み1箇所のみを確認した。

**中島遺跡** 鈴鹿市柳町中島の事業地内において、令和元年から令和2年にかけて実施した。調査地点は、深田遺跡の東側に隣接し、双ツ塚遺跡の北方に位置する。既設の道路内に新たに埋置する水路部分を対象とした。弥生時代から中世にかけての竪穴建物・土坑・溝を確認した。調査区は幅が狭いものの遺跡内を縦断・横断しており、地点によって微高地・微凹地などの地形の変化を確認することができた。

**双ツ塚遺跡（第3次）** 鈴鹿市柳町双ツ塚の事業地内において、令和2年に実施した。調査地点は、中島遺跡と金沢川遺跡の間に位置する。昭和52・53年

度に実施した双ツ塚（第1・2次）調査区は、A区の北西側に位置している。弥生時代から中世にかけての遺構を確認した。（原田）

**金沢川遺跡** 本遺跡においては、平成31年3月～5月、令和2年2月に136箇所（箇所）の調査坑を設けて範囲確認調査を行った。その結果、土師器・須恵器・山茶碗・陶器が出土したほか、溝やPitなどの遺構を確認した。そこで、平成31年度・令和2年度に労務提供による金沢川遺跡（第1・2次）発掘調査を実施した。第1次調査区は大きく3箇所に分かれ、A区、B区、C区として設定した。第2次調査区は大きく8箇所に分かれ、1～8区として設定した。この他、令和2年12月～令和3年1月に2箇所（箇所）で工事立会を行った。（第2次調査区9・10区として設定）。（土橋）

#### 4. 文化財保護法にかかる諸手続

- ・県埋蔵文化財保護条例第48条第1項「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等の発掘通知書」

（県教育長あて三重県知事通知）

平成28年4月15日付け四農第3012号

- ・文化財保護法第97条第1項に基づく遺跡の発見にかかる通知（県教育長あて三重県埋蔵文化財センター所長通知）

深田遺跡:平成30年4月6日付け教埋第10号

金沢川遺跡:令和2年3月27日付け教埋第447号

深田古墳群:令和4年5月24日付け教埋第46号

- ・文化財保護法第100号第2号「埋蔵文化財の発見・認定について」（鈴鹿警察署長あて県教育委員会教育長通知）

深田遺跡(第2次)、双ツ塚西方遺跡:平成31年3月22日付け教委12-4428号

深田遺跡(第3次):令和2年4月30日付け教委12-4405号

中島遺跡:令和2年4月21日付け教委12-4404号

双ツ塚遺跡:令和2年6月22日付け教委12-4409号

金沢川遺跡:令和2年4月21日付け教委12-4403号



第1-3図 範囲確認調査坑位置図1 (1:10,000)



第1-4図 範囲確認調査坑位置図2 (1:10,000)

金沢川遺跡(第2次)：令和3年2月18日付け教委  
12-4428号

## 5. 普及公開

発掘調査が終了した所から工事に入っていったた

め、現地説明会は実施していない。代替として、三重県埋蔵文化財センターホームページやFacebookでの、遺跡情報の公開を行った。(原田)

## 第2節 調査の方法

### 1. 調査区の設定

基本的に幅1～3m弱、延長が50m～100mを超すような細長い調査区となるため、起点から5m単位で小地区の設定、あるいは1日の掘削延長にあわせた設定を行った場合もある。各遺跡及び調査区により名称の付与が異なるため、以下に記載する。

**深田古墳群・深田遺跡(第2・3次)** 平成30年調査を深田遺跡(第2次)、令和元年調査を深田遺跡(第3次)とした。調査区は第2次調査においてA～C区を設定した。調査開始の始点から5m毎に小地区を設定した。小地区の名称は調査区のアルファベットと算用数字の組み合わせでA1、A2…と付している。第3次調査区は1地区のみである。調査年度は異なるが一連の調査であるためD区とし、小地区は調査開始の始点からd1、d2…と付している。

**双ツ塚西方遺跡** 既設道路内に幅2m、延長252mのほぼ東西方向に延びる調査区を設定した。西端は深田遺跡(第2次)B区に接する。小地区は西をA1としてそこから順に付している。

**中島遺跡** 発掘調査は令和元年から令和2年にかけて実施し、A～H区の調査区を設定した。A区は東西方向に延び西端は深田遺跡(第3次)D区東端に接し、B・D区は金沢川寄りに位置する東西方向に延びB区西端がD区東端と接する。B区とD区が接する箇所から南へ南北方向に延びるE区、E区南端の南につながるG区、E区・G区の境界から西で延びるのがC区、G区南端から西へ延びるのがF区、東へ延びるのがH区である。小地区は、A区がA1

から、B区がB1から、C区がC1からというように調査区を前に表示し順に付している。

**双ツ塚遺跡** 発掘調査は、令和2年に実施した。調査区は、遺跡のほぼ中央南半部を縦断するa区、遺跡東部北半部を縦断するb区を設定した。a区北端から約78m北にいくと中島遺跡G区南端となる。b区北端は、中島遺跡H区西端から約150mで接する。小地区は、a区がa1から、b区がb1からというように調査区を前に表示し順に付している。

**金沢川遺跡(第1・2次)** 発掘調査は、令和元年に第1次調査、令和2年に第2次調査を実施した。調査区は、第1次調査はA区、B区、C区、第2次調査は1～8区を設定した。小地区は、調査区を前に表示し順に付している。

### 2. 表土掘削、遺構検出・掘削

表土及び遺構検出面上まで、重機による掘削を行った。その後、人力により遺構検出と掘削を行った。

### 3. 記録・図化

記録及び図化は、遺構検出状況・土層の堆積状況・遺構の掘削や遺物出土状況等を把握するため、遺構カードや土層断面図、遺構平面図を適宜作成した。

### 4. 出土遺物の整理

各遺跡からの出土遺物は、埋蔵文化財センターに搬入後、洗浄・注記・接合を行った。それらから実測可能な遺物を選別し、人の手による実測を行った。実測図を精査の後、発掘調査報告書の文章や版下作成等を各担当により行った。なお、脆弱な遺物は、外部委託による保存処理を実施し、破損の防止に万全を期した。(原田)

## 第Ⅱ章 位置と環境

### 第1節 地理的環境

今回報告する遺跡は、金沢川の南岸から西岸に広がっており、北西側から南東側に向けて、深田遺跡・深田古墳群（1）、双ツ塚西方遺跡（2）、中島遺跡（3）、双ツ塚遺跡（4）、それに金沢川遺跡（5）と並んでいる。

二級河川金沢川は、鈴鹿市柳町の中島橋から鈴鹿市南若松町で伊勢湾に注ぐ総延長2.57kmの河川である。河口から0.6km上流で西南西方面から流れてきた田古知川が合流する。ただし、三重県が管理する二級河川としての金沢川は、中島橋から下流だけを二級河川として把握しており、中島橋から上流は鈴鹿市が管理する普通河川となる。

上流部は、大きく南北2系統に分かれている。

南側の水系は、更新世段丘である神戸段丘<sup>9)</sup>の縁辺に端を発する流路である。神戸段丘は、鈴鹿市住吉から東北東側へ三日市、平田、西条、神戸、須賀へと舌状に延びる北段丘と、途中開析谷を挟んで東南側の道伯、三日市南、末広、野町、桜島、西玉垣、東玉垣へと舌状に延びる南段丘に分岐するが、南段丘北麓に国天然記念物・金生水沼沢植物群落があるなど末端部は湧水豊富で、この水系は北段丘南斜面と、南段丘北斜面からの水を集め、鈴鹿川の水流に拠らない金沢川の一支流を形成する。

一方、北側の水系は、鈴鹿市庄野羽山で一級河川・鈴鹿川から分流して段丘末端を横断し、東南方向へ抜ける現在の六郷川の水系で、こちらが主流路だったとみられる。鈴鹿川は、鈴鹿市庄野羽山で神戸段丘に遮られて流路を北東方面に転じ、北側の高岡丘陵との間を抜けて伊勢湾に注ぐが、ある時期、洪水で神戸段丘の末端を切って南東側へ溢れたことがあったとみられる。

国土地理院の治水・地形分類図<sup>10)</sup>によると、六郷川の水路にほぼ沿うかたちで旧河道があり、金沢川よりも北方を蛇行しながら若松で伊勢湾に注ぐ。現在の六郷川は、鈴鹿市神戸で鋭く屈折し、一端南流してから流れを東側に転じ、東南東方向に流れて金

沢川に合流するが、これは戦国期の神戸城東側の護りとして、堀としての機能を負わすための改変とみられ、この屈折点が旧河道との分岐となる。つまり、神戸城に伴う六郷川の流路変更がなければ、旧河道がそのまま流路として機能していたのであろう。

南側水系と、北側水系の六郷川の合流地点が深田遺跡と中島遺跡が接する北側で、ここから下流が二級河川金沢川となる。金沢川は、ここから少し北東側へ流れた後、中島遺跡の北方で流路を南東側に転ずるが、ここに流路変更する以前の六郷川とみられる旧河道が接してくる。つまり、六郷川は、現在の流路となる以前に、中島遺跡北方で金沢川（南側水系）と合流したか、合流せずに東流し（旧河道痕跡）、おそらく今の若松港あたりへ抜けた時期があったとみられる。なお、旧河道痕跡は他にもあり、金沢川河口部はかなり分流していたとみてよからう。

支流の田古知川についても、二級河川としての田古知川は金沢川との合流部から遡ること1.275kmまでで、そこより上流は普通河川の扱いとなる。田古知川は、神戸段丘の南段丘を開析して発し、南段丘南麓と海岸沿いの独立丘陵である岸岡山の間の狭隘地を東北東に流れ、金沢川に注ぐ。

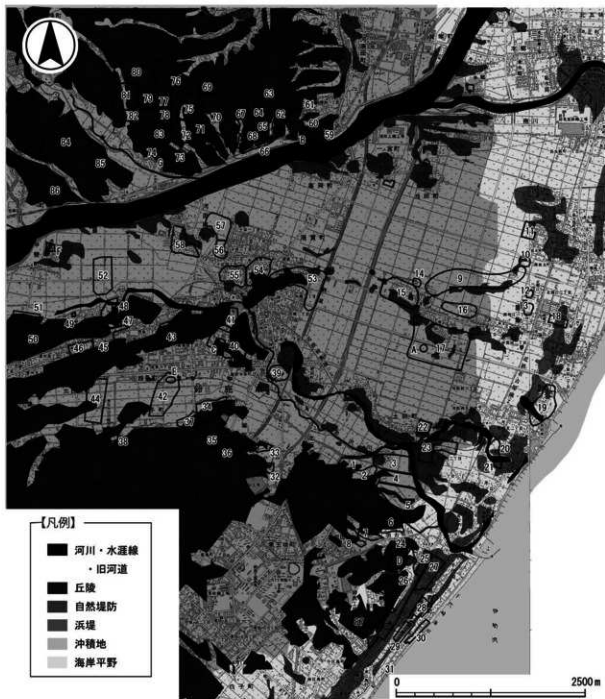
今回発掘調査を実施した各遺跡は、巨視的にみれば神戸段丘の南段丘末端にのる鈴鹿川右岸の氾濫平野に所在している。しかし、微視的にみると、もう少し細かく土地条件に差があることがわかる<sup>11)</sup>。

まず、中島遺跡は、金沢川2水系の合流点南側に所在するが、西側は円形の自然堤防上の上のっていることがわかる。今回発掘した遺跡の中では、最も集落立地としては好条件を描いているといつてよい。

一方、深田遺跡・双ツ塚西方遺跡・双ツ塚遺跡・金沢川遺跡には、神戸段丘末端が4条の細長い支尾根状となって入り込んでおり、小さな埋積谷と支尾根が交互に連続する地形を基底としている。当然、支尾根部分の地盤が安定していたとみられる。

集落形成にあたって、以上のような土地条件に

規定されて展開していたとみられる。



- |           |           |           |            |            |           |           |
|-----------|-----------|-----------|------------|------------|-----------|-----------|
| 1 深田遺跡    | 13 市ノ坪遺跡  | 27 砂山遺跡   | 40 本多町遺跡   | 54 萱町遺跡    | 67 寺山遺跡   | 81 伊勢国分寺跡 |
| ・深田古墳群    | 14 大塚神社遺跡 | 41 龍光寺遺跡  | 41 龍光寺遺跡   | 55 十官古墳遺跡  | 68 寺田山1号墳 | 82 狐塚遺跡   |
| 2 京ノ塚西方遺跡 | 15 神崎遺跡   | 28 新水遺跡   | 42 穴遺跡     | 56 京ノ新遺跡   | 69 富士山跡遺跡 | 83 熊澤遺跡   |
| 3 中島遺跡    | 16 上箕田北遺跡 | 29 南原永Ⅰ遺跡 | 43 新穴遺跡    | 57 八坂壇神社遺跡 | 70 磯砂遺跡   | 84 石原跡遺跡  |
| 4 京ノ塚遺跡   | 17 上箕田南遺跡 | 30 南原永Ⅱ遺跡 | 44 三日月南遺跡  | 58 河田宮ノ北遺跡 | 71 中野山遺跡  | A 石原跡美古墳群 |
| 5 金沢川遺跡   | 18 下箕田遺跡  | 31 和泉田遺跡  | 45 三日月東遺跡  | 59 高岡中宮墓   | 72 沖ノ坂遺跡  | 85 基遺跡    |
| ・堀崎古墳群    | 19 上箕田遺跡  | 32 小塚遺跡   | 46 箕野神社遺跡  | 60 茶山遺跡    | 73 蟹城山遺跡  | 86 一反遺跡   |
| 6 天正遺跡    | 20 北岩松遺跡  | 33 北ノ原遺跡  | 47 竹野1丁目遺跡 | ・高岡山古墳群    | 74 大田宮上遺跡 | 87 岸岡山古墳群 |
| 7 天正野遺跡   | 21 若松遺跡   | 34 紀人遺跡   | 48 竹野遺跡    | 61 宮ノ遺跡    | 75 園分東遺跡  | A 上箕田城跡   |
| 8 大木ノ輪遺跡  | 22 土師北方遺跡 | 35 紀C遺跡   | 49 竹野神社遺跡  | 62 東ノ岡遺跡   | 76 園分北遺跡  | B 高岡城跡    |
| 9 大木ノ輪遺跡  | 23 土師南方遺跡 | 36 紀C遺跡   | 50 岡田遺跡    | 63 藤広遺跡    | 77 園分遺跡   | C 神戸城跡    |
| 10 天ノ宮遺跡  | 24 岸岡山Ⅰ遺跡 | 37 起野遺跡   | 51 岡田遺跡    | 64 西ノ岡A遺跡  | 78 園分南遺跡  | D 岸岡城跡    |
| 11 南北大遺跡  | 25 岸岡山Ⅱ遺跡 | 38 全志水遺跡  | 52 野辺遺跡    | 65 西ノ岡B遺跡  | 79 園分西遺跡  | E 穴城跡     |
| 12 神大寺遺跡  | 26 岸岡山Ⅲ遺跡 | 39 高田遺跡   | 53 濱宮遺跡    | 66 寺田山遺跡   | 80 園分寺北遺跡 | F 岡野丸城跡   |

第Ⅱ-1図 土地条件図(1:50,000)

## 第2節 歴史的環境

今回報告する遺跡が所在する金沢川流域は、巨視的には前述のように一級河川鈴鹿川が分流を繰り返した下流右岸域に相当している。古代の国郡制では、伊勢国河曲郡に相当する<sup>16)</sup>。

当地域の歴史的な発展は、立地基盤としての完新世段丘の存在と、鈴鹿川の氾濫と分流水路の形成、それに伴う自然堤防の形成などと密接に関連しており、遺跡分布をみると、立地基盤としての地形に規定された帯状の分布を示す。すなわち、北から

- ①高岡丘陵を東辺とする鈴鹿川左岸（北岸）の中位段丘面
- ②鈴鹿市河田町で鈴鹿川から分流する旧河道痕跡（現在の二本木川が名残）沿いの自然堤防及び沖積地
- ③鈴鹿市庄野周辺で鈴鹿川から分流した旧河道痕跡（≒神戸城に伴う流路変更以前の六郷川水系）沿いの自然堤防及び沖積地
- ④神戸段丘北段丘の低位段丘面
- ⑤金沢川南側水系沿いの自然堤防及び沖積地
- ⑥神戸段丘南段丘の低位段丘末端と岸岡山丘陵

である。これらは、隣接していたり、相互に入り混じったりする場合もあるため単純ではないが、当地域の遺跡形成はこの地形区分で把握すると概ね理解しやすい。

このうち、①の鈴鹿川北岸中位段丘面は、旧石器時代から中世の高岡城跡まで多くの遺跡が分布する鈴鹿市域でも屈指の遺跡密集地帯である。

旧石器時代では、遺跡数は少ないが、西ノ岡A遺跡<sup>17)</sup>（64）でナイフ形石器やチャート製の縦長剥片、砥山遺跡でナイフ形石器など注目すべき遺物の出土がある。重要な遺跡が集中するのは弥生時代で、県内最古となる菱環鈕式銅鐸片が採集された東ノ岡遺跡（62）をはじめ、遺構密度の濃い中～後期の集落である中尾山遺跡（71）や多数の方形周溝墓群が確認された墓城である扇広遺跡（63）など多数の集落が形成された。ここで特筆すべきは、発掘調査による出土は少ないものの、弥生時代の玉作関係遺物が複数の遺跡で確認されていることである。なかでも、太平洋側の弥生集落では珍しい水晶製玉類の玉

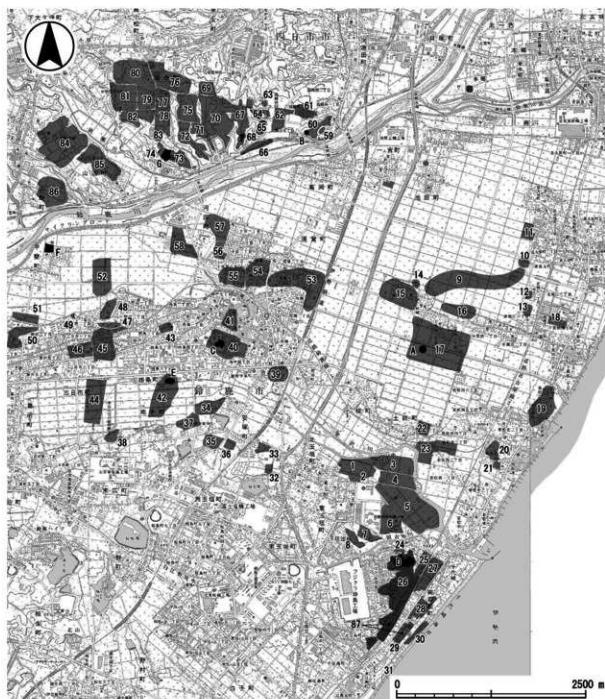
作関係遺物が茶山遺跡（60）（管玉未成品・剥片）、一反通遺跡（86）（剥片・筋砥石）、東ノ岡遺跡（62）（原石・紅簾岩製石鋸片）、磐城山遺跡（73）（原石）で確認されているのはじめ、碧玉製の関係遺物が茶山遺跡、一反通遺跡、青谷遺跡（61）で採集されている。このうち段丘の南縁部に所在する一反通遺跡は、突線鈕式銅鐸片や多数の磨製石鏃をはじめとする豊富な石器類が出土しており、当地を代表する拠点遺跡だったとみられる。

古墳時代以降、鈴鹿川北岸の丘陵・段丘部での集落形成は若干低調となるが、全長80mの前期の前方後円墳である寺田山1号墳（68）が築造されたのをはじめ、安定した基盤のもと、伊勢国分寺・国分尼寺や河曲郡家の正倉とみられる孤塚遺跡（82）など重要遺跡が造られた。また、戦国期には、信長の北伊勢侵攻に対する抵抗拠点のひとつである高岡城（B）が存在した。

②の河田町分流の旧河道沿いの地域では、上流部の八重垣神社遺跡（57）で弥生時代前期の流路群が確認されたのをはじめ、縄文時代晩期に出現し、北伊勢を代表する弥生遺跡のひとつとなる上箕田遺跡（17）が海岸線より2km上流に形成された。また、この旧河道からさらに分水路とみられる旧河道沿いの大木ノ輪遺跡（9）でも弥生前期に集落形成される。北伊勢地域において、遠賀川系文化が定着する過程を土地利用も含めて如実に示す一帯とみてよからう。

上箕田遺跡の環境考古学的分析<sup>18)</sup>によれば、弥生前期の上箕田遺跡は暗青色細砂からなる微高地上に集落が形成されたが、中期初頭以降の洪水で褐色の砂礫堆が集落を覆い、弥生後期はこの砂礫堆が生活面となるという。さらに、弥生時代後期後半から7～8世紀まで引き起こされた洪水氾濫によって、比高70cmに及ぶ自然堤防が形成されたとされる。つまり、現在残る自然堤防は集落形成当初からのものではなく、その後形成されたものとなる。集落の盛衰と自然環境の変化が密接に関係したことを如実に示す事例といえよう。

古墳時代では、本水系の上流左岸に中期後半から



- |           |            |           |            |            |           |            |
|-----------|------------|-----------|------------|------------|-----------|------------|
| 1 源田遺跡    | 13 市ノ坪遺跡   | 27 砂山遺跡   | 40 本多町遺跡   | 54 萱町遺跡    | 67 寺山遺跡   | 81 伊勢国分寺跡  |
| 2 双ヶ塚西方遺跡 | 14 大神神社遺跡  | 28 原水遺跡   | 41 龍光寺遺跡   | 55 十官古里遺跡  | 68 赤山山1号墳 | 82 狐塚遺跡    |
| 3 中島遺跡    | 15 林崎遺跡    | 29 南原水1遺跡 | 42 沢遺跡     | 56 宮ノ駒遺跡   | 69 富士山麓遺跡 | 83 熊澤遺跡    |
| 4 双ヶ塚遺跡   | 16 上箕田北遺跡  | 30 南原水2遺跡 | 43 狭穴遺跡    | 57 八重垣神社遺跡 | 70 鳴中遺跡   | 84 石原野原遺跡  |
| 5 倉次川遺跡   | 17 上箕田西遺跡  | 31 倉倉田遺跡  | 44 三日市南遺跡  | 58 河田宮ノ北遺跡 | 71 中山山遺跡  | 85 石高野原古墳群 |
| 6 塚原古墳群   | 18 下箕田遺跡   | 32 小塚遺跡   | 45 三日市東遺跡  | 59 高岡中世墓   | 72 沖ノ坂遺跡  | 86 湯遺跡     |
| 7 天王遺跡    | 19 上箕田遺跡   | 33 北ノ原遺跡  | 46 飯野神社遺跡  | 60 茶山遺跡    | 73 堀城山遺跡  | 87 一反遺跡    |
| 8 天正新田遺跡  | 20 北若松遺跡   | 34 北ノ原遺跡  | 47 竹野1丁目遺跡 | 61 高岡山古墳群  | 74 木田坂上遺跡 | 87 岸岡山古墳群  |
| 9 大穴野邊跡   | 21 野松遺跡    | 35 船入遺跡   | 48 竹野遺跡    | 62 竹野遺跡    | 75 田分東遺跡  | A 上箕田城跡    |
| 10 大ノ輪遺跡  | 22 土師北方遺跡  | 36 船C遺跡   | 49 竹野神社遺跡  | 63 船C遺跡    | 76 田分北遺跡  | B 木岡城跡     |
| 11 舟長本遺跡  | 23 土師南方遺跡  | 37 船C遺跡   | 50 岸田南遺跡   | 64 西ノ岡A遺跡  | 77 田分南遺跡  | C 神戸城跡     |
| 12 神大寺遺跡  | 24 岸岡山I遺跡  | 38 金生水遺跡  | 51 岸田遺跡    | 65 西ノ岡B遺跡  | 78 田分西遺跡  | D 岸岡城跡     |
|           | 25 岸岡山II遺跡 | 39 高田遺跡   | 52 野辺遺跡    | 66 寺田山遺跡   | 79 田分西北遺跡 | E 沢城跡      |
|           |            |           | 53 濱貫遺跡    | 66 寺田山遺跡   | 80 田分寺北遺跡 | F 岡部氏館跡    |

第II-2図 遺跡位置図(1:50,000)



後期の土器と木製品が多数出土した河田宮ノ北遺跡(58)、右岸に前期初頭の包含層と後期の溝が確認された宮ノ前遺跡(56)がある。このうち河田宮ノ北遺跡では、古墳以外からの出土例としては珍しい頭椎大刀頭椎部が出土している<sup>90</sup>。

室町時代には、上箕田遺跡東辺に伊勢守護の土岐氏による守護所が置かれた上箕田城(A)があったとされているが、現在までの上箕田遺跡の調査において関連の遺構・遺物は全く確認されておらず、比定地の再検討が必要である。

③の旧六郷川水系の自然堤防では、左岸の土師北方遺跡(22)、右岸の土師南方遺跡(23)が重要である。特に、土師南方遺跡では、古墳時代中期から古代の遺物とともに、単弁八弁蓮華文軒丸瓦の出土があり<sup>91</sup>、注目できる。前述のように、旧六郷川は神戸城(C)築城に伴い流路変更があったとみられ、この影響もあってか中世中期以降の遺跡分布は比較的疎らである。

④の神戸段丘北段丘は、末端部がある時期に前述の六郷川により分断されたが、安定した地盤のもと、多くの集落が形成された。代表的な遺跡には、西から平田遺跡(古代)、岡太神社遺跡(中世)、天神遺跡(古墳時代)、岡田南遺跡(50:古代)、竹野遺跡(48)、末端部では旧六郷川に分断された左岸側に十宮古里遺跡(55:旧称 神戸中学校遺跡、弥生~中近世)や須賀遺跡(53:弥生~古代)、萱町遺跡(54:弥生~中世)、右岸側に本多町遺跡(40:≒神戸城跡)がある。

このうち平田遺跡は、旧の鈴鹿郡と河曲郡の境界に相当し、ここから以東が河曲郡となる。

⑤の金沢川南側水系は、深田遺跡や中島遺跡など今回報告する諸遺跡を含む水系である。

上流部は、神戸段丘の北段丘と南段丘に挟まれた低湿な沖積地に相当している。神戸城以前に国人領主・関氏が拠点をついた沢城跡(E)を含む沢遺跡(42)が代表的存在で、遺跡形成の主体は高機化が進む中世中期以降に属するとみられるが、沢城跡からは縄文土器(後期)や弥生前期の土器片も出土している<sup>92</sup>。

下流部は、南岸に深田遺跡、中島遺跡、双ツ塚西方遺跡、双ツ塚遺跡、それに金沢川遺跡が集中する。

これらの遺跡は、金沢川が北へ蛇行する内側に相当しており、このうち深田遺跡と双ツ塚西方遺跡、金沢川遺跡では南側の神戸丘陵南段丘から派生した舌状の小支尾根が神積地の下部へ潜り込んでいる状況にある。一方、中島遺跡と双ツ塚遺跡の主要部は、金沢川が形成した自然堤防上に立地しており、遺跡の立地条件は良かった。

なお、金沢川遺跡と重なるように、5世紀中葉以降に群形成を開始した塚越古墳群が散在しており、このうち1号墳からは画文帯神袢鏡が出土している。こうした古墳群は、深田遺跡にも所在しており、昭和53年の泉宮園場整備に伴う発掘調査で埴輪が出土する溝は確認されていたが<sup>93</sup>、今回の調査成果と合わせ、深田古墳群として把握・登録した。埴輪片は、深田遺跡以外でも点々と出土しており、古墳時代中期後葉以降、当地には疎らながら古墳が広く散在していた可能性がある。

⑥の神戸丘陵南段丘と岸岡山丘陵は、途中いくつかが開折谷が入り込んでいるが、末端部を中心に集落や古墳が多数形成されている。

金沢川上流域にある神戸段丘南段丘の北部末端に位置する起A遺跡(34)では、弥生時代中期を中心とした集落遺跡で、縄文時代や室町時代の遺物も出土している。

神戸段丘南段丘と岸岡山丘陵は、伊勢湾に臨む海浜部の段丘及び丘陵で、多数の遺跡や古墳が形成された。なかでも、田古知川北岸の神戸段丘南段丘末端に位置する天王遺跡(6)と天王屋敷遺跡(7)は、古代における当地域の中心的な遺跡であり、天王屋敷遺跡では白鳳期に遡る伊勢でも最古級となる軒丸瓦が出土しているほか、天王遺跡では大型掘立柱建物を中心とした規則的な建物配置の掘立柱建物群が確認されている<sup>94</sup>。両遺跡は、金沢川・田古知川を利用した古代河曲郡海部郡の港湾施設的な機能も担ったのではないかと推定される。ただし天王屋敷遺跡は、戦前の海軍施設の影響で、多くが改変されたことが惜しまれる。

海岸線に屹立する岸岡山丘陵には、弥生後期の集落である岸岡山III遺跡(26)があり、ここでも水晶製玉作関係遺物が出土している。また、重複するかたちで全長55mの前方後円墳・岸岡山2号墳を盟主

墳とする岸岡山古墳群(26)があり、22号墳と21号墳(全長53mの前方後円墳)の被葬者は当地の支配者層だったとみられる。

なお、岸岡山と伊勢湾海岸線の間には、金沢川河口部から南に延びる帯状潟の痕跡が認められ、この帯状潟に沿うかたちで南原水Ⅰ遺跡(29)など古墳時代遺物が出土した遺跡が立地している。田古知川の水運と合わせ、こちらも海部郡の港湾機能を担う

集落群だったとみてよからう。岸岡山南東麓には、6世紀の須恵器窯である岸岡山窯跡群(87)があり、ここで生産された脚付短頸壺は「伊勢湾型」とも呼ばれ、対岸の知多半島や渥美半島の横穴式石室墳などへも副葬されていることが判明している<sup>(10)</sup>。当地が伊勢湾海運の交流拠点のひとつだったことを如実に示すものといえよう。(徳積)

## 註

- (1) 片岡香子・吉川周作1997「三重県鈴鹿川流域の段丘構成層の層序・編年—火山灰稀産地域での段丘編年の試み—」『第四紀研究』36-4 pp. 263-276
- (2) 国土地理院のホームページから治水地形分類図(更新版)2007~2019「鈴鹿川水系」を参照した。
- (3) 国土地理院のホームページから「数値地図25000(土地条件)」(平成28年度版)を参照。
- (4) 平凡社1983『三重県の地名』
- (5) 三重県2005『三重県史 資料編考古1』。以下、特に註を付さない限り、本章の遺跡情報は本書に拠る。
- (6) 岡田登2001「三重県下出土の玉作り関係資料について」『史料』173(皇学館大学史料編纂所所報)。以下、玉作関係の記述は本文献による。
- (7) 安田喜憲1973「三重県上箕田遺跡における弥生時代の自然環境の変遷と人類」『人文地理』第25巻第2号人文地理学会

- (8) 三重県埋蔵文化財センター2004『河曲の遺跡』
- (9) 三重県教育委員会1973「鈴鹿市土師町・土師南方遺跡」『昭和47年度県営園場整備地域埋蔵文化財調査報告書』
- (10) 鈴鹿市考古博物館2009『沢城跡第1次発掘調査報告書』
- (11) 三重県教育委員会1979「鈴鹿市東玉垣町 深田遺跡」『昭和53年度県営園場整備地域埋蔵文化財調査報告書2』
- (12) 鈴鹿市2002『天王遺跡(第5次)発掘調査報告』
- (13) 中野晴久1993「脚付扁平広口埴輪—須恵器における地域性の考察—」『知多古文化研究』7

## 【参考文献】

- ・鈴鹿市1980『鈴鹿市史』
- ・新田剛2005「銅鐸」『三重県史 資料編考古1』三重県

## 第三章 深田古墳群、深田遺跡（第2・3次）

### 第1節 調査の概要

#### 1. 深田古墳群

深田遺跡（第2次）A区の調査過程で、古墳の周溝とみられる埴輪を大量に含む溝を確認した。当該地は、昭和53年度に発掘調査した深田遺跡第1次調査A地区の南側にあたり、1次調査でも埴輪を含む溝を確認している<sup>10</sup>。

以上のことから、深田遺跡の包蔵地範囲内には、複数の古墳が存在することが明らかとなった。三重県では、包蔵地範囲内に、集落遺跡と古墳が併存する場合、それぞれ包蔵地を個別把握することが基本である。そこで、深田遺跡第2次調査で確認したSD7・SD8・SK9・SD10の4遺構は、古墳に伴う周溝と判断し、深田古墳群1号墳・2号墳として把握・登録することとした。さらに、北接する昭和53年深田遺跡第1次調査A区のSD2も周溝とみられることから、これを3号墳として把握する。

ただし、すでに実施した遺物注記などは深田遺跡として行っているため、遺構名称および注記はそのままとし、それぞれの遺構と古墳との対応関係は本書の本文及び遺物観察表等で行うこととする。トレンチ全体の土層は、深田遺跡第2次調査の成果を参照されたい。

なお、今回の調査（第2次調査）で深田古墳群として把握した範囲は、幅2m×長さ26mの52㎡だが、深田遺跡とも重複しているため、深田遺跡の調査面積から深田古墳群の相当部分を総面積から減じる対応はしていない。（穂積）

#### 2. 深田遺跡（第2次）

深田遺跡第2次調査は、昭和53年度に実施した深田遺跡第1次調査A地区の南側にあたる幅約2m×延長158mの東西トレンチであるA区、その東端部

に直交する幅約2m×延長95mの南北トレンチであるB区、それにA区の南側約80mにA区とほぼ平行した幅1.8m×延長124mの東西トレンチであるC区の3箇所に分かれる。

このうち、A区SD7～SD9・SK10については、埴輪の出土などから古墳に伴う周溝などであることが判明し、深田古墳群として報告する。総面積は、深田古墳群部分も含んで740㎡である。

基本層序は、上から造成土又は耕作土、旧耕作土、中世の氈蓋層とみられる灰黄褐色シルト～極細粒砂、地山（灰色シルト、褐灰色シルト、にぶい黄褐色極細砂～シルト）となる。凹地となる箇所は、包含層となる極暗褐色シルトが堆積している。（原田）

#### 3. 深田遺跡（第3次）

深田遺跡第3次調査は、第2次調査B区北端より約80m北の交差点を西端とする幅2.2～2.5m×延長252.4mの東西に細長い調査区で、面積は525㎡である。昭和53年度に実施した深田遺跡第1次調査B地区の南側にあたり、調査区の東側は中島遺跡A区に接している<sup>10</sup>。

調査区中央東寄りのd10～d23地区は検出面が5.4～5.6mで高く、堅穴建物9棟以上を確認した。d10地区以西、d24地区以東は低くなり、遺構は希薄となる。基本層序は、上から表土、造成土直下で地山に至る。凹地となる箇所は、西側（SZ33）は造成土の下に黒褐色粘土、灰オリブ色シルト、黒褐色粘質シルト、黒色粘土となる。自然科学分析の結果、灰オリブ色シルトで、アブラナ科の花粉が卓越して認められ、近世以降の層序とみられる。

東側（SZ71付近）は暗褐色粘土、オリブ褐色粘土、黒褐色粘土が堆積している。（原田）

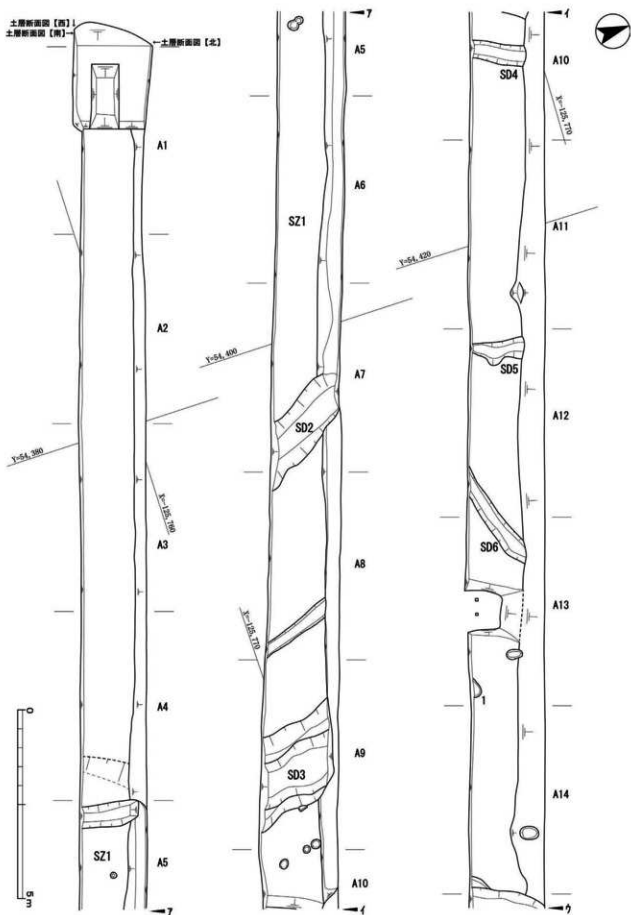
### 第2節 遺 構

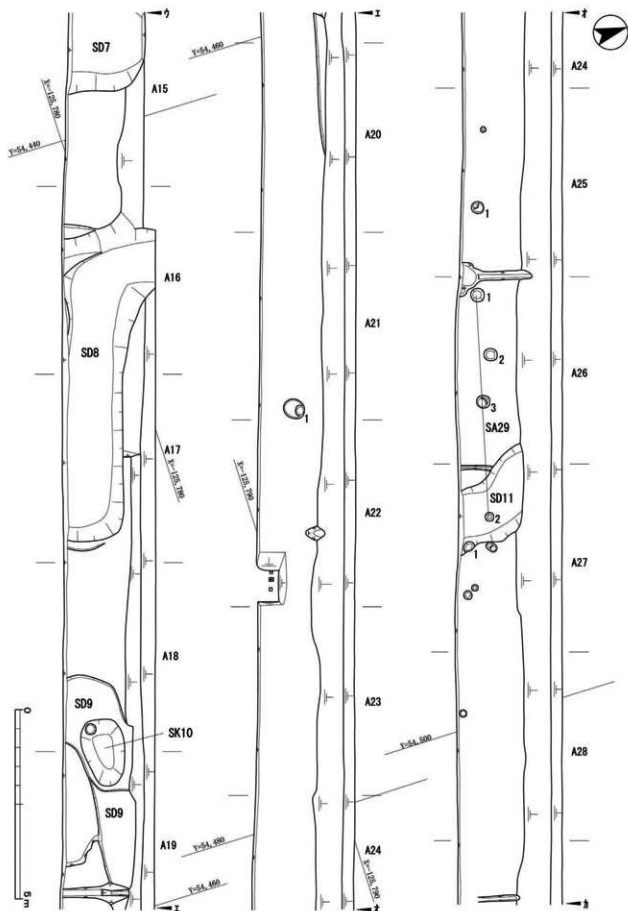
#### 1. 深田古墳群（第Ⅲ-2.6～8図）

##### （1）深田1号墳（SD7・8）

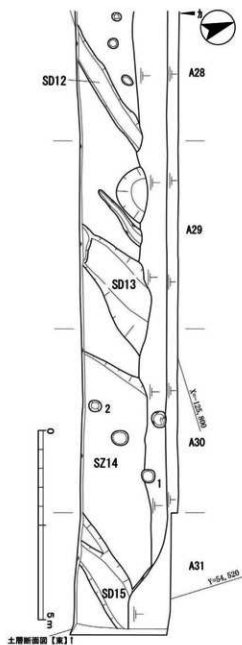
墳形と規模 全体のごく一部を確認しただけである

が、発掘調査でSD8とした北側に屈折するL字状の溝から大量の円筒埴輪・形象埴輪と若干の須恵器・土師器類が出土したことから、これを古墳周溝と判





第三-2図 深田遺跡(第2次)A区平面図2(1:100) \* 深田古墳群を含む



第三-3図 深田遺跡(第2次)A区区平面図3(1:100)

断した。SD8は、現況で東西8.4m、南北1.5m以上、検出面からの深さ0.43mを測る。

幅2mという調査区上の制約から南側の状況は不明だが、北側に所在する昭和53年度深田遺跡第1次調査A地区には直接SD8に対応する周溝は存在せず(これとは別の周溝状の溝は存在)、またSD8東側も南側へ屈折していく状況を呈する。このことから、SD8は南側の調査区外に主体部等をもった方墳の北東部周溝と判断した。

さらに、SD8の西側には、検出面で幅2.6mほ

どの南北溝があり、ここからも、ごく少量の同時期の須恵器、埴輪片が出土している。SD7とSD8の屈折部以北の部分は3.6mほどの間隔を空けて相対している。以上のことから、この部分は方墳に付設した小さな造出状の突出部と判断した。後述するSD7とSD8の堆積状況の照応性と、SD8西端部はやや西側に、SD7東端部はやや東側に屈曲し、両溝は相互に対応した状況を示している。

ただし、SD8を古墳周溝とみた場合、その主軸は調査区の主軸から僅かながら北に振っているため、SD7・8を突出部のある北周溝とすると、その北西側は調査区外となる。つまり、唯一遺存した北辺ですら周溝全体の形状には及んでいない。しかし、SD8については、その東端部から8.4mと確認できる。ここに、突出部幅3.6mの中軸1.8mを加えると、10.2mとなる。この数値を南側に折り返すと、一応20.4mの東西幅数値が得られる。

つまり、1号墳は、東西長と南北長を同じとみた場合、一辺20.4m(周溝含)の方墳であり、その北側に小さな造出状の突出部をもった墳形として復元できるであろう。

**周溝堆積状況** SD7・SD8ともに、周溝埋土直上には中世の遺物を包含した灰黄褐色シルト層に上部を削平された状態で存在している。

SD7は、上層から、1層；黒色シルト(幅薄)、2層；暗褐色シルト、3層；黒褐色シルト、4層；暗褐色シルト(一部のみ、幅薄)を経て、地山の黄褐色シルトに至る。

一方、SD8は、上層から、1層；黒色シルト(幅薄)、2層；黒褐色シルト、3層；黒色シルト、4層；暗褐色シルト(一部のみ)、5層；礫混じりのにぶい黄褐色シルトを経て、地山の黄褐色シルトに至る。埴輪・土器の出土は2層と3層に集中し、4層と5層は基本的に遺物を含まない。また、5層は、色調・粒度ともに地山に近く、若干地山を汚した土質状況をとる。

SD7とSD8の土層状況は、まったく同じではないが、1層～4層までは若干の土色の差はあるものの礫混じりの粒度状況など基本的に照応しており、1層と4層の状況は全く同じである。このことから、両溝は基本的に同じ堆積過程を経てきたとみられ、

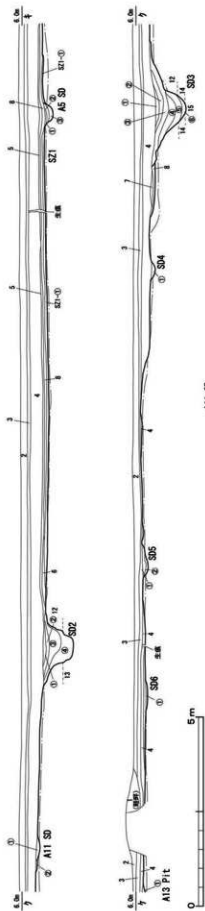
### A区南壁



### A区西壁



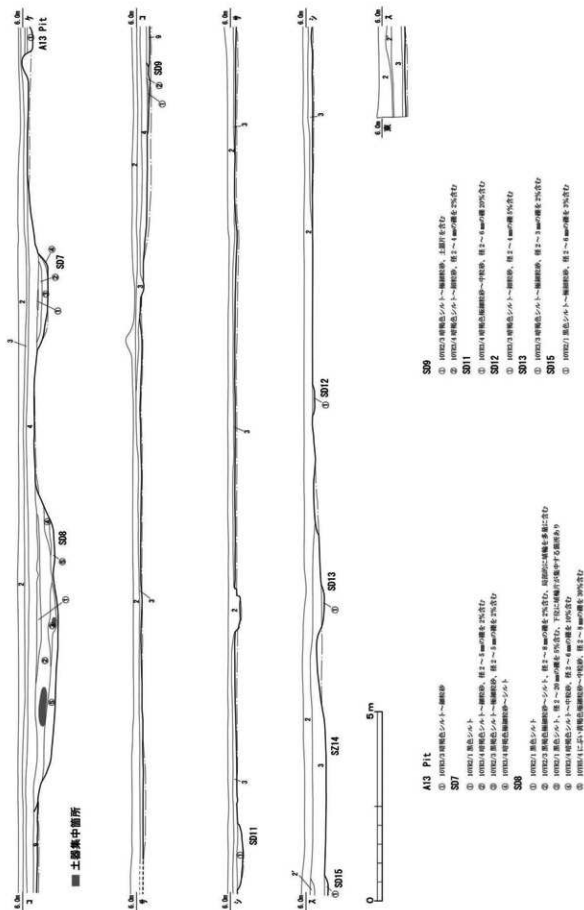
第三-4図 深田遺跡(第2次) A区土層断面図1 (1:100)



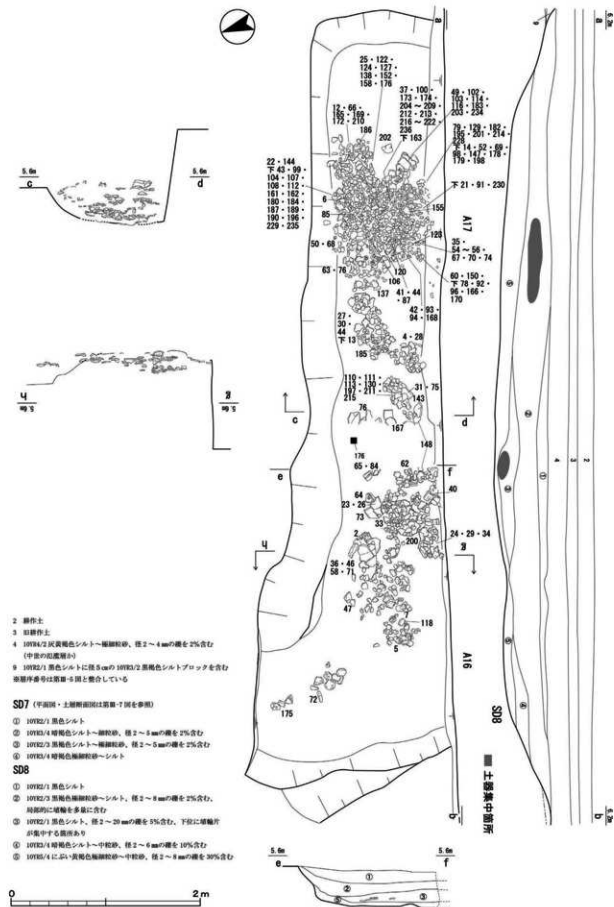
- 1 築成土
  - 2 耕作土
  - 3 土壌作土
  - 4 1976(1) 黒褐色粘板層シルト→黒板状砂, 厚2~4mmの層を2%含む(中身の組成見直し)
  - 5 1976(2) 灰褐色粘板層シルト→黒板状砂, 厚2~4mmの層を15%含む(4層とはほぼ同一の成分比率の成層が異なる)
  - 6 1976(2) 灰褐色粘板層シルト上 1976(4) 褐色シルト→黒板状砂が同程度, 厚5~10mmの層状になる
  - 7 1976(2) 灰褐色粘板層→黒板状砂, 厚2~4mmの層を20%含む
  - 8 1976(2) 黒板状粘板層(注説明)
  - 9 1976(2) 褐色シルトに厚5mmの1976(2) 黒褐色粘板層シルトブロックを含む
  - 10 1976(4) 褐色粘板層→黒板状砂, 厚2~4mmの層を1%含む(黒山)
  - 11 1976(4) 灰褐色粘板層→1976(4) 土砂, 灰褐色粘板層→黒板状砂, 厚2~10mmの層を20%含む(黒山)
  - 12 1976(4) 褐色シルト→黒板状砂, 厚2~4mmの層状を1%含む(黒山)
  - 13 1976(1) 褐色シルト, 厚2mm程度の成層を5%含む(黒山)
  - 14 1976(1) 灰褐色シルト→中粒砂, 厚2~12mmの層を30%含む, 継ぎ目強く(継ぎ目あり)(黒山)
- SZ1  
 ① 1976(2) 灰褐色粘板層シルト, 厚2mmの層を2%含む
- AS SD  
 ① 1976(2) 灰褐色粘板層シルト→黒板状砂, 継ぎ目層状にする成分比率
- ② 1976(2) 灰褐色粘板層シルト→黒板状砂
- ③ 1976(4) 褐色粘板層シルト→黒板状砂

- A11 SD  
 ① 1976(2) 灰褐色粘板層シルト→シルト, 厚2~4mmの層を1%含む
- S02  
 ① 1976(4) 褐色粘板層シルト
- S03  
 ① 1976(2) 褐色粘板層シルト→黒板状砂, 厚4mm以下の成層を10%含む
- ② 1976(4) 褐色粘板層シルト→黒板状砂, 厚2~4mm以下の成層を2%含む
- ③ 1976(4) 褐色粘板層シルト→黒板状砂, 厚2~4mm以下の成層を2%含む
- ④ 1976(2) 灰褐色粘板層シルト→黒板状砂, 厚2~10mmの層を2%含む
- ⑤ 1976(2) 灰褐色粘板層シルト→黒板状砂, 厚2~10mmの層を2%含む
- ⑥ 1976(2) 灰褐色粘板層シルト→黒板状砂, 厚2~10mmの層を20%含む
- S04  
 ① 1976(2) 灰褐色粘板層シルト→黒板状砂, 厚2mmの層を2%含む
- S05  
 ① 1976(4) 褐色粘板層シルト→黒板状砂, 厚2~10mmの層を2%含む
- ② 1976(4) 褐色粘板層シルト→黒板状砂, 厚2mmの層を1%含む
- S06  
 ① 1976(4) 褐色粘板層シルト→黒板状砂, 厚2~10mmの層を2%含む
- ② 1976(4) 褐色粘板層シルト→黒板状砂, 厚2~10mmの層を2%含む

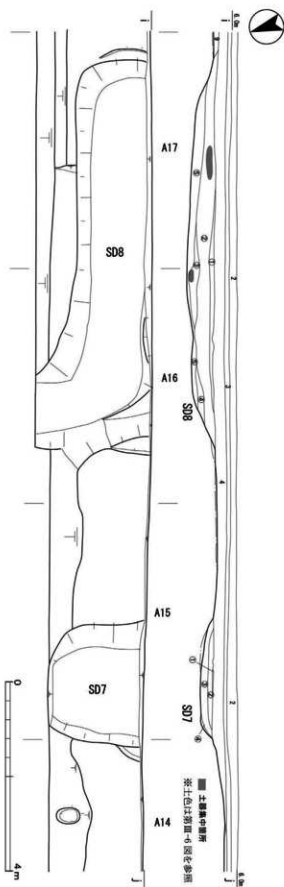
第三-5图 深田遺跡(第2次)A区土層断面图2(1:100)







第三-6図 深田遺跡(第2次)A区SD8平面図・断面図・土層断面図(1:40)



第三-7図 深田遺跡(第2次)A区SD7・8平面図・土層断面図(1:80)

2層・3層における土色の若干の差異は、SD8の2層・3層に遺物を大量に含む(残存してなかったが有機質のものも存在した可能性がある)ことによる土壌の還元作用などによる差異と考えられよう。  
**遺物出土状況** SD7は、最下層から須恵器杯身が出土した。埴輪については、細片のみで図示しうるものはなかった。

SD8は、2層と3層に土器を若干含むつつ円筒埴輪と形象埴輪が大量に含まれていた。ただし、原位置を留めるものは1点もなく、すべて2次的に堆積した状況を示していた。3層最下部から男性人物頭部(175)が出土したが、これ自体、原位置を留めるものではない。また、円筒埴輪・形象埴輪ともに、基部に相当する破片が少なく、円筒では口縁部片も多い。このことは、古墳への埴輪樹立にあたって、円筒・形象ともに基部を若干墳丘に埋めて樹立したが、何らかの理由で地表付近から削平され、基部を残して周溝に転落した埴輪が多かったものと推察される。

なお、須恵器については、SD8がL字状に屈折するあたり(いわゆるくびれ部)の周溝中央下部に比較的大型の破片が集中する傾向が認められた。

#### (2) 深田2号墳(SD9・SK10)

**墳形と規模** 2号墳は、1号墳の東側に所在する。ただし、1号墳から2号墳に向かって若干微高地となり、さらに東に向かって上がっていく。そのため、後世の削平により遺構の残りは悪い。

かろうじて検出できたのは、調査区外の南側から回り込んで東側へ向かう幅1.52m、延長10m以上の東西溝であるSD9で、検出面から最も深いところでも6cmしか残存していなかった。調査区際ではあるが西側がL字状に屈折もしくは屈折して南側へ延びていくらしい溝形状から、一辺内法で8m以上の方墳の可能性があるが、東側周溝に相当する溝は確認できず、削平のため検出できなかったものと判断した。

溝の床面に長さ1.76m×幅1.16m、深さ22cmの卵形を呈した土坑SK10があり、円筒埴輪片と須恵器杯蓋が出土した。周溝内に掘り込まれた、2号墳に付属する埴輪棺と推定した。

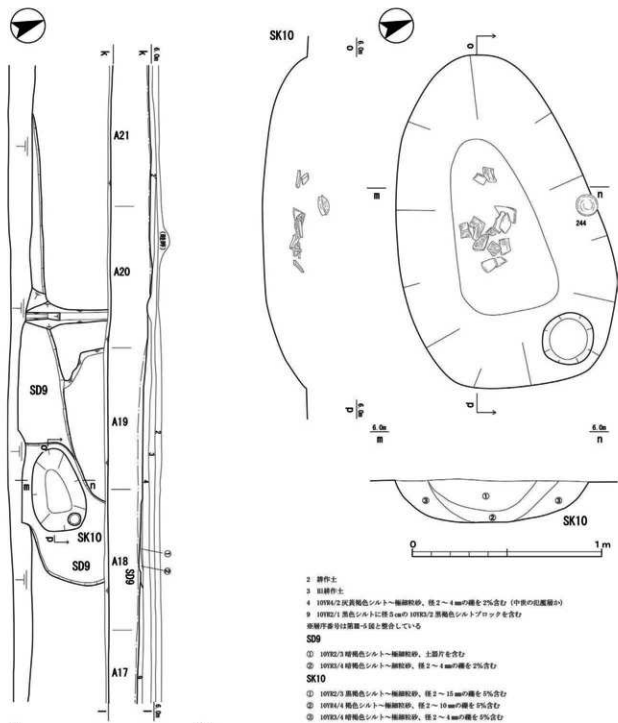
**周溝堆積状況** SD9は上部が削平されていたため、確認できたのは遺構底だけである。埋土は、2層に

分層したが、上層ともに暗褐色シルトで、色調の濃淡と粒度で若干の差が存在した（第Ⅲ-8図参照）。

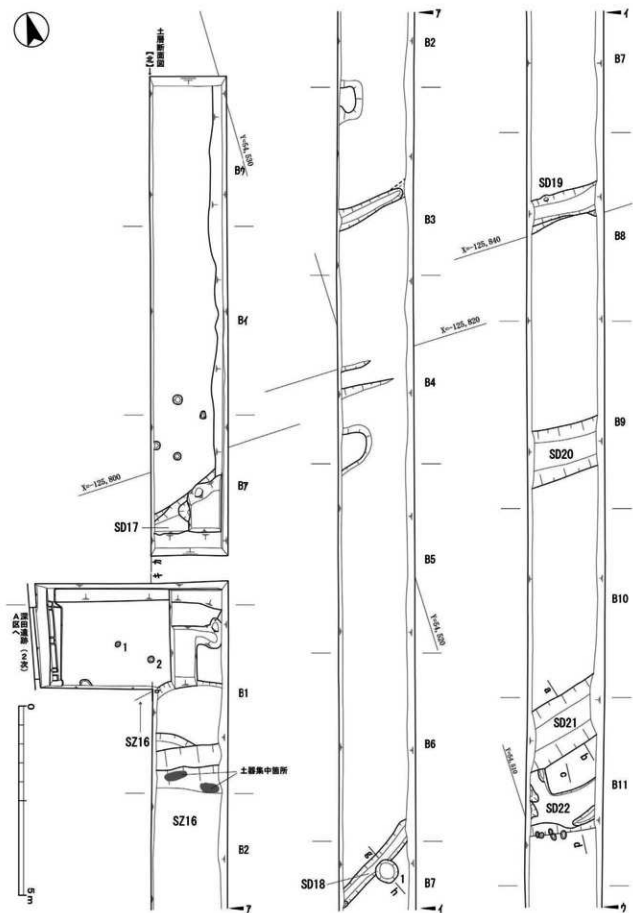
SK10は、上層より1層；黒褐色シルト、2層；褐色シルト、3層；暗褐色シルトで地山に至る。3層をベースに2層が緩いU字形に掘り込まれ、その

内側に1層が堆積した状況を示す。

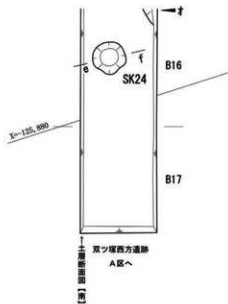
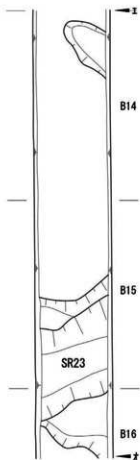
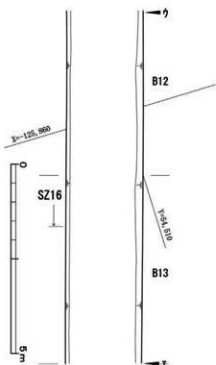
**遺物出土状況** SD9は、円筒埴輪と朝顔形埴輪、土師器、須恵器の破片が散在して出土した。原位置を示すものはない。多くがSK10周辺から出土しており、SK10に伴っていたものが周辺に散らばった



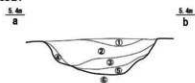
第Ⅲ-8図 深田遺跡(第2次)A区SK10・SD9平面図・土層断面図(1:20, 1:100)



第三-9图 深田遺跡(第2次)B区平面图1(1:100)



SD21



- ① 10YR1.7/1 黒色シルト
- ② 10YR2/2 黒褐色シルト～細粒砂、径2mmまでのマンガン粒を0～3%含む
- ③ 10YR2/2 黒褐色細粒砂～シルト
- ④ 10YR2/2 黒褐色シルト～粗粒砂、径2～6mmの礫を10%含む
- ⑤ 4層とはほぼ同じ
- ⑥ 6N/ 灰色細粒砂～細粒砂、径2～20mmの礫を50%含む(地山)

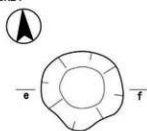
SD22



- ① 10YR1.7/1 黒色シルト
- ② 10YR1/1 褐色シルト、径2～4mmの礫を0～20%含む(地山)

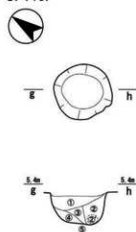


SK24



- ① 10YR1.7/1 黒色シルト、径2～4mmの礫を3%含む
- ② 10YR2/2 黒褐色シルト～細粒砂、径2～20mmの礫を30%、炭分の多い多く含む
- ③ 10YR1/1 褐色シルト
- ④ T.01R3/1 赤褐色細粒砂～中粒砂、径2～6mmの礫を10%含む
- ⑤ S.01R1/1 黄灰色細粒砂～細粒砂、径2～20mmの礫を20%含む(地山)

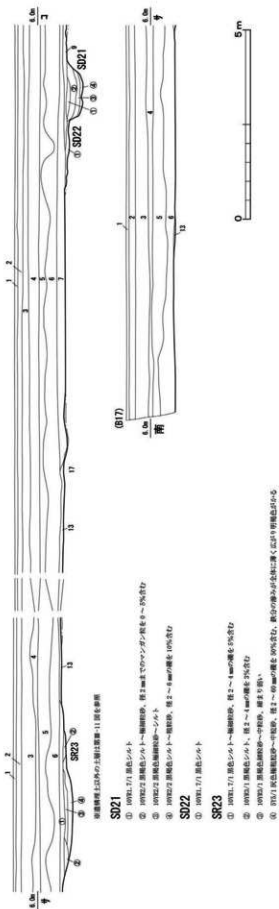
B7 Pit1



- ① 10YR1.7/1 黒色シルト
- ② 10YR2/1 黒色シルトと 10YR4/1 褐色シルト、10YR1.7/1 黒色シルトが径5mm次のブロック状に混じる
- ③ 10YR1.7/1 黒色より濃いシルト
- ④ 10YR1.7/1 黒色シルト
- ⑤ S.01R1/1 黄褐色シルト～細粒砂
- ⑥ S.01R2/2 黄褐色細粒砂～細粒砂、径2～20mmの礫を60%含む(地山)

第三-10図 深田遺跡(第2次)B区平面図2(1:100)、SK24, SD21・22, B7Pit1平面図・土層断面図(1:20)





第三-12図 深田遺跡(第2次)B区土層断面図2(1:100)

ものも含まれている可能性がある。円筒埴輪はSK10出土の246とは法量・調整が明らかに異なる237~242、それに朝顔形埴輪片の243などはSD9に伴うものであろう。ただし、須恵器杯蓋(244)は、SK10の検出面直上から出土しており、SK10に伴う遺物だった可能性が高い。

SK10は、1層を中心に円筒埴輪片が壊れた状態だった。口縁部・底部を欠くが、いずれも外面タテハケ調整を施した円筒であり、本来同一個体の埴輪だった可能性がある。他に土師器・高杯が出土した。

### (3) 深田3号墳

**墳形と規模** 昭和53年度深田遺跡第1次調査A区の西南端で確認されたSD2を方墳の北側周溝と判断し、これを3号墳とした。南側は調査区外に延び、南側の平成30年度深田遺跡(第2次)調査区には延長が出てこないことから、平成30年度調査区よりも北側で完結するとみられる。現況で幅4m以上×長さ14m以上、深さ1.3mを測り、復元すると一辺15m程度(周溝含む)の小さな方墳だったとみられる。埴輪を含む古墳時代遺物が出土したが、図示しうるものはなかった。

### (4) 昭和53年度深田遺跡第1次調査A区SK7

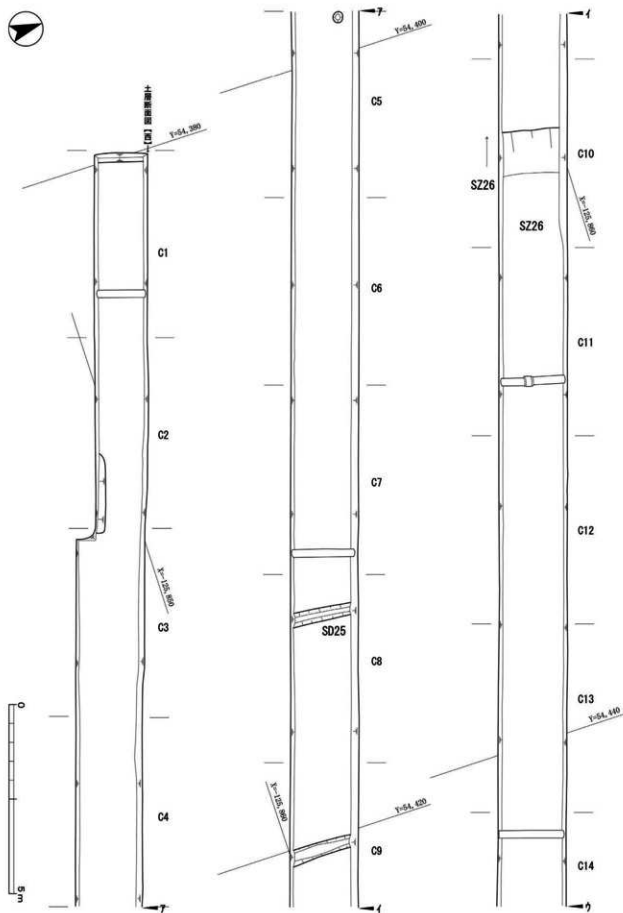
深田3号墳の東側に存在する幅7.5m×長さ2.5m、深さ20~60cmの細長い形状の土坑で、西側が深くなっている。埴輪を大量に含んでおり、周溝の可能性もあるが、南側への延長が確認できず、昭和53年度調査時点では溝と考えられているが、周辺の発掘調査成果を加味して同時期の土坑と判断した。複数の円筒埴輪と朝顔形埴輪による埴輪棺の可能性もあるが、家形埴輪も出土していることから、現時点で埴輪棺と確定することは難しい。(穂積)

### 2. 深田遺跡(第2次、第三-1~5.9~16図)

**SZ1** A5~7に位置し、幅約27m、検出面からの深さ16cmの落ち込み状となる。暗褐色極細粒砂シルトが堆積した後にA5の溝が掘削されている。埋土から古代~中世の遺物が少量出土した。

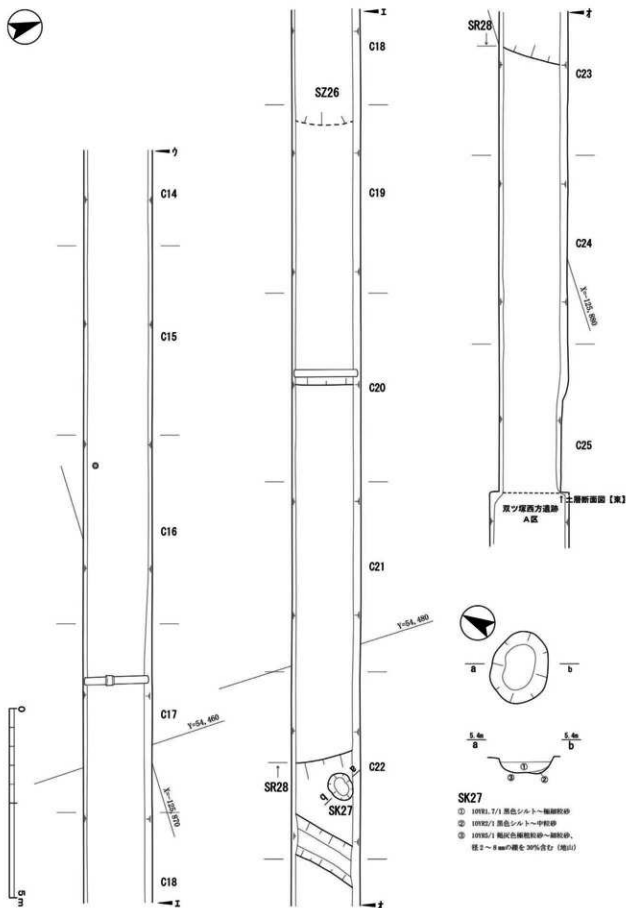
**SD2** A7・8で検出した幅1.1m、深さ71cm、断面U字形の溝である。向きはN25°Wである。埋土から土師器片が出土したが、小片で時期は判断できない。

**SD3** A9で検出した幅2.1m、深さ88cmの溝で



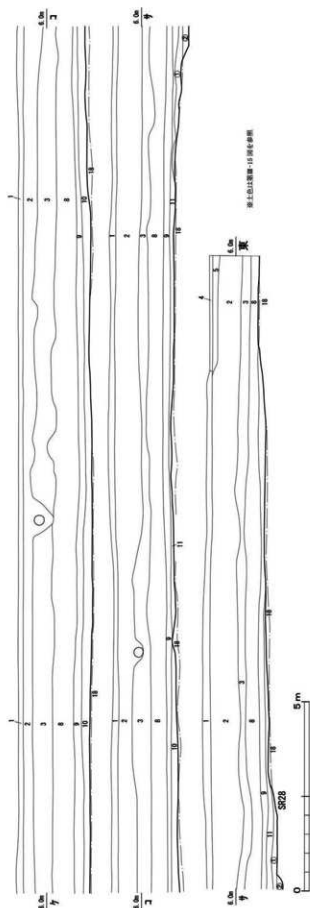
第三-13图 深田遺跡(第2次)C区平面图1(1:100)





第三-14図 深田遺跡(第2次)C区平面図2(1:100)、SK27平面図・土層断面図(1:40)





第三-16図 深田遺跡(第2次)C区土層断面図2(1:100)

ある。底付近の断面はU字形であるが、上面の幅が広がっている。向きはN5°Wである。埋土から、中世の遺物が出土した。

**SD4** A10で検出した幅0.5m、深さ11cmの溝である。向きはN25°Eである。埋土から土師器片が出土したが、小片で時期不明である。

**SD5** A12で検出した断面形が不整形の溝である。出土遺物から、近代以降のかく乱とみられる。

**SD6** A12・13で検出した幅0.44m、深さ4cmの溝で、上部は大きく削平されている。向きはN70°Eである。埋土から中世の遺物が少量出土した。

**SD11** A27で検出した幅1.72m、深さ16cmの溝である。幅の割に浅く、断面形は皿状である。向きはN10°Wである。埋土から山茶碗、土師器が多く出土しており、中世の溝とみられる。

**SD12** A29で検出した幅0.48m、深さ4cmの溝で上部は大きく削平されている。向きはN75°Eである。埋土から近世の磁器片が少量出土した。

**SD13** A29・30で検出した幅0.88~1.4m、深さ13cmの溝である。幅は南側で狭くなり、1段下がる。向きはN60°Eである。埋土から古墳時代後期の遺物が出土した。

**SZ14** A30以東で検出した幅7m以上、深さ14cmの凹地状を呈する。しかし、埋土が旧耕作土であり、中世氈蓋層が堆積した後の段階の地形と思われる。SZ14の掘削後、SD13・15を検出している。埋土から古式土師器や須恵器、山茶碗片など幅広い時期の遺物を含む。

**SD15** A区東端で検出した幅94cm、深さ14cmの溝である。向きはN70°Eで、B区で検出したSD17と繋がる可能性が高い。埋土からの出土遺物はなく、時期不明である。

**SZ16** B1~13で検出した幅56.7m、深さ24cmの凹地状を呈する。埋土は上から、暗褐色~黒褐色シルト~極細砂、黒色シルト~極細砂、黒色シルトとなる。B4~7では最下層で、黒色シルトと褐灰色シルトが凸凹した堆積がみられ、坪の可能性も考えられる。SZ16の掘削後、SD18~22を検出している。層序からみても、SD18~22の堆積後、SZ16埋土が堆積していることがわかる。北側の肩で土器が集中して出土した。埋土から古式土師器や須恵器、

山茶碗片など幅広い時期の遺物を含む。

**SD17** B1の北側(Bア)で検出した幅1.65m以上、深さ17cmの溝である。向きは概ねN70°Eで、A区で検出したSD15に繋がる可能性が高い。埋土から土師器、山茶碗等が出土した。

**SD18** B7で検出した幅0.37m、深さ5cmの溝で、向きはN60°Eである。出土遺物がなく時期は判然としなが、第2次調査SD19・20の方向とほぼ同一で、隣接する双ツ塚西方遺跡SD8の方向とほぼ直交する。このことから、古代の地割に沿った溝であった可能性がある<sup>10)</sup>。

**SD19** B8で検出した幅0.7m、深さ27cmの溝である。埋土から土師器小片が出土した。

**SD20** B9で検出した幅1.3m、深さ28cmの溝である。出土遺物がなく時期不明だが、SD18と同様、古代の地割に沿った溝であった可能性がある。

**SD21** B10で検出した幅1.44m、深さ33cmの溝で向きはN75°Eである。土層から、前後関係はSD22よりも新しい。埋土から、壺串、砥石のほか、小片であるが須恵器、土師器、山茶碗が出土した。

**SD22** B10で検出した幅1.1m、深さ9cmの溝で、L字状に屈曲している。上部が大きく削平されており、土層から、前後関係はSD21よりも古い。埋土から、朝顔形埴輪、土師器片が出土した。

**SR23** B14・15で検出し、規模は幅2.6m、深さ31cmである。埋土は上から黒色シルト～極細粒砂、黒色シルト、黒褐色細粒砂～中粒砂、灰色極粗粒砂～中粒砂で、底にいくに従い粒子が粗くなる。山茶碗片が出土した。

**SK24** B16で検出した南北0.88m×東西0.88mの土坑で、不整形形を呈する。埋土からの出土遺物はなく、時期不明である。

**SD25** C8で検出した幅0.37m、深さ14cmの溝で向きはN7°Eである。出土遺物がなく時期不明である。

**SZ26** C10以東で検出した幅43.4m、深さ16cmの凹地状を呈する。埋土は黒色シルトである。東側の肩が不明瞭だが、土層からC19まで広がっているとみられる。埋土から古式土師器を含む土師器や山茶碗、陶器など幅広い時期の遺物を含む。

**SK27** C22で検出した南北0.78m×東西0.6mの

土坑で、不整形形を呈する。SR28の掘削後に検出した。埋土からの出土遺物はなく、時期不明である。

**SR28** C22・23で検出し、規模は幅5.1m、深さ30cmである。埋土は上から黒色細粒砂～シルト、黒褐色細粒砂～中粒砂で、底にいくに従い粒子が粗くなる。土師器片が出土した。

**SA29** A26・27で検出した柱列である。柱間3m、2間確認した。方向はN10°Wである。調査区が狭小であるため、柱の並びが南北に広がる可能性がある。埋土から、土師器片が出土した。(原田)

### 3. 深田遺跡(第3次、第三-17-26図)

**SD30** d2で検出した幅0.3m、検出面からの深さ18cmの溝である。向きはN17°Eである。SK31より新しい。古墳時代の遺物が少量出土した。

**SK31** d2で検出した南北0.35m以上×東西0.45m以上の土坑である。西側はSD30が重複し、調査区外まで広がるため、全体の形状は不明である。埋土からは古墳時代の土師器が少量出土した。

**SD32** d3で検出した幅0.54m、深さ52cmの溝である。向きはSD30とあう。SK34より新しい。埋土から、古墳時代の土師器が出土した。

**SZ33** d3～5で検出した幅7.5m、深さ13cmの凹地状を呈する。埋土は上から、黒褐色粘質シルト、黒色粘土、黒褐色粘土となる。SZ33を掘削した後、SK35・36を確認した。埋土から弥生土器、土師器等が出土した。

**SK34** d3で検出した南北0.74m以上×東西0.8m以上の土坑である。SD32より新しい。調査区外まで広がる。残存部の形状は隅丸方形を呈す。埋土からは古墳時代の土師器が少量出土した。

**SK35** d3・4で検出した南北0.56m×東西0.7m、不整形形である。SK35が堆積した後、SZ33埋土が堆積している。埋土からは古墳時代の土師器が少量出土した。

**SK36** d4・5のSZ33東肩で検出した南北1.1m×東西1.13m、不整形形である。SK36が堆積した後、SZ33埋土が堆積している。埋土からは古式土師器が少量出土した。

**SD37** d5で検出した幅0.54m、深さ17cmの溝である。向きはN10°Eである。埋土から古墳時代の土師器片が一定量出土した。

**SK39** d7で検出した南北1.14m×東西0.95m、不整形形である。埋土からは弥生土器、土師器が一定量出土した。

**SK40** d9で検出した南北0.4m以上×東西0.48m以上の土坑である。南側は調査区外で、東側はかく乱で削平されている。残存部の形状は隅丸方形を呈す。

**SH41** d11で検出した。多くは調査区外で南隅のみを確認したが、部分的に壁周溝も認められる。SK42より古い。出土遺物がなく、時期不明である。

**SK42** d11で検出した南北0.6m以上×東西0.78m、調査区外まで広がるが残存部の形状は楕円形である。SH41より新しく、SD43より古い。埋土からは古式土師器片や壁土片が少量出土した。

**SD43** d11・12で検出した幅0.34m、深さ11cmの溝で、向きはN30°Wである。SK42より新しい。埋土から古墳時代の土師器が出土した。

**SD44** d12で検出した幅0.3m、深さ8cmの溝である。SD45より新しい。埋土から土師器小片が出土した。

**SD45** d11・12で検出した幅0.33m、深さ18cmの溝である。SD44より古い。埋土から土師器、砥石が出土した。

**SK46** d12で検出した南北0.32m以上×東西0.88m、調査区外まで広がる。埋土から遺物が認められず、時期不明である。

**SK47** d13で検出した南北1.24m以上×東西0.52m、調査区外まで広がる。SK50・SH49より新しい。埋土からは土師器が出土した。

**SK48** d13で検出した南北0.37m以上×東西0.74m、調査区外まで広がる。埋土からは土師器が出土した。

**SH49** d12・13で検出した。南北1.1m以上×東西4.6m以上で、多くは調査区外となる。残存部はやや歪であるが隅丸方形に近い。SK47より古く、SK50・51より新しい。埋土から、須恵器、土師器等が出土した。

**SK50** d13で検出した南北1.38m以上×東西1.18mの楕円形を呈する。SH49より古く、SD52より新しい。埋土からは土師器が出土した。

**SK51** d13で検出した南北0.72m×東西0.46m以

上の不整形形を呈する。SH49より新しい。埋土からは土師器小片が出土した。

**SD52** d13・14で検出した幅0.33m、深さ13cmの溝である。出土遺物がなく時期不明である。

**SH53** d14で検出した。南北2.1m以上×東西2.1m以上で、多くは調査区外となる。残存部はやや歪であるが隅丸方形に近い。削平されたのか東側が不整形形であるが、本来は隅丸方形を呈していたと思われる。SK54より古い。埋土から、弥生土器、古式土師器等が出土した。

**SK54** d15で検出した南北1.25m以上×東西2.13m、残存部から楕円形とみられる。SH53・76より新しい。埋土からは土師器小片が出土した。

**SD55** d15で検出した幅0.18～0.55m、深さ10cmの溝で、幅は南半が狭く北半が広い。向きは概ねN15°Eである。SD56に対応する堅穴建物の壁周溝の可能性ある。埋土から土師器が出土した。

**SD56** d15・16で検出した幅0.28m、深さ13cmの溝である。向きはSD55と揃う。SD55に対応する堅穴建物の壁周溝の可能性ある。埋土から土師器が出土した。

**SK57** d16で検出した南北0.35m以上×東西0.68mの不整形形を呈する。埋土からは土師器片、壁土とみられる小片が出土した。

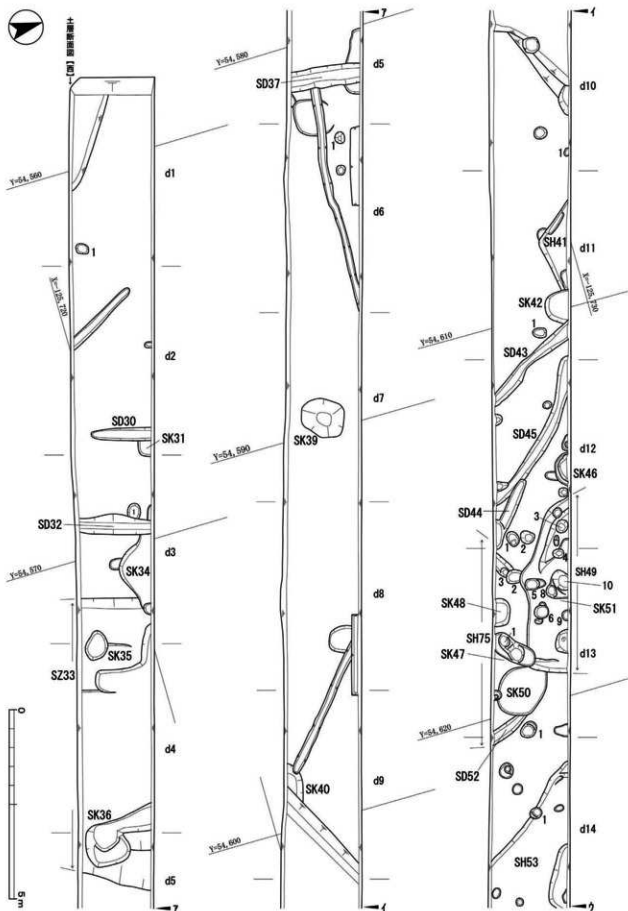
**SH58** d16・17で検出した。南北2.1m以上×東西5.3m以上で、一部調査区外となる。残存部から隅丸方形で、主軸はN47°Wである。壁周溝が比較的良好に残存しており、西側は壁柱穴も認められる。調査区幅が狭く、主柱穴や貼床は不明である。SK59より新しい。埋土から、土師器片が出土した。

**SK59** d16で検出した南北0.52m×東西1.5mの長楕円形を呈する。SH58より古い。埋土からは土師器小片が出土した。

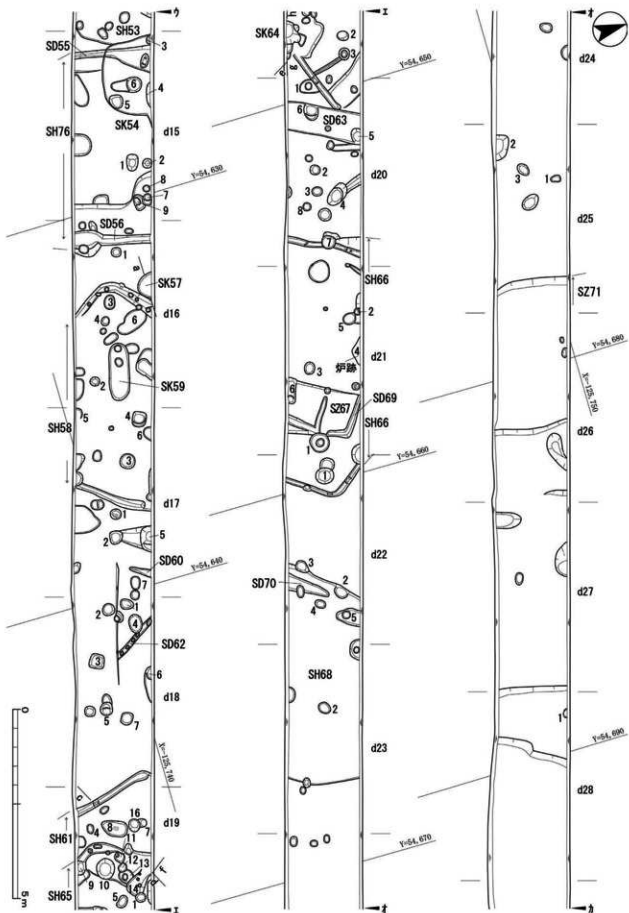
**SD60** d17で検出した幅0.18m、深さ5cmの溝である。埋土からは土師器が出土した。

**SH61** d18～20で検出した。南北2.1m以上×東西2.9m以上である。残存部から隅丸方形とみられ、主軸はN15°Eである。壁周溝、主柱穴が認められる。SH65より新しい。埋土から、土師器、須恵器が出土した。

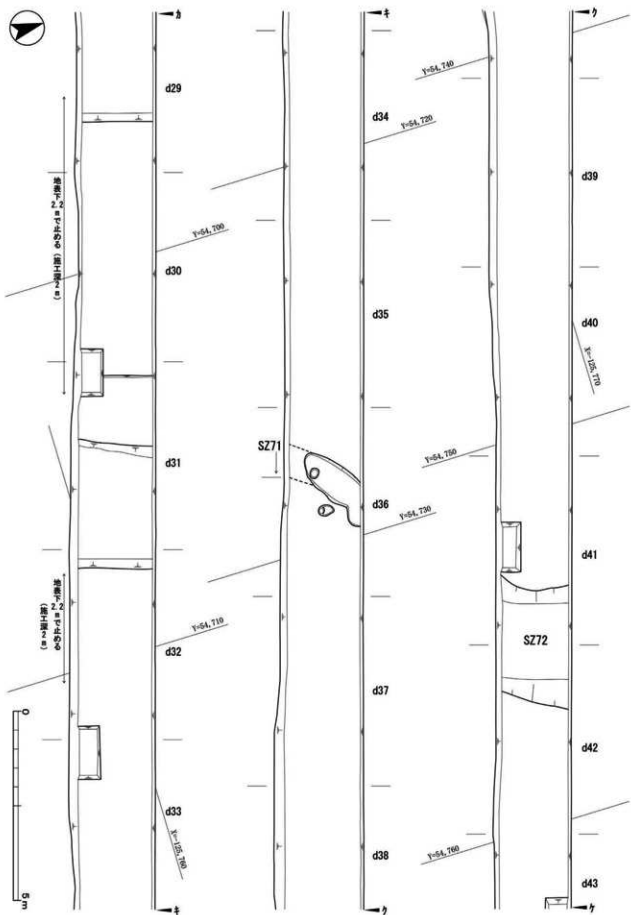
**SD62** d18で検出した幅0.14m、深さ5cmである。



第三-17图 深田遺跡(第3次)D区平面圖1(1:100)

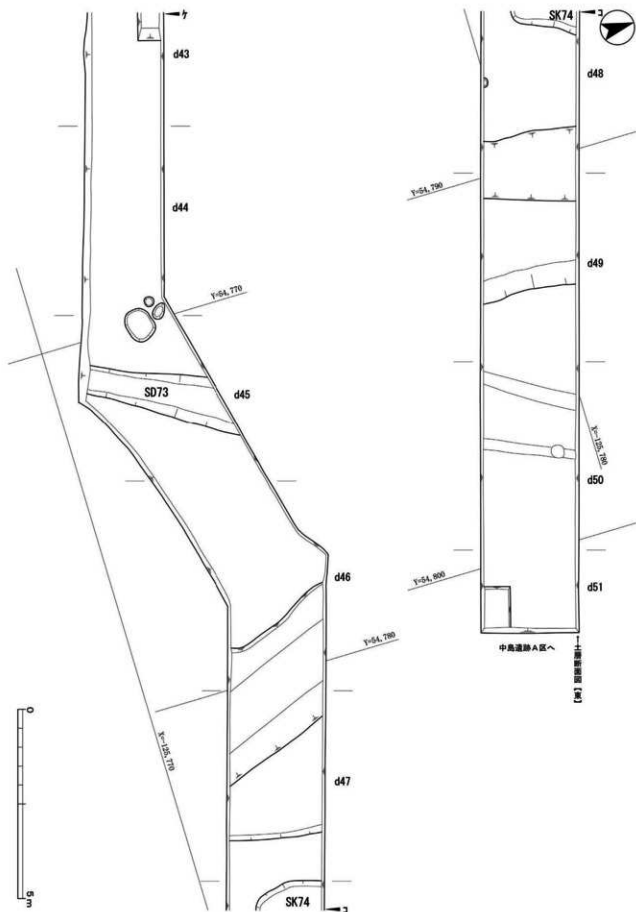


第三-18图 深田遺跡(第3次)D区平面圖2(1:100)



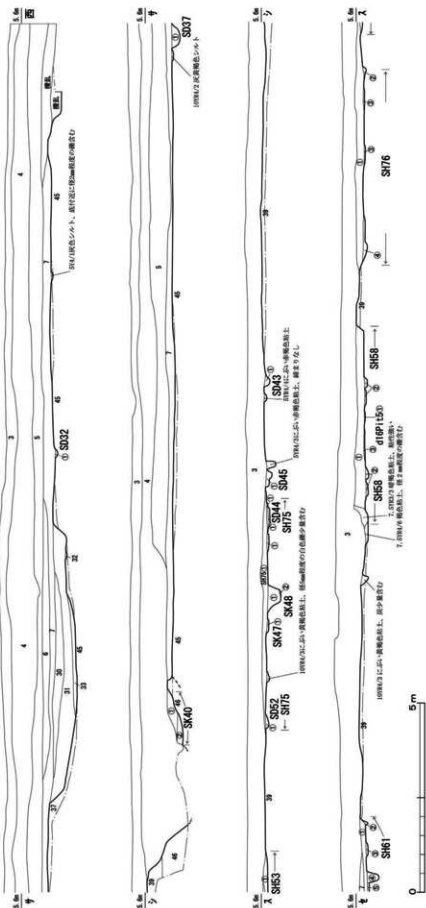
第三-19图 深田遺跡(第3次)D区平面图3(1:100)





第三-20図 深田遺跡(第3次)D区平面図4 (1:100)

第三-21図 深田遺跡(第3次)D区土層断面図1(1:100)



- 1 アスファルト
- 2 土
- 3 土
- 4 土
- 5 土
- 6 土
- 7 土
- 8 土
- 9 土
- 10 土
- 11 土
- 12 土
- 13 土
- 14 土
- 15 土
- 16 土
- 17 1994/1 褐色砂土、細砂少量、厚さ ~ 100mm程度の1993/1 褐色砂土
- 18 1994/1 褐色砂土、細砂少量、厚さ ~ 100mm程度の1993/1 褐色砂土
- 19 土
- 20 土
- 21 土
- 22 土
- 23 土
- 24 土
- 25 土
- 26 土
- 27 土
- 28 土
- 29 土
- 30 土
- 31 土
- 32 土
- 33 土
- 34 土
- 35 土
- 36 土
- 37 土
- 38 土
- 39 土
- 40 土
- 41 土
- 42 土
- 43 土
- 44 土
- 45 土
- 46 土
- 47 土
- 48 土

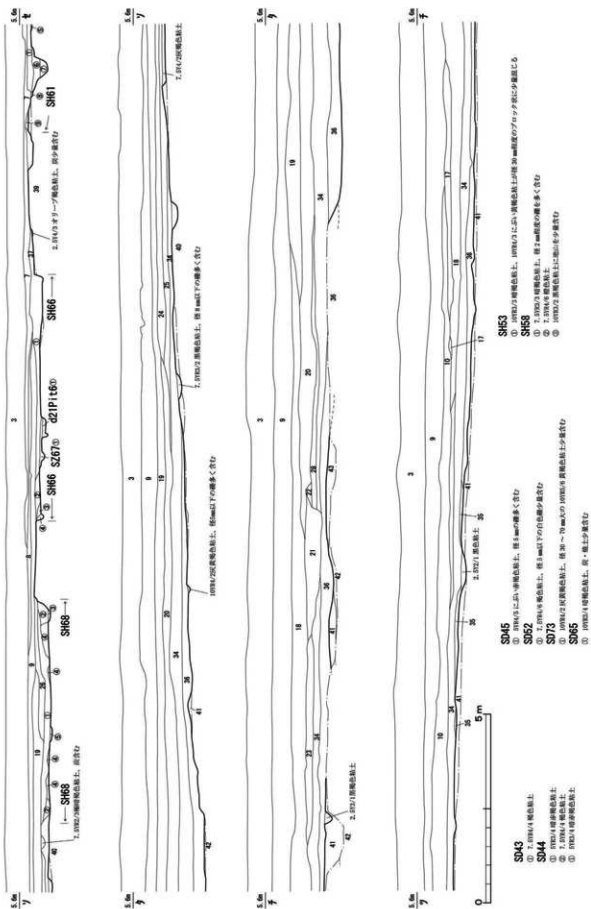
- 39 1994/1 褐色砂土、細砂少量、厚さ ~ 100mm程度の1993/1 褐色砂土
- 40 1994/1 褐色砂土、細砂少量、厚さ ~ 100mm程度の1993/1 褐色砂土
- 41 土
- 42 土
- 43 土
- 44 土
- 45 土
- 46 土
- 47 土
- 48 土

- 39 1994/1 褐色砂土、細砂少量、厚さ ~ 100mm程度の1993/1 褐色砂土
- 40 1994/1 褐色砂土、細砂少量、厚さ ~ 100mm程度の1993/1 褐色砂土
- 41 土
- 42 土
- 43 土
- 44 土
- 45 土
- 46 土
- 47 土
- 48 土

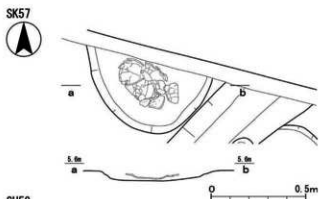
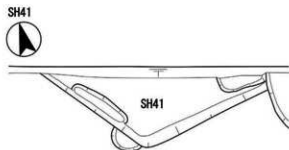
- 39 1994/1 褐色砂土、細砂少量、厚さ ~ 100mm程度の1993/1 褐色砂土
- 40 1994/1 褐色砂土、細砂少量、厚さ ~ 100mm程度の1993/1 褐色砂土
- 41 土
- 42 土
- 43 土
- 44 土
- 45 土
- 46 土
- 47 土
- 48 土

39 1994/1 褐色砂土、細砂少量、厚さ ~ 100mm程度の1993/1 褐色砂土

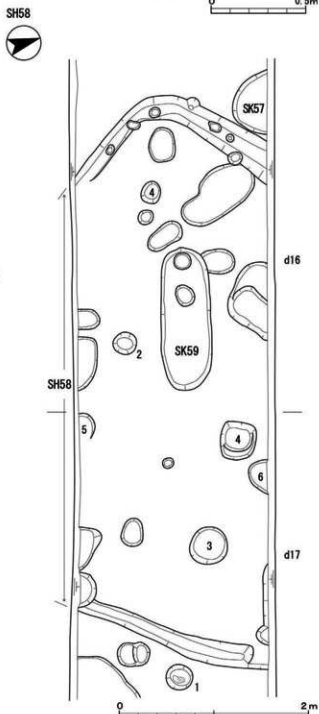
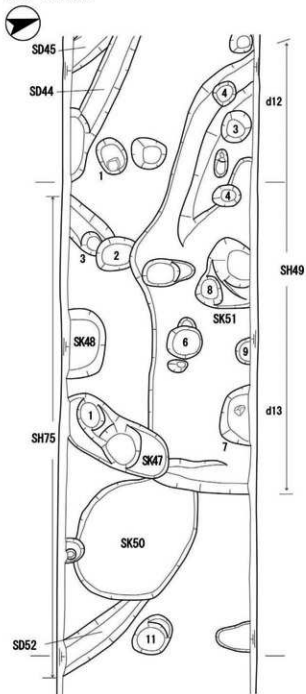
第三-22図 深田遺跡(第3次)D区土層断面図2(1:100)





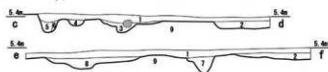
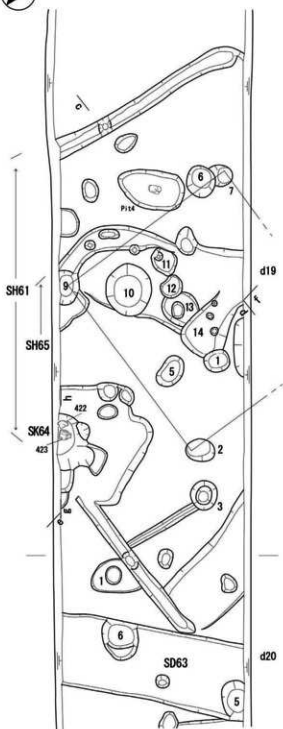


SH49・SH75周辺



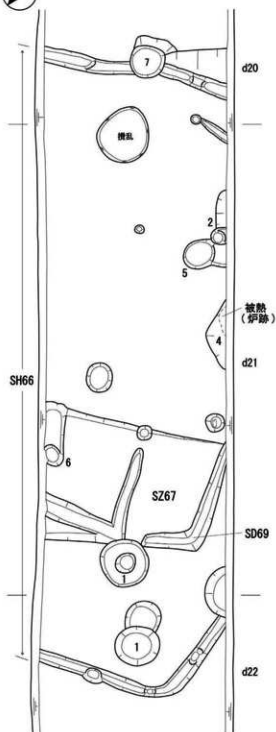
第三-24圖 深田遺跡(第3次)D区SH41・49・58・75、SK57平面圖(1:40)、SK57遺物出土狀況圖(1:20)

SH61・SH65・SK64



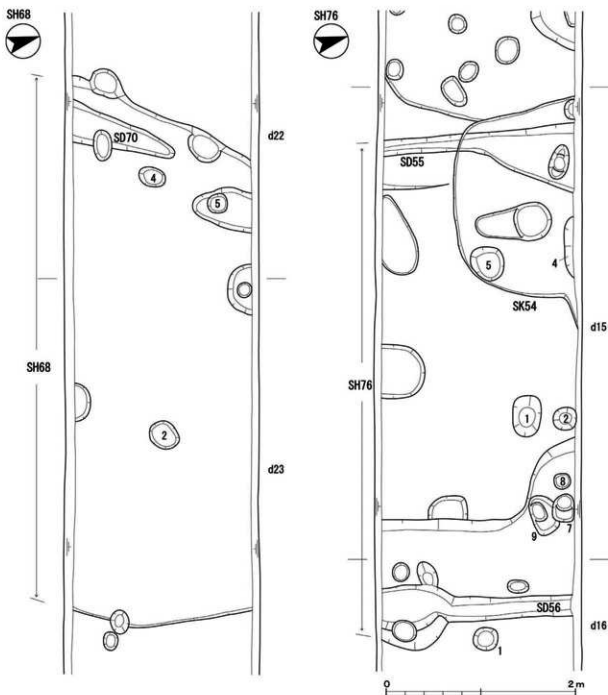
0 2m

SH66・SZ67



- |                           |  |
|---------------------------|--|
| 1 7.5YR3/2 黄褐色黏土 (黄分比高)   | 5 10YR3/4 暗褐色黏土 (黏性強)                  |
| 2 7.5YR3/3 暗褐色黏土 (1より黏性強) | 6 4と同C                                 |
| 3 7.5YR3/2 黄褐色黏土に#堆山土少+黄  | 7 7.5YR3/3 暗褐色黏土に黄+土少+黄 (40%以上埋土)      |
| 4 5YR4/3 に灰+暗褐色黏土         | 8 7.5YR3/3 暗褐色黏土に黄少+黄 (粘性強) 7) 5YR4 黄土 |
|                           | 9 7.5YR3/4 黄褐色黏土に黄 2~3mm程度多く混 (埋土)     |

第三-25図 深田遺跡(第3次)D区SH61・66, SK64, SZ67平面図・断面図(1:40)



第三-26図 深田遺跡(第3次)D区SH68・76平面図・断面図(1:40)

向きはSH58の主軸とほぼ揃う。底部に小穴が複数あり、堅穴建物の壁周溝と考えられる。埋土からは土師器が出土した。

**SD63** d20で検出した幅0.75m、深さ6cmの溝である。向きは、N28°Eである。埋土から土師器が出土した。

**SK64** d19で検出した南北0.40m×東西0.58mの土坑で、不整円を呈する。土坑の北側に浅い平坦面がある。SH65の貯蔵穴とみられる。底付近から台

付甕(423)が横倒しの状態で、椀形高杯(422)が若干上面で出土した。

**SH65** d19で検出した。東側は削平されたのか認められず、西端のみ確認した。残存部から隅丸方形であろう。僅かに壁周溝が認められる。SH61より時期が古い。埋土から、土師器が出土した。

**SH66** d20~22で検出した。南北2.1m以上×東西6.3mと規模が大きい。当初、第三-25図の範囲をSH66として調査を進め出土遺物の取り上げも行っ

ているが、2棟の建物が重複し、SZ67・SD69がSH66の北側・東側の肩であった可能性がある。その場合、東西の規模は5.2mである。平面形は隅丸方形である。壁周溝・壁柱穴が認められるが、支柱穴や貼床は確認できなかった。埋土から、土師器、須恵器が出土した。

**SZ67** d21、SH66の床面掘削後に検出した。南北1.68m以上×東西1.2mの長方形である。SH66床面から遺構の底に向けて段状に下がる。埋土から、土師器が出土した。

**SH68** d22・23で検出した。南北1.9m以上×東西5.3mである。微高地の西端にあり、SH68以东は徐々に検出面のレベルが下がったため、平面プランの西側は不明瞭であった。他の堅穴建物と比較すると平面形がやや不定形で、明確な支柱穴などが確認できず、土坑とする方がよいのかもしれない。埋土から、土師器、須恵器が出土した。

**SD69** d21、SH66の床面掘削後に検出した。幅0.2m、深さ10cmの溝でL字状に屈曲する。埋土から土師器が出土した。

**SD70** d22、SH68の西側の肩付近で検出した幅

0.25m、深さ4cmの溝で向きはSH68の西側の掘形に沿う。埋土から土師器が出土した。

**SZ71** d25～35で検出した幅54m、深さ78cmの凹地状を呈する。埋土は黒色粘土である。遺物は認められなかった。

**SZ72** d41・42で検出した幅2.9m、深さ42cmの凹地状を呈する。埋土は黒色粘土である。埋土から土師器が出土した。

**SD73** d45で検出した幅1.16m、深さ13cmの溝で、向きはN28°Eである。埋土から土師器が出土した。

**SK74** d48で検出した南北1.70m以上×東西1.26mの長楕円形を呈する。埋土からは土師器が出土した。

**SH75** d13で検出した。d13Pit3が北側壁周溝、SD52が東側壁周溝となる可能性がある。堅穴建物の床面が削平され、壁周溝のみ遺存した可能性は否定できない。

**SH76** d15・16で検出した。SD55が西側壁周溝、SD56が東側壁周溝となる可能性がある。SK54より時期が古い。向きはN75°Wである。（原田）

## 第3節 遺物

### 1. 深田古墳群(第Ⅲ-27～39図)

#### (1) 深田1号墳

##### SD7出土遺物(1)

須恵器杯身である。口縁部はシャープに高く立ち上がり、底部全体に回転ヘラケズリが及ぶ丁寧な作りである。5世紀末～6世紀初頭の所産であろう<sup>16</sup>。

##### SD8出土遺物(2～236)

須恵器(2～11)、土師器(12～20)、円筒埴輪(21～82)、朝顔形埴輪(83～118)、形象埴輪(家・馬・鳥?・人物、119～236)がある。

埴輪と土師器は表面の劣化が非常に激しかった。このため、器面保護として、埴輪と土師器のすべてに新成田総合社の土器器面コーティング剤(ナチュラルコート)を塗布した。

以下、種類別に概観しておく。

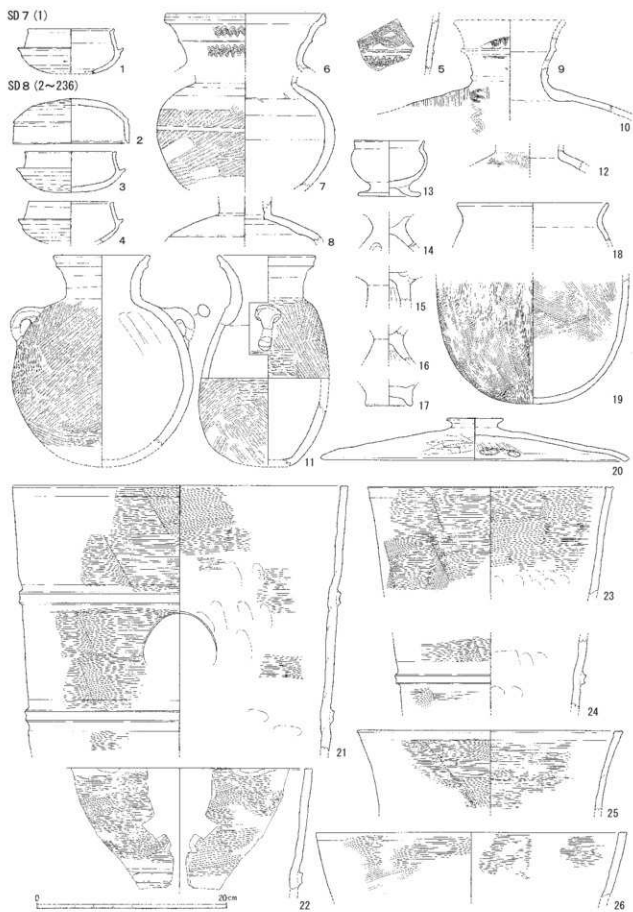
**須恵器(2～11)** 杯蓋(2)、杯身(3・4)、器台(5)、壺(6・7)、直口壺もしくは長頸壺(8)、樽形甕(9・10)、提瓶(11)がある。

杯身(3・4)は、ともに口縁部がシャープに立ち上がり、底部全体に回転ヘラケズリが及ぶ丁寧な作りである。一方、杯蓋(2)は口径が大きく、天井部外面の回転ヘラケズリも全体の1/2程と狭く、シャープに欠ける。前者が5世紀末～6世紀初頭、後者は6世紀前葉～中葉頃の所産か。

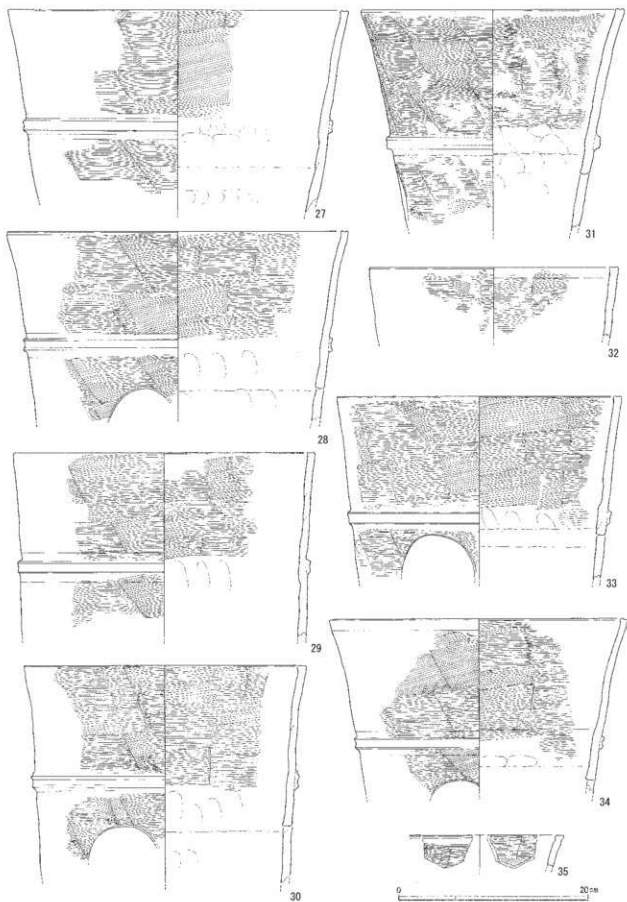
5は、組紐文が施された須恵器である。組紐文をもつ須恵器には器台と直口壺が想定されるが、直口壺とするには量法が大きく、器台と考えた。現在の知見による限り、組紐文をもつ須恵器は初期須恵器に限られ、所産時期も5世紀前半頃までの所産である。SD8出土の他の須恵器より時期的に遡るものといえよう。

壺は、口縁部の6と、体部の7があるが、量法が合わず、別個体である。6は口縁部を2段に区画して波状文を配し、口縁端部を上方向につまみ上げている。5世紀末から6世紀初頭の所産であろう。7は、タタキによる成形痕が残る。

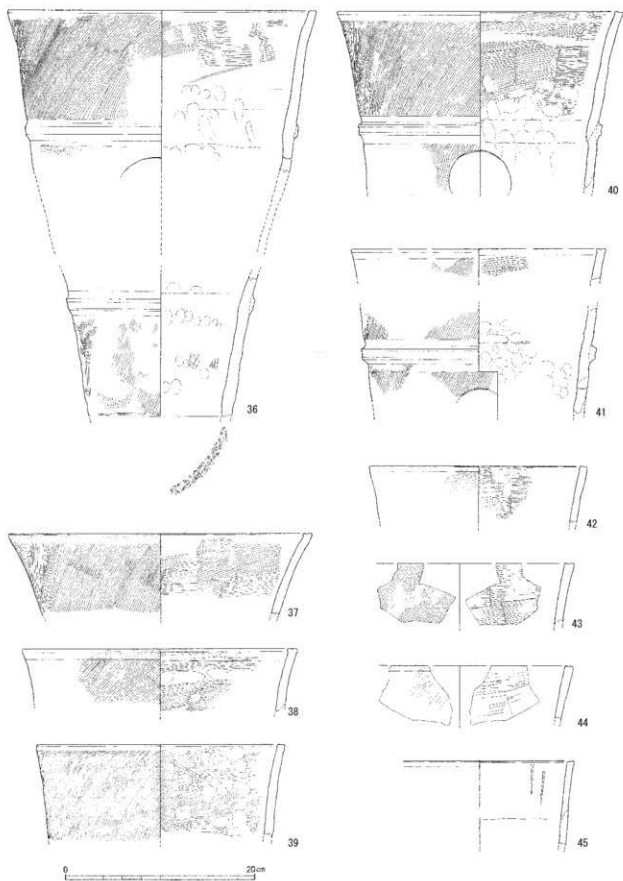




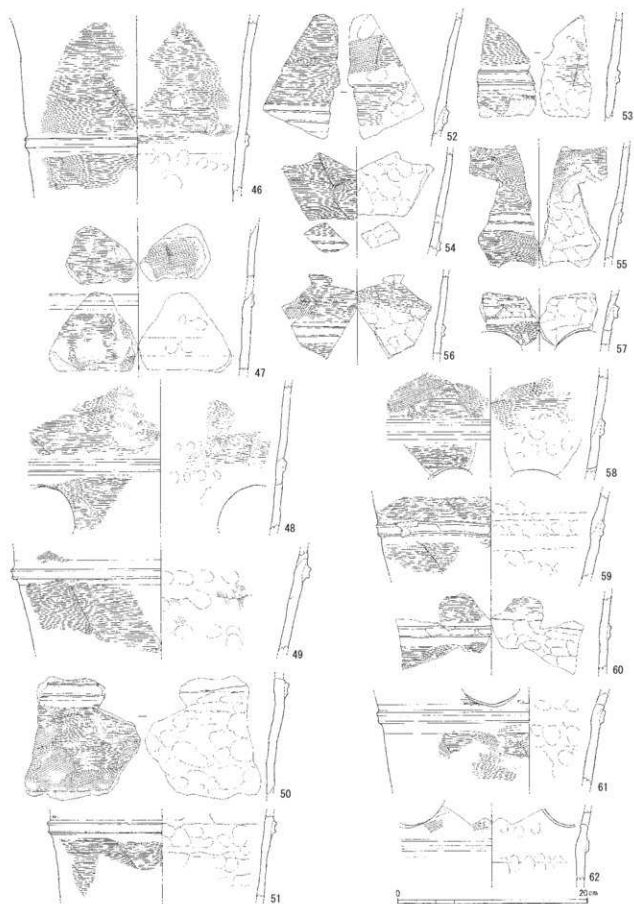
第三-27图 深田遺跡(第2次)A区遺物実測圖1(1:4)



第三-28图 深田遺跡(第2次)A区遺物実測圖2(1:4)



第Ⅲ-29图 深田遺跡(第2次)A区遺物実測图3(1:4)



第Ⅲ-30图 深田遺跡(第2次)A区遺物実測図4(1:4)

8は、短頸壺であるが、頸部が細く、体部の沈線  
を境に内側に屈折する気配がある。他の須恵器より  
新しく、7世紀頃の所産か。

10は、残りは悪いが、縦方向に施された波状文と  
カキメから樽形壺の頸部から体上部片であろう。口  
縁部片の9は小片だが、突線で2段に分けた区画内  
に繊細な波状文を施しており、焼成具合も含めて10  
と同一個体の可能性がある。

11は、提瓶である。体部は外面にタタキ痕が顕著  
に残る。

全体に5世紀末～6世紀初頭頃のものが多いが、  
若干千の前後の時期の遺物も含んでいる。

**土器器 (12～20)** 小形壺 (12)、小形台付埴 (13)、  
高杯 (14～16)、壺もしくは甕底部 (17)、甕 (18・  
19)、蓋 (20) がある。

小形壺 (12) は、体部にハケを残し、口縁部は欠  
損するが頸部立ち上がり具合から直口壺とみられる。

13は、小形丸底壺である。鉢状の底部に外に開く  
脚を付けたものである。

高杯は、いずれも脚部片である。円孔が穿たれた  
14はやや古相を示し、古墳前期に遡るものが混じっ  
た可能性がある。

20は天井部をヘラミガキした蓋で、律令期まで下  
るものであろう。

**円筒埴輪 (21～82)** 口縁部から底部まで完存した  
個体はないが、いずれも黒斑のない還元焰焼成で、  
2突帯3段構成で中段に円形透孔をもつ円筒埴輪と  
みられる。前述のように、口縁部片は多いが底部片  
は僅少で、古墳の削平過程が出土量に影響している  
可能性がある。調整の特徴から大きく2類に分ける  
ことができる。

**1類** 外面に1次調整のタテハケ後、2次調整のB  
種ヨコハケ<sup>30</sup>をもつもの。B種ヨコハケは、いずれ  
もストロークを止めた際の静止痕が右下がり傾く  
Bd種で<sup>30</sup>、上段と中段にそれぞれ2段ないし3段  
に施している。ただし、下段はせいぜい1段施すか、  
省略する。底部から最上段に向けて外傾していくも  
のと、あまり開かず、立直に近いものがある。内面  
は、上段のみヨコハケをもつ。口径は、大きいもの  
で約36cm、小さいもので約26cmあり、法量の偏差が  
大きい。器形が立直するものは概して法量が大きく、

外傾が強いものは法量が小さい傾向にある。突帯は  
低く、中央がヨコナデにより回み、結果として低い  
M字形を呈するものが多い。

**2類** 外面は、2次調整のB種ヨコハケが省略され、  
1次調整のタテハケないしナメハケだけが施され  
たもの。内面は上段のみヨコハケを残す。本類も、  
37のような外傾の強い個体と、口縁部があまり開か  
ず、上方へ立ち上がる39のような個体がある。口径  
は、大きいもので約32cm、小さいものでは約23cm  
で、A類に比べると若干小さい傾向にある。突帯は、  
台形もしくはM字形を呈するが、概してA類よりは  
若干高めである。

以下、特徴的なものを中心に概観しておく。

上段を含む破片 (21～23・25～35) は、1類でも  
上段を含んだ破片である。口縁部は、いずれも上  
端部にヨコナデによる平坦面をもつ。

21は、口径36cmで、1号墳出土の円筒埴輪中、最  
大の法量をもつ。上段と中段の高さはともに12cmで、  
Bd種ヨコハケをそれぞれ2段ずつ施している。

31は、器形の外傾が強く、上段のB種ヨコハケは  
3段を敷き、突帯も他のA類よりは高い。

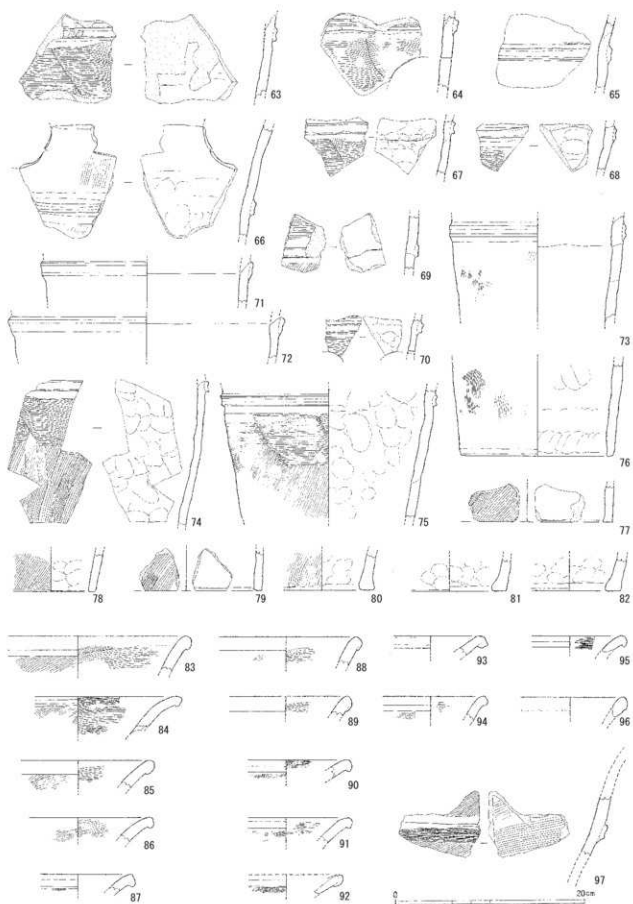
35は、小片であるが、他の1類とは異なってBd  
種ヨコハケの静止痕がやや左下がり、口縁内面も  
1次調整のナメハケの後、口唇直下から1段だけ  
Bd種ヨコハケを施す。焼成はよく、特に外面は灰  
白色に焼き上げられている。

36～45は、上段を含む2類の破片である。1類同  
様、口唇部はヨコナデによる平坦面を形成する。

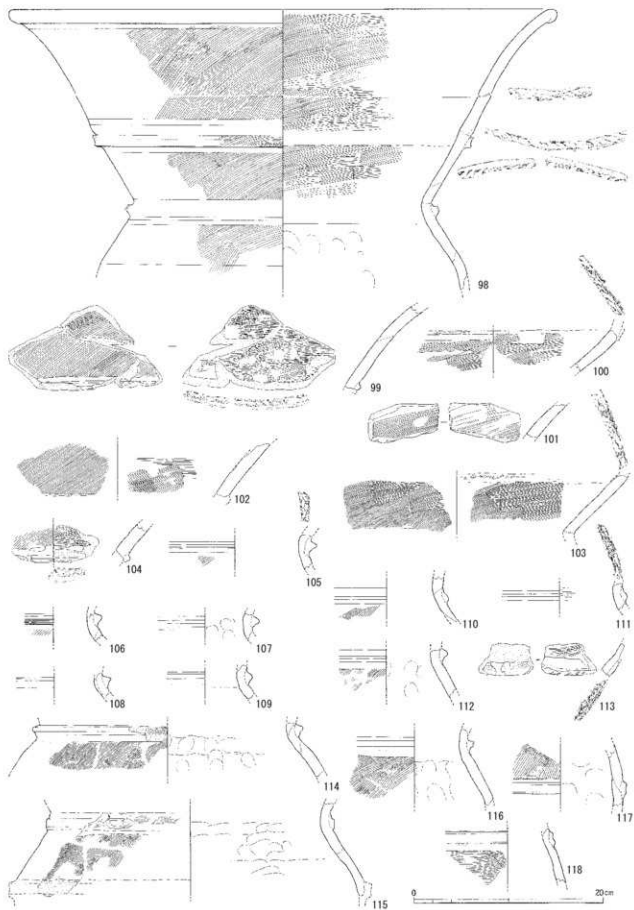
36は、中段の多くを欠くが、同一地点から出土し  
ており、同一個体と判断している。口径32cmに対  
して底部径16cmと小さく、底部から大きく外傾し、欠  
損しているが中段の途中で立直気味に一旦角度を変  
えてから、上段で再び外反する形状をとる。器壁厚  
は1.2cm前後と比較的厚い。底部底には繊維痕が  
あり、葦などの敷物の上で製作したとみられる。

42は、外面は1次調整のナメハケだが、口縁内  
面のハケがB種ヨコハケ状の静止痕が残る。

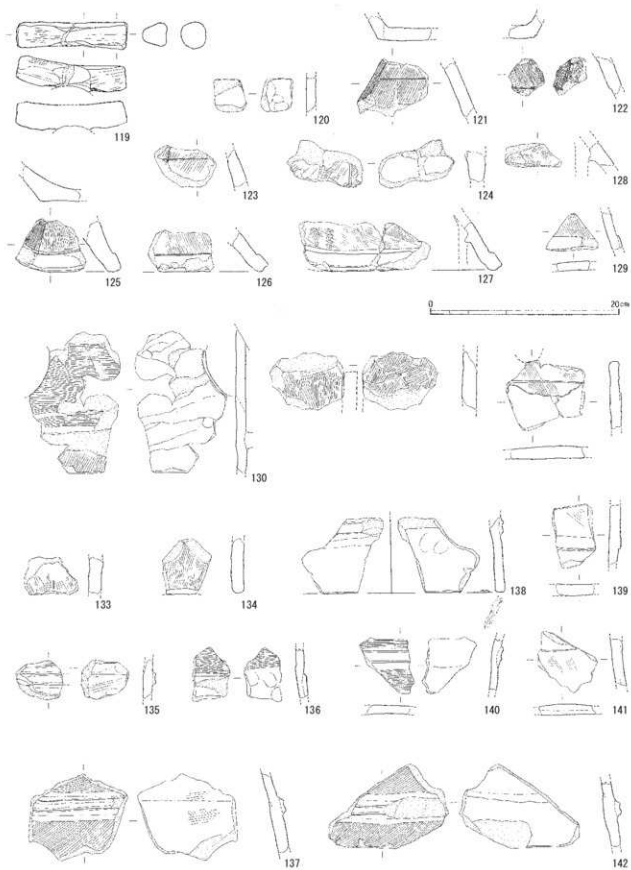
24・46～70は、口縁部を欠く上段と、中段を含  
む個体を一括した。総じて、内面にヨコハケ、ある  
いはB種ヨコハケが残るものは上段の破片とみられ、  
中段より下位はオサエを中心とした粗い調整痕を残



第三-31圖 深田遺跡(第2次)A区遺物実測圖5(1:4)



第Ⅲ-32图 深田遺跡(第2次)A区遺物実測図6(1:4)



第Ⅲ-33图 深田遺跡(第2次)A区遺物実測図7(1:4)



すだけとなる。

このうち46は、上段と透孔部は欠くものの中段の上半部が残るもので、上段内側だけにヨコハケが施され、中段より下位はナデ・オサエ調整となる。突帯は低いM字形である。

71～82は、下段の破片で、このうち77～82は底部段部が残る。いわゆる波輪系の有段底部はなく、いずれも通常の底部である。

72は風化が大きく、詳細な調整不明だが、74・75は1次調整のナメハケ後に突帯下部にB4種ヨコハケが施されている。

底部は、前述の36を含めても少量だが、大きく3つの形態に分けられる。

76は、底部内面にユビオサエが残る一方、外面は1次調整のタテハケが底部付近のみ消えた、いわゆる畿内型の底部調整<sup>②</sup>に類似し、この調整の結果、底端部の器壁厚も若干細くなっている。なお、いわゆる畿内型底部調整は、後述するがより典型的なもの昭和53年度深田遺跡第1次調査A区のSK7から出土している。

77～79は、外面のナメハケが最下部まで残り、底端部を角頭状としたものである。形状的には口縁端部と同様の仕上げとなっているが、内面にハケがなく、ナデやオサエのみである点で口縁部と区別可能である。

80～82は、自重を受けるため、あるいは自重の結果として底端部を厚くしたのも（厚くなった）もので、器壁も厚い。前述の端部に繊維痕が入る36も、器壁の厚さなどは本例と共通する。

**朝顔形埴輪 (83～118)** 概して、円筒形埴輪より大型に作られている。口縁内面はハケ、壺部内面はナデ・オサエ調整である。

83～104・113は、朝顔形埴輪の壺部で、83～96・98は口縁部を残す。最も残りの良い98は、赤彩も顕著な口径約58cmの大型品で、1次口縁の外傾は比較的緩やかで、1次口縁と2次口縁はあまり角度を変えずに立ち上がる。2次口縁の途中と、1次口縁上端部には接合痕が明瞭に残り、拓本で示したように刻みを入れて接合部の連結を強化する工夫がみられる。同様の接合痕は、99や100・103・105・111・113などにもみられ、1号墳出土の朝顔形埴輪のひとつ

の特徴となっている。また、99～104は、98に比べて1次口縁立ち上がりの外傾が急角度で、2次口縁はそれより角度を緩めて立ち上がったとみられる。

105～112・114～118は、朝顔形埴輪の肩部である。いずれも膨らみに乏しく、朝顔形埴輪の終焉時の様相の一端を示すものであろう。外面調整は、ナメハケが基本だが、118のように円筒埴輪同様のB4種ヨコハケを施したものもある。

**冢形埴輪 (119～142)** いずれも破片資料で、単体で原形が復原できるものはない。

119・121～132は、屋根に関わる部材である。119は、椀木である。断面隅丸三角形を呈し、底辺部に接合痕をもつ。

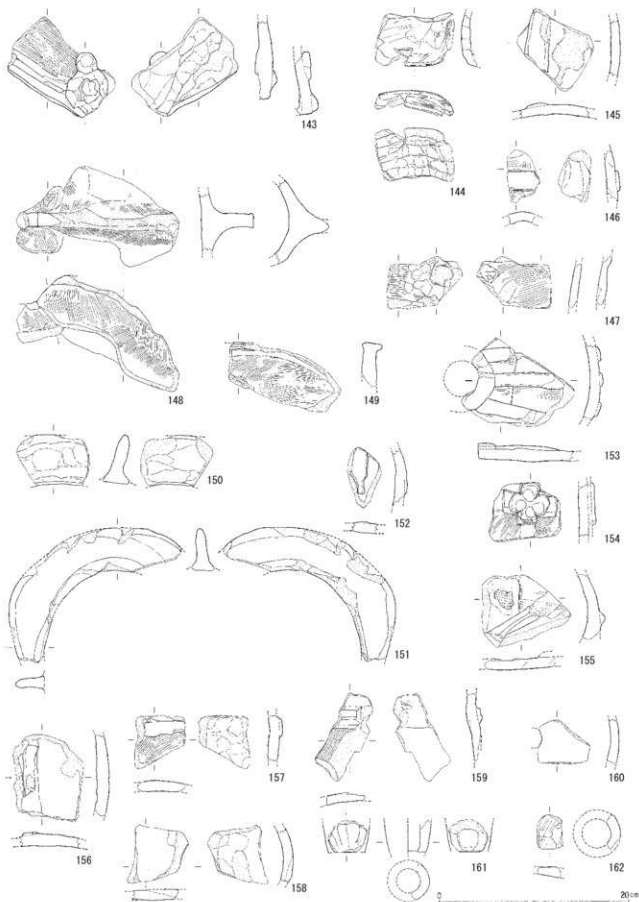
121～129は、大屋根の平側ないしは妻側の破片である。121・122・125は隅部の破片で、軒下部の破片である125も含めて平側⇔妻側の屈折は鈍く、結果として屋根形状の平面形は隅丸方形を呈していたとみられる。128は壁部との接合部の破片である。いずれも寄棟の特徴をもつ。

120・130～142は、冢形埴輪の壁部ないしは底部とみられる破片である。130や132は円形透孔をもっており、このうち130は水平の剥離痕より上位にヨコハケ、下位にナメハケが残る。ともに妻側の壁とみられる。130や131は、外傾接合である。135～142は、曲線のない形状から冢形埴輪に措定したが、盾や鞆などの他の冢形埴輪の可能性もある。ただし、人物埴輪が背負う鞆はあるものの、器財埴輪としての盾や鞆は未確認で、積極的に他の冢形埴輪を想定しうるほどではない。

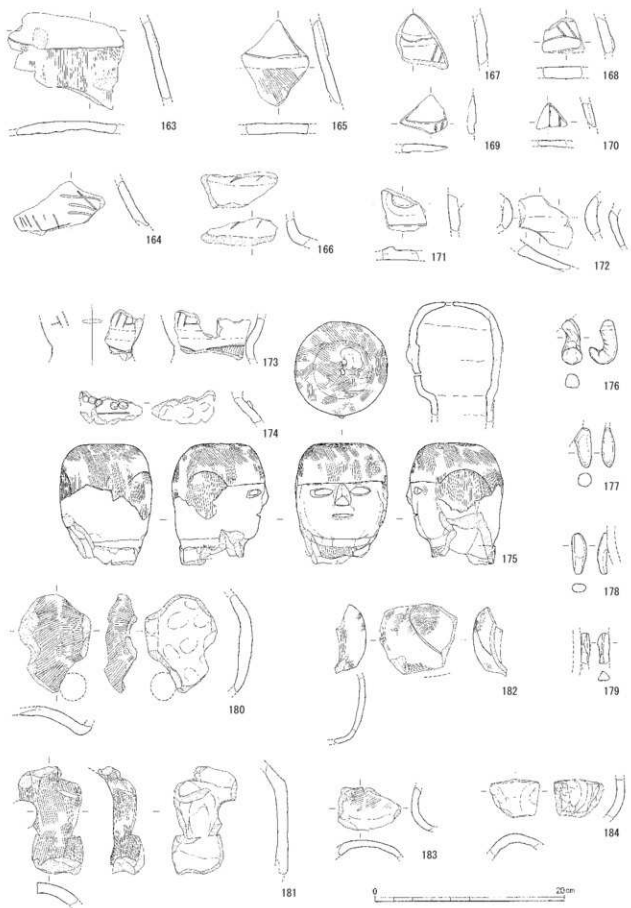
**馬形埴輪 (143～162)** いずれも破片資料である。全体に焼成が甘く、橙色に焼き上がっているものが多い。

143～144・146は、頭部破片とみられる。143は、面繫の部分で、鈴付きの鏡板に2本の革帯（1本は脱落し痕跡のみ）が連結している。また、頭部下部は粘土板で閉じられておらず、開放されたままである。

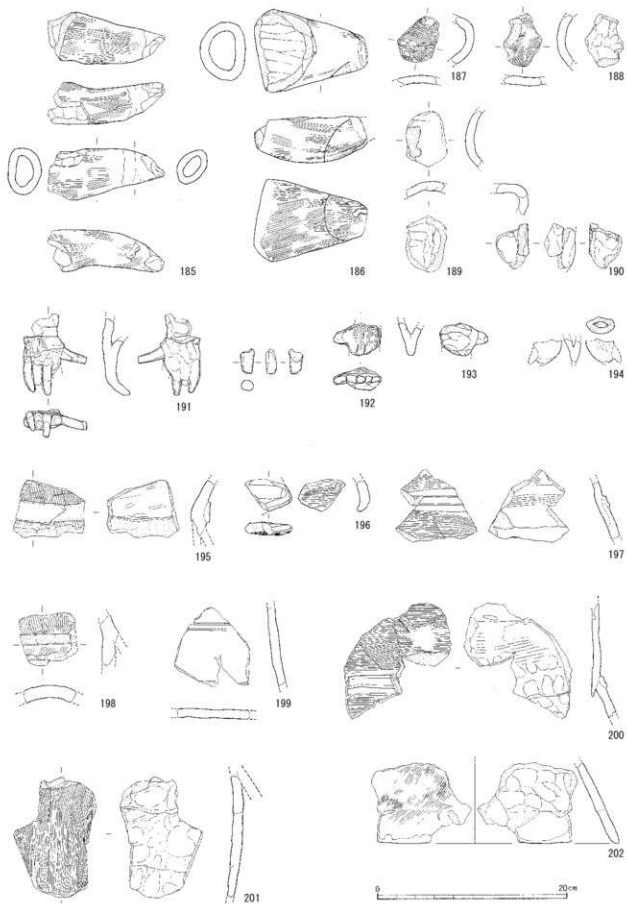
144は、明確な部位は不明だが、曲面の状況から頭部の破片と判断した。146は、円柱状の破片に扁平な粘土帯が貼付されており、面繫を構成する革帯と思われる。



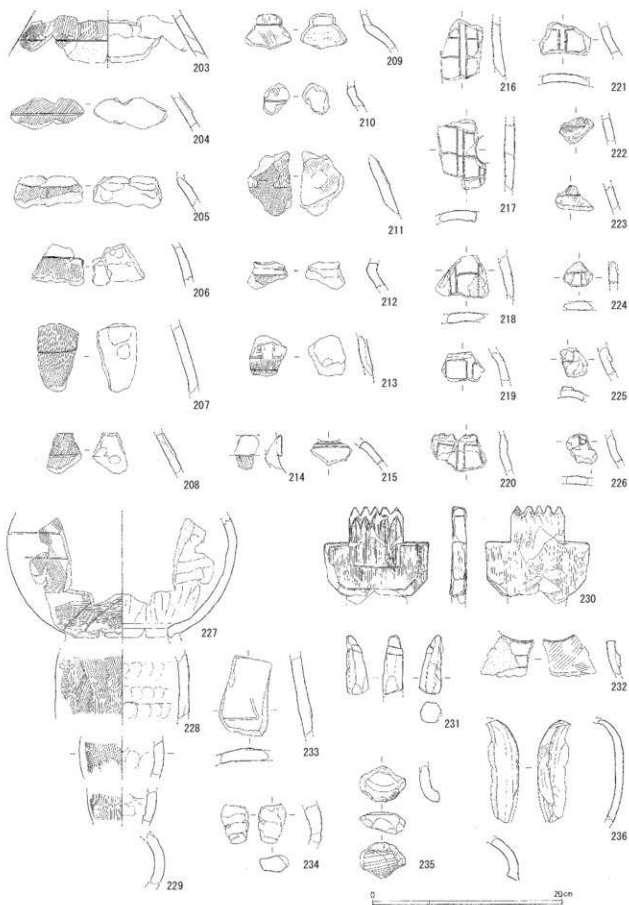
第三-34圖 深田遺跡(第2次)A区遺物実測圖B(1:4)



第Ⅲ-35图 深田遺跡(第2次)A区遺物実測図9(1:4)



第Ⅲ-36图 深田遺跡(第2次)A区遺物実測図(1:4)



第三-37圖 深田遺跡(第2次)A区遺物実測圖1(1:4)

147は、内外ともにハケを残し、外面には剥落痕がみられる。面繫もしくは障泥の破片であろうか。

145・152は、粘土板に革帯が貼付されたもので、鏡もしくは障泥を吊るすための革帯の部分とみられる。

148・149は、タテガミの破片である。148はタテガミから頭部が断面凸形を呈し、タテハケによりタテガミが表現されている。149は、タテガミが断面T字形で表現されており、石薬師東26号墳出土の馬形埴輪<sup>16</sup>と共通する。

150・151は、鞍の破片である。裝飾等は施されていない。

153は、尻繫の破片である。頂部に穿った円孔に沿って隆帯を貼り付け、そこから3方向に延びる革帯が粘土帯により表現されている。

154は、花形の辻金具を表現したものである。

155は、曲面に革帯の表現とみられる断面三角形の粘土帯を貼り付けたものである。面繫もしくは尻繫を表現した破片とみられる。

156～160は、詳細な部位は不明だが、粘土帯貼付の特徴や、器壁、色調などから馬形埴輪の破片とみられる。

161・162は、脚部の破片である。底部が残る161は、わずかに裾窄まりで仕上げられている。

総じて、あまり破片数は多くないが、タテガミの表現方法に2種が認められることから、2体存在したと推定できる。

**鳥形埴輪 (163～172)** 頭部や明確な頸部はないので不確定要素が残るが、沈線やハケの特徴から、鳥形埴輪の羽根の部分と判断した。166～170が沈線、163～165はそれをハケに置き換えたもので、頭部から体部にかかる部分に羽根の部分が付加し、立体的に表現する。172は窄まり具合から尾にかかる部分であろう。

**人物埴輪 (173～236)** 複数の人物があるが、明確に女性人物埴輪と判断できる破片はない。

173～179は頭部から頸部にかかる破片である。173は、左口元の破片で、線刻による刺青表現をもち、頭部との境に沈線を施す。174は頭部から胸部にかかる破片で、首周りに円形の珠文を貼り付けている。首飾りの表現であろう。175は、ほほ頭部の全体像

がわかる破片である。水平に切り揃えた前髪など頭髮部をハケで表現し、顔部との境界を沈線で区画する。目・口はへら状工具で切り抜き、鼻は△状に粘土を貼付する。耳の部分は頭髮が下部に垂れ、欠損するが美豆良に続いていくとみられる。176～179は美豆良で、176は扱れた表現をとるほか、円形断面もしくは楕円形断面の177・178、断面三角形の179と断面形にバリエーションがあり、美豆良から類推する限り、最低3体の人物埴輪が存在したとみられる。

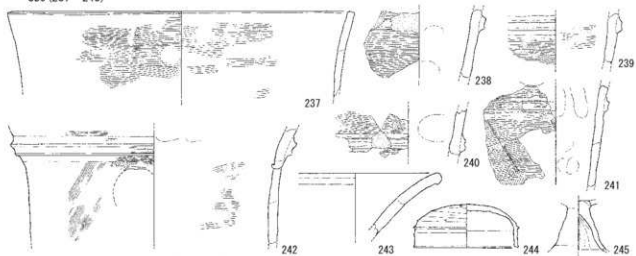
180～184は、肩部の破片である。180と181は脇下の円孔部を含むが、上衣の表現はない。一方、182は、肩甲骨周りに沈線があり、不明確ながら襟を表現したものかもしれない。

185～194は、腕から掌にかけての破片である。このうち、191は右掌で、手甲を付けて指先を出し、人差し指と薬指は一部欠損するものの、5本指がリアルに表現されている。192は指の破片、193は左掌で、191よりは小さいものの指表現が認められる。194は、指表現はないが掌の破片とみられ、手袋状の被物をはめた表現とみられる。

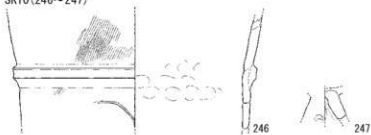
195～226は、衣装表現も含めて人物の胸から腰にかけての胴部破片を一括した。このうち195・198は、人物埴輪の器台部（円筒部）との接合部、196は、袈裟状衣などの上衣の端の部分、201は人物埴輪を支える器台部で、人物部を受けるため上端をやや内側に曲げたもの、197・199・202は上衣ないしは下衣部の破片とみられる。200は、胴部と下衣もしくは裳との接合部と考えたが、B種ヨコハケが入っており、疑問も残る。203～213・215は、裳ないしは下衣の部分で、横沈線が入る。214は、八字形に広がっていく部分に帯状の粘土を貼付したもので、腰に廻された帯状のものを示した可能性がある。216～221は、縦方向の2条沈線と横方向の緩やかな弧状沈線を組み合わせただけで、草摺を表現したものである可能性がある。224～226は、小さな方形を隔出したものである。

227～229は、両脚表現をもつ人物の脚部とみられるものである。227は、いわゆる盛装人物の太股部とみられる破片、228・229は膝より下位の部分であろう。

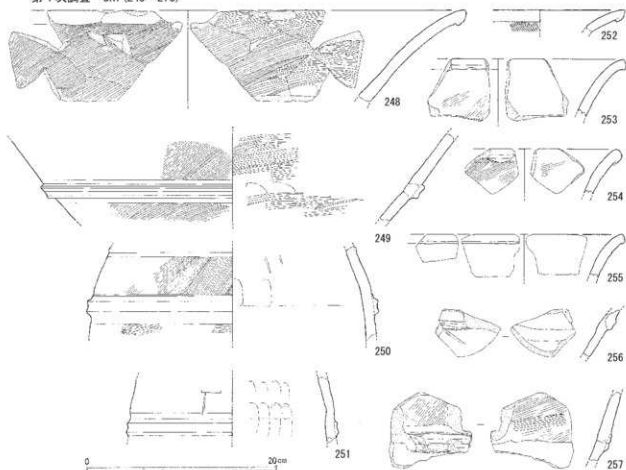
SD9 (237~245)



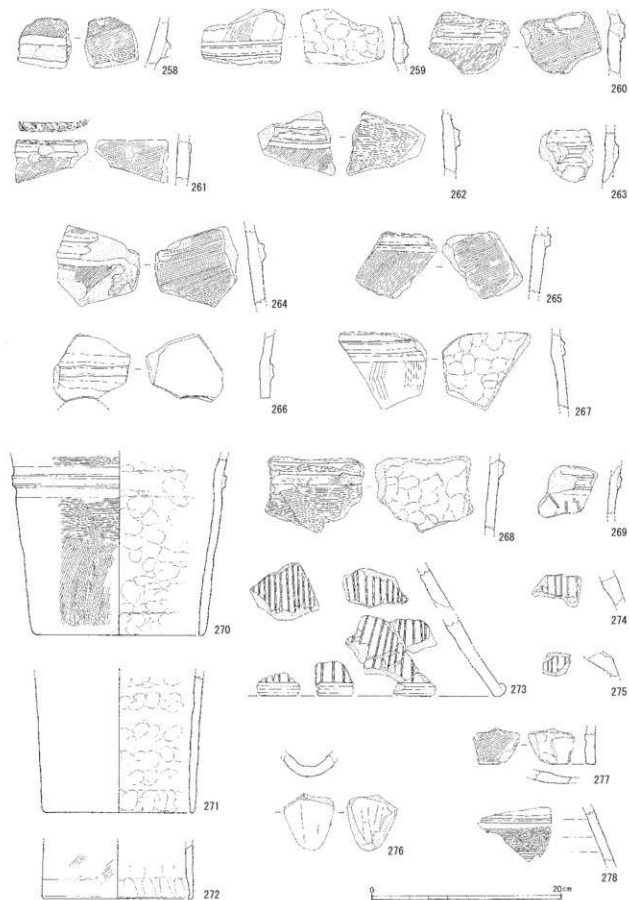
SK10 (246~247)



第1次調査 SK7 (248~278)



第Ⅲ-38図 深田遺跡(第2次)A区遺物実測図12(1:4)



第Ⅲ-39圖 深田遺跡(第2次)A区遺物実測圖13(1:4)



230は、人物埴輪が背負う鞆である。いわゆる奴鼠形の鞆で、切先を上にした鎧の明瞭な織を5本表現している。231は、人物埴輪がもつ弓の弓筈部分で、弓本体部には穂状の溝も残る。これらは、ともにいわゆる「軽武装の人物」を構成する付属品である。

**不明形象埴輪 (232~236)** いずれも形象埴輪の破片ではあるが、いまひとつ種類や部位を特定できないものを一括した。

このうち232は、天地不明だが図示した上部が生きており、胄や短甲の可能性もある。236は、薄手の破片で、女性人物の鬘の一部や、盛装人物の靴などの可能性があるが、確証はない。

## (2) 深田2号墳

### S D 9 出土遺物 (237~245)

円筒埴輪 (237~242)、朝顔形埴輪 (243)、須恵器杯蓋 (244)、土師器高杯 (245) がある。

円筒埴輪は、いずれもB種ヨコハケを施した1類で、下段が残る242では下段のヨコハケが省略されている。241ではBd種ヨコハケが顕著だが、237は右下がりの特徴があまり目立たず、Bb種に近い様相をとる。

朝顔形埴輪 (243) は、壺部口縁部の破片であるが、残りが悪く、調整は明瞭でない。

須恵器杯蓋 (244) は、天井部のほぼ全域にわたって回転ヘラケズリが施されるが、口縁部との境界の稜線は沈線化し、シャープさに欠ける。なお、前述のように本品はSK10の上部から出土しており、SK10に伴う遺物であった可能性がある。

土師器高杯 (245) は、脚部片で、裾広がりの脚柱形態をとる。

### S K 10 出土遺物 (246~247)

円筒埴輪 (246) と土師器高杯 (247) がある。円筒は1次調整のナナメハケだけの2類、高杯は脚部に円孔が穿たれている。

### 第1次調査SK7出土遺物 (248~278)

朝顔形埴輪 (248~265)、円筒埴輪 (266~272)、家形埴輪 (273~275)、不明形象埴輪 (276~277)、須恵器器台 (278) を図示した。

朝顔形埴輪は、250・251や259など、肩部の膨らみが非常に乏しい。257は、朝顔形埴輪に描定して

いるが、突帯中央に沈線が入っており、人物埴輪の帯の部分の可能性もある。260~265は、立直気味の器形は円筒埴輪を想起させるが、外面の突帯よりも下位まで内面のヨコハケ・ナナメハケが及んでおり、朝顔形埴輪になる可能性が高いと判断した。

円筒埴輪は、2号墳と異なって、良好な口縁部破片がない一方、底部破片に良好な破片がある。270~272は、いずれも底部先端が尖る下段部で、底部外面のタテハケが消失し、内面にユビオサエ痕が顕著ないわゆる畿内型底部調整の適応を示す。270や268では、Bd種ヨコハケが顕著に残る。269は、線刻の入った円筒埴輪とみたが、形象埴輪の可能性も残る。273~275は、家形埴輪の屋根破片である。軒先に向かってタテ沈線を充填する。隅部等の破片はないが、寄棟屋根だったとみられる。(穂積)

## 2. 深田遺跡(第2次、第Ⅲ-40~42区)

279~306はA区、307~342はB区、343~354はC区から出土した。ここでは概要を記し、詳細は遺構観察表を参照されたい<sup>19)</sup>。

### S D 3 出土遺物 (281)

山茶碗で、第5型式に比定される。

### S D 5 出土遺物 (288・289)

288は瀬戸美濃産端反碗の小片である。289は瀬戸美濃産陶胎染付の広東碗で、見込みに薄く五弁花の模様がみられる。

### S D 11 出土遺物 (282~284)

282は高杯、283は甕台部、284は中北勢系の羽釜片とみられる。

### S D 12 出土遺物 (290~292)

290は肥前産磁器の皿である。291は瀬戸美濃産磁器碗である。外面に青色と褐色の2種類の釉で絵付けしている。292は肥前産磁器皿である。

### S Z 14 出土遺物 (293~301)

293は土師器高杯、294・295は砥石である。296~298は山茶碗で、時期は概ね第6型式に比定される。299は南伊勢系鍋で第3段階b型式に相当するか。300は中北勢系羽釜、301は南伊勢系羽釜である。

### S D 15 出土遺物 (285~287)

285は古式土師器壺である。口縁部にキザミを施す。286は山茶碗で、第6型式に比定される。287は常滑産陶器甕の底部である。

**SA29出土遺物 (279)**

A26Pit 3 出土遺物で、土師器高杯の杯部である。

**A区包含層等出土遺物 (302~306)**

302は須恵器横瓶である。303は南伊勢系鍋で第3段階b型式に相当するか。304は茶釜の把手部分で、305は瀬戸美濃産播鉢である。306は排土からの出土で、円筒埴輪である。

**SD19出土遺物 (307)**

土師器高杯の脚部である。

**SD22出土遺物 (308・309)**

308は土師器高杯脚部、309は朝顔形埴輪の口縁部である。

**SR23出土遺物 (313)**

山茶碗で、第6型式に比定される。

**SD21出土遺物 (310~312)**

310・311は斎串である。いずれも上端部を丁寧に加工し、310は中央やや上部に切り込みが入る。312は軽石で、6面において擦痕が認められる。

**SZ16出土遺物 (314~340)**

314~326は古式土師器である。314・315は壺である。いずれも広口壺で314は口縁部に綾杉文、315は円形浮文を施す。316~322は甕である。316はS字甕A類古段階に属す。317は受口甕、318はくの字甕である。319~322は底部・台部で、平底、僅かに底が凹むもの、低脚の台部となるものなど多彩である。323~326は高杯である。326は長脚の様相を呈する。

327は朝顔形埴輪口縁部である。器壁が薄く、端部の横ナデが明瞭である。

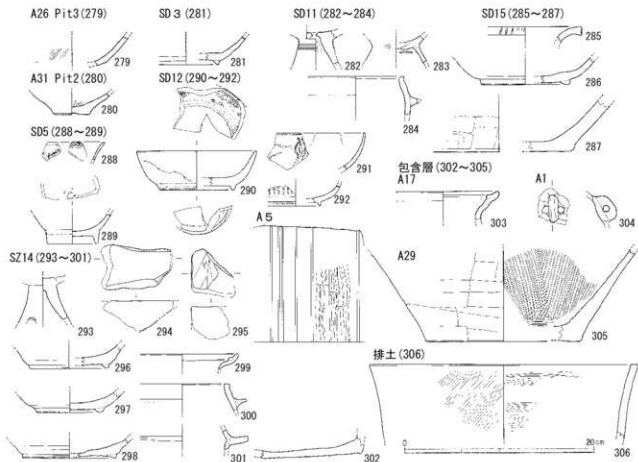
328~331は須恵器である。328は杯蓋、329は杯身、330は埴、331は高杯である。概ねTK217型式併行とみられる。

332・333は土師器で332は甕、333は鍋・瓶などの把手である。

334は平瓦で内面に布目痕がみられる。

335は土師器皿である。内面は工具でナデられている。336~338は山茶碗である。

339は軽石、340は砥石で、刃を砥いだ痕が残る。



第三-40図 深田遺跡(第2次) A区遺物実測図14(1:4)

**S R23出土遺物 (313)**

山茶碗である。第5型式に比定される。

**B区包含層出土遺物 (341・342)**

341は土師器壺あるいは甕底部、342は山茶碗で第6型式に比定される。底部外面に墨書がある。

**S D25出土遺物 (343)**

須恵器甕の肩部である。

**S Z26出土遺物 (346~352)**

346は須恵器杯壺、347は土師器甕である。348・349は山茶碗、350は陶器壺、351は捏鉢である。352は内外面がナゲ調整で、口縁部外面直下に突帯状のものを貼付けた痕跡がある。器種は不明である。

**S K27出土遺物 (344)**

砥石である。

**S R28出土遺物 (345)**

南伊勢系鍋である。口縁部を内側に折り返している。小形のもので第3段階に比定されるものであるうか。

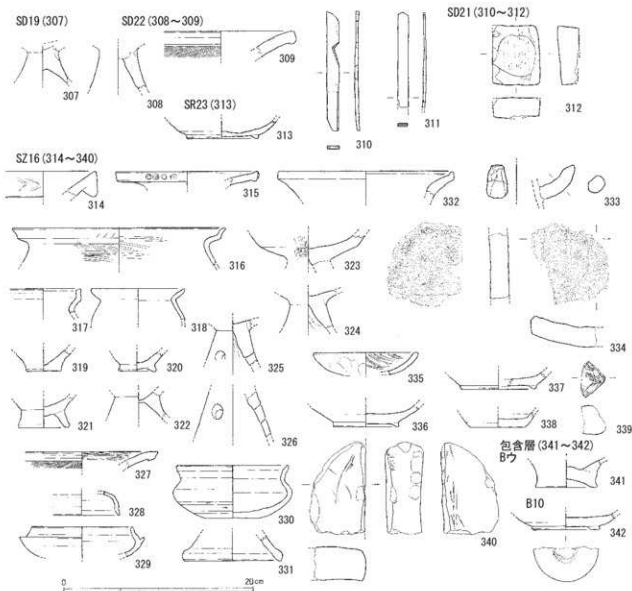
**C区包含層出土遺物 (353・354)**

353は陶器皿で、内外面に灰釉を施軸している。

354は中北勢系羽釜である。 (原田)

**3. 深田遺跡(第3次、第Ⅲ-43~46図)****S D30出土遺物 (355~357)**

355・356は土師器甕、357は土師器杯である。



第Ⅲ-41図 深田遺跡(第2次)B区遺物実測図(1:4)

### SD32出土遺物 (358~366)

358~360は土師器の壺底部である。361はS字甕で、B類古段階である。362~365は土師器の高杯である。365は杯部が直線的に開き、やや新しい傾向を示す。366は土師器甕体部である。

### SZ33出土遺物 (367~369)

367は土師器高杯で小さい円形透孔がある。368・369は須恵器杯蓋で、TK10型式併行である。

### SD37出土遺物 (370~381)

370~375は土師器壺である。375は粗製の小型壺である。376~379は土師器甕である。376は頸部が緩やかで口唇部に刻みをもつ。377はS字甕である。380・381は土師器高杯である。

### SK39出土遺物 (382~393)

382・383は弥生土器もしくは土師器壺である。383底部外面は木葉痕がつく。384~388は土師器甕である。384はミニチュア品である。385~388はS字甕で、A類に比定される。389・390は土師器高杯である。389は器壁が薄く、口縁部へ直線的に広がり、浅くなるものとみられる。390は残存部から透し孔が2段あるのがわかる。391はスサを含む不定形の粘土塊である。壁土であろうか。392・393は石製品である。393は2面において擦痕が認められる。

### SK40出土遺物 (394)

中北勢系土師器羽釜である。16世紀代であろうか。

### SK42出土遺物 (395)

不整形のもので胎土中にスサ・小石を一定量含む。壁土の一部であろうか。

### SD45出土遺物 (396)

砥石である。2面において砥いだ痕が認められる。

### SK47出土遺物 (397)

土師器高杯である。短脚で透し孔が認められず、裾部が広がるものである。

### SK48出土遺物 (398・399)

398は土師器壺底部、399は土師器甕口縁部である。頸部から口縁部にかけて直線的に広がり、口縁端部をつまみ上げたような形状となっている。丸底の底部をもつ甕になるであろう。

### SH53出土遺物 (400~402)

400・401は土師器壺である。401は底部外面に木葉痕がつく。402は土師器台付甕である。

### SD55出土遺物 (403)

弥生土器もしくは土師器の壺あるいは鉢の底部である。焼成後に3箇所穿孔している。

### SK57出土遺物 (404)

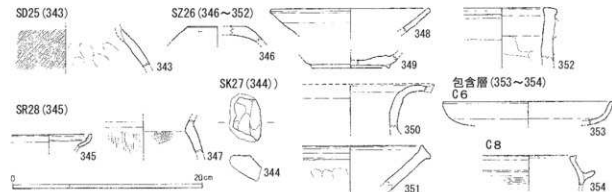
不整形でスサ等が認められる。395と同様の壁土だと思われる。

### SH58出土遺物 (405~408)

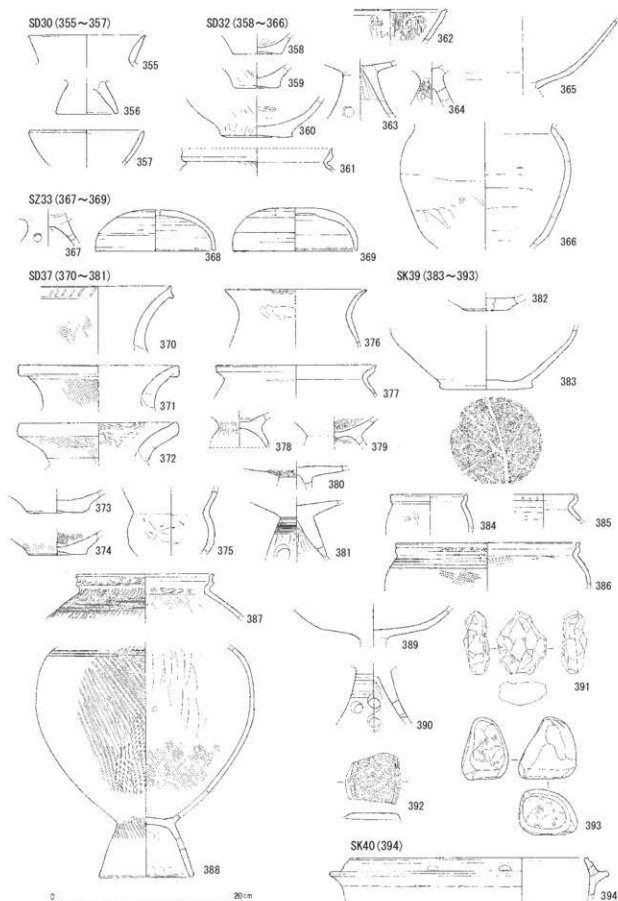
405・406は土師器甕口縁部、407は弥生土器もしくは土師器甕台部、408は須恵器短頸壺である。

### SH61出土遺物 (409~421)

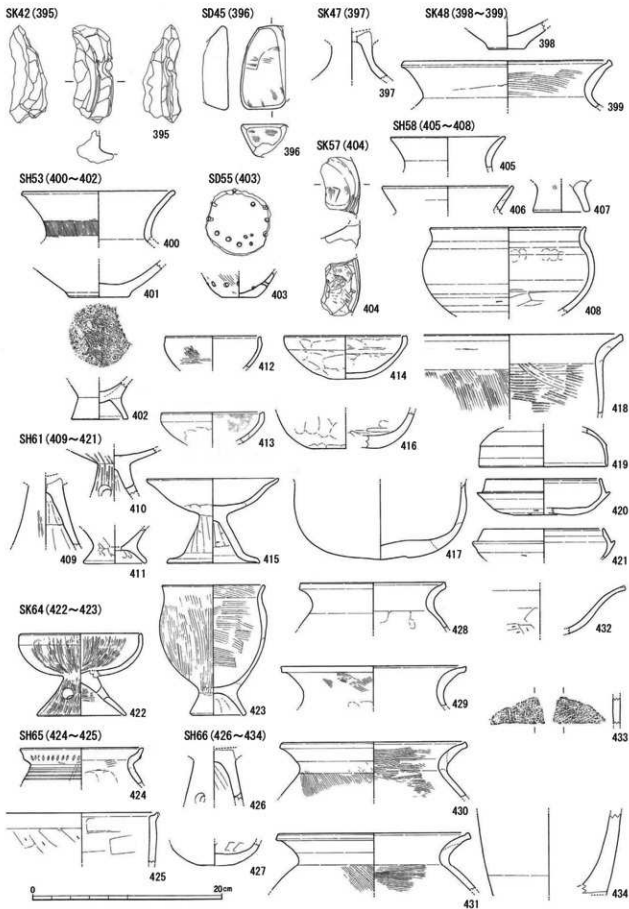
大きく弥生時代終末期~古墳時代初頭のもの(409~411)、古墳時代後期(412~421)のものに分けられる。409・410は土師器高杯である。411は土師器甕台部である。比較的器壁が薄く、器高の低い台部である。412~414は土師器杯である。口縁端部がやや内弯し、面をもつ。いずれもナデによる調整を基本とした粗製のものである。415は土師器高杯、418は土師器甕である。419は須恵器杯蓋、420・421は須恵器杯身である。概ねTK10型式併行か。



第三-42図 深田遺跡(第2次)C区遺物実測図(1:4)

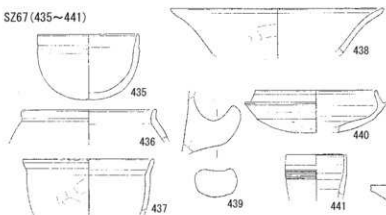


第三-43图 深田遺跡(第3次)D区遺物実測圖1(1:4)

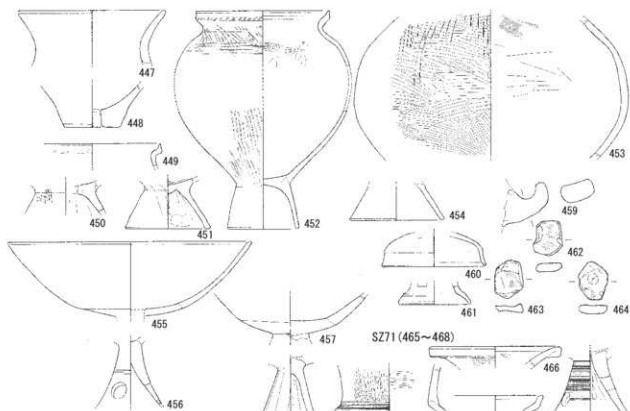


第三-44图 深田遺跡(第3次)D区遺物実測圖2(1:4)

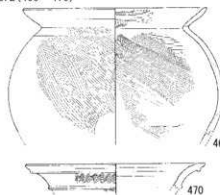
SZ67 (435~441)



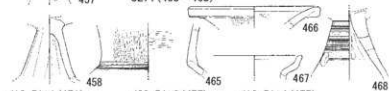
SH68 (442~464)



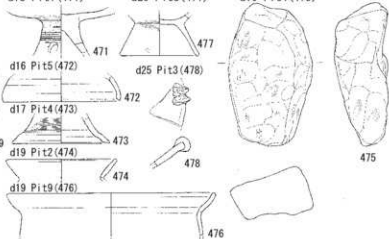
SZ72 (469~470)



SZ71 (465~468)



d13 Pit1 (471)      d20 Pit8 (477)      d19 Pit4 (475)



0 20cm

第三-45图 深田遺跡(第3次)D区遺物実測図3(1:4)

包含層 (479~520)

d31 9層



d29 10層



d40 10層



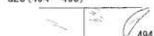
d14 (486~487)



d15 (488~489)



d23 (494~495)



d27 (505~519)



d51 14層



d39 34層



d20 (491~493)



d24 (496~498)



d25 (499~504)



0 20cm

第三-46圖 深田遺跡(第3次)D区遺物実測圖4(1:4)



#### S K64出土遺物 (422・423)

422は弥生土器椀形高杯、423は弥生土器の小型の台付甕である。

#### S H65出土遺物 (424・425)

424は弥生時代終末期～古墳時代初期の受口甕、425は古墳時代後期の甌口縁部とみられる。

#### S H66出土遺物 (426～434)

426は弥生土器高杯、427～431は土師器甕、433は韓式系土器である。甕は、頸部から口縁部にかけて外反し、端部をつまみ上げたような形状である。丸底の甕の口縁部と思われる。

#### S Z67出土遺物 (435～441)

435～439は土師器で、435・437は鉢、438は高杯、である。外反し端部をつまみ上げている。439は鍋の把手か。440・441は須恵器である。440は杯身でTK43型式併行である。

#### S H68出土遺物 (442～464)

442～447は土師器壺である。442はいわゆるヒサゴ壺で体部上半を貝殻刺突で施文している。443は口縁部外面に凹形浮文が2箇所ある。448は有孔鉢である。449～453は土師器甕である。452はS字甕A類、453は外面のハケ調整はS字甕と類似するが、器壁が厚く時期は下る。454～458は土師器高杯である。455は杯部が浅くなり、端部にかけて直線的に広がる形状から、廻間Ⅱ式後半～Ⅲ式併行に比定される。457・458は器壁が厚くなり、脚部で屈曲するものである。460は須恵器杯蓋である。462～464は、軽石である。いずれも扁平で463は部分的に擦痕が認められる。

#### S Z71出土遺物 (465～471)

465・466は土師器壺である。466は口縁端部を外側へ折りこみ、当地では普遍的でない手法である。467は土師器甕、468は土師器高杯脚部である。

#### S Z72出土遺物 (469・470)

469は土師器甕である。口縁部がやや内湾している。470は須恵器壺である。

#### D区Pit出土遺物 (471～476)

471は土師器高杯である。472は須恵器杯蓋でTK217型式併行である。473は短脚の須恵器高杯で外面はカキメが施されている。475は砥石である。477はS字甕の台部、478は土師器器台の可能性もあるが、口縁部上端を覆うような棒状浮文が付くこと、内面が直線的であることから、加飾壺の口縁部としておく。

#### D区包含層・範囲確認調査出土遺物 (479～520)

479は近世陶器皿である。480は山茶碗で、第6型式併行とみられる。481は灰輪陶器皿でK-14号窯式併行である。483は土師器片で、外面に同一施文具で直線と円弧を描いている。484は土師器有段口縁壺である。形状は柳ヶ坪型壺に近い。口縁部外面上段に波状文、頸部に櫛描直線文がある。487は土師器器台である。口縁部外面に綾杉文を施し、円形浮文が剥離したものも含め2箇所確認できる。489は高杯で、大きく反る形状から古墳時代中期～後期のものとみられる。492は須恵器杯身でTK209型式併行である。499は土師器加飾壺である。外面の突帯部分及び頸部内面を赤彩している。503は移動式竈の焚口付近とみられる。504は韓式系土器壺か。外面はタタキで調整し、突帯が1条つく。(原田)

## 第4節 小 結

### 1. 深田古墳群

#### (1) 遺構について

##### a 深田古墳群の把握

今回の調査は、調査区の幅が2mと狭かったため、古墳の形状や規模の想定については不確定要素が大きいことは否めない。しかし、埴輪を大量に含むSD8とSD9は、古墳周溝であった可能性が大きく、北接する昭和53年度深田遺跡第1次調査A区に対応する周溝が存在しなかったことから、これらはともに方墳の北周溝の一部と判断した。つまり、SD7・8で造出付方墳とみられる1号墳の北周溝と造出部、SD9とSK10で2号墳の北周溝と周溝内埋土土坑と推定した。

一方、これらの溝（=周溝）とは別に、昭和53年度深田遺跡第1次調査A区にも埴輪を含む古墳時代の溝と土坑がある。このうち、西側の昭和53年度深田遺跡SD2は形状的にも古墳周溝であった可能性が高く、これを3号墳として位置付ける。隅部は丸いものの、全体としてみた場合は方墳の北周溝が出ていると思われる。ただし、南側の平成30年度深田遺跡調査区には対応する溝が出ておらず、そこにかかる前に南周溝があったと判断される。この場合、3号墳は、一辺15m程度（周溝含む）の小さな方墳だったと推定される。

今回多数の埴輪を報告した昭和53年度深田遺跡SK7については、古墳周溝の可能性も考えたが、南側の調査区に対応する溝がなく、単独の土坑と判断した。

以上をまとめると、現時点の知見による限り、深田古墳群は、

1号墳：一辺20.4m（周溝含む）の造出付方墳

2号墳：一辺8m以上（内法）の方墳（周溝内埋土あり）

3号墳：一辺15m程度（周溝含む）の方墳という3基の方墳を中心に、土坑1基（昭和53年度深田遺跡SK7）で構成された古墳群だった。確認数は少ないものの、狭い範囲に比較的密集した状態で存在した古墳群とみてよからう。

ただし、平成30年度深田遺跡調査区の南側は未調

査であり、南側にさらに古墳が存在していた可能性は排除できない。さらに、深田古墳群から未調査部を挟んで90mほど南東側となる平成30年度深田遺跡SD22や、さらに南東側となる双ツ塚西方遺跡SZ2などでも、他の時代の遺物と混在する状況ではあるが、あまりローリングを受けていない円筒埴輪や朝顔形埴輪片が出土している。これらの出土遺構は、現時点では古墳周溝とは確定できないものの、周辺には古墳が存在した可能性は高いとみられる。

以上のことから、深田古墳群は、今回把握した部分以外にも、広範囲にわたって古墳が散在していた可能性があり、今後、隣接・周辺地の調査状況の進展を見守っていく必要がある。

##### b 深田古墳群の特徴

確認数こそ少ないものの、深田古墳群は、下記のような特徴を指摘することができる。

- ・群構成の開始は、5世紀末ないしは6世紀初頭前後
- ・いずれも小規模な方墳で構成されている
- ・1号墳では小さな突出部を伴う
- ・2号墳では埴輪棺とみられる周溝内埋土を伴う
- ・墳丘を伴わない単独土坑（埴輪棺の可能性もある）による埋葬と併存した可能性がある
- ・古墳群は、さらに南側に散在していた可能性がある
- ・形象を含む埴輪をもつ

以上の諸特徴を、これまで調査された鈴鹿市域及びその周辺の古墳群<sup>30)</sup>と比べると、群構成の中心を方墳が占める古墳群として、鈴鹿市寺谷古墳群と寺田山古墳群があり（ともに一部に円墳含む）、また群構成の一面が方墳で構成される古墳群（円墳主体の区域と方墳主体の区域がある）として、鈴鹿市保子古墳群と石薬師東古墳群がある。

墳丘を伴わない単独埋葬の埴輪棺は、保子古墳群と寺谷古墳群に類例があり、津市大里西沖遺跡<sup>31)</sup>でも円墳の近傍に土坑による埋葬事例がある。小さな突出部を伴う墳丘は、寺谷15号墳と石薬師東49号墳・56号墳が相当する。

このうち寺谷15号墳は、円墳である16号墳と周溝を共有しており、直ちに深田古墳群と対比すること

は躊躇されるが、石薬師東49号墳・56号墳が幅広いの周溝内に突出部が包含され、突出部形状に沿って周溝形状も屈折することはないが、寺谷15号墳では突出部形状に沿って周溝も屈折し、深田1号墳の周溝のあり方とも親和性がある。

深田古墳群の実態はまだ不明な部分が多いが、現況の資料による限り、寺谷古墳群と同じような階層構成をもつ古墳群であった可能性がある。

## (2) 遺物について

深田古墳群は墳丘が削平を受けていたため、出土遺物としては周溝から出土した埴輪と土器類が存在するだけである。

### a 深田古墳群出土の埴輪群の特徴

以下、出土遺物の主体を占める埴輪を中心に、深田古墳群出土遺物の特徴を抽出してみよう。

- ・円筒埴輪は2突帯3段構成で、いわゆる淡輪技法をもつ淡輪系の円筒埴輪は含まない
- ・一方で、円筒埴輪の底部に底部調整をもつものがある(昭和53年度調査SK7に顕著)
- ・円筒埴輪には、2次調整にB4種ヨコハケを施した1類と、2次調整を省略して1次調整のタテハケ(もしくはナナメハケ)のみを残す2類の2形態が認められる
- ・肩部の膨らみが退化した朝顔形埴輪をもつが、赤色かつ大型のものを含んでおり、これらは形象埴輪とも遜色しない大きさをもつ(⇒形象埴輪的な扱いであった可能性がある)
- ・円筒・朝顔形埴輪に赤彩を伴うものが多い
- ・形象埴輪には、家・馬・鶏・人物があり、明確な器財埴輪を含まない(概は人物埴輪に伴う附属品とみられる)
- ・人物埴輪は、明確な女性人物埴輪は未確認で、武装人物と顔に線刻による刺青表現をもつ男子(=馬曳人物?)など複数個体が存在し、両脚表現の2足歩行形態をとるいわゆる盛装男子が存在した可能性もある

このうち、男性人物中心の組成は、津市稲葉古墳群<sup>10)</sup>のあり方と共通し、形象埴輪の全体的な構成では石薬師東古墳群と親和性がある。特に、227などを両脚表現の盛装男子とみてよければ、鞆を背負う軽武装の男子の存在とあわせ、石薬師東古墳群の形

象埴輪とかなり親和性が高い。また、216などに典型的な線刻表現を、甲冑の草摺を模したものと解してよければ、津市藤谷窯の出土品<sup>11)</sup>と親和性をもつものといえる。

以上のように、深田古墳群出土の埴輪は、決して地域内で孤立的な存在ではなく、類例を鈴鹿市内あるいは三重県内の古墳群や埴輪窯に見出しうものといえよう。

### b 金沢川水系の埴輪需給

石薬師東古墳群と藤谷窯は、ともに淡輪系埴輪を基本的に含まず(石薬師東古墳群では一部に客体的に含まれる古墳はある)、在来系の円筒で占められることも深田古墳群と共通する。

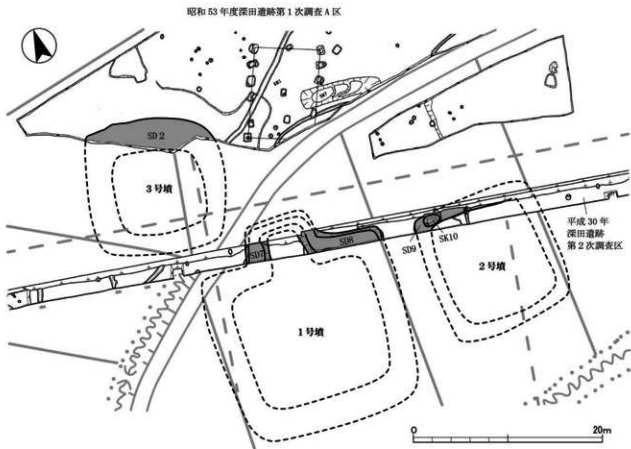
ただし、深田古墳群から東南側へ1.7kmと近く、同じ金沢川・田古知川水系の旧河曲郡海部郡にあたとみられる岸岡山古墳群では、深田古墳群では未確認の淡輪系埴輪の出土が知られており<sup>12)</sup>、深田古墳群とは埴輪群の構成が異なることは注意してよい。つまり、同じ地域内の近傍の古墳群ではあっても、埴輪供給は部内の統一的な需給関係はまだ未成立であり、古墳群ごとに(築造集団ごとに)埴輪供給の体制を個別に構築していたことが想定される。

### (3) 金沢川下流域沖積部の古墳

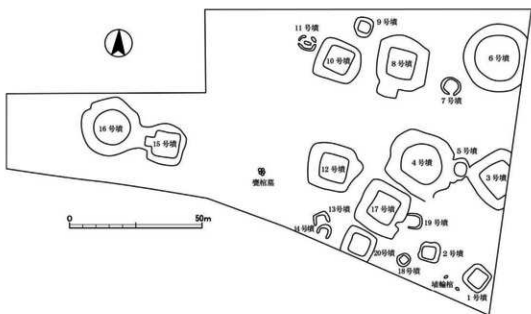
深田古墳群は、金沢川下流右岸の沖積地に所在する古墳群で、金沢川下流域右岸(支流の田古知川水系も含む)は他に塚越古墳群が知られている。また、古墳として把握するまでには至らなかったが、今回の深田遺跡の調査でも他に円筒埴輪片や朝顔形埴輪が出土した遺構や地点があり、双冢西方遺跡でも戦国期の遺物と混在する状況ながらSZ2から朝顔形埴輪や形象埴輪の可能性のある埴輪片、須臾器などが出土している。

このうち塚越古墳群は、金沢川遺跡と重複する古墳群で、1号墳と3号墳の2基が把握されているのだが、非常に疎らながら古墳群として把握することができるだろう。塚越3号墳は6世紀中葉頃やや時期が下がるが<sup>13)</sup>、1号墳は画文帯神獸鏡や振文鏡が出土した6世紀前後の古墳で、深田古墳群と相前後する時期の古墳である<sup>14)</sup>。

つまり、金沢川下流域の右岸部には、6世紀初頭前後を盛期とする小規模な古墳群が散在しながら存



第三-47図 深田古墳群の古墳想定復元



第三-48図 参考：寺谷古墳群の古墳配置  
 (鈴鹿市考古博物館2016年『企画展「鈴鹿の古墳Ⅰ-ちいさなちいさな古墳たち-」』を一部改)

在していたとみられる。金沢川の南側の岸岡山には、前方後円墳2基を盟主とする岸岡山古墳群があり<sup>10)</sup>、前述のように金沢川流域の古墳群とは埴輪の様相が若干異なる。同一地域といってよい地に併存するので、金沢川流域の古墳被葬者は基本的には岸岡山古墳群被葬者の膝下にあったとみられるが、造墓や埴輪導入などに関しては独自性を発揮した存在だったといえるであろう。(徳積)

## 2. 深田遺跡(第2次)

### (1) 遺構配置について

調査はA～C区に分けて実施した。いずれも幅の狭い調査区であるが、A・C区は東西、B区は南北に長い調査区となっており、コの字状の配置となる。

A区検出面は西が標高5.8m、東が5.5mである。検出面はSZ1で一旦5.5mまで下がるものの、その東の深田古墳群のエリアでは5.6～5.8mとなり、調査区東端のSZ14以东で5.5mとなる。

B区検出面は西が5.9m、東が5.3mで、遺構面は東へ徐々に下がり、SZ26で5.6mから5.1mまで下がる。SZ28以东で5.3mとなる。

A区東端とB区東端を南北に繋ぐC区の検出面は、北が5.5m、南が5.3mとなる。遺構面は、SZ16で4.85mまで下がる。

A区SZ1とB区SZ16の間の微高地では、古墳2基の他に古墳時代後期の溝SD13、鎌倉時代の溝SD3・6・11・15・17を確認した。SD15と17は調査区が異なるものの遺構配置や時期から同一の溝となる可能性が高い。溝の方位から、SD3と6、SD11と15・17はそれぞれ直交するとみられる。何らかの区画溝であった可能性が高いと考えられる。

B区SZ26より東側の微高地は、遺構が希薄で、標高が高いため、後世に削平されたと想定される。

比較的広い範囲で凹地となるSZ1・16は古代～中世の遺物を、SZ26は古墳時代初期～中世の遺物をそれぞれ包含しており、長い期間をかけて堆積していたことがわかる。SZ1・16・26などの凹地状部分は埋土から湿地状であったとみられる。中でもSZ16は、古代の溝とみられるSD18～21の堆積後に堆積している。SZ16最下層で細かい凹凸が確認でき、坪の可能性もある。SD18～21の堆積後には、生産域として利用された可能性が考えられる。

### (2) 斎串の出土について

B区SD21から斎串が2点出土した。斎串は、6世紀後半以降に出現し、8世紀後半に増加したもので、「神型な木」としての祭りの場の結果として地上などに挿して用いたとされる<sup>11)</sup>。

鈴鹿市内での斎串の出土は、国府町所在の三宅神社遺跡に続き2例目である。三宅神社遺跡は奈良時代後期～平安時代にかけてコの字型に配置された建物群や斎串の他、瓦や墨書土器も出土している。中でも奈良時代中期～平安時代初期の前期伊勢国府と判明している長者屋敷遺跡で出土した瓦と同文の瓦の出土から、移転先の後期伊勢国府である可能性が指摘されている<sup>12)</sup>。

SD21出土遺物は斎串、砥石の他は図示しうるものが無く、祭祀要素のある遺物は斎串に限られるが、金沢川遺跡第2次調査では円面硯や大型食器暗土師器などが出土しており、隣接する天王遺跡に関連する官衙域であった可能性を指摘している<sup>13)</sup>。

宮都や国府における祭祀の場として、境界は空間的象徴をあらわし、祭祀は時空間の境界の場で行われたという指摘があり、天王遺跡を中心とする官衙域の境界がSD21辺りであった可能性が考えられる<sup>14)</sup>。(原田)

### 3. 深田遺跡(第3次)

調査の結果、遺構面はSZ33とSZ71に挟まれた箇所が標高5.4～5.6mと微高地となり、深田遺跡(第2次)A区より若干低い程度である。微高地では、弥生時代終末～古墳時代初期の竪穴建物を7棟以上(SH41・51・53・58・65・75・76)、古墳時代後期の竪穴建物を2棟(SH61・66)確認した。弥生時代終末～古墳時代初期の竪穴建物は、調査区の北側に位置する昭和53年度深田遺跡第1次調査B区でも当該期の竪穴建物を5棟確認しており、今回の調査でさらに居住域の広がりが認められた<sup>15)</sup>。

また、古墳時代後期の竪穴建物については、今回の調査で新たに確認した。ただ、古墳時代初期とした竪穴建物の埋土や包含層にも古墳時代後期の遺物を一定量含むことから、当該期の居住域が古墳時代初期の居住域に重複し広がっていたと想定される。

建物の時期は概ね6世紀後半～末頃で、深田古墳群の築造時期より新しい段階に位置付けられる。た

だ、金沢川下流域の右岸部には、6世紀初頭前後を盛期とする小規模な古墳群が散在しながら存在して

いたとみられ、それらの古墳群を形成した集団の居住地域であったと推察される。(原田)

## 註

- (1) 三重県教育委員会1979『鈴鹿市東玉垣町 深田遺跡』『昭和53年度県営圃場整備地域埋蔵文化財調査報告2』
- (2) 前掲註(1)文献
- (3) 鈴鹿市教育委員会1980『鈴鹿市史』第一巻
- (4) 出土須恵器については、下記文献参照。田辺昭三1966『陶邑古窯址群Ⅰ』平安学園考古クラブ
- (5) 川西宏幸1978『円筒埴輪総論』『考古学雑誌』第64巻第2号
- (6) 以下、B種ヨコハケの細分は下記文献参照。一瀬和夫1988『古市古墳群における大型古墳埴輪集成』『大木川改修にともなう発掘調査概要・V 応神陵古墳外堤・I古室遺跡・Ⅲ』大阪府教育委員会
- (7) 前掲註(5)文献
- (8) 三重県埋蔵文化財センター2000『石薬師東古墳群・石薬師東遺跡』
- (9) 土器等の分類・編年については以下の文献による。弥生土器：上村安生2002『伊勢・伊賀地域』『弥生土器の様式と編年』東海編、木耳社  
古式土師器：愛知県埋蔵文化財センター1990『瀬間遺跡』  
古墳時代の土師器：三重県埋蔵文化財センター 2004『河曲の遺跡河田宮ノ北遺跡・宮ノ前遺跡・八重垣神社遺跡(第1～3次)発掘調査報告』  
古代の土師器：斎宮歴史博物館2001『斎宮跡発掘調査報告Ⅰ』  
須恵器：田辺昭三1966『陶邑古窯址群Ⅰ』平安 学園考古クラブ  
灰釉陶器：橋崎彰一1983『猿投窯の編年について』『愛知県古窯跡群分布調査報告』Ⅲ、愛知県教育委員会  
中世土器：伊藤裕偉1992『南伊勢系土師器の展開と中世土器工人』『研究紀要』第1号、三重県埋蔵文化財センター／伊藤裕偉1996『伊勢の中世煮沸用土器から東海を見る』『鍋と甕そのデザイン』第4回考古学フォーラム  
山茶碗：藤沢良祐1994『山茶碗研究の現状と課題』

- 『研究紀要』3、三重県埋蔵文化財センター
- 古瀬戸・瀬戸美濃大窯：藤沢良祐2002『瀬戸美濃大釜編年の再検討』『瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要』第10輯／藤沢良祐2005『施輪陶器生産技術の伝播』『中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～』(発表要旨集)／藤沢良祐2008『古瀬戸前期・中期・後期様式の編年』『中世瀬戸窯の研究』高志書院
- 常滑：中野晴久2005『瀬美・常滑』『中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～』(発表要旨集)
- (10) 以下、寺古古墳群や保子古墳群など鈴鹿市域の古墳群については、下記文献参照。鈴鹿市考古博物館2016『企画展「鈴鹿の古墳1ーちいさなちいさな古墳たちー」』
- (11) 三重県埋蔵文化財センター1994『大里西沖遺跡(2次)』
- (12) 津市埋蔵文化財センター2005『稲葉古墳群・鎌切古墳群発掘調査報告』
- (13) 津市埋蔵文化財センター2000『藤谷窯発掘調査報告』『津市埋蔵文化財センター年報』4
- (14) 鈴鹿市考古博物館1995『海の考古学』
- (15) 三重県教育委員会1978『鈴鹿市岸岡町 塚越3号墳』『昭和52年度県営圃場整備地域埋蔵文化財調査報告1』
- (16) 三重県埋蔵文化財センター1990『三重の古鏡』
- (17) 藤原秀樹2005『岸岡山古墳群』『三重県史料編考古1』三重県
- (18) 黒崎直1977『書串考』『古代研究』10、早稲田古代研究会
- (19) 鈴鹿市教育委員会他2001『天王山西遺跡 三宅神社遺跡 梅田遺跡』
- (20) 本報告書第Ⅳ章参照
- (21) 鬼塚久美子1995『古代の宮都・国府における祭祀の場ー境界性との関連についてー』『人文地理』第47巻第1号、人文地理学会
- (22) 前掲註(1)文献

調査 次数	調査区	遺構 番号	地区	性格	時代	長さ (m)	幅 (m)	深さ (m)	出土遺物	備考(前後関係、特徴等)
2	A	S21	A5~7	落ち込み	奈良~中世	—	27.00	0.16	土師器、山茶碗	
2	A	S22	A7~8	溝	不明	—	1.10	0.71	土師器	
2	A	S23	A9	溝	中世	—	2.10	0.88	土師器、山茶碗	
2	A	S24	A10	溝	不明	—	0.50	0.11	土師器	
2	A	S25	A12	溝	近代以降	—	0.44	0.14	陶器、瓦	
2	A	S26	A12・13	溝	中世	—	0.44	0.04	土師器、陶器	注瑠堂南側の道路側溝か
2	A	S27	A15	古墳内溝	古墳後期	—	2.60	0.28		深田1号墳内溝
2	A	S28	A16・17	古墳内溝	古墳後期	8.40	1.50*	0.43	円筒瓦輪・形象埴輪・酒器・土師器等	深田1号墳内溝
2	A	S29	A18~20	古墳内溝	古墳後期	10.00*	1.52	0.06	円筒瓦輪・酒器等	深田2号墳内溝
2	A	S210	A18	周溝内土坑	古墳後期	1.70	1.16	0.22		深田2号墳内溝(S20)内土坑
2	A	S211	A27	溝	中世	—	1.72	0.16	土師器、酒器、山茶碗	A27P11・A31P111~S211
2	A	S212	A29	溝	奈良	—	0.48	0.04	磁器	
2	A	S213	A29・30	溝	古墳後期	—	0.89~ 1.40	0.13	土師器、酒器	
2	A	S214	A30・31	落ち込み	中世以降か	—	7.00*	0.14	土師器、酒器、山茶碗、陶器	A31P111・S215~S214
2	A	S215	A31	溝	中世か	—	0.94	0.14	土師器、山茶碗、陶器	S214の下層で検出S217に繋がる可能性が高い
2	B	S216	B1~13	落ち込み	古代~中世	—	56.70	0.24	土師器、酒器、円筒瓦輪、山茶碗	S218~22・S216
2	B	S217	B7	溝	中世	—	1.65*	0.17	土師器、山茶碗	S216に繋がる可能性が高い
2	B	S218	B7	溝	古代か	—	0.37	0.05	なし	S218とB7P11の前後関係不明
2	B	S219	B8	溝	古代か	—	0.70	0.27	土師器	
2	B	S220	B9	溝	古代か	—	1.30	0.28	なし	
2	B	S221	B10	溝	古代~中世	—	1.44	0.33	酒器、土師器、山茶碗、香炉	S222~S221
2	B	S222	B10	溝	古墳後期	—	1.10	0.09	土師器、朝顔形埴輪、山茶碗	S222~S221溝は折れ曲がる。底溝のみ確認
2	B	S223	B14・15	自然道路	中世	—	2.60	0.31	山茶碗	
2	B	S224	B16	土坑	不明	0.88	0.88	0.25	なし	
2	C	S225	C8	溝	不明	—	0.37	0.14	なし	
2	C	S226	C10~19	落ち込み	古墳初期~中世	—	43.40	0.16	土師器、山茶碗、陶器	此周溝小田沢池小水田か、底溝が中心付近上
2	C	S227	C22	土坑	不明	0.78	0.60	0.19	礎石	
2	C	S228	C22・23	自然道路	古代	—	5.10	0.3	土師器	
2	A	SA229	A26・27	柱列	古墳後期か				土師器	柱間3m、2間分確認
3	D	S230	d2	溝	古墳初期~古墳後期	—	0.30	0.18	土師器	SK31~S230
3	D	SK31	d2	土坑	古墳初期~古墳前期	0.45*	0.35*	0.02	土師器	SK31~S230
3	D	S232	d3	溝	古墳前期~古墳後期	—	0.54	0.13	土師器	SK34~S232
3	D	S233	d3~5	落ち込み	弥生終末~奈良	—	7.50	0.52	弥生土器、土師器	SK35・36~S233
3	D	SK34	d3	土坑	古墳初期~古墳後期	0.80*	0.74*	0.13	土師器	SK34~S232
3	D	SK35	d3・4	土坑	古墳初期	0.70	0.56	0.10	土師器	SK35~S233
3	D	SK36	d4・5	土坑	古墳初期	1.13	1.10	0.39	土師器	SK36~S233
3	D	S237	d5	溝	古墳前期	—	0.54	0.17	土師器	
3	D	SK38								欠番
3	D	SK39	d7	土坑	弥生終末~古墳後期	1.14	0.95	0.42	弥生土器、土師器	
3	D	SK40	d9	土坑	中世	0.48*	0.40*	0.32	土師器	
3	D	SH11	d11	聖穴建物	古墳初期か	1.30*	0.70*	0.07	なし	SH11~SK42、一部聖穴溝あり
3	D	SK42	d11	土坑	古墳初期	0.60*	0.78	0.02	土師器、礎石か	SH11~SK42~S243
3	D	S243	d11・12	溝	古墳後期	—	0.34	0.11	土師器	SK42~S243
3	D	S244	d12	溝	不明	—	0.30	0.08	土師器	S245~S244
3	D	S245	d11・12	溝	古墳後期	—	0.33	0.18	土師器、礎石	S245~S244
3	D	SK46	d12	土坑	不明	0.88	0.32*	0.16	なし	
3	D	SK47	d13	土坑	奈良か	1.24*	0.52	0.05	土師器	SK50~SH49~SK47
3	D	SK48	d13	土坑	古墳後期~古代	0.37*	0.74	0.35	土師器	
3	D	SH49	d12・13	聖穴建物	古墳後期	4.60*	1.10	0.08	土師器、酒器	SK50・51~SH49~SK47
3	D	SK50	d13	土坑	不明	1.38*	1.18	0.05	土師器	S252~SK50~SH49
3	D	SK51	d13	土坑	不明	0.72	0.46*	0.06	土師器	SK51~SH49

第三-1表 深田古墳群・深田遺跡(第2・3次)遺構一覧表1

\*「+」付の数字は以上であることを表す

調査 次数	調査区	遺構 番号	地区	性格	時代	長さ (m)	幅 (m)	深さ (m)	出土遺物	備考(前後関係、特徴等)
3	D	S052	413・14	竪穴建物の 礎石遺構	不明	—	0.33	0.13	土師器	S052→S053の竪穴建物の東側築河溝の 可能性あり
3	D	S053	414	竪穴建物	弥生終末～古墳初期	2.10	2.10	0.07	弥生土器、土師器	S053→S054
3	D	S054	415	土坑	古墳前期～古墳後期	1.25	2.13	0.06	土師器	S053→S054
3	D	S055	415	竪穴建物の 礎石遺構	不明	—	0.18～ 0.55	0.10	土師器	S056に対応する西側築河溝の可能性あり
3	D	S056	415・16	竪穴建物の 礎石遺構	古墳初期～古墳後期	—	0.28	0.13	土師器	S055に対応する東側築河溝の可能性あり
3	D	S057	416	土坑	不明	0.35	0.68	0.05	土師器、瓦上か	
3	D	S058	416・17	竪穴建物	古墳後期か	5.30	2.10	0.08	土師器、須恵器	S059→S058、築河溝あり
3	D	S059	416	土坑	不明	1.50	0.52	0.02	土師器	S059→S058
3	D	S060	417	溝	古墳	—	0.18	0.05	土師器	
3	D	S061	418～20	竪穴建物	古墳後期か	2.90	2.10	0.07	土師器、須恵器	S065→S061
3	D	S062	418	溝	不明	—	0.14	0.05	土師器	竪穴建物の築河溝の可能性あり
3	D	S063	420	溝	不明	—	0.75	0.06	土師器	S065→S061→S063
3	D	S064	419	竪穴建物の 礎石遺構	古墳初期	0.58	0.40	0.36	土師器	S065の付属穴
3	D	S065	419	竪穴建物	古墳初期か	2.80	2.10	0.01	土師器	S065→S061西岸のみの確認、S064の付 属穴
3	D	S066	420～22	竪穴建物	古墳後期か	6.30	2.10	0.10	土師器、須恵器	
3	D	S267	421	不明遺構	古墳前期～古墳後期	1.68	1.20	0.06	土師器	
3	D	S068	422・23	竪穴建物	古墳初期か	5.30	1.90	0.29	土師器	最終埋没時期は古墳後期
3	D	S069	421	溝	古墳後期	—	0.20	0.10	土師器	L字状に曲がる
3	D	S070	422	竪穴建物の 礎石遺構	古墳初期	—	0.25	0.04	土師器	S066の築河溝か
3	D	S271	425～35	落ち込み	古墳初期～中世	—	54.00	0.78	なし	
3	D	S272	441・42	落ち込み	古墳初期～中世	—	2.90	0.42	土師器	
3	D	S073	445	溝	不明	—	1.16	0.13	土師器	
3	D	S074	448	土坑	古墳初期	1.70	1.26	0.24	土師器	
3	D	S075	413	竪穴建物か	不明	1.20	1.90	0.13	土師器	d130(13)北側築河溝、S052が東側 築河溝となる可能性あり。築河溝の み残るか。
3	D	S076	415・16	竪穴建物か	古墳初期～古墳後期	5.10	1.90	0.13	土師器	S055と築河溝の可能性、S055と築河溝 となる可能性あり。築河溝のみ残 るか。S076→S054

第三-2表 深田古墳群・深田遺跡(第2・3次)遺構一覧表2 \*「+」付の数字は以上であることを表す

報告 番号	調査 番号	種類	形状	地区	遺構 形状	総長 延長(m)	測量 (m)			技法・文様の特徴 説明	出土 遺物	構成	色調	特記事項
							口幅	幅	高さ					
1	014-05	築地盤	杯形	A15	02 直線	12	9.0	-	-	内:コトコナデ 外:コトコナデ・コトコナデ	表(→1.5mm の砂粒)	表	内:灰07/3 外:灰07/2,03/1	1号埴
2	014-02	築地盤	杯形	A15 17	03 直線	12.1	-	-	-	内:コトコナデ 外:コトコナデ・コトコナデ	表	表	灰07/0	1号埴,3号
3	014-04	築地盤	杯形	A15 17	03 直線	9.5	-	4.8	-	内:コトコナデ 外:コトコナデ・コトコナデ	表	表	灰07/0,03/0,03/0	1号埴,3号 1号埴,3号
4	014-03	築地盤	杯形	A17	03 直線	8.9	-	-	-	内:コトコナデ 外:コトコナデ・コトコナデ	表	表	灰03/0	1号埴,3号
5	017-04	築地盤	圓形	A17	03 直線	-	-	-	-	内:コトコナデ 外:コトコナデ・雑状土	表	表	内:灰07/0 外:03/0	1号埴
6	017-01	築地盤	盆	A15 17	03 直線	15.6	-	-	-	内:コトコナデ 外:コトコナデ・雑状土	表	表	灰07/0	1号埴,27・5 2号埴
7	014-01	築地盤	盆	A15 17	03 直線	-	-	-	-	内:コトコナデ 外:コトコナデ・コトコナデ	表	表	灰07/0	1号埴,6号
8	017-02	築地盤	盆	A16	03 直線	-	-	-	-	内:コトコナデ 外:コトコナデ	表	表	灰07/0	1号埴
9	014-01	築地盤	楕円形	A17	03 直線	-	-	-	-	内:コトコナデ 外:コトコナデ・雑状土	表(→1.5mm の砂粒)	表	03/0	1号埴
10	017-01	築地盤	楕円形	A16	03 直線	-	-	-	-	内:コトコナデ 外:コトコナデ・雑状土・赤土	表(→1.5mm の砂粒)	表	内:灰07/0 外:03/0,03/0	1号埴
11	014-01	築地盤	扇形	A16	03 直線	9.7	-	-	-	内:ナデ 外:コトコナデ・タタキ・肥土紅り打後 ナデ	表	表	灰07/0	1号埴自然跡
12	014-01	土師器	甕	A15 17	03 直線	-	-	-	-	内:マナシ・ヨコナデ 外:ハナマ	表(→1.5mm の砂粒)	-	12.5号(裏)07/0	1号埴,3号
13	014-04	土師器	甕	A15 17	03 直線	2.4	5.0	6.1	-	内:ナデ・ヨコナデ 外:ヨコナデ	表(→2.0mm の砂粒)	-	12.5号(表)07/0	1号埴,27・5 2号埴
14	014-02	土師器	高杯	A15 17	03 直線	-	-	-	-	内:調整不明 外:調整不明	表(→2.5mm の砂粒)	-	12.5号(裏)07/0	1号埴,40号 遺石,3号
15	014-03	土師器	高杯	A16	03 直線	-	-	-	-	内:シボリ・調整不明 外:調整不明	表(→1.5mm の砂粒)	-	12.5号(裏)07/0	1号埴
16	014-04	土師器	高杯	A16	03 直線	-	-	-	-	内:シボリ 外:調整不明	表(→1.5mm の砂粒)	-	07/0,03/0	1号埴
17	014-05	土師器	高杯口 甕	A17	03 直線	-	4.5	-	-	内:調整不明 外:調整不明	表(→2.5mm の砂粒) (→1.5mmの 砂粒付)	-	12.5号(裏)07/0	1号埴
18	014-05	土師器	甕	A17	03 直線	-	-	-	-	内:高ナデ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・調整不明	表(→2.0mm の砂粒)	-	12.5号(表)07/0	1号埴
19	014-03	土師器	高杯形	A16	03 直線	-	-	-	-	内:ナデ・調整不明 外:ハナマ	表(→2.5mm の砂粒)	-	調整後07/0	1号埴

第三-3表 深田古墳群・深田遺跡(第2次)遺物観察表1



報告 番号	調査 年度	種別	副種	地区	遺構 層位	副種 構成	遺量 (cm)			技法・文様の特徴 説明	粘土 層位	構成	色相	特記事項
							口径	底径	高さ					
20	018-02	土器類	蓋	A17	500	口縁 3.12	31.6	25.5 5.0	9.5	内・外ヤニ・ナツ、ヒヤメ 外・上ヤニ・ナツ・ヨコナツ	底(→1.0mm の砂粒)	-	12.51-407.0100/0	1号墳
21	008-01	磁器	円皿	A15-17	500	口縁 3.12	35.4	-	-	内・外ヤニ・ナツ・ヒヤメ 外・ナツ・ヒヤメ・突巻縁付打直ヨコナツ	底	-	407.010/0	1号墳、No.17 土器(1号1015)
22	043-01	磁器	円皿	A15-17	500	-	-	-	-	内・外ヤニ・ナツ・ヨコナツ 外・上ヤニ・ナツ・ヒヤメ・突巻縁付打直ヨコナツ	底	-	12.51-407.0100/0	1号墳、No.18 土器(1号1015)
23	002-01	磁器	円皿	A15	500	口縁 3.12	25.8	-	-	内・外ヤニ・ナツ・ヒヤメ 外・上ヤニ・ナツ・ヒヤメ	底	-	12.51-407.0107/0	1号墳、No.20 土器(1号1015)
24	032-02	磁器	円皿	A15-17	500	-	-	-	-	内・外ヤニ・ナツ・上蓋ナツ 外・ヒヤメ・突巻縁付打直ヨコナツ	底	-	12.51-407.0107/0	1号墳、No.20
25	041-01	磁器	円皿	A16-17	500	口縁 3.12	28.0	-	-	内・外ヤニ・ヨコナツ 外・上ヤニ・ナツ・ヒヤメ	底(→2.0mm の砂粒)	-	407.010/0	1号墳、No.19、2 土器
26	027-01	磁器	円皿	A13-17	500	口縁 3.12	28.0	-	-	内・外ヤニ・ナツ 外・上ヤニ・ナツ・ヒヤメ	底(→4.0mm の砂粒)	-	407.010/0	1号墳、No.22 土器
27	022-01	磁器	円皿	A13-17	500	口縁 3.12	35.8	-	-	内・外ヤニ・ナツ・ヒヤメ 外・ヒヤメ・突巻縁付打直ヨコナツ	底	-	407.010/0	1号墳、No.20 土器
28	021-01	磁器	円皿	A15-17	500	口縁 3.12	35.8	-	-	内・外ヤニ・ナツ・ヒヤメ 外・ヒヤメ・突巻縁付打直ヨコナツ	底	-	407.010/0	1号墳、No.20 土器(1号1015、 通孔1)
29	034-01	磁器	円皿	A15-17	500	口縁 3.12	31.8	-	-	内・外ヤニ・ナツ・ヒヤメ 外・ナツ・ヒヤメ・突巻縁付打直ヨコナツ	底	-	12.51-407.0107/0	1号墳、No.20 土器(1号1015)
30	023-01	磁器	円皿	A15-17	500	口縁 3.12	28.0	-	-	内・外ヤニ・ナツ・ヒヤメ 外・ヒヤメ・突巻縁付打直ヨコナツ	底	-	407.0107/0	1号墳、No.20
31	028-01	磁器	円皿	A15-17	500	口縁 3.12	27.4	-	-	内・外ヤニ・ナツ・ヒヤメ 外・ヒヤメ・突巻縁付打直ヨコナツ	底(→2.0mm の砂粒)外・上ヤニ・ナツ (赤色粒)	-	407.0107/0	1号墳、No.18 土器、通孔1
32	045-01	磁器	円皿	A17	500	口縁 3.12	26.0	-	-	内・外ヤニ・ヨコナツ 外・上ヤニ・ナツ・ヒヤメ	底(→2.0mm の砂粒)	-	12.51-407.0107/0	1号墳
33	031-01	磁器	円皿	A15	500	口縁 3.12	28.8	-	-	内・外ヤニ・ナツ・ヒヤメ 外・ヒヤメ・突巻縁付打直ヨコナツ	底	-	407.0107/0	1号墳、No.22 土器、通孔1
34	033-01	磁器	円皿	A15-17	500	口縁 3.12	30.2	-	-	内・外ヤニ・ナツ・上蓋ナツ 外・ヒヤメ・突巻縁付打直ヨコナツ	底	-	12.51-407.0107/0	1号墳、No.20 土器、通孔1
35	011-06	磁器	円皿	A15	500	口縁 3.12	35.0	-	-	内・外ヤニ 外・上ヤニ・ナツ・ヒヤメ	底(→3.0mm の砂粒)	-	内：407.0106/0外： 407.0107/0	1号墳、No.41
36	024-01	磁器	円皿	A15-17	500	口縁 3.12	32.4	-	-	内・外ヤニ・ナツ・ヨコナツ 外・上ヤニ・ナツ・ヒヤメ・突巻縁付打直ヨコナツ	底(→3.0mm の砂粒)	-	407.010/0	1号墳、No.15 土器
37	039-01	磁器	円皿	A15-17	500	口縁 3.12	31.8	-	-	内・外ヤニ 外・ナツ・ヒヤメ	底	-	407.0100/0	1号墳、No.40 土器(1号1015)
38	042-01	磁器	円皿	A16	500	口縁 3.12	28.0	-	-	内・外ヤニ・ヨコナツ 外・上ヤニ・ナツ・ヒヤメ	底(→2.0mm の砂粒)	-	12.51-407.0107/0	1号墳、赤色
39	036-01	磁器	円皿	A15-17	500	口縁 3.12	26.0	-	-	内・外ヤニ・ヨコナツ 外・上ヤニ・ナツ・ヒヤメ	底(→1.0mm の砂粒)	-	内：407.0106/0 外：407.0106/0	1号墳
40	035-01	磁器	円皿	A15-17	500	口縁 3.12	30.0	-	-	内・外ヤニ・ヒヤメ・ヨコナツ 外・上ヤニ・ナツ・ヒヤメ・突巻縁付打直ヨコナツ	底(→5.0mm の砂粒)	-	内：407.0107/0 外：12.51-407.0106/0	1号墳、No.23 土器
41	042-02	磁器	円皿	A15-17	500	-	-	-	-	内・外ヤニ・ヨコナツ 外・上ヤニ・ナツ・ヒヤメ・突巻縁付打直ヨコナツ	底(→2.0mm の砂粒)	-	407.0107/0	1号墳、No.20 土器、通孔1
42	050-02	磁器	円皿	A15	500	口縁 3.12	35.0	-	-	内・外ヤニ 外・ナツ・ヒヤメ	底(→3.0mm の砂粒)	-	407.0107/0	1号墳、No.43
43	056-03	磁器	円皿	A15	500	-	-	-	-	内・外ヤニ 外・ナツ・ヒヤメ	底	-	12.51-407.0107/0	1号墳、No.53
44	051-01	磁器	円皿	A15-17	500	-	-	-	-	内・外ヤニ 外・ナツ・ヒヤメ	底(→4.0mm の砂粒)	-	407.0107/0	1号墳、No.26
45	027-02	磁器	円皿	A16	500	-	-	-	-	内：調整不明 外：調整不明	底(→3.0mm の砂粒)	-	407.0106/0	1号墳
46	025-01	磁器	円皿	A15-17	500	-	-	-	-	内・外ヤニ・ナツ・ヒヤメ 外・ヒヤメ・突巻縁付打直ヨコナツ	底(→1.0mm の砂粒)	-	407.0107/0	1号墳、No.13
47	027-03	磁器	円皿	A15-17	500	-	-	-	-	内・外ヤニ・ナツ・ヒヤメ 外・ヒヤメ・突巻縁付打直ヨコナツ	底(→3.0mm の砂粒)	-	12.51-407.0107/0	1号墳、No.11
48	028-01	磁器	円皿	A15-17	500	-	-	-	-	内・外ヤニ・ナツ・ヒヤメ 外・ヒヤメ・突巻縁付打直ヨコナツ	底(→4.0mm の砂粒)	-	407.0100/0	1号墳、No.10
49	029-01	磁器	円皿	A15-17	500	-	-	-	-	内・外ヤニ・ナツ・調整 外・ヒヤメ・突巻縁付打直上下ナツ	底(→5.0mm の砂粒)	-	407.010/0	1号墳、No.30 土器
50	043-02	磁器	円皿	A15	500	口縁 3.12	35.0	-	-	内・外ヤニ 外・ヒヤメ・突巻縁付打直ヨコナツ	底(→2.0mm の砂粒)	-	12.51-407.0107/0	1号墳、No.30 土器
51	027-04	磁器	円皿	A17	500	-	-	-	-	内・外ヤニ・ナツ 外・ヒヤメ・突巻縁付打直ヨコナツ	底(→1.0mm の砂粒)	-	407.0106/0	1号墳
52	050-01	磁器	円皿	A15-17	500	-	-	-	-	内・外ヤニ・ナツ 外・ヒヤメ・突巻縁付打直ヨコナツ	底(→2.0mm の砂粒)	-	407.0106/0	1号墳、No.9 土器
53	037-01	磁器	円皿	A17	500	-	-	-	-	内・外ヤニ 外・ヒヤメ・突巻縁付打直ヨコナツ	底(→3.0mm の砂粒)	-	407.0106/0	1号墳
54	026-01	磁器	円皿	A17	500	-	-	-	-	内・外ヤニ 外・ヒヤメ・突巻縁付打直ヨコナツ	底(→2.0mm の砂粒)	-	内：407.0106/0 外：12.51-407.0106/0	1号墳、No.41
55	020-02	磁器	円皿	A15-17	500	-	-	-	-	内・外ヤニ・ヒヤメ 外・ヒヤメ・突巻縁付打直ヨコナツ	底(→3.0mm の砂粒)	-	内：407.0106/0 外：12.51-407.0106/0	1号墳、No.41
56	020-01	磁器	円皿	A15-17	500	-	-	-	-	内・外ヤニ・ヒヤメ 外・ヒヤメ・突巻縁付打直ヨコナツ	底(→3.0mm の砂粒)	-	内：407.0106/0 外：12.51-407.0106/0	1号墳、No.41
57	041-01	磁器	円皿	A16	500	-	-	-	-	内・外ヤニ・ナツ 外・ヒヤメ・突巻縁付打直ヨコナツ	底(→3.0mm の砂粒)	-	407.0106/0	1号墳、通孔1
58	026-03	磁器	円皿	A15	500	-	-	-	-	内・外ヤニ・ナツ 外・ヒヤメ・突巻縁付打直ヨコナツ	底(→3.0mm の砂粒)	-	407.010/0	1号墳、No.43
59	044-02	磁器	円皿	A17	500	-	-	-	-	内・外ヤニ・ナツ 外・ヒヤメ・突巻縁付打直ヨコナツ	底(→3.0mm の砂粒)	-	内：12.51-407.0107/0 外：12.51-407.0106/0	1号墳
60	037-02	磁器	円皿	A15	500	-	-	-	-	内・外ヤニ・ナツ 外・ヒヤメ・突巻縁付打直ヨコナツ	底(→1.0mm の砂粒)	-	407.0106/0	1号墳、No.42
61	043-03	磁器	円皿	A15-17	500	-	-	-	-	内・外ヤニ 外・ヒヤメ・突巻縁付打直ヨコナツ	底(→2.0mm の砂粒)	-	12.51-407.0107/0	1号墳
62	020-02	磁器	円皿	A15-17	500	-	-	-	-	内・外ヤニ・ナツ 外・ヒヤメ・突巻縁付打直上下ナツ	底(→1.0mm の砂粒)	-	407.0107/0	1号墳、No.23 土器
63	040-02	磁器	円皿	A15-17	500	-	-	-	-	内・外ヤニ・ナツ 外・ヒヤメ・突巻縁付打直ヨコナツ	底	-	12.51-407.0107/0	1号墳、No.30 土器(1号1015)
64	030-02	磁器	円皿	A15-17	500	-	-	-	-	内：調整不明 外：調整不明	底(→3.0mm の砂粒)	-	407.0107/0	1号墳、No.17 土器

第三-4表 深田古墳群・深田遺跡(第2次)遺物観察表2

報告 番号	発掘 番号	種類	副種	地区	遺構 層位	副種 残存数	遺長 (cm)			技法・文様の特徴 説明	出土 層位	構成	色調	特記事項
							口径	底径	高さ					
65	029-03	埴輪	円筒	A15-17	500	-	-	-	内:調整不明 外:ハナメ・雲巻廻り打付線ヨコナデ	底1~2, 500m の破断点、赤色 粘土	赤	浅黄緑01008/4	1号埴, 3x13	
66	030-02	埴輪	円筒	A15-17	500	-	-	-	内:オオネ・ナデ 外:ハナメ・ハナメ	赤	赤	浅黄緑01008/3	1号埴, 3x17	
67	029-04	埴輪	円筒	A17	500	-	-	-	内:オオネ 外:ハナメ・雲巻廻り打付線ヨコナデ	底1~1, 500m の破断点	赤	内: 紺丁 01006/6 外: 浅黄緑01008/6	1号埴, 3x11	
68	040-04	埴輪	円筒	A15-17	500	-	-	-	内:オオネ・ナデ 外:ハナメ・雲巻廻り打付線ヨコナデ	赤	紺0107/6	1号埴, 3x10		
69	051-02	埴輪	円筒	A15-17	500	-	-	-	内:ナデ 外:ハナメ・雲巻廻り打付線ヨコナデ	底1~2, 500m の破断点	赤	12.51-黄緑0107/1	1号埴0107下 赤目(10101) 1号	
70	820-05	埴輪	円筒	A17	500	-	-	-	内:オオネ 外:ハナメ・雲巻廻り打付線ヨコナデ	底1~1, 500m の破断点	赤	内: 紺丁 0102/6 外: 浅黄緑01008/4	1号埴, 3x11	
71	025-03	埴輪	円筒	A15-17	500	-	-	-	内:調整不明 外:調整不明	底1~1, 500m の破断点	赤	黄緑01 0107/4	1号埴, 3x13	
72	025-02	埴輪	円筒	A16	500	-	-	-	内:調整不明 外:調整不明	赤	赤	浅黄緑01008/1	1号埴, 3x12	
73	030-03	埴輪	円筒	A15-17	500	-	-	-	内:調整不明 外:ハナメ・雲巻廻り打付線ナデ	底1~3, 500m の破断点	赤	相黄緑01007/6	1号埴, 3x13	
74	019-06	埴輪	円筒	A15	500	-	-	-	内:オオネ 外:ハナメ・雲巻廻り打付線ヨコナデ	底1~2, 500m の破断点	赤	紺01 0106/6	1号埴, 3x11	
75	036-02	埴輪	円筒	A15-17	500	-	-	-	内:オオネ 外:ハナメ・雲巻廻り打付線ヨコナデ	底1~5, 500m の破断点	赤	内: 12.51-黄緑0107/4 外: 紺丁 0106/4	1号埴3x11・3 1号	
76	030-04	埴輪	円筒	A15-17	500	底径 3.12	-	15	内:オオネ・ナデ 外:ハナメ・ナデ	底1~2, 500m の破断点	赤	紺0106/6	1号埴, 3x13 2.4 底径調整 溝内径)	
77	051-04	埴輪	円筒	A15-17	500	底径 3.12	-	-	内:ナデ 外:ハナメ	底1~2, 500m の破断点	赤	紺01 0106/6	1号埴, 3x10	
78	038-02	埴輪	円筒	A15-17	500	底径 3.12	-	-	内:オオネ 外:ハナメ・ナデ	底1~1, 500m の破断点	赤	12.51-紺01 0106/1	1号埴0107下	
79	051-03	埴輪	円筒	A15-17	500	底径 3.12	-	-	内:オオネ 外:ハナメ	赤	相黄緑01006/6	1号埴, 3x10		
80	041-03	埴輪	円筒	A17	500	底径 3.12	-	-	内:オオネ 外:ハナメ	底1~2, 500m の破断点	赤	12.51-紺01 0106/1	1号埴	
81	035-03	埴輪	円筒	A16	500	底径 3.12	-	-	内:オオネ 外:オオネ・調整不明	底1~1, 500m の破断点	赤	相黄緑01006/6	1号埴	
82	035-04	埴輪	円筒	A15-17	500	底径 3.12	-	-	内:オオネ 外:オオネ・調整不明	底1~2, 500m の破断点	赤	12.51-黄緑0107/1	1号埴, 3x11	
83	041-04	埴輪	楕円筒	A17	500	口縁 3.12	-	-	内:ハナメ 外:オオネ・調整不明	赤	赤	浅黄緑01008/3	1号埴	
84	048-03	埴輪	楕円筒	A16	500	-	-	-	内:ハナメ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ヨコナデ	底1~1, 500m の破断点	赤	相黄緑0107/6	1号埴	
85	045-07	埴輪	楕円筒	A15-17	500	口縁 3.12	-	-	内:ハナメ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ハナメ	赤	赤	浅黄緑 01008/4	1号埴, 3x10	
86	045-06	埴輪	楕円筒	A15-17	500	口縁 3.12	-	-	内:ハナメ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ハナメ	赤	紺0107/6	1号埴, 3x12		
87	048-06	埴輪	楕円筒	A15-17	500	口縁 3.12	-	-	内:ヨコナデ 外:ヨコナデ・ハナメ	底1~1, 500m の破断点、赤色 粘土	赤	紺0106/6	1号埴, 3x10	
88	045-02	埴輪	楕円筒	A17	500	口縁 3.12	-	-	内:ハナメ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ハナメ	赤	浅黄緑01008/4	1号埴		
89	045-03	埴輪	楕円筒	A17	500	口縁 3.12	-	-	内:ハナメ・ヨコナデ 外:ヨコナデ	赤	浅黄緑 0108/4	1号埴		
90	049-01	埴輪	楕円筒	A15-17	500	口縁 3.12	-	-	内:ヨコナデ 外:ヨコナデ・ハナメ	底1~1, 500m の破断点、赤色 粘土	赤	紺0107/6	1号埴3x17下	
91	048-05	埴輪	楕円筒	A17	500	口縁 3.12	-	-	内:ハナメ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ハナメ	底1~1, 500m の破断点、赤色 粘土	赤	紺0106/6	1号埴	
92	049-03	埴輪	楕円筒	A15-17	500	口縁 3.12	-	-	内:オオネ 外:ヨコナデ・ハナメ	底1~2, 500m の破断点、赤色 粘土	赤	12.51-紺01 0107/6	1号埴3x12下 赤目(10101) 0105.01	
93	049-02	埴輪	楕円筒	A15-17	500	口縁 3.12	-	-	内:ヨコナデ 外:ヨコナデ	底1~1, 500m の破断点、赤色 粘土	赤	紺0107/6	1号埴, 3x10	
94	045-04	埴輪	楕円筒	A15-17	500	口縁 3.12	-	-	内:ハナメ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ハナメ	赤	紺0107/6	1号埴, 3x10		
95	048-04	埴輪	楕円筒	A17	500	口縁 3.12	-	-	内:ハナメ・ヨコナデ 外:ヨコナデ	底1~2, 500m の破断点	赤	紺0107/6	1号埴	
96	045-05	埴輪	楕円筒	A15-17	500	口縁 3.12	-	-	内:ヨコナデ 外:ヨコナデ	赤	紺01 0107/6	1号埴0107下		
97	052-03	埴輪	楕円筒	A15-17	500	-	-	-	内:ハナメ 外:ハナメ・雲巻廻り打付線ナデ	底1~3, 500m の破断点	赤	紺01 0106/6	1号埴, 3x10	
98	0919-02	埴輪	楕円筒	A15-17	500	口縁 3.12	37.0	-	内:オオネ・ナデ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ハナメ・雲巻廻り打付線ヨコナデ	赤	赤	浅黄緑01008/3	1号埴, 3x10・ 80下・82赤目	
99	046-01	埴輪	楕円筒	A15-17	500	-	-	-	内:ハナメ 外:ハナメ・雲巻廻り打付線ナデ	底1~3, 500m の破断点	赤	紺01 0106/6	1号埴, 3x13 赤目(10101) 0105.01	
100	054-01	埴輪	楕円筒	A15-17	500	-	-	-	内:ハナメ・ナデ 外:ハナメ・ナデ	底1~3, 500m の破断点	赤	12.51-黄緑0107/1	1号埴, 3x10.5	
101	052-04	埴輪	楕円筒	A17	500	-	-	-	内:ハナメ 外:ハナメ	底1~3, 500m の破断点	赤	12.51-黄緑0107/1	1号埴	
102	054-03	埴輪	楕円筒	A15-17	500	-	-	-	内:ハナメ 外:ハナメ	底1~2, 500m の破断点	赤	12.51-黄緑0107/1	1号埴, 3x10	
103	053-03	埴輪	楕円筒	A15-17	500	-	-	-	内:ハナメ・ナデ 外:ハナメ	底1~1, 500m の破断点	赤	12.51-黄緑0107/1	1号埴, 3x10	
104	046-02	埴輪	楕円筒	A15-17	500	-	-	-	内:ハナメ 外:ハナメ・雲巻廻り打付線ナデ	底1~1, 500m の破断点	赤	紺0107/6	1号埴, 3x13	
105	052-06	埴輪	楕円筒	A16	500	-	-	-	内:ヨコナデ 外:ヨコナデ	赤	相黄緑01007/6	1号埴		
106	052-02	埴輪	楕円筒	A15-17	500	-	-	-	内:ナデ 外:オオネ・打付線ナデ	底1~2, 500m の破断点	赤	相黄緑01007/6	1号埴, 3x13赤 目	
107	047-05	埴輪	楕円筒	A15-17	500	-	-	-	内:オオネ・ナデ 外:オオネ・ナデ	底1~2, 500m の破断点	赤	紺01 0106/6	1号埴, 3x13赤 目	
108	044-04	埴輪	楕円筒	A15-17	500	-	-	-	内:調整不明 外:調整不明	底1~2, 500m の破断点	赤	紺0107/6	1号埴, 3x13	
109	046-02	埴輪	楕円筒	A16	500	-	-	-	内:ナデ 外:調整不明	底1~2, 500m の破断点	赤	紺01 0107/6	1号埴	
110	052-05	埴輪	楕円筒	A15-17	500	-	-	-	内:ナデ 外:ハナメ・雲巻廻り打付線ナデ	底1~3, 500m の破断点	赤	相黄緑01007/6	1号埴, 3x10	
111	053-02	埴輪	楕円筒	A16	500	-	-	-	内:ハナメ 外:調整不明	底1~2, 500m の破断点	赤	相黄緑01007/6	1号埴	

第三-5表 深田古墳群・深田遺跡(第2次)遺物観察表3

報告 番号	発掘 番号	種類	副種	地区	遺構 層位	副種 残存度	法量 (cm)			技法・文様の特徴 説明	加工 痕跡	構成	色調	特記事項
							口径	直径	高さ					
111	048-01	磁輪	磁胎器	A15-17	500	-	-	-	-	内:オオシ 外:ハタメ	底(→1.0mm の砂粒)	黒	緑2.0327/6	1号埴 36.53, 赤土(105.61) (105.62)
113	054-02	磁輪	磁胎器	A15-17	500	-	-	-	-	内:ナツ 外:常盤足打付輪ナツ	黒	赤黒1.0302/6	1号埴 36.30	
114	047-01	磁輪	磁胎器	A15-17	500	-	-	-	-	内:オオシ・ナツ 外:ハタメ・常盤足打付輪ナツ	底(→2.0mm の砂粒)	黒	浅黄2.0308/6	1号埴 36.30・3 2
115	046-03	磁輪	磁胎器	A15-17	500	-	-	-	-	内:オオシ・ナツ 外:ハタメ・常盤足打付輪ナツ	底(→4.0mm の砂粒)	黒	1号埴 36.30 赤土	
118	047-02	磁輪	磁胎器	A15-17	500	-	-	-	-	内:オオシ・ナツ 外:ハタメ・常盤足打付輪ナツ	底(→1.7.0mm の砂粒)	黒	緑2.0327/6	1号埴 36.30 赤土(105.61)
119	051-05	磁輪	磁胎器	A15-17	500	-	-	-	-	内:オオシ・ナツ 外:ハタメ・常盤足打付輪ナツ	底(→2.0.0mm の砂粒)	黒	浅黄2.0317/4	1号埴 36.7
119	065-03	磁輪	窯	A17	500	-	-	-	-	内:工高ナツ 外:ハタメ	黒	12.54-黄緑0.0321/4	1号埴	
120	065-04	磁輪	窯	A15-17	500	-	-	-	-	内:オオシ 外:工高ナツ・ハタメ	黒	赤黒1.0302/6	1号埴 36.61	
121	064-01	磁輪	窯	A15-17	500	-	-	-	-	内:調整不明 外:ハタメ	黒	緑2.0327/6	1号埴	
122	064-03	磁輪	窯	A15-17	500	-	-	-	-	内:ナツ 外:ハタメ・沈線	黒	緑2.0327/6	1号埴 36.63	
123	063-05	磁輪	窯	A15-17	500	-	-	-	-	内:ナツ 外:ハタメ・沈線	黒	12.54-黄緑0.0327/4	1号埴 36.54	
124	063-06	磁輪	窯	A17	500	-	-	-	-	内:ナツ 外:ハタメ	黒	12.54-黄緑0.0327/4	1号埴 36.63	
125	064-02	磁輪	窯	A17	500	-	-	-	-	内:工高ナツ 外:ナツ・沈線・ハタメ	黒	12.54-黄緑0.0327/4	1号埴	
126	063-02	磁輪	窯	A17	500	-	-	-	-	内:ナツ・ヨコナツ 外:足打付輪ナツ・ハタメ	黒	12.54-黄緑0.0327/4	1号埴	
127	063-03	磁輪	窯	A15-17	500	-	-	-	-	内:ナツ・ヨコナツ 外:足打付輪ナツ・ハタメ	黒	緑2.0306/6	1号埴 36.37・4 5	
129	063-03	磁輪	窯	A15-17	500	-	-	-	-	内:ナツ 外:ハタメ	黒	12.54-黄緑0.0327/4	1号埴 36.61	
129	057-05	磁輪	窯	A15-17	500	-	-	-	-	内:ナツ 外:ハタメ	黒	緑0.0327/6	1号埴 36.60	
130	054-04	磁輪	窯	A15-17	500	-	-	-	-	内:ナツ 外:ナツ・ハタメ・足打付輪ナツ	黒	赤黒1.0302/6	1号埴 36.30	
131	064-04	磁輪	窯	A58	500	-	-	-	-	内:ハタメ 外:ハタメ	黒	赤 12.54-黄緑0.0327/4 内: 緑2.0327/6	1号埴	
132	056-01	磁輪	窯	A17	500	-	-	-	-	内:オオシ・ナツ 外:ハタメ・常盤足打付輪ナツ	黒	緑0.0327/6	1号埴	
133	062-04	磁輪	窯	A17	500	-	-	-	-	内:ナツ 外:ハタメ	黒	12.54-黄緑0.0327/4	1号埴	
134	065-03	磁輪	窯	A17	500	-	-	-	-	内:工高ナツ 外:ハタメ	黒	12.54-黄緑0.0327/4	1号埴	
135	067-03	磁輪	窯	A17	500	-	-	-	-	内:オオシ・ナツ・ハタメ 外:ハタメ・足打付輪ナツ	黒	内 12.54-黄緑0.0327/4 外: 緑2.0327/6	1号埴赤土	
136	070-02	磁輪	窯	A17	500	-	-	-	-	内:オオシ・ハタメ 外:ハタメ・足打付輪ナツ	黒	12.54-黄緑0.0327/4	1号埴	
137	056-04	磁輪	窯	A15-17	500	-	-	-	-	内:オオシ・ハタメ 外:ハタメ・常盤足打付輪ナツ	黒	緑0.0327/6	1号埴 36.62	
138	040-04	磁輪	窯	A15-17	500	-	-	-	-	内:オオシ・ナツ 外:オオシ・常盤足打付輪ナツ	黒	浅黄1.0308/3	1号埴 36.63	
139	056-05	磁輪	窯	A17	500	-	-	-	-	内:オオシ・ナツ 外:オオシ・ナツ	黒	緑0.0326/6	1号埴	
140	052-03	磁輪	窯	A17	500	-	-	-	-	内:オオシ・ナツ 外:ハタメ・常盤足打付輪ナツ	底(→3.0mm の砂粒)	黒	赤黒1.0302/6	1号埴
141	056-04	磁輪	窯	A17	500	-	-	-	-	内:オオシ・ナツ 外:ナツ・ハタメ	黒	緑0.0326/6	1号埴	
142	055-04	磁輪	窯	A17	500	-	-	-	-	内:ナツ 外:ハタメ・常盤足打付輪ナツ	黒	浅黄2.0308/3	1号埴 赤土	
143	063-01	磁輪	窯	A15-17	500	-	-	-	-	内:オオシ・ナツ 外:ハタメ・足打付輪ナツ・オオシ・ナツ	底(→3.0mm の砂粒)	黒	緑2.0306/6	1号埴 36.29
144	073-03	磁輪	窯	A15-17	500	-	-	-	-	内:ナツ・オオシ 外:ハタメ・ナツ	底(→2.0mm の砂粒)	黒	12.54-黄緑0.0327/3	1号埴 36.30
145	060-03	磁輪	窯	A17	500	-	-	-	-	内:調整不明 外:足打付輪ナツ	黒	緑0.0326/6	1号埴	
146	053-02	磁輪	窯	A17	500	-	-	-	-	内:ナツ 外:ハタメ・常盤足打付輪ナツ	黒	緑0.0327/6	1号埴	
147	059-04	磁輪	窯	A15-17	500	-	-	-	-	内:ハタメ 外:ハタメ	底(→1.3mm の砂粒)	黒	緑2.0306/6	1号埴 36.07
148	082-01	磁輪	窯	A15-17	500	-	-	-	-	内:オオシ 外:ナツ・ハタメ	底(→1.0mm の砂粒)	黒	緑2.0306/6	1号埴 36.23・2 8
148	059-03	磁輪	窯	A15-17	500	-	-	-	-	内:ハタメ・ヨコナツ 外:ナツ・ハタメ	底(→2.0mm の砂粒)	黒	緑0.0326/6	1号埴 36.36
150	060-02	磁輪	窯	A15-17	500	-	-	-	-	内:調整不明 外:オオシ・ナツ	底(→1.5mm の砂粒)	黒	緑0.0326/6	1号埴 36.52
151	060-01	磁輪	窯	A17	500	-	-	-	-	内:調整不明 外:オオシ・ナツ	底(→1.5mm の砂粒)	黒	緑0.0326/6	1号埴
152	062-03	磁輪	窯	A15-17	500	-	-	-	-	内:調整不明 外:調整不明	底(→2.0mm の砂粒)	黒	緑0.0326/6	1号埴 36.63
153	061-02	磁輪	窯	A17	500	-	-	-	-	内:オオシ・ナツ 外:足打付輪ナツ・ハタメ	底(→2.0mm の砂粒)	黒	緑0.0326/6	1号埴
154	082-02	磁輪	窯	A17	500	-	-	-	-	内:ナツ 外:ハタメ・足打付輪ナツ	底(→2.0mm の砂粒)	黒	赤黒1.0302/6	1号埴 赤土
155	059-02	磁輪	窯	A15-17	500	-	-	-	-	内:ナツ 外:調整不明	底(→2.0mm の砂粒)	黒	緑2.0306/6	1号埴 36.30
156	059-03	磁輪	窯	A17	500	-	-	-	-	内:調整不明 外:調整不明	底(→2.0mm の砂粒)	黒	緑0.0326/6	1号埴
157	059-03	磁輪	窯	A17	500	-	-	-	-	内:調整不明 外:ハタメ・足打付輪ナツ	底(→3.0mm の砂粒)	黒	緑0.0326/6	1号埴
159	061-01	磁輪	窯	A15-17	500	-	-	-	-	内:調整不明 外:調整不明	底(→1.5mm の砂粒)	黒	緑0.0326/6	1号埴 36.63
159	055-03	磁輪	窯	A16	500	-	-	-	-	内:ナツ・ハタメ 外:ハタメ・常盤足打付輪ナツ	黒	浅黄1.0308/3	1号埴	
160	055-04	磁輪	窯	A12	500	-	-	-	-	内:オオシ・ナツ 外:ナツ	黒	緑0.0327/6	1号埴	
161	073-01	磁輪	窯	A15-17	500	-	-	-	-	内:ナツ・オオシ 外:ナツ	底(→1.0mm の砂粒)	黒	緑0.0326/6	1号埴 36.53
162	072-03	磁輪	窯	A15-17	500	-	-	-	-	内:調整不明 外:調整不明	底(→1.5mm の砂粒)	黒	緑2.0327/6	1号埴 36.53

第三-6表 深田古墳群・深田遺跡(第2次)遺物観察表4

報告 番号	調査 番号	種類	群種	地味	遺構 層位	形状 残存度	法量 (cm)			技法・文様の特徴 説明	粘土 加工	構成	色調	特記事項
							口径	高さ	底径					
163	057-01	埴輪	鳥	灰白 17	500	-	-	-	-	内・オサエ・ナブ 外・ハナメ・籠形打付輪ナブ	素	-	埴506/9	1号埴562 F
164	057-06	埴輪	鳥	灰白 17	500	-	-	-	-	内・ナブ 外・ナブ	素	-	埴506/9	1号埴
165	056-02	埴輪	鳥	灰白 17	500	-	-	-	-	内・ナブ 外・ハナメ	素	-	埴506/9	1号埴563 F
166	057-02	埴輪	鳥	灰白 17	500	-	-	-	-	内・ナブ 外・ナブ	素	-	埴507/9	1号埴562 F
167	056-03	埴輪	鳥	灰白 17	500	-	-	-	-	内・ナブ 外・ナブ・籠形・籠形打付輪ナブ	素	-	埴506/9	1号埴563 F
168	057-04	埴輪	鳥	灰白 17	500	-	-	-	-	内・ナブ 外・ナブ・籠形・籠形打付輪ナブ	素	-	埴506/9	1号埴 563
169	056-04	埴輪	鳥	灰白 17	500	-	-	-	-	内・ナブ 外・ナブ・籠形・籠形打付輪ナブ	素	-	埴507/9	1号埴 563 F
170	056-06	埴輪	鳥	灰白 17	500	-	-	-	-	内・ナブ 外・ナブ	素	-	埴507/9	1号埴562 F
171	058-06	埴輪	鳥	灰白 17	500	-	-	-	-	内・オサエ・ナブ 外・ナブ	素	-	埴507/9	1号埴
172	057-03	埴輪	鳥	灰白 17	500	-	-	-	-	内・ナブ 外・ナブ	素	-	埴506/9	1号埴 563 F
173	072-04	埴輪	人物	灰白 17	500	-	-	-	-	内・ 外・ナブ・ハナメ・文様	素	-	江504-黄粉埴507/9	1号埴 562
174	077-05	埴輪	人物	灰白 17	500	-	-	-	-	内・ナブ 外・籠形打付・ナブ・文様	素(→1.0mm の砂粒混)	-	江504-黄粉埴507/9	1号埴 562
175	070-03	埴輪	人物	灰白 17	500	-	-	-	-	内・ナブ・オサエ 外・ナブ・ハナメ・籠形打付輪ナブ	素	-	江504-黄粉埴507/9	1号埴 564
176	069-04	埴輪	人物	灰白 17	500	-	-	-	-	ナブ	素	-	埴506/9	1号埴 564
177	066-05	埴輪	人物	灰白 17	500	-	-	-	-	ナブ	素	-	黄粉埴508/9	1号埴
178	067-06	埴輪	人物	灰白 17	500	-	-	-	-	ナブ	素	-	黄粉埴 507/9	1号埴560 F
179	067-07	埴輪	人物	灰白 17	500	-	-	-	-	ナブ	素	-	江504-黄粉埴507/9	1号埴560 F
180	060-03	埴輪	人物	灰白 17	500	-	-	-	-	内・オサエ・ナブ 外・ハナメ	素(→2.0mm の砂粒混)	-	江504-黄粉埴507/9	1号埴 563
181	068-01	埴輪	人物	灰白 17	500	-	-	-	-	内・オサエ・ナブ 外・ハナメ	素	-	江504-黄粉埴507/9	1号埴 562
182	073-06	埴輪	人物	灰白 17	500	-	-	-	-	ナブ・籠形・ ナブ・オサエ	素(→3.0mm の砂粒混)	-	埴7.002/9	1号埴 560
183	072-04	埴輪	人物	灰白 17	500	-	-	-	-	内・ナブ・オサエ 外・ハナメ・ナブ	素(→1.0mm の砂粒混)	-	埴7.002/9	1号埴 562
184	072-05	埴輪	人物	灰白 17	500	-	-	-	-	内・ナブ 外・ナブ・シボ	素(→1.0mm の砂粒混) 黄色顔料混	-	江504-黄粉 507/9	1号埴 563
185	069-01	埴輪	人物	灰白 17	500	-	-	-	-	内・ナブ 外・ハナメ・ナブ	素(黄粉混)	-	江504-黄粉埴507/9	1号埴 562
186	069-03	埴輪	人物	灰白 17	500	-	-	-	-	内・ナブ 外・ハナメ	素	-	江504-黄粉埴507/9	1号埴 561
187	072-06	埴輪	人物	灰白 17	500	-	-	-	-	内・ナブ・オサエ 外・ハナメ	素(→2.0mm の砂粒混)	-	埴507/9	1号埴 563
188	072-04	埴輪	人物	灰白 17	500	-	-	-	-	内・ナブ・オサエ 外・ハナメ	素(黄粉混)	-	埴507/9	1号埴 562
189	072-02	埴輪	人物	灰白 17	500	-	-	-	-	内・ナブ・オサエ 外・ハナメ	素(→1.0mm の砂粒混)	-	埴7.002/9	1号埴 563
190	072-01	埴輪	人物	灰白 17	500	-	-	-	-	内・ナブ・オサエ 外・ナブ・ハナメ	素(→1.0mm の砂粒混)	-	埴507/9	1号埴 563
191	070-01	埴輪	人物	灰白 17	500	-	-	-	-	ナブ・オサエ・ハナメ	素	-	江504-黄粉埴507/9	1号埴 562
192	070-02	埴輪	人物	灰白 17	500	-	-	-	-	ナブ	素	-	江504-黄粉 508/9	1号埴 562
193	069-04	埴輪	人物	灰白 17	500	-	-	-	-	オサエ・ナブ・ハナメ	素	-	埴7.002/9	1号埴
194	076-05	埴輪	人物	灰白 17	500	-	-	-	-	ナブ	素	-	埴7.002/9	1号埴
195	068-02	埴輪	人物	灰白 17	500	-	-	-	-	内・ナブ 外・ハナメ・籠形打付輪ナブ	素(→3.0mm の砂粒混)	-	江504-黄粉埴507/9	1号埴 560非 定 1号埴561
196	061-01	埴輪	人物	灰白 17	500	-	-	-	-	内・工高ナブ 外・ナブ・ハナメ	素	-	埴7.002/9	1号埴 563
197	068-02	埴輪	人物	灰白 17	500	-	-	-	-	内・ナブ・オサエ 外・ハナメ・ナブ	素	-	埴7.002/9	1号埴 563
198	067-04	埴輪	人物	灰白 17	500	-	-	-	-	内・ナブ 外・ナブ	素(→1.0mm の砂粒混)	-	江504-黄粉埴507/9	1号埴560 F
199	058-02	埴輪	人物	灰白 17	500	-	-	-	-	内・オサエ・ナブ 外・ナブ・籠形	素	-	埴506/9	1号埴
200	074-01	埴輪	人物	灰白 17	500	-	-	-	-	内・ハナメ 外・ハナメ	素	-	江504-黄粉埴506/9	1号埴 562非 定
201	067-02	埴輪	人物	灰白 17	500	-	-	-	-	内・オサエ 外・ハナメ	素(→2.0mm の砂粒混)	-	江504-黄粉埴507/9	1号埴 560
202	029-02	埴輪	人物	灰白 17	500	-	-	-	-	内・ナブ 外・ナブ・ハナメ	素(→2.0mm の砂粒混)	-	江504-黄粉埴507/9	1号埴 563
203	076-03	埴輪	人物	灰白 17	500	-	-	-	-	内・オサエ 外・ハナメ・文様	素(→2.0mm の砂粒混)	-	江504-黄粉埴507/9	1号埴561・5 2
204	077-02	埴輪	人物	灰白 17	500	-	-	-	-	内・ハナメ 外・ハナメ・籠形打付輪ナブ	素(→2.0mm の砂粒混)	-	江504-黄粉埴508/9	1号埴 562
205	077-01	埴輪	人物	灰白 17	500	-	-	-	-	内・籠形打付輪ナブ 外・ハナメ・籠形打付輪ナブ	素	-	江504-黄粉埴508/9	1号埴 562
206	076-02	埴輪	人物	灰白 17	500	-	-	-	-	内・ナブ 外・ナブ・ハナメ・文様	素(→2.0mm の砂粒混)	-	黄粉埴507/9	1号埴 562
207	073-03	埴輪	人物	灰白 17	500	-	-	-	-	内・ナブ 外・ハナメ	素(→3.0mm の砂粒混)	-	江504-黄粉埴507/9	1号埴 562
208	077-02	埴輪	人物	灰白 17	500	-	-	-	-	内・ナブ 外・ハナメ・籠形打付輪ナブ	素(→2.0mm の砂粒混)	-	江504-黄粉埴508/9	1号埴 562
209	074-03	埴輪	人物	灰白 17	500	-	-	-	-	内・ナブ 外・ハナメ・文様	素(→3.0mm の砂粒混)	-	江504-黄粉埴508/9	1号埴 562
210	074-05	埴輪	人物	灰白 17	500	-	-	-	-	内・ナブ 外・ハナメ・ナブ・文様	素(→2.0mm の砂粒混)	-	黄粉埴508/9	1号埴 562
211	073-01	埴輪	人物	灰白 17	500	-	-	-	-	内・ハナメ 外・ハナメ・籠形打付輪ナブ	素(→2.0mm の砂粒混)	-	黄粉埴 507/9	1号埴 563
212	074-04	埴輪	人物	灰白 17	500	-	-	-	-	内・ナブ 外・ハナメ	素	-	黄粉埴507/9	1号埴 562
213	076-01	埴輪	人物	灰白 17	500	-	-	-	-	内・籠形 外・ハナメ・籠形打付輪ナブ	素(→2.0mm の砂粒混)	-	黄粉埴 507/9	1号埴 562
214	067-05	埴輪	人物	灰白 17	500	-	-	-	-	内・オサエ 外・ナブ・ハナメ	素	-	江504-黄粉埴507/9	1号埴 560

第三-7表 深田古墳群・深田遺跡(第2次)遺物観察表5

報告 番号	発掘 番号	種類	副種	地区	遺構 層位	形状 残存度	寸法 (cm)			技法・文様の特徴 説明	出土 層位	構成	色調	特記事項
							口径	底径	高さ					
215	073-03	埴輪	人物	A15-17	500	-	-	-	-	内・ナツ 外・ナツ・線刻	底～2.5mm の砂粒(表)	-	紺2.0306/9	1号埴30, 19号
216	073-01	埴輪	人物	A15-17	500	-	-	-	-	内・オオキ 外・線刻	底(17.0mm大 の石片)	-	紺20306/9	1号埴36,62
217	073-02	埴輪	人物	A15-17	500	-	-	-	-	内～1.0mm 外・ナツ・線刻	底～1.0mm の石片	-	紺20306/9	1号埴36,62
218	073-04	埴輪	人物	A15-17	500	-	-	-	-	内・ナツ 外・ナツ・線刻	底～2.5mm の砂粒(表)	-	紺20306/9	1号埴36,62
219	073-06	埴輪	人物	A15-17	500	-	-	-	-	内・ナツ・オオキ 外・コナツ・ナツ・線刻	底～2.5mm の砂粒(表)	-	紺20306/9	1号埴36,62
220	073-05	埴輪	人物	A15-17	500	-	-	-	-	内・ナツ・オオキ 外・ナツ・線刻	底～2.5mm の砂粒(表)	-	紺2.0306/9	1号埴36,62
221	073-03	埴輪	人物	A15-17	500	-	-	-	-	内・オオキ 外・ナツ・線刻	底～2.5mm の砂粒(表)	-	紺2.0306/9	1号埴36,62
222	073-08	埴輪	人物	A15-17	500	-	-	-	-	内・ナツ 外・ナツ・線刻	底～7.0mm の石片	-	12.54-黄緑#037/4	1号埴36,62
223	065-02	埴輪	人物	A17	500	-	-	-	-	内・ナツ 外・ハタメ・線刻	底	-	紺2.0306/9	1号埴
224	071-08	埴輪	人物	A15-17	500	-	-	-	-	内・オオキ 外・ナツ・線刻	底～1.0mm の砂粒	-	紺20306/9	1号埴36,62
225	073-10	埴輪	人物	A15-17	500	-	-	-	-	内・ナツ・オオキ 外・オオキ・ナツ・起り打付玉	底～2.5mm の砂粒	-	紺20306/9	1号埴36,62
226	071-07	埴輪	人物	A15-17	500	-	-	-	-	内・ナツ 外・ナツ・線刻	底～2.5mm の砂粒	-	紺20306/9	1号埴36,62
227	075-01	埴輪	人物	A15-17	500	-	-	-	-	内・コナツ・オオキ 外・ハタメ・線刻	底	-	明黄緑#037/4	1号埴36,62
228	067-01	埴輪	人物	A15-17	500	-	-	-	-	内・オオキ 外・ハタメ	底～1.0mm の石片	-	12.54-黄緑#037/4	1号埴36,60
229	073-02	埴輪	人物	A15-17	500	-	-	-	-	内・オオキ 外・ハタメ	底～2.5mm の砂粒	-	紺20306/9	1号埴36,53
230	066-01	埴輪	人物	A15-17	500	-	-	-	-	内・ハタメ 外・ハタメ・線刻	底	-	12.54-黄緑#037/4	1号埴#47・ 52
231	069-02	埴輪	人物	A17	500	-	-	-	-	内・ハタメ 外・ナツ・起り打付玉	底	-	黄緑#030/3	1号埴
232	073-02	埴輪	人物	A15	500	-	-	-	-	内・ハタメ 外・ナツ・起り打付玉	底～2.5mm の砂粒	-	紺2.0306/9	1号埴
233	056-01	埴輪	動物	A17	500	-	-	-	-	内・オオキ 外・ナツ	底	-	紺20306/9	1号埴
234	056-05	埴輪	動物	A15-17	500	-	-	-	-	内・ナツ 外・ナツ	底	-	黄緑#2.0306/9	1号埴36,49
235	072-07	埴輪	動物	A15-17	500	-	-	-	-	内・ハタメ 外・ハタメ・コナツ	底(線刻)	-	紺2.0306/9	1号埴36,53
236	076-01	埴輪	動物	A15-17	500	-	-	-	-	内・オオキ 外・ナツ	底～2.5mm の石片	-	黄緑2.037/4	1号埴36,62
237	014-01	埴輪	円筒	A18	500	口縁 直径	35.1	-	-	内・ハタメ 外・ハタメ	底～2.5mm の砂粒	-	紺20306/9	2号埴
238	014-02	埴輪	円筒	A18	500	-	-	-	-	内・オオキ 外・ハタメ・突起起り打付玉コナツ	底～2.5mm の砂粒	-	内 12.54-黄緑#037/4 外 紺2.0306/9	2号埴
239	013-02	埴輪	円筒	A18	500	-	-	-	-	内・ハタメ 外・ハタメ・突起起り打付玉コナツ	底～2.5mm の砂粒	-	紺2.0306/9	2号埴
240	012-02	埴輪	円筒	A18	500	-	-	-	-	内・ナツ 外・ハタメ・突起起り打付玉コナツ	底～2.5mm の砂粒	-	紺20306/9	2号埴
241	013-01	埴輪	円筒	A18	500	-	-	-	-	内・ハタメ 外・ハタメ・突起起り打付玉コナツ	底～2.5mm の砂粒	-	紺20306/9	2号埴
242	012-02	埴輪	円筒	A18	500	-	-	-	-	内・オオキ・ナツ 外・ハタメ・突起起り打付玉	底～2.5mm の砂粒	-	紺20306/9	2号埴
243	012-03	埴輪	楕円筒	A18	500	口縁 径	-	-	-	内・オオキ・ナツ 外・ハタメ	底～1.0mm の石片	-	黄緑#030/3	2号埴
244	014-06	陶器	軒蓋	A18	500	底径	10.9	-	4.15	内・コナツ 外・コナツ・コナツ	内・コナツ 外・コナツ・コナツ	黄	灰#047/0	2号埴36,18 壁している1層 #53
245	014-03	土師器	高杯	A18	500	-	-	-	-	内・調整不明・少砂 外・調整不明	底～1.5mm の石片	-	内 黄緑#2.037/4 外 明黄緑#035/0	2号埴
246	012-01	埴輪	円筒	A18	500	-	-	-	-	内・オオキ・ナツ 外・ハタメ・突起起り打付玉	底～2.5mm の石片(表)	-	紺20306/9	2号埴透孔飾
247	014-04	土師器	高杯	A18	500	-	-	-	-	内・調整不明 外・調整不明	底	-	12.54-黄緑#037/4	2号埴透孔飾
248	105-01	埴輪	楕円筒	18	58	-	-	-	-	内・ナツ 外・コナツ・コナツ	中・中	-	紺2.0307/6	55A, 56C, 56D
249	105-01	埴輪	楕円筒	18	58	-	-	-	-	内・オオキ・ハタメ・ナツ 外・ハタメ・突起起り打付玉コナツ	中・中	-	紺2.0307/6	55A, 56C, 56D
250	105-02	埴輪	楕円筒	18	58	-	-	-	-	内・コナツ・オオキ・ナツ 外・ハタメ・突起起り打付玉コナツ	中・中	-	黄緑#2.0306/9	55A, 56C, 56D
251	100-01	埴輪	楕円筒	18	58	-	-	-	-	内・オオキ・ナツ 外・ナツ・突起起り打付玉コナツ	中・中	-	黄緑#2.0306/9	55A, 56C
252	106-03	埴輪	楕円筒	18	58	-	-	-	-	内・ナツ・コナツ 外・コナツ・ハタメ	中・中	-	紺20307/6	55A, 56C, 56D
253	102-04	埴輪	楕円筒	18	50	-	-	-	-	内・調整 外・調整	底～1.5mm の砂粒	-	紺20306/9	55A, 56C
254	101-05	埴輪	楕円筒	19	50	-	-	-	-	内・ハタメ・コナツ 外・コナツ・ハタメ	底～1.5mm の砂粒	-	紺20307/6	55A, 56C
255	101-02	埴輪	楕円筒	19	50	-	-	-	-	内・調整 外・調整	底～1.5mm の砂粒	-	紺20306/9	55A, 56C
256	106-04	埴輪	楕円筒	18	58	-	-	-	-	内・ナツ 外・ナツ・突起起り打付玉コナツ	中・中	-	紺2.0307/6	55A, 56C
257	107-02	埴輪	楕円筒	18	58	-	-	-	-	内・ハタメ 外・ハタメ・突起起り打付玉コナツ	中・中	-	紺20307/6	55A, 56C
258	106-02	埴輪	楕円筒	18	58	-	-	-	-	内・ハタメ 外・ハタメ・突起起り打付玉コナツ	中・中	-	黄緑#2.0306/9	55A, 56C
259	102-01	埴輪	楕円筒	19	50	-	-	-	-	内・オオキ 外・ナツ・突起起り打付玉コナツ	底～2.5mm の砂粒	-	12.54-黄緑#037/4	55A, 56C
260	107-01	埴輪	楕円筒	19	50	-	-	-	-	内・オオキ・ハタメ 外・ハタメ・突起起り打付玉コナツ	中・中	-	黄緑#2.0306/9	55A, 56C
261	104-01	埴輪	楕円筒	18	50	-	-	-	-	内・ハタメ 外・ハタメ・突起起り打付玉コナツ	底～1.5mm の砂粒	-	紺2.0306/9	55A, 56C

第三-8表 深田古墳群・深田遺跡(第2次)遺物観察表6

報告 番号	発掘 番号	種類	副種	地区	遺構 層位	副種 残存度	遺量 (cm)			技法・文様の特徴 説明	加工 状況	構成	色調	特記事項
							口径	底径	高さ					
262	103-01	埴輪	磁器器	18	50	-	-	-	-	内:ハクメ・ナツメ 外:ハクメ・雲龍廻り打付模ヨコナデ	中・中層	-	埴027.6	SSA,SKT,赤目
263	101-01	埴輪	磁器器	19	50	-	-	-	-	内:漆黒 外:漆黒・雲龍廻り打付模ヨコナデ	表1~2,50cm の砂層直下	-	埴026.6	SSA,SKT
264	103-01	埴輪	磁器器	18	50	-	-	-	-	内:ハクメ・ナツメ 外:ハクメ・雲龍廻り打付模ヨコナデ	表1~2,50cm の砂層直下	-	埴027.6	SSA,SKT,赤目
265	103-01	埴輪	磁器器	17	50	-	-	-	-	内:ハクメ・ナツメ 外:ハクメ・廻り打付模ヨコナデ	表1~1,50cm の砂層直下	-	埴027.6	SSA,SKT
266	106-02	埴輪	円筒	18	50	-	-	-	-	内:ナツメ 外:ナツメ・雲龍廻り打付模ヨコナデ	中・中層	-	埴027.6	SSA,SKT
267	103-02	埴輪	円筒	18	50	-	-	-	-	内:ナツメ・ナツメ 外:ハクメ・雲龍廻り打付模ヨコナデ	表1~2,50cm の砂層直下	-	埴027.6	SSA,SKT
268	103-01	埴輪	円筒	18	50	-	-	-	-	内:ナツメ・ナツメ 外:ハクメ・雲龍廻り打付模ヨコナデ	表1~2,50cm の砂層直下	-	埴027.6	SSA,SKT
269	101-01	埴輪	円筒	19	50	-	-	-	-	内:漆黒 外:漆黒・雲龍廻り打付模ヨコナデ	表1~1,50cm の砂層直下	-	埴027.6	SSA,SKT
270	104-01	埴輪	円筒	18	50	-	-	-	-	内:ナツメ・ナツメ 外:ハクメ・雲龍廻り打付模ヨコナデ	表1~2,50cm の砂層直下	-	埴027.6	SSA,SKT
271	102-02	埴輪	円筒	18	50	遺量 小片	-	-	-	内:ナツメ・黒化 外:黒化	表1~2,50cm の砂層直下	-	埴027.6	SSA,SKT
272	104-01	埴輪	円筒	18	50	-	-	-	-	内:ナツメ・ナツメ 外:ハクメ・ナツメ	中・中層	-	埴027.6	SSA,SKT
273	104-02	埴輪	冢	19	50	-	-	-	-	内:ナツメ・ナツメ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ナツメ・黒化	表1~1,50cm の砂層直下	-	埴026.6	SSA,SKT
274	107-04	埴輪	冢	18	50	-	-	-	-	内:ナツメ・黒化 外:黒化	中・中層	-	埴027.6	SSA,SKT
275	107-05	埴輪	冢	18	50	-	-	-	-	内:ナツメ 外:ナツメ・黒化	中・中層	-	埴027.6	SSA,SKT
276	106-01	埴輪	円筒	18	50	-	-	-	-	内:ナツメ・ナツメ 外:ナツメ	中・中層	-	埴027.6	SSA,SKT
277	104-03	埴輪	円筒	19	50	-	-	-	-	内:ナツメ 外:ハクメ	表1~1,50cm の砂層直下	-	埴026.6	SSA,SKT
278	107-01	埴輪	圓台	18	50	-	-	-	-	内:ヨコナデ 外:ヨコナデ・漆黒・黒化文	表 冢	冢	冢026.0	SSA,SKT
279	009-01	粘土土器 土器類	高杯	326	P103	断面	-	-	-	内:調整不明 外:調整不明	表1~1,50cm の砂層直下	-	内 冢022.3(1/4) 外 冢026.0(5/8)	SAP内陶製法
280	009-05	粘土土器 土器類	盃	431	P102	断面	3.8	-	-	内:下長十字 外:調整不明	表1~2,50cm の砂層直下	-	内 冢026.0(1/2) 外 冢026.0(5/8)	
281	001-01	陶器	山系瓶	49	503	遺量 小片	-	-	-	内:ヨコナデ 外:ヨコナデ・高台龍廻り打付模ナツメ	表 冢	冢026.6	自然釉	
282	001-06	粘土土器 土器類	高杯	427	5011	断面 小片	-	-	-	外:黒磁文様・シボリ・ナツメ	表 冢	冢0109.2		
283	001-04	粘土土器 土器類	台付盃	427	5011	-	-	-	-	内:調整不明 外:ハクメ	表 冢	冢044.4(27.5)027.6		
284	001-05	土器類	目録	427	5011	口縁 小片	-	-	-	内:ナツメ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・龍廻り打付模ヨコナデ・ナツメ	表 冢	冢044.4(27.5)027.6	半土製土小	
285	003-06	粘土土器 土器類	盃小	432	5015	口縁 小片	-	-	-	内:ヨコナデ 外:龍廻り・ヨコナデ	表 冢	冢026.7,508.4		
286	003-04	陶器	山系瓶	432	5015	底面 1/2	9.0	-	-	内:ヨコナデ 外:ヨコナデ・高台龍廻り打付模ナツメ・ 糸籠	表 冢	冢022.3(3/4)		
287	002-02	陶器	瓶	430	5013	底面 小片	-	-	-	内:ナツメ 外:土器類・ナツメ	表 冢	冢02,508.6	青滑	
288	001-02	磁器	瓶	412	505	口縁 小片	-	-	-	内:ヨコナデ・龍廻り 外:ヨコナデ・龍廻り	表 冢	冢026.6 冢026.0	黒目	
289	001-01	陶器	瓶	412	526	底面 1/2	5.2	-	-	内:ヨコナデ・龍廻り 外:ヨコナデ・龍廻り・龍廻り出し高台	表 冢	冢026.6 冢026.0(1/2)	黒目・黒磁文 目・底面	
290	002-01	陶器	瓶	429	5012	口縁 小片	12.4	7.6	4.1	内:ヨコナデ・龍廻り 外:ヨコナデ・龍廻り・龍廻り出し高台	表 冢	冢026.6 冢026.0	黒目	
291	001-02	磁器	瓶	429	5012	口縁 小片	-	-	-	内:ヨコナデ・龍廻り 外:ヨコナデ・龍廻り	表 冢	冢026.6 冢026.0	黒目	
292	001-08	磁器	瓶	429	5042	底面 小片	-	-	-	内:ヨコナデ・龍廻り 外:ヨコナデ・龍廻り・龍廻り出し高台	表 冢	冢026.6 冢026.0	黒目	
293	002-05	粘土土器 土器類	高杯	431	5214	-	-	-	-	内:不明 外:龍廻り	中・中層1~5, 50m(1/2)直下	-	冢026.7,508.4	透孔1脚
296	003-01	陶器	山系瓶	432	5214	底面 1/2	8.0	-	-	内:ヨコナデ 外:ヨコナデ・高台龍廻り打付模ナツメ・ 糸籠	表 冢	冢027.6		
297	003-04	陶器	山系瓶	431	5214	底面 1/2	7.8	-	-	内:ヨコナデ 外:ヨコナデ・高台龍廻り打付模ナツメ・ 糸籠・龍廻り	表 冢	冢026.0	自然釉	
298	003-02	陶器	山系瓶	432	5214	底面 1/2	9.8	-	-	内:ヨコナデ 外:ヨコナデ・高台龍廻り打付模ナツメ・ 糸籠・龍廻り	表 冢	冢026.6		
299	003-05	土器類	盃	432	5214	口縁 小片	-	-	-	内:ヨコナデ 外:ヨコナデ	表 冢	冢0109.6(2)	横打者	
300	002-07	土器類	目録	431	5214	口縁 小片	-	-	-	内:ナツメ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・龍廻り打付模ヨコナデ	表 冢	冢044.4(27.5)027.6		
301	002-08	土器類	目録	431	5214	-	-	-	-	内:ナツメ 外:龍廻り打付模ヨコナデ	表 冢	冢0109.6(2)	横打者	
302	011-01	埴輪	磁瓶	35	505	-	-	-	-	内:ヨコナデ 外:ヨコナデ・雲龍・糸籠	表 冢	内 冢026.6(3/4) 外 冢026.0(1/2)		
303	009-06	土器類	瓶	417	505	口縁 小片	-	-	-	内:ヨコナデ 外:ヨコナデ	表1~2,50cm の砂層直下	-	冢044.4(27.5)027.6	横打者
304	009-07	土器類	茶碗	41	505	底面 小片	-	-	-	内:ナツメ 外:ナツメ・ナツメ	表1~2,50cm の砂層直下	-	冢026.7(1/2)027.6	
305	010-02	陶器	磁瓶	429	505	口縁 1/2	16	-	-	内:龍廻り 外:ナツメ・ナツメ・龍廻り(糸籠)	表 冢	冢026.6(1/2)027.6(2/3)	横打者	
306	010-04	埴輪	円筒	18	505	口縁 1/2	28.3	-	-	内:ナツメ・ハクメ 外:ハクメ	表1~2,50cm の砂層直下	-	冢044.4(27.5)027.6	
307	010-05	埴輪	高杯	18	5019	-	-	-	-	内:調整不明 外:ナツメ	表1~4,50cm の砂層直下	-	冢026.7(1/2)027.6	
308	009-05	土器類	瓶	411	5022	-	-	-	-	内:調整不明 外:調整不明	表1~2,50cm の砂層直下	-	冢027.5(2/3)	
309	009-06	埴輪	磁器器	111	5022	口縁 小片	-	-	-	内:ヨコナデ 外:ヨコナデ・ナツメ	表1~2,50cm の砂層直下	-	冢026.7(1/2)027.6	
313	009-01	陶器	山系瓶	416	5023	底面 10/11	7.4	-	-	内:ヨコナデ 外:ヨコナデ・高台龍廻り打付模ナツメ・ 糸籠・龍廻り	表1~2,50cm の砂層直下	冢	冢022.3(2/3)	
314	005-07	粘土土器 土器類	盃	39	5216	口縁 小片	-	-	-	内:調整不明 外:調整不明	表 冢	冢026.7,508.4		
315	005-01	粘土土器 土器類	盃	31	5216	口縁 1/2	14.8	-	-	内:調整不明 外:調整不明・内筋付文	表 冢	冢027.5(2/3)	土製集中	
316	003-07	粘土土器 土器類	5字壺	41	5216	口縁 1/2	22.4	-	-	内:ハクメ・ヨコナデ 外:ヨコナデ・ナツメ	表 冢	冢026.7(1/2)027.6	土製集中	

第三-9表 深田古墳群・深田遺跡(第2次)遺物観察表7

報告番号	発掘番号	種類	群種	地区	遺構部位	形状・製作法	寸法 (cm)			技法・文様の特徴	出土層位	構成	色調	特記事項
							口径	底径	高さ					
317	001-01	土師器	黄	B2	5216	口縁 口付	-	-	-	内・調整不明 外・調整不明	底径 2.0mm の破綻を含む	-	J2.54-黄粉0107/1	
318	006-03	土師器	黄	B2	5216	口縁 口付	8.4	-	-	内・調整不明 外・調整不明	底径 1.2mm の破綻を含む	-	J2.54-黄 508/3	
319	006-04	土師器	黄	B2	5216	底面 口付	-	3.5	-	内・調整不明 外・調整不明	底径 1.2mm の破綻を含む	-	J2.54-黄粉0106/3	
320	006-05	土師器	黄	B2	5216	底面 口付	-	3.6	-	内・調整不明 外・調整不明	底径 1.2mm の破綻を含む	-	黄粉 517/3	
321	006-07	赤土上層 /土師器	付付黄	B8	5216	底面 口付	-	5.1	-	内・調整不明 外・調整不明	底径 1.2mm の破綻を含む	-	J2.54-黄粉0107/3	
322	006-08	赤土上層 /土師器	付付黄	B1	5216	底面 口付	-	-	-	内・調整不明 外・調整不明	底径 1.2mm の破綻を含む	-	J2.54-黄粉0107/2	土師集中
323	006-01	土師器	高柄	B2	5216	-	-	-	-	内・底面 外・調整不明	底径 1.4mm の破綻を含む	-	黄粉 517/3	
324	007-01	土師器	高柄	B1	5216	-	-	-	-	内・調整不明 外・調整不明	底径 1.2mm の破綻を含む	-	J2.54-黄粉0107/3	
325	003-08	-	高柄	B5	5216	-	-	-	-	内・ナブ 外・調整不明	底径 1.2mm の破綻を含む	-	黄粉 506/6	透孔 3個
326	006-02	赤土上層 /土師器	高柄	B2	5216	-	-	-	-	内・調整不明 外・調整不明	底径 1.3mm の破綻を含む	-	黄粉 517/3	透孔
327	004-03	磁器	磁器赤	B1	5216	口縁 口付	-	-	-	内・ハタマ・コソナブ 外・コソナブ・ナブ	底径 1.2mm の破綻を含む	-	黄粉 508/6	土師集中
328	005-05	磁器赤	群黄	B2	5216	口縁 口付	-	-	-	内・コソナブ 外・コソナブ	底径 1.2mm の破綻を含む	-	黄粉 513/0	
329	005-03	磁器赤	群黄	B2	5216	口縁 口付	10.6	-	-	内・コソナブ 外・コソナブ	底径 1.5mm の破綻を含む	-	黄粉 506/9	
330	005-02	磁器赤	群	B1	5216	口縁 口付	11.8	-	5.8	内・コソナブ 外・コソナブ・コソナブナブ	底径 1.2mm の破綻を含む	-	黄粉 517/0	
331	005-04	磁器赤	高柄	B1	5216	底面 口付	-	10.2	-	内・コソナブ 外・コソナブ	底径 1.2mm の破綻を含む	-	黄粉 517/0	土師集中
332	007-01	土師器	黄	B2	5216	口縁 口付	18.2	-	-	内・コソナブ 外・コソナブ	底径 1.4mm の破綻を含む	-	J2.54-黄粉0106/1	
333	007-05	土師器	黄又付 黄	B1	5216	-	-	-	-	ナブ・ナブ	底径 1.4mm の破綻を含む	-	J2.54-黄粉0107/3	把手跡
334	004-01	瓦	伊瓦	B2	5216	-	-	-	-	内・瓦面 外・コソナブ・瓦高ナブ	底径 1.2mm の破綻を含む	-	黄粉 506/9	
335	007-02	土師器	黄	B2	5216	口縁 口付	11	-	-	内・丁高ナブ 外・ナブ	底径 1.1mm の破綻を含む	-	J2.54-黄粉0107/1	
336	004-04	陶器	山系黒	B3	5216 上層	口縁 口付	-	4.8	-	内・コソナブ 外・コソナブ	底径 1.2mm の破綻を含む	-	黄粉 513/3	
337	004-05	陶器	山系黒	B2	5216	底面 口付	-	2.5	-	内・コソナブ 外・コソナブ	底径 1.2mm の破綻を含む	-	黄粉 508/9	
338	005-06	陶器	山系黒	B3	5216 上層	底面 口付	-	5.4	-	内・コソナブ 外・コソナブ	底径 1.2mm の破綻を含む	-	黄粉 513/3	
341	010-01	土師器	黄	B7	5216	口縁 口付	-	6.2	-	内・ナブ 外・ナブ	底径 1.3mm の破綻を含む	-	黄粉 510/6/3	
342	011-02	陶器	山系黒	B10	5216 口付	底面 口付	-	6.8	-	内・コソナブ 外・コソナブ	底径 1.2mm の破綻を含む	-	黄粉 508/9	葉付 7口
343	008-07	磁器赤	群	C8	5225	-	-	-	-	内・ナブ・オサホ 外・オサホ	底径 1.1mm の破綻を含む	-	黄粉 512/0/2	
344	009-02	土師器	黄	C22	5228	口縁 口付	-	-	-	内・コソナブ 外・コソナブ	底径 1.1mm の破綻を含む	-	黄粉 510/6/1	黄伊赤
346	008-03	磁器赤	群黄	C20	5226	-	-	-	-	内・ナブ 外・ナブ・コソナブ	底径 1.4mm の破綻を含む	-	黄粉 510/1	
347	007-01	土師器	黄	C15	5226	-	-	-	-	内・コソナブ・ハタマ 外・コソナブ・ハタマ	底径 1.1mm の破綻を含む	-	J2.54-黄 513/3	
348	008-01	陶器	黄	C21	5226	口縁 口付	16.7	-	-	内・コソナブ 外・コソナブ	底径 1.2mm の破綻を含む	-	黄粉 517/1	
349	008-04	陶器	山系黒	C21	5226	底面 口付	-	6.3	-	内・コソナブ・ナブ 外・コソナブ	底径 1.2mm の破綻を含む	-	黄粉 517/1	
350	008-02	陶器	黄又付 黄	C26	5226	口縁 口付	-	-	-	内・コソナブ 外・コソナブ	底径 1.1mm の破綻を含む	-	黄粉 510/6/2	
351	007-06	陶器	群黄	C14	5216	口縁 口付	-	-	-	内・ナブ 外・コソナブ・ナブ	底径 1.2mm の破綻を含む	-	黄粉 510/6/6	葉付
352	007-08	土師器	不明	C19	5226	口縁 口付	-	-	-	内・オサホ・ナブ・コソナブ 外・コソナブ・ナブ	底径 1.2mm の破綻を含む	-	黄粉 510/6/3	
353	011-03	陶器	黄	C8	5216	口縁 口付	17.8	-	-	内・コソナブ・底面 外・コソナブ	底径 1.2mm の破綻を含む	-	黄粉 510/7/2	
354	010-01	土師器	群黄	C8	5216	口縁 口付	-	-	-	内・コソナブ 外・コソナブ	底径 1.2mm の破綻を含む	-	黄粉 510/6/6	黄伊赤

第三-10表 深田古墳群・深田遺跡（第2次）遺物観察表 8

報告番号	発掘番号	群種	地区	遺構・層位	寸法 (cm)			重量 (g)	特記事項
					長さ	幅	厚さ		
290	002-03	黄	A31	S-Z14	2.6	4.8	3.1	115.0	
295	002-04	黄	A31	S-Z14	5.1	4.7	3.1	96.0	
312	011-04	黄	B10	S-Z31	6.4	5.0	2.3	21.47	
329	007-03	黄	B7	S-Z16	3.8	2.6	3.1	5.0	
340	004-02	黄	B7	S-Z16	9.9	6.1	3.7	296.0	
341	009-03	黄	C22	S-K27	5.3	3.4	2.7	30.0	

第三-11表 深田古墳群・深田遺跡（第2次）石製品観察表

報告番号	発掘番号	群種	地区	遺構部位	計測値 (cm)			群種	木取り	特記事項 (加工法、磨り等) 保存経緯
					長さ	幅	厚			
310	003-02	赤土	B11	SZ1	10.1	10.0	3.5	赤石	群付	群付品少量あり
311	003-01	赤土	B11	SZ1	10.0	1.1	0.3	赤石	群付	

第三-12表 深田古墳群・深田遺跡（第2次）木製品観察表

報告 番号	発掘 番号	種類	形状	地区	遺構 部位	形状 残存度	寸法 (cm)			技法・文様の特徴 説明	胎土 産地	構成	色調	特記事項
							口径	底径	高さ					
354	007-05	弥生土器 土器類	壺	42	5030	口縁 5.12	12.3	-	内:ヨコナガ 外:ヨコナガ	産	-	浅黄2.017/3		
356	007-07	弥生土器 土器類	打付壺	42	5030	口縁 5.12	6.3	-	内:ナガ・ヨコナガ 外:ヨコナガ・ナガ	産	-	12.01-黄緑0106/3		
357	007-08	土器類	杯	42	5030	口縁 1.12	12.0	-	内:ナガ・ヨコナガ 外:ヨコナガ・ナガ	産	-	12.01-黄緑0107/3, 0108/3		
358	008-05	弥生土器 土器類	壺	43	5032	口縁 12.12	5.0	-	内:工底煎り 外:煎製不明・ナガ	産	-	0102/002, 0107/2	№1	
359	008-06	弥生土器 土器類	壺	43	5032	底径 12.12	4.2	-	内:ナガ・工底煎り	産	1-3.00m の胎土	0104/3	№1煎製	
360	009-01	弥生土器 土器類	壺	43	5032	口縁 12.12	7.0	-	内:工底煎り・ナガ 外:ナガ・ナガ・工底ナガ	産	1-3.00m の胎土	浅黄緑0103/2, 0107/3, 0108/3	№1	
361	009-04	弥生土器 土器類	5字壺	43	5032	口縁 12.12	15.6	-	内:煎製不明 外:煎製不明	産	1-3.00m の胎土	浅黄2.017/3	№1	
362	009-03	弥生土器 土器類	高杯	43	5032	煎製 小片	-	-	煎製不明・ナガ 外:ヨコナガ・ナガ・煎製不明	産	-	0102/012, 012.01-煎製 0106/4	№1	
363	009-04	弥生土器 土器類	高杯	43	5032	煎製 小片	-	-	内:煎製不明 外:煎製不明	産	-	12.01-017, 0107/4	№1	
364	007-04	弥生土器 土器類	高杯	43	5032	煎製 小片	-	-	内:煎製不明 外:煎製不明	産	-	浅黄2.016/2	透孔2個	
365	008-02	弥生土器 土器類	高杯	43	5032	煎製 小片	-	-	内:煎製不明 外:煎製不明	産	-	浅黄緑0106/3	№1	
366	008-04	土器類	壺	43	5032	煎製 小片	-	-	内:工底煎り・ナガ 外:ヨコナガ・ナガ・工底ナガ	産	1-3.00m の胎土	12.01-黄緑0106/4	№1	
367	017-05	土器類	高杯	41	5233	-	-	-	内:ナガ・オサム 外:台煎り打付器ナガ	産	1-3.00m の胎土	浅黄2.017/3	透孔3個	
368	018-03	煎製器	杯蓋	41	5233	口縁 6.12	12.0	4.3	内:ヨコナガ 外:ヨコナガ・ヨコナガ	産	1-4.00m の胎土	黄 0106/0	自然跡	
369	018-02	煎製器	杯蓋	41	5233	口縁 11.12	12.9	4.5	内:ヨコナガ 外:ヨコナガ・ヨコナガ	産	黄 0106/0	黄 0106/0		
370	005-03	弥生土器 土器類	壺	45	5037	口縁 12.12	16.6	-	内:ナガ・ヨコナガ 外:ヨコナガ・煎製・ハタメ	産	1-3.00m の胎土	12.01-黄緑0107/2	№1	
371	005-02	弥生土器 土器類	壺	45	5037	口縁 11.12	16.6	-	内:ナガ・ヨコナガ 外:ハタメ	産	1-3.00m の胎土	12.01-黄緑0107/4	№1	
372	005-01	弥生土器 土器類	壺	45	5037	口縁 12.12	16.4	-	内:ハタメ・ヨコナガ 外:ヨコナガ・ハタメ	産	1-3.00m の胎土	浅黄2.016/3, 0104/0, 0105/0	№1	
373	005-05	弥生土器 土器類	壺	45	5037	底径 12.12	5.4	-	内:煎製 外:ナガ	産	1-3.00m の胎土	0105/0, 0106/2, 0106/3	№1	
374	004-04	弥生土器 土器類	壺	45	5037	底径 12.12	5.6	-	内:ハタメ 外:ナガ・ハタメ	産	1-3.00m の胎土	0107/1, 0107/2, 0107/3	№1	
375	005-07	弥生土器 土器類	小筒壺	45	5037	小片	-	-	1-3.00m の胎土	産	-	浅黄緑0108/4, 0108/5	№1	
376	005-06	弥生土器 土器類	壺	45	5037	口縁 11.12	14.8	-	内:ナガ・ヨコナガ 外:ヨコナガ・煎製	産	-	12.01-黄緑0106/4	№1	
377	004-03	弥生土器 土器類	5字壺	45	5037	口縁 11.12	16.8	-	内:煎製 外:煎製	産	1-3.00m の胎土	浅黄緑0106/4	№1	
378	008-01	弥生土器 土器類	打付壺	45	5037	小片	-	-	内:ナガ・工底ナガ 外:ハタメ	産	1-3.00m の胎土	浅黄2.016/1, 0107/2, 0107/3	№1	
379	004-05	弥生土器 土器類	打付壺	45	5037	台煎り 小片	-	-	内:ハタメ 外:煎製	産	1-3.00m の胎土	0103/0, 0104/0, 0104/1	№1	
380	005-04	弥生土器 土器類	高杯	45	5037	-	-	-	内:ヨコナガ 外:ヨコナガ	産	1-3.00m の胎土	0102/2, 0107/2	№1	
381	019-06	弥生土器 土器類	高杯	45	5037	小片	-	-	内:ナガ・煎製 外:ナガ・煎製煎製・ヒガキ	産	1-3.00m の胎土	0107/2, 0108/2	№1透孔2個	
382	001-06	弥生土器 土器類	壺	47	5039	底径 12.12	4.2	-	内:煎製 外:煎製	産	1-3.00m の胎土	浅黄緑0109/2, 0110/1, 0110/2	№1	
383	001-04	弥生土器 土器類	壺	47	5039	底径 12.12	3.6	-	内:煎製 外:煎製	産	1-3.00m の胎土	12.01-黄緑0109/3, 0110/2, 0110/3	№1	
384	001-05	弥生土器 土器類	壺	47	5039	口縁 11.12	8.0	-	内:煎製 外:工底ナガ・ハタメ	産	1-3.00m の胎土	12.01-黄2.016/4	№1	
385	001-03	弥生土器 土器類	5字壺	47	5039	小片	-	-	内:煎製 外:ハタメ	産	1-3.00m の胎土	12.01-黄緑0109/3	№1	
386	001-04	弥生土器 土器類	5字壺	47	5039	口縁 11.12	10.2	-	内:ハタメ・ヨコナガ 外:ヨコナガ・台煎煎製・ハタメ	産	1-3.00m の胎土	12.01-017, 0106/4	№1	
387	002-02	弥生土器 土器類	5字壺	47	5039	口縁 6.12	14.4	-	内:ハタメ・ヨコナガ 外:ヨコナガ・台煎煎製・ハタメ	産	1-3.00m の胎土	浅黄2.017/4	№1	
388	002-04	弥生土器 土器類	5字壺	47	5039	底径 6.12	3.9	-	内:オサム・ナガ 外:ハタメ・ナガ	産	1-3.00m の胎土	12.01-黄緑0109/4	№1	
389	001-02	弥生土器 土器類	高杯	47	5039	-	-	-	内:煎製 外:煎製	産	1-3.00m の胎土	12.01-017, 0106/4	№1	
390	001-05	弥生土器 土器類	高杯	47	5039	煎製 小片	-	-	内:工底ナガ 外:煎製煎製	産	1-3.00m の胎土	12.01-017, 0106/4	透孔2個, 2 貫孔	
391	008-04	甕土器	-	47	5039	小片	-	-	1-3.00m の胎土	産	-	浅黄緑0109/3, 浅黄緑 0109/2	№1, 8字等7 貫孔	
394	003-04	土器類	鉢蓋	49	5040	口縁 小片	25.0	-	内:ヨコナガ 外:ヨコナガ・胎打能ヨコナガ・工底 ナガ	産	1-3.00m の胎土	12.01-黄2.0106/4	胎打能貫孔1 個	
395	008-05	甕土器	-	411	5042	小片	-	-	煎	産	-	浅黄緑0109/2, 12.01- 黄2.0106/4	№1, 8字等7 貫孔	
397	003-03	土器類	高杯	413	5047	口縁 12.12	-	-	内:ナガ 外:煎製	産	1-3.00m の胎土	0107/0, 0108/0		
398	003-02	弥生土器 土器類	壺	413	5049	底径 6.12	3.6	-	内:煎製 外:煎製	産	1-3.00m の胎土	0107/1, 0108/0, 0108/3	№1	
399	003-01	土器類	壺	413	5049	口縁 6.12	21.8	-	内:ハタメ・ヨコナガ 外:ヨコナガ・ナガ	産	1-3.00m の胎土	12.01-黄緑0107/4	№1	
400	017-02	土器類	壺	414	5053	口縁 12.12	15.8	-	内:ナガ 外:ナガ・ハタメ・煎製	産	1-3.00m の胎土	12.01-017, 0105/3	№1	
401	017-03	土器類	壺	414	5053	底径 12.12	6.0	-	内:オサム・ナガ 外:ナガ	産	1-3.00m の胎土	0107/0	№1, 4貫孔	
402	017-04	土器類	打付壺	414	5053	口縁 12.12	5.9	-	内:ナガ 外:台煎り打付器ナガ・煎製	産	-	0106/0, 0108/0	№1	
403	009-03	土器類	甕文打付 鉢	415	5065	底径 12.12	3.1	-	内:工底ナガ 外:ハタメ・ナガ	産	-	0106/0	胎打能貫孔11 個	
404	006-02	甕土器	-	416	5032	小片	-	-	1-3.00m の胎土	産	-	浅黄緑0106/4		
405	019-05	弥生土器 土器類	壺	418	5059	口縁 12.12	12.0	-	内:煎製 外:煎製	産	1-3.00m の胎土	12.01-黄緑0105/4	№1	
406	019-03	弥生土器 土器類	壺	418	5059	口縁 12.12	13.0	-	内:煎製不明 外:煎製不明	産	1-3.00m の胎土	0107/0, 0108/0	№1	

第三-III表 深田遺跡(第3次)遺物観察表1



報告番号	調査番号	種類	形態	地区	遺構層位	発見層位	遺長 (cm)			技法・文様の特徴	出土層位	構成	色相	特記事項
							口径	底径	高さ					
007	014-01	粘土土器 / 土師器	打付瓦	016-11	000A 西Ⅱ	中層 1/12	-	5.4	-	内:ナダ 外:ハクメ・ナダ	中層1-2, 00a/遺構層位	-	007, 017/000A, 000A/ 12, 000/1	
008	019-01	土師器	蓋	016	000B 西Ⅱ	中層 1/12	16.2	-	-	内:工高ナダ・オサニ・ロコナダ 外:ロコナダ・ロコナダ	層1-2, 00a 00a/遺構層位	真	0030/1	
009	014-04	粘土土器 / 土師器	高杯	018	000A 中Ⅱ	中層 小片	-	-	-	内:シロリ 外:赤黒・ヒガキ	中層1-2, 00a/遺構層位	-	00200/0, 0000/028/1	
010	015-05	粘土土器 / 土師器	高杯	018-19	000A 中Ⅱ	-	-	-	-	内:調整不明・シロリ 外:ヒガキ	中層1-2, 00a/遺構層位	-	12, 01-007, 0007/4	透孔3個
011	014-02	粘土土器 / 土師器	打付瓦	018	000A 中Ⅱ	中層 1/12	-	6.4	-	内:ナダ 外:ナダ	中層1-2, 00a/遺構層位	-	00000/0, 0000/0, 002, 000	
012	015-03	土師器	杯	018	000A 中Ⅱ	中層 1/12	16.0	-	-	内: 外:ヒガキ	中層1-1, 00a/遺構層位	-	002, 0006/0	
013	015-05	土師器	杯	018	000A 中Ⅱ	中層 1/12	10.0	-	-	内:ナダ・ヨコナダ 外:ヨコナダ・ナダ	中層	-	002, 0006/0	内面磨石付
014	015-04	土師器	杯	018	000A 中Ⅱ	中層 6/12	12.8	-	4.8	内:ナダ・ヨコナダ 外:ヨコナダ・ナダ	中層1-2, 00a/遺構層位	-	00200/0	
015	014-03	土師器	高杯	018-19	000A 中Ⅱ	中層 1/12	13.8	9.6	6.9	内:ナダ・ヨコナダ・シロリ 外:ナダ・ナダ・ヨコナダ	中層1-2, 00a/遺構層位	-	00200/0	
016	015-02	土師器	鉢	018	000A 中Ⅱ	表層 6/12	-	7.0	-	内:工高ナダ 外:ナダ	中層1-2, 00a/遺構層位	-	00000/0, 0000/0, 0000/0	
017	015-01	土師器	鉢	018	000A 中Ⅱ	表層 5/12	-	11.0	-	内:ナダ 外:ナダ	中層1-4, 00a/遺構層位	-	00012, 0007/12, 00013/真 00010/0	割製
018	015-06	土師器	甕	018	000A 中Ⅱ	中層 1/12	-	-	-	内:ハクメ・ヨコナダ 外:ヨコナダ・ナダ	中層1-2, 00a/遺構層位	-	00000/0, 0000/0, 0000/0	
019	016-03	惣志郎	杯蓋	018-19	000A 中Ⅱ P1.5	中層 1/12	13.4	-	-	内:ロコナダ 外:ロコナダ・ロコナダ	中層	真	00007/0, 000A/0	
020	016-01	惣志郎	杯蓋	018	000A 中Ⅱ	中層 1/12	12.0	-	3.0	内:ロコナダ 外:ロコナダ・ロコナダ	中層	真	00000/0, 000A/0	
021	016-02	惣志郎	杯蓋	018-19	000A 中Ⅱ	中層 3/12	12.0	-	-	内:ロコナダ 外:ロコナダ・ロコナダ	中層	真	00007/0	
022	004-02	粘土土器 / 土師器	高杯	019	000A 中Ⅱ	中層 3/12	12.6	9.2	6.6	内:ハクメ・ヒガキ 外:ヒガキ・ハクメ	中層1-2, 00a/遺構層位	-	00007/0	004/0000, 透孔2個
023	004-01	粘土土器 / 土師器	打付瓦	019	000A 中Ⅱ	中層 1/12	10.7	5.5	13.7	内:オサニ・ナダ・ハクメ・ヨコナダ 外:ヨコナダ・ハクメ・ナダ・オサニ	中層1-2, 00a/遺構層位	-	00000/0, 0000/0, 0001/0, 0001/0	001/0000
024	016-04	土師器	5字瓦	019	000A 中Ⅱ	中層 1/12	12.8	-	-	内:ハクメ・ヨコナダ 外:ヨコナダ・ハクメ	中層1-2, 00a/遺構層位	-	00012, 00012, 00000/00010	
025	016-05	土師器	皿	019	000A 中Ⅱ	中層 3/12	-	-	-	内:工高ナダ・ヨコナダ 外:ナダ・ナダ	中層1/0000	-	12, 01-真001/0007/4, 12, 01-真001/0000/0	
026	014-04	粘土土器 / 土師器	高杯	021	000A 中Ⅱ	中層 12/12	-	-	-	内:調整・シロリ 外:調整	中層1-1, 00a 00a/遺構層位	-	12, 01-真001/0007/0001/0000	透孔2個
027	014-05	土師器	甕	021	000A 中Ⅱ	中層 12/12	-	4.0	-	内:調整・工高ナダ 外:黒色	中層1-1, 00a/遺構層位	-	12, 01-真001/0000/0	
028	014-02	土師器	甕	021	000A 中Ⅱ	中層 12/12	15.2	-	-	内:調整・ヨコナダ 外:ナダ・ナダ	中層1-2, 00a 00a/遺構層位	-	12, 01-真001/0000/0	
029	014-01	土師器	甕	021	000A 中Ⅱ	中層 1/12	18.0	-	-	内:ナダ・ヨコナダ・調整 外:調整・ハクメ	中層1-3, 00a 00a/遺構層位	-	12, 01-真001/0007/0	
030	012-02	土師器	甕	022	000A 中Ⅱ	中層 1/12	19.2	-	-	内:ハクメ・ヨコナダ 外:ヨコナダ・ハクメ	中層1-2, 00a 00a/遺構層位	-	12, 01-真001/0000/0	
031	011-01	土師器	甕	021	000A 中Ⅱ	中層 1/12	20.0	-	-	内:ナダ・ハクメ・ヨコナダ 外:ヨコナダ・ハクメ	中層1-1, 00a 00a/遺構層位	-	00000/0000	
032	016-06	土師器	高杯	021	000A 中Ⅱ	中層 小片	-	-	-	内:ナダ 外:ナダ・ナダ	中層	-	0000/0001/12, 01-007, 0000/0	
033	014-06	軋式瓦上	9割	021	000A 中Ⅱ	中層 小片	-	-	-	内:ナダ 外:ナダ	中層	-	0000/0	破瓦
034	012-01	惣志郎小	9割	021	000A 中Ⅱ	中層 小片	-	-	-	内:調整 外:調整	中層1-3, 00a 00a/遺構層位	-	0000/0000/0, 0007/0	破瓦上部の可 能部分
035	018-01	土師器	鉢	021	000A 中Ⅱ	中層 1/12	10.6	-	6.0	内:ナダ・ヨコナダ 外:ヨコナダ・ナダ・黒色	中層1-1, 00a 00a/遺構層位	-	12, 01-真001/0007/0	割製
036	018-06	土師器	短冊蓋	021	000A 中Ⅱ	中層 1/12	14.0	-	-	内:ナダ・ヨコナダ 外:ヨコナダ・ナダ	中層	-	12, 01-真001/0000/0	
037	018-01	土師器	鉢	021	000A 中Ⅱ	中層 1/12	13.8	-	-	内:ナダ・ヨコナダ 外:ヨコナダ・ナダ	中層1-3, 00a 00a/遺構層位	-	002, 0007/0	
038	017-01	土師器	高杯	021	000A 中Ⅱ	中層 3/12	22.4	-	-	内:ナダ・ヨコナダ 外:ヨコナダ・ナダ	中層1-2, 00a 00a/遺構層位	-	00000/0	
039	018-04	土師器	筒状口	021	000A 中Ⅱ	中層 小片	-	-	-	内:ナダ 外:オサニ・延石付筒ナダ	中層	-	00007/0	把手部分
040	018-02	惣志郎	杯蓋	021	000A 中Ⅱ	中層 1/12	12.8	-	4.0	内:ロコナダ 外:ロコナダ・ロコナダ	中層1-3, 00a 00a/遺構層位	真	0007/0007/0	
041	018-05	惣志郎	短冊	021	000A 中Ⅱ	中層 6/12	6.2	-	-	内:ロコナダ 外:ロコナダ	中層	-	0007/0007/0	
042	007-01	粘土土器 / 土師器	蓋	25	000A 中Ⅱ	中層 6/12	6.4	3.2~ 3.5	12.1	内:ハクメ・工高ナダ・ヨコナダ 外:ヨコナダ・調整不明	中層1-1, 00a 00a/遺構層位	-	00007/0	透孔1上に具 透孔2
043	023-07	粘土土器 / 土師器	蓋	023	000A 中Ⅱ	中層 1/12	-	-	-	内:ヨコナダ 外:ヨコナダ	中層1-2, 00a/遺構層位	-	00007/0	
044	024-05	粘土土器 / 土師器	蓋	023	000A 中Ⅱ	中層 1/12	14.0	-	-	内:ヨコナダ 外:ヨコナダ	中層	-	12, 01-007, 0007/0	
045	024-02	粘土土器 / 土師器	蓋	023	000A 中Ⅱ	表層 10/12	-	3.0	-	内:ナダ 外:ナダ・工高蓋ナダ	中層1/0000	-	00012, 0001/0001/0, 0002, 0001/0001/0, 0002, 0001/0	
046	024-03	粘土土器 / 土師器	蓋	023	000A 中Ⅱ	中層 5/12	-	5.0	-	内:ナダ 外:ナダ	中層1/0000	-	00000/0001/0, 0001/0, 0002, 0001/0	内面磨石付
047	024-01	粘土土器 / 土師器	蓋	023	000A 中Ⅱ	中層 1/12	15.4	-	-	内:調整 外:調整	中層1-2, 00a/遺構層位	-	00007/0	
048	025-05	粘土土器 / 土師器	有孔瓦	023	000A 中Ⅱ	表層 5/12	-	5.4	-	内:ナダ 外:ナダ	中層1-3, 00a 00a/遺構層位	-	00000/0	
049	023-06	粘土土器 / 土師器	5字瓦	023	000A 中Ⅱ	中層 9/12	-	-	-	内:ヨコナダ 外:ヨコナダ	中層1-1, 00a/遺構層位	-	12, 01-007, 0007/0	
050	025-02	粘土土器 / 土師器	打付瓦	023	000A 中Ⅱ	中層	-	-	-	内:ナダ 外:ハクメ	中層1-4, 00a/遺構層位	-	12, 01-真001/0007/0	
051	007-03	粘土土器 / 土師器	打付瓦	023-05	000A 中Ⅱ	中層 5/12	-	8.0	-	内:オサニ・ナダ・ヨコナダ・工高ナダ 外:工高ナダ・ヨコナダ	中層	-	00000/0000/0	

第三-14表 深田遺跡 (第3次) 遺物観察表2

報告番号	発掘番号	種類	副種	地区	遺構階層	発見時期	寸法 (cm)			技法・文様の特徴	胎土	構成	色調	特記事項	
							口径	直径	高さ						
432	014-01	弥生土器 / 土師器	高杯	423	0909	西	21.2	11.0	14.0	2.4	-	内・外口縁・ハケメ・ヨコナデ 外・ヨコナデ・ハケメ・調整不明	灰	黄褐色1008/3(表裏面)0 105/2・4・2	
433	014-02	土師器	高文付 高杯	423	0909	西	18.0	11.2	-	-	-	内・調整不明・ハケメ・ヨコナデ 外・ヨコナデ	灰	12.54-黄緑01037/1	黒染あり
434	025-03	弥生土器 / 土師器	高杯	423	0909	西	17.2	11.2	-	9.9	-	内・調整不明・ハケメ・ヨコナデ 外・ヨコナデ	灰	緑2.1037/6	
435	014-03	弥生土器 / 土師器	高杯	423	0909	西	21.2	11.2	25.8	-	-	内・調整不明・ハケメ・ヨコナデ 外・調整不明	灰	12.54-黄緑01036/4	
436	023-05	弥生土器 / 土師器	高杯	423	0909	-	-	-	-	-	-	内・調整不明・ハケメ・ヨコナデ 外・調整不明	灰	黄緑07.1036/4	透孔3個
437	024-04	土師器	高杯	422	0909	-	-	-	-	-	-	内・調整不明・ハケメ・ヨコナデ 外・調整不明	中・黄	12.54-黄緑01038/1(表裏面)0 103/7	
438	007-02	土師器	高杯	422・7	0909	高野	22.7	11.2	-	-	-	内・調整不明・ハケメ・ヨコナデ 外・調整不明	黒	明赤02.1035/6	
439	025-04	土師器	高文付 高杯	423	0909	-	-	-	-	-	-	内・調整不明・ハケメ・ヨコナデ 外・調整不明	黒	12.54-黄緑01037/2	把手部分
440	023-02	弥生土器	杯蓋	423	0909	西	11.2	10.8	-	-	-	内・調整不明・ハケメ・ヨコナデ 外・調整不明	黒	黄 0306/9	
441	023-04	弥生土器	杯蓋	423	0909	西	11.2	10.8	-	7.4	-	内・調整不明・ハケメ・ヨコナデ 外・調整不明	黒	黄 0306/9	
446	022-03	弥生土器 / 土師器	蓋	426	0271	西	12.0	11.2	-	-	-	内・調整不明・ハケメ・ヨコナデ 外・調整不明	灰	12.54-黄緑01039/1(表裏面)0 1035/3	
446	022-02	弥生土器 / 土師器	蓋	427	0271	西	11.2	11.2	13.4	-	-	内・調整不明・ハケメ・ヨコナデ 外・調整不明	灰	12.54-黄緑01036/3	
447	022-04	弥生土器 / 土師器	蓋	426	0271	西	11.2	11.2	-	-	-	内・調整不明・ハケメ・ヨコナデ 外・調整不明	灰	12.54-黄緑01036/2	横打線
448	022-04	弥生土器 / 土師器	高杯	427	0271	西	11.2	11.2	-	-	-	内・調整不明・ハケメ・ヨコナデ 外・調整不明	灰	12.54-黄緑01035/5	透孔2個
449	014-01	弥生土器 / 土師器	高杯	411	0902	西	11.2	11.2	19.4	-	-	内・調整不明・ハケメ・ヨコナデ 外・調整不明	灰	12.54-黄緑01036/2	
470	009-02	弥生土器	高杯	411	0902	西	11.2	11.2	18.8	-	-	内・調整不明・ハケメ・ヨコナデ 外・調整不明	黒	黄 0306/1	
471	026-06	弥生土器 / 土師器	高杯	412	0913	-	-	-	-	-	-	内・調整不明・ハケメ・ヨコナデ 外・調整不明	灰	12.54-黄緑01037/3	透孔3個
472	024-02	弥生土器	杯蓋	409	0915	西	11.2	12.0	-	-	-	内・調整不明・ハケメ・ヨコナデ 外・調整不明	灰	0306/9	
473	026-08	弥生土器	高杯	417	0914	西	11.2	11.2	-	10.2	-	内・調整不明・ハケメ・ヨコナデ 外・調整不明	灰	0306/9	
474	024-05	土師器	小高杯	419	0912	西	11.2	11.2	14.2	-	-	内・調整不明・ハケメ・ヨコナデ 外・調整不明	灰	12.54-黄緑01036/1	
476	024-04	土師器	小高杯	419	0919	西	11.2	11.2	21.8	-	-	内・調整不明・ハケメ・ヨコナデ 外・調整不明	灰	022.1036/6	溝形鉄条
477	026-09	弥生土器 / 土師器	5字壺	420	0918	西	12.0	12.0	-	8.0	-	内・調整不明・ハケメ・ヨコナデ 外・調整不明	灰	12.54-黄緑01037/7	
478	024-06	弥生土器 / 土師器	蓋	425	0913	西	11.2	11.2	-	-	-	内・調整不明・ハケメ・ヨコナデ 外・調整不明	灰	12.54-黄緑01037/3	
479	026-07	陶器	瓶	421	0918	高野	12.0	11.2	5.6	-	-	内・調整不明・ハケメ・ヨコナデ 外・調整不明	灰	0306/1	泥質
480	026-02	陶器	浜貝器	439	0918	高野	12.0	11.2	5.8	-	-	内・調整不明・ハケメ・ヨコナデ 外・調整不明	灰	0306/1	
481	026-04	瓦輪陶器	瓦	440	0918	高野	12.0	11.2	6.4	-	-	内・調整不明・ハケメ・ヨコナデ 外・調整不明	灰	0306/1	
482	024-03	陶器	浜貝器	461	0918	高野	12.0	11.2	-	-	-	内・調整不明・ハケメ・ヨコナデ 外・調整不明	灰	0306/1	
483	025-07	弥生土器 / 土師器	高文付 高杯	439	0918	高野	11.2	11.2	-	-	-	内・調整不明・ハケメ・ヨコナデ 外・調整不明	中・黄	0306/1	
484	026-01	土師器	蓋	427	0918	高野	11.2	11.2	17.6	-	-	内・調整不明・ハケメ・ヨコナデ 外・調整不明	灰	12.54-黄緑01036/5	横打線
485	026-03	弥生土器 / 土師器	高杯	427	0918	高野	11.2	11.2	-	-	-	内・調整不明・ハケメ・ヨコナデ 外・調整不明	灰	12.54-黄緑01036/3	透孔3個
486	030-02	弥生土器 / 土師器	蓋	416	0918	高野	11.2	11.2	5.0	-	-	内・調整不明・ハケメ・ヨコナデ 外・調整不明	灰	12.54-黄緑01036/3	
487	030-01	弥生土器 / 土師器	副付	414	0918	高野	11.2	11.2	11.8	-	-	内・調整不明・ハケメ・ヨコナデ 外・調整不明	灰	12.54-黄緑01034/4	
488	026-02	土師器	蓋	415	0918	高野	11.2	11.2	19.0	-	-	内・調整不明・ハケメ・ヨコナデ 外・調整不明	灰	12.54-黄緑01037/1	5x1
489	030-03	弥生土器	杯蓋	415	0918	高野	11.2	11.2	-	-	-	内・調整不明・ハケメ・ヨコナデ 外・調整不明	灰	明赤01.035/6	内面鉄條
490	026-05	弥生土器 / 土師器	付付壺	418	0918	高野	11.2	11.2	-	-	-	内・調整不明・ハケメ・ヨコナデ 外・調整不明	灰	0306/1	
491	026-03	土師器	瓶	420	0918	高野	11.2	11.2	22.8	-	-	内・調整不明・ハケメ・ヨコナデ 外・調整不明	灰	12.54-黄緑01037/2	
492	026-03	弥生土器	杯蓋	420	0918	高野	11.2	11.2	11.8	-	-	内・調整不明・ハケメ・ヨコナデ 外・調整不明	灰	0306/1	
494	026-05	土師器	蓋	423	0918	高野	11.2	11.2	-	-	-	内・調整不明・ハケメ・ヨコナデ 外・調整不明	灰	12.54-黄緑01036/1	
495	023-01	弥生土器	高杯	423	0918	高野	11.2	11.2	-	-	-	内・調整不明・ハケメ・ヨコナデ 外・調整不明	黒	黄 0306/9	
496	025-05	土師器	蓋	424	0918	高野	11.2	11.2	3.2	-	-	内・調整不明・ハケメ・ヨコナデ 外・調整不明	灰	12.54-黄緑01037/4	胎土及び内面の ハケメ・5字壺に類似
497	023-04	弥生土器 / 土師器	付付壺	424	0918	高野	11.2	11.2	6.8	-	-	内・調整不明・ハケメ・ヨコナデ 外・調整不明	中・黄	022.1036/6	
498	026-04	土師器	杯蓋	424	0918	高野	11.2	11.2	11.0	-	-	内・調整不明・ハケメ・ヨコナデ 外・調整不明	灰	0306/1	
499	026-02	弥生土器 / 土師器	蓋	425	0918	高野	11.2	11.2	10.0	-	-	内・調整不明・ハケメ・ヨコナデ 外・調整不明	灰	12.54-黄緑01037/4	器内外面鉄條 のハケメ
500	027-07	弥生土器 / 土師器	蓋	425	0918	高野	11.2	11.2	5.9	-	-	内・調整不明・ハケメ・ヨコナデ 外・調整不明	灰	12.54-黄緑01037/5	
501	027-08	弥生土器 / 土師器	高杯	426	0918	高野	11.2	11.2	-	-	-	内・調整不明・ハケメ・ヨコナデ 外・調整不明	灰	12.54-黄緑01037/4	透孔2個

第三-15表 深田遺跡 (第3次) 遺物観察表3

報告番号	実測番号	種類	部位	地区	遺構層位	形状・残存状況	法量 (cm)			技法・文様の特徴・意匠	粘土質相	構成	色調	特記事項
							口径	直径	壁厚					
502	929-96	土師器	黒文付	425	印瓦葺	-	-	-	-	内:イダナ 外:イダナ・工高ノズミナガサ	黒	-	J2.54-黄緑S1006/3	
503	929-91	土師器	黒	425	印瓦葺	小片	-	-	-	内:イダナ・ナガサ 外:工高ノズミナガサ	黒	-	J2.54-黄緑S1006/4	
504	929-98	新式赤土	黒	425	印瓦葺	小片	-	-	-	内:ロコロコナガサ 外:ロコロコナガサ・短毛付(1)ナガサ・マダナ	中・黄緑 黒/黄緑砂質	-	1006/0・4/0	灰質
505	927-02	赤土上層 / 土師器	黒文付	427	印瓦葺	口縁小片	-	-	-	内:イダナ 外:ロコナガサ・短毛付(短毛付)・イダナ	黒	-	J2.54-黄緑S1007/3	
506	927-03	赤土上層 / 土師器	黒	427	印瓦葺	口縁小片	-	-	-	内:ナガサ・調整不明 外:ハクメ・調整不明・ハクメ後削突	黒	-	J2.54-黄緑S1007/2	灰質相S1007/2J2.54-黄緑S1007/1
507	927-05	赤土上層 / 土師器	黒文付	427	印瓦葺	口縁小片	-	-	-	内:ナガサ・ヨコナガサ 外:削突・ヨコナガサ	黒	-	J2.54-黄緑S1007/0	
508	927-96	赤土上層 / 土師器	黒	427	印瓦葺	口縁小片	-	-	-	内:工高ナガサ 外:扇縁直線突・ハクメ後削突	黒	-	J2.54-黄緑S1006/3	
509	927-04	赤土上層 / 土師器	黒	427	印瓦葺	口縁小片	11.0	-	-	内:イダナ・ヨコナガサ 外:ヨコナガサ・イダナ	黒	-	J2.54-黄緑S1006/3	
510	926-03	赤土上層 / 土師器	黒	427	印瓦葺	口縁小片	-	-	-	内:イダナ 外:ハクメ直線イダナ・ナガサ	黒	-	J2.54-黄緑 S1006/0	
511	926-04	赤土上層 / 土師器	黒文付	427	印瓦葺	口縁小片	-	5.1	-	内:イダナ 外:イダナ	黒	-	J2.54-黄緑S1007/3	底面外縁に短毛直線
512	926-06	赤土上層 / 土師器	黒	427	印瓦葺	口縁小片	-	-	-	内:ナガサ 外:ヨコナガサ・ナガサ	黒	-	J2.54-黄緑 S1007/0	
513	926-07	赤土上層 / 土師器	黒文付	427	印瓦葺	口縁小片	-	-	-	内:ナガサ 外:ナガサ・ハクメ	黒	-	J2.54-黄緑S1006/3	
514	926-05	土師器	黒	427	印瓦葺	口縁小片	-	-	-	内:ナガサ・ヨコナガサ 外:ヨコナガサ・ハクメ・調整不明	黒	-	J2.54-黄緑S1006/3	
515	926-02	赤土上層 / 土師器	黒文付	427	印瓦葺	削突	-	-	-	内:工高ナガサ	黒	-	J2.54-黄緑S1006/3	
516	929-01	赤土上層 / 土師器	高柄	427	印瓦葺	口縁小片	21.2	-	-	内:ハクメ直線イダナ・イダナ・ナガサ 外:ヨコナガサ・イダナ・ハクメ・扇縁直線突	黒	-	J2.54-黄緑S1006/3短毛S1006/1	透孔3個
517	926-01	赤土上層 / 土師器	高柄	427	印瓦葺	削突	-	-	-	内:ナガサ・シボ 外:ナガサ・イダナ	黒	-	J2.54-黄緑S1007/3	透孔3個
518	929-04	赤土上層 / 土師器	高柄	427	印瓦葺	削突	-	-	-	内:ナガサ 外:扇縁直線突・削突・ヨコナガサ	黄緑砂質	-	J2.54-黄緑S1006/3	透孔1個
519	927-01	赤土上層 / 土師器	黒	427	印瓦葺	口縁小片	16.8	-	-	内:イダナ・ヨコナガサ 外:ヨコナガサ・イダナ	黒	-	J2.54-黄緑S1006/3	
520	923-03	陶器	山形	440	印瓦葺	口縁小片	35.0	-	-	内:ロコロコナガサ 外:ロコロコナガサ	中・黄緑	良	灰白S106/1	

第Ⅲ-16表 深田遺跡(第3次)遺物観察表4

報告番号	実測番号	種類	地区	遺構・層位	法量 (mm)			重量 (g)	特記事項
					長	幅	厚さ		
392	302-04	磁石	47	S/K-39	5.5	3.8	0.7	38.0	No.1
393	302-03	磁石	47	S/K-39	6.5	6.1	4.9	24.1	No.1
396	006-03	磁石	411・12	S-1010	6.9	4.8	2.8	191.0	
402	021-06	磁石	423	S-1100	3.6	3.1	1.0	6.0	
403	021-06	磁石	423	S-1100	4.0	3.0	1.0	12.0	
404	021-07	磁石	423	S-1100	4.0	3.2	0.8	6.0	
475	021-01	磁石	419	P-14	15.05	-	-	406.0	
493	020-04	磁石	429	遺上	12.9	8.0	3.2	102.0	

第Ⅲ-17表 深田遺跡(第3次)石製品観察表

## 第IV章 双ツ塚西方遺跡

### 第1節 調査の概要

双ツ塚西方遺跡は、深田遺跡の東南側に隣接し、双ツ塚遺跡の西方に位置する。

今回の調査は、既設の道路内に新たに埋置する水路部分のみを対象としたもので、幅2m×延長252mの504㎡を調査した。

調査地が既設の道路部分であった関係上、調査区の上層は、厚さ20cm程度の表土（道路アスファルト

とその基盤となる砕石）より下に厚さ40～60cmの上下2層の造成土層があり、その直下が遺構検出面であった。つまり、遺構検出面は、後世の造成によって遺構面が削平された状態にある。

このため、遺構密度は非常に疎らで、溝2条、土坑5基、浅い落ち込み1箇所のみを確認したにとどまる。（穂積）

### 第2節 遺 構

**SD1** 幅3.8～4m、検出面からの深さ30cm程度の幅広の溝で、緩やかな掃鉢状の断面形状を呈する。調査区幅の制約で全体像が不明であるため、溝というよりも落ち込み状の遺構であったかもしれない。上層に灰黄色シルト、下層に灰黄褐色シルトが堆積している。埋土から少量の中近世の遺物が出土した。

**SD8** 調査区の西方で検出した幅0.4～0.5m、残存深8cmの溝で、削平のための溝の底面付近だけがかろうじて残存している。埋土は暗褐色シルトで、出土遺物はなかった。ただし、溝の主軸がN20°W程とわずかに西方向に傾いており、これは隣接する深田遺跡のSD18～21などの主軸とほぼ直交している。このことから、古代の地割に沿った溝であった可能性がある。

**SD9** 緩やかな落ち込み状遺構であるSZ2を掘りきった床面で検出された幅0.2～0.25m、残存深10cmの小溝である。溝の主軸はN20°Eである。出土遺物はなかった。

**SK3** 北側が調査区外となるが、東西1.12m、南北0.88m以上の略円形を呈し、検出面から深さ44cmを測る。埋土は黒褐色シルトと黒色シルトで、含有する粒度の違いで若干の偏差がある。壁面はほぼ垂直に立ち上がり、一部オーバーハングした部分があるが壁面崩落によるものであろう。所属時期不明の土師器細片1片のみ出土したが図示不能である。

**SK4** 長径1.5m×短径1.1m、残存深54cmの楕円形を呈する土坑である。先後関係は、SK5よりも

古い。埋土は、上層が黒色シルト、下層が黒褐色シルトである。埋土から、土師器甕の体下半部が出土した。古墳時代に属するものであろう。

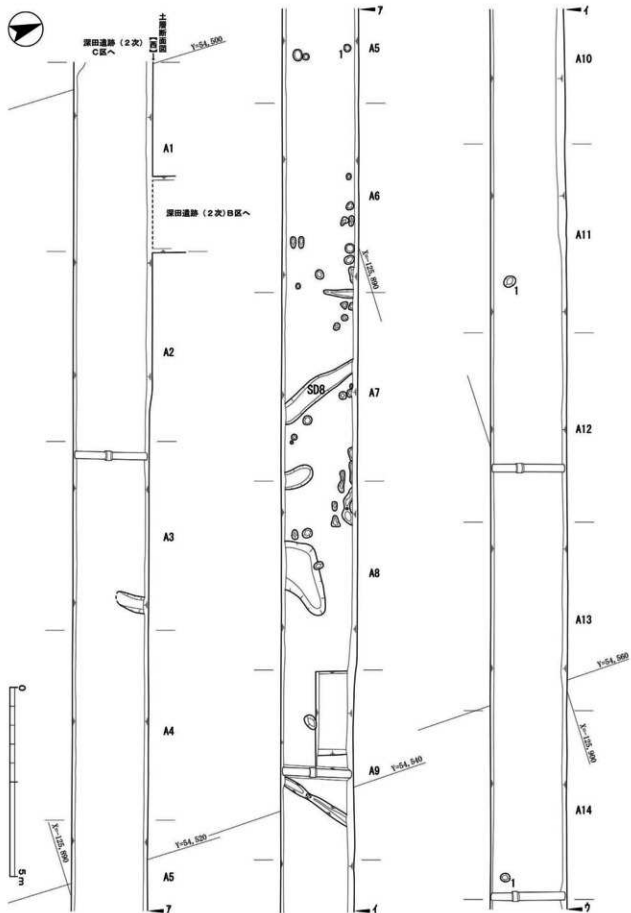
**SK5** SK4と重複する長径3.08m×短径1.28m、残存深32cm程の長楕円形を呈する土坑である。埋土は、黒色シルトで、底部近くは砂粒の含有が増す。先後関係はSK4よりも新しいが、遺物は出土せず、詳細時期は不明である。

**SK6** 南側が調査区外となるが、南北0.6m以上×東西0.68m、残存深0.28mの土坑である。埋土は、上層が黒色シルト、下層が黒褐色シルトで、常滑産とみられる陶器細片や瓦片が出土した。

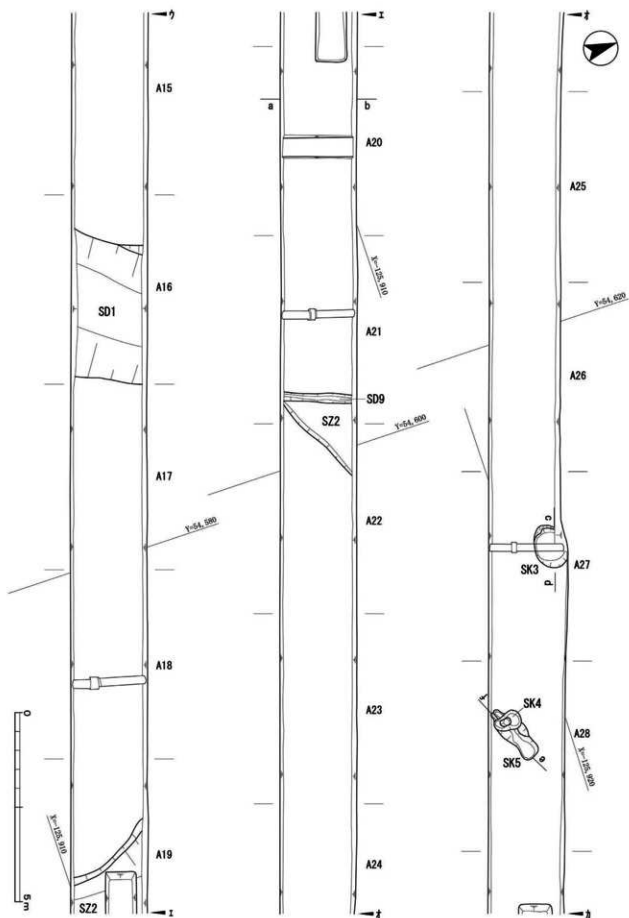
**SK7** 南側が調査区外となるが、南北0.72m以上×東西1.4m以上の土坑で、残存部は隅丸形状を呈する。埋土は黒褐色シルトと黒色シルトによる互層状を呈し、底面が平坦な箱形の掘り込みをもつ。埋土から、弥生時代後期の高杯脚部片が出土した。

**SZ2** 調査区西端から東へ91.6m付近から東へ向かって緩やかに低くなっていく落ち込みである。落ち際から東へ2.8mで40cmほど落ち込み、以東はその高さをほぼ維持する。埋土は、上層の灰黄褐色シルト、中層の褐色シルト、下層の黒褐色シルトと続き、中層は部分的なレンズ状の堆積である。

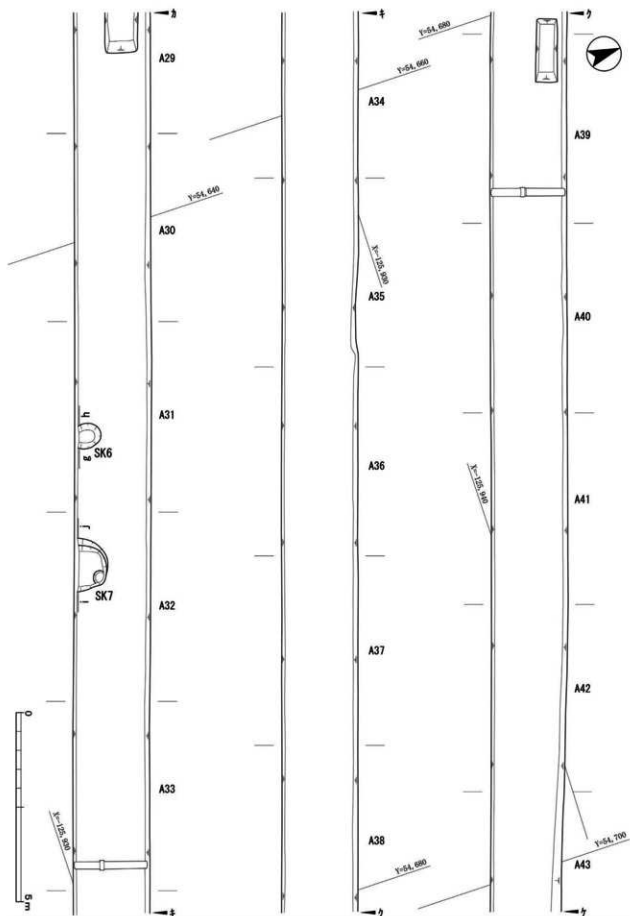
遺物は、西端の落ち際を中心に出土し、古墳時代の埴輪や土師器、須恵器、中近世の遺物まで幅広い時期を含む。（穂積）



第IV-1 図 双ツ塚西方遺跡平面図 1 (1:100)



第IV-2図 双ツ塚西方遺跡平面図2 (1:100)



第IV-3図 双ツ塚西方遺跡平面図3 (1:100)

### 第3節 遺物

#### SD1出土遺物（1～2）

1は、瀬戸産陶器の半胴甕である。底部付近の胴部で、黒色の軸が垂れてきている。2は、在地系の土師器羽釜の鏝部破片で、内外面ともにナデ・オサエ調整による。

#### SZ2出土遺物（3～19）

大きく古墳時代と中世後期（戦国期）の2時期の遺物を包含する。

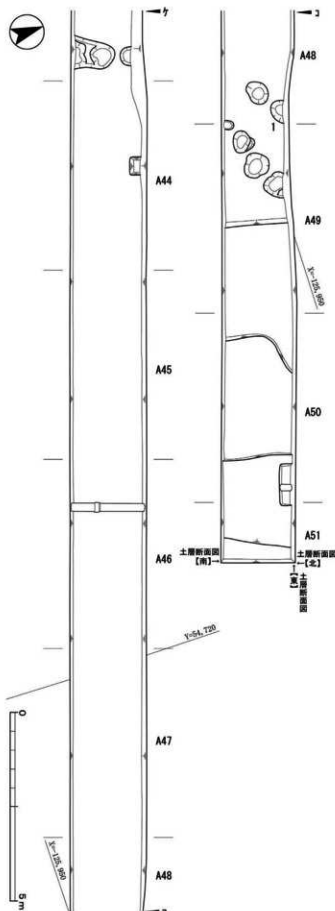
3は、須恵器杯蓋の小片である。丸みをもつ天井部の裾廻りに波状文を巡らせている。6世紀初頭前後の所産であろう。

4～10は、埴輪である。4は、外側に開く形状から、朝顔形埴輪意部の1次口縁部とみられる。5～9は、円筒埴輪片で、5が口縁部、6～8が体部、9が底部片である。6は風化のため調整不明だが、5・7にはヨコハケが施され、7はB種ヨコハケである。8・9は二次調整が省略され、一次調整のタテハケだけが残るが、施文方向が異なっており、別個体である。10は、円筒埴輪にも似るが、筒状となる曲面はなく、家形埴輪などの形象埴輪の可能性が高い。

11～17は、戦国期を中心とした土器・陶磁器類である。11は、灰白色の軸が掛けられた瀬戸美濃産陶器の丸皿で、内面に鍔をもつ。16世紀前半の大塚2期の所産であろう。12も、オリーブ黄色の軸が掛けられた古瀬戸ないしは瀬戸美濃産陶器である<sup>10)</sup>。下部は高台もしくは台状にせり出し始めており、器種としては仏供ないしは小杯になるとみられる。13も瀬戸美濃産陶器の椀で、オリーブ黄色の軸が掛けられているが、削り出しによる高台の端部には掛かっていない。14は、陶器の短頸壺で、口唇部に刻みを入れて加飾している。15は、常滑産陶器の片口鉢の底部で、内面は使用によって摩擦しており、捏鉢として使用されたとみられる。16も常滑産陶器で、口縁部片である。17は、在地系の土師器・羽釜である。ハケはなく、ナデ調整である。

18は、平瓦片である。内面には布目痕、外面には横方向の工具によるナデ（板ナデ）痕が残る。

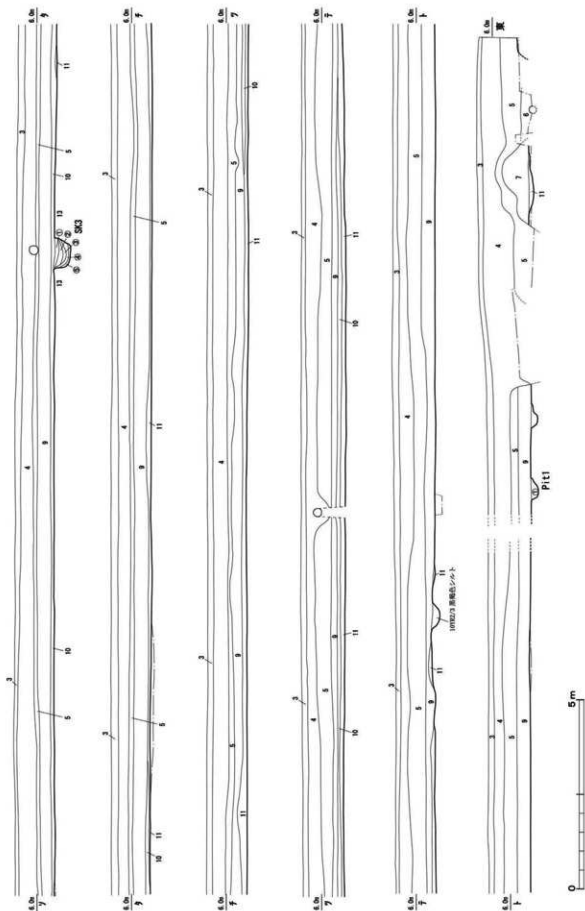
19は、大形土製品で、立直する後脚とその周辺の



第IV-4図 双塚塚西方遺跡平面図4 (1:100)

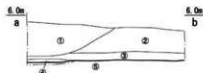






第IV-6図 双ツ塚西方遺跡土層断面図2 (1:100)

## SZ2



- ① 10194/2 灰黄褐色～10194/3 濃い黄褐色シルト～細粒砂、径2～6mmの礫を5%、径10mmまでの微細鉄分粒を10%含む。木炭粒が点在（底層部、②と土質同じ）  
 上層部成土の影響を受けたか  
 ② 10194/1 褐色シルト～細粒砂、径2～6mmの礫を5%、径10mmまでの微細鉄分粒を10%含む。木炭粒が点在（底層部、①と土質同じ）  
 ③ 10194/1 褐色シルト（底層部）  
 ④ 10193/1 黒褐色シルト～細粒砂（包含層）  
 ⑤ 1016/1 灰色シルト（地山）

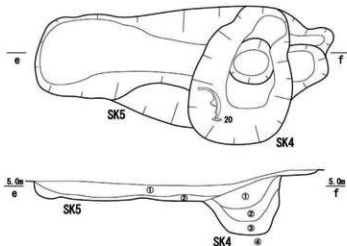


## SK3



- ① 10192/2 黒褐色シルト～細粒砂、径10mmまでの微細鉄分を15%含む  
 ② 10192/1 褐色シルト～細粒砂、径5mmまでの微細鉄分を25%含む  
 ③ 10191/1 褐色シルト、やや締まり弱い  
 ④ 10192/2 黒褐色シルト～細粒砂  
 ⑤ 10192/2 黒褐色シルト～細粒砂、径5～10mm、10194/3 濃い黄褐色～10194/2 灰黄褐色のシルトブロックを30%含む  
 ⑥ 2.016/1 黄灰色シルト、径10mmまでの鉄分が階段状に広がる（地山）  
 ⑦ 10194/3 濃い黄褐色シルト、径2～3mmの鉄分粒・マンガン粒を30%含む（地山）

## SK4・5



## SK5

- ① 10192/1 黒色シルト  
 ② 10193/2 黒色シルト、径8mmまでのシルトブロック（10193/4 暗褐色）を40%含む

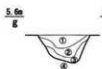


## SK4

- ① 10192/1 黒色シルト径8mmまでのシルトブロック（10193/3 暗褐色）を5%含む  
 ② 10192/2 黒褐色シルト、径8mmまでのシルトブロック（10193/3 暗褐色）を15%含む  
 ③ 10192/2 黒褐色シルト、径2～10mmのシルトブロック（10193/1 黒灰色）を30%含む  
 ④ 10193/1 黄灰色シルト

※SK4 全体が成土上の汚染を受けている

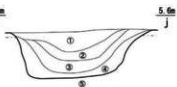
## SK6



- ① 10191/1 褐色シルト、やや締まり弱い  
 ② 10192/1 褐色シルト  
 ③ 10192/1 黒褐色シルト、径3～10mmの10194/2 灰黄褐色シルトブロックを30%含む  
 ④ 2.016/1 黄灰色シルト、径8mmまでの鉄分粒を5%含む（地山）

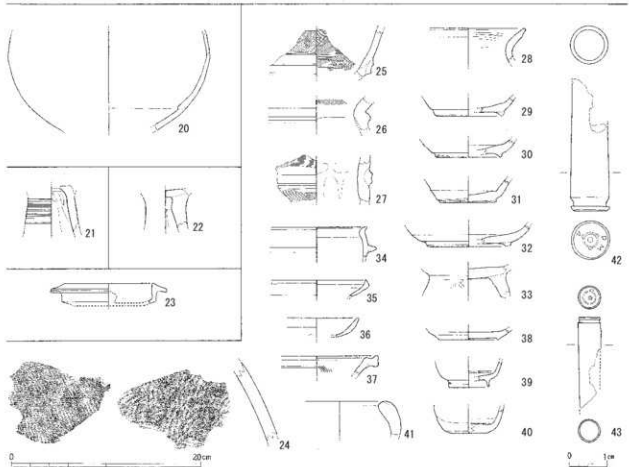
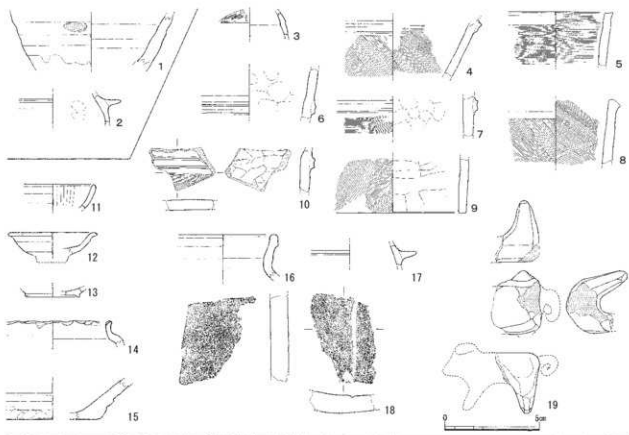


## SK7



- ① 2.012/1 黒褐色シルト  
 ② 10191/1 褐色シルト、やや締まり弱い  
 ③ 10192/1 褐色シルト  
 ④ 10192/2 黒褐色シルト、径10～50mm、2.014/1 黄灰色～2.015/2 灰黄褐色のシルトブロックを30%含む  
 ⑤ 016/1 灰色シルト（地山）

第IV-7図 双ツ塚西方遺跡SZ2・SK3～7平面図・断面図（SK4・5は1:20、それ以外は1:40）



第IV-8図 双ツ塚西方遺跡遺物実測図(19は1:2、42・43は1:1、それ以外は1:4)

破片である。本来、大形土製品は、垂れた耳と巻いた尻尾など日本犬の特徴を有するが、本例は現品のみの破片資料であり、頭部付近の破片は見つからなかった。

#### SK4 出土遺物 (20)

土師器甕もしくは壺の体下半部片である。風化が著しく詳細な調整は不明であるが、薄く仕上げられており、埴輪とはほぼ同時期の古墳時代後期頃の所産であろう。

#### SK7 出土遺物 (21)

弥生時代後期の高杯脚部片である。脚柱部上部に直線文による加飾があり、山中中期の所産であろう。

#### A48pit 1 出土遺物 (22)

土師器の高杯脚部片である。杯底部に脚上部を直接貼り付けている。古墳時代の所産であろう。

#### A7pit 2 出土遺物 (23)

瀬戸美濃産もしくは信楽伊賀産の土瓶蓋である。淡黄色の釉が掛けられている。

#### 包含層等出土遺物 (24~43)

24は、須恵器大甕の胴部片である。

25~27は、埴輪片で、25~26は朝顔形埴輪片、27は円筒埴輪片である。

28は、土師器甕の口縁部片で、口縁端部がヨコナデによる外斜面をもつ。古墳時代後期~古代の所産であろう。

29~32は、山茶碗で、いずれもモミガラ庄痕をもつ。33も山茶碗質の焼成で、台付の鉢であろう。

34~36は、中世後期の土師器である。34は羽釜、35は南伊勢系の鍋、36は皿である。

37~41は、戦国期から近世の陶器・陶磁器類である<sup>19</sup>。37は、瀬戸産陶器の楯鉢、38は削り出し高台で施軸の椀、39は肥前産陶磁器の椀で近世の所産、40は施軸の椀で、生地が白色系の色調を呈している。41は、常滑産陶器の火鉢で、近世の所産である。

42・43は、太平洋戦争で使用されたとみられる機銃弾の空薬莖である。42は、断面径が20mmで基部に「DM4」の刻印があり、これは米国のDes Monies Ordnance Plant (米軍の兵器工場) 1944年製造の略とみられ<sup>19</sup>、米軍機の13mm機銃弾、43は断面径が12mmで、日本軍の7.7mm機銃弾のものとみられる。(総稿)

## 第4節 小 結

### 1 遺構について

神戸段丘南段丘が北側へ派生した小支尾根は、双ツ塚西方遺跡よりも西側にある深田遺跡と、東側にある双ツ塚遺跡へ潜り込んでおり、双ツ塚西方遺跡はこの間の谷状部に相当している。そのため、遺構形成は極めて疎らで、ごく少数の溝や土坑があったに過ぎない。SZ2とした浅い落ち込みも、当地の谷状地形に照応した低湿部ということができよう。とはいえ、双ツ塚西方遺跡の遺構数の乏しさは、立地のみに起因するわけではない。第1節で述べたように、本遺跡は前回の圃場整備による工事で上部が相当削平された状況にあり、この影響もあって本来の遺構面が削平され、相当数の遺構が滅失したとみられる。

このうち、SZ2や包含層から、円筒埴輪や朝顔形埴輪が出土したことは注目できる。SZ2における埴輪出土状況は、後世の遺物と混在した状態での出土であり、SZ2自体が古墳周溝などの古墳関連遺構であった可能性は乏しいが、本調査区ないしは

その周辺に6世紀初頭前後の古墳が散在していた可能性は考慮してよからう。

### 2 遺物について

SZ2出土遺物のうち、大形土製品は、これまで三重県では伊勢国司家・北畠氏の居館とされる津市多気北畠氏遺跡六田館跡をはじめ、国人領主・関氏の居館であった亀山市正法寺山荘跡、中勢地域の有力国人・長野氏の縁で有力被官であった雲林院氏の関連施設とみられる下川遺跡、北勢地域の有力国人・赤堀氏の居館であった赤堀城跡、伊賀の領主層の居館である伊賀市の小泉氏館跡・箕升氏館跡・風呂谷館跡や土符・銚造遺構の出土から領主層との関係が想定される火山遺跡など、在地支配者層の居館とその関連遺跡での出土事例が圧倒的である<sup>16</sup>。居館関連以外の出土例としては、津市位田遺跡や明和町斎宮跡、松阪市釜生田遺跡、伊賀市印代東方遺跡があるが、これらも有力な中世建物の存在など、在地支配層の関連遺跡であった可能性が高い。双ツ塚西方遺跡の大形土製品も、破片ではあるがこれら県

内出土の犬形土製品の特徴と基本的に共通しており、周辺部に居館など領主層に関わる施設が存在していた可能性がある。

さて、双ツ塚西方遺跡の出土品で注目できる遺物として、13mm機銃と7.7mm機銃の葉莖がある。このうち、13mm機銃弾葉莖は、基部に「DM4」の刻印を有することから米國製のDes Monies Ordnance Plantで1944年に製造された機銃弾葉莖とみられ、同様のものが鹿児島鹿屋市の前畑遺跡からも出土している<sup>11)</sup>。前畑遺跡は、海軍の特攻拠点があった鹿屋航空基地（鹿屋飛行場）の北方2kmに所在する遺跡であり、機銃弾は鹿屋飛行場をめぐる日米の航空戦闘に関わる遺物とみられる。

双ツ塚西方遺跡の南には、かつて第二鈴鹿海軍航空基地と海軍の重戦闘機・雷電などを生産していた

三菱航空機工場があり、出土地東側の双ツ塚遺跡には基地や工場の防衛を担った対空砲台も設置されていた<sup>12)</sup>。先の大戦末期の昭和20年4月には鈴鹿の海軍施設が空襲を受け、また7月には潮岬から侵入した米軍機（陸軍のP51 Mustang等）に対して三重県伊勢市（旧小浜町）にあった明野陸軍航空隊の陸軍戦闘機・五式戦などが迎撃に上がり、津から四日市上空で激しい空戦が行われている<sup>13)</sup>。

双ツ塚西方遺跡から出土した2種類の葉莖も、米軍機と、迎撃の日本軍機（ただし五式戦には7.7mm機銃は未搭載、海軍の零戦などが候補）による空戦に伴って発射された機銃弾の葉莖が落ちたものとみられる。当地でも太平洋戦争に伴う戦闘が行われたことを如実に示す遺物といえよう。（穂積）

## 註

- 愛知県史編さん委員会2007『愛知県史 別編築業2中世・近世 瀬戸系』愛知県
- 前掲註(1) 文献の他、大橋康二1989『肥前陶磁』（考古学ライブラリー55）ニューサイエンス社、愛知県史編さん委員会2012『愛知県史 別編築業3 中世・近世 常滑系』愛知県を参照
- 四日市市教育委員会 山本達也氏（当時）のご教示による
- 県内の犬形土製品に関する集成・論考として、下記文献を参照した。倉田直純1990『B. 犬形土製品につ

- いて』『伊勢寺遺跡・下川遺跡ほか』三重県埋蔵文化財センター
- 鹿児島県立埋蔵文化財センター2008『一般国道220号鹿屋バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(X) 前畑遺跡II』
- 浅尾悟2015『鈴鹿市の戦争遺跡』鈴鹿市の戦争遺跡を保存・平和利用する市民の会
- 雲井保夫2015「三重県上空の空戦 昭和20年7月16日」『三重ふるさと新聞』（furusato-shinbun.jp/2015/07/02-45.html）

発出番号	発掘番号	種類	種別	地区	遺跡名称	出土状況	計測値 (cm)			特殊・文様の特徴	出土高	状態	色調	特記事項
							口径	口径	長さ					
1	001-01	陶器	手形磁	A16	S D 1	発掘 未詳	-	-	-	内・コナコナデ 外・コナコナデ・丸縁	径 11.1 (mm) 砂粒混合	良好	遺跡： 西白 田71 敷1・瓦 3000/2	鹿子 手形取り打 磁器
2	001-02	土器類	団茶	A16	S D 1	小片	-	-	-	内・オオエ・コナデ 外・筒形打付け磁コナデ	径 11.2 (mm) 砂粒混合	-	11.2 (mm) 3000/4	磁器片
3	001-07	磁器類	伊蓋	A19	S Z 2	小片	-	-	-	内・コナコナデ 外・コナコナデ・丸縁文	径 11.1 (mm) 砂粒混合	良好	11.1 (mm) 3000/1・2/3	-
4	002-05	磁器類	磁碗類	A19	S Z 2	-	-	-	-	内・ハクメ 外・筒形打付け磁コナデ・ハクメ	径 11.3 (mm) 砂粒混合	-	11.3 (mm) 3000/6	磁器片
5	002-07	磁器類	内筒	A20	S Z 2	-	-	-	-	内・ハクメ 外・筒形打付け磁コナデ・ハクメ	径 11.3 (mm) 砂粒混合	-	11.3 (mm) 3000/7	-
6	002-08	磁器類	内筒	A21	S Z 2	-	-	-	-	内・ハクメ 外・筒形打付け磁コナデ・丸縁	径 11.3 (mm) 砂粒混合	-	11.3 (mm) 3000/8	-
7	002-03	磁器類	内筒	A19	S Z 2	-	-	-	-	内・オオエ 外・筒形打付け磁コナデ・ハクメ	径 11.1 (mm) 砂粒混合	-	11.1 (mm) 3000/4	-
8	002-01	磁器類	内筒	A21	S Z 2	口縁部 小片	-	-	-	内・ハクメ・コナデ 外・コナコナデ・ハクメ	径 11.1 (mm) 砂粒混合	-	11.1 (mm) 3000/7	-
9	002-06	磁器類	内筒	A20	S Z 2	底面 小片	-	-	-	内・エダコナデ 外・ハクメ・ケズリ	径 11.1 (mm) 砂粒混合	-	11.1 (mm) 3000/8	-
10	002-01	磁器類	伊蓋	A20	S Z 2	-	-	-	-	内・オオエ・コナデ 外・筒形打付け磁コナデ・ハクメ	径 11.1 (mm) 砂粒混合	-	11.1 (mm) 3000/4・2/3	-
11	002-03	陶器	A.瓦	A20	S Z 2	小片	-	-	-	内・筒形 外・筒形	径 11.1 (mm) 砂粒混合	良好	瓦葺 3000/2	鹿子文様
12	002-05	陶器	瓦	A20	S Z 2 アセ	口縁部 1/12	8.0	-	-	内・筒形 外・筒形	径 11.1 (mm) 砂粒混合	良好	遺跡： 西白 田71 敷1・瓦 3000/2	鹿子 手形取り打 磁器
13	002-04	陶器	瓦葺 または 小椀	A20	S Z 2	底面 2/12	-	3.4	-	内・筒形 外・筒形・底面打付け磁コナデ	径 11.1 (mm) 砂粒混合	良好	遺跡： 西白 田71 敷1・瓦 3000/2	古瓦葺または 鹿子文様

第IV-1表 双ツ塚西方遺跡遺物観察表 1

報告番号	資源番号	種類	群種	地区	遺構階位	副産物存在	計測値 (cm)			技法・文様の特徴	粘土素地	構成	色調	特記事項	
							口径	底径	高さ						
14	001-05	陶器	須知盆	Ad-29	S 2.3	上層	以原土成形	-	-	-	内:ロクロナデ 外:手ナデ・ロクロナデ	赤(黄砂粘着行)	良好	内面:浅黄緑 外面:白 2.000/3	
15	001-04	陶器	鉢鉢	A30	S 2.2	小片	-	-	-	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・オオエ・ナデ	赤(～1.5mm 砂粘着行)	良好	内面:浅黄緑 外面:白 2.000/4	裏面 内面研削
16	001-06	陶器	蓋	A20	S 2.2	小片	-	-	-	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ	赤(～1.5mm 砂粘着行)	良好	1999/2 1999/1	裏面
17	001-03	土師器	日皿	A30	S 2.2	小片	-	-	-	-	内:ナデ 外:脚取り付け後ロクロナデ	赤(～1.5mm 砂粘着行)	-	12.01-黄緑 1.999/4	縁付き
18	001-06	瓦	平瓦	A20	S 2.2	-	-	-	-	-	内:ナデ 外:手ナデ	赤(～1.5mm 砂粘着行)	良好	12.01-黄緑 1.999/1	
19	001-02	土製品	土製山	K30	S 2.2	表面	-	-	-	-	内:ナデ 外:手ナデ	赤(～2.5mm 砂粘着行)	-	12.01-黄緑 1.999/2	
20	006-01	土師器	埴土の 口蓋	A20	S K.4	-	-	-	-	-	内:脚端 外:脚端	赤(～1.5mm 砂粘着行)	-	12.01-黄 1.999/4	縁付き
21	003-07	土師器	高杯	A32	S K.7	底面 外:口	-	-	-	-	内:手ナデ・ナデ 外:脚端成形	赤(～1.5mm 砂粘着行)	-	12.01-黄 1.999/1	
22	006-02	土師器	高杯	A40	P14	-	-	-	-	-	内:ナデ・脚端成形 外:脚端成形	赤(～1.5mm 砂粘着行)	-	12.01-黄 1.999/4	
23	006-03	陶器	蓋	A.7	P12	口縁部 1/12	K.4	-	-	-	内:脚端 外:脚端・ロクロナデ	赤	良好	1999/2.000/3	裏面:土製または 口蓋
24	001-01	磁器類	蓋	A30	包灰層	底面 小片	-	-	-	-	内:オオエ(同心円) 外:オオエ成形	赤(～2.5mm 砂粘着行)	良好	内面:灰 外面:灰白 2.000/1	
25	005-08	磁器	燗瓶	A20	包灰層	小片	-	-	-	-	内:ハタメ 外:ハタメ・脚端成形	赤(～2.5mm 砂粘着行)	-	内面:粉 1999/8 外面:12.01-黄 1.999/2	
26	001-04	磁器	燗瓶	A22	包灰層	小片	-	-	-	-	内:ハタメ・ナデ 外:オオエ成形	赤(～2.5mm 砂粘着行)	-	12.01-黄 1.999/1	
27	005-05	磁器	日皿	A20	包灰層	小片	-	-	-	-	内:オオエ・ナデ 外:ハタメ・脚端成形	赤(～1.5mm 砂粘着行)	-	1999/4 1.999/1	
28	005-02	土師器	甕	A30	包灰層	小片	-	-	-	-	内:ハタメ・ナデ 外:ロクロナデ	赤(～1.5mm 砂粘着行)	-	1999/4 1.999/6	
29	001-05	陶器	山系瓶	A22	包灰層	底面 3/12	-	6.0	-	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・高台部成形	赤(～1.5mm 砂粘着行)	良好	灰白 1.999/1	自然釉
30	001-09	陶器	山系瓶	A40	包灰層	底面 3/12	-	6.0	-	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・高台部成形	赤(黄砂粘着行)	良好	灰白 1999/1	内面研削
31	001-08	陶器	山系瓶	A30	包灰層	口縁部 1/12	-	6.0	-	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・高台部成形	赤(～1.5mm 砂粘着行)	良好	灰白 1.999/1	
32	001-07	陶器	山系瓶	A30	包灰層	底面 1/12	-	6.0	-	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・高台部成形	赤(～2.5mm 砂粘着行)	良好	灰白 1.999/1	内面研削
33	001-06	陶器	付鉢鉢	A30	包灰層	口縁部 1/12	-	-	-	-	内:手ナデ 外:ハタメ・ナデ・高台部成形	赤(～1.5mm 砂粘着行)	全・赤 9/4	内面:粉 1999/1 外面:12.01-黄 1.999/2	
34	005-03	土師器	日皿	A27	包灰層	口縁部 全片	-	-	-	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ・脚端成形	赤(～1.5mm 砂粘着行)	-	内面:粉 1999/1 外面:12.01-黄 1.999/2	
35	001-12	土師器	甕	A40	包灰層	小片	-	-	-	-	内:ロクロナデ 外:ロクロナデ	赤(～1.5mm 砂粘着行)	-	12.01-黄緑 1999/2	縁付き
36	001-03	土師器	甕	A27	包灰層	小片	-	-	-	-	内:ナデ・ロクロナデ 外:ロクロナデ・オオエ	赤(～1.5mm 砂粘着行)	-	12.01-黄 1.999/4	
37	001-01	陶器	鉢鉢	A40	包灰層	小片	-	-	-	-	内:ロクロナデ・脚端 外:ロクロナデ・脚端	赤(黄砂粘着行)	良好	表面:灰白 1.999/2 縁:埋込 1999/2	
38	001-10	陶器	甕	A30	包灰層	底面 外:口	6.0	-	-	-	内:ロクロナデ・脚端 外:ロクロナデ・脚端・縁部・縁部成形	赤(～2.5mm 砂粘着行)	良好	12.01-黄 1.999/2	縁付き
39	001-04	磁器	甕	A.3	包灰層	底面 外:口	6.0	-	-	-	内:ロクロナデ・脚端 外:ロクロナデ・脚端	赤	良好	12.01-黄 1.999/1	肥前
40	001-11	陶器	甕	A.1	包灰層	底面 外:口	3.8	-	-	-	内:ロクロナデ・脚端 外:ロクロナデ・脚端・赤台部成形	赤(黄砂粘着行)	良好	灰白 1999/2	
41	001-02	陶器	鉢鉢	A.3	包灰層	小片	-	-	-	-	内:ナデ 外:ナデ	赤(赤色粘着行)	良好	12.01-黄 1.999/6	裏面

第IV-2表 双ツ塚西方遺跡土物観察表2

報告番号	資源番号	群種	地区	遺構階位	計測値 (cm)			重量(g)	特記事項	
					長/径	幅/底	厚			
42	006-04	鉄製品	裏面	A.3	包灰層	-	2.0	0.18	7.82	DM4の埋まりあり。実重量の13mm増分あり
43	006-05	鉄製品	裏面	A.20	包灰層	-	1.2	0.9	38.13	日本製の7.7mm増分あり

第IV-3表 双ツ塚西方遺跡金属製品観察表

## 第V章 中島遺跡

### 第1節 調査の概要

中島遺跡は、深田遺跡の東側に隣接し、双塚遺跡の北方に位置する。

今回の調査は、既設の道路内に新たに埋置する水路部分を対象としており、複数の調査区に分かれる。工事区間にあわせてA～H区を設定した。

A区は東西に長い調査区で、西端は深田遺跡（第3次）D区東端に接している。B区・D区は金沢川寄りに位置する東西に長い調査区で、B区西端がD区東端と接する。B区とD区が接する箇所から南へ南北方向に長いE区があり、E区南端の南にG区が繋がっている。E区・G区の境界から西へ延びるのがC区である。G区南端から西へ延びるのがF区、東へ延びるのがH区である。幅が狭いものの遺跡内

を縦断・横断し、調査区によって微高地・微凹地などの地形の変化を確認することができた。

A区東半・B区西半・D区東半・F区は、微高地にあたり、検出面はA・F区が標高約5m、B・D区が約4.5mとなる。基本層序はA・F区が表土及び造成土直下で遺構検出面に達する。B区は造成土以下に暗オリーブ褐色粘土、灰黄褐色シルト、黒色粘土が堆積する。D区が造成土以下に黒色粘土や黒褐色シルトが堆積している。A区西半・B区東半・C区・D区西半・E区は低くなり、検出面が標高3.8～4.2mとなる。埋土は各調査区によって異なるが、概ね黄灰色～暗オリーブ褐色粘土、黒褐色粘土、黒色粘土等が堆積している。（原田）

### 第2節 遺構

ここでは遺構の概要について記述する。詳細は遺構一覧表を参照されたい。

**SZ1** A1・2で検出した幅7.6m以上、検出面からの深さ44cmの落ち込み状を呈する。黄灰色粘質土、黒褐色粘質土、灰白色粗砂にぶい黄色シルト等が薄く堆積する。同様の堆積状況は、深田遺跡第3次調査d49地区まで認められ、少なくともそこまで広がっていたと思われる。

**SD2** A4・5で検出した幅3.97m、深さ32cmの溝である。底部付近で南側に平坦面をもつ。向きはN25°Eである。埋土から、土師器小片が出土した。

**SD3** A6・7に位置する。向きはN72°Eである。SD3の東層は下がり約1.2m東にSD4がある。土層からSD3埋没後にSD4が機能していたと思われる。

**SD4** A7で検出した幅1.56m、深さ43cmの断面形がU字状の溝で、向きはSD3とほぼ同じである。出土遺物のうち図示できたのは陶器折縁皿である。

**SD5** A15・16で検出した幅0.85m、深さ25cmの緩い傾斜をもつ溝である。向きはN90°である。室町時代の遺物を中心に出土している。

SD5より東はかく乱が多く、遺物の出土が希薄になる。また、調査区が狭小であるため、崩落の危険を避けるため、施工深までの深さで調査をし、必要に応じて部分的に地山面の確認を行った。

**SD6** A33で検出した幅0.7m、深さ19cmの南側が緩く傾斜した溝である。向きはN0°である。出土遺物は認められず、時期不明である。

**SK101** B1で検出した南北0.59m×東西1.3m以上、深さ1.03mと規模の割に深い。底は湧水層に達し、完掘後は常に湧水していた。埋土から弥生土器が出土した。最下層から出土した炭化材は、ツバキ属であった。

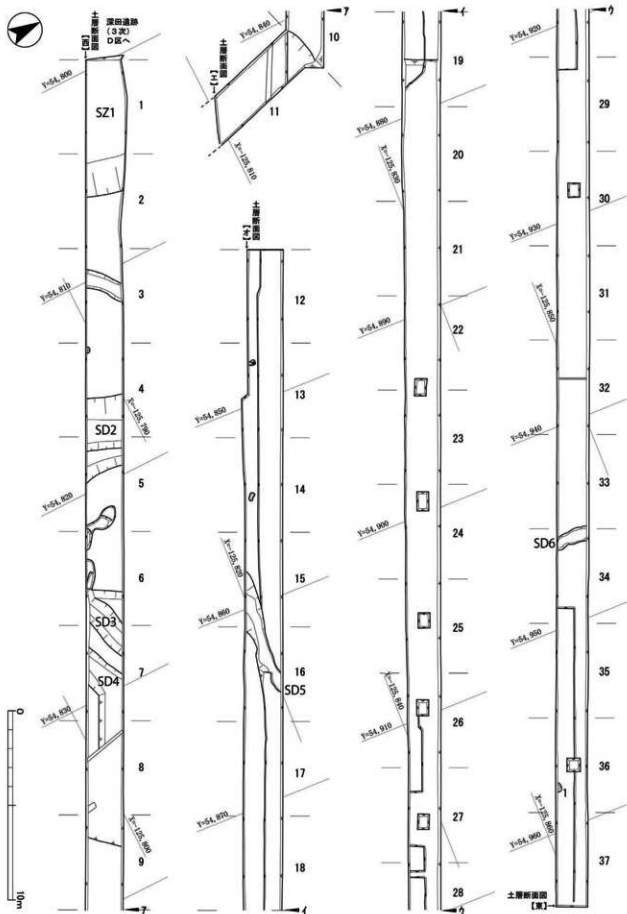
**SD102** B1・2で検出した幅0.26m、深さ22cmの溝である。向きはN60°Wである。SK104より古い。

**SK103** B1・2で検出した南北0.9m以上、1.1m以上、深さ5cmの円形土坑である。土師器が少量出土した。

**SK104** B2で検出した南北1.9m以上×東西1m以上、深さ3cmの浅い方形とみられる土坑である。

**SK105** B2で検出した南北1m以上×東西2.2m、

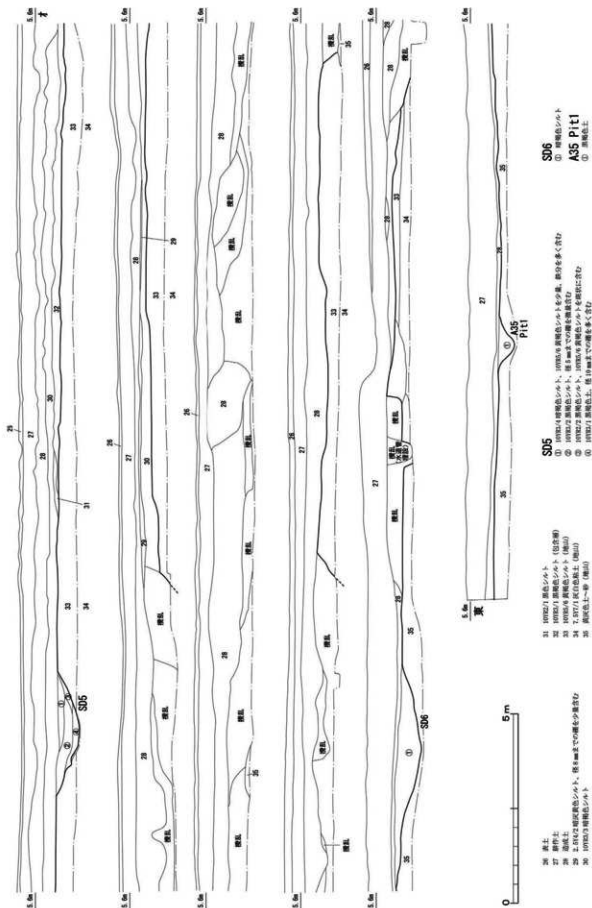




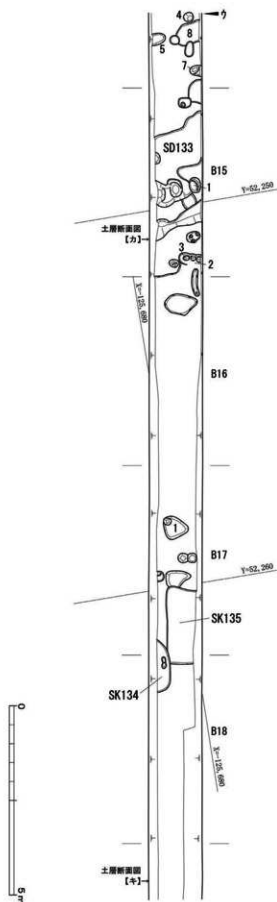
第V-1图 中島遺跡A区平面図(1:200)



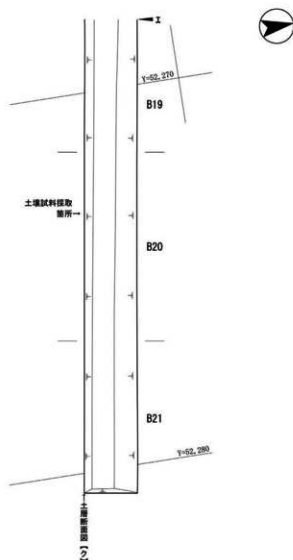
第V-3図 中島遺跡A区土層断面図2 (1:100)







第V-5図 中島遺跡B区平面図2 (1:100)



深さ3cmの浅い不整形の土坑である。

**SK106** B3で検出した南北2.2m×東西1m以上、深さ8cmの不整形な土坑である。

**SK107** B4で検出した南北0.52m以上×東西1.5m以上、深さ6cmの土坑である。すべてを確認したわけではないが、隅丸方形になるとみられる。

**SK108** B4で検出した南北0.55m以上×東西1.45m、深さ5cmの土坑である。平面プランは長楕円形になるとみられる。

**SK109** B5・6で検出した南北1.15m以上×東西2.35m、深さ3cmの浅い土坑である。埋土に焼土を含む。SK111より新しい。平面プランでは東端が不明瞭である。埋土から出土した炭化材を分析したところ、トチノキに同定された。SK109の東側の北壁でカマドとみられる焼土塊(SF137)を確認したが、SK109との関連は不明である。

**SK110** B6で検出した南北1.15m以上×東西2.7m、深さ4cmの不整形な土坑である。



【北壁】

- SK112 ① 1.00m/1 黒褐色シルト
- ② 1.00m/1 黒褐色シルトに厚1.0mの珪石がはいり混濁砂状土
- ③ 1.00m/1 黒褐色シルト
- ④ 1.00m/1 黒褐色シルトに厚1.0mの珪石がはいり混濁砂状土
- ⑤ 1.00m/1 黒褐色シルト

B7 Pt15

- ① 1.00m/1 黒褐色シルトに厚1.0mの珪石がはいり混濁砂状土

B7 Pt16

- ① 1.00m/1 黒褐色シルトに厚1.0mの珪石がはいり混濁砂状土

SD13

- ① 1.00m/1 黒褐色シルトに厚1.0mの珪石がはいり混濁砂状土

SD14

- ① 1.00m/1 黒褐色シルトに厚1.0mの珪石がはいり混濁砂状土

SK117

- ① 1.00m/1 黒褐色シルトに厚1.0mの珪石がはいり混濁砂状土

B10 Pt16

- ① 1.00m/1 黒褐色シルトに厚1.0mの珪石がはいり混濁砂状土

SK121

- ① 1.00m/1 黒褐色シルトに厚1.0mの珪石がはいり混濁砂状土

SK119

- ① 1.00m/1 黒褐色シルト

B10 Pt13

- ① 1.00m/1 黒褐色シルト

SK120

- ① 1.00m/1 黒褐色シルト

B10 Pt11

- ① 1.00m/1 黒褐色シルト

SD18

- ① 1.00m/1 黒褐色シルト

SK126

- ① 1.00m/1 黒褐色シルト

SK123

- ① 1.00m/1 黒褐色シルト

B11 Pt12

- ① 1.00m/1 黒褐色シルト

SD19

- ① 1.00m/1 黒褐色シルト

B12 Pt13

- ① 1.00m/1 黒褐色シルト

SD130

- ① 1.00m/1 黒褐色シルト

B12 Pt19

- ① 1.00m/1 黒褐色シルト

B12 Pt13

- ① 1.00m/1 黒褐色シルト

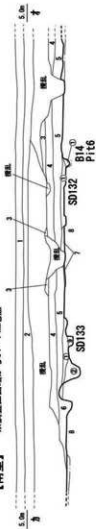
SD131

- ① 1.00m/1 黒褐色シルト

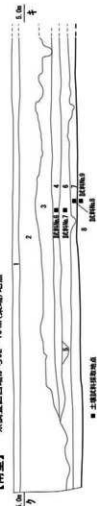
SD133

- ① 1.00m/1 黒褐色シルト

【南壁】 測線区西端から64~74m地点



【南壁】 測線区西端から92~104m(崖端)地点



【調査区南壁】 測線区西端から64~74m地点

- 1 砂石
- 2 砂状土
- 3 1.00m/1 黒褐色シルト
- 4 1.00m/1 黒褐色シルト
- 5 1.00m/1 黒褐色シルト
- 6 1.00m/1 黒褐色シルト
- 7 1.00m/1 黒褐色シルト
- 8 1.00m/1 黒褐色シルト
- 9 1.00m/1 黒褐色シルト

SD133

- ① 1.00m/1 黒褐色シルト

SD132

- ① 1.00m/1 黒褐色シルト

B14 Pt16

- ① 1.00m/1 黒褐色シルト

- ② 1.00m/1 黒褐色シルト

- ③ 1.00m/1 黒褐色シルト

- ④ 1.00m/1 黒褐色シルト

- ⑤ 1.00m/1 黒褐色シルト

- ⑥ 1.00m/1 黒褐色シルト

- ⑦ 1.00m/1 黒褐色シルト

- ⑧ 1.00m/1 黒褐色シルト

- ⑨ 1.00m/1 黒褐色シルト

- ⑩ 1.00m/1 黒褐色シルト

- ⑪ 1.00m/1 黒褐色シルト

- ⑫ 1.00m/1 黒褐色シルト

- ⑬ 1.00m/1 黒褐色シルト

- ⑭ 1.00m/1 黒褐色シルト

- ⑮ 1.00m/1 黒褐色シルト

- ⑯ 1.00m/1 黒褐色シルト

- ⑰ 1.00m/1 黒褐色シルト

- ⑱ 1.00m/1 黒褐色シルト

- ⑲ 1.00m/1 黒褐色シルト

- ⑳ 1.00m/1 黒褐色シルト

- ㉑ 1.00m/1 黒褐色シルト

- ㉒ 1.00m/1 黒褐色シルト

- ㉓ 1.00m/1 黒褐色シルト

- ㉔ 1.00m/1 黒褐色シルト

- ㉕ 1.00m/1 黒褐色シルト

- ㉖ 1.00m/1 黒褐色シルト

- ㉗ 1.00m/1 黒褐色シルト

- ㉘ 1.00m/1 黒褐色シルト

- ㉙ 1.00m/1 黒褐色シルト

- ㉚ 1.00m/1 黒褐色シルト

- ㉛ 1.00m/1 黒褐色シルト

- ㉜ 1.00m/1 黒褐色シルト

- ㉝ 1.00m/1 黒褐色シルト

- ㉞ 1.00m/1 黒褐色シルト

- ㉟ 1.00m/1 黒褐色シルト

- ㊱ 1.00m/1 黒褐色シルト

- ㊲ 1.00m/1 黒褐色シルト

- ㊳ 1.00m/1 黒褐色シルト

- ㊴ 1.00m/1 黒褐色シルト

- ㊵ 1.00m/1 黒褐色シルト

- ㊶ 1.00m/1 黒褐色シルト

- ㊷ 1.00m/1 黒褐色シルト

- ㊸ 1.00m/1 黒褐色シルト

- ㊹ 1.00m/1 黒褐色シルト

- ㊺ 1.00m/1 黒褐色シルト

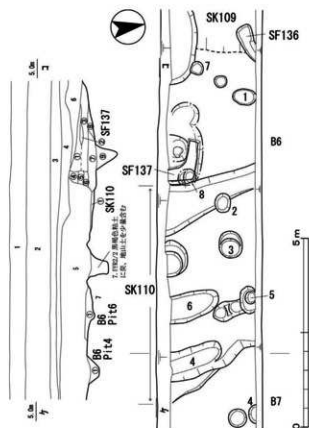
- ㊻ 1.00m/1 黒褐色シルト

- ㊼ 1.00m/1 黒褐色シルト

- ㊽ 1.00m/1 黒褐色シルト

- ㊾ 1.00m/1 黒褐色シルト

- ㊿ 1.00m/1 黒褐色シルト



第V-8図 中島遺跡B区S F 137周辺図(1:50)

**SK111** B 5・6で検出した南北0.42m以上×東西0.98m、深さ15cmの隅丸方形になるとみられる土坑である。SK109より古い。

**SK112** B 7で検出した南北1.15m以上×東西1.55m、深さ4cmの浅い不整形の土坑である。

**SD113** B 8で検出した幅1m、深さ9cmの溝である。向きはN20° Wである。SD114より古い。

**SD114** B 8で検出した幅0.9m、深さ14cmの溝で、北壁付近は非常に浅い。向きはN60° Eである。SD113より新しい。

**SH115** B 9で検出した南北0.65m以上、東西2m以上の堅穴建物である。隅丸方形になるとみられ、北側で壁周溝を確認した。向きはN84° Eである。

**SK116** B 6に位置する。カマドS F 137の下にあり、掘削後に確認した。東西1.05m×南北0.35m以上、深さ26cmの不整形な土坑で、中央付近がさらに1段下がる。

**SK117** B 9で検出した南北1.12m以上×東西1.1m、深さ33cmの土坑である。SH115より古い。

**SD118** B 9～11で検出した幅0.26m、深さ13cm

#### S F 137 周辺土層

- 1 砂石
- 2 造成土
- 3 1019A/2 灰黒褐色シルト
- 4 1013/3 埋土オリーブ色シルト(マンガン沈着)
- 5 2.013/3 埋土オリーブ褐色粘土、炭を含む
- 6 1019B/3 黒褐色粘土に細砂、径2～5cm大の塊土及び1019A/4 に近い赤褐色粘土、炭を多く含む
- 7 2.019A/3 褐色粘土、径2mm以下の礫を含む(埋土)

#### B6 Pit4

- ① 1019B/3 黒褐色粘土に炭、塊土、径2mm以下の礫を含む
- \* 2.019B/3 赤褐色粘土、炭を少量含む

#### B6 Pit6

- ① 1019B/3 埋土赤褐色粘土に炭、塊土、径2mm以下の礫を含む

#### SK110

- ① 2.019B/3 赤褐色粘土、炭を少量含む

#### SF137

- ① 1019B/3 黒褐色粘土に炭を多く含む
- ② 013/3 埋土赤褐色粘土(硬熱度低い、塊土少)
- ③ 1019B/3 黒褐色粘土に 1019A/4 に近い赤褐色粘土を少量含む
- ④ 2.019A/4 近い黄色シルト
- ⑤ 1019B/3 赤褐色粘土に 1019A/4 に径2～3cm大の塊土に近い赤褐色粘土、1019B/3 褐色細砂、炭、径1cm大の⑥が粒状に混じる
- ⑥ 1019B/3 黒褐色粘土に 1019B/3 褐色細砂を少量含む
- ⑦ 1019B/3 黒褐色粘土に細砂を少量含む
- ⑧ 1019B/3 埋土赤褐色粘土
- ⑨ 1019B/3 黒褐色粘土に塊土、径2mm以下の礫がブロック状に少量混じる

の断面逆台形の溝である。遺構検出面より1層上の黒褐色粘土から掘り込まれている。やや蛇行するものの、向きは概ねN85° Wである。SK125より新しい。

**SK121** B 9で検出した南北0.6m以上×東西1.24mである。西隣にあるSK117と平面形態が類似する。

**SK122** B10で検出した南北2m以上×東西0.4m、深さ2cmの浅い土坑である。SD118より古い。

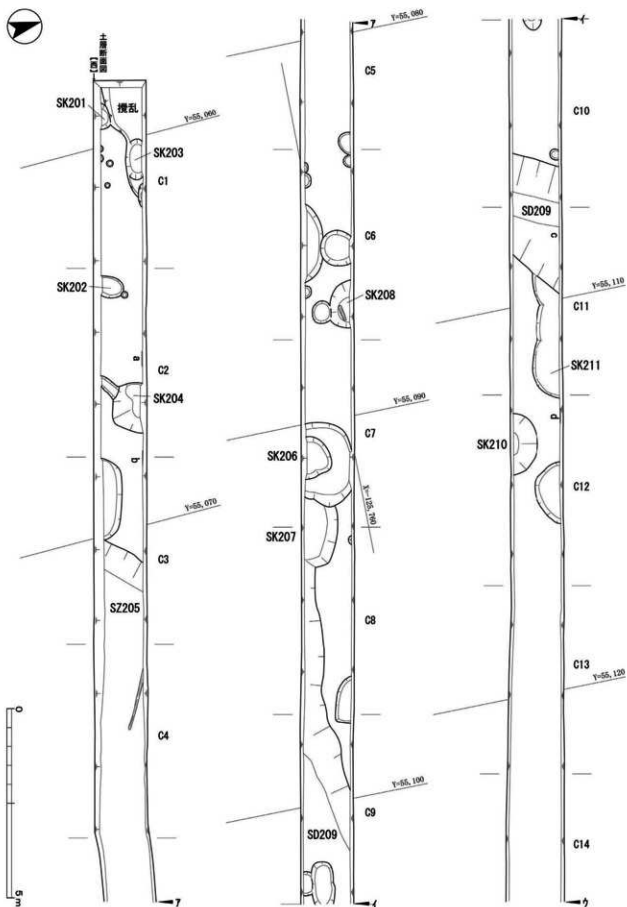
**SK123** B11・12で検出した南北1.12m以上×東西1.42m、深さ6cmの土坑である。SK126より新しい。

**SK125** B11で検出した南北0.9m以上×東西1.51m、深さ3cmの方形になるとみられる浅い土坑である。SK126より新しく、SD118より古い。

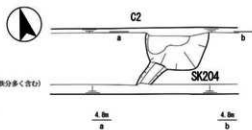
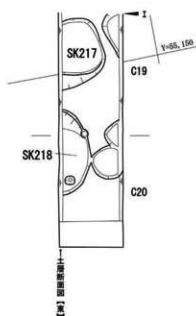
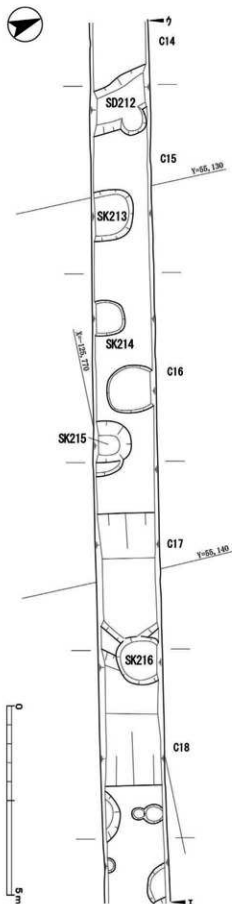
**SK126** B11で検出した南北1m以上×東西0.77cm以上、深さ9cmの土坑である。SK123・125より古い。

**SK127** B13で検出した南北0.38m以上×東西0.54m、深さ10cmの土坑である。SK129より新しい。





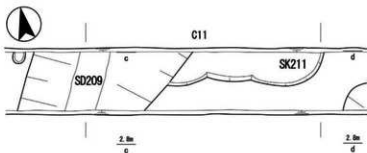
第V-9图 中島遺跡C区平面図1 (1:100)



#### SK204

- ① 10YR3/1 黒褐色粘土 (鉄分多く含む)
- ② 10YR2/1 黒色粘土
- ③ 10YR4/1 褐色粘土
- ④ 記載なし
- ⑤ 10YR6/1 褐色色砂

- 1 10YR3/2 黒褐色粘土、鉄分多く含む (土器少量含む)
- 2 10YR2/9 暗褐色粘土 (掘削により黄褐色に変化) (地山)



#### SK211

- ① 10YR2/1 黒色粘土
- ② 10YR2/2 黒褐色粘土に 2.0Y7/1 灰白色粘土 10% 含む

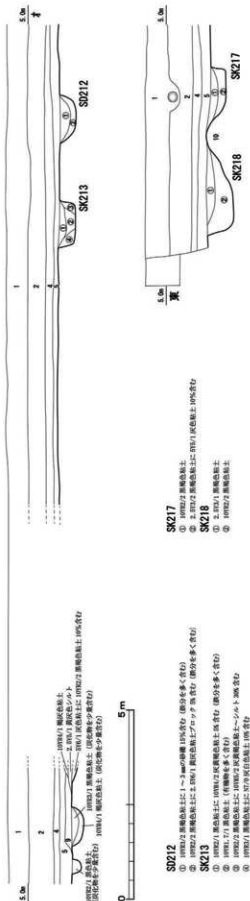
#### SD209

- ① 10YR2/2 黒褐色粘土

- 1 10YR2/1 黒色粘土に 2.0Y7/1 灰白色粘土を 30% 含む (土坑埋土)
- 2 10YR2/2 黒褐色粘土に 10YR2/1 黒色粘土 10%、10YR2/3 に近い黄褐色粘土 10% を含む (土坑埋土)

第V-10図 中島遺跡C区平面図2(1:100)、SK204・211、SD209(1:80)平面図・断面図





第V-12図 中島遺跡C区土層断面図2(1:100)

SK128 B13で検出した南北0.62m×東西0.82cm、深さ9cmの土坑である。SK129より古い。

SK129 B13で検出した南北0.95m以上×東西0.55m、深さ7cmの土坑である。SK128より新しい。

SD130 B12で検出した幅1.4m、深さ9cmの溝である。遺構検出面より1層上の黒褐色粘土・極暗褐色シルトから掘り込まれている。

SD131 B13で検出した幅0.78m、深さ46cmの溝である。向きはN10°Eである。

SD132 B14で検出した幅40cm、深さ5cmの浅い溝である。向きはN27°Wである。

SD131より東側はかく乱で大きく削平されており、溝と想定するもの(SD133)や土坑(SK134・135)を確認したが、非常に浅く、残りが悪い。

SF136 B6で確認した。被熱が認められ馬蹄形状に掘削でき、カマドの痕跡と考える。主軸はN72°Eである。しかし、カマドに伴う竪穴建物のプランは不明である。後世に削平されたものと思われる。

SF137 B6で確認した。被熱が認められ馬蹄形状に掘削でき、内側に支柱石が認められたことから、カマドと考える。主軸はN75°Wである。しかし、カマドに伴う竪穴建物のプランは不明である。後世に削平されたものと思われる。

SK201 C1で検出した南北0.2m以上×東西0.7m、深さ37cmの土坑である。黒褐色粘土に灰白色粘土ブロックを含む層と含まない層に分層できる。北端はかく乱により削平される。

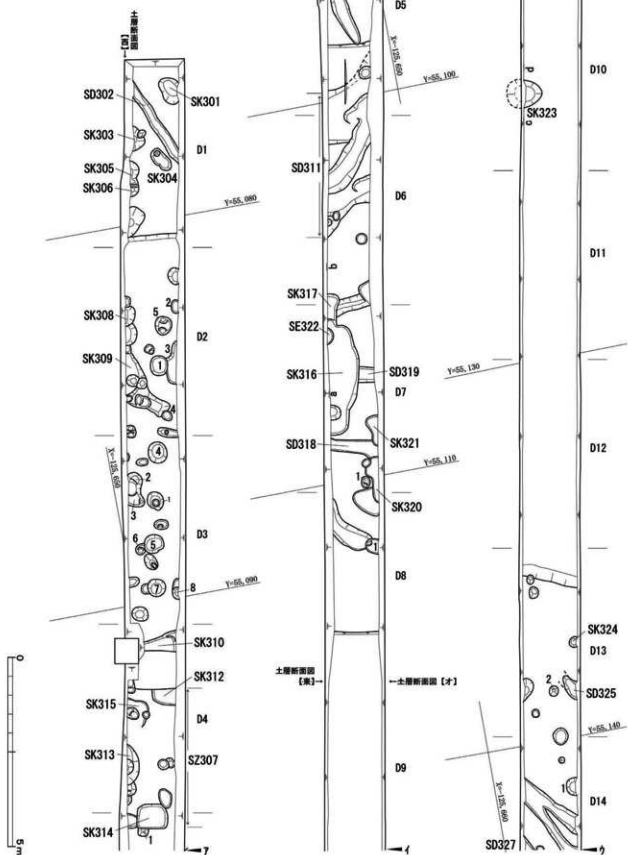
SK202 C2で検出した南北0.55m以上×東西0.35m、深さ12cmの楕円形とみられる土坑である。地山より1層上の黒褐色粘土から掘削している。

SK203 C1で検出した南北0.42m以上×東西1.1m、深さ29cmの東西方向に長い楕円形を呈する。

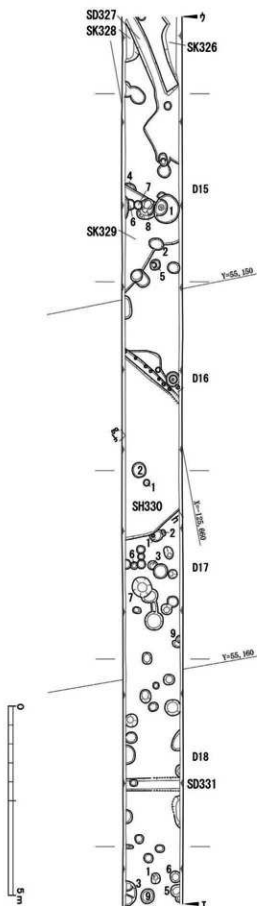
SK204 C2で検出した南北0.7m以上×東西1.32m、深さ64cmの土坑である。平面形は隅丸方形だが、底面は不整形となっている。

SZ205 C3~7で検出した落ち込みである。東端はSK206の掘削により削平されている。土師器・須恵器の他、底付近から自然木が出土している。

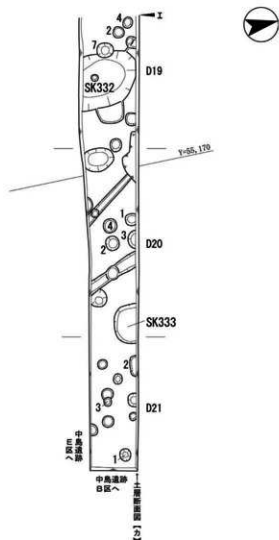
SK206 C7で検出した南北1.2m以上×東西2.2m、深さ75cmの不整形とみられる土坑である。土層図から埋設後に再度東側を掘削している。SK207よ



第V-13図 中島遺跡D区平面図1 (1:100)



第V-14図 中島遺跡D区平面図2 (1:100)



り新しい。

**SK207** C7・8で検出した南北0.9m×東西1.75m以上、深さ65cmの土坑である。SK206より古い。

**SK208** C6で検出した南北0.4m以上×東西2.05mの土坑である。

**SD209** C8～12で検出した溝である。東側が1段深くなる。向きは1段深い部分ではN25°Eだが、西にいくに従いN90°近くまで振れる。土層図を見る限りでは、1段深い溝が堆積してから若干浅い西側に移ったようである。

**SK210** C12で検出した南北0.6m以上×東西1.62m、深さ56cmの円形と考えられる土坑である。

**SK211** C11で検出した土坑である。SK211の西側は付番していない複数の土坑が重複していたようである。

**SD212** C14・15で検出した幅1.15m、深さ39cmの溝である。向きはN10°Wである。

**SK213** C15で検出した南北1m以上×東西1.34m、深さ36cmの楕円形になるとみられる土坑である。

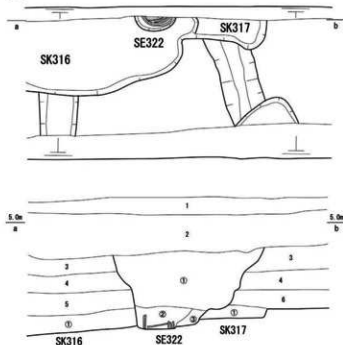






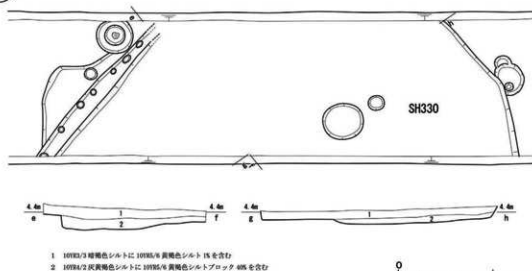
**SK214** C16で検出した南北0.74m以上×東西0.95m、深さ60cmの楕円形になるとみられる土坑である。調査区の崩落により十分な記録がとれなかった。

**SE322**



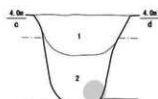
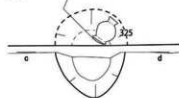
- 1 砂石
- 2 遺構土
- 3 2.013/3 黄褐色シルト
- 4 10192/2 黒褐色粘土に厚2cm以下の薄少量含む
- 5 7.0102/2 黒褐色粘土に泥、細砂、径2cm程度の2.013/3黄褐色粘土ブロックを多く含む。
- 6 22層との境に0.5~1cm厚の層状に泥が堆積
- 7 10193/1 黒褐色粘土に10192/2 黒褐色粘土、泥、径5~7cmの10196/3に黄褐色ブロックを含む

**SH330**



- 1 10193/3 暗褐色シルトに10195/4 黄褐色シルト 泥を含む
- 2 10194/2 灰黄色シルトに10195/4 黄褐色シルトブロック 泥を含む

330 高杯が入り状に入る



- 1 2.013/1 黒褐色粘土に2.014/2 暗灰色粘土 泥を含む
- 2 2.014/1 黄褐色シルト→細砂

**SK215** C16で検出した南北0.9m以上×東西1.4m、深さ61cmの楕円形とみられる土坑である。C17を中心とした崩落により土層は記録できなかった。

**SK323**

**SE322**

- ① 016/3 灰オリーブ色シルトに10層が径20cmのブロック状に多く含む
  - ② 014/1 灰色粘土に細砂多く含む
  - ③ 10192/2 黄色粘土に泥少量含む
- SK316**
- ① 10192/2 黄色粘土に泥少量含む
- SK317**
- ① 2.013/1 黒褐色粘土に径2cmの礫を少量、細砂を多く含む

第V-17図 中島遺跡D区SH330, SE322, SK323平面図・断面図(1:40)

**SK216** C17・18で検出した南北1.2m以上×東西1.1mの楕円形とみられる土坑である。

**SK217** C19で検出した南北1.05m以上×東西1.7m、深さ35cmの隅丸方形とみられる土坑である。西側が傾斜がきつ、東側が緩やかとなる。

**SK218** C19・20で検出した南北0.7m以上×東西2.3m、深さ27cmの円形とみられる土坑である。傾斜は、西側が緩やかで、東側が急となる。

**SK301** D1で検出した南北0.15m×東西0.75m、深さ37cmの不整形な土坑である。

**SD302** D1で検出した幅0.29m、深さ10cmの皿状の溝である。向きはN70°Eである。

**SK303** D1で検出した南北0.28m以上×東西0.68m、深さ22cmの不整形な土坑である。

**SK304** D1で検出した南北0.65m×東西0.35m、深さ6cmの土坑である。

**SK305** D1で検出した南北0.2m以上×東西0.6m、深さ10cmの土坑である。SK306より古い。

**SK306** D1で検出した土坑である。南北0.2m以上×東西0.27m、深さ12cmの土坑である。SK305より新しい。

**SZ307** D4・5で検出したが、概ね第V-15図の13層に対応するとみている。SD311より古い。

**SK309** D2で検出した南北1.34m以上×東西0.89m、深さ6cmの土坑である。

**SK310** D4で検出した南北0.85m以上×東西0.47m以上、深さ13cmの土坑である。東側はかく乱で削平されている。

**SD311** D5・6で検出した幅3.1m、深さ26cmの溝である。やや蛇行するもの、向きは概ねN20°Wである。SZ307より新しい。埋土から、古式土師器が多く出土した。

**SK312** D4で検出した南北0.62m以上×東西0.44m以上、深さ2cmの隅丸方形とみられる土坑である。西側はかく乱で削平されている。

**SK313** D4で検出した南北0.32m以上×東西1.08m、深さ6cmの土坑である。調査区外に延びている。

**SK314** D4・5で検出した南北0.8m×東西0.62m、深さ11cmの隅丸方形となる土坑である。

**SK316** D7で検出した南北0.8m以上×東西3.08m、深さ18cmの長楕円形になるとみられる土坑であ

る。SE322より古い。

**SK317** D6・7で検出した東西0.7m以上×南北0.3m以上、深さ10cmの隅丸方形とみられる土坑である。SE322より古い。

**SD318** D7で検出した幅0.53m、深さ4cmの浅い溝である。向きはN17°Eである。

**SD319** D7で検出した幅0.4m、深さ6cmの浅い溝である。向きはN15°Eである。SK316より古い。

**SK320** D7・8で検出した南北0.36m以上×東西1.2m、深さ10cmの不整形の土坑である。SD318より新しい。

**SK321** D7で検出した南北0.32m以上×東西0.82m、深さ6cmの不整形の土坑である。SD318より新しい。

**SE322** D7で検出した南北0.18m以上×東西0.75mの井戸である。標高約3.8mで木製曲物がすえられていた。樹種はヒノキ属である。曲物内の埋土から山茶碗片が出土した。

**SK323** D10で検出した南北0.55m以上×東西0.73m、深さ68cmの土坑である。検出は標高約4mと低い所で確認した土坑である。廻間I～II期併行期の土器が一定量出土した。中でも特筆すべきは、土坑の底付近で横倒しの台付甕(325)の中に高杯脚部(330)が入った状態で出土したことである。

**SK324** D13で検出した南北0.15m以上×東西0.3mの土坑である。SK324の西側で落ち込みとなり、SK324以东が微高地となる。

**SD327** D14・15で検出した幅0.34mの溝である。向きはN80°Eである。SK328より時期が新しい。

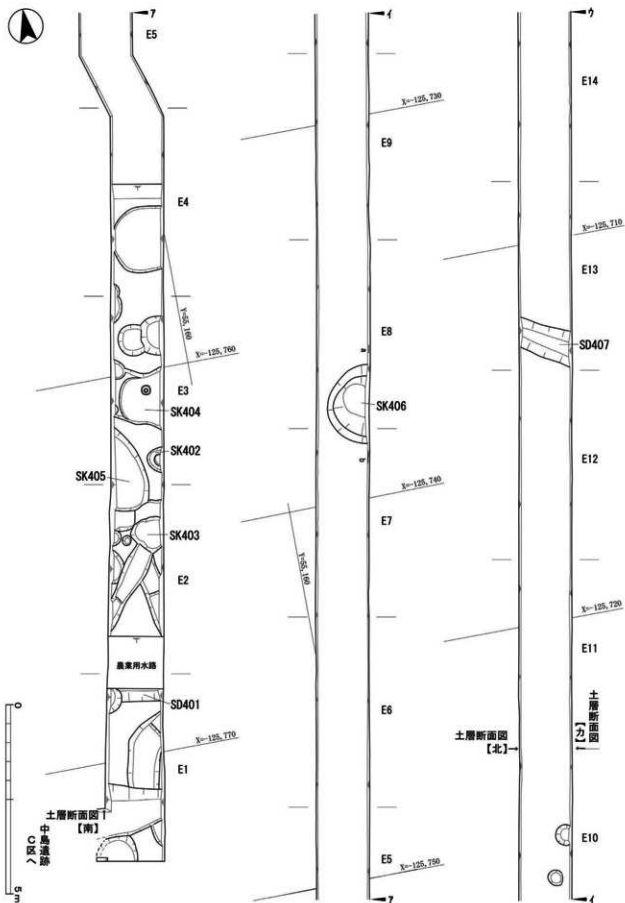
**SK328** D14・15で検出した東西1m以上×南北0.4m以上、深さ10cmの土坑である。SD327より時期が古い。

**SH330** D16・17で検出した南北1.5m以上×東西2.8m以上、深さ13cmの堅穴建物である。建物北側の壁周溝及び壁柱列が良好に残存していた。主軸はN53°Eである。

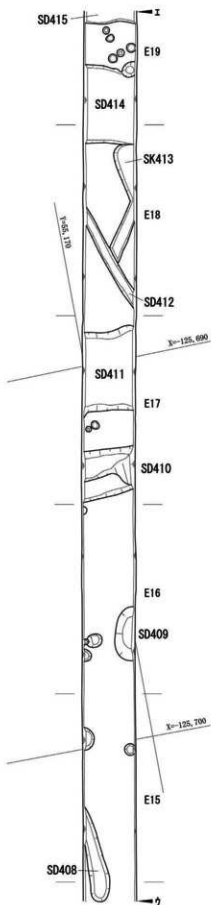
**SD331** D18で検出した幅0.35m、深さ13cmの溝である。向きはN10°Eである。

**SD332** D19で検出した南北1.44m以上×東西1.4m、深さ23cmの溝である。

**SK333** D20・21で検出した南北0.58m以上×東



第V-18图 中島遺跡E区平面図1(1:100)



第V-19図 中島遺跡E区平面図2 (1:100)

西1m、深さ2cmの浅い土坑である。

**SK334** D20で検出した南北0.76m以上×東西0.52m、深さ17cmの長楕円形の土坑である。

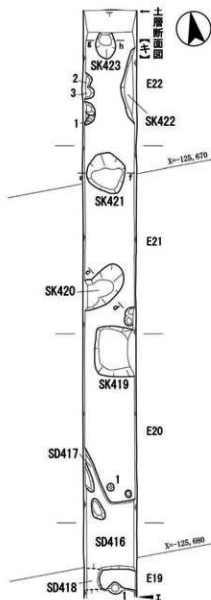
**SD335** D20で検出した幅0.2m、深さ7cmの溝である。向きはN36°Wである。

**SD336** D20で検出した幅0.38m、深さ14cmの溝である。向きはN22°Wである。

**SD401** E1で検出した溝である。北側は後世に削平されている。向きは、概ねN78°Wである。

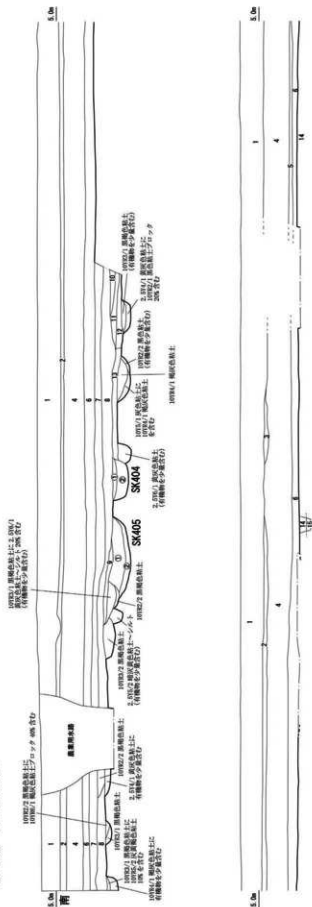
**SK402** E3で検出した南北0.58m×東西0.33m以上、深さ32cmの土坑である。

**SK403** E2で検出した南北0.95m×東西0.77m



第V-20図 中島遺跡E区土層断面図1(1:100)

【西壁】南壁から50mまで

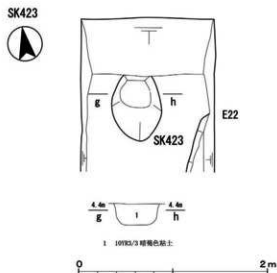
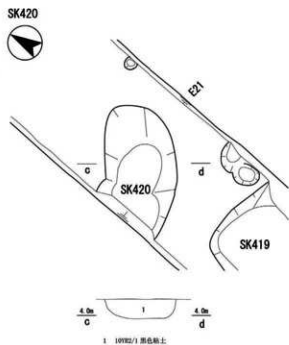
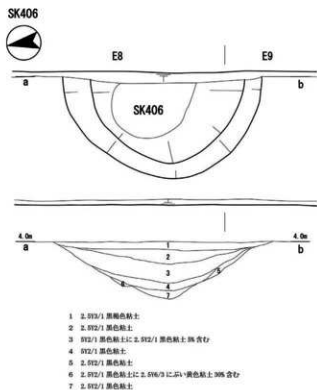


【西壁】

- 1 アサギヤマト、神石
- 2 埋積土
- 3 2.030/1 黒色粘土 (有機物を含む) (埋積物を含む)
- 4 2.030/1 黒色粘土 (埋積物を含む) (埋積物を含む)
- 5 2.030/1 黒色粘土 (埋積物を含む) (埋積物を含む)
- 6 2.030/1 黒色粘土 (埋積物を含む) (埋積物を含む)
- 7 10000/3 黒色粘土 (埋積物を含む) (埋積物を含む)
- 8 10000/3 黒色粘土 (埋積物を含む) (埋積物を含む)
- 9 10000/3 黒色粘土 (埋積物を含む) (埋積物を含む)
- 10 2.030/1 黒色粘土 (埋積物を含む) (埋積物を含む)
- 11 10000/1 黒色粘土 (埋積物を含む) (埋積物を含む)
- 12 7.000/1 黒色粘土 (埋積物を含む) (埋積物を含む)
- 13 10000/1 黒色粘土 (埋積物を含む) (埋積物を含む)
- 14 10000/2 黒色粘土 (埋積物を含む) (埋積物を含む)
- 15 10000/3 黒色粘土 (埋積物を含む) (埋積物を含む)

- SK404
- ① 10000/1 黒色粘土
  - ② 10000/2 黒色粘土に2.030/1埋積物を含む土ブロックを含む
- SK405
- ① 10000/1 黒色粘土
  - ② 10000/1 黒色粘土に10000/1 黒色粘土ブロックを含む





第V-22図 中島遺跡E区SK406・420・421・423平面図・断面図(1:100)

以上、深さ16cmの不整形な土坑である。

**SK404** E3で検出した南北1.36m×東西1.18m以上、深さ45cmの不整形な土坑である。東側で1段下がる。

**SK405** E2・3で検出した南北2.1m以上×東西0.81m以上、深さ51cmの土坑である。

**SK406** 南北2.1m×東西1m以上、深さ74cmの楕円状となる土坑である。

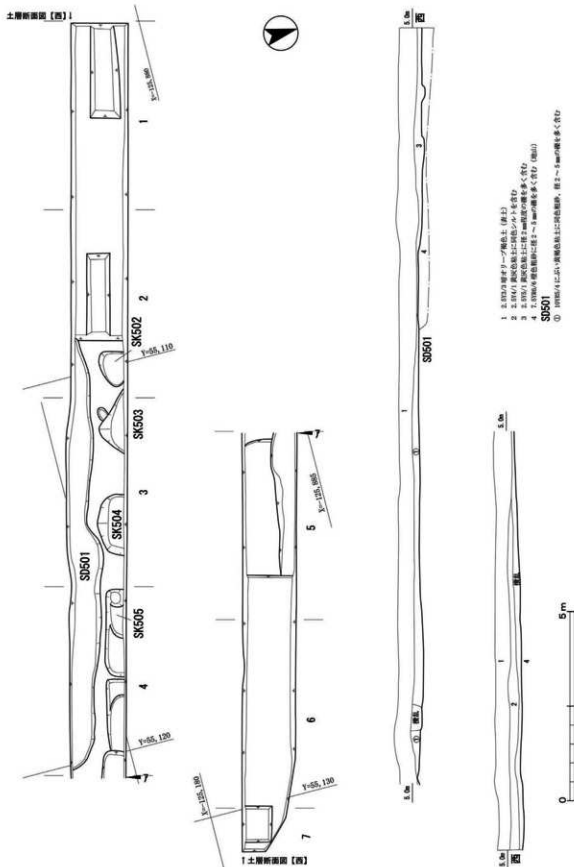
**SD407** E13で検出した幅0.84m、深さ16cmの溝

である。向きはN30°Eである。検出面より1層上の黒褐色粘土から掘り込まれている。

**SD408** E14・15で検出した長さ1.8m以上、幅0.52m、深さ17mの溝である。

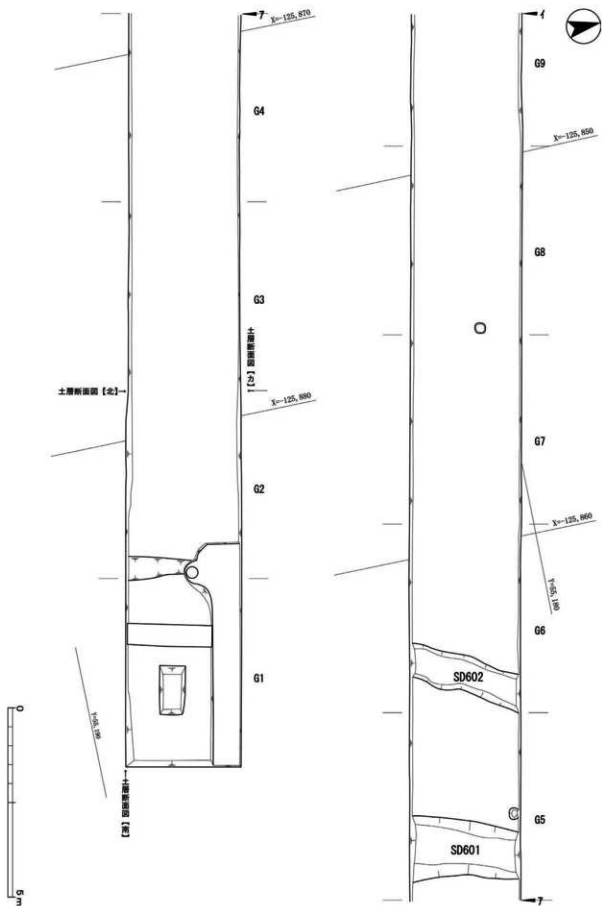
**SK409** 当初溝としていたが、土坑とする。E16で検出した南北1.43m×東西0.42m以上、深さ25cmの土坑である。

**SD410** E17で検出した幅1.29m、深さ41cmの溝である。向きはほぼN0°である。

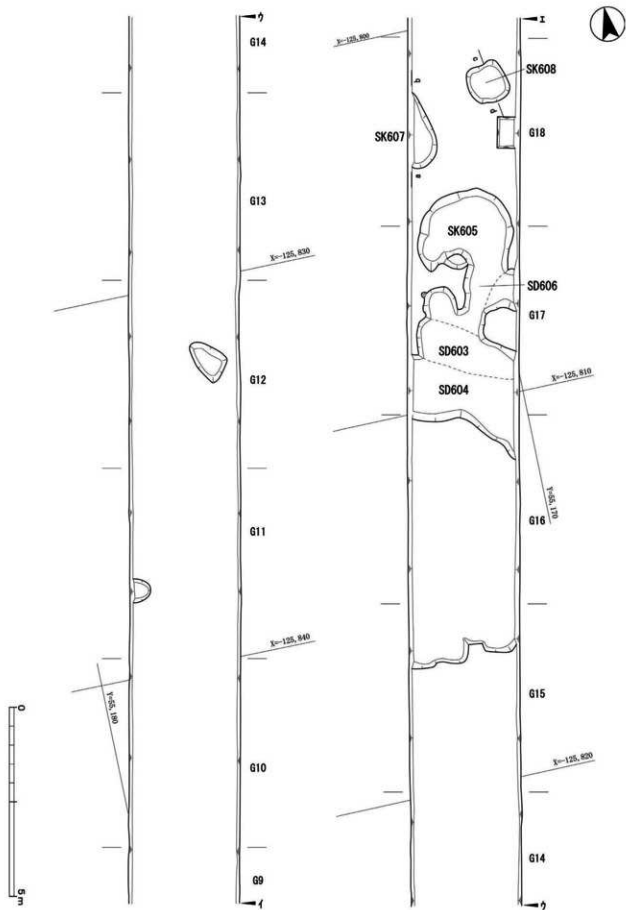


第V-23図 中島遺跡F区平面図・土層断面図(1:100)





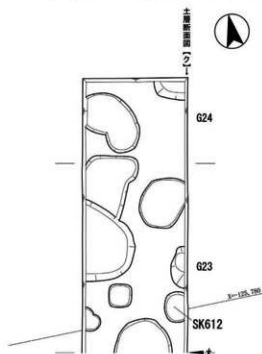
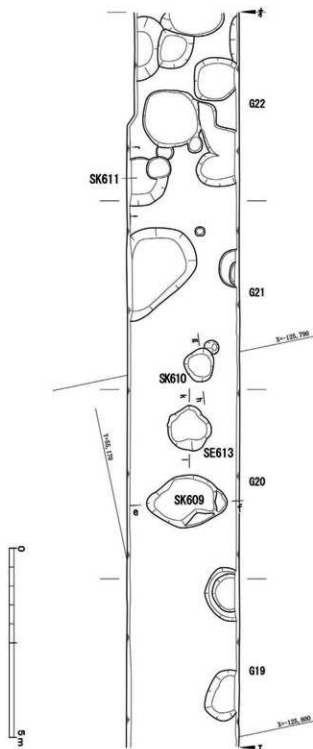
第V-24図 中島遺跡G区平面図1 (1:100)



第V-25图 中島遺跡G区平面图2 (1:100)

- SD411** E17で検出した幅2.08m、深さ12cmの溝である。向きはN10° Eである。
- SD412** E18で検出した幅0.28m、深さ13cmの溝である。向きはN72° Eである。
- SK413** E18で検出した南北0.77m以上×東西0.42m以上、深さ8cmの隅丸方形とみられる土坑である。

- SD414** E18・19で検出した幅1.92m、深さ7cmの溝で、向きはN15° Eである。SK413より新しい。
- SD415** E19で検出した幅0.55m、深さ4cmの浅い溝である。向きはN15° Eである。
- SD416** E19・20で検出した幅1.79m、深さ29cmの溝である。向きは概ねN15° Eである。
- SD417** E20で検出した幅22cm、深さ14cmの溝で、SD416から北へ分岐する。向きはN80° Eである。
- SK419** E20・21で検出した南北1.28m×東西0.86m以上、深さ10cmの隅丸方形とみられる土坑である。
- SK421** E21で検出した南北1m×東西0.95m、深さ12cmの隅丸方形の土坑である。底の形はかなり不整形である。
- SK423** E22調査区北端で検出した南北0.7m以上×東西0.54m、深さ25cmの楕円形の土坑である。
- SD501** F2～4の調査区南側で検出した幅0.8m以上、深さ20cmの溝である。
- SK502** F2で検出した南北0.62m以上×東西0.92m、深さ33cmの不整形の土坑である。弥生時代終末期～古墳時代初頭の遺物の細片が多く出土した。
- SK503** F2・3で検出した南北0.65m以上×東西1.7m以上、深さ35cmの隅丸方形とみられる土坑



第V-26図 中島遺跡G区平面図3 (1:100)

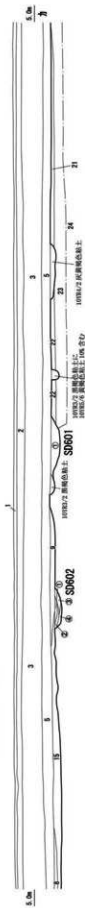
【西壁】南端から10mまで



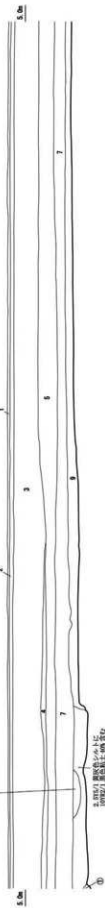
- 1 アスファルト
- 2 砂
- 3 土
- 4 100%の黒色シルトに2～5mmの礫多く含む
- 5 20%の黒色シルトに2～5mmの礫多く含む
- 6 20%以上の黒色シルトに2～5mmの礫多く含む (礫なし)

【東壁】南端から10m以北

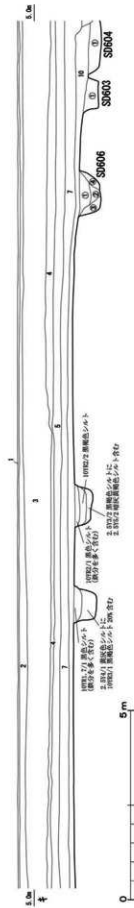
※東壁の上は写真V-28参照



100%の黒色シルトに2～5mmの礫多く含む

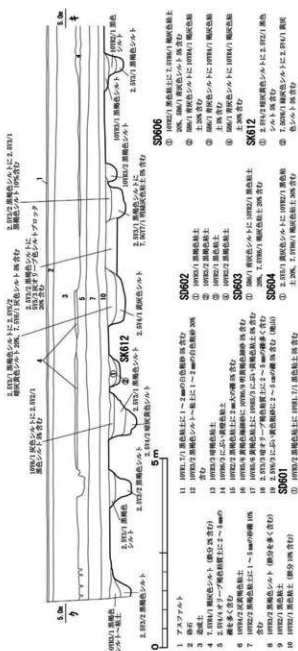


100%の黒色シルトに2～5mmの礫多く含む



100%の黒色シルト  
100%の黒色シルトに20%の礫  
100%の黒色シルト  
100%の黒色シルトに2～5mmの礫多く含む  
100%の黒色シルト

第V-27図 中島遺跡G区土層断面図1 (1:100)



第V-28図 中島遺跡G区土層断面図2(1:100)

である。弥生時代終末期～古墳時代初頭の遺物の細片が多く出土した。

SK504 F3で検出した南北0.68m以上×東西1.6m、深さ29cmの隅丸方形とみられる土坑である。弥生時代終末期～古墳時代初頭の遺物の細片が多く出土した。

SK505 F4で検出した南北0.44m以上×東西2.3mの土坑である。東側は浅く段々と西側が深くなる。深い所で29cmの隅丸方形とみられる土坑である。弥生時代終末期～古墳時代初頭の遺物の細片が多く出

土した。

SD601 G5で検出した幅1.5m、深さ8cmの溝である。向きはN17°Eである。

SD602 G6で検出した幅0.9m、深さ16cmの溝である。向きはN30°Eである。

SD603 G17で検出した幅1.1m以上、深さ45cmの溝である。向きはN32°Eである。

SD604 G16・17で検出した幅1m以上、深さ23cmの溝である。

SK605 G17・18で検出した南北1.2m×東西1.78m、深さ62cmの土坑である。

SD606 G17で検出した幅0.58m、深さ41cmの溝である。向きはN52°Wである。

SK608 G18で検出した南北1.12m×東西1m、深さ58cmの不整形な土坑である。

SK609 G20で検出した南北2.12m×東西1.4m、深さ51cmの楕円形の土坑である。

SK610 G21で検出した南北0.9m×東西0.8m、深さ34cmの不整形な土坑である。

SK611 G22で検出した南北1.27m×東西0.95m以上、深さ54cmの土坑である。

SK612 G23で検出した南北0.8m×東西0.52m以上、深さ11cmの不整形な土坑である。

SE613 G20で検出した南北1.1m×東西1.03m、深さ95cmである。素掘りの井戸とみられる。

SK704 H8で検出した南北0.44m×東西0.66m以上、深さ4cmの浅いものである。

SD706 H10で検出した幅0.67m、深さ17cmの溝である。向きはN60°Wである。

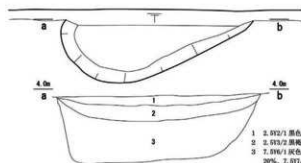
SR707 H13～22で検出し、幅約46mに至る流路である。遺物の包含が極少量であったこと、幅が狭小で調査区崩落の危険性が高かったため、工事の施工深度までを掘削し、流路の範囲を確認するに留めた。

SK708 H29で検出した南北0.6m以上×東西1.3m、深さ79cmの楕円形を呈する土坑である。

SD709 H33で検出した幅2.24m、深さ56cmの溝である。向きはN0°である。

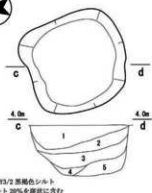
SD710 H33・34で検出した幅0.88m、深さ20cmの溝である。向きはN0°である。(原田)

SK607



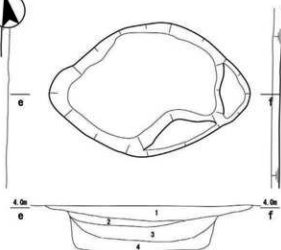
- 1 2.512/1 黒色シルト
- 2 2.513/2 黒褐色シルト
- 3 7.516/1 灰白色シルトに2.513/2 黒褐色シルト20%、7.517/1 灰白色シルト20%を混雑に含む

SK608



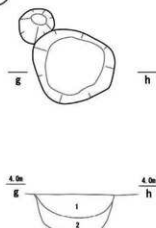
- 1 10193/2 黒褐色（鉄分を多く含む）
- 2 7.517/1 灰白色シルト
- 3 7.517/1 灰白色シルトに10193/2 褐色粘土20%混雑に含む
- 4 7.517/1 灰白色シルト
- 5 10192/1 黒色シルト

SK609



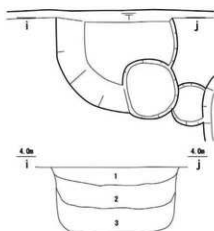
- 1 10193/2 黒褐色シルト
- 2 516/1 灰白色シルトに10193/1 黒褐色シルト30%含む
- 3 2.513/1 黒褐色シルト
- 4 2.513/1 黒褐色シルトに516/1 灰白色シルト5%、10193/1 黒色シルト5%含む

SK610



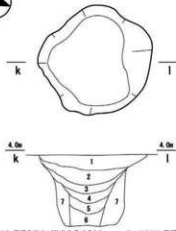
- 1 10193/1 黒褐色シルトに2.516/2 灰黄色シルト10%含む
- 2 10195/1 褐色シルトに31.5/9 黒色シルト10%が互層状に堆積

SK611



- 1 2.513/1 黒褐色粘土
- 2 2.514/1 灰白色粘土に7.516/1 灰白色粘土10%含む
- 3 2.512/1 黒色粘土に7.516/1 灰白色粘土20%含む

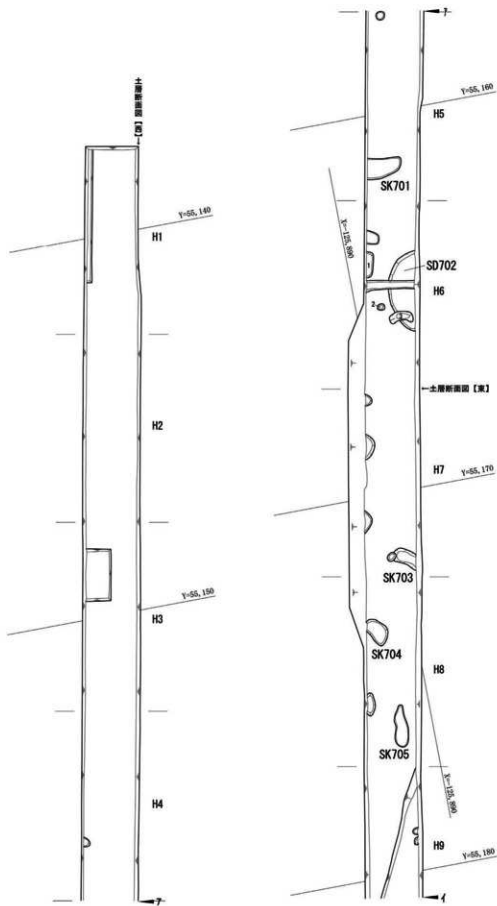
SE613



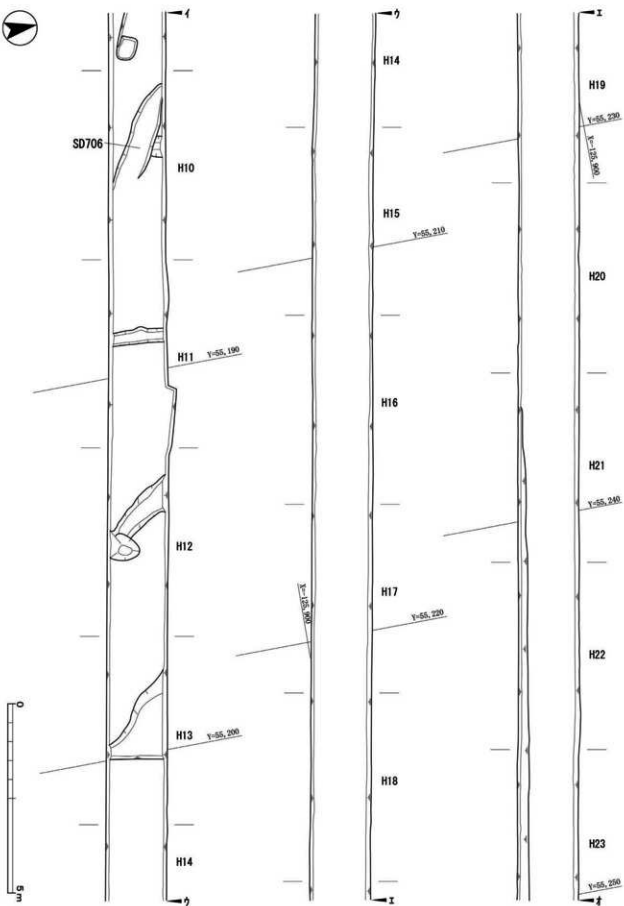
- 1 10193/1 黒褐色粘土（鉄分を多く含む）
- 2 2.513/1 黒褐色シルト
- 3 2.513/1 黒褐色シルトに2.515/2 暗灰黄色シルト30%含む
- 4 10192/1 黒色粘土に2.515/2 暗灰黄色シルト5%含む
- 5 2.513/1 黒褐色シルト
- 6 2.514/1 灰白色シルトに2.516/2 灰黄色シルト30%含む
- 7 1019/1 灰白色シルト～粘土（地山）

0 2m

第V-29図 中島遺跡G区SE613, SK607~611平面図・断面図(1:40)

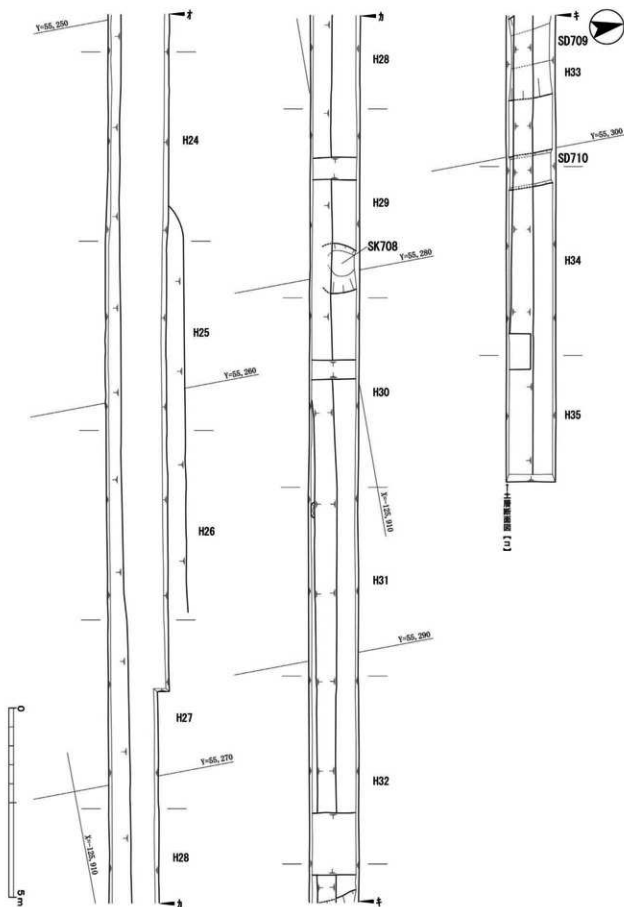


第V-30图 中島遺跡H区平面图1 (1:100)



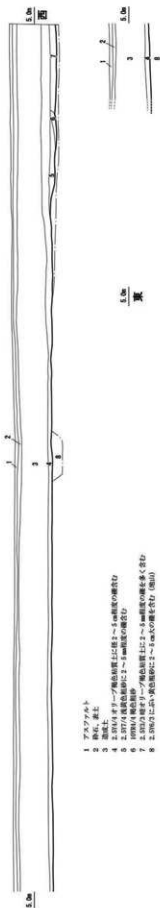
第V-31圖 中島遺跡H区平面圖2 (1:100)



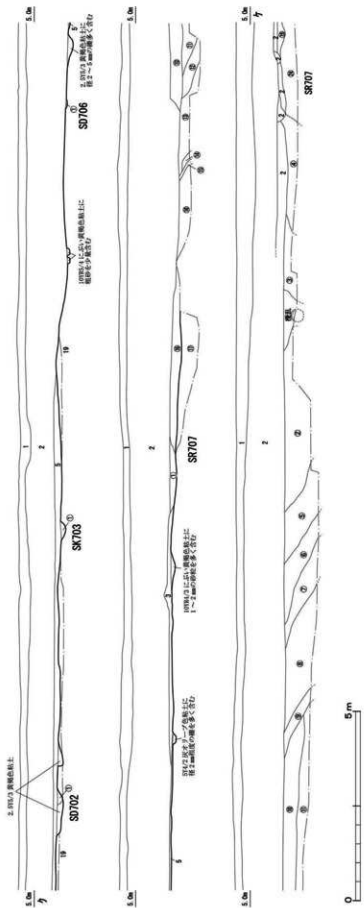


第V-32图 中島遺跡H区平面图3 (1:100)

【南壁】 西壁から50mまで

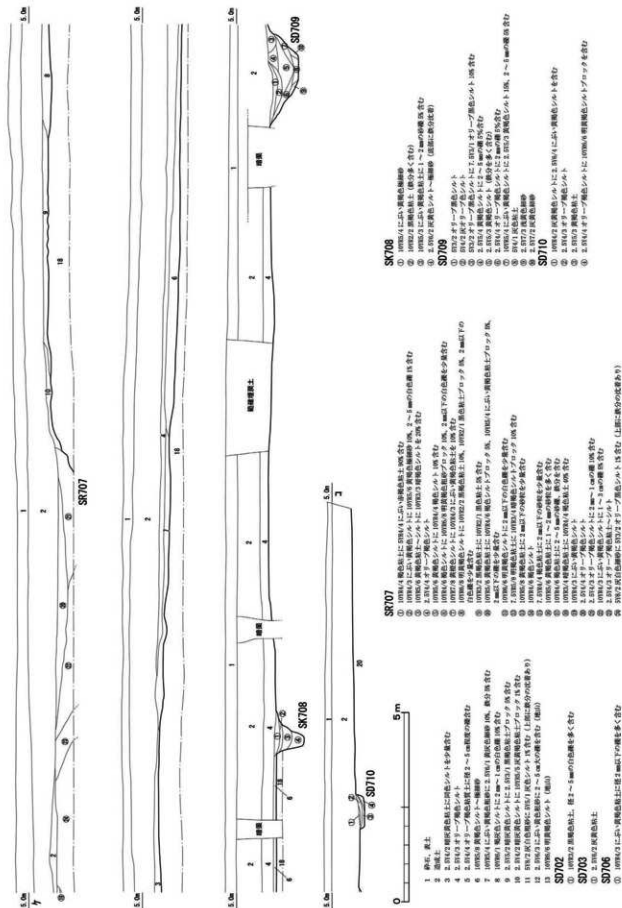


【北壁】 西壁から25m以東 断面壁土色は黄V→H程度



第V-33図 中島遺跡Ⅰ区土層断面図1 (1:100)

第V-34図 中島遺跡H区土層断面図2(1:100)



## 第3節 遺 物

1～6はA、7～178はB、179～286はC、287～567はD、568～707はE、708～758はF、759～771はG、772～792はHの各区から出土した。ここでは概要を記し、詳細は遺物観察表を参照されたい<sup>1)</sup>。

### SD 3出土遺物 (1)

山茶碗の口縁部小片である。

### SD 5出土遺物 (2)

陶器折縁皿で、口縁部から内面に灰釉がかかる。

### SD 7出土遺物 (3)

陶器皿の底部片で、削り出している。

### A区包含層出土遺物 (4～6)

いずれもA 1出土である。4は土師器壺、5は土師器高杯で、6は弥生土器高杯である。

### SK 101出土遺物 (7～11)

7～9は土師器甕、10・11は土師器高杯である。7は口縁部がやや内湾する甕で8・9は受口状となる。高杯は杯部が深くなるもので、11は脚基部に櫛描直線文を施し、やや低い脚となるものである。

### SD 102出土遺物 (12)

土師器壺であろうか。口縁部小片のみ出土した。

### SK 105出土遺物 (13)

須恵器杯身といえよう。体部片のみ出土である。

### SK 106出土遺物 (14～16)

14は弥生土器小形甕又は鉢の底部、15・16は土師器高杯である。16は口縁部が内湾し広がり、新しい様相を呈す。

### SK 109出土遺物 (17・18)

17・18は土師器甕である。18は器壁が厚く、長胴

化し、脚部がへの字に開く。古墳中後期のものである。

### SK 110出土遺物 (19～23)

19は土師器壺口縁部、21・22は弥生土器もしくは土師器甕台部である。20は土師器壺肩部とみられ、外面に刺突、横線文を施している。23は土師器高杯で、杯部が浅く端部をつまみ上げるような形状で、古墳中後期のものである。

### SK 111出土遺物 (24～26)

24～26は、土師器甕である。24・25は口縁部が受口状を呈する。26はS字甕B類であろうか。

### SK 112出土遺物 (27～32)

27～30は弥生終末期～古墳初頭にかけてのもので、27・28が土師器壺、29・30がS字甕である。31は宇田型甕、32は土師器瓶で、古墳後期のものである。

### SH 115出土遺物 (33)

S字甕小片である。口縁部外面に僅かに押引刺突がみられる。

### SK 116出土遺物 (34)

弥生土器もしくは土師器長頸壺の頸部片である。外面に2段、貝殻刺突文が認められる。

### SK 117出土遺物 (35～37)

35は土師器長頸壺体部、36は土師器甕台部、37は土師器高杯である。37は3方透しの上にもう1つ透し孔がある。廻間I式期前半併行とみられる。

### SD 118出土遺物 (38・39)

いずれも土師器甕である。38はS字甕B類古段階である。39は器壁が厚く台部がへの字状に大きく開く古墳中後期のものである。

### SK 125出土遺物 (40)

S字甕A類である。

### SK 129出土遺物 (41)

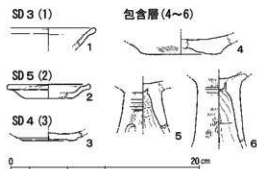
S字甕A類である。

### SD 132出土遺物 (42)

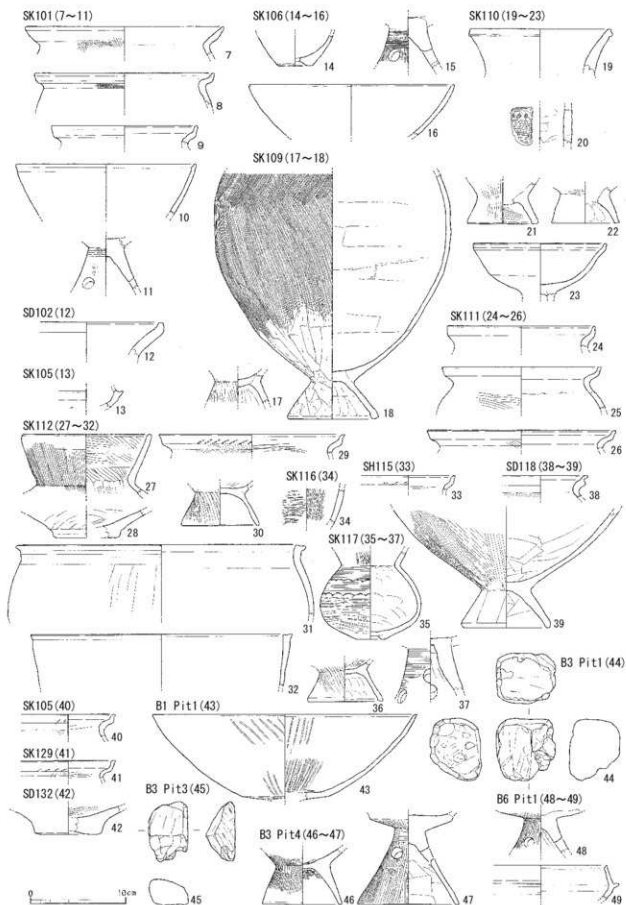
土師器壺底部である。

### B区Pit出土遺物 (43～60)

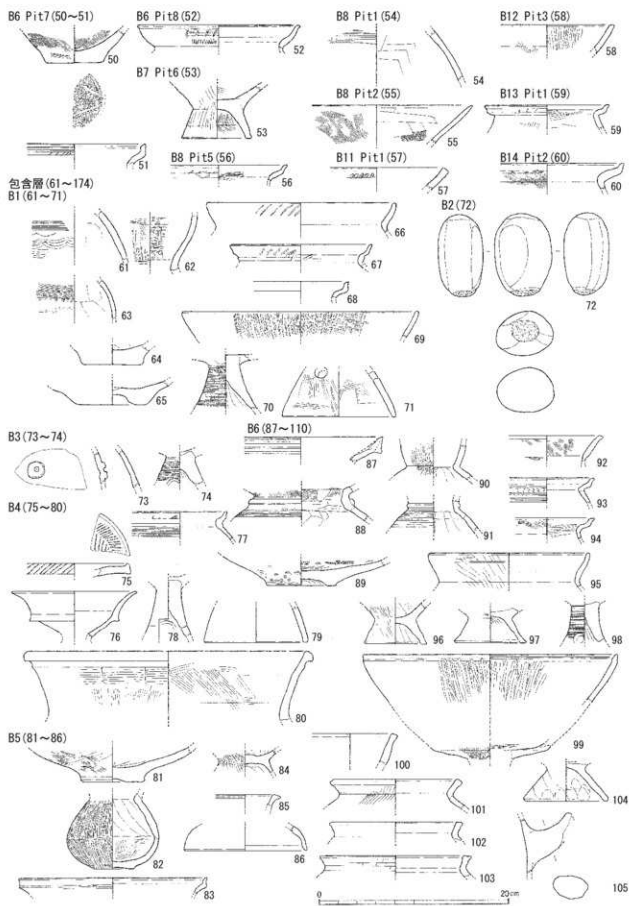
43は内湾するものの浅くやや外方に広がる土師器高杯である。44・45は軽石で部分的に擦痕が残り、砥石として使われたものと思われる。46は弥生土器



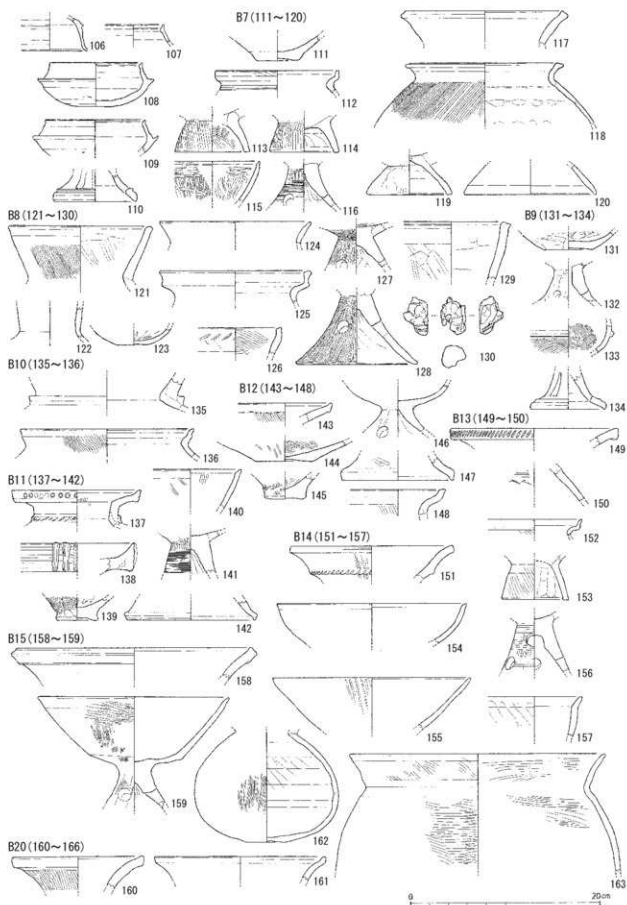
第V-35図 中島遺跡A区遺物実測図(1:4)



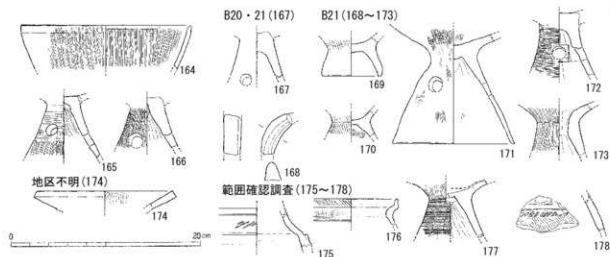
第V-36図 中島遺跡B区遺物実測図1(1:4)



第V-37圖 中島遺跡B区遺物実測圖2 (1:4)



第V-38圖 中島遺跡B区遺物実測圖3(1:4)



第V-39図 中島遺跡B区遺物実測図4 (1:4)

もしくは土師器甕台部、47・48は土師器高杯脚部でいずれも3方透し孔をもつ。49は須恵器杯身でTK10型式併行に比定される。50は弥生土器甕又は壺で底部外面に圧痕がある。52は受口状の口縁部で外面に刺突をもつ土師器甕あるいは鉢である。54は土師器壺肩部で櫛歯直線文の下に貝殻による円弧状の刺突文がみられる。55は口縁端部に赤彩をしている。58は土師器高杯である。59はS字甕A類、小型のものである。

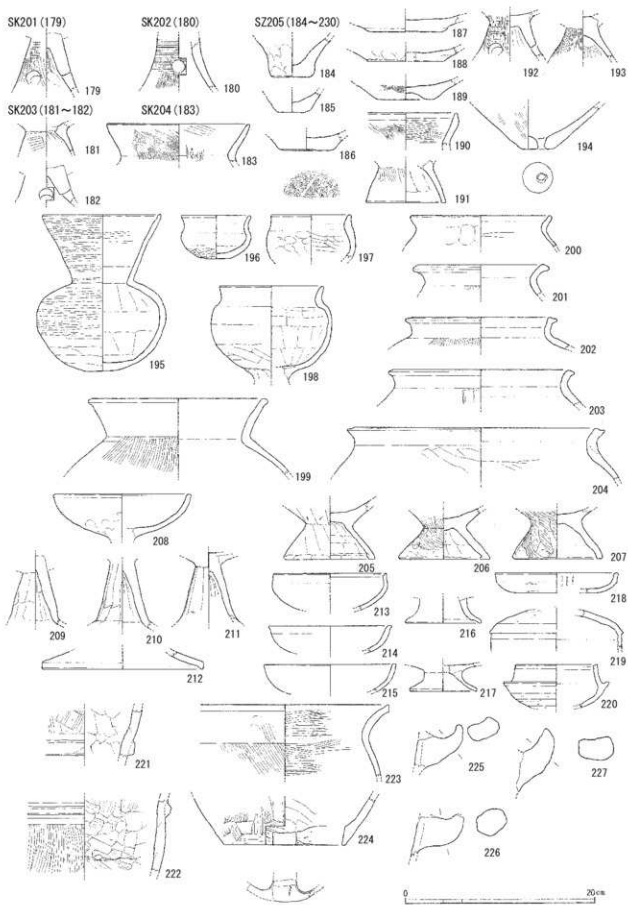
#### B区包含層出土遺物 (61~178)

弥生時代終末~古墳時代初頭の壺 (61~65・73・75・76・81・82・87~91・111・135・137・138・143~145・149~151・160~162・178)、甕(66~68・77・83・84・92~96・112~114・124~126・136・139・148・152・153・163・169・170・176)、高杯(69~71・74・78・79・98・99・115・116・127・128・132・140・141・146・154~156・159・164~167・171~173・177)、鉢(133の手焙形土器を含む)である。62は長頸壺口縁部である。66はやや内湾する口縁部をもつ甕で外面に刺突文がみられる。72は敲石で一部に敲打痕がみられる。73は肩部に1箇所円形浮文が残る。75は口縁上面に羽状刺突が認められる。76は小型の二重口縁壺である。82は小形壺で体部最大径が中央より下半部にくる。87・88は加飾系の壺で、

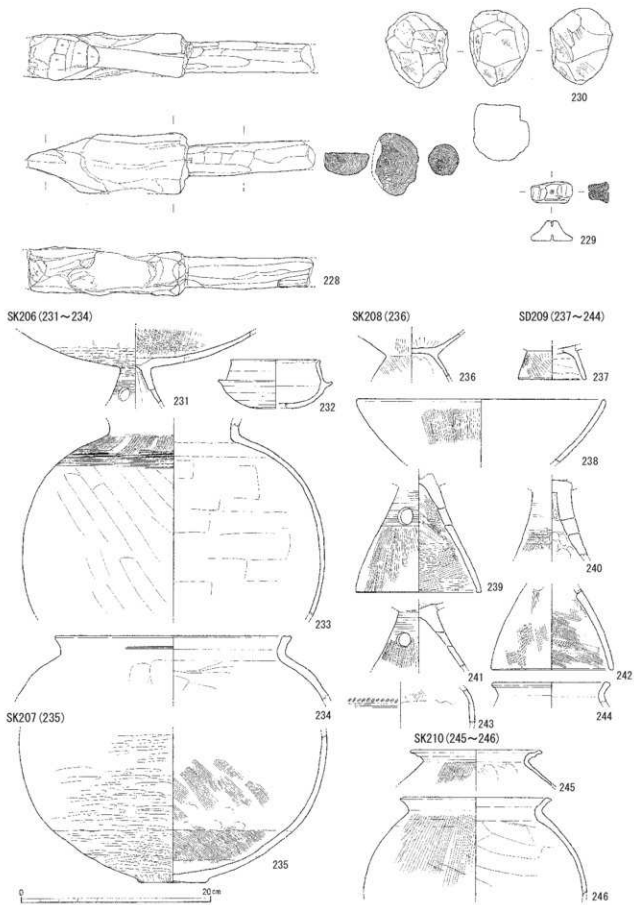
87は口縁部外面に赤彩を施す。99は口縁端部内面に沈線をし、美濃地域の特徴をもつ。113・114は端部に向かって内湾する。115は端部に内傾する面をもつ。128は端部が外反する。133は外面に突帯をもち、手焙形土器の体部下半とみられる。137・138は加飾系の壺で137は頸部にキザミを入れた突帯をもち、口縁部外面に刺突をする。138は口縁外面に擬凹線文を施し、3本の棒状浮文をつける。151は有段口縁で口縁部の下段にキザミを施す。159は口縁部付近が緩く内湾し、縁部付近は横方向のミガキを施す。162は壺体部である。最大径が体部下半にくる。163は口縁部が外反する。164は杯部が深くなる。168は把手付鉢の把手部分とみられる。171は端部に向けて僅かに内湾する。173は充填部の抜けた高杯または器台である。178は加飾壺肩部片で、上から櫛歯直線、斜状の刺突文の下に赤彩を施す。

古墳時代後期の土師器壺(117)、土師器甕(85・101~104・118~120)、土師器高杯(142・147)、須恵器杯身(107~109)、杯蓋(86・106)、高杯(110・134)、器台(175)である。80は須恵器の壺あるいは甕で緩やかに反し端部を丸く収める。85は宇田型甕の口縁部である。86は須恵器杯蓋でTK217型式併行に比定される。142は器壁が厚く端部をつまみ上げている。175は沈線2条の間に刺突を施す。

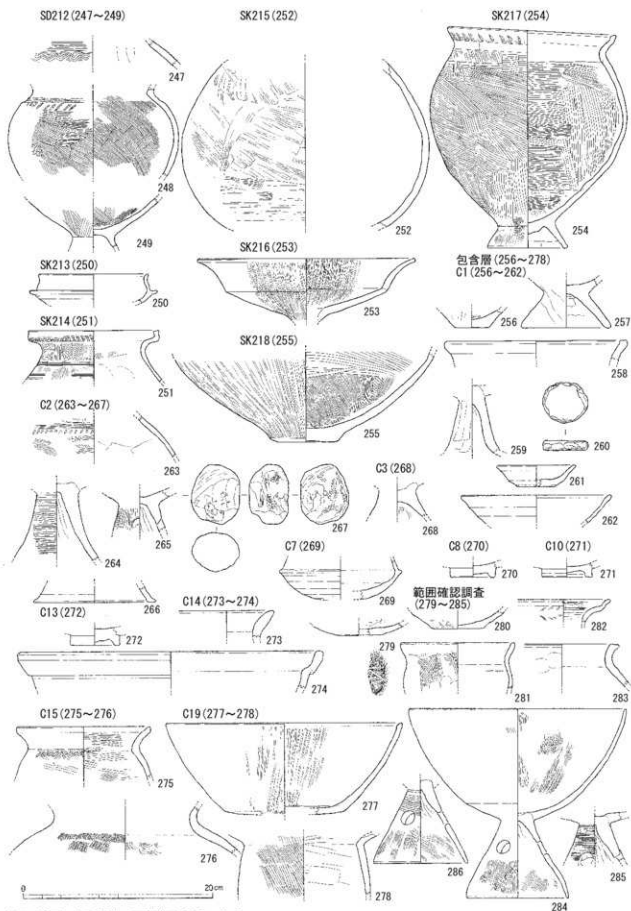




第V-40圖 中島遺跡C区遺物実測圖1(1:4)



第V-41图 中島遺跡C区遺物実測圖2(1:4)



第V-42図 中島遺跡C区遺物実測図3 (1:4)

#### S K201出土遺物 (179)

土師器高杯脚部である。

#### S K202出土遺物 (180)

土師器高杯である。やや高い位置に透し孔がある。

#### S K203出土遺物 (181・182)

181は甕台部、182は高杯である。高杯は短脚で裾部が広がるとみられる。

#### S K204出土遺物 (183)

土師器甕口縁部である。僅かに内弯傾向を示す。

#### S Z205出土遺物 (184~230)

184~194は弥生終末~古墳初頭の土器である。184~189が壺、190・191は甕、192・193が高杯、194が有孔鉢である。186は底部に木葉痕がつく。195~227は古墳時代中後期の遺物である。195は口頸部の長い壺である。体部が球胴化し口頸部は逆ハの字状に開く。199は体部が宇田型甕に類するハケメ調整をする壺である。198・200~207は甕で、201~207は宇田型甕である。208~212は高杯である。杯部は丸味を帯び脚部は下部で外方に屈曲する。213~215は杯である。特に213は端部に明瞭なナデをし、内傾する面をもつ。216・217は台付杯の台部で、218は皿である。219・220は須恵器で、219は杯蓋、220は杯身である。221・222は円筒埴輪片である。223は丸底の甕、224は甕の底部である。228・229は木製品である。228は基部をひとわり細く削り出す。ひとわり太い部分は側面に圧痕が認められ、先端を鋭角に削っている。樹種はカヤである。229は上部と下部に面をもち、断面が山形状の小片である。上端と下端に木釘状のものを刺して固定したような凹みが認められる。230は軽石で、いくつか面が形成され、擦痕が認められる。砥石として利用されたものであろう。

#### S K206出土遺物 (231~234)

231は土師器高杯で、232は須恵器杯身、233は土師器壺、234は土師器甕である。231は杯部の稜線が明瞭でなく、口縁部に向けて大きく広がる。232はTK47型式期併行に比定される。233は肩部に宇田型甕に類する原体を用い粗いハケメが認められる。234は宇田型甕である。

#### S K207出土遺物 (235)

土師器壺体部下半で体部最大径がやや下にくるも

のである。内面は黒化している。

#### S K208出土遺物 (236)

S字甕の体部と台部との接合部である。

#### S D209出土遺物 (237~244)

237はS字甕台部である。器高が低く、端部の折り返し認められない古手のものであろう。238~242は土師器高杯である。脚端部は内弯し、中央やや上部に透し孔がある。廻間1式期併行か、244は混入で、宇田型甕である。

#### S K210出土遺物 (245・246)

245・246は土師器甕である。245は器壁が薄いが、口縁端部が外方に大きく開き、端部が肥厚する。S字甕C類でも新しい。246は宇田型甕である。概ね4世紀後半から5世紀代のものとみられる。

#### S D212出土遺物 (247~249)

247は土師器壺体部、248・249は土師器甕である。247は柵描直線文の下に波状文がみられる。248は内外面共にハケ調整をし、肩部に横方向の沈線及び斜めの刺突を施す。

#### S K213出土遺物 (250)

須恵器杯身で、MT15型式併行期とみられる。

#### S K214出土遺物 (251)

口縁端部が直立する弥生土器受口甕である。口縁部外面に刺突文が密にあり、肩部はヨコハケが認められる。

#### S K215出土遺物 (252)

土師器壺体部片である。内面に炭化物が付着し、断面にもスガが付着している。

#### S K216出土遺物 (253)

弥生土器高杯である。口縁部が外反する。伊勢V-4様式併行とみられる。

#### S K217出土遺物 (254)

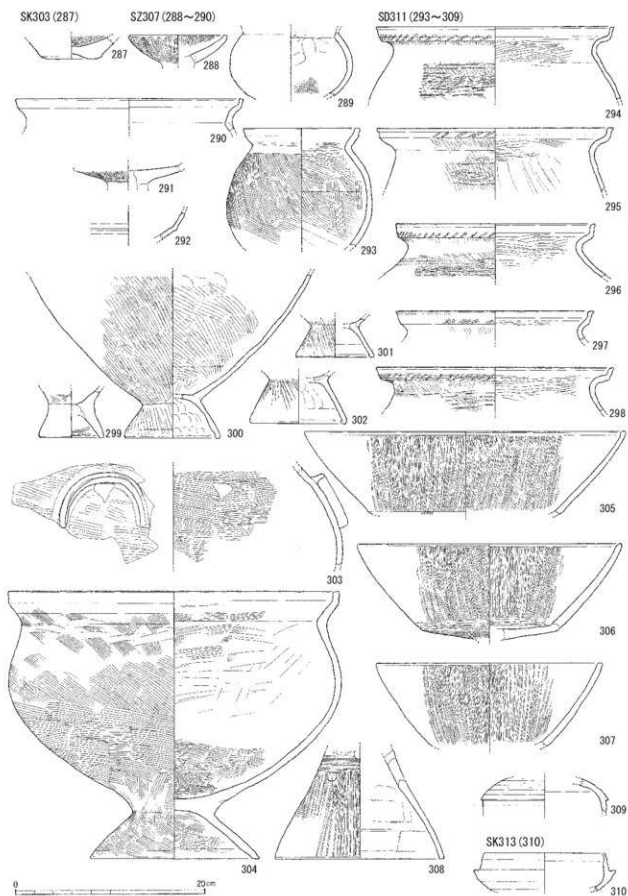
土師器台付受口状甕である。緩く内弯する口縁部で、口縁端部は面をもち、外面に刺突文を施す。器高の低い台がつく。

#### S K218出土遺物 (255)

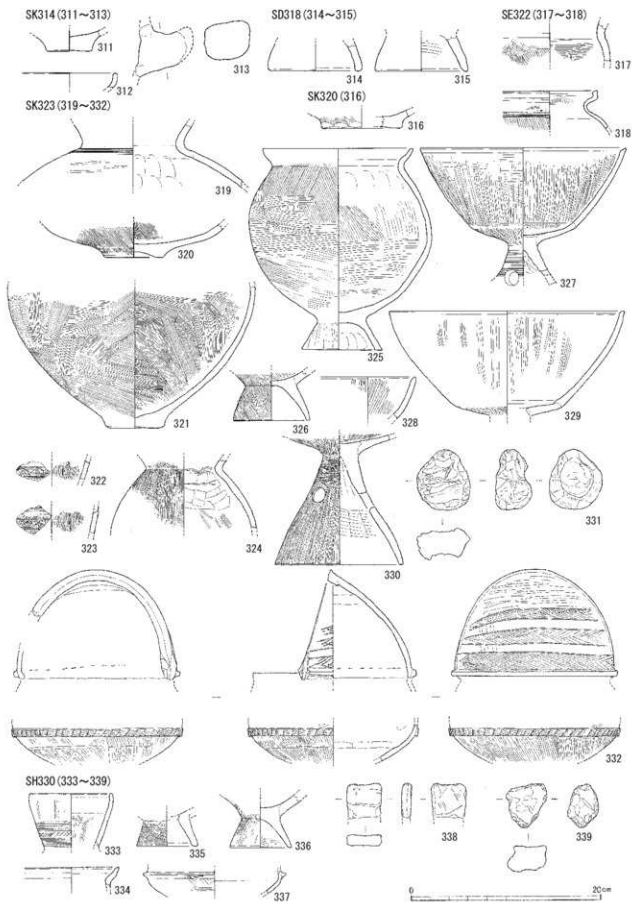
土師器壺体部下半である。端部を打ち欠いている可能性がある。内面は黒くすすけている。

#### C区包含層・範囲確認調査出土遺物 (256~286)

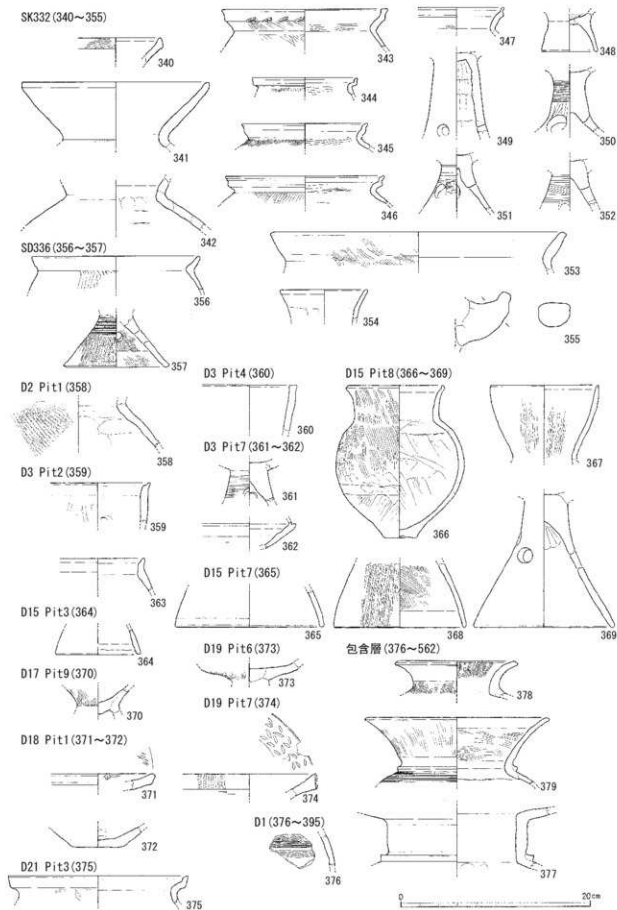
256~278が包含層、279~286が範囲確認調査出土遺物である。257・258は宇田型甕である。259は土



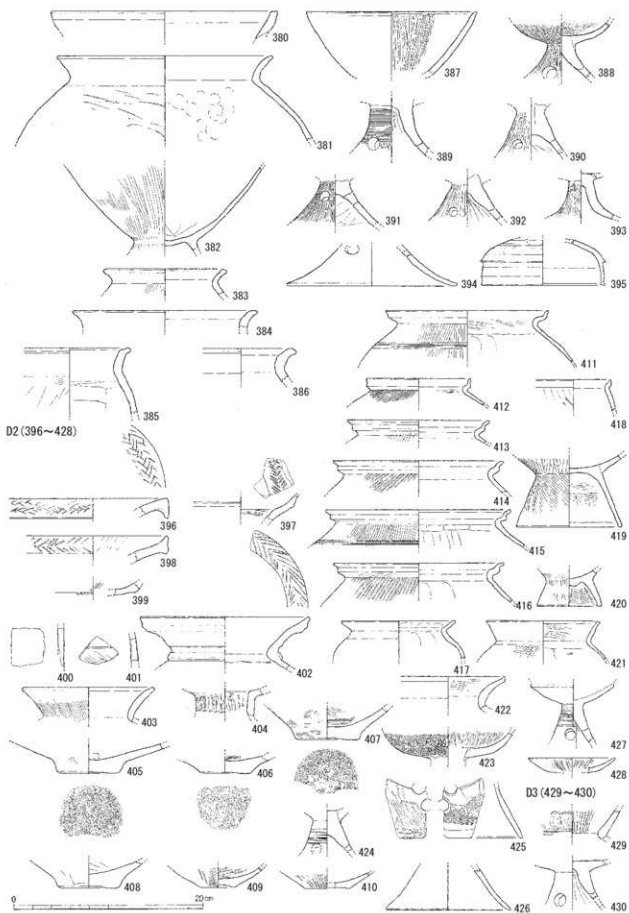
第V-43图 中島遺跡D区遺物実測圖1 (1:4)



第V-44图 中島遺跡D区遺物実測圖2(1:4)

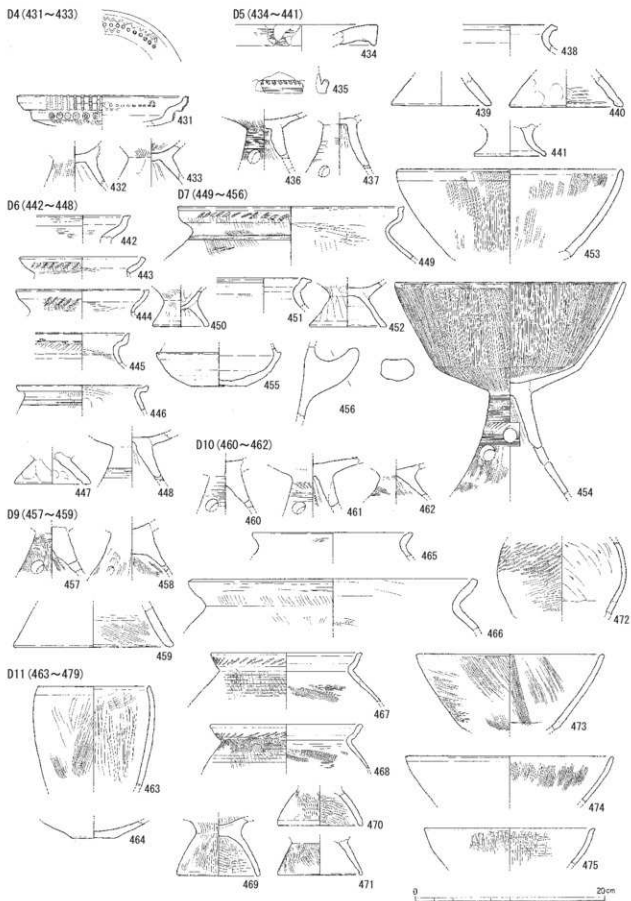


第V-45図 中島遺跡D区遺物実測図3 (1:4)

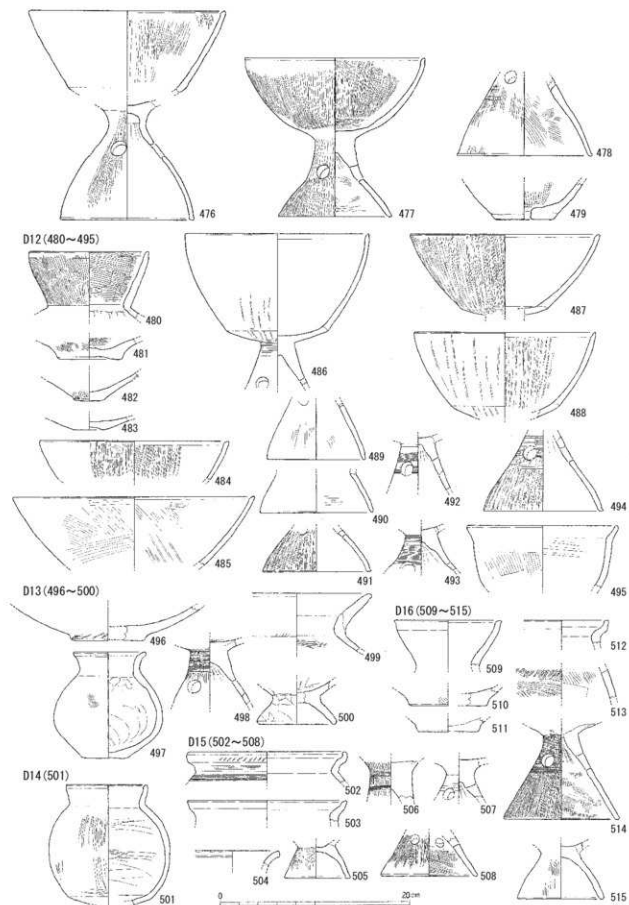


第V-46图 中島遺跡D区遺物実測圖4(1:4)



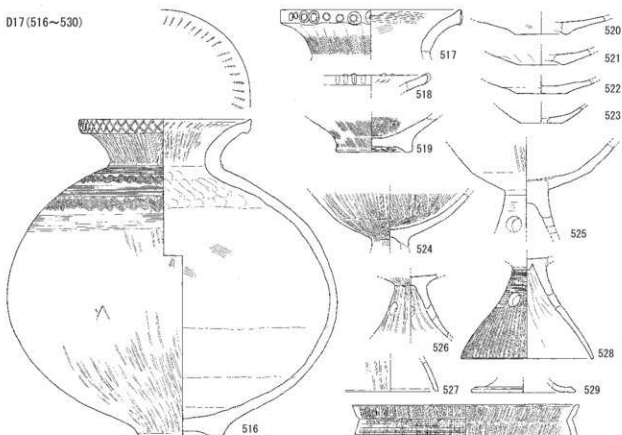


第V-47圖 中島遺跡D区遺物実測圖5(1:4)

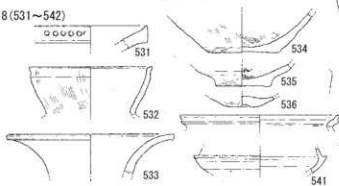


第V-48图 中島遺跡D区遺物実測図6(1:4)

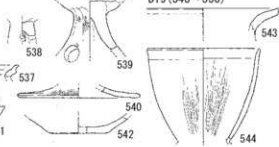
D17(516~530)



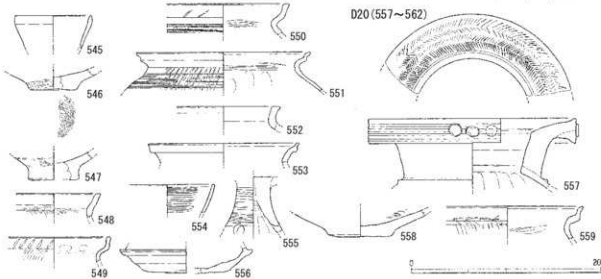
D18(531~542)



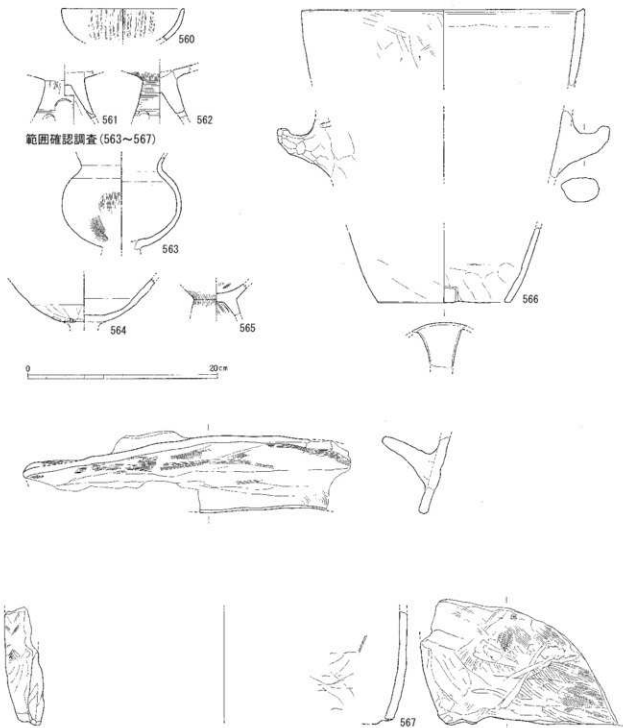
D19(543~556)



D20(557~562)



第V-49图 中島遺跡D区遺物実測図7(1:4)

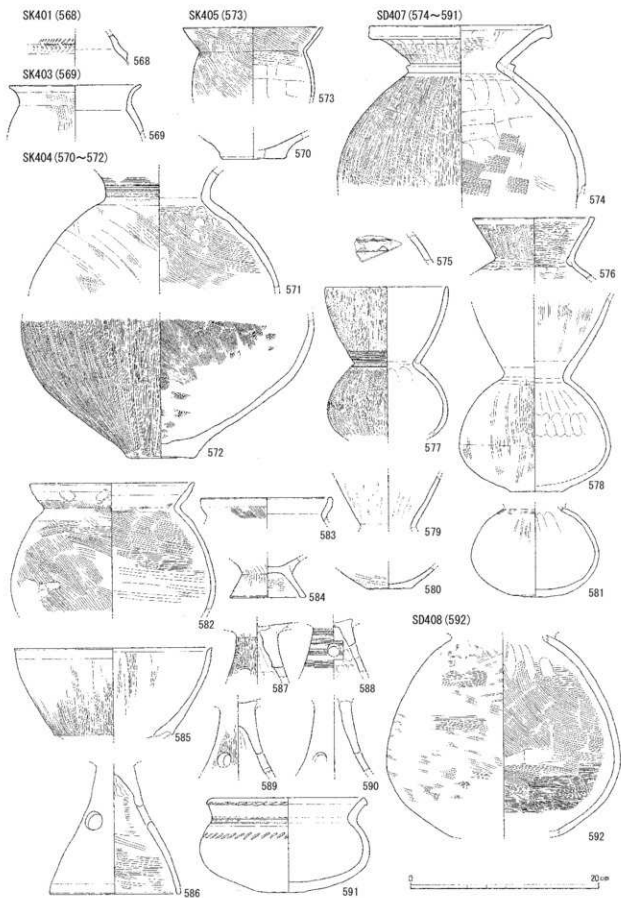


第V-50図 中島遺跡D区遺物実測図8(1:4)

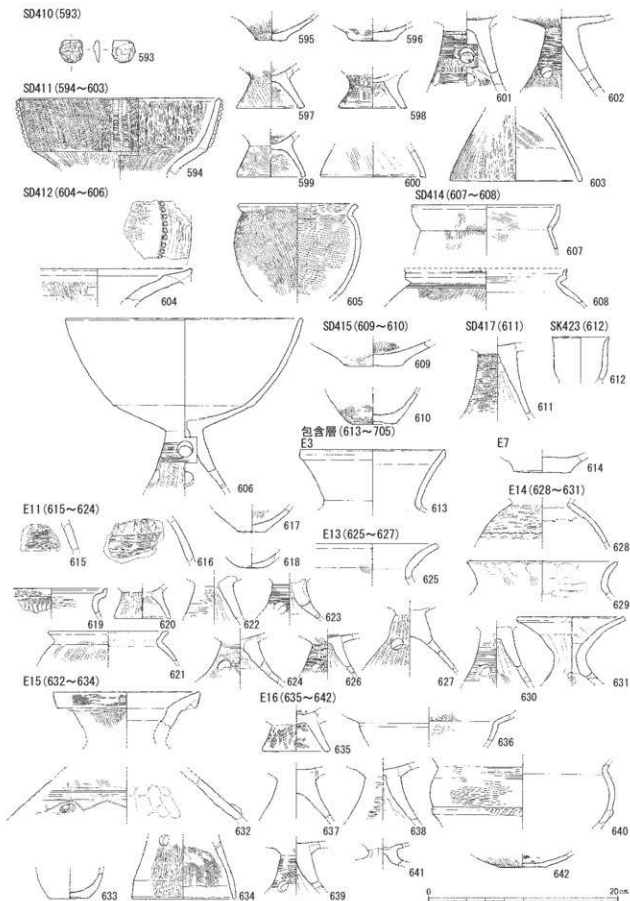
師器高杯で、下部で外方に広がるものである。260は常滑産陶器を円形に打ち欠いた加工品である。261は山皿、262は山茶碗である。263は土師器壺体部、264・265は土師器高杯である。266は須恵器高杯片とみられる。267は軽石で、複数の面をもち、砥石

とみられる。269は須恵器杯身で端部は欠損している。270・271は天目茶碗である。270は底部外面が無施軸、271は底部外面に錆軸がみられる。274は瀬戸美濃産陶器搦鉢で鉄軸がかかる。

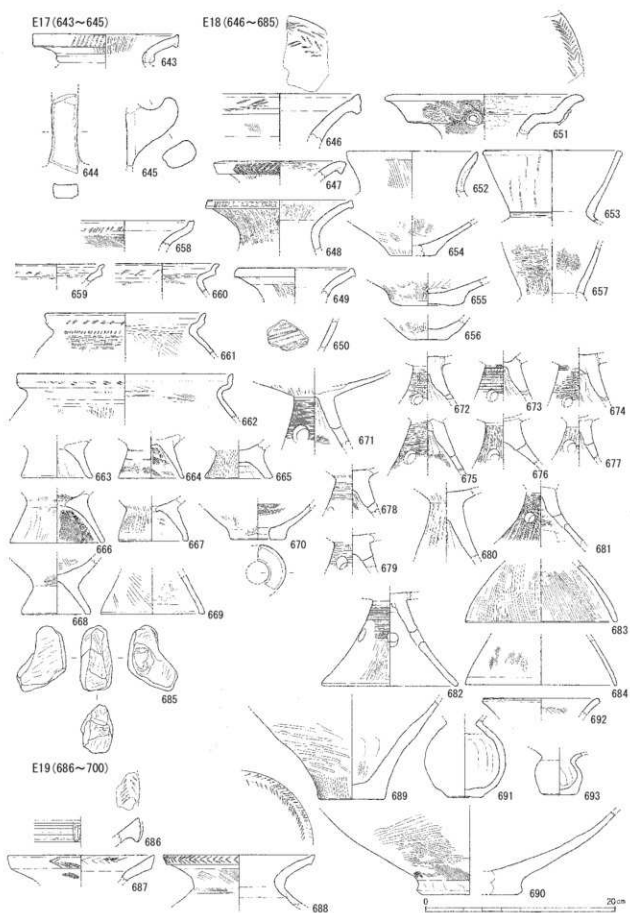
275は土師器甕で頸部に刺突がみられる。278は長



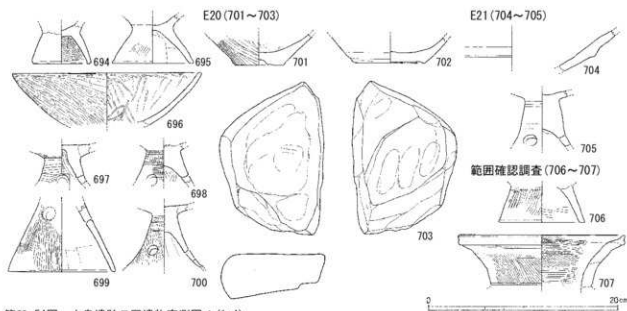
第V-51图 中島遺跡E区遺物実測圖1(1:4)



第V-52図 中島遺跡E区遺物実測図2 (1:4)



第V-53图 中島遺跡E区遺物実測図3(1:4)



第V-54図 中島遺跡E区遺物実測図4(1:4)

胴壺になるとみられる。284は土師器高杯で、廻間Ⅱ式期併行である。

#### S K303出土遺物 (287)

土師器壺底部である。外面中央が凹んでいる。

#### S Z307出土遺物 (288~290)

288は土師器器台、289は土師器長頸壺の体部、290が土師器受口状口縁甕である。

#### S K309出土遺物 (291・292)

291は弥生土器もしくは土師器高杯片、292は須恵器甕の口縁部付近か。292は混入とみられる。

#### S D311出土遺物 (293~309)

293~298は土師器甕である。293は受口状の口縁で、294・298はS字甕、295~297は受口状である。294・295は口縁部だけでなく肩部にも刺突が認められる。303・304は鉢である。303は肩部に把手がつく。304は受口状口縁で、台はハの字状に大きく開く。305~308は土師器高杯である。内弯傾向を示し、杯部径の割に器高が低い。端部に面をもち面が上を向くもの(305)、内傾するもの(306)などがある。脚部は長く、端部は内弯する。293~308の土器は概ね廻間Ⅰ式期前半併行とみられる。309は須恵器杯蓋で混入とみられる。

#### S K313出土遺物 (310)

須恵器杯身でTK10型式併行に比定される。

#### S K314出土遺物 (311~313)

311は土師器壺底部、312は土師器甕口縁部、313は土師器鍋又は瓶の把手部分である。

#### S D318出土遺物 (314・315)

いずれも弥生土器もしくは土師器甕台部である。

#### S K320出土遺物 (316)

土師器壺底部である。

#### S E322出土遺物 (317)

土師器甕片である。古代以降のものである。

#### S K323出土遺物 (318~332)

319~324は土師器甕である。319~321は大形で、322~324は長頸壺になるとみられる。321は体部最大径がほぼ中央にくるとみられ、端部を打ち欠いている可能性がある。322・323は外面に櫛描直線文及び山形の刺突を施す。318・325・326は土師器甕である。325は口縁端部が内弯傾向を示す。327~330は高杯である。内弯傾向を示し、杯部径に対し器高が高い。327・329の端部は内傾する。331は軽石である。332は手焙形土器である。覆部は端部を肥厚させて面をつくり、外面下部は沈線で区画した中に羽状の刺突文を施す。鉢部の体部下半に突帯を付けその上を刺突している。これらの出土遺物から、時期は廻間Ⅰ式期新~Ⅱ式期古段階併行とみられる。

#### S H330出土遺物 (333~339)

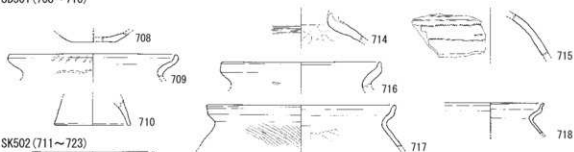
弥生終末期~古墳初頭のものである。いずれも小片で、333は壺、334~336は甕、337は手焙形土器、338は砥石である。

#### S D332出土遺物 (340~355)

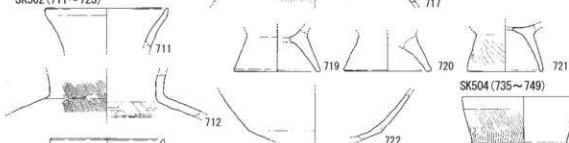
340~342は土師器壺、343~348は土師器甕、349~352は土師器高杯、353は土師器鉢である。341は



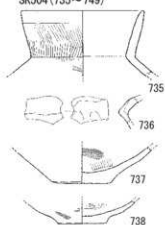
SD501 (708~710)



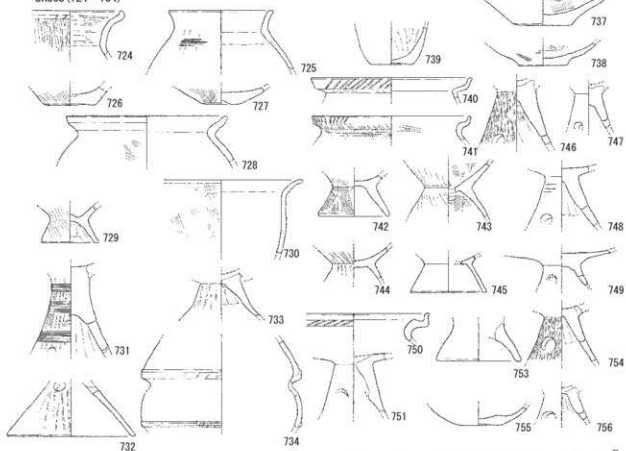
SK502 (711~723)



SK504 (735~749)



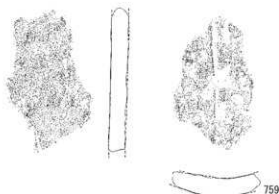
SK503 (724~734)



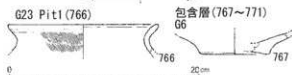
0 20cm

第V-55図 中島遺跡F区遺物実測図(1:4)

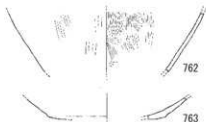
SD601 (759)



SK605 (760~761)



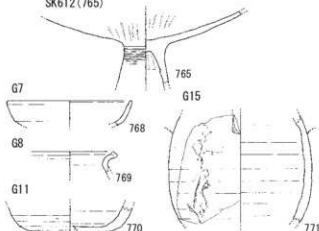
SK608 (762~763)



SK609 (764)



SK612 (765)



第V-56図 中島遺跡G区遺物実測図(1:4)

逆ハの字状に大きく広がる。343は受口状口縁、344~346はS字甕で、345・346はC類である。349は長脚になる。350は裾部が大きく開き、透し孔が大きい。354は土師器壺、355は土師器鍋あるいは瓶の把手である。

#### S D336出土遺物 (356・357)

356は弥生土器甕、357は弥生土器脚部である。357は短い脚部で逆ハの字状に直線的に延びるもので、壺脚部の可能性もある。

#### D区Pit出土遺物 (358~375)

366は直口壺で伊勢V-1・2様式併行とみられる。367は弥生土器長頸壺、368・369は弥生土器高杯である。369は長脚で3方透しの上部に1箇所透し穴がつく。

#### D区包含層・範囲確認調査出土遺物 (376~567)

376~562が包含層出土遺物である。包含層出土のもの、概ね弥生終末期~古墳時代初頭のものと同古墳時代中後期のものに分けられる。

土師器壺 (376~379・396~410・429・431・434・435・463・464・480~483・496・509~511・513・

516~523・531・532・534~536・544~547・557・558)、甕 (382・411~421・442~445・449・450・467~472・502・505・512・537・548~551・559)、高杯 (387~394・423~426・430・436・437・448・453・454・457・460~462・473~478・484~494・498・506~508・514・524~528・538~540・544・545)、器台 (427・428)、鉢 (479・495・530) である。加飾系壺となる396は口縁部の外面及び上面、398は外面、397・402は内傾する端部にそれぞれ羽状刺突が認められる。399の内面及び400・401の外面は赤彩を施す。404は二重口縁壺の頭部である。412~417はS字甕で413~416はC類に相当する。421は布留系甕である。425は高杯脚部と想定され2段の透し孔が認められる。431は加飾壺口縁部で、外面を円形浮文と棒状浮文で、内面を竹管文と波状文で加飾する。畿内系の影響を受けたものか。442~444は受口状、445・449はS字甕A類である。453・454は廻間Ⅱ式前半併行のものに比定される。467・468はS字甕A類である。472は体部上半にタタキが認められ、内面は工具によるケズリである。477は

椀形高杯となる。476は端部が内湾傾向にあり、杯部径に比べ深くなる形状から、廻間Ⅱ式期併行とみられる。486～488の特徴は概ね454と同じである。516～518は加飾壺で、516は口縁部外面に×状の刺突、口縁部上面に斜めの刺突がつく。体部上半には、櫛描直線文と波状文がつく。517は口縁部外面に竹管文2箇所・円形浮文2箇所の順で装飾している。518は棒状浮文が認められる。530は細かいミガキ調整で体部上半に櫛描直線文と円弧状の貝殻刺突を施す。551はS字甕C類である。557は重厚な口縁部をもつ加飾壺で、外面は僅かに赤彩が残り、円形浮文が3箇所みられる。口縁部上面と頸部内面は稜で明確に分かれ、口縁部上面に羽状刺突がつく。559はS字甕A類古段階である。

古墳時代中後期の遺物は、土師器壺(501)、土師器甕(381～386・422・438～440・447・451・452・500・543・552)、土師器高杯(529)、土師器台付鉢(441)、須恵器杯身(541・556)である。438・447・451・500は宇田型甕、439・440は甕台部だが、器壁が厚く宇田型甕と同時期となるものであろう。441は台付小型鉢の台部とみられる。529は端部をつまみ上げる手法で、古墳後期のものであろう。須恵器杯身は多くが端部を欠いている。

563～567が範囲確認調査出土遺物である。563は土師器台付壺であるが、台部が剥離している。564は古墳時代後期の土師器高杯である。566は土師器甕で、口縁部・把手・底部が接合しないが、胎土、形状から同一個体と判断した。口縁部は内傾する面をもつ。567は土師器移動式甕の焚口部及び頸部の破片である。焚口付近は上部に粘土を貼付け、覆いとしている。裾部は1箇所僅かに抉りを入れている。

#### S K401出土遺物(568)

土師器壺頸部で、外面に羽状刺突がみられる。

#### S K403出土遺物(569)

口縁部が外反する弥生土器甕である。端部は丸く収め、外面はススが付着している。

#### S K404出土遺物(570～572)

いずれも土師器壺である。572は内面及び断面に厚く炭化物が付着している。体部中央で打ち欠いた可能性がある。

#### S K405出土遺物(573)

土師器甕で外面及び内面体部上半までハケ調整である。外面は厚くススが付着している。

#### S D407出土遺物(574～591)

弥生終末期～古墳初頭にかけての土器が出土した。574～581は壺である。575は外面を赤彩している。576は口縁端部が内湾し、面をもつ。577～581は長頸壺で577は口頸部に櫛描直線文を施す。582～584は甕である。582・583は口縁部が受口状で、582は口縁部外面、体部外面が部分的に剥離した後にも使用していたのか断面にもススが付着している。585～590は高杯である。585・586は内湾傾向をもち、長脚のものが多く、591は口縁部が外反する鉢で頸部に櫛描直線文、口唇部と肩部に刺突を施す。器壁が厚く、重量感がある。

#### S D408出土遺物(592)

土師器壺体部である。端部を打ち欠いた可能性がある。

#### S D411出土遺物(594～603)

594～596は土師器壺、597～600は土師器甕、601～603は土師器高杯である。594は有段口縁壺の口縁部である。外面に2本1組の棒状の粘土紐を貼付け、へら状工具を横方向に押しつけている。伊勢湾沿岸地域ではみられないものである。600は底径が大きい。601は3方透しの上段に1箇所透し穴があるものである。いずれも長脚である。廻間Ⅰ期新段階～Ⅱ期併行であろうか。

#### S D412出土遺物(604～606)

604は土師器加飾壺、605は土師器甕、606は土師器高杯である。604は内面口縁部と頸部の境に稜線をもち円形刺突を施す。本来、口縁部外面は垂下するとみられるが剥離している。605は内外面ともハケメを基調とする甕である。606は3方透しの上段に1箇所透し穴をもつ。廻間Ⅱ式期併行頃か。

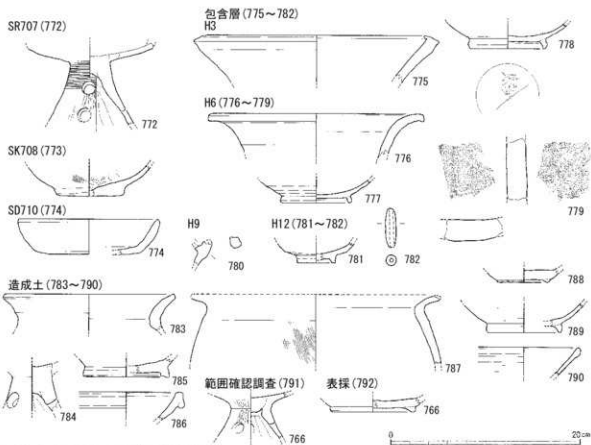
#### S D414出土遺物(607・608)

いずれも土師器甕である。607は口縁部の内湾傾向が強い。608は肩が強く張る。S字甕B類古段階併行頃か。

#### S D415出土遺物(609・610)

いずれも土師器壺底部である。609は内面が黒化している。

#### S D417出土遺物(611)



第V-57図 中島遺跡H区遺物実測図(1:4)

弥生土器高杯である。長脚になるとみられる。

#### S K 423出土遺物 (612)

土師器壺、いわゆるヒサゴ壺口縁部である。口頸部が短くなり、廻間Ⅱ式期併行のものとみられる。

#### E区包含層・範囲確認調査出土遺物 (613~707)

包含層出土は613~705である。弥生終末期~古墳時代初頭のもの、壺 (613~618・628・632・633・643・646~657・686~693・701・704・707)、甕 (619・620・635・658~669・694・695・706)、高杯 (622~624・626・627・630・634・636~639・671~684・696~700・705)、器台 (631)、鉢 (640・670) である。619はS字甕A類新段階である。628は肩部に円弧の刺突文がある。632は口縁端部を外折し垂下させたものである。接合しないものの胎土から体部も同一個体とみている。体部肩部に櫛掛横線文、山形文がみられ、円形浮文を施す。636は球状の杯部に上部が大きく外方に開くもので、畿内の影響を受けたものか。640は体部下半に突帯が付くもので手焙形土器になる可能性がある。646は口縁部外面及び上面に羽状刺突がつく。651は有段口縁の加飾

壺で、口縁部外面に波状文と円形浮文がつく。658は受口状口縁、659~662はS字甕でA類新段階のものである。685は軽石である。686~688は加飾壺で、口縁部外面に赤彩が認められる。

687・688は口縁部外面及び上面に羽状刺突がある。689は壺の体部下半であるが、最大径が体部上半にくるもので、伊勢V様式に収まるものであろうか。691・693は小形壺である。699は杯部の浅い高杯である。

古墳時代後期の遺物は、土師器甕 (621) で、宇田型甕である。

奈良時代の遺物は、土師器甕 (625) ・甎 (644) である。

702は山茶碗で、第6型式に比定される。

範囲確認調査で出土したのが706・707である。いずれも土師器で、706は甕台部、708は壺口縁部である。

#### S D 501出土遺物 (708~710)

708は土師器壺底部、709・710は土師器甕である。709は受口状口縁である。

#### S K502出土遺物 (711~723)

711~715が土師器壺、716~721が土師器甕、722・723が土師器高杯である。713は比較的口縁部が直線のみに延びる。721はS字甕台部である。

#### S K503出土遺物 (724~734)

724~727は弥生土器壺、728~730は弥生土器甕、731~733は弥生土器高杯、734は手焙形土器である。724はミガキ調整がみられるが口縁部が外反し端部を上につまみ上げるような形状で、キザミを施すあまり類例のないものである。

#### S K504出土遺物 (735~749)

735~738は土師器壺、740~745は土師器甕、746~749は土師器高杯である。736は口縁部と体部で胎土が異なる。739はミニチュア壺か。

#### S K505出土遺物 (750・751)

750は土師器受口状口縁甕、751は土師器高杯である。

#### F3Pit1出土遺物 (752)

土師器壺底部である。

#### F区包含層出土遺物 (753~758)

755は土師器壺、756は土師器高杯、757は灰軸陶器、758は土師器ミニチュア土器の把手部分か。

#### S D601出土遺物 (759)

平瓦である。内面に布目圧痕がつく。

#### S K605出土遺物 (760・761)

760は土師器甕口縁部、761は土師器高杯杯部である。

#### S K608出土遺物 (762・763)

762はS字甕体部下半、763は土師器高杯杯部である。

#### S K609出土遺物 (764)

伊勢第V様式後半代の弥生土器高杯である。

#### S K612出土遺物 (765)

弥生土器高杯である。杯部下半の形状や脚部が長脚になるとみられ、伊勢第V様式に収まるものとみられる。

#### G区Pit出土遺物 (766)

土師器甕口縁部である。

#### G区包含層出土遺物 (767~771)

他地区と比較して、弥生終末期~古墳初頭の遺物はほとんどみられなかった。767は土師器壺底部、768は土師器杯である。769は土師器甕で、口縁端部を内側に折る。770は須恵器壺底部である。

771は緑釉陶器瓶である。緑釉の上に褐色釉薬で文様を入れている。破片であるが、珍しいものである。

#### S R707出土遺物 (772)

高杯である。長脚で、1方+3方透し孔となる。

#### S K708出土遺物 (773)

土師器壺、底部付近が残っている。

#### S D710出土遺物 (774)

土師器杯である。遺存状況が良くなく、調整は不明である。

#### H区包含層・範囲確認調査等出土遺物 (775~792)

775~782が包含層出土である。775は常滑産陶器捏鉢、776は須恵器甕、777・778は灰軸陶器椀、779は布目瓦である。778はK-90号窯併行とみられる。780は把手部分だが、華奢なつくりで、ミニチュアの把手である可能性が高い。

783~790は造成土からの出土である。783は丸底の底部をもつ甕になるか。785は須恵器壺あるいは瓶の底部、736は陶器鉢で、内面は使用痕跡が認められる。787は土師器長胴甕、789は灰軸陶器椀、787は玉縁状の口縁となる白磁椀である。

791は範囲確認調査で出土した土師器高杯、792は表探した山茶椀である。(原田)

## 第4節 小 結

調査の結果、遺構は大きく弥生終末期~古墳初頭、古墳後期~奈良時代、中世に分けられ、弥生終末期~古墳初頭の遺構が濃密に認められた。古墳後期~奈良時代の遺構は一定量認められ、中世以降の遺構はごく僅かである。

遺跡の北側にあたるB・D区の特に微高地にあた

るD13~21・B1~13では検出面で多量の遺物が出土し、溝・土坑などの遺構が濃密に認められた。弥生終末期~古墳初頭の堅穴建物ではSH115・SH330のみ確認したが、本来は更に多くの堅穴建物のある居住域であったと考えられる。微高地の西側約35mにSD311があり、空間を画する溝であったと推定

されるSD311からは概ね廻間I式前半併行の遺物が多量に出土している。またD区では、微高地西端とSD311の間にあるSK323で台付甕(323)の内部に高杯脚部(330)で蓋をするように入っていた。出土状況から、ただの廃棄ではなく、何らかの意図をもって入れたものと推察される。

遺跡の南端にあたるF区では浅い溝及び土坑を確認した。土坑からは古式土師器が多く出土したものの、いずれも細片で全形のわかるものは少なかった。F区の東に位置するH区では、H13～22の範囲で水路を確認した。当該期の遺構は希薄である。

B・D区とF・H区を南北に繋ぐE・F区及びE区南端から西に延びるC区は低地となる。ここでは、溝・土坑を確認した。土坑はC6以東、E8以南、G17以北に集中している。これらの土坑は、標高が低く地山がグライ化した粘土層であること、土坑の肩は垂直に近いものが多いこと、埋土の一部にブロック土を含むこと、埋土に出土遺物に壺体部が多く、中には体部下半や体部側面を打ち欠いているといった特徴を持つ。津市相川西方遺跡では、不整形の土坑が集中すること、土坑の断面形状が袋状にオーバ-

ハンクしていること、埋土にブロック土が堆積するものが多いこと、半載状態の土器が出土することなどから、弥生終末期～古墳初頭にかけた土坑700基以上が粘土探掘坑であったと考えられている<sup>2)</sup>。相川西方遺跡の事例と比較すると、一部該当しない点もあるが、現時点では粘土探掘坑の可能性を指摘しておきたい。

古墳後期～奈良時代の遺構は、B区でカマドSF136・137を確認した。堅穴建物のプランは認められないもの、弥生終末期～古墳初頭の居住域とほぼ同じ範囲に古墳後期～奈良時代の居住域も広がっていたと思われる。また、低地部分には弥生終末期～古墳初頭と同じように土坑を複数確認している。

平安時代の遺構はほぼ認められないが、G15包含層中から緑釉陶器瓶とみられる遺物が出土している。また、少量であるが、H区で灰釉陶器が出土している。

中世の遺構は希薄であるが、遺跡北側ではD区SE322、南側でA区SD3・4・5、H区SD710が認められる。(原田)

## 註

- (1) 土器等の分類・編年については以下の文献による。  
弥生土器：上村安生2002『伊勢・伊賀地域』『弥生土器の様式と編年』東海編、木耳社  
古式土師器：愛知県埋蔵文化財センター1990『廻間遺跡』古墳時代の土師器：三重県埋蔵文化財センター2004『河曲の遺跡 河田宮ノ北遺跡・宮ノ前遺跡・八重垣神社遺跡(第1～3次)』発掘調査報告書／赤塚次郎1996『濃尾平野低湿地帯における古墳時代の甕』『鍋と甕そのデザイン』第4回考古学フォーラム  
古代の土師器：富宮歴史博物館2001『富宮跡発掘調査報告I』  
須恵器：田辺昭三1966『陶色古窯址群I』平安学園考古クラブ  
灰釉陶器：橋崎彰一1983『猿投窯の編年について』『愛知県古窯跡群分布調査報告』Ⅲ、愛知県教育委員会  
中世土器：伊藤裕偉1992『南伊勢系土師器の展開と

中世土器工人』『研究紀要』第1号、三重県埋蔵文化財センター／伊藤裕偉1996『伊勢の中世煮沸用土器から東海を見る』『鍋と甕そのデザイン』第4回考古学フォーラム

山茶碗：藤沢良祐1994『山茶碗研究の現状と課題』『研究紀要』3、三重県埋蔵文化財センター

古瀬戸・瀬戸美濃大窯：藤沢良祐2002『瀬戸美濃大窯編年の再検討』『瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要』第10輯／藤沢良祐2005『施釉陶器生産技術の伝播』『中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～』(発表要旨集)／藤沢良祐2008『古瀬戸前期・中期・後期様式の編年』『中世瀬戸窯の研究』高志書院  
常滑：中野晴久2005『器美・常滑』『中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～』(発表要旨集)

- (2) 三重県埋蔵文化財センター2014『一般国道23号中勢道路(12工区)建設事業に伴う相川西方遺跡発掘調査報告』

調査区	遺構番号	地区	性格	時期	長さ(m)	幅(m)	深さ(m)	出土遺物	備考(前後関係、特徴等)
A	S21	A1・2	落ち込み	古墳前期	—	7.60*	0.44	土師器	
A	S92	A4・5	溝	不明	—	3.97	0.32	土師器	
A	S93	A6・7	溝	中後	—	1.35	0.37	弥生土器・須恵器・陶器	最下層で須恵器片出土
A	S94	B7	溝	中後前期	—	1.56	0.43	土師器・山手瓦	
A	S95	A15・16	東西溝	中後前期	—	0.85	0.25	土師器・須恵器・陶器	
A	S96	A33	溝	不明	—	0.70	0.19	なし	
B	SK101	B1	土坑	弥生終末	1.30	0.59*	1.03	弥生土器	
B	S10102	B1・2	溝	古墳前期	—	0.26	0.22	土師器	S10102→SK104
B	SK103	B1・2	土坑	古墳	1.1*	0.90*	0.05	土師器	SK103→B1P12
B	SK104	B2	土坑	古墳初期	1.90	1.00*	0.03	土師器	S10102→SK104
B	SK105	B2	土坑	古墳後期	2.20	1.00*	0.03	須恵器	SK107→B2P12
B	SK106	B3	土坑	弥生終末～古墳前期	2.20	1.00*	0.06	弥生土器、土師器	B3P14・P145→SK106
B	SK107	B4	土坑	古墳初期～古墳後期	1.60*	0.92*	0.06	土師器	
B	SK109	B4	土坑	古墳後期	1.45	0.55*	0.05	土師器	
B	SK109	B5・6	土坑	古墳後期	2.35	1.15*	0.03	土師器	SK111→SK109
B	SK110	B6	土坑	弥生終末	2.70	1.15*	0.04	弥生土器	
B	SK111	B5・6	土坑	古墳前期	0.98	0.42*	0.15	土師器	SK111→SK109
B	SK112	B7	土坑	弥生終末～古墳後期	1.55	1.15*	0.04	弥生土器、土師器	
B	S9113	B8	溝	古墳後期	—	1.00	0.09	土師器	S9113→S9114
B	S9114	B8	溝	古墳後期	—	0.90	0.14	土師器	S9113→S9114
B	S9115	B9	竪穴建物	弥生終末～古墳前期	2.60*	0.65*	0.11	弥生土器、土師器	SK117・SK121→S9115、聖洲講あり
B	SK116	B6	土坑	弥生終末	1.05	0.35*	0.26	弥生土器	SK116→SF137
B	SK117	B9	土坑	弥生終末	1.12*	1.10	0.33	弥生土器	SK117→S9115
B	S9118	B9～11	溝	古墳前期	—	0.26	0.13	土師器	SK125→S9118、上層からの掘削
B	SK119	B9・10	土坑	不明	0.85	0.43*	0.31	土師器	
B	SK120	B10	土坑	古墳前期か	0.73	0.27*	0.07	土師器	
B	SK121	B9	土坑	不明	0.6*	1.24	0.06	土師器	SK121→S9115
B	SK122	B10	土坑	古墳後期か	2.00	0.40*	0.02	土師器	SK122→S9118
B	SK123	B11・12	土坑	古墳初期	1.12*	1.42	0.06	土師器	SK126→SK123・SK125
B	S9124	B10	溝	古墳後期～古代	1.98*	0.20	0.02	土師器	SK124→SK122
B	SK125	B11	土坑	弥生終末	1.51	0.9*	0.03	弥生土器	SK126→SK125→S9118
B	SK126	B11	土坑	古墳初期	1.00*	0.77*	0.09	土師器	SK126→SK123・SK125
B	SK127	B13	土坑	不明	0.54	0.39*	0.10	土師器	SK129→SK129→SK127
B	SK128	B13	土坑	不明	0.82	0.42	0.08	なし	SK128→SK129
B	SK129	B13	土坑	弥生終末	0.95*	0.55	0.07	弥生土器	SK128→SK129→SK127
B	S9130	B12	溝	古墳前期か	—	1.40	0.09	土師器	上層からの掘削
B	S9131	B13	溝	古墳後期～古代	—	0.78	0.46	土師器	
B	S9132	B14	溝	弥生終末～古墳前期	—	0.40	0.05	弥生土器又は土師器	
B	S9133	B15	溝	古墳前期か	—	1.00	0.04	土師器	
B	SK134	B17・18	土坑	古墳初期	1.40	0.34*	0.05	土師器	SK135→SK134
B	SK135	B17	土坑	古墳初期	2.00	0.72*	0.09	土師器	SK135→SK134
B	SF136	B6	カマド	古墳後期～奈良	0.45*	0.35*	0.07	土師器	竈のみ
B	SF137	B6	カマド	古墳後期～奈良	0.65	0.40*	0.15	土師器	SK116→SF137、竈のみ、支柱6あり
C	SK201	C1	土坑	弥生終末	0.20*	0.70	0.37	弥生土器	
C	SK202	C2	土坑	弥生終末	0.55*	0.35	0.12	弥生土器	上層からの掘削
C	SK203	C1	土坑	弥生終末	1.10	0.42*	0.29	弥生土器	
C	SK204	C2	土坑	古墳初期～古墳後期	0.70*	1.32	0.64	弥生土器、土師器、須恵器、木製品、穀石	
C	S2205	C3・7	落ち込み	古墳初期～古代	—	15.00	0.40	土師器、須恵器	S2205→SK206
C	SK206	C7	土坑	古墳後期	2.20	1.20*	0.76	土師器、須恵器	SK207→SK206
C	SK207	C7・8	土坑	古墳初期	1.75*	0.9*	0.65	土師器	SK207→SK206
C	SK208	C6	土坑	古墳初期	2.05	0.40*	0.18	土師器	
C	S2009	C8～12	溝	古墳初期	—	3.00*	0.68	土師器	
C	SK210	C12	土坑	古墳中後期	0.60*	1.62	0.56	土師器	
C	SK211	C11	土坑	不明	—	0.70*	0.40	土師器	
C	S9212	C14・15	溝	古墳初期	—	1.15	0.39	土師器	
C	SK213	C15	土坑	古墳後期	1.00*	1.24	0.36	須恵器	
C	SK214	C16	土坑	弥生終末	0.74*	0.96	0.60	土師器	
C	SK215	C16	土坑	古墳初期	0.90*	1.40	0.41	土師器	
C	SK216	C17・18	土坑	弥生後期	1.20*	1.10	0.80	弥生土器	
C	SK217	C19	土坑	弥生終末	1.05*	1.70	0.35	弥生土器	
C	SK218	C19・20	土坑	古墳初期	0.70*	2.30	0.27	土師器	
D	SK301	B1	土坑	古墳初期～古墳前期	0.75	0.15	0.37	土師器	
D	S2002	B1	溝	不明	—	0.29	0.10		
D	SK303	B1	土坑	古墳初期	0.68	0.28*	0.22	土師器	
D	SK304	B1	土坑	古墳初期	0.65	0.35	0.06	土師器	
D	SK305	B1	土坑	古墳初期	0.60	0.20*	0.10	土師器	SK305→SK306
D	SK306	B1	土坑	古墳初期	0.27	0.20*	0.12	土師器	SK305→SK306
D	S2307	D4・5	落ち込み	古墳初期～古墳前期	—	7.00	0.20	土師器	S2307→S9011
D	SK309	B2	土坑	古墳初期	0.53	0.26*	0.31	土師器	SK309→SK308
D	SK309	B2	土坑	古墳初期	1.34*	0.89	0.06	土師器	SK309→SK308
D	SK310	B4	土坑	古墳初期	0.85*	0.47*	0.13	土師器	
D	S9011	B6・8	溝	弥生終末～古墳後期	—	3.10	0.38	弥生土器、土師器、須恵器	S2307→S9011
D	SK312	D4	土坑	古墳初期	0.62*	0.44*	0.02	土師器	SK312→SK315→S2307
D	SK313	D4	土坑	古墳後期	1.08	0.32*	0.06	須恵器	SK312→SK315→S2307
D	SK314	D4・5	土坑	古墳初期～古墳後期	0.80	0.62*	0.11	土師器	SK312→SK315→S2307
D	SK315	D4	土坑	古墳初期	0.70*	0.50*	0.09	土師器	SK312→SK315→S2307

第V-1表 中島遺跡遺構一覧表1 \*「\*」付の数字は以上であることを表す

調査区	遺構番号	地区	性格	時期	長さ(m)	幅(m)	深さ(m)	出土遺物	備考(前後関係、特徴等)
D	SK316	D7	土坑	古墳初期	3.08	0.80*	0.18	土師器	SK316・SK317・SK322
D	SK317	D6・7	土坑	古墳初期小	0.70*	0.30*	0.10	土師器	SK316・SK317・SK322
D	SK318	D7	溝	弥生終末	—	0.53	0.04	弥生土器	SK318・SK320・321
D	SK319	D7	溝	古墳後期小	—	0.40	0.06	土師器	SK319・SK316
D	SK320	D7・8	土坑	弥生終末～古墳初期	1.20	0.36*	0.10	弥生土器又は土師器	SK318・SK320・321
D	SK321	D7	土坑	不明	0.82	0.32*	0.06	土師器	SK318・SK320・321
D	SK322	D7	井戸	中世	0.75	0.18*	0.26	土師器、瀬島器、山茶椀	SK316・SK317・SK322
D	SK323	D10	土坑	古墳初期	0.55*	0.73	0.68	土師器	付随物の内面に高野御座を入手状にして出土
D	SK324	D13	土坑	古墳後期	0.30	0.15*	0.35	土師器、瀬島器	
D	SK325	D13	溝	古墳後期	—	0.28	0.11	土師器	南平は削平
D	SK326	D14	土坑	古墳後期	1.26	0.35*	0.13	土師器	
D	SK327	D14・15	溝	古墳初期	—	0.34	—	土師器	SK328→SK327
D	SK328	D14・15	土坑	古墳初期	1.00*	0.40*	0.10	土師器	SK328→SK327
D	SK329	D15・16	土坑	古墳初期～古墳前期	1.80*	0.90*	0.11	土師器	
D	SK330	D16・17	竪穴建物	古墳初期	2.80*	1.50*	0.13	土師器、石器、硃石	西側で壁面確認
D	SK331	D18	溝	古墳初期	—	0.35	0.13	土師器	北平は削平
D	SK332	D19	土坑	弥生終末～古墳初期	1.44*	1.40	0.23	弥生土器、土師器	
D	SK333	D20・21	土坑	弥生終末～古墳初期	0.58*	1.00	0.02	土師器	
D	SK334	D20	土坑	古墳初期	0.76*	0.52	0.17	土師器	
D	SK335	D20	溝	古墳初期小	—	0.20	0.07	土師器	
D	SK336	D20	溝	古墳初期～古代	—	0.38	0.14	土師器	
E	SK401	E1	溝	古墳初期	—	0.34*	0.14	土師器	
E	SK402	E3	土坑	古墳初期	0.33*	0.58	0.32	土師器	
E	SK403	E2	土坑	弥生終末～古墳初期	0.77*	0.95	0.16	弥生土器又は土師器	
E	SK404	E3	土坑	弥生終末～古墳初期	1.18*	1.36	0.45	弥生土器又は土師器	
E	SK405	E2・3	土坑	弥生終末	2.10*	0.81*	0.51	弥生土器	
E	SK406	E7・8	土坑	古墳初期小	2.10	1.00*	0.74	土師器	
E	SK407	E13	溝	弥生終末～古墳初期	—	0.84	0.16	弥生土器、土師器	上層からの掘削
E	SK408	E14・15	溝	古墳初期	1.80*	0.52	0.17	土師器	
E	SK409	E16	溝	不明	0.42*	1.43	0.25	土師器	SK409c:変更
E	SK410	E17	溝	古墳初期～古代	—	1.29	0.41	石器、土師器	
E	SK411	E17	溝	古墳初期	—	2.08	0.12	土師器	
E	SK412	E18	溝	弥生終末～古墳後期	—	0.28	0.13	弥生土器、土師器	
E	SK413	E18	土坑	古墳初期	0.77*	0.42*	0.08	土師器	SK413→SK414
E	SK414	E18・19	溝	古墳初期～古墳後期	—	1.92	0.07	土師器	SK413→SK414
E	SK415	E19	溝	弥生終末～古墳初期	—	0.55	0.04	弥生土器又は土師器	
E	SK416	E19・20	溝	古墳初期小	—	1.79	0.29		
E	SK417	E20	溝	弥生終末～古墳初期	—	0.22	0.14	弥生土器又は土師器	
E	SK418	E19	溝	古墳初期	—	—	不明	土師器	
E	SK419	E20・21	土坑	不明	0.86*	1.28	0.10	土師器	
E	SK420	E21	土坑	不明	1.10*	0.80	0.19	土師器	
E	SK421	E21	土坑	不明	1.00	0.95	0.12	土師器	
E	SK422	E22	土坑	不明	1.98*	0.32*	0.11	土師器	
E	SK423	E22	土坑	古墳初期	0.70*	0.54	0.25	土師器	
F	SK501	F2-4	溝	古墳初期	11.4*	0.80*	0.20	土師器	SK505→SK501
F	SK502	F2	土坑	古墳初期	0.62*	0.92	0.33	土師器	
F	SK503	F2・3	土坑	古墳初期	1.70*	0.65*	0.35	土師器	
F	SK504	F3	土坑	弥生終末～古墳初期	0.68*	1.60	0.29	弥生土器、土師器	
F	SK505	F4	土坑	古墳初期	2.30	0.44	0.18	土師器	SK505→SK501
G	SK601	G5	溝	奈良～平安	—	1.50	0.08	土師器、瀬島器、沢崎陶器、瓦	
G	SK602	G6	溝	不明	—	0.90	0.16	土師器	
G	SK603	G17	溝	古墳初期	—	1.10*	0.45	土師器	
G	SK604	G16・17	溝	古墳初期小	—	1.00*	0.23	土師器	
G	SK605	G17・18	土坑	弥生終末～古墳初期	1.78	1.20	0.62	弥生土器又は土師器	
G	SK606	G17	溝	古墳初期	—	0.58	0.41	土師器	
G	SK607	G18	土坑	古墳初期～古墳後期	0.90*	0.50*	0.32	土師器	
G	SK608	G18	土坑	弥生終末～古墳初期	1.12	1.00	0.58	弥生土器又は土師器	
G	SK609	G20	土坑	弥生後期	2.12	1.40	0.51	弥生土器	
G	SK610	G21	土坑	不明	0.90	0.80	0.34	土師器	
G	SK611	G22	土坑	不明	0.95*	1.27	0.54	土師器	
G	SK612	G23	土坑	不明	0.52*	0.80	0.11	土師器	
G	SK613	G20	井戸	不明	1.10	1.03	0.95		
H	SK701	H5	土坑	不明	0.88*	0.58	0.03	土師器	
H	SK702	H6	溝	不明	—	0.68	0.12	土師器	
H	SK703	H7	土坑	不明	0.52*	0.36	0.11	土師器	
H	SK704	H8	土坑	古墳後期小	0.66*	0.44	0.04	土師器	
H	SK705	H8	土坑	不明	1.12	0.32	0.06	土師器	
H	SK706	H10	溝	古墳後期	—	0.67	0.17	土師器、瀬島器	
H	SK707	H13→29	河路	弥生終末～奈良	—	46.00	—	弥生土器、土師器、瀬島器	施工段まで掘削
H	SK708	H29	土坑	古墳初期	0.60*	1.30	0.79	土師器	
H	SK709	H33	溝	古墳後期	—	2.24	0.56	土師器、瀬島器	
H	SK710	H33・34	溝	鎌倉	—	0.88	0.20	土師器、瀬島器、山茶椀	

第V-2表 中島遺跡遺構一覧表2

\*「\*」付の数字は以上であることを表す



報告番号	発掘番号	種別	副種	地区	遺構番号	発掘層位	発掘時期	遺量 (cm)			技法・文様の特徴	出土品	構成	色調	特記事項
								口径	底径	高さ					
1	907-01	陶器	山形製	A0	S03	11.7	—	—	—	—	内：ロタンナ 外：ロタンナ	素 底(1mm以下の粉状土)	黄	底白.017/1	
2	907-02	陶器	丸	A10	S06	11.6	8.1	—	—	—	内：ロタンナ・麻織 外：ロタンナ	素 底(1mm以下の粉状土)	黄	底白.017/2 (麻・草子・土層.016)	
3	907-03	陶器	丸	A7	S07	11.6	—	5.0	—	—	内：ロタンナ・麻織 外：ロタンナ	素 底(1mm以下の粉状土)	黄	底白.016/2	
4	907-04	粘土土器 / 土器類	壺	A1	台古製	高径 5.12	—	7.0	—	—	内：文様不明 外：ハクメ・ナツ	今や 底(1mm以下の小石散見)	黄	底白.017/1 (黄肌.017.016)	
5	907-06	粘土土器 / 土器類	高杯	A1	台古製	高径 10.7	—	—	—	—	内：文様不明 外：ハクメ・ナツ	素 底(1mm以下の粉状土)	黄	底白.016/1	透孔土器
6	907-05	粘土土器 / 土器類	高杯	A1	台古製	高径 10.7	—	—	—	—	内：シボ付 外：麻織・麻織文・ハクメ	素 底(1mm以下の粉状土)	黄	底白.016/4	
7	908-03	粘土土器 / 土器類	壺	B1	9A101	口縁 1.12	20.8	—	—	—	内：ロタンナ 外：ロタンナ・ハクメ	今や 底(1mm以下の小石散見)	黄	底白.016/3	
8	908-01	粘土土器 / 土器類	壺	B1	9A101	口縁 1.12	18.3	—	—	—	内：麻織 外：ハクメ	素 底(1mm以下の粉状土)	黄	底白.016/1 (土黄肌.016.010)	
9	908-02	粘土土器 / 土器類	壺	B1	9A101	口縁 1.12	15.3	—	—	—	内：シボ付 外：ハクメ	素 底(1mm以下の粉状土)	黄	底白.016/2 (土黄肌.016.010)	口縁部彩色
10	908-04	粘土土器 / 土器類	高杯	B1	9A101	口縁 1.12	18.9	—	—	—	内：麻織文・ロタンナ 外：ロタンナ	素 底(1mm以下の粉状土)	黄	底白.016/3 (土黄肌.016.010)	
11	909-01	粘土土器 / 土器類	高杯	B1	9A101	口縁 1.12	—	—	—	—	内：麻織文・ハクメ 外：ハクメ	素 底(1mm以下の粉状土)	黄	底白.016/4 (土黄肌.016.010)	透孔土器
12	017-04	土器類	壺	B1	90902	口縁 1.12	—	—	—	—	内：麻織・ロタンナ 外：ロタンナ	素 底(1mm以下の粉状土)	黄	底白.016/1 (土黄肌.016.010)	透孔土器
13	909-02	陶器類	新幹	B2	9A105	高径 10.7	—	—	—	—	内：ロタンナ 外：ロタンナ	素 底(1mm以下の粉状土)	黄	底白.016/2 (土黄肌.016.010)	
14	909-04	粘土土器 / 土器類	壺又は鉢	B1	9A106	高径 10.7	—	3.6	—	—	内：シボ付 外：ハクメ	素 底(1mm以下の粉状土)	黄	底白.016/1 (土黄肌.016.010)	
15	909-03	粘土土器 / 土器類	高杯	B1	9A106	高径 10.7	—	—	—	—	内：麻織文・ハクメ 外：ハクメ	素 底(1mm以下の粉状土)	黄	底白.016/2 (土黄肌.016.010)	透孔土器
16	909-05	粘土土器 / 土器類	高杯	B2	9A106	高径 10.7	21.6	—	—	—	内：麻織文・ハクメ 外：ハクメ	素 底(1mm以下の粉状土)	黄	底白.016/3 (土黄肌.016.010)	
17	909-06	粘土土器 / 土器類	付付費	B6	9A109	口縁 1.12	—	—	—	—	内：ハクメ・ナツ 外：ハクメ・ナツ	素 底(1mm以下の粉状土)	黄	底白.016/1 (土黄肌.016.010)	宇田原製行 西蔵製成
18	910-01	土器類	付付費	B6	9A109	口縁 1.12	—	9.2	—	—	内：ナツ・ハクメ・オオム 外：ハクメ・オオム・ナツ	素 底(1mm以下の粉状土)	黄	底白.016/2 (土黄肌.016.010)	台田製成
19	911-01	粘土土器 / 土器類	壺	B6	9A110	口縁 1.12	14.8	—	—	—	内：麻織 外：ハクメ	素 底(1mm以下の粉状土)	黄	底白.016/1 (土黄肌.016.010)	
20	911-02	粘土土器 / 土器類	壺	B6	9A110	口縁 1.12	—	—	—	—	内：ハクメ・刺織文・ハクメ 外：ハクメ	素 底(1mm以下の粉状土)	黄	底白.016/2 (土黄肌.016.010)	
21	911-03	粘土土器 / 土器類	付付費	B6	9A110	口縁 1.12	—	7.1	—	—	内：ハクメ 外：ハクメ	素 底(1mm以下の粉状土)	黄	底白.016/3 (土黄肌.016.010)	
22	911-04	粘土土器 / 土器類	付付費	B6	9A110	口縁 1.12	—	2.0	—	—	内：ハクメ・刺織文 外：ハクメ	素 底(1mm以下の粉状土)	黄	底白.016/4 (土黄肌.016.010)	
23	011-03	土器類	高杯	B6	9A110	口縁 1.12	13.9	—	—	—	内：ロタンナ・麻織 外：ハクメ	素 底(1mm以下の粉状土)	黄	底白.016/5 (土黄肌.016.010)	
24	911-06	粘土土器 / 土器類	壺	B6	9A111	口縁 1.12	15.3	—	—	—	内：ロタンナ 外：ハクメ	素 底(1mm以下の粉状土)	黄	底白.016/6 (土黄肌.016.010)	
25	911-07	粘土土器 / 土器類	壺	B6	9A111	口縁 1.12	16.8	—	—	—	内：刺織文・ハクメ 外：ロタンナ・ハクメ	素 底(1mm以下の粉状土)	黄	底白.016/7 (土黄肌.016.010)	
26	912-01	粘土土器 / 土器類	壺	B6	9A111	口縁 1.12	19.8	—	—	—	内：刺織文・ハクメ 外：ハクメ	素 底(1mm以下の粉状土)	黄	底白.016/8 (土黄肌.016.010)	
27	912-01	粘土土器 / 土器類	壺	B7	9A112	口縁 1.12	13.4	—	—	—	内：ハクメ・ナツ 外：ハクメ・ナツ	素 底(1mm以下の粉状土)	黄	底白.016/2 (土黄肌.016.010)	
28	913-03	粘土土器 / 土器類	壺	B7	9A112	口縁 1.12	—	6.2	—	—	内：ハクメ 外：ハクメ	素 底(1mm以下の粉状土)	黄	底白.016/1 (土黄肌.016.010)	
29	913-02	粘土土器 / 土器類	壺	B7	9A112内 部 1 層 の 粉 土	口縁 1.12	18.5	—	—	—	内：ハクメ・ロタンナ 外：ロタンナ・刺織文・ハクメ	素 底(1mm以下の粉状土)	黄	底白.016/3 (土黄肌.016.010)	
30	913-03	粘土土器 / 土器類	付付費	B7	9A112	口縁 1.12	—	8.1	—	—	内：ハクメ・ナツ・ロタンナ 外：ハクメ・ロタンナ	素 底(1mm以下の粉状土)	黄	底白.016/4 (土黄肌.016.010)	宇田原製成
31	927-01	土器類	壺	B7	9A119	口縁 1.12	26.9	—	—	—	内：ロタンナ 外：ハクメ	素 底(1mm以下の粉状土)	黄	底白.016/1 (土黄肌.016.010)	
32	913-01	土器類	壺	B7	9A119	口縁 1.12	27.8	—	—	—	内：ロタンナ・ロタンナ 外：ハクメ・ナツ	素 底(1mm以下の粉状土)	黄	底白.016/2 (土黄肌.016.010)	西蔵製成
33	913-07	粘土土器 / 土器類	壺	B9	9A115	口縁 1.12	—	—	—	—	内：ハクメ・ロタンナ 外：ロタンナ・刺織文	素 底(1mm以下の粉状土)	黄	底白.016/3 (土黄肌.016.010)	
34	913-08	粘土土器 / 土器類	壺	B6	9A116	口縁 1.12	—	—	—	—	内：ハクメ 外：ハクメ	素 底(1mm以下の粉状土)	黄	底白.016/4 (土黄肌.016.010)	壺の下の土質
35	913-01	粘土土器 / 土器類	壺	B9	9A117	口縁 1.12	—	3.0	—	—	内：ハクメ 外：ハクメ	素 底(1mm以下の粉状土)	黄	底白.016/5 (土黄肌.016.010)	
36	913-02	粘土土器 / 土器類	壺	B9	9A117	口縁 1.12	—	2.7	—	—	内：ハクメ・ロタンナ・オオム 外：ハクメ・ロタンナ	素 底(1mm以下の粉状土)	黄	底白.016/6 (土黄肌.016.010)	宇田原製成
37	913-08	粘土土器 / 土器類	高杯	B9	9A119	口縁 1.12	—	—	—	—	内：ハクメ 外：麻織・刺織文	素 底(1mm以下の粉状土)	黄	底白.016/7 (土黄肌.016.010)	透孔土器
38	922-04	土器類	壺	B10	9A118	口縁 1.12	—	—	—	—	内：ロタンナ・ハクメ 外：ロタンナ・ハクメ	今や 底(1mm以下の粉状土)	黄	底白.016/2 (土黄肌.016.010)	
39	913-01	土器類	付付費	B10	9A118	口縁 1.12	—	9.0	—	—	内：ハクメ・ナツ 外：ハクメ・ナツ	素 底(1mm以下の粉状土)	黄	底白.016/1 (土黄肌.016.010)	宇田原製成
40	912-03	粘土土器 / 土器類	壺	B11	9A120	口縁 1.12	—	—	—	—	内：ハクメ・ロタンナ 外：ハクメ・刺織文・ハクメ	素 底(1mm以下の粉状土)	黄	底白.016/3 (土黄肌.016.010)	
41	912-06	粘土土器 / 土器類	壺	B11	9A120	口縁 1.12	—	—	—	—	内：ハクメ・ロタンナ 外：ハクメ・刺織文	素 底(1mm以下の粉状土)	黄	底白.016/4 (土黄肌.016.010)	
42	922-05	粘土土器 / 土器類	壺	B11	9A120	口縁 1.12	—	6.0	—	—	内：ハクメ 外：ハクメ	今や 底(1mm以下の粉状土)	黄	底白.016/5 (土黄肌.016.010)	
43	913-01	粘土土器 / 土器類	高杯	B11	P111	口縁 1.12	27.8	—	—	—	内：ハクメ・ロタンナ 外：ハクメ	素 底(1mm以下の粉状土)	黄	底白.016/1 (土黄肌.016.010)	
44	916-03	粘土土器 / 土器類	付付費	B2	P114	口縁 1.12	—	8.4	—	—	内：ハクメ・ナツ・オオム 外：ハクメ・ナツ・オオム	素 底(1mm以下の粉状土)	黄	底白.016/2 (土黄肌.016.010)	西蔵製成
45	916-01	粘土土器 / 土器類	高杯	B3	P114	口縁 1.12	—	16.8	—	—	内：ハクメ・ナツ 外：ハクメ・刺織文	素 底(1mm以下の粉状土)	黄	底白.016/3 (土黄肌.016.010)	透孔土器
46	916-02	粘土土器 / 土器類	高杯	B6	P114	口縁 1.12	—	—	—	—	内：ハクメ 外：ハクメ	素 底(1mm以下の粉状土)	黄	底白.016/4 (土黄肌.016.010)	透孔土器
49	912-02	陶器類	新幹	B6	P114	口縁 1.12	—	—	—	—	内：ロタンナ 外：ロタンナ	素 底(1mm以下の粉状土)	黄	底白.016/5 (土黄肌.016.010)	
50	013-03	粘土土器 / 土器類	壺又は鉢	B6	P117	口縁 1.12	—	5.8	—	—	内：ハクメ 外：ハクメ	素 底(1mm以下の粉状土)	黄	底白.016/6 (土黄肌.016.010)	刺織文
51	916-04	粘土土器 / 土器類	壺	B6	P117	口縁 1.12	—	—	—	—	内：ロタンナ 外：ハクメ	素 底(1mm以下の粉状土)	黄	底白.016/7 (土黄肌.016.010)	
52	917-01	粘土土器 / 土器類	壺又は鉢	B6	P118	口縁 1.12	17.0	—	—	—	内：ハクメ 外：ハクメ	素 底(1mm以下の粉状土)	黄	底白.016/2 (土黄肌.016.010)	内蔵製成
53	913-01	粘土土器 / 土器類	付付費	B7	9A112 内 部 1 層 の 粉 土	口縁 1.12	—	7.2	—	—	内：ナツ・ハクメ・ロタンナ 外：ハクメ・ロタンナ	素 底(1mm以下の粉状土)	黄	底白.016/3 (土黄肌.016.010)	西蔵製成
54	918-01	土器類	壺	B8	P113	口縁 1.12	—	—	—	—	内：ハクメ 外：ハクメ	素 底(1mm以下の粉状土)	黄	底白.016/2 (土黄肌.016.010)	
55	916-02	土器類	壺	B8	P112	口縁 1.12	—	—	—	—	内：ハクメ・ハクメ 外：ハクメ・ハクメ	素 底(1mm以下の粉状土)	黄	底白.016/3 (土黄肌.016.010)	口縁部彩色
56	917-03	粘土土器 / 土器類	壺	B8	P113	口縁 1.12	—	—	—	—	内：ハクメ・ロタンナ 外：ハクメ・刺織文	素 底(1mm以下の粉状土)	黄	底白.016/4 (土黄肌.016.010)	
57	915-05	粘土土器 / 土器類	高杯	B11	P113	口縁 1.12	—	—	—	—	内：ハクメ・ナツ 外：ハクメ・ナツ	素 底(1mm以下の粉状土)	黄	底白.016/5 (土黄肌.016.010)	
58	913-04	粘土土器 / 土器類	高杯	B12	P113	口縁 1.12	—	—	—	—	内：ハクメ・ナツ 外：ハクメ・ナツ	素 底(1mm以下の粉状土)	黄	底白.016/6 (土黄肌.016.010)	
59	917-02	粘土土器 / 土器類	壺	B13	P113	口縁 1.12	13.0	—	—	—	内：ハクメ・ロタンナ 外：ハクメ・刺織文・ハクメ	素 底(1mm以下の粉状土)	黄	底白.016/7 (土黄肌.016.010)	

第V-3表 中島遺跡遺物観察表1

報告番号	発掘番号	種類	副種	地区	遺構種類	形状・構造的特徴	寸法 (cm)			技法・文様の特徴	出土品	構成	色調	特記事項
							口径	直径	高さ					
40	919-03	土器類	甕	B11	円柱	口縁部 直線	—	—	—	内：ハナメ・コナメ 外：ヨコナメ・横線文・ハナメ	甕 (1.0m以下の 小石造り)	2.01-黄2.036/3	空口口縁	
41	919-06	陶土器 土器類	甕	B11	円柱	口縁部 直線	—	—	—	内：オオホメ・ナメ 外：縦線文・横線文・ハナメ	甕	2.01-黄2.036/3 内：黄2.036/3 外：黄2.036/3	内面黒化	
42	919-08	陶土器 土器類	高脚甕	B11	円柱	口縁部 直線	—	—	—	内：ナメ・コナメ 外：ハナメ	甕	黄2.036/6		
43	919-07	陶土器 土器類	甕	B11	円柱	口縁部 直線	—	—	—	内：ヨコナメ・コナメ 外：ハナメ	甕	黄2.036/3		
44	920-02	陶土器 土器類	甕	B11	円柱	口縁部 直線	—	5.9	—	内：ヨコナメ・コナメ 外：ハナメ	甕	黄2.036/3		
45	920-01	陶土器 土器類	甕	B11	円柱	口縁部 直線	—	6.6	—	内：ナメ 外：ヨコナメ・ナメ	甕	内：黄2.036/3 外：黄2.036/3		
46	919-02	陶土器 土器類	甕	B11	円柱	口縁部 直線	—	25.6	—	内：ヨコナメ・コナメ 外：ヨコナメ・横線文	甕	黄2.036/2		
47	919-03	陶土器 土器類	甕	B11	円柱	口縁部 直線	—	—	—	内：ヨコナメ・コナメ 外：ヨコナメ・コナメ	甕	黄2.036/3		
48	919-04	陶土器 土器類	甕	B11	円柱	口縁部 直線	—	—	—	内：ヨコナメ 外：ヨコナメ	甕	黄2.036/3		
49	919-01	陶土器 土器類	高脚	B11	円柱	口縁部 直線	—	24.8	—	内：ヨコナメ 外：ヨコナメ	甕	黄2.036/3		
50	920-01	陶土器 土器類	高脚	B11	円柱	口縁部 直線	—	—	—	内：ナメ・コナメ 外：ナメ・横線文・縦線文・オオホメ	甕	黄2.036/3		
51	920-03	陶土器 土器類	高脚	B11	円柱	口縁部 直線	—	11.8	—	内：ハナメ・コナメ 外：ハナメ・オオホメ・ヨコナメ	甕	黄2.036/3	通孔1個	
52	924-01	陶土器 土器類	高脚	B11	円柱	口縁部 直線	—	—	—	内：ナメ 外：ナメ	甕	黄2.036/3		
53	921-02	陶土器 土器類	高脚	B11	円柱	口縁部 直線	—	—	—	内：ナメ 外：縦線文	甕	黄2.036/3	通孔2個	
54	921-04	陶土器 土器類	高脚	B11	円柱	口縁部 直線	—	—	—	内：ナメ 外：ヨコナメ	甕	黄2.036/3	通孔2個	
55	921-03	陶土器 土器類	高脚	B11	円柱	口縁部 直線	—	—	—	内：ナメ 外：ヨコナメ	甕	黄2.036/3		
56	923-01	土器類	甕	B11	円柱	口縁部 直線	—	13.0	—	内：ナメ・ヨコナメ 外：ナメ	甕	2.01-黄2.037/4		
57	921-05	陶土器 土器類	甕	B11	円柱	口縁部 直線	—	—	—	内：ナメ・横線文・ハナメ・縦線文	甕	内：2.01-黄2.037/4 外：2.01-黄2.036/3	5字状口縁	
58	921-03	陶土器 土器類	高脚	B11	円柱	口縁部 直線	—	—	—	内：ナメ 外：ナメ	甕	黄2.036/3	通孔2個	
59	921-06	陶土器 土器類	甕	B11	円柱	口縁部 直線	—	10.3	—	内：ナメ	甕	黄2.036/6		
60	922-04	陶土器 土器類	甕	B11	円柱	口縁部 直線	—	29.6	—	内：ヨコナメ 外：ナメ	甕	黄2.037/6		
61	923-02	陶土器 土器類	甕	B11	円柱	口縁部 直線	—	6.2	—	内：ナメ・横線文 外：オオホメ・ヨコナメ・ナメ	甕	2.01-黄2.037/4		
62	923-03	陶土器 土器類	甕	B11	円柱	口縁部 直線	—	4.1	—	内：ナメ 外：ナメ	甕	2.01-黄2.037/4	高脚型	
63	925-06	陶土器 土器類	甕	B11	円柱	口縁部 直線	—	19.8	—	内：ヨコナメ 外：ヨコナメ・ナメ	甕	黄2.036/3	5字状口縁	
64	924-04	陶土器 土器類	甕	B11	円柱	口縁部 直線	—	—	—	内：ヨコナメ 外：ナメ	甕	内：黄2.037/4 外：2.01-黄2.037/4	5字状口縁	
65	925-01	土器類	甕	B11	円柱	口縁部 直線	—	—	—	内：ヨコナメ 外：ヨコナメ	甕	黄2.036/3	字面型	
66	922-02	陶土器 土器類	甕	B11	円柱	口縁部 直線	—	12.8	—	内：ヨコナメ 外：ヨコナメ	甕	黄2.037/6		
67	925-04	陶土器 土器類	甕	B11	円柱	口縁部 直線	—	—	—	内：ナメ	甕	2.01-黄2.037/4	口縁部黒化	
68	924-05	陶土器 土器類	甕	B11	円柱	口縁部 直線	—	—	—	内：ヨコナメ・ハナメ 外：ナメ・縦線文・オオホメ	甕	2.01-黄2.036/3		
69	923-01	陶土器 土器類	甕	B11	円柱	口縁部 直線	—	6.9	—	内：ヨコナメ・コナメ 外：ハナメ・オオホメ・ナメ	甕	2.01-黄2.037/6		
70	926-04	陶土器 土器類	甕	B11	円柱	口縁部 直線	—	—	—	内：オオホメ・ナメ 外：ハナメ・オオホメ	甕	黄2.036/6		
71	926-03	陶土器 土器類	甕	B11	円柱	口縁部 直線	—	—	—	内：オオホメ・ナメ 外：縦線文・横線文	甕	内：黄2.036/3 外：黄2.036/3		
72	927-08	陶土器 土器類	甕	B11	円柱	口縁部 直線	—	—	—	内：ヨコナメ・ハナメ 外：ヨコナメ・ハナメ	甕	2.01-黄2.037/4 下の砂状多量付	外面黒化	
73	927-06	陶土器 土器類	甕	B11	円柱	口縁部 直線	—	—	—	内：ハナメ・ヨコナメ 外：ヨコナメ・横線文・ハナメ	甕	2.01-黄2.037/4 以上の砂状多量付		
74	927-04	陶土器 土器類	甕	B11	円柱	口縁部 直線	—	—	—	内：ヨコナメ 外：ヨコナメ	甕	2.01-黄2.037/4		
75	921-06	陶土器 土器類	甕	B11	円柱	口縁部 直線	—	—	—	内：ヨコナメ・ハナメ 外：ヨコナメ・ハナメ	甕	内：2.01-黄2.037/4 外：黄2.037/4	5字状口縁	
76	925-02	陶土器 土器類	甕	B11	円柱	口縁部 直線	—	17.0	—	内：ナメ	甕	2.01-黄2.037/4		
77	924-03	陶土器 土器類	甕	B11	円柱	口縁部 直線	—	6.4	—	内：ヨコナメ・ナメ 外：ナメ・オオホメ	甕	内：2.01-黄2.037/4 外：2.01-黄2.037/4	内面黒化	
78	927-04	陶土器 土器類	甕	B11	円柱	口縁部 直線	—	7.2	—	内：調整不明 外：調整不明	甕	内：2.01-黄2.037/4 下の砂状多量付		
79	927-07	陶土器 土器類	高脚	B11	円柱	口縁部 直線	—	—	—	内：ナメ 外：縦線文	甕	内：2.01-黄2.036/4 外：黄2.036/4	通孔2個	
80	926-06	陶土器 土器類	高脚	B11	円柱	口縁部 直線	—	26.8	—	内：ハナメ・オオホメ 外：ハナメ・オオホメ	甕	内：2.01-黄2.037/4 下の砂状多量付	口縁部黒化	
81	926-02	土器類	甕	B11	円柱	口縁部 直線	—	—	—	内：調整不明 外：調整不明	甕	内：2.01-黄2.036/4 下の砂状多量付		
82	927-05	土器類	甕	B11	円柱	口縁部 直線	—	12.9	—	内：ヨコナメ 外：ヨコナメ	甕	黄2.036/3		
83	927-03	土器類	甕	B11	円柱	口縁部 直線	—	13.6	—	内：ヨコナメ 外：ヨコナメ	甕	黄2.037/6		
84	925-04	土器類	甕	B11	円柱	口縁部 直線	—	14.6	—	内：調整不明 外：ヨコナメ・ハナメ	甕	黄2.036/3		
85	924-02	土器類	甕	B11	円柱	口縁部 直線	—	6.0	—	内：オオホメ・ナメ 外：ナメ・横線文・オオホメ・ヨコナメ	甕	黄2.036/3		
86	926-01	土器類	甕	B11	円柱	口縁部 直線	—	—	—	内：ハナメ	甕	黄2.036/3		
87	923-07	陶土器 土器類	甕	B11	円柱	口縁部 直線	—	—	—	内：ヨコナメ 外：ヨコナメ	甕	黄2.037/6		
88	923-06	陶土器 土器類	甕	B11	円柱	口縁部 直線	—	—	—	内：ヨコナメ 外：ヨコナメ	甕	黄2.037/6		
89	923-05	陶土器 土器類	甕	B11	円柱	口縁部 直線	—	8.7	4.6	内：ヨコナメ・コナメ 外：ヨコナメ・コナメ	甕	内：2.01-黄2.037/4 外：黄2.037/4	口縁部黒化	
90	923-03	陶土器 土器類	甕	B11	円柱	口縁部 直線	—	10.5	—	内：ヨコナメ 外：ヨコナメ	甕	黄2.037/6		
91	924-04	陶土器 土器類	高脚	B11	円柱	口縁部 直線	—	4.6	—	内：調整不明 外：調整不明	甕	黄2.037/6	外面黒化1個	
92	926-03	陶土器 土器類	甕	B11	円柱	口縁部 直線	—	9.1	—	内：調整不明 外：調整不明	甕	内：2.01-黄2.037/4 下の砂状多量付		
93	926-02	陶土器 土器類	甕	B11	円柱	口縁部 直線	—	12.9	—	内：ヨコナメ 外：ヨコナメ	甕	内：2.01-黄2.037/4 下の砂状多量付	5字状口縁	
94	926-06	陶土器 土器類	甕	B11	円柱	口縁部 直線	—	7.8	—	内：ハナメ 外：ハナメ・ヨコナメ	甕	黄2.036/6		
95	926-04	陶土器 土器類	甕	B11	円柱	口縁部 直線	—	7.1	—	内：ナメ 外：ハナメ	甕	内：2.01-黄2.037/4 下の砂状多量付		

第V-4表 中島遺跡遺物観察表2

報告番号	調査年度	種類	群種	地区	遺構部位	発見物件	遺長 (cm)			技法・文様の特徴	出土施設	構成	色調	特記事項	
							口径	底径	器高						
115	026-09	弥生土器 灰土器	高野	B7	炊飯竈	土器	—	—	—	内：ハクメ・土器 外：ハクメ・土器	竈	黄褐色	311027/1～311027/4 31027/5		
116	026-08	弥生土器 灰土器	高野	B2	炊飯竈	銅製 土器	—	—	—	内：シロコテ・ヤココテ 外：ヤココテ・ハクメ	竈	黄褐色	31027/1～31027/3 31027/4	遺孔3個	
117	026-05	土器類	倉	B7	炊飯竈	土器	16.0	—	—	内：調整不明 外：調整不明	竈	黄褐色	31027/1の破 損品含む。赤色 灰土器	黄褐色/31027/3	
118	026-04	土器類	倉	B7	炊飯竈	土器	8.4	—	—	内：ヤコテ、ヤコテ・ヤココテ 外：ヤココテ・ハクメ	竈	黄褐色	31027/1の破 損品含む。赤 色灰土器	31027/4	
119	026-07	土器類	白土蔵	B7	炊飯竈	土器	—	7.9	—	内：ヤコテ 外：ハクメ	竈	黄褐色	31027/1の破 損品含む。赤 色灰土器	31027/3	
120	027-02	土器類	高野	B7	炊飯竈	土器	13.8	—	—	内：調整不明 外：調整不明	竈	黄褐色	31027/1の破 損品含む。赤 色灰土器	31027/3	
121	029-01	弥生土器 土器類	倉	B8	炊飯竈	土器	14.8	—	—	内：ヤコテ・ヤココテ 外：ヤココテ・ハクメ	竈	黄褐色	31027/1の破 損品含む。	31027/4	
122	029-08	弥生土器	倉	B8	炊飯竈	土器	—	—	—	内：ヤココテ 外：ヤココテ	竈	黄褐色	31027/1		
123	029-06	弥生土器 土器類	小畑池	B8	炊飯竈	土器	—	3.3	—	内：土器類 外：土器類	竈	黄褐色	31027/1の破 損品含む。	31027/3	内蔵品化
124	029-05	弥生土器 土器類	倉	B8	炊飯竈	土器	15.8	—	—	内：調整不明 外：調整不明	竈	黄褐色	31027/1の破 損品含む。	31027/3	
125	029-02	弥生土器 土器類	倉	B8	炊飯竈	土器	15.6	—	—	内：調整不明 外：調整不明	竈	黄褐色	31027/1の破 損品含む。	31027/3	
126	029-04	弥生土器 土器類	倉	B8	炊飯竈	土器	—	—	—	内：ヤコテ・ヤココテ 外：ヤココテ・調整	竈	黄褐色	31027/1の破 損品含む。	31027/3	
127	029-07	弥生土器 土器類	高野	B8	炊飯竈	土器	—	—	—	内：ヤコテ・ヤココテ 外：ヤココテ・調整	竈	黄褐色	31027/1の破 損品含む。	31027/3	
128	030-02	弥生土器 土器類	高野	B8	炊飯竈	土器	—	12.8	—	内：シロコテ・ヤコテ・ヤココテ 外：ヤココテ・調整・ヤココテ	竈	黄褐色	31027/1の破 損品含む。	31027/3	遺孔3個
129	029-03	土器類	高野	B8	炊飯竈	土器	—	—	—	内：ヤコテ・ヤココテ 外：ヤココテ・調整	竈	黄褐色	31027/1の破 損品含む。	31027/3	
130	030-01	土器類	野上小	B9	炊飯竈	土器	—	—	—	内：ヤコテ・ヤココテ 外：ヤココテ・調整	竈	黄褐色	31027/1の破 損品含む。	31027/3	
131	030-08	弥生土器 土器類	倉	B9	炊飯竈	土器	—	6.0	—	内：土器類 外：土器類	竈	黄褐色	31027/1の破 損品含む。	31027/3	
132	030-05	弥生土器 土器類	高野	B9	炊飯竈	土器	—	—	—	内：調整不明 外：調整不明	竈	黄褐色	31027/1の破 損品含む。	31027/3	遺孔2個
133	030-04	弥生土器 土器類	平野池	B9	炊飯竈	土器	—	—	—	内：調整不明 外：調整不明	竈	黄褐色	31027/1の破 損品含む。	31027/3	遺孔2個
134	030-03	弥生土器	高野	B9	炊飯竈	土器	—	7.8	—	内：ヤココテ 外：ヤココテ	竈	黄褐色	31027/1の破 損品含む。	31027/3	
135	031-01	弥生土器 土器類	倉	B10	炊飯竈	土器	—	—	—	内：調整不明 外：調整不明	竈	黄褐色	31027/1の破 損品含む。	31027/3	
136	030-07	弥生土器 土器類	倉	B10	炊飯竈	土器	18.2	—	—	内：ヤココテ 外：ヤココテ	竈	黄褐色	31027/1の破 損品含む。	31027/3	
137	031-02	弥生土器 土器類	倉	B11	炊飯竈	土器	13.5	—	—	内：調整不明 外：調整不明	竈	黄褐色	31027/1の破 損品含む。	31027/3	
138	031-05	弥生土器 土器類	倉	B11	炊飯竈	土器	—	—	—	内：調整不明 外：調整不明	竈	黄褐色	31027/1の破 損品含む。	31027/3	
139	031-04	弥生土器 土器類	倉	B11	炊飯竈	土器	—	4.3	—	内：土器類 外：土器類	竈	黄褐色	31027/1の破 損品含む。	31027/3	
140	031-06	弥生土器 土器類	高野	B11	炊飯竈	土器	—	—	—	内：土器類 外：土器類	竈	黄褐色	31027/1の破 損品含む。	31027/3	
141	032-01	弥生土器 土器類	高野	B11	炊飯竈	土器	—	—	—	内：調整不明 外：調整不明	竈	黄褐色	31027/1の破 損品含む。	31027/3	
142	031-03	土器類	高野小	B11	炊飯竈	土器	—	13.5	—	内：調整不明 外：調整不明	竈	黄褐色	31027/1の破 損品含む。	31027/3	
143	032-04	土器類	倉	B12	炊飯竈	土器	—	—	—	内：調整不明 外：調整不明	竈	黄褐色	31027/1の破 損品含む。	31027/3	
144	032-03	土器類	倉	B12	炊飯竈	土器	—	6.0	—	内：調整不明 外：調整不明	竈	黄褐色	31027/1の破 損品含む。	31027/3	
145	032-02	弥生土器 土器類	倉	B12	炊飯竈	土器	—	—	—	内：調整不明 外：調整不明	竈	黄褐色	31027/1の破 損品含む。	31027/3	
146	032-05	弥生土器 土器類	高野	B12	炊飯竈	土器	—	—	—	内：調整不明 外：調整不明	竈	黄褐色	31027/1の破 損品含む。	31027/3	遺孔2個
147	032-08	土器類	高野	B12	炊飯竈	土器	—	11.5	—	内：調整不明 外：調整不明	竈	黄褐色	31027/1の破 損品含む。	31027/3	
148	032-07	弥生土器 土器類	倉	B12	炊飯竈	土器	—	—	—	内：調整不明 外：調整不明	竈	黄褐色	31027/1の破 損品含む。	31027/3	
149	032-06	弥生土器 土器類	倉	B13	炊飯竈	土器	—	17.5	—	内：調整不明 外：調整不明	竈	黄褐色	31027/1の破 損品含む。	31027/3	
150	036-05	土器類	倉	B13	炊飯竈	土器	—	—	—	内：調整不明 外：調整不明	竈	黄褐色	31027/1の破 損品含む。	31027/3	
151	033-01	土器類	倉	B14	炊飯竈	土器	—	—	—	内：調整不明 外：調整不明	竈	黄褐色	31027/1の破 損品含む。	31027/3	
152	033-03	弥生土器 土器類	倉	B14	炊飯竈	土器	—	—	—	内：調整不明 外：調整不明	竈	黄褐色	31027/1の破 損品含む。	31027/3	
153	036-04	弥生土器 土器類	白土蔵	B15	炊飯竈	土器	—	6.9	—	内：ヤココテ・ヤココテ 外：ヤココテ	竈	黄褐色	31027/1の破 損品含む。	31027/3	
154	033-02	弥生土器 土器類	高野	B14	炊飯竈	土器	—	20.0	—	内：調整不明 外：調整不明	竈	黄褐色	31027/1の破 損品含む。	31027/3	
155	033-01	弥生土器 土器類	高野	B14	炊飯竈	土器	—	—	—	内：調整不明 外：調整不明	竈	黄褐色	31027/1の破 損品含む。	31027/3	
156	033-06	弥生土器 土器類	高野	B14	炊飯竈	土器	—	26.8	—	内：調整不明 外：調整不明	竈	黄褐色	31027/1の破 損品含む。	31027/3	
157	033-05	弥生土器 土器類	高野	B14	炊飯竈	土器	—	—	—	内：調整不明 外：調整不明	竈	黄褐色	31027/1の破 損品含む。	31027/3	遺孔4個
158	033-07	弥生土器 土器類	高野	B14	炊飯竈	土器	—	24.8	—	内：調整不明 外：調整不明	竈	黄褐色	31027/1の破 損品含む。	31027/3	
159	036-01	土器類	高野	B15	炊飯竈	土器	—	36.7	—	内：調整不明 外：調整不明	竈	黄褐色	31027/1の破 損品含む。	31027/3	遺孔1個 内蔵品化
160	034-01	土器類	倉	B20	炊飯竈	土器	—	21.2	—	内：調整不明 外：調整不明	竈	黄褐色	31027/1の破 損品含む。	31027/3	
161	034-02	土器類	倉	B20	炊飯竈	土器	—	18.0	—	内：調整不明 外：調整不明	竈	黄褐色	31027/1の破 損品含む。	31027/3	
162	035-02	土器類	倉	B20	炊飯竈	土器	—	4.0	—	内：調整不明 外：調整不明	竈	黄褐色	31027/1の破 損品含む。	31027/3	
163	034-01	土器類	倉	B20	炊飯竈	土器	—	27.0	—	内：調整不明 外：調整不明	竈	黄褐色	31027/1の破 損品含む。	31027/3	
164	034-03	弥生土器 土器類	高野	B20	炊飯竈	土器	—	15.0	—	内：調整不明 外：調整不明	竈	黄褐色	31027/1の破 損品含む。	31027/3	
165	034-04	弥生土器 土器類	高野	B20	炊飯竈	土器	—	—	—	内：調整不明 外：調整不明	竈	黄褐色	31027/1の破 損品含む。	31027/3	遺孔3個
166	036-02	弥生土器 土器類	高野	B20	炊飯竈	土器	—	—	—	内：調整不明 外：調整不明	竈	黄褐色	31027/1の破 損品含む。	31027/3	遺孔3個
167	036-03	弥生土器 土器類	高野	B21	炊飯竈	土器	—	—	—	内：調整不明 外：調整不明	竈	黄褐色	31027/1の破 損品含む。	31027/3	遺孔1個
168	034-08	弥生土器 土器類	野上小	B21	炊飯竈	土器	—	—	—	内：調整不明 外：調整不明	竈	黄褐色	31027/1の破 損品含む。	31027/3	遺孔1個
169	034-05	弥生土器 土器類	野上小	B21	炊飯竈	土器	—	6.0	—	内：調整不明 外：調整不明	竈	黄褐色	31027/1の破 損品含む。	31027/3	
170	034-07	弥生土器 土器類	野上小	B21	炊飯竈	土器	—	—	—	内：調整不明 外：調整不明	竈	黄褐色	31027/1の破 損品含む。	31027/3	
171	035-03	弥生土器 土器類	高野	B21	炊飯竈	土器	—	12.8	—	内：調整不明 外：調整不明	竈	黄褐色	31027/1の破 損品含む。	31027/3	遺孔2個
172	035-04	弥生土器 土器類	高野	B21	炊飯竈	土器	—	—	—	内：調整不明 外：調整不明	竈	黄褐色	31027/1の破 損品含む。	31027/3	遺孔1個
173	034-06	弥生土器 土器類	野上小	B21	炊飯竈	土器	—	—	—	内：調整不明 外：調整不明	竈	黄褐色	31027/1の破 損品含む。	31027/3	

第V-5表 中島遺跡遺物観察表3

報告番号	調査年度	種別	副種別	地区	遺構種類	遺構形状	遺構 (cm)			技法・文様の特徴	出土品	構成	色調	特記事項
							口径	高さ	壁高					
171	029-05	外土上層 / 土盛層	面材	NE	石積層	直積	13.1	-	-	内：土盛土 外：土盛土	層 (1.0m以上の積層を含む)	-	LSJ1-003, 006/4	
173	006-04	面材	面材	NE	石積層	直積	-	-	-	内：石積土 外：石積土	層 (1.0m以上の積層を含む)	-	検出なし	
174	006-03	外土上層 / 土盛層	面材	NE	石積層	直積	-	-	-	内：石積土 外：石積土	層 (1.0m以上の積層を含む)	-	LSJ1-002, 007/4	
177	003-08	外土上層 / 土盛層	高板	NE	石積層	直積	-	-	-	内：石積土 外：石積土	層 (1.0m以上の積層を含む)	-	LSJ1-004, 007/4	通孔2個
178	005-01	外土上層 / 土盛層	面材	NE	石積層	直積	-	-	-	内：石積土 外：石積土	層 (1.0m以上の積層を含む)	-	LSJ1-001, 006/3	新設(5m以下) 遺構
179	027-04	外土上層 / 土盛層	高板	CI	石積層	直積	-	-	-	内：石積土 外：石積土	層 (1.0m以上の積層を含む)	-	LSJ1-001, 006/3	新設(5m以下) 遺構
180	029-08	外土上層 / 土盛層	高板	CI	石積層	直積	-	-	-	内：石積土 外：石積土	層 (1.0m以上の積層を含む)	-	LSJ1-001, 006/3	通孔3個
181	027-02	外土上層 / 土盛層	面材	CI	石積層	直積	-	-	-	内：石積土 外：石積土	層 (1.0m以上の積層を含む)	-	LSJ1-001, 006/3	通孔1個
182	029-05	外土上層 / 土盛層	高板	CI	石積層	直積	-	-	-	内：石積土 外：石積土	層 (1.0m以上の積層を含む)	-	LSJ1-001, 006/3	通孔1個
183	028-03	外土上層 / 土盛層	面材	CI	石積層	直積	15.0	-	-	内：石積土 外：石積土	層 (1.0m以上の積層を含む)	-	LSJ1-001, 006/3	
184	028-09	外土上層 / 土盛層	面材	CI	石積層	直積	-	-	-	内：石積土 外：石積土	層 (1.0m以上の積層を含む)	-	LSJ1-001, 006/3	
185	045-05	外土上層 / 土盛層	面材	CI	石積層	直積	-	-	-	内：石積土 外：石積土	層 (1.0m以上の積層を含む)	-	LSJ1-001, 006/3	内面加工
186	050-03	外土上層 / 土盛層	面材	CI	石積層	直積	-	-	-	内：石積土 外：石積土	層 (1.0m以上の積層を含む)	-	LSJ1-001, 006/3	内面加工
187	051-01	外土上層 / 土盛層	面材	CI	石積層	直積	-	-	-	内：石積土 外：石積土	層 (1.0m以上の積層を含む)	-	LSJ1-001, 006/3	内面加工
188	048-05	外土上層 / 土盛層	面材	CI	石積層	直積	-	-	-	内：石積土 外：石積土	層 (1.0m以上の積層を含む)	-	LSJ1-001, 006/3	内面加工
189	046-02	外土上層 / 土盛層	面材	CI	石積層	直積	-	-	-	内：石積土 外：石積土	層 (1.0m以上の積層を含む)	-	LSJ1-001, 006/3	内面加工
189	049-03	外土上層 / 土盛層	面材	CI	石積層	直積	-	-	-	内：石積土 外：石積土	層 (1.0m以上の積層を含む)	-	LSJ1-001, 006/3	内面加工
191	046-05	外土上層 / 土盛層	面材	CI	石積層	直積	-	-	-	内：石積土 外：石積土	層 (1.0m以上の積層を含む)	-	LSJ1-001, 006/3	内面加工
192	047-03	外土上層 / 土盛層	高板	CI	石積層	直積	-	-	-	内：石積土 外：石積土	層 (1.0m以上の積層を含む)	-	LSJ1-001, 006/3	通孔2個
193	045-03	外土上層 / 土盛層	高板	CI	石積層	直積	-	-	-	内：石積土 外：石積土	層 (1.0m以上の積層を含む)	-	LSJ1-001, 006/3	通孔2個
193	048-03	外土上層 / 土盛層	高板	CI	石積層	直積	-	-	-	内：石積土 外：石積土	層 (1.0m以上の積層を含む)	-	LSJ1-001, 006/3	通孔2個
195	044-02	土盛層	面材	CI	石積層	直積	12.3 12.6	-	18.8	内：石積土 外：石積土	層 (1.0m以上の積層を含む)	-	検出なし	
196	050-02	土盛層	面材	CI	石積層	直積	8.0	-	-	内：石積土 外：石積土	層 (1.0m以上の積層を含む)	-	LSJ1-001, 006/3	
197	049-04	土盛層	面材	CI	石積層	直積	8.2	-	-	内：石積土 外：石積土	層 (1.0m以上の積層を含む)	-	LSJ1-001, 006/3	
198	043-01	土盛層	面材	CI	石積層	直積	10.8	-	-	内：石積土 外：石積土	層 (1.0m以上の積層を含む)	-	検出なし	
199	045-01	土盛層	面材	CI	石積層	直積	18.0	-	-	内：石積土 外：石積土	層 (1.0m以上の積層を含む)	-	LSJ1-001, 006/3	
200	046-04	土盛層	面材	CI	石積層	直積	11.8	-	-	内：石積土 外：石積土	層 (1.0m以上の積層を含む)	-	LSJ1-001, 006/3	
201	062-03	土盛層	面材	CI	石積層	直積	13.2	-	-	内：石積土 外：石積土	層 (1.0m以上の積層を含む)	-	LSJ1-001, 006/3	平面型
202	047-01	土盛層	面材	CI	石積層	直積	18.4	-	-	内：石積土 外：石積土	層 (1.0m以上の積層を含む)	-	LSJ1-001, 006/3	
203	048-01	土盛層	面材	CI	石積層	直積	18.0	-	-	内：石積土 外：石積土	層 (1.0m以上の積層を含む)	-	LSJ1-001, 006/3	
204	062-01	土盛層	面材	CI	石積層	直積	20.3	-	-	内：石積土 外：石積土	層 (1.0m以上の積層を含む)	-	LSJ1-001, 006/3	
205	048-08	土盛層	面材	CI	石積層	直積	8.2	-	8.3	内：石積土 外：石積土	層 (1.0m以上の積層を含む)	-	LSJ1-001, 006/3	平面型
206	050-05	土盛層	面材	CI	石積層	直積	7.7	-	8.4	内：石積土 外：石積土	層 (1.0m以上の積層を含む)	-	LSJ1-001, 006/3	
207	050-04	土盛層	面材	CI	石積層	直積	9.8	-	8.2	内：石積土 外：石積土	層 (1.0m以上の積層を含む)	-	LSJ1-001, 006/3	平面型
208	049-01	土盛層	高板	CI	石積層	直積	14.0	-	-	内：石積土 外：石積土	層 (1.0m以上の積層を含む)	-	LSJ1-001, 006/3	
209	047-04	土盛層	高板	CI	石積層	直積	12.3	-	-	内：石積土 外：石積土	層 (1.0m以上の積層を含む)	-	LSJ1-001, 006/3	
210	049-08	土盛層	高板	CI	石積層	直積	11.2	-	-	内：石積土 外：石積土	層 (1.0m以上の積層を含む)	-	LSJ1-001, 006/3	
211	050-06	土盛層	高板	CI	石積層	直積	11.9	-	-	内：石積土 外：石積土	層 (1.0m以上の積層を含む)	-	LSJ1-001, 006/3	
214	048-02	土盛層	高板	CI	石積層	直積	12.8	-	-	内：石積土 外：石積土	層 (1.0m以上の積層を含む)	-	LSJ1-001, 006/3	
214	048-01	土盛層	高板	CI	石積層	直積	15.8	-	-	内：石積土 外：石積土	層 (1.0m以上の積層を含む)	-	LSJ1-001, 006/3	
218	045-04	土盛層	面材	CI	石積層	直積	-	-	7.8	内：石積土 外：石積土	層 (1.0m以上の積層を含む)	-	LSJ1-001, 006/3	
217	050-08	土盛層	面材	CI	石積層	直積	-	-	6.0	内：石積土 外：石積土	層 (1.0m以上の積層を含む)	-	LSJ1-001, 006/3	
218	049-03	土盛層	面材	CI	石積層	直積	11.7	-	-	内：石積土 外：石積土	層 (1.0m以上の積層を含む)	-	LSJ1-001, 006/3	
219	048-08	面材	面材	CI	石積層	直積	-	-	-	内：石積土 外：石積土	層 (1.0m以上の積層を含む)	-	LSJ1-001, 006/3	
220	050-04	面材	面材	CI	石積層	直積	8.5	-	-	内：石積土 外：石積土	層 (1.0m以上の積層を含む)	-	LSJ1-001, 006/3	
221	049-02	面材	面材	CI	石積層	直積	-	-	-	内：石積土 外：石積土	層 (1.0m以上の積層を含む)	-	LSJ1-001, 006/3	
222	049-03	面材	面材	CI	石積層	直積	-	-	-	内：石積土 外：石積土	層 (1.0m以上の積層を含む)	-	LSJ1-001, 006/3	
223	045-02	土盛層	面材	CI	石積層	直積	-	-	-	内：石積土 外：石積土	層 (1.0m以上の積層を含む)	-	LSJ1-001, 006/3	
224	049-08	土盛層	面材	CI	石積層	直積	-	-	12.8	内：石積土 外：石積土	層 (1.0m以上の積層を含む)	-	LSJ1-001, 006/3	
225	064-04	土盛層	面材	CI	石積層	直積	-	-	-	内：石積土 外：石積土	層 (1.0m以上の積層を含む)	-	LSJ1-001, 006/3	把手
226	063-03	土盛層	面材	CI	石積層	直積	-	-	-	内：石積土 外：石積土	層 (1.0m以上の積層を含む)	-	LSJ1-001, 006/3	把手
227	049-04	土盛層	面材	CI	石積層	直積	-	-	-	内：石積土 外：石積土	層 (1.0m以上の積層を含む)	-	LSJ1-001, 006/3	把手

第V-6表 中島遺跡遺物観察表4

報告 番号	調査 年度	種類	副種	地区	遺構 部位	発見 時期	遺長 (cm)			技法・文様の特徴 副産物	出土 層位	構成	色調	特記事項
							口径	底径	高さ					
231	041-04	土師器	高杯	CT	SK206	中世 前期	-	-	-	内：土器・土師器 外：土師器・土師器	今中葉	12.04-047.0007/4	通孔1個	
232	042-03	埴土器	杯鉢	CV・T	SK206 SK209	9/12	9.5	-	5.2	内：土師器・土師器 外：土師器・土師器	新	SK017/0004/0		
233	043-01	土師器	杯鉢	CT	SK206	中世 前期	-	-	-	内：土師器・土師器 外：土師器・土師器	新	12.04-047.0007/3		
234	039-01	土師器	甕	CT	SK206	1/14	24.8	-	-	内：土師器・土師器 外：土師器・土師器	新	12.04-047.0007/3		
235	043-01	埴土器 /土師器	甕	CV	SK207	9/12	-	7.2	-	内：土師器・土師器 外：土師器・土師器	新	12.04-047.0007/3	内面磨光	
236	044-02	埴土器 /土師器	甕	CV	SK208	中世 前期	-	-	-	内：土師器・土師器 外：土師器・土師器	今中葉	12.04-047.0007/2	内面磨光	
237	039-03	埴土器 /土師器	付付器	CV	SK209	9/12	-	7.0	-	内：土師器・土師器 外：土師器・土師器	新	12.04-047.0007/2	内面磨光	
238	039-02	埴土器 /土師器	高杯	CV	SK209	1/12	26.0	-	-	内：土師器・土師器 外：土師器・土師器	新	12.04-047.0007/2	内面磨光	
239	038-01	埴土器 /土師器	高杯	CV	SK209	9/12	-	13.1	-	内：土師器・土師器 外：土師器・土師器	新	12.04-047.0007/4	通孔3個	
240	037-05	埴土器 /土師器	高杯	CV	SK209	9/12	-	-	-	内：土師器・土師器 外：土師器・土師器	新	12.04-047.0007/4	通孔1個	
241	039-04	埴土器 /土師器	高杯	CV	SK209	9/12	-	-	-	内：土師器・土師器 外：土師器・土師器	新	12.04-047.0007/4	通孔2個	
242	039-02	埴土器 /土師器	高杯	CV	SK209	9/12	-	12.8	-	内：土師器・土師器 外：土師器・土師器	新	12.04-047.0007/4	通孔2個	
243	038-06	埴土器 /土師器	甕	CV	SK209	9/12	-	-	-	内：土師器・土師器 外：土師器・土師器	新	12.04-047.0007/2	通孔2個	
244	038-04	土師器	甕	CV	SK209	9/12	-	12.0	-	内：土師器・土師器 外：土師器・土師器	新	12.04-047.0007/4		
245	044-03	土師器	甕	CV2	SK210	1/12	33.4	-	-	内：土師器・土師器 外：土師器・土師器	今中葉	9/0007.0007/2	外周に白粉 を施す	
246	043-01	土師器	甕	CV2	SK210	1/12	15.0	-	-	内：土師器・土師器 外：土師器・土師器	今中葉	12.04-047.0007/2		
247	038-03	埴土器 /土師器	甕	CV3	SK212	中世 前期	-	-	-	内：土師器・土師器 外：土師器・土師器	新	12.04-047.0007/3		
248	027-01	埴土器 /土師器	甕	CV3	SK212	9/12	-	-	-	内：土師器・土師器 外：土師器・土師器	新	12.04-047.0007/3	外面磨光	
249	037-03	埴土器 /土師器	付付器	CV3	SK212	9/12	-	-	-	内：土師器・土師器 外：土師器・土師器	新	12.04-047.0007/2	内面磨光	
250	042-01	埴土器	杯鉢	CV3	SK213	1/12	11.4	-	-	内：土師器・土師器 外：土師器・土師器	新	12.04-047.0007/3	外面磨光	
251	042-02	埴土器 /土師器	甕	CV4	SK214	1/12	13.8	-	-	内：土師器・土師器 外：土師器・土師器	今中葉	12.04-047.0007/2	内面磨光	
252	051-02	埴土器 /土師器	甕	CV4	SK215	9/12	-	-	-	内：調整不明 外：土師器・土師器	新	12.04-047.0007/2	内面磨光	
253	044-03	埴土器	高杯	CV7	SK216	1/12	22.8	-	-	内：土師器・土師器 外：土師器・土師器	今中葉	12.04-047.0007/2	内面磨光	
254	044-01	埴土器 /土師器	付付器	CV9	SK217	1/12	17.0 17.9	8.0 8.3	23.4	内：土師器・土師器 外：土師器・土師器	今中葉	12.04-047.0007/3	底面磨光、外 面磨光	
255	043-02	埴土器 /土師器	甕	CV9	SK218	9/12	-	7.3	-	内：土師器・土師器 外：土師器・土師器	新	12.04-047.0007/3	内面磨光	
256	027-02	埴土器 /土師器	甕	CV	CV	9/12	-	3.3	-	内：土師器・土師器 外：土師器・土師器	新	12.04-047.0007/3		
257	053-05	土師器	付付器	CV	CV	9/12	-	8.1	-	内：土師器・土師器 外：土師器・土師器	新	12.04-047.0007/3	外面磨光	
258	022-06	土師器	甕	CV	CV	1/12	18.0	-	-	内：土師器・土師器 外：土師器・土師器	新	12.04-047.0007/2	外面磨光	
259	051-06	土師器	高杯	CV	CV	9/12	-	-	-	内：土師器・土師器 外：土師器・土師器	新	12.04-047.0007/2	外面磨光	
260	053-01	土師器	高杯	CV	CV	9/12	4.8×4.4	9.0	-	内：土師器・土師器 外：土師器・土師器	新	12.04-047.0007/4	高さ26.33cm	
261	051-05	陶器	皿	CV	CV	1/12	8.0	-	-	内：土師器・土師器 外：土師器・土師器	新	12.04-047.0007/4	底面磨光	
262	052-02	陶器	高杯	CV	CV	1/12	18.8	-	-	内：土師器・土師器 外：土師器・土師器	新	12.04-047.0007/3	外面磨光	
263	052-05	土師器	甕	CV2	CV	9/12	-	-	-	内：土師器・土師器 外：土師器・土師器	新	12.04-047.0007/3	外面磨光	
264	053-03	土師器	高杯	CV2	CV	9/12	-	-	-	内：土師器・土師器 外：土師器・土師器	新	12.04-047.0007/3		
265	053-04	土師器	高杯	CV2	CV	9/12	-	-	-	内：調整不明・調整不明 外：土師器・土師器	新	12.04-047.0007/2	通孔1個	
266	052-04	埴土器	高杯	CV2	CV	9/12	-	12.8	-	内：土師器・土師器 外：土師器・土師器	新	12.04-047.0007/2		
268	054-07	埴土器 /土師器	付付器	CV	CV	9/12	-	-	-	内：土師器・土師器 外：土師器・土師器	新	12.04-047.0007/3		
269	054-03	埴土器	杯鉢	CV	CV	9/12	-	-	-	内：土師器・土師器 外：土師器・土師器	新	12.04-047.0007/3		
270	054-02	陶器	皿	CV	CV	9/12	-	4.4	-	内：土師器・土師器 外：土師器・土師器	新	12.04-047.0007/3		
271	054-01	陶器	皿	CV	CV	9/12	-	5.1	-	内：土師器・土師器 外：土師器・土師器	新	12.04-047.0007/3		
272	054-04	陶器	皿	CV3	CV	9/12	-	5.0	-	内：土師器・土師器 外：土師器・土師器	新	12.04-047.0007/3		
273	054-05	土師器	甕	CV4	CV	1/12	-	-	-	内：土師器・土師器 外：土師器・土師器	新	12.04-047.0007/3	外面磨光	
274	053-01	陶器	皿	CV4	CV	1/12	31.8	-	-	内：土師器・土師器 外：土師器・土師器	新	12.04-047.0007/3		
275	053-02	埴土器 /土師器	甕	CV5	CV	1/12	14.0	-	-	内：土師器・土師器 外：土師器・土師器	新	12.04-047.0007/2		
276	053-03	埴土器	甕	CV5	CV	1/12	-	-	-	内：土師器・土師器 外：土師器・土師器	新	12.04-047.0007/2		
277	053-01	埴土器 /土師器	高杯	CV9	CV	9/12	25.8	-	-	内：土師器・土師器 外：土師器・土師器	新	12.04-047.0007/2		
278	053-05	土師器	甕	CV9	CV	9/12	-	-	-	内：土師器・土師器 外：土師器・土師器	新	12.04-047.0007/4		
279	054-01	土師器	甕	調整 不明	調整 不明	9/12	-	4.4	-	内：土師器・土師器 外：土師器・土師器	新	12.04-047.0007/3	外面磨光	
280	053-02	埴土器 /土師器	甕	調整 不明	調整 不明	9/12	-	4.4	-	内：土師器・土師器 外：土師器・土師器	新	12.04-047.0007/3	外面磨光	
281	053-01	埴土器 /土師器	甕	調整 不明	調整 不明	1/12	11.9	-	-	内：土師器・土師器 外：土師器・土師器	新	12.04-047.0007/2	外面磨光	
282	051-05	埴土器 /土師器	甕	調整 不明	調整 不明	1/12	-	-	-	内：土師器・土師器 外：土師器・土師器	新	12.04-047.0007/2		
283	051-06	土師器	甕	調整 不明	調整 不明	中世 前期	-	-	-	内：土師器・土師器 外：土師器・土師器	新	12.04-047.0007/2	外面磨光	

第V-7表 中島遺跡遺物観察表5

標本 番号	発掘 番号	種類	副種	地区	遺構 層位	発掘 層位	遺構 層位	遺長 (cm)			技法・ 文様の特徴	出土 層位	構成	色調	特記事項		
								口径	底径	高さ							
284	001-01	粘土土器 /土器類	高杯	麻尾 D1	麻尾 D1	麻尾 D1	麻尾 D1	21.2 10.7	22.8	10.7	-	内：土器系・ヨコナガ・シボリ・ハタケ 外：ヨコナガ・シボリ	底：(～1mmの砂 粒を含む)	底	内：2.5黄緑1000/3 外：2.5黄緑1000/3		
285	001-03	粘土土器 /土器類	高杯	麻尾 D1	麻尾 D1	麻尾 D1	麻尾 D1	21.2 9.12	-	-	-	内：ヨコナガ・ハタケ・シボリ 外：ハタケ・横線施文	底：(1mm以下の 小石を含む)	底	内：2.5黄緑1000/3 外：2.5黄緑1000/3	通孔3個	
286	001-01	土器類	高杯	麻尾 D1	麻尾 D1	麻尾 D1	麻尾 D1	21.2 8.1	-	8.1	-	内：シボリ・ハタケ・ヨコ ナガ・横線施文・文様系・ナガ	底：(～2mmの砂 粒を含む)	底	内：2.5黄緑1000/3 外：2.5黄緑1000/3	通孔2個	
287	001-01	土器類	高杯	D1	SK303	SK303	SK303	21.2 8.12	-	4.9	-	内：ハタケ	底	底	内：黄・赤・2.5黄緑1000/3 外：2.5黄緑1000/3		
288	010-01	粘土土器 /土器類	附付	D4	SK307	SK307	SK307	11.4 10.0	-	10.0	-	内：土器系・ナガ 外：ナガ・ナガ	底：(1mm以下の 砂粒を含む)	底	底：2.5黄緑1000/3 外：2.5黄緑1000/3		
289	010-01	粘土土器 /土器類	蓋	D4	SK307	SK307	SK307	11.4 10.0	-	-	-	内：ハタケ・ナガ 外：横線施文	底：(1mm以下の 小石を含む)	底	底：2.5黄緑1000/3 外：2.5黄緑1000/3		
290	010-02	土器類	蓋	D4	SK307	SK307	SK307	11.4 10.0	23.4	-	-	内：ヨコナガ・ナガ 外：ヨコナガ	底：(1mm以下の 小石を含む)	底	底：2.5黄緑1000/3 外：2.5黄緑1000/3		
291	010-01	粘土土器 /土器類	高杯	D2	SK309	SK309	SK309	11.2 10.0	-	-	-	内：ハタケ 外：ハタケ	底	底	底：2.5黄緑1000/3 外：2.5黄緑1000/3		
292	010-01	土器類	蓋	D2	SK309	SK309	SK309	11.2 10.0	-	-	-	内：ヨコナガ 外：ヨコナガ	底	底	底：2.5黄緑1000/3 外：2.5黄緑1000/3		
293	063-01	粘土土器 /土器類	蓋	D6	SK011	SK011	SK011	11.2 11.11	12.4	-	-	内：土器系・ハタケ・ヨコナガ 外：ヨコナガ・ハタケ	底	底	内：2.5黄緑1000/3 外：2.5黄緑1000/3		
294	063-04	粘土土器 /土器類	蓋	D6	SK011	SK011	SK011	11.2 11.12	25.0	-	-	内：ヨコナガ・横文・ヨコナガ 外：ヨコナガ・横文・ハタケ・斜線施 文	底：(～2mmの砂 粒を含む)	底	底：2.5黄緑1000/3 外：2.5黄緑1000/3		
295	063-02	粘土土器 /土器類	蓋	D6	SK011	SK011	SK011	11.2 10.0	25.0	-	-	内：土器系・ナガ・ハタケ・ヨコナガ 外：ヨコナガ・横文・ハタケ	底：(～2mmの砂 粒を含む)	底	底：2.5黄緑1000/3 外：2.5黄緑1000/3		
296	063-03	粘土土器 /土器類	蓋	D6	SK011	SK011	SK011	11.2 10.0	21.0	-	-	内：ヨコナガ・ハタケ・ヨコナガ 外：ヨコナガ・横文・ハタケ	底：(～2.5mmの砂 粒を含む)	底	底：2.5黄緑1000/3 外：2.5黄緑1000/3	内面縦行着 色・内面縦行着	
297	060-01	粘土土器 /土器類	蓋	D6	SK011	SK011	SK011	11.2 10.0	20.8	-	-	内：ハタケ・ヨコナガ 外：ヨコナガ・横文・ハタケ	底：(～1.5mmの砂 粒を含む)	底	底：2.5黄緑1000/3 外：2.5黄緑1000/3		
298	067-01	粘土土器 /土器類	蓋	D6	SK011	SK011	SK011	11.2 10.0	25.0	-	-	内：土器系・ナガ・ハタケ・ヨコナガ 外：ヨコナガ・横文・ハタケ	底：(～4mmの砂 粒を含む)	底	底：2.5黄緑1000/3 外：2.5黄緑1000/3		
299	068-01	粘土土器 /土器類	付付	D6	SK011	SK011	SK011	11.2 10.0	-	6.0	-	内：横線施文 外：ハタケ・ナガ	底：(～4mmの砂 粒を含む)	底	底：2.5黄緑1000/3 外：2.5黄緑1000/3	内面縦行着	
300	067-01	粘土土器 /土器類	付付	D6	SK011	SK011	SK011	11.2 10.0	-	9.5	-	内：ハタケ・ヨコナガ・ハタケ・ヨコナガ 外：ハタケ・ヨコナガ	底：(横線施文)	底	底：2.5黄緑1000/3・3.2 外：2.5黄緑1000/3	5.5年紋口縁	
301	060-03	粘土土器 /土器類	付付	D6	SK011	SK011	SK011	11.2 10.0	8.2	-	-	内：ナガ・ヨコナガ 外：ナガ・ヨコナガ	底：(～1.5mmの砂 粒を含む)	底	底：2.5黄緑1000/3・3.2 外：2.5黄緑1000/3		
302	068-02	粘土土器 /土器類	付付	D6	SK011	SK011	SK011	11.2 10.0	-	10.0	-	内：土器系・ナガ・ヨコナガ 外：ハタケ・ヨコナガ・ナガ	底：(～3mmの砂 粒を含む)	底	底：2.5黄緑1000/3 外：2.5黄緑1000/3		
303	065-02	粘土土器 /土器類	付付	D6	SK011	SK011	SK011	11.2 10.0	-	-	-	内：ハタケ 外：ナガ	底：(～2mmの小 石を含む)	底	底：2.5黄緑1000/3 外：2.5黄緑1000/3		
304	066-01	粘土土器 /土器類	付付	D6	SK011	SK011	SK011	11.2 11.21	34.8	17.8	28.2	-	内：ハタケ・土器系・土器系・ヨコナガ 外：ヨコナガ・ハタケ	底：(横線施文)	底	底：2.5黄緑1000/3・3.2 外：2.5黄緑1000/3	
305	062-01	粘土土器 /土器類	高杯	D6	SK011	SK011	SK011	11.2 11.2	33.8	-	-	内：ヨコナガ・ハタケ 外：ヨコナガ・ハタケ	底	底	底：2.5黄緑1000/3 外：2.5黄緑1000/3		
306	062-02	粘土土器 /土器類	高杯	D6	SK011	SK011	SK011	11.2 11.2	23.8	-	-	内：土器系・ヨコナガ 外：ヨコナガ・ハタケ	底	底	底：2.5黄緑1000/3・3.2 外：2.5黄緑1000/3		
307	063-03	粘土土器 /土器類	高杯	D6	SK011	SK011	SK011	11.2 11.2	23.8	-	-	内：土器系・ナガ 外：ナガ・ハタケ	底	底	底：2.5黄緑1000/3 外：2.5黄緑1000/3		
308	063-02	粘土土器 /土器類	高杯	D6	SK011	SK011	SK011	11.2 11.2	-	17.8	-	内：土器系 外：横線施文・ハタケ・土器系・ナガ	底	底	底：2.5黄緑1000/3 外：2.5黄緑1000/3		
309	068-05	土器類	研鉢	D6	SK011	SK011	SK011	11.2 11.2	-	-	-	内：ヨコナガ 外：ヨコナガ・ヨコナガ	底：(～1mmの砂 粒を含む)	底	底：SK06/0		
310	061-02	土器類	研鉢	D6	SK323	SK323	SK323	11.2 11.2	12.6	-	-	内：ヨコナガ 外：ヨコナガ	底	底	底：SK06/0		
311	061-03	土器類	研鉢	D4	SK314	SK314	SK314	11.2 11.2	-	4.2	-	内：ナガ 外：ナガ	底	底	内：SK2/0・3.2 外：SK101	内面縦行着 赤褐色	
312	061-05	土器類	蓋	D4	SK314	SK314	SK314	11.2 11.2	-	-	-	内：ヨコナガ 外：ヨコナガ	底	底	底：2.5黄緑1000/3 外：2.5黄緑1000/3		
313	064-01	土器類	縦文注 器	D4	SK314	SK314	SK314	11.2 11.2	-	-	-	内：土器系・ナガ 外：ナガ	底	底	底：2.5黄緑1000/3 外：2.5黄緑1000/3	把手位置	
314	008-07	粘土土器 /土器類	付付	D7	SK318	SK318	SK318	11.2 11.2	-	8.4	-	内：ヨコナガ 外：ヨコナガ	底：(～1mmの砂 粒を含む)	底	底：2.5黄緑1000/3 外：2.5黄緑1000/3		
315	008-06	粘土土器 /土器類	付付	D7	SK318	SK318	SK318	11.2 11.2	-	8.0	-	内：ハタケ・土器系 外：ハタケ	底：(～1mmの砂 粒を含む)	底	底：2.5黄緑1000/3 外：2.5黄緑1000/3		
316	064-06	粘土土器 /土器類	蓋	D7	SK320	SK320	SK320	11.2 11.2	-	8.0	-	内：土器系 外：ハタケ	底	底	内：底：3.2/2.5黄・黄 外：SK06/0・SK06/0・SK06/0		
317	010-07	土器類	蓋	D7	SK322	SK322	SK322	11.2 11.2	-	-	-	内：ハタケ・ヨコナガ 外：ヨコナガ・ハタケ	底：(1mm以下の 砂粒を含む)	底	底：SK06/0		
318	058-06	粘土土器 /土器類	蓋	D10	SK323	SK323	SK323	11.2 11.2	-	-	-	内：ヨコナガ・ハタケ・ヨコナガ 外：ヨコナガ・ハタケ	底：(～3mmの砂 粒を含む)	底	底：2.5黄緑1000/3 外：2.5黄緑1000/3	5.5年紋口縁	
319	058-02	粘土土器 /土器類	蓋	D10	SK323	SK323	SK323	11.2 11.2	-	-	-	内：土器系・ナガ・ヨコナガ 外：ヨコナガ・ハタケ・ナガ	底	底	底：2.5黄緑1000/3 外：2.5黄緑1000/3		
320	058-01	粘土土器 /土器類	蓋	D10	SK323	SK323	SK323	11.2 11.2	-	6.0	-	-	内：ハタケ 外：ハタケ・土器系	底	底	底：2.5黄緑1000/3 外：2.5黄緑1000/3	
321	059-01	粘土土器 /土器類	蓋	D10	SK323	SK323	SK323	11.2 11.2	-	5.1	-	-	内：ハタケ 外：ハタケ・ナガ	底	底	底：2.5黄緑1000/3 外：2.5黄緑1000/3	内面縦行着
322	058-02	粘土土器 /土器類	蓋	D10	SK323	SK323	SK323	11.2 11.2	-	-	-	内：土器系 外：横線施文・斜線施文・文様系	底	底	底：2.5黄緑1000/3 外：2.5黄緑1000/3		
323	058-03	粘土土器 /土器類	蓋	D10	SK323	SK323	SK323	11.2 11.2	-	-	-	内：土器系 外：横線施文・斜線施文・文様系	底	底	底：2.5黄緑1000/3 外：2.5黄緑1000/3		
324	057-02	粘土土器 /土器類	蓋	D10	SK323	SK323	SK323	11.2 11.2	-	-	-	内：ハタケ・土器系・ヨコナガ 外：ヨコナガ・ハタケ・ナガ	底：(～3mmの砂 粒を含む)	底	底：2.5黄緑1000/3 外：2.5黄緑1000/3		
325	060-01	粘土土器 /土器類	付付	D10	SK323	SK323	SK323	11.2 11.2	19.0 13.0	6.3	21.3	-	内：ハタケ・土器系・ヨコナガ 外：ヨコナガ・ハタケ・ナガ	底	底	底：2.5黄緑1000/3 外：2.5黄緑1000/3	内面縦行着 赤褐色化付着 底面平線施 文
326	057-05	粘土土器 /土器類	付付	D10	SK323	SK323	SK323	11.2 11.2	-	8.0	-	-	内：ハタケ・ナガ 外：ハタケ	底	底	底：SK06/0	内面縦行着
327	057-01	粘土土器 /土器類	高杯	D10	SK323	SK323	SK323	11.2 11.2	23.8	-	-	内：土器系・横線施文・斜線施文・文様系	底：(～3mmの砂 粒を含む)	底	底：2.5黄緑1000/3 外：2.5黄緑1000/3	通孔3個 内面縦行着	
328	058-05	粘土土器 /土器類	高杯	D10	SK323	SK323	SK323	11.2 11.2	-	-	-	内：土器系 外：横線施文・斜線施文・文様系	底	底	底：2.5黄緑1000/3 外：2.5黄緑1000/3	内面縦行着	
329	058-01	粘土土器 /土器類	高杯	D10	SK323	SK323	SK323	11.2 11.2	24.8	-	-	内：土器系 外：横線施文・文様系	底：(～3mmの砂 粒を含む)	底	底：2.5黄緑1000/3 外：2.5黄緑1000/3	内面縦行着	
330	060-02	粘土土器 /土器類	高杯	D10	SK323	SK323	SK323	11.2 11.2	-	13.2	-	内：土器系・ハタケ 外：横線施文・文様系・ナガ	底	底	底：2.5黄緑1000/3 外：2.5黄緑1000/3	通孔3個	
331	064-01	粘土土器 /土器類	手帖器	D10	SK323	SK323	SK323	11.2 11.2	-	-	-	内：土器系・文様系・ナガ 外：ヨコナガ・ハタケ	底	底	底：2.5黄緑1000/3 外：2.5黄緑1000/3	内面縦行着	
332	058-02	粘土土器 /土器類	蓋	D16	SK330	SK330	SK330	11.2 11.2	8.0	-	-	内：土器系 外：土器系・横線施文・斜線施文	底	底	底：2.5黄緑1000/3 外：2.5黄緑1000/3		
333	058-01	粘土土器 /土器類	蓋	D16	SK330	SK330	SK330	11.2 11.2	-	-	-	内：ヨコナガ 外：ヨコナガ	底	底	底：2.5黄緑1000/3 外：2.5黄緑1000/3		
334	057-01	粘土土器 /土器類	付付	D16	SK330	SK330	SK330	11.2 11.2	-	6.4	-	-	内：ナガ 外：ナガ	底	底	底：(～4mmの砂 粒を含む)	内面縦行着

第V-8表 中島遺跡遺物観察表6

報告番号	調査年度	種類	群種	地区	遺構種類	発見時期	遺量 (cm)			技法・文様の特徴	出土品	構成	色調	特記事項
							口径	底径	高さ					
336	057-04	粘土土器 / 土器類	土器	D16	05030	口縁部	—	6.4	—	内・ナツテ・ハツテ	底 (1.2mmの粉粒状含む)	—	—	—
337	056-07	粘土土器 / 土器類	土器	D45	05030	口縁部	—	—	—	内・ナツテ・ハツテ 外・縦筋文	底	—	—	—
338	056-05	土器	土器	D16	05030	—	—	—	—	—	底	—	—	—
339	074-06	粘土土器 / 土器類	土器	D19	05032	口縁部	—	—	—	内・ナツテ・ハツテ	底	—	—	—
340	073-05	粘土土器 / 土器類	土器	D19	05032	口縁部	18.6	—	—	内・ナツテ・ハツテ	底	—	—	—
342	074-03	粘土土器 / 土器類	土器	D19	05032	口縁部	3.12	—	—	内・縦筋文・ナツテ 外・縦筋文	底	—	—	—
343	069-01	粘土土器 / 土器類	土器	D19	05032	口縁部	17.4	—	—	内・ナツテ・ハツテ・縦筋文 外・ナツテ・ハツテ・縦筋文	底	—	—	—
344	074-07	土器類	土器	D19	05032	口縁部	10.9	—	—	内・ナツテ・ハツテ	底	—	—	—
345	072-04	土器類	土器	D19	05032	口縁部	3.0	—	—	内・ナツテ・ハツテ	底	—	—	—
346	072-04	土器類	土器	D19	05032	口縁部	16.6	—	—	内・ナツテ・ハツテ 外・ナツテ・ハツテ	底	—	—	—
347	074-05	土器類	土器	D19	05032	口縁部	—	—	—	内・ナツテ	底	—	—	—
348	052-02	粘土土器 / 土器類	土器	D19	05032	口縁部	—	6.8	—	内・縦筋文 外・縦筋文	底	—	—	—
349	069-03	粘土土器 / 土器類	土器	D19	05032	口縁部	—	—	—	内・縦筋文 外・縦筋文	底	—	—	—
350	069-05	粘土土器 / 土器類	土器	D19	05032	口縁部	—	—	—	内・縦筋文 外・縦筋文	底	—	—	—
351	073-03	粘土土器 / 土器類	土器	D19	05032	口縁部	—	—	—	内・ナツテ・ハツテ 外・縦筋文	底	—	—	—
352	069-04	粘土土器 / 土器類	土器	D19	05032	口縁部	—	—	—	内・ナツテ・ハツテ 外・縦筋文	底	—	—	—
353	074-01	土器類	土器	D19	05032	口縁部	30.4	—	—	内・ナツテ・ハツテ	底	—	—	—
354	069-02	土器類	土器	D19	05032	口縁部	9.2	—	—	内・ナツテ	底	—	—	—
355	069-06	土器類	土器	D19	05032	口縁部	—	—	—	内・ナツテ	底	—	—	—
356	072-06	粘土土器 / 土器類	土器	D20	05036	口縁部	17.8	—	—	内・ナツテ 外・ナツテ・ハツテ	底	—	—	—
357	072-07	粘土土器 / 土器類	土器	D20	05036	口縁部	—	10.4	—	内・ナツテ・ハツテ 外・ナツテ・ハツテ	底	—	—	—
358	070-05	土器類	土器	D2	P113	口縁部	—	—	—	内・ナツテ	底	—	—	—
359	074-06	土器類	土器	D10	P142	口縁部	—	—	—	内・ナツテ・ハツテ 外・ナツテ・ハツテ	底	—	—	—
360	070-04	土器類	土器	D3	P141	口縁部	—	—	—	内・ナツテ	底	—	—	—
361	070-06	粘土土器 / 土器類	土器	D3	P147	口縁部	—	—	—	内・縦筋文 外・縦筋文	底	—	—	—
362	071-07	土器類	土器	D3	P147	口縁部	—	—	—	内・ナツテ・ハツテ 外・ナツテ・ハツテ	底	—	—	—
363	070-08	土器類	土器	D13	P142	口縁部	—	—	—	内・ナツテ・ハツテ 外・ナツテ・ハツテ	底	—	—	—
364	073-03	粘土土器 / 土器類	土器	D15	P143	口縁部	—	8.7	—	内・ナツテ	底	—	—	—
365	073-04	粘土土器 / 土器類	土器	D15	P147	口縁部	—	18.2	—	内・縦筋文 外・縦筋文	底	—	—	—
366	073-01	粘土土器 / 土器類	土器	D15	P148 No.1	口縁部	10.0	3.0	18.20	内・ナツテ・ハツテ・縦筋文 外・ナツテ・ハツテ・縦筋文	底	—	—	—
367	070-09	粘土土器 / 土器類	土器	D15	P148 No.2	口縁部	11.3	—	—	内・縦筋文 外・縦筋文	底	—	—	—
368	071-02	粘土土器 / 土器類	土器	D15	P148 No.3	口縁部	—	13.8	—	内・ナツテ・ハツテ 外・ナツテ・ハツテ	底	—	—	—
369	073-02	粘土土器 / 土器類	土器	D15	P149 No.1	口縁部	—	14.6	—	内・ナツテ・ハツテ 外・ナツテ・ハツテ	底	—	—	—
370	071-01	粘土土器 / 土器類	土器	D17	P149 No.2	口縁部	—	—	—	内・縦筋文 外・ナツテ・ハツテ	底	—	—	—
371	074-03	粘土土器 / 土器類	土器	D19	P141	口縁部	—	—	—	内・縦筋文 外・縦筋文	底	—	—	—
372	073-02	粘土土器 / 土器類	土器	D18	P141	口縁部	—	6.8	—	内・ナツテ・ハツテ 外・縦筋文	底	—	—	—
373	073-03	土器類	土器	D19	P146	口縁部	—	—	—	内・縦筋文 外・縦筋文	底	—	—	—
374	074-04	粘土土器 / 土器類	土器	D19	P147	口縁部	—	—	—	内・縦筋文 外・縦筋文	底	—	—	—
375	074-05	粘土土器 / 土器類	土器	D21	P143	口縁部	18.8	—	—	内・ナツテ・ハツテ 外・ナツテ・ハツテ	底	—	—	—
376	077-02	土器類	土器	D1	05040	口縁部	—	—	—	内・ナツテ・ハツテ 外・ナツテ・ハツテ	底	—	—	—
377	078-03	土器類	土器	D1	05040	口縁部	—	—	—	内・ナツテ・ハツテ 外・ナツテ・ハツテ	底	—	—	—
378	076-04	粘土土器 / 土器類	土器	D1	05040	口縁部	12.2	—	—	内・ナツテ・ハツテ 外・ナツテ・ハツテ	底	—	—	—
379	075-01	粘土土器 / 土器類	土器	D1	05040	口縁部	18.0	—	—	内・ナツテ・ハツテ 外・ナツテ・ハツテ	底	—	—	—
380	079-01	粘土土器 / 土器類	土器	D1	05040	口縁部	23.4	—	—	内・ナツテ・ハツテ 外・ナツテ・ハツテ	底	—	—	—
382	078-02	土器類	土器	D1	05040	口縁部	—	—	—	内・ナツテ・ハツテ 外・ナツテ・ハツテ	底	—	—	—
383	079-02	土器類	土器	D1	05040	口縁部	12.2	—	—	内・ナツテ・ハツテ 外・ナツテ・ハツテ	底	—	—	—
384	077-06	土器類	土器	D1	05040	口縁部	19.4	—	—	内・ナツテ	底	—	—	—
385	077-05	土器類	土器	D1	05040	口縁部	—	—	—	内・ナツテ	底	—	—	—
386	077-01	土器類	土器	D1	05040	口縁部	—	—	—	内・ナツテ	底	—	—	—
387	077-04	粘土土器 / 土器類	土器	D1	05040	口縁部	17.9	—	—	内・ナツテ	底	—	—	—
388	078-06	粘土土器 / 土器類	土器	D1	05040	口縁部	—	—	—	内・ナツテ	底	—	—	—
389	074-01	粘土土器 / 土器類	土器	D1	05040	口縁部	—	—	—	内・ナツテ	底	—	—	—
390	079-03	粘土土器 / 土器類	土器	D1	05040	口縁部	—	—	—	内・ナツテ	底	—	—	—
391	070-02	粘土土器 / 土器類	土器	D1	05040	口縁部	—	—	—	内・ナツテ	底	—	—	—





報告 番号	調査 番号	種類	副種	地区	遺構 種別	遺構 所在地	遺構 形状	遺構 (cm)			技法・文様の特徴 その他	出土 品類	構成	色調	特記事項	
								口径	直径	高さ						
418	997-02	粘土土器 土器	高群	D6	伝瓦葺	群行瓦葺	円錐	—	—	—	内：西織本組 外：西織本組・東織本組	赤	—	浅黄緑7.5396/4	透孔3個	
419	997-02	粘土土器 土器	高群	D6	伝瓦葺	群行瓦葺	円錐	23.8	—	—	内：ハナメ・ヨコナガ 外：ヨコナガ・東織本組・ハナメ・ヨコナガ	赤	—	浅黄緑10396/2	—	
420	997-01	粘土土器 土器	付付巻	D2	伝瓦葺	付付巻	円錐	—	5.8	—	内：ナメテ・ヨコナガ 外：ヨコナガ・ヨコナガ	赤	—	1.551-黄緑7.5396/3	—	
421	997-02	土器類	巻	D7	伝瓦葺	群行瓦葺	円錐	—	—	—	内：工高群・ヨコナガ・ヨコナガ 外：ヨコナガ・ハナメ	赤	—	1.551-黄緑10397/2	—	
422	997-03	土器類	付付巻	D7	伝瓦葺	群行瓦葺	円錐	—	6.0	—	内：工高群・ヨコナガ・ヨコナガ 外：ヨコナガ・ハナメ	赤	—	浅黄緑7.5396/4	平面型	
423	998-01	粘土土器 土器	高群	D7	伝瓦葺	群行瓦葺	円錐	23.6	—	—	内：工高群・ヨコナガ 外：ヨコナガ・ハナメ	赤	—	浅黄緑10398/3	—	
424	997-01	粘土土器 土器	高群	D7	伝瓦葺	群行瓦葺	円錐	6.12	24.3	—	内：工高群・ヨコナガ・ヨコナガ 外：ヨコナガ・ハナメ	赤	—	1.551-黄緑10397/4	透孔4個	
425	999-01	陶器類	群巻	D7	伝瓦葺	伝瓦葺	円錐	—	5.4	—	内：ヨコナガ・ナメ 外：ヨコナガ・ナメ	赤	—	1.551-黄緑10397/1	透孔3個	
426	999-03	土器類	編又江	D7	伝瓦葺	群行瓦葺	円錐	—	—	—	内：西織本組・ナメ 外：西織本組・ナメ	赤	—	浅黄緑10398/3	把手部分	
427	997-02	粘土土器 土器	高群	D9	伝瓦葺	群行瓦葺	円錐	—	—	—	内：ハナメ・東織本組 外：ハナメ・東織本組	赤	—	浅黄緑10398/3	透孔2個	
428	997-04	土器類	高群	D9	伝瓦葺	群行瓦葺	円錐	—	—	—	内：ハナメ・ナメ 外：ハナメ・ナメ	赤	—	1.551-黄緑10397/3	透孔1個	
429	999-01	土器類	高群	D9	伝瓦葺	群行瓦葺	円錐	—	10.6	—	内：ヨコナガ・ハナメ 外：ヨコナガ・ハナメ	赤	—	浅黄緑7.5396/4	—	
430	999-03	粘土土器 土器	高群	D10	伝瓦葺	群行瓦葺	円錐	—	—	—	内：西織本組 外：西織本組	赤	—	黄緑7.5397/6	—	
431	997-03	粘土土器 土器	高群	D10	伝瓦葺	群行瓦葺	円錐	—	—	—	内：西織本組・東織本組 外：ヨコナガ・ハナメ	赤	—	1.551-黄緑7.5397/4	透孔1個	
432	999-03	粘土土器 土器	高群	D10	伝瓦葺	群行瓦葺	円錐	—	—	—	内：ハナメ 外：ハナメ	赤	—	浅黄緑10398/3	—	
433	997-03	粘土土器 土器	巻	D13	伝瓦葺	群行瓦葺	円錐	11.8	—	—	内：ハナメ・ヨコナガ 外：ハナメ・ヨコナガ	赤	—	1.551-黄緑10397/3	—	
434	997-03	粘土土器 土器	巻	D11	伝瓦葺	群行瓦葺	円錐	—	5.0	—	内：西織本組 外：西織本組	赤	—	黄緑7.5397/2	—	
435	997-04	粘土土器 土器	巻	D11	伝瓦葺	群行瓦葺	円錐	17.4	16.6	—	内：工高群・ヨコナガ 外：ヨコナガ・ハナメ・東織本組	赤	—	黄緑1039/6	—	
436	997-01	粘土土器 土器	巻	D11	伝瓦葺	群行瓦葺	円錐	5.12	29.8	—	内：ハナメ・ヨコナガ 外：ヨコナガ・ハナメ	赤	—	1.551-黄緑10397/4	口縁縁付	
437	997-03	粘土土器 土器	巻	D11	伝瓦葺	群行瓦葺	円錐	14.2	15.8	—	内：ハナメ・ヨコナガ 外：ヨコナガ・ハナメ	赤	—	1.551-黄緑10398/3	—	
438	997-04	粘土土器 土器	巻	D11	伝瓦葺	群行瓦葺	円錐	5.12	15.8	—	内：ヨコナガ・ヨコナガ 外：ヨコナガ・ハナメ	赤	—	1.551-黄緑10397/3	—	
439	997-02	粘土土器 土器	付付巻	D11	伝瓦葺	群行瓦葺	円錐	—	6.4	—	内：ハナメ・ヨコナガ 外：ヨコナガ・ハナメ	赤	—	1.551-黄緑10397/3	透孔2個	
440	997-01	粘土土器 土器	付付巻	D11	伝瓦葺	群行瓦葺	円錐	—	6.0	—	内：ハナメ・ヨコナガ 外：ハナメ・ヨコナガ	赤	—	浅黄緑10398/2・1039/3	—	
441	994-01	粘土土器 土器	付付巻	D11	伝瓦葺	群行瓦葺	円錐	—	6.6	—	内：ヨコナガ・ヨコナガ 外：ヨコナガ・ハナメ	赤	—	1.551-黄緑10397/3	透孔1個	
442	994-01	粘土土器 土器	巻	D13	伝瓦葺	群行瓦葺	円錐	—	3.6	—	内：ハナメ・ヨコナガ 外：ハナメ・ヨコナガ	赤	—	1.551-黄緑10397/3	透孔1個	
443	999-06	粘土土器 土器	高群	D11	伝瓦葺	群行瓦葺	円錐	19.4	—	—	内：工高群・東織本組・ヨコナガ 外：ヨコナガ・ハナメ	赤	—	1.551-黄緑10397/3	—	
444	997-02	粘土土器 土器	高群	D11	伝瓦葺	群行瓦葺	円錐	23.8	—	—	内：工高群・ヨコナガ 外：ヨコナガ・東織本組	赤	—	1.551-黄緑10397/4	口縁縁付	
445	997-02	粘土土器 土器	高群	D11	伝瓦葺	群行瓦葺	円錐	17.8	—	—	内：工高群・ヨコナガ 外：ヨコナガ・ハナメ・ヨコナガ	赤	—	黄緑1036/6	口縁縁付	
446	997-01	粘土土器 土器	高群	D11	伝瓦葺	群行瓦葺	円錐	20.1	13.9	—	内：ヨコナガ・ナメ・東織本組 外：東織本組・ヨコナガ	赤	—	明赤黄緑1035/6	—	
447	997-01	粘土土器 土器	高群	D11	伝瓦葺	群行瓦葺	円錐	19.0	11.8	16.8	—	内：工高群・工高群・ハナメ・ヨコナガ 外：ヨコナガ・ハナメ	赤	—	1.551-黄緑10397/3	透孔2個 外面縁付
448	997-02	粘土土器 土器	高群	D11	伝瓦葺	群行瓦葺	円錐	—	14.2	—	内：ヨコナガ・ハナメ 外：ヨコナガ・ハナメ	赤	—	黄緑1036/6	透孔1個 外面縁付	
449	997-03	粘土土器 土器	林	D11	伝瓦葺	群行瓦葺	円錐	—	5.7	—	内：ハナメ 外：西織本組・ナメ	赤	—	内：黄緑1037/14外：黄緑7.5396/6	透孔1個 外面縁付	
450	997-01	粘土土器 土器	巻	D12	伝瓦葺	群行瓦葺	円錐	12.5	—	—	内：ハナメ・ヨコナガ 外：ヨコナガ・ハナメ・ナメ	赤	—	明赤黄緑1037/6	—	
451	997-02	粘土土器 土器	巻	D12	伝瓦葺	群行瓦葺	円錐	—	7.0	—	内：ナメテ・ハナメ 外：ナメテ・ハナメ	赤	—	内：黄緑1037/14外：黄緑7.5396/6	透孔3個	
452	994-06	粘土土器 土器	巻	D12	伝瓦葺	群行瓦葺	円錐	—	3.4	—	内：ハナメ・ナメ 外：ナメテ・ハナメ	赤	—	明赤黄緑1037/6	—	
453	997-03	粘土土器 土器	巻	D12	伝瓦葺	群行瓦葺	円錐	—	3.2	—	内：東織本組 外：東織本組	赤	—	明赤黄緑1035/6	—	
454	998-02	粘土土器 土器	高群	D12	伝瓦葺	群行瓦葺	円錐	19.8	—	—	内：工高群・ナメ 外：ナメテ・ハナメ・ヨコナガ	赤	—	浅黄緑7.5396/4	—	
455	997-02	粘土土器 土器	高群	D12	伝瓦葺	群行瓦葺	円錐	25.6	—	—	内：ハナメ・ヨコナガ 外：ヨコナガ・ハナメ・ヨコナガ	赤	—	黄緑1037/6外：黄緑1035/6	—	
456	997-01	粘土土器 土器	高群	D12	伝瓦葺	群行瓦葺	円錐	19.8	—	—	内：西織本組 外：西織本組	赤	—	1.551-黄緑7.5397/4	透孔3個	
457	998-01	粘土土器 土器	高群	D12	伝瓦葺	群行瓦葺	円錐	19.8	—	—	内：西織本組・ナメ 外：西織本組・ナメ	赤	—	1.551-黄緑7.5397/10外：黄緑7.5396/6	—	
458	998-01	粘土土器 土器	高群	D12	伝瓦葺	群行瓦葺	円錐	19.0	—	—	内：工高群・ナメ 外：ナメテ・ナメ	赤	—	1.551-黄緑10397/4	内外面縁付	
459	998-01	粘土土器 土器	高群	D12	伝瓦葺	群行瓦葺	円錐	—	10.2	—	内：西織本組 外：西織本組	赤	—	浅黄緑7.5396/6	—	
460	997-01	粘土土器 土器	高群	D12	伝瓦葺	群行瓦葺	円錐	—	11.8	—	内：西織本組 外：西織本組	赤	—	浅黄緑7.5396/4	—	
461	997-06	粘土土器 土器	高群	D12	伝瓦葺	群行瓦葺	円錐	—	11.3	—	内：ハナメ・ナメ 外：ハナメ・ナメ	赤	—	1.551-黄緑10397/4	透孔1個	
462	997-01	粘土土器 土器	高群	D12	伝瓦葺	群行瓦葺	円錐	—	—	—	内：ナメテ・ナメ 外：ナメテ・ナメ	赤	—	黄緑1036/6	透孔3個	
463	997-01	粘土土器 土器	高群	D12	伝瓦葺	群行瓦葺	円錐	—	—	—	内：ナメテ・ナメ 外：ナメテ・ナメ	赤	—	黄緑1036/6	透孔3個	
464	997-03	粘土土器 土器	高群	D12	伝瓦葺	群行瓦葺	円錐	—	12.4	—	内：西織本組 外：西織本組	赤	—	浅黄緑7.5396/4	透孔2個	
465	997-02	粘土土器 土器	林	D12	伝瓦葺	群行瓦葺	円錐	15.8	—	—	内：工高群・ヨコナガ 外：ヨコナガ・ハナメ	赤	—	1.551-黄緑10397/14外：黄緑7.5396/6	—	
466	997-01	粘土土器 土器	巻	D13	伝瓦葺	群行瓦葺	円錐	—	2.2	—	内：西織本組 外：西織本組	赤	—	内：黄緑1037/14外：黄緑7.5396/6	内外面縁付	
467	997-01	粘土土器 土器	小笠原	D13	伝瓦葺	群行瓦葺	円錐	2.4	4.7	11.2	—	内：ナメテ・ナメ・ヨコナガ 外：ヨコナガ・東織本組	赤	—	内：黄緑1037/14外：黄緑7.5396/6	—
468	997-02	粘土土器 土器	高群	D13	伝瓦葺	群行瓦葺	円錐	—	—	—	内：工高群・工高群 外：ハナメ・東織本組・ヨコナガ	赤	—	1.551-黄緑7.5397/6	透孔3個	
469	997-05	土器類	巻	D13	伝瓦葺	群行瓦葺	円錐	—	—	—	内：ハナメ・東織本組 外：ハナメ・東織本組	赤	—	黄緑1039/2	—	
470	997-01	土器類	付付巻	D13	伝瓦葺	群行瓦葺	円錐	—	8.0	—	内：工高群・ナメ 外：工高群・ナメ	赤	—	黄緑7.5396/2外：黄緑1039/2	平面型 外面外縁縁付	
471	100-01	土器類	小笠原	D14	伝瓦葺	群行瓦葺	円錐	—	8.4	—	内：西織本組 外：西織本組	赤	—	内：1.551-黄緑10397/3 1.551-黄緑1039/4	—	

報告書 番号	調査 番号	種類	副種	地区	遺構 部位	発見 層位	測量 (cm)			技法・文様の特徴 説明	出土 品類	構成	色調	特記事項
							口径	底径	高さ					
502	100-02	粘土土器 /土器類	甕	D15	包込層	口縁 5.12	16.1	-	-	内：シボリ 外：ヨコナガ、刺狭文・縞結線文・波 文	底：(1.5mmの 粒状含む)	-	12.51-黄緑/3007/2	
503	100-03	粘土土器 /土器類	甕	D15	包込層	口縁 1.12	16.8	-	-	内：波文 外：土器類	底：(1.5mmの 粒状含む)	-	12.51-黄緑/3007/3	
504	100-04	土器類	甕	D15	包込層	口縁 5.12	-	-	-	内：ヨコナガ・ヨコナガ 外：波文・ヨコナガ	底：(1.5mmの 粒状含む)	-	12.51-黄緑/3007/4	
505	100-05	粘土土器 /土器類	付付甕	D15	包込層	口縁 10.12	-	3.9	-	内：波文 外：ハナメ・波文	底：(1.5mmの 粒状含む)	-	12.51-黄緑/3007/5	台内内面付着
506	100-06	粘土土器 /土器類	高杯	D15	包込層	口縁 11.12	-	-	-	内：シボリ・ハナメ 外：波文・縞結線文	底：(1.5mmの 粒状含む)	-	12.51-黄緑/3007/6	
507	100-07	粘土土器 /土器類	高杯	D15	包込層	口縁 5.12	-	10.0	-	内：ハナメ 外：ハナメ・波文	底：(1.5mmの 粒状含む)	-	12.51-黄緑/3007/7	
508	100-07	粘土土器 /土器類	高杯	D16	包込層	口縁 10.12	-	-	-	内：波文・シボリ 外：波文・縞結線文	底：(1.5mmの 粒状含む)	-	12.51-黄緑/3007/8	通孔3個
509	101-01	粘土土器 /土器類	甕	D16	包込層	口縁 1.12	11.2	-	-	内：ハナメ・ヨコナガ 外：ヨコナガ・波文	底：(1.5mmの 粒状含む)	-	12.51-黄緑/3007/9	
510	102-02	粘土土器 /土器類	甕	D16	包込層	口縁 5.12	-	9.0	-	内：ハナメ 外：ハナメ	底：(1.5mmの 粒状含む)	-	12.51-黄緑/3007/10	内：底に3個の通孔
511	102-01	粘土土器 /土器類	甕	D16	包込層	口縁 5.12	-	6.0	-	内：波文 外：ハナメ・波文	底：(1.5mmの 粒状含む)	-	12.51-黄緑/3007/11	通孔3個
512	101-05	粘土土器 /土器類	甕	D16	包込層	口縁 5.12	-	-	-	内：波文 外：ハナメ・波文	底：(1.5mmの 粒状含む)	-	12.51-黄緑/3007/12	内：底に3個の通孔
513	101-06	粘土土器 /土器類	甕	D16	包込層	口縁 5.12	-	-	-	内：ハナメ・玉長ナガ 外：刺狭文・ハナメ・ミガキ	底：(1.5mmの 粒状含む)	-	12.51-黄緑/3007/13	内：底に3個の通孔
514	101-02	粘土土器 /土器類	高杯	D16	包込層	口縁 5.12	-	12.0	-	内：シボリ・ハナメ 外：波文・縞結線文・ハナメ・ミガキ	底：(1.5mmの 粒状含む)	-	12.51-黄緑/3007/14	内：底に3個の通孔
515	101-03	粘土土器 /土器類	高杯	D16	包込層	口縁 5.12	-	9.0	-	内：波文・ナガ 外：ハナメ・ミガキ	底：(1.5mmの 粒状含む)	-	12.51-黄緑/3007/15	
516	112-01	粘土土器 /土器類	甕	D17	包込層	口縁 5.12	18.0	8.5	33.4	内：波文・ナガ・ナガ・ナガ・ミガキ・刺狭文・縞結線文・波 文・ハナメ・ナガ	底：(1.5mmの 粒状含む)	-	12.51-黄緑/3007/16	内面黒化
517	104-01	粘土土器 /土器類	甕	D17	包込層	口縁 5.12	18.8	-	-	内：ハナメ・ナガ 外：ヨコナガ・付狭文・竹文・ハナ メ	底：(1.5mmの 粒状含む)	-	12.51-黄緑/3007/17	
518	103-02	粘土土器 /土器類	甕	D17	包込層	口縁 5.12	-	-	-	内：ヨコナガ 外：ヨコナガ・縞結線文	底：縞結線含む	-	12.51-黄緑/3007/18	
519	102-04	粘土土器 /土器類	高杯	D17	包込層	口縁 5.12	-	9.0	-	内：ハナメ 外：ハナメ・ナガ	底：(1.5mmの 粒状含む)	-	12.51-黄緑/3007/19	内面黒化
520	108-02	粘土土器 /土器類	甕	D17	包込層	口縁 5.12	-	5.4	-	内：玉長ナガ 外：玉長ナガ	底：(1.5mmの 粒状含む)	-	12.51-黄緑/3007/20	内面黒化
521	108-03	粘土土器 /土器類	甕	D17	包込層	口縁 5.12	-	4.9	-	内：ハナメ 外：オモエ・玉長ナガ・ナガ・調整不明	底：縞 結線含む	-	12.51-黄緑/3007/21	内面黒化
522	107-03	粘土土器 /土器類	甕	D17	包込層	口縁 5.12	-	5.2	-	内：調整不明 外：調整不明	底：(1.5mmの 粒状含む)	-	12.51-黄緑/3007/22	内面黒化
523	102-05	粘土土器 /土器類	甕	D17	包込層	口縁 5.12	-	4.4	-	内：ナガ 外：調整不明	底：(1.5mmの 粒状含む)	-	12.51-黄緑/3007/23	
524	103-04	粘土土器 /土器類	甕	D17	包込層	口縁 5.12	-	-	-	内：ミガキ 外：ハナメ・ミガキ	底：縞結線含む	-	12.51-黄緑/3007/24	
525	104-02	粘土土器 /土器類	高杯	D17	包込層	口縁 5.12	-	-	-	内：調整不明 外：波文・縞結線文	底：縞結線含む	-	12.51-黄緑/3007/25	通孔3個
526	102-06	粘土土器 /土器類	高杯	D17	包込層	口縁 5.12	-	-	-	内：調整不明・ナガ 外：ナガ	底：(1.5mmの 粒状含む)	-	12.51-黄緑/3007/26	通孔3個
527	103-03	粘土土器 /土器類	高杯	D17	包込層	口縁 5.12	-	-	-	内：ナガ・ヨコナガ 外：ハナメ・ミガキ・ヨコナガ	底：縞結線含む	-	12.51-黄緑/3007/27	
528	103-04	粘土土器 /土器類	高杯	D17	包込層	口縁 5.12	-	14.8	-	内：下長ナガ・ヨコナガ 外：波文・縞結線文・オモエ・ハナメ・ヨコ ナガ	底：縞結線含む	-	12.51-黄緑/3007/28	
529	107-01	土器類	高杯	D17	包込層	口縁 5.12	-	10.8	-	内：ナガ・ヨコナガ 外：ヨコナガ	底：(1.5mmの 粒状含む)	-	12.51-黄緑/3007/29	
530	102-03	粘土土器 /土器類	高杯	D17	包込層	口縁 5.12	23.9	-	-	内：ミガキ・ヨコナガ 外：ヨコナガ・縞結線文・ミガキ	底：(1.5mmの 粒状含む)	-	12.51-黄緑/3007/30	
531	107-02	粘土土器 /土器類	高杯	D18	包込層	口縁 5.12	-	-	-	内：調整不明 外：竹文・調整不明	底：(1.5mmの 粒状含む)	-	12.51-黄緑/3007/31	
532	107-05	粘土土器 /土器類	短頸甕	D18	包込層	口縁 5.12	12.8	-	-	内：ハナメ 外：ヨコナガ・ハナメ	底：(1.5mmの 粒状含む)	-	12.51-黄緑/3007/32	
533	108-01	粘土土器 /土器類	甕	D18	包込層	口縁 5.12	17.8	-	-	内：ナガ・ヨコナガ 外：ヨコナガ・ナガ	底：(1.5mmの 粒状含む)	-	12.51-黄緑/3007/33	
534	107-01	粘土土器 /土器類	甕	D18	包込層	口縁 5.12	-	7.8	-	内：ハナメ 外：ハナメ・波文・ナガ・オモエ	底：縞 結線含む	-	12.51-黄緑/3007/34	
535	106-06	粘土土器 /土器類	甕	D18	包込層	口縁 5.12	-	5.3	-	内：ハナメ 外：ハナメ・調整不明	底：(1.5mmの 粒状含む)	-	12.51-黄緑/3007/35	内面黒化
536	106-02	粘土土器 /土器類	甕	D18	包込層	口縁 5.12	-	5.1	-	内：玉長ナガ・調整不明 外：調整不明	底：(1.5mmの 粒状含む)	-	12.51-黄緑/3007/36	内面黒化
537	108-01	粘土土器 /土器類	付付甕	D18	包込層	口縁 11.12	16.8	-	-	内：ハナメ・ヨコナガ 外：ヨコナガ	底：縞結線含む	-	12.51-黄緑/3007/37	5字状口縁
538	106-04	粘土土器 /土器類	高杯	D18	包込層	口縁 5.12	-	-	-	内：ナガ 外：ナガ	底：縞結線含む	-	12.51-黄緑/3007/38	通孔1個
539	106-03	粘土土器 /土器類	高杯	D18	包込層	口縁 5.12	-	-	-	内：調整不明・シボリ・ナガ 外：シボリ・ナガ・波文・縞結線文・ミガキ	底：縞結線含む	-	12.51-黄緑/3007/39	通孔3個
540	106-05	粘土土器 /土器類	高杯	D18	包込層	口縁 5.12	-	12.4	-	内：調整不明 外：ヨコナガ・ヨコナガ	底：縞結線含む	-	12.51-黄緑/3007/40	
541	105-03	短頸甕	短甕	D18	包込層	口縁 5.12	-	-	-	内：調整不明・ヨコナガ 外：ヨコナガ	底：(1.5mmの 粒状含む)	高	1008/9	
542	105-04	土器類	甕	D19	包込層	口縁 5.12	-	3.6	-	内：調整不明 外：ヨコナガ・ナガ	底：(1.5mmの 粒状含む)	-	12.51-黄緑/3007/41	
543	109-03	土器類	甕	D19	包込層	口縁 5.12	-	-	-	内：ヨコナガ 外：ヨコナガ	底：中々	-	12.51-黄緑/3007/42	
544	108-01	粘土土器 /土器類	甕	D19	包込層	口縁 5.12	11.8	-	-	内：オモエ・ヨコナガ 外：ヨコナガ・ミガキ・調整不明	底：縞結線含む	-	12.51-黄緑/3007/43	
545	105-02	粘土土器 /土器類	甕	D19	包込層	口縁 5.12	8.0	-	-	内：ヨコナガ・ヨコナガ 外：ヨコナガ・ナガ	底：縞結線含む	-	12.51-黄緑/3007/44	
546	110-01	粘土土器 /土器類	甕	D19	包込層	口縁 5.12	-	4.4	-	内：ナガ 外：玉長ナガ	底：中々	-	12.51-黄緑/3007/45	内面黒化 底内面黒化 付着
547	102-03	粘土土器 /土器類	甕	D19	包込層	口縁 5.12	-	4.9	-	内：玉長ナガ・玉長 ナガ・ハナメ・ナガ	底：縞 結線含む	-	12.51-黄緑/3007/46	内面黒化
548	109-02	粘土土器 /土器類	甕	D19	包込層	口縁 5.12	-	-	-	内：ハナメ・ヨコナガ 外：ヨコナガ・ハナメ	底：縞 結線含む	-	12.51-黄緑/3007/47	
549	109-03	粘土土器 /土器類	甕	D19	包込層	口縁 5.12	-	-	-	内：ハナメ・ヨコナガ 外：ヨコナガ・刺狭文・ハナメ	底：縞 結線含む	-	12.51-黄緑/3007/48	
550	109-04	粘土土器 /土器類	付付甕	D19	包込層	口縁 5.12	-	-	-	内：ナガ・ヨコナガ 外：ヨコナガ	底：中々	-	12.51-黄緑/3007/49	5字状口縁
551	109-01	粘土土器 /土器類	付付甕	D19	包込層	口縁 5.12	18.2	-	-	内：オモエ・ナガ・玉長 ナガ・ヨコナガ・ヨコナガ 外：ヨコナガ・波文・縞結線文	底：中々	-	12.51-黄緑/3007/50	5字状口縁
552	109-06	土器類	付付甕	D19	包込層	口縁 5.12	-	-	-	内：ヨコナガ・ヨコナガ 外：ヨコナガ	底：縞 結線含む	-	12.51-黄緑/3007/51	字面黒
553	108-02	土器類	甕	D19	包込層	口縁 5.12	15.8	-	-	内：ヨコナガ 外：ヨコナガ	底：縞 結線含む	-	12.51-黄緑/3007/52	
554	110-01	粘土土器 /土器類	高杯	D19	包込層	口縁 5.12	-	-	-	内：ハナメ・ナガ 外：ハナメ	底：縞 結線含む	-	12.51-黄緑/3007/53	底面黒

第V-12表 中島遺跡遺物観察表10



報告 番号	調査 番号	種類	副種	地区	遺構 種別	遺構 所在地	遺長 (cm)			技法・文様の特徴 説明	出土 施設	構成	色調	特記事項
							口径	底径	高さ					
607	126-02	粘土土器 / 土器類	倉	E19	S0414	口縁	11.1	15.8	—	内：ハクメ・ヨコナガ 外：ハクメ・ヨコナガ	窯	黒	内：黒1、黒2の 粘灰付	
608	126-03	粘土土器 / 土器類	付付置	E19	S0414	口縁	11.2	15.0	—	内：中ナガ・ヨコナガ 外：ハクメ・ヨコナガ・刷灰文・刷毛線文・ハクメ	窯	黒	内：黒2、黒3以下 の粘灰付	5字紋口縁
609	126-05	粘土土器 / 土器類	倉	E19	S0415	口縁	—	6.3	—	内：ハクメ・ヨコナガ	窯	黒	内：黒2、黒3以下 の粘灰付	内面黒化
610	126-04	粘土土器 / 土器類	倉	E19	S0415	底面 残存	—	3.0	—	内：調整不明 外：ハクメ・ナガ	窯	黒	中ナ短、黒1、黒2 以下の粘灰付 (底面粘灰)	内：黒1、黒2、黒3、黒4 外：黒1、黒2、黒3、黒4
611	126-06	粘土土器 / 土器類	高軒	E20	S0417	口縁	—	—	—	内：中ナガ・ヨコナガ 外：ハクメ・ヨコナガ	窯	黒	黒1、黒2以下の 粘灰付	黒1、黒2
612	116-07	土器類	倉	122	S0233	口縁	6.9	—	—	内：調整不明 外：調整不明	窯	黒	中ナ短	
613	124-04	土器類	倉	E3	古灰層	口縁	15.2	—	—	内：調整不明 外：調整不明	窯	黒	黒1以下以下の 粘灰付	内：黒1、黒2、黒3、黒4 外：調整不明、黒1、黒2
614	124-01	粘土土器 / 土器類	倉	E31	古灰層	底面	6.12	—	6.4	内：調整不明 外：調整不明	窯	黒	黒1以下以下の 粘灰付	内：黒1、黒2、黒3、黒4 外：調整不明、黒1、黒2
615	127-06	粘土土器 / 土器類	倉	E31	古灰層	底面	—	—	—	内：調整不明 外：調整不明	窯	黒	黒1以下以下の 粘灰付	内：黒1、黒2、黒3、黒4 外：調整不明、黒1、黒2
616	124-07	粘土土器 / 土器類	倉	E31	古灰層	底面	—	—	—	内：ハクメ・調整 外：調整不明、刷毛線文・ハクメ・調整	窯	黒	黒1、黒2以下の 粘灰付	内：黒1、黒2、黒3、黒4 外：調整不明、黒1、黒2
617	125-01	粘土土器 / 土器類	倉	E31	古灰層	底面	—	2.2	—	内：ハクメ 外：調整不明	窯	黒	黒1以下以下の 粘灰付	内：黒1、黒2、黒3、黒4 外：調整不明、黒1、黒2
618	124-03	粘土土器 / 土器類	倉	E31	古灰層	底面	—	—	—	内：中ナガ・ハクメ 外：ナガ	窯	黒	黒1以下以下の 粘灰付	内：黒1、黒2、黒3、黒4 外：調整不明、黒1、黒2
619	124-08	粘土土器 / 土器類	付付置	E31	古灰層	底面	—	—	—	内：中ナガ・ハクメ 外：ナガ・調整文・ハクメ	窯	黒	黒1以下以下の 粘灰付	内：黒1、黒2、黒3、黒4 外：調整不明、黒1、黒2
620	124-02	粘土土器 / 土器類	付付置	E31	古灰層	底面	—	5.7	—	内：ハクメ・ナガ 外：ハクメ・ナガ	窯	黒	黒1以下以下の 粘灰付	内：黒1、黒2、黒3、黒4 外：調整不明、黒1、黒2
621	124-05	土器類	付付置	E31	古灰層	口縁	12.4	—	—	内：中ナガ	窯	黒	中ナ短	
622	125-02	粘土土器 / 土器類	高軒	E31	古灰層	口縁	—	—	—	内：中ナガ・ナガ 外：調整不明、刷毛線文	窯	黒	黒1以下以下の 粘灰付	内：黒1、黒2、黒3、黒4 外：調整不明、黒1、黒2
623	124-09	粘土土器 / 土器類	高軒	E31	古灰層	口縁	6.13	—	—	内：調整不明 外：調整不明	窯	黒	黒1以下以下の 粘灰付	内：黒1、黒2、黒3、黒4 外：調整不明、黒1、黒2
624	125-03	粘土土器 / 土器類	高軒	E31	古灰層	口縁	—	—	—	内：調整不明 外：調整不明	窯	黒	黒1以下以下の 粘灰付	内：黒1、黒2、黒3、黒4 外：調整不明、黒1、黒2
625	125-03	土器類	倉	E33	古灰層	口縁	—	—	—	内：中ナガ・ヨコナガ	窯	黒	調整不明、黒1、黒2 の粘灰付	黒1、黒2
626	127-01	粘土土器 / 土器類	高軒	E33	古灰層	口縁	—	—	—	内：中ナガ・ヨコナガ	窯	黒	調整不明、黒1、黒2 の粘灰付	黒1、黒2
627	127-01	粘土土器 / 土器類	高軒	E33	古灰層	口縁	—	—	—	内：中ナガ・ヨコナガ	窯	黒	調整不明、黒1、黒2 の粘灰付	黒1、黒2
628	127-06	粘土土器 / 土器類	倉	E14	古灰層	口縁	—	—	—	内：調整不明 外：調整不明	窯	黒	調整不明、黒1、黒2 の粘灰付	黒1、黒2
629	127-04	土器類	倉	E14	古灰層	口縁	15.1	—	—	内：中ナガ・ヨコナガ	窯	黒	調整不明、黒1、黒2 の粘灰付	黒1、黒2
630	127-05	粘土土器 / 土器類	高軒	E14	古灰層	口縁	—	—	—	内：中ナガ	窯	黒	調整不明、黒1、黒2 の粘灰付	黒1、黒2
631	126-01	土器類	貯台	E14	古灰層	口縁 残存 底面	11.1	—	—	内：中ナガ・ヨコナガ 外：ヨコナガ・ナガ	窯	黒	調整不明、黒1、黒2 の粘灰付	黒1、黒2
632	131-03	粘土土器 / 土器類	倉	E15	古灰層	口縁	14.2	15.2	—	内：調整不明 外：調整不明、ハクメ	窯	黒	調整不明、黒1、黒2 の粘灰付	黒1、黒2
633	131-04	粘土土器 / 土器類	倉	E15	古灰層	底面	—	—	—	内：中ナガ・ナガ 外：ハクメ・ナガ・調整文・山形文・ 口縁文	窯	黒	調整不明、黒1、黒2 の粘灰付	黒1、黒2
634	131-03	粘土土器 / 土器類	中ナ短	E15	古灰層	底面	—	4.0	—	内：中ナガ 外：ナガ	窯	黒	調整不明、黒1、黒2 の粘灰付	黒1、黒2
635	131-03	粘土土器 / 土器類	高軒	E15	古灰層	口縁	—	11.0	—	内：中ナガ・ヨコナガ 外：ハクメ・ヨコナガ・ナガ・ナガ	窯	黒	調整不明、黒1、黒2 の粘灰付	黒1、黒2
636	130-06	粘土土器 / 土器類	付付置	E16	古灰層	口縁	—	6.4	—	内：ハクメ・ナガ 外：ハクメ・ナガ	窯	黒	調整不明、黒1、黒2 の粘灰付	黒1、黒2
637	130-05	土器類	高軒	E16	古灰層	底面	—	—	—	内：中ナガ	窯	黒	調整不明、黒1、黒2 の粘灰付	黒1、黒2
638	131-01	粘土土器 / 土器類	高軒	E16	古灰層	口縁	—	—	—	内：調整不明 外：調整不明	窯	黒	調整不明、黒1、黒2 の粘灰付	黒1、黒2
639	130-02	粘土土器 / 土器類	高軒	E16	古灰層	口縁	—	—	—	内：調整不明 外：調整不明	窯	黒	調整不明、黒1、黒2 の粘灰付	黒1、黒2
640	130-07	粘土土器 / 土器類	高軒	E16	古灰層	口縁	—	—	—	内：調整不明 外：調整不明	窯	黒	調整不明、黒1、黒2 の粘灰付	黒1、黒2
641	131-02	粘土土器 / 土器類	林	E16	古灰層	口縁	—	—	—	内：調整不明 外：調整不明	窯	黒	調整不明、黒1、黒2 の粘灰付	黒1、黒2
642	130-04	土器類	倉	E16	古灰層	口縁	—	4.8	—	内：ハクメ	窯	黒	調整不明、黒1、黒2 の粘灰付	黒1、黒2
643	126-02	粘土土器 / 土器類	倉	E17	古灰層	口縁	11.2	15.2	—	内：中ナガ・ヨコナガ 外：ハクメ・ヨコナガ	窯	黒	調整不明、黒1、黒2 の粘灰付	黒1、黒2
644	125-05	土器類	橋	E17	古灰層	口縁	—	—	—	内：中ナガ 外：中ナガ	窯	黒	調整不明、黒1、黒2 の粘灰付	黒1、黒2
645	125-01	土器類	橋	E17	古灰層	口縁	—	—	—	内：中ナガ 外：中ナガ	窯	黒	調整不明、黒1、黒2 の粘灰付	黒1、黒2
646	131-01	粘土土器 / 土器類	倉	E18	古灰層	口縁	—	—	—	内：調整不明 外：調整不明	窯	黒	調整不明、黒1、黒2 の粘灰付	黒1、黒2
647	129-04	粘土土器 / 土器類	倉	E18	古灰層	口縁	—	12.2	—	内：中ナガ・ヨコナガ 外：中ナガ・ヨコナガ・調整文・ハクメ・ミ ナガ	窯	黒	調整不明、黒1、黒2 の粘灰付	黒1、黒2
648	129-02	粘土土器 / 土器類	倉	E18	古灰層	口縁	—	15.1	—	内：中ナガ・ナガ 外：中ナガ・ナガ・ミナガ・ハクメ	窯	黒	調整不明、黒1、黒2 の粘灰付	黒1、黒2
649	132-06	粘土土器 / 土器類	倉	E18	古灰層	口縁	—	12.0	—	内：調整不明 外：調整不明	窯	黒	調整不明、黒1、黒2 の粘灰付	黒1、黒2
650	130-05	粘土土器 / 土器類	倉	E18	古灰層	底面	—	—	—	内：中ナガ・ハクメ 外：ミナガ	窯	黒	調整不明、黒1、黒2 の粘灰付	黒1、黒2
651	129-03	粘土土器 / 土器類	倉	E18	古灰層	口縁	—	18.4	—	内：調整不明 外：調整不明	窯	黒	調整不明、黒1、黒2 の粘灰付	黒1、黒2
652	132-05	粘土土器 / 土器類	倉	E18	古灰層	口縁	—	13.7	—	内：中ナガ 外：中ナガ・ハクメ	窯	黒	調整不明、黒1、黒2 の粘灰付	黒1、黒2
653	130-03	粘土土器 / 土器類	倉	E18	古灰層	口縁	—	13.8	—	内：中ナガ 外：中ナガ・ミナガ	窯	黒	調整不明、黒1、黒2 の粘灰付	黒1、黒2
654	132-04	粘土土器 / 土器類	倉	E18	古灰層	口縁	—	4.0	—	内：ハクメ・ナガ 外：ハクメ・ナガ	窯	黒	調整不明、黒1、黒2 の粘灰付	黒1、黒2
655	132-01	粘土土器 / 土器類	倉	E18	古灰層	底面	—	4.0	—	内：中ナガ・ミナガ 外：中ナガ・ミナガ・ナガ・調整	窯	黒	調整不明、黒1、黒2 の粘灰付	黒1、黒2
656	133-03	粘土土器 / 土器類	倉	E18	古灰層	底面	—	6.72	3.8	内：調整不明 外：調整不明	窯	黒	調整不明、黒1、黒2 の粘灰付	黒1、黒2
657	133-01	粘土土器 / 土器類	倉	E18	古灰層	底面	—	—	—	内：ハクメ・ヨコナガ 外：中ナガ・調整文・ハクメ・ナガ	窯	黒	調整不明、黒1、黒2 の粘灰付	黒1、黒2
658	134-01	粘土土器 / 土器類	倉	E18	古灰層	口縁	—	—	—	内：ハクメ・ヨコナガ 外：中ナガ・調整文・ハクメ・ナガ	窯	黒	調整不明、黒1、黒2 の粘灰付	黒1、黒2

第V-14表 中島遺跡遺物観察表12

報告番号	調査年度	種類	副種	地区	遺構種類	発掘時期	遺長 (cm)			技法・文様の特徴	出土品	構成	色調	特記事項
							口径	底径	高さ					
659	133-08	粘土土器 土器類	付付費	138	付付費	138	付付費	—	—	西・ハクメ+ナガフ、ヨコナガ 外・ヨコナガ+横線文+ナガフ	底(1.2mmの 粘板文)	—	12.51-黄緑1300/3	5字紋口縁
660	133-07	粘土土器 土器類	付付費	138	付付費	138	付付費	—	—	西・ハクメ+ヨコナガ 外・ヨコナガ+横線文+ナガフ+ハクメ	底(1.5mmの粘 板文)	—	黄緑1300/4	5字紋口縁
661	133-02	粘土土器 土器類	付付費	138	付付費	138	付付費	16.8	—	西・ハクメ+ナガフ、ヨコナガ 外・ヨコナガ+横線文+ナガフ+ハクメ	底(1.2, 0.6mmの粘 板文)	—	12.51-黄緑1300/3	5字紋口縁
662	133-01	粘土土器 土器類	付付費	138	付付費	138	付付費	22.8	—	西・ハクメ+ナガフ、ヨコナガ 外・ヨコナガ+横線文+ナガフ+ハクメ	底(1.4mmの粘 板文)	—	12.51-黄緑1300/4	5字紋口縁
663	132-01	粘土土器 土器類	付付費	138	付付費	138	付付費	—	7.0	西・ハクメ+ナガフ、ヨコナガ 外・ハクメ+ナガフ	底(1.5mmの粘 板文)	—	12.51-黄緑1300/4	外面黒色付着
664	132-04	粘土土器 土器類	付付費	138	付付費	138	付付費	—	6.8	西・ハクメ+ナガフ、ヨコナガ 外・ハクメ+ナガフ	底(1.4mmの粘 板文)	—	灰白917/1	外面黒色付着
665	132-04	粘土土器 土器類	付付費	138	付付費	138	付付費	—	6.8	西・ナガフ、ハクメ+ナガフ 外・ハクメ+ナガフ	底(1.4mmの粘 板文)	—	黄緑1300/4	外面黒色付着
666	132-06	粘土土器 土器類	付付費	138	付付費	138	付付費	—	9.8	西・ハクメ+ナガフ 外・ハクメ+ナガフ+ナガフ	底(1.4, 1.0mmの粘 板文)	—	12.51-黄緑1300/3	外面黒色付着 外面黒色付着
667	131-05	粘土土器 土器類	付付費	138	付付費	138	付付費	—	6.8	西・ナガフ、ハクメ+ナガフ、ヨコナガ 外・ハクメ+ナガフ	底(1.5mmの粘 板文)	—	12.51-黄緑1300/4	—
668	135-01	粘土土器 土器類	付付費	138	付付費	138	付付費	—	2.1	西・ハクメ+ナガフ 外・ハクメ+ナガフ	小中底(1.2mm の粘板文)	—	黄緑1300/4	—
669	132-02	粘土土器 土器類	付付費	138	付付費	138	付付費	—	10.8	西・ハクメ+ナガフ、ヨコナガ 外・ハクメ+ナガフ	底(1.2mmの粘 板文)	—	12.51-黄緑1300/3	—
670	135-02	粘土土器 土器類	付付費	138	付付費	138	付付費	—	5.2	西・ナガフ、ハクメ 外・ハクメ+ナガフ	小中底(1.2mm の粘板文)	—	12.51-黄緑1300/4	5字紋口縁
671	135-06	粘土土器 土器類	高杯	138	付付費	138	付付費	—	—	内・黄緑+ナガフ+ハクメ 外・黄緑+ナガフ+横線文	今中底	—	黄緑1300/4	通孔3個
672	130-03	粘土土器 土器類	高杯	138	付付費	138	付付費	—	—	内・黄緑+ナガフ+ハクメ 外・黄緑+ナガフ+横線文	底(1mm以下の 粘板文)	—	12.51-黄緑1300/3	通孔3個
673	129-01	粘土土器 土器類	高杯	138	付付費	138	付付費	—	—	内・ナガフ、ハクメ 外・ナガフ、ハクメ	底(1mm以下の粘 板文)	—	12.51-黄緑1300/4	通孔3個
674	129-06	粘土土器 土器類	高杯	138	付付費	138	付付費	—	—	内・ナガフ、ハクメ 外・ナガフ、ハクメ	底(1mm以下の粘 板文)	—	黄緑1300/4	通孔2個
675	130-01	粘土土器 土器類	高杯	138	付付費	138	付付費	—	—	内・ナガフ、ハクメ 外・ナガフ、ハクメ	底(1.5mm以下の粘 板文)	—	12.51-黄緑1300/4	通孔3個
676	136-02	粘土土器 土器類	高杯	138	付付費	138	付付費	—	—	内・ナガフ、ハクメ 外・ナガフ、ハクメ	底(1.5mm以下の粘 板文)	—	黄緑1300/4	通孔3個
677	136-01	粘土土器 土器類	高杯	138	付付費	138	付付費	—	—	内・ナガフ、ハクメ 外・ナガフ、ハクメ	小中底(1.2mm の粘板文)	—	黄緑1300/8	通孔3個
678	134-02	粘土土器 土器類	高杯	138	付付費	138	付付費	—	—	内・ナガフ、ハクメ 外・ナガフ、ハクメ	底(1.2, 0.5mmの粘 板文)	—	黄緑1300/6	通孔3個
679	134-01	粘土土器 土器類	高杯	138	付付費	138	付付費	—	—	内・ナガフ、ハクメ 外・ナガフ、ハクメ	底(1.5mm以下の粘 板文)	—	12.51-黄緑1300/3	通孔3個
680	136-01	粘土土器 土器類	高杯	138	付付費	138	付付費	—	—	内・ナガフ、ハクメ 外・ナガフ、ハクメ	底(1.5mm以下の粘 板文)	—	黄緑1300/6	—
681	135-01	粘土土器 土器類	高杯	138	付付費	138	付付費	—	—	内・ナガフ、ハクメ 外・ナガフ、ハクメ	小中底(1.5mmの粘 板文)	—	内・黄緑1300/4; 赤100 5/5	通孔3個
682	129-01	粘土土器 土器類	高杯	138	付付費	138	付付費	—	—	内・ナガフ、ハクメ 外・ナガフ、ハクメ	底(1mm以下の粘 板文)	—	黄緑1300/6	通孔4個
683	135-03	粘土土器 土器類	高杯	138	付付費	138	付付費	—	15.8	内・ナガフ、ハクメ 外・ナガフ、ハクメ	底(1.5mm以下の粘 板文)	—	12.51-黄緑1300/4	—
684	132-02	粘土土器 土器類	高杯	138	付付費	138	付付費	—	—	内・ナガフ、ハクメ 外・ナガフ、ハクメ	底(1.5mmの粘 板文)	—	黄緑1300/6	—
686	136-02	粘土土器 土器類	蓋	139	付付費	139	付付費	—	—	内・黄緑+ナガフ 外・黄緑+ナガフ	底(1.7mmの粘 板文)	—	内・黄緑1300/6; 赤12 51/51	12.51-黄緑1300/3
687	139-01	粘土土器 土器類	蓋	139	付付費	139	付付費	—	—	内・ナガフ、ハクメ 外・ナガフ、ハクメ	底(1.5mmの粘 板文)	—	黄緑1300/8	—
688	137-01	粘土土器 土器類	蓋	139	付付費	139	付付費	—	15.8	内・ナガフ、ハクメ 外・ナガフ、ハクメ	小中底(1.5mmの粘 板文)	—	黄緑1300/6	—
689	136-06	粘土土器 土器類	蓋	139	付付費	139	付付費	—	4.4	内・ナガフ、ハクメ 外・ナガフ、ハクメ	小中底(1.5mmの粘 板文)	—	内・黄緑1300/4	—
690	138-01	粘土土器 土器類	蓋	139	付付費	139	付付費	—	10.0	内・黄緑+ナガフ 外・黄緑+ナガフ	小中底(1.5mmの粘 板文)	—	内・黄緑1300/4; 赤100 5/5	—
691	137-04	粘土土器 土器類	小中底	139	付付費	139	付付費	—	3.3	内・ナガフ、ハクメ 外・ナガフ、ハクメ	小中底(1.5mmの粘 板文)	—	黄緑1300/6	外面黒色
692	139-01	粘土土器 土器類	蓋	139	付付費	139	付付費	—	12.0	内・ナガフ、ハクメ 外・ナガフ、ハクメ	底(1.4mmの粘 板文)	—	黄緑1300/6	—
693	137-05	粘土土器 土器類	小中底	139	付付費	139	付付費	—	2.9	内・ナガフ、ハクメ 外・ナガフ、ハクメ	今中底	—	黄緑1300/4	外面黒色付着
694	138-06	粘土土器 土器類	付付費	139	付付費	139	付付費	—	6.0	内・ナガフ、ハクメ 外・ナガフ、ハクメ	小中底(1.6mmの粘 板文)	—	内・黄緑1300/4; 赤100 5/5	12.51-黄緑1300/4
695	138-05	粘土土器 土器類	付付費	139	付付費	139	付付費	—	8.4	内・黄緑+ナガフ 外・ナガフ、ハクメ	底(1.5mmの粘 板文)	—	12.51-黄緑1300/4	外面黒色付着
696	132-01	粘土土器 土器類	高杯	139	付付費	139	付付費	—	20.0	内・ナガフ、ハクメ 外・ナガフ、ハクメ	底(1.5mmの粘 板文)	—	黄緑1300/6	—
697	138-06	粘土土器 土器類	高杯	139	付付費	139	付付費	—	—	内・ナガフ、ハクメ 外・ナガフ、ハクメ	底(1.4mmの粘 板文)	—	12.51-黄緑1300/4	—
698	138-01	粘土土器 土器類	高杯	139	付付費	139	付付費	—	—	内・ハクメ 外・黄緑+ナガフ+ハクメ	底	—	黄緑1300/6	通孔3個
699	138-03	粘土土器 土器類	高杯	139	付付費	139	付付費	—	11.2	内・ナガフ、ハクメ 外・ナガフ、ハクメ	底(1.4mmの粘 板文)	—	12.51-黄緑1300/4	通孔1個
700	132-02	粘土土器 土器類	高杯	139	付付費	139	付付費	—	—	内・ナガフ、ハクメ 外・ナガフ、ハクメ	底(1.4mmの粘 板文)	—	黄緑1300/4	通孔3個
701	139-07	粘土土器 土器類	蓋	120	付付費	120	付付費	—	5.0	内・ナガフ、ハクメ 外・ナガフ、ハクメ	底(1.4mmの粘 板文)	—	灰黒2.596/2	—
702	138-03	陶器	山形鉢	120	付付費	120	付付費	—	2.3	内・ナガフ、ハクメ 外・ナガフ、ハクメ	底	—	灰白2.527/1	外面黒色
704	138-02	土器類	高杯	121	付付費	121	付付費	—	—	内・黄緑+ナガフ 外・黄緑+ナガフ	底(1.4mmの粘 板文)	—	黄緑1300/8	—
705	138-05	粘土土器 土器類	高杯	121	付付費	121	付付費	—	—	内・黄緑+ナガフ 外・黄緑+ナガフ	底	—	黄緑1300/8	通孔3個
706	098-02	粘土土器 土器類	付付費	編織 高杯	120	付付費	120	—	8.8	内・ナガフ、ハクメ 外・ナガフ、ハクメ	底(1mm以下の粘 板文)	—	赤黒2.330/1(12.51) 黄緑1300/4	—
707	095-07	粘土土器 土器類	付付費	編織 高杯	120	付付費	120	—	17.1	内・ナガフ、ハクメ 外・ナガフ、ハクメ	底(1.5mm以下の粘 板文)	—	黄緑1300/6	—
708	140-02	粘土土器 土器類	蓋	12	30501	付付費	12	—	4.5	内・黄緑+ナガフ 外・黄緑+ナガフ	底(1.2mmの粘 板文)	—	黄緑1300/8	—
709	140-01	粘土土器 土器類	蓋	12	30501	付付費	12	—	17.6	内・ナガフ 外・ナガフ、ハクメ	底(1.2, 1.0mmの粘 板文)	—	黄緑1300/8	—
710	140-03	粘土土器 土器類	付付費	12	30501	付付費	12	—	2.8	内・ナガフ 外・ナガフ、ハクメ	底(1.2mmの粘 板文)	—	12.51-黄緑1300/4	—
711	140-07	粘土土器 土器類	蓋	12	38302	付付費	12	—	12.8	内・ナガフ 外・ナガフ、ハクメ	底(1.2, 1.0mmの粘 板文)	—	12.51-黄緑1300/4	—
712	140-06	粘土土器 土器類	蓋	12	38302	付付費	12	—	—	内・ハクメ+ナガフ、ヨコナガ 外・ハクメ+ナガフ	底(1.2mmの粘 板文)	—	黄緑1300/4	—
713	141-01	土器類	蓋	12	38302	付付費	12	—	12.0	内・黄緑+ナガフ 外・黄緑+ナガフ	底(1.2mmの粘 板文)	—	内・黄緑1300/4; 赤100 5/5	12.51-黄緑1300/3
714	142-02	粘土土器 土器類	蓋	12	38302	付付費	12	—	—	内・ナガフ、ハクメ 外・ナガフ、ハクメ	底(1.2mmの粘 板文)	—	12.51-黄緑1300/3	—
715	143-01	粘土土器 土器類	蓋	12	38302	付付費	12	—	—	内・黄緑+ナガフ 外・黄緑+ナガフ	底(1.2mmの粘 板文)	—	黄緑1300/8	—
716	141-06	粘土土器 土器類	蓋	12	38302	付付費	12	—	16.8	内・黄緑+ナガフ 外・黄緑+ナガフ	底(1.2, 1.0mmの粘 板文)	—	12.51-黄緑1300/2	—

第V-15表 中島遺跡遺物観察表13

報告番号	調査年度	種別	副種別	地区	遺構種類	発見時期	遺長 (cm)			技法・文様の特徴	出土時期	構成	色調	特記事項
							口径	底径	高さ					
717	149-05	弥生土器之上部器	甕	72	30302	3012	19.8	—	—	内・外ノリ	弥生1~2期の弥生古瓦(1)	—	12.54-黄緑10007/4	—
718	141-07	弥生土器之上部器	甕	72	30302	3014	—	—	—	内・外ノリ	弥生1~2期の弥生古瓦(1)	—	12.54-黄緑10007/4	—
719	141-07	弥生土器之上部器	付付器	72	30302	3015	—	9.0	—	内・外ノリ	弥生1~2期の弥生古瓦(1)	—	12.54-黄緑10007/3	付付器内面打痕
720	141-07	弥生土器之上部器	付付器	72	30302	3016	—	9.0	—	内・外ノリ	弥生1~2期の弥生古瓦(1)	—	12.54-黄緑10007/3	付付器内面打痕
721	141-01	弥生土器之上部器	付付器	72	30302	3017	—	6.0	—	内・外ノリ	弥生1~2期の弥生古瓦(1)	—	12.54-黄緑10007/3	—
722	141-05	弥生土器之上部器	高杯	72	30302	3018	—	—	—	内・外ノリ	弥生1~2期の弥生古瓦(1)	—	12.54-黄緑10007/3	—
723	142-03	弥生土器之上部器	高杯	72	30302	3019	—	—	—	内・外ノリ	弥生1~2期の弥生古瓦(1)	—	12.54-黄緑10007/3	—
724	142-06	弥生土器之上部器	甕	72-3	30303	3020	—	—	—	内・外ノリ	弥生1~2期の弥生古瓦(1)	—	12.54-黄緑10007/3	—
725	144-02	弥生土器之上部器	甕	73	30303	3021	19.8	—	—	内・外ノリ	弥生1~2期の弥生古瓦(1)	—	12.54-黄緑10007/3	—
726	143-01	弥生土器之上部器	甕	72-3	30303	3022	—	5.0	—	内・外ノリ	弥生1~2期の弥生古瓦(1)	—	12.54-黄緑10007/2	—
727	142-07	弥生土器之上部器	甕	72-3	30303	3023	—	4.5	—	内・外ノリ	弥生1~2期の弥生古瓦(1)	—	12.54-黄緑10007/2	—
728	142-04	弥生土器之上部器	甕	72-3	30303	3024	16.9	—	—	内・外ノリ	弥生1~2期の弥生古瓦(1)	—	12.54-黄緑10007/4	—
729	142-02	弥生土器之上部器	付付器	72-3	30303	3025	—	5.9	—	内・外ノリ	弥生1~2期の弥生古瓦(1)	—	12.54-黄緑10007/4	内面打痕
730	142-04	弥生土器之上部器	甕	73	30303	3026	—	—	—	内・外ノリ	弥生1~2期の弥生古瓦(1)	—	12.54-黄緑10007/4	—
731	143-05	弥生土器之上部器	高杯	72-3	30303	3027	—	—	—	内・外ノリ	弥生1~2期の弥生古瓦(1)	—	12.54-黄緑10007/4	—
732	143-06	弥生土器之上部器	高杯	73	30303	3028	—	13.4	—	内・外ノリ	弥生1~2期の弥生古瓦(1)	—	12.54-黄緑10007/4	—
733	143-03	弥生土器之上部器	高杯	73	30303	3029	—	—	—	内・外ノリ	弥生1~2期の弥生古瓦(1)	—	12.54-黄緑10007/4	—
734	142-05	弥生土器之上部器	付付器	72-3	30303	3030	—	—	—	内・外ノリ	弥生1~2期の弥生古瓦(1)	—	12.54-黄緑10007/4	—
735	144-01	弥生土器之上部器	甕	73	30304	3031	12.8	—	—	内・外ノリ	弥生1~2期の弥生古瓦(1)	—	12.54-黄緑10007/4	—
736	143-03	弥生土器之上部器	甕	73	30304	3032	—	—	—	内・外ノリ	弥生1~2期の弥生古瓦(1)	—	12.54-黄緑10007/4	—
737	143-01	弥生土器之上部器	甕	73	30304	3033	—	5.0	—	内・外ノリ	弥生1~2期の弥生古瓦(1)	—	12.54-黄緑10007/4	—
738	146-07	弥生土器之上部器	甕	73	30304	3034	—	4.4	—	内・外ノリ	弥生1~2期の弥生古瓦(1)	—	12.54-黄緑10007/4	—
739	144-03	弥生土器之上部器	土器片	73	30304	3035	—	4.0	—	内・外ノリ	弥生1~2期の弥生古瓦(1)	—	12.54-黄緑10007/4	—
740	143-02	弥生土器之上部器	甕	73	30304	3036	16.8	—	—	内・外ノリ	弥生1~2期の弥生古瓦(1)	—	12.54-黄緑10007/4	—
741	142-01	弥生土器之上部器	甕	73	30304	3037	18.9	—	—	内・外ノリ	弥生1~2期の弥生古瓦(1)	—	12.54-黄緑10007/4	—
742	144-04	弥生土器之上部器	付付器	73	30304	3038	—	2.2	—	内・外ノリ	弥生1~2期の弥生古瓦(1)	—	12.54-黄緑10007/4	—
743	144-05	弥生土器之上部器	付付器	73	30304	3039	—	—	—	内・外ノリ	弥生1~2期の弥生古瓦(1)	—	12.54-黄緑10007/4	—
744	144-06	弥生土器之上部器	付付器	73	30304	3040	—	—	—	内・外ノリ	弥生1~2期の弥生古瓦(1)	—	12.54-黄緑10007/4	—
745	143-07	弥生土器之上部器	付付器	73	30304	3041	—	2.8	—	内・外ノリ	弥生1~2期の弥生古瓦(1)	—	12.54-黄緑10007/4	—
746	145-07	弥生土器之上部器	高杯	73	30304	3042	—	—	—	内・外ノリ	弥生1~2期の弥生古瓦(1)	—	12.54-黄緑10007/4	—
747	145-04	弥生土器之上部器	高杯	73	30304	3043	—	—	—	内・外ノリ	弥生1~2期の弥生古瓦(1)	—	12.54-黄緑10007/4	—
748	145-05	弥生土器之上部器	高杯	73	30304	3044	—	—	—	内・外ノリ	弥生1~2期の弥生古瓦(1)	—	12.54-黄緑10007/4	—
749	143-05	弥生土器之上部器	高杯	73	30304	3045	—	—	—	内・外ノリ	弥生1~2期の弥生古瓦(1)	—	12.54-黄緑10007/4	—
750	147-02	弥生土器之上部器	甕	74	30305	3046	—	—	—	内・外ノリ	弥生1~2期の弥生古瓦(1)	—	12.54-黄緑10007/4	—
751	142-03	弥生土器之上部器	高杯	74	30305	3047	—	—	—	内・外ノリ	弥生1~2期の弥生古瓦(1)	—	12.54-黄緑10007/4	—
752	146-01	弥生土器之上部器	甕	73	7113	3112	—	7.0	—	内・外ノリ	弥生1~2期の弥生古瓦(1)	—	12.54-黄緑10007/3	—
753	146-02	弥生土器之上部器	付付器	72	30305	3113	—	8.8	—	内・外ノリ	弥生1~2期の弥生古瓦(1)	—	12.54-黄緑10007/3	—
754	146-03	弥生土器之上部器	高杯	72	30305	3114	—	—	—	内・外ノリ	弥生1~2期の弥生古瓦(1)	—	12.54-黄緑10007/3	—
755	146-04	弥生土器之上部器	甕	73	30305	3115	—	4.0	—	内・外ノリ	弥生1~2期の弥生古瓦(1)	—	12.54-黄緑10007/3	—
756	146-05	弥生土器之上部器	高杯	73	30305	3116	—	—	—	内・外ノリ	弥生1~2期の弥生古瓦(1)	—	12.54-黄緑10007/3	—
757	146-06	弥生土器之上部器	高杯	73	30305	3117	—	—	—	内・外ノリ	弥生1~2期の弥生古瓦(1)	—	12.54-黄緑10007/3	—
758	146-08	弥生土器之上部器	高杯	73	30305	3118	—	—	—	内・外ノリ	弥生1~2期の弥生古瓦(1)	—	12.54-黄緑10007/3	—
759	148-01	弥生土器之上部器	高杯	77	30306	3119	—	—	—	内・外ノリ	弥生1~2期の弥生古瓦(1)	—	12.54-黄緑10007/3	—
760	148-01	瓦	片	65	30401	—	—	—	—	内・外ノリ	弥生1~2期の弥生古瓦(1)	—	12.54-黄緑10007/3	—
761	147-04	土器類	甕	618	30405	3120	16.8	—	—	内・外ノリ	弥生1~2期の弥生古瓦(1)	—	12.54-黄緑10007/4	—
762	149-02	土器類	高杯	618	30405	3121	23.8	—	—	内・外ノリ	弥生1~2期の弥生古瓦(1)	—	12.54-黄緑10007/4	—
763	147-06	土器類	甕	618	30405	3122	—	—	—	内・外ノリ	弥生1~2期の弥生古瓦(1)	—	12.54-黄緑10007/4	—
764	147-05	土器類	高杯	618	30405	3123	—	—	—	内・外ノリ	弥生1~2期の弥生古瓦(1)	—	12.54-黄緑10007/4	—
765	147-03	土器類	高杯	618	30405	3124	—	—	—	内・外ノリ	弥生1~2期の弥生古瓦(1)	—	12.54-黄緑10007/4	—
766	149-01	弥生土器之上部器	高杯	625	30406	3125	20.0	—	—	内・外ノリ	弥生1~2期の弥生古瓦(1)	—	12.54-黄緑10007/4	—
767	149-03	土器類	高杯	625	30406	3126	—	—	—	内・外ノリ	弥生1~2期の弥生古瓦(1)	—	12.54-黄緑10007/4	—
768	153-05	土器類	高杯	623	7113	3127	13.6	—	—	内・外ノリ	弥生1~2期の弥生古瓦(1)	—	12.54-黄緑10007/3	—
769	153-06	土器類	甕	66	30406	3128	—	6.7	—	内・外ノリ	弥生1~2期の弥生古瓦(1)	—	12.54-黄緑10007/3	—
768	153-03	土器類	甕	67	30406	3129	13.0	—	—	内・外ノリ	弥生1~2期の弥生古瓦(1)	—	12.54-黄緑10007/3	—
769	153-04	土器類	甕	68	30406	3130	—	—	—	内・外ノリ	弥生1~2期の弥生古瓦(1)	—	12.54-黄緑10007/3	—
770	153-02	弥生土器之上部器	甕	611	30406	3131	—	5.9	—	内・外ノリ	弥生1~2期の弥生古瓦(1)	—	12.54-黄緑10007/3	—
771	153-01	弥生土器之上部器	高杯	615	30406	3132	—	—	—	内・外ノリ	弥生1~2期の弥生古瓦(1)	—	12.54-黄緑10007/3	—
772	152-04	土器類	高杯	617	30407	3133	23.2	—	—	内・外ノリ	弥生1~2期の弥生古瓦(1)	—	12.54-黄緑10007/3	—
773	152-03	土器類	高杯	629	30408	3134	—	6.7	—	内・外ノリ	弥生1~2期の弥生古瓦(1)	—	12.54-黄緑10007/3	—
774	152-05	土器類	甕	633	30409	3135	—	—	—	内・外ノリ	弥生1~2期の弥生古瓦(1)	—	12.54-黄緑10007/3	—

第V-16表 中島遺跡遺物観察表14

報告番号	発掘番号	種類	部材	地区	遺構・層位	製作 時期	寸法 (cm)			技法・文様の特徴 説明	出土 層位	構成	色調	特記事項
							口径	直径	高さ					
775	152-98	陶器	西鉄	H1	台状罐	口縁 11.2	13.6	—	—	内：黒磁・ロクロナデ・ロコナデ 外：ロコナデ・ロコナデ	高 (1.0m以下の 砂状含む)	黒	灰黒D14.2・緑D16.6	
776	151-01	灰土器	豊	H6	台状罐	口縁 11.2	21.8	—	—	内：ロクロナデ・黒磁 外：ロクロナデ・黒磁	高 (1.0m以下の 砂状含む)	黒	内：灰黒D14.2・緑D16.6 外：灰黒D14.2	
777	151-02	瓦輪陶器	陶	H6	台状罐	口縁 11.2	—	2.0	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ・高台部見り付けロコ ナデ・赤灰磁	高	黒	灰D12.0・D17.1	
778	151-03	瓦輪陶器	陶	H6	台状罐	口縁 11.2	—	2.0	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ・高台部見り付けロコ ナデ・赤灰磁	高	黒	黒D7	遺書あり
779	152-02	瓦	平瓦	H6	台状罐	—	—	—	—	内：ナデ 外：黒目	高	黒	江D14.0・D16.0/4	
780	151-04	土器	シロム ア上層 北	H9	台状罐	—	—	—	—	内：ナデ 外：ナデ・ナデ	高 (1.0m以下の 砂状含む)	—	緑D16.6	把手部欠
781	152-01	陶器	陶	H12	台状罐	口縁 11.2	—	2.0	—	内：ロクロナデ・赤磁 外：ロクロナデ・黒目・高台・赤磁	高 (1.0m以下の 砂状含む)	—	灰D12.0・D16.2 (黒) 陶 D14.4	
782	151-07	土製品	土師	H12	台状罐	口縁 11.2	6.18	1.1	0.4	内：調整不明 外：調整不明	高	—	黒D16.6・D16.6	重さ4.55g
783	151-05	土師器	豊	H11	台状罐	口縁 11.2	17.7	—	—	内：調整不明 外：調整不明	高 (1.0m以下の 砂状含む)	—	緑D16.6	
784	151-06	土師器	豊	H11	台状罐	口縁 11.2	17.7	—	—	内：調整不明 外：調整不明	高 (1.0m以下の 砂状含む)	—	緑D16.6	透孔2個
785	150-02	陶器	東土師 西土師	H16	台状罐	口縁 11.2	—	3.0	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ・ロクロナデ・削り 上げ	高 (1.0m以下の 砂状含む)	—	黒D16.6	
786	150-01	陶器	林	H16	台状罐	口縁 11.2	—	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ	高 (1.0m以下の 砂状含む)	—	灰黒D16.6 (黒) 灰 黒D14.2	使用痕跡
787	150-03	土師器	高砂	H17	台状罐	口縁 11.2	23.0	—	—	内：調整不明 外：調整不明	高 (1.0m以下の 砂状含む)	—	江D14.0・D17.0/D7.6	
788	150-04	陶器	山系陶	H18	台状罐	口縁 11.2	—	5.4	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ・高台部見り付けロコ ナデ・赤灰磁	高 (1.0m以下の 砂状含む)	—	江D12.0・D14.1	自然蝕
789	150-06	瓦輪陶器	陶	H26	台状罐	口縁 11.2	—	2.0	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ・高台部見り付けロコ ナデ	高 (1.0m以下の 砂状含む)	—	灰D17.1	内面研磨
790	150-05	白磁	陶	H18	台状罐	口縁 11.2	—	—	—	内：ロクロナデ・黒磁 外：ロクロナデ・黒磁	高 (調整済み含む)	—	灰D17.1	
791	800-01	土師器	高砂	高砂 北土師	PI1	調整 済み	—	—	—	内：ナデ 外：ナデ・ナデ	高 (1.0m以下の 砂状含む)	—	緑D16.6	透孔2個
792	150-07	陶器	山系陶	赤部	調整 済み	—	—	—	—	内：ロクロナデ 外：ロクロナデ・高台部見り付けロコ ナデ・赤灰磁	高 (1.0m以下の 砂状含む)	—	灰黒D12.0・D17.2	

第V-17表 中島遺跡遺物観察表15

報告番号	発掘番号	部材	地区	遺構・層位	寸法 (cm)			重量 (g)	特記事項
					長さ	幅	厚さ		
44	011-02	礎石	B-3	PI1	6.7	6.2	6.3	43	使用痕跡
45	011-03	礎石	B-3	PI1-3	6.3	6.1	2.0×2.4	11	使用痕跡
72	020-05	礎石	B-2	台状礎	6.6	6.1	4.7	348	使用痕跡
250	047-02	礎石	C-3	SZ205	6.0	6.1	6.9	66	
262	053-02	礎石	C-2	台状礎	6.5	5.1	4.1	23.03	使用痕跡
324	053-03	礎石	D10	S-K123	6.4	5.7	3.4	19	使用痕跡
338	059-01	礎石	D16	S1030	3.7	3.7以上	1.1	21	使用痕跡
380	120-06	スラベーパー	E-18	平礎	2.4	2.4	0.7	6.04	
480	131-01	礎石	E-18	S-D410	6.0	5.2	3.1	17	
260	129-03	石礎	E-20	台状礎	16.1	11.4	4.7	6218	

第V-18表 中島遺跡遺石製品観察表

報告番号	発掘番号	部材	地区	遺構・層位	計測値 (cm)			幅値	木動り	特記事項 (加工法、層平等) 備考欄
					長さ/厚	幅/高	厚			
226	001-01	木簡	C-7	SZ205	30.4	6.4	3.2	分竹	横計	
229	001-02	不明加工品	C-7	SZ205	4.4	2.1	2.2	シナキ	縦計	部分欠

第V-19表 中島遺跡遺木製品観察表

## 第VI章 双ツ塚遺跡（第3次）

### 第1節 調査の概要

双ツ塚遺跡は、中島遺跡と中沢川遺跡の間に位置する。遺跡のほぼ中央南半部を縦断する幅3m×延長80mがa区、遺跡東部北半部を縦断する幅1.8m×延長26.7mがb区となる。a区北端から約78m北にいくと中島遺跡G区南端となる。b区北端は、中島遺跡H区西端から約150mで接する。昭和52・53年度に実施した双ツ塚（第1・2次）調査区は、a区の北西側に位置しており<sup>10</sup>、昭和50年代の調査区東端と今回のa区西端は約30m離れている。今回の調査に伴う範囲確認調査では、第1・2次調査区の東側は、本発掘調査の対象とはならなかった。おそ

らく、微高地であるがために後世の開発行為で削平された可能性が高いとみられる。

基本層序は、a区北半が造成土直下、標高約4.8mで地山となる。a区中央付近から南は地山が徐々に下がり、南端の地山は約3.8mである。南へいくに従い、造成土の下に褐色粘土、黒褐色粘土が厚く堆積する。b区は南端で表土下にぶい黄褐色土、黄褐色極細砂となるが、概ね表土直下、標高約4mで地山となる。a・b区ともに地山上面で検出を行っている。（原田）

### 第2節 遺構

**SD1** a6で検出した幅0.65m、深さ32cmの溝である。向きは、N42°Wである。遺物は土師器小片が出土したのみである。

**SD2** a7で検出した幅0.91m、深さ11cmの溝である。向きは、N90°である。遺物は土師器、須恵器小片が出土した。

**SD3** a7で検出し、SD2から約2m北に位置する。幅は東で1.12mあるが、西側は0.4mと狭くなる。深さは8cmと浅い。土師器甕、須恵器杯蓋等が出土した。

**SK4** a9で検出した南北1.3m×東西1.28mの土坑である。遺構層からの深さは1.31mで平面規模に比べて深い。底は地山となる粘土層で留まっており、湧水は認められなかった。SK5より古い。遺構内からほぼ方形の土器が大量に出土した。当初、土坑を四分割にして南西から反時計回りに①～④を掘り、小片は取り上げた。完形に近い物は番号を掘り、取り上げた。しかし、遺物量が多く、標高約3.8m以下は下層として付番せずに取り上げを行っている。上層は埋土の記録を取っているが、下層は土

器が多く、埋土の堆積状況の記録は取れなかった。

**SK5** a9で検出した南北0.74m×東西0.56m、楕円形の土坑である。SK4より新しい。土師器、須恵器、布目の平瓦片が出土した。

**SK6** a9で検出した南北0.58m×東西0.57m、不整形の土坑である。土師器片が出土した。

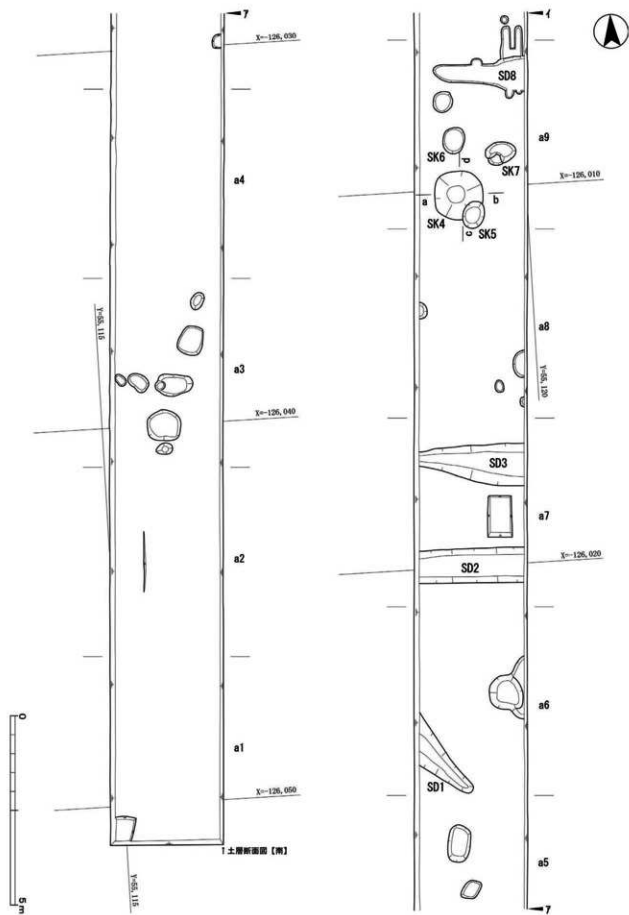
**SK7** a9で検出した南北0.55m×東西0.8mの不整形をした土坑である。遺物は、土師器小片が出土したのみである。

**SD8** a9で検出した幅0.58m、深さ4cmの浅い溝である。向きは、ほぼN90°である。遺物は須恵器片が出土した。

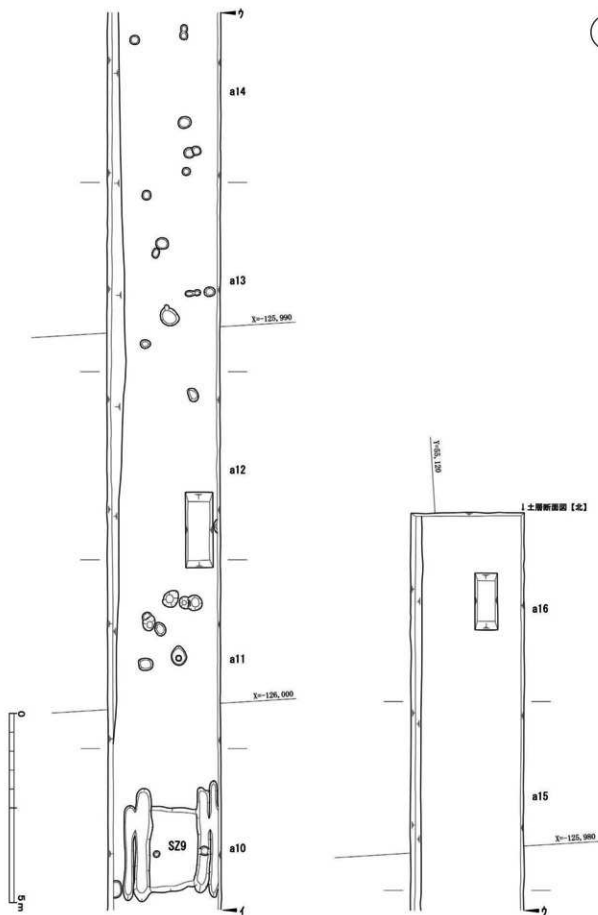
**SZ9** a10で検出した。SZ9の底は、両端に接している溝状の遺構と同様の方向で凹凸がみられた。両端に接している溝も含め、耕作溝となる可能性が高い。土師器、灰軸陶器、山茶碗片が出土した。

b区は、b1で幅約2m、深さ25cmの溝を1条、検出した。向きは、ほぼN90°である。遺物は出土せず、時期は不明である。（原田）

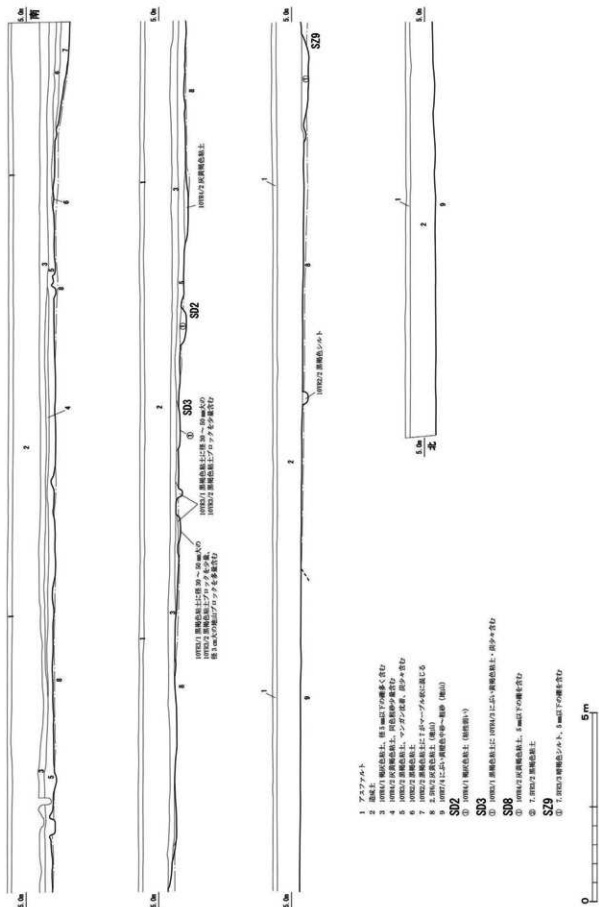




第VI-1図 双ツ塚遺跡(第3次) a区平面図1 (1:100)



第VI-2図 双ツ塚遺跡(第3次) a区平面図2 (1:100)



第VI-3図 双ツ塚遺跡(第3次) a 区土層断面図(1:100)

### 第3節 遺物

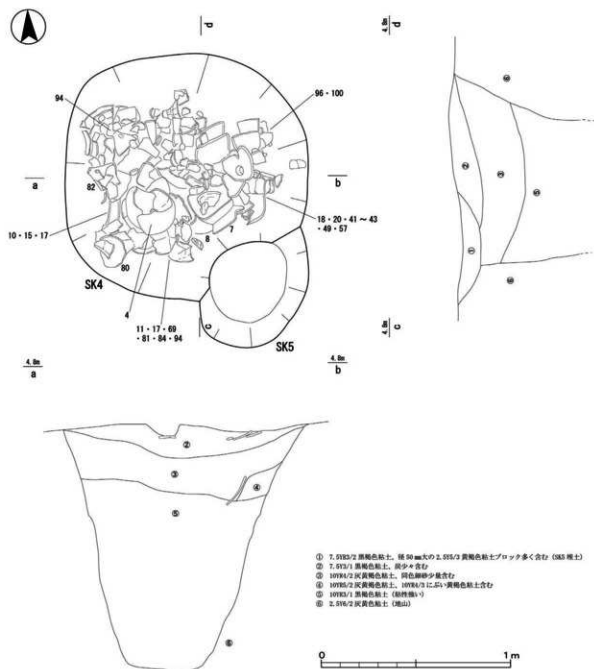
報告書掲載遺物は全て a 区の出土遺物であり、b 区の出土遺物は確認できなかった。ここでは概要を記し、詳細は遺構観察表を参照されたい<sup>19)</sup>。

#### SD3 出土遺物 (1・2)

1 は須恵器杯蓋で、TK209 型式併行とみられる。  
2 は土師器甕である。器面は摩耗しており、調整等不明である。

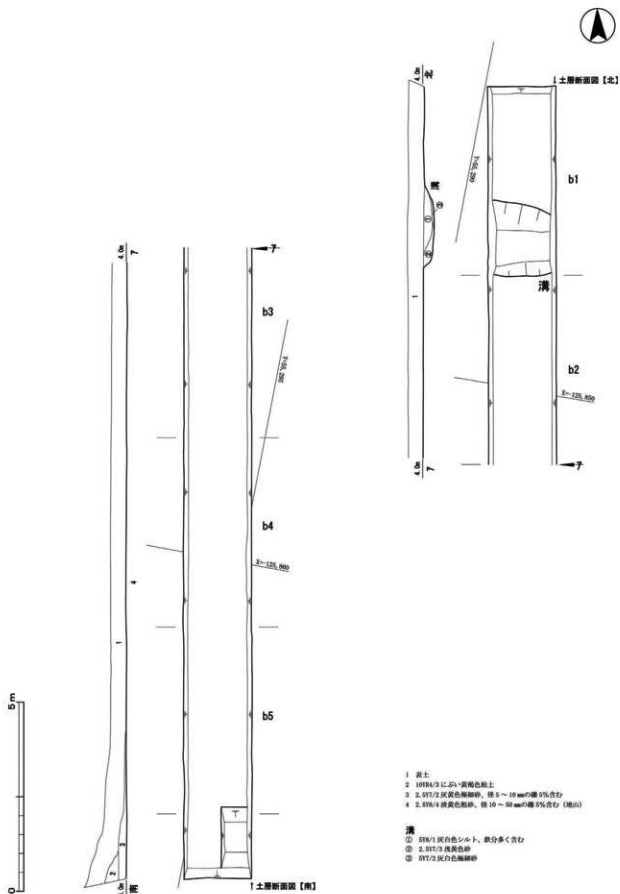
#### SK4 出土遺物 (3~103)

破片で出土したのもも一定量含むが、古式土師器で完形のものも多く出土した。器種も壺・甕・高杯・鉢・器台等多彩である。以下、器種ごとに記載する。壺 (3~35) について以下に述べる。3~26 が大形の壺である。口縁端部を丸く収め、口頸部が直線の逆ハの字状に開くもの (7・8・19)、外反する

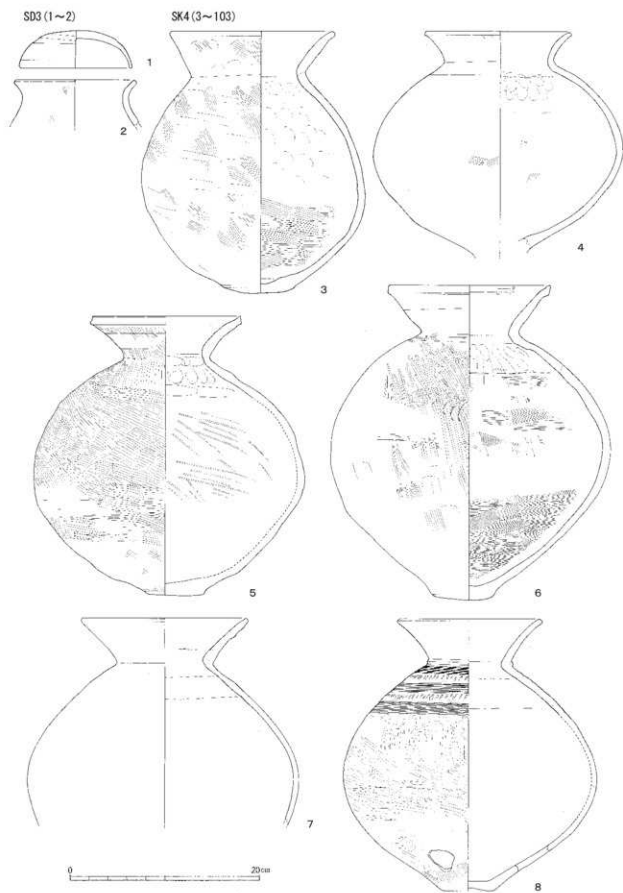


- ① 7.513/2 黄褐色粘土、径 50 mm の 2.65/3 黄褐色粘土ブロック多く含む (SK5 層土)
- ② 7.513/1 黄褐色粘土、径少々含む
- ③ 10YR4/2 灰黄褐色粘土、同色層砂少量含む
- ④ 10YR5/2 灰黄褐色粘土、10YR4/2 に多い黄褐色粘土含む
- ⑤ 10YR2/7 黒褐色粘土 (粘り強い)
- ⑥ 2.516/2 灰黄褐色粘土 (埋土)

第VI-4 図 双ツ塚遺跡 (第3次) a 区 SK5 平面図・断面図 (1:20)



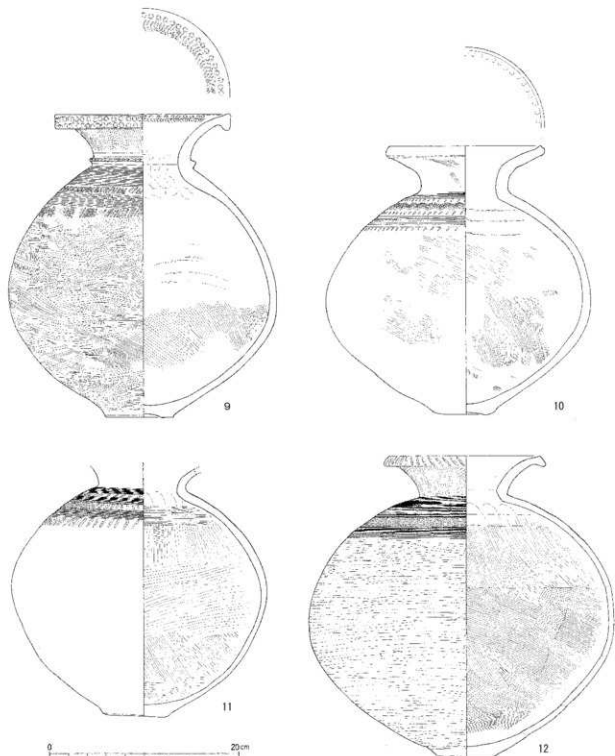
第VI-5図 双ツ塚遺跡(第3次) b区平面図・土層断面図(1:100)



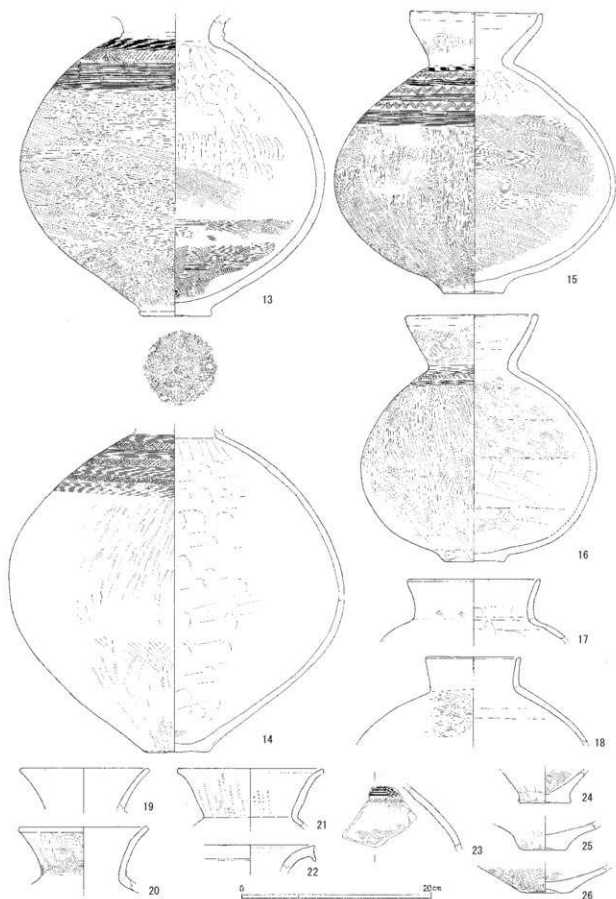
第VI-6図 双塚遺跡(第3次)a区遺物実測図1(1:4)

もの(4・20・21)、内湾するもの(15・16)、短く上方に向くもの(17・18)がある。また、口縁端部が肥厚し、中には上方又は下方に広がり面をもつもの(5・6・9～10・12・22)がある。体部は最大径がほぼ中央にあり、体部高と最大径がほぼ同じになるものが多い。中には体部がやや球胴化・下ぶく

れ傾向を示すものもある(9・16)。外面調整はミガキを基調とするが、一部ハケメを基調とするものもある(3・5・16)。施文は、頸部～体部上半に櫛描直線文と刺突文(8～11・13・14・16・23)、櫛描直線文と波状文(12・15)を施すものがある。口縁端部が肥厚し、中には上方又は下方に広がり面

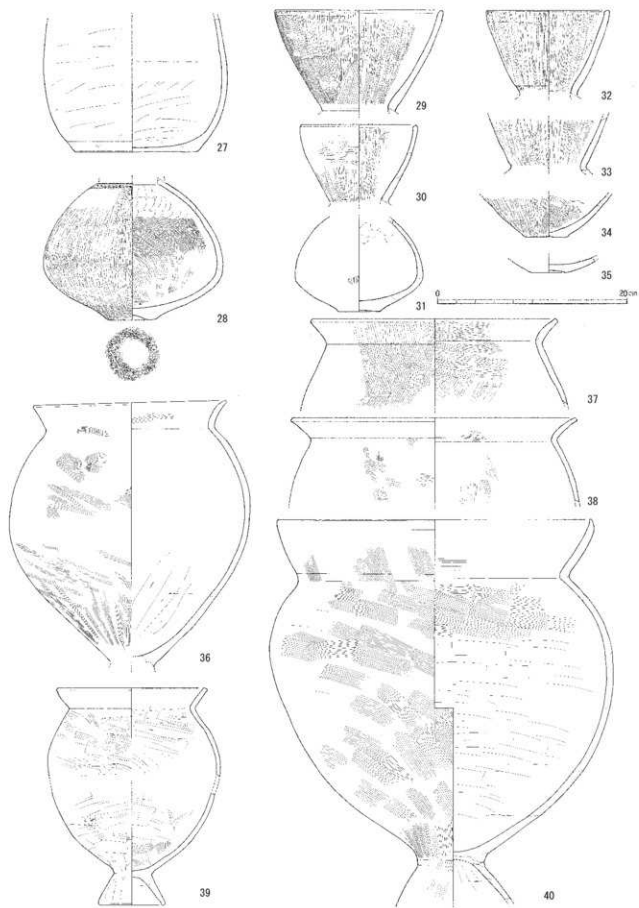


第VI-7図 双ツ塚遺跡(第3次) a区遺物実測図2(1:4)

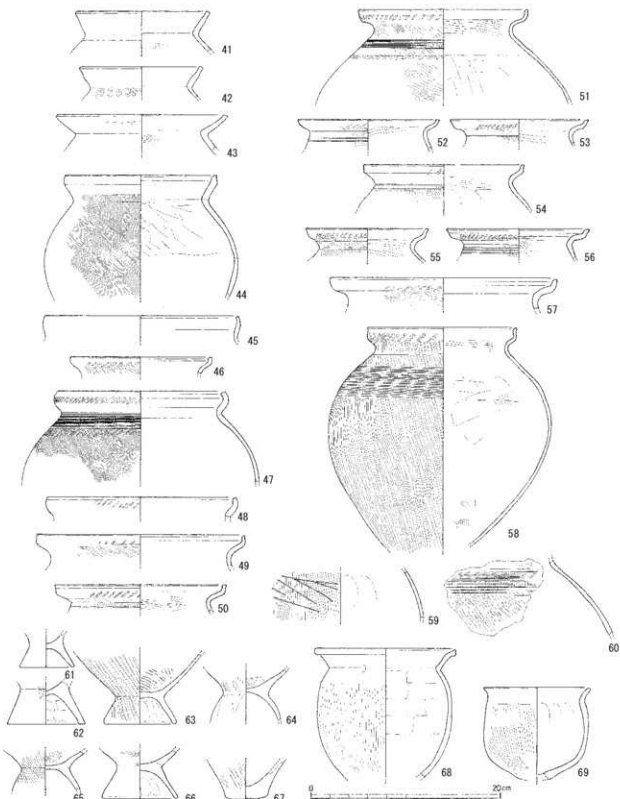


第VI-8図 双ツ塚遺跡(第3次) a区遺物実測図3(1:4)





第VI-9図 双ツ塚遺跡(第3次) a区遺物実測図4(1:4)

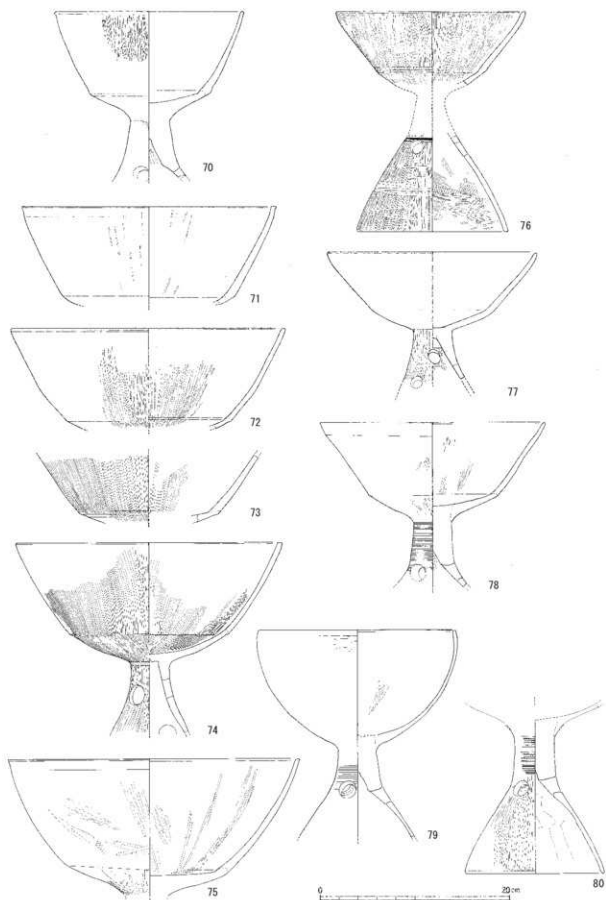


第VI-10図 双ツ塚遺跡(第3次) a区遺物実測図5(1:4)

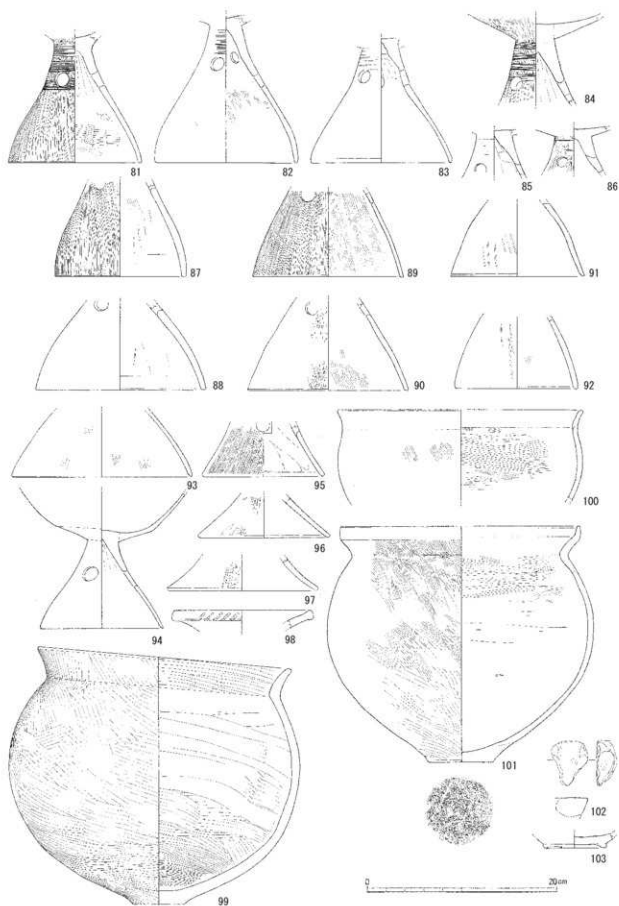
をもつものは、口縁部外面や内面上部に刺突文を施すものが多い(9・10・12)。また、体部内面の半分程度又は全体的に黒化しているものがある(8・10~13)。

6は体部中央付近に弧状の線が3条みられ、ヘラ

描きの可能性がある。8は体部下半にススが附着し、1箇所焼成後穿孔がみられる。9は外面にススが附着している。14は表面が風化しているため不明瞭だが、施文された範囲より下を赤彩していたようであ



第VI-11圖 双ツ塚遺跡(第3次) a区遺物実測圖6(1:4)



第VI-12図 双ツ塚遺跡(第3次) a区遺物実測図7(1:4)

る。内面には成分が不明であるが、黒色の付着物が認められた。

27は平底で体部が張らないもので、異質である。器表面は摩耗し、調整不明である。

28~35は、長頸壺の部類に入るものである。口縁端部が大きく内弯し、体部は最大径が中央部より下半にくる。28は長頸壺でも規格が大きく、重量感がある。

甕 (36~69) について以下に述べる。ほとんどが台付甕になるとみられ、明らかに台がつかないものは67~69である。口縁部がくの字で外反するもの(36)、直線状に延びるもの(37~39・41)、内弯するもの(40・42~45)、受口状口縁となるもの(46~48)、S字甕(49~60・63・65)がある。肩部にヨコハケをし、1方向のハケめで、口縁部外面に刺突を施すものが多い(49・50~56・58・60)。また、肩部のヨコハケ部分に刺突文を施すものも少量ある(51・58)。39は焼成が良好で、胎土に白色砂粒が入り、特徴的である。40は大形のものである。59

はS字甕の肩部であるが、ヨコハケはなく、ヘラ状工具で沈線を入れている。

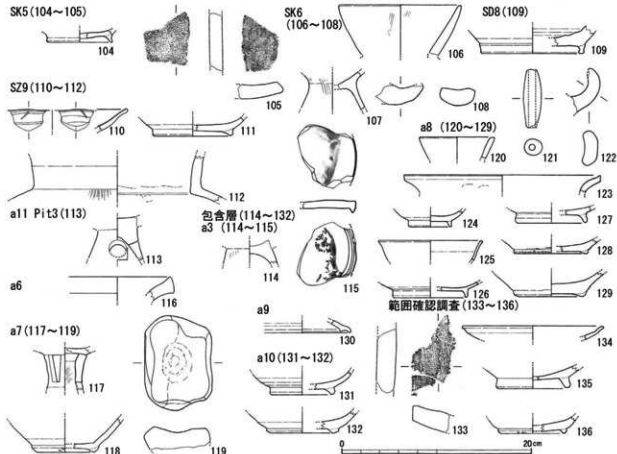
高杯(70~97)について以下に述べる。70~78は有稜高杯で79は碗形高杯である。有稜高杯の端部は内弯傾向を示し、杯部高がやや深くなる。脚部は長脚の傾向を示し、3方通し孔の上に1箇所通し孔をもつものがある(74・77・82)。95は非常に大形のものである。

器台(98)は、小片であるため、小形壺口縁部の可能性がある。口縁端部に面をもち、刺突文を施す。

鉢(99~101)について以下に述べる。口縁部が緩く外反するもの(99・100)と、受口状になるもの(101)がある。101は底部に木葉痕がつくが不明瞭である。

出土遺物の傾向から、概ね廻間1式期並行を中心とした遺物群と捉えられる。

他の遺物について述べる。102は軽石で部分的に擦痕が認められる。103は山茶碗で、第6型式併行とみられる。上部からの出土で、混入とみられる。



第VI-13図 双ツ塚遺跡(第3次) a区遺物実測図B(1:4)

#### SK5 出土遺物 (104・105)

104は、土師器甕で底部のみ残存している。105は平瓦片で内面に布目圧痕がつく。

#### SK6 出土遺物 (106~108)

106は土師器壺口縁部、107は土師器甕台部、108は土師器鍋ないしは瓶の把手部分である。

#### SD8 出土遺物 (109)

109は須恵器壺の高台部とみられる。

#### SZ9 出土遺物 (110~112)

110は灰釉陶器皿で輪花がつく。111は山茶碗で第4型式に比定される。112は灰釉陶器壺頸部である。

#### a1Pit3 出土遺物 (113)

古式土師器高杯である。短脚のもので、透し孔が1箇所残る。

#### a区包含層・範囲確認調査出土遺物 (114~136)

包含層出土遺物は114~132である。114は須恵器杯身である。見込み部分は摩耗し見込み部分と底部外面に墨が付着している。側面を打ち欠いて、転用

礎として使用したとみられる。116は弥生終末~古墳初頭の壺口縁部である。117は須恵器高杯で、長方形の透し孔が2段になるとみられる。時期はTK43~TK209型式併行か。118は山茶碗で第6型式に比定される。119は一面の中央が窪んでいる凹石である。120は粗製の土師器小型壺口縁部で、121は土鐘で122は土師器鍋ないしは瓶、移動式甕の把手である。小ぶりでやや華奢である123は古代の土師器壺口縁部である。124は緑釉陶器碗である。器表面は摩耗しており、見込み部分で僅かに緑釉が認められる。125は灰釉陶器小碗、126・127は灰釉陶器碗である。126はK-90号窯併行期か。128・129は山茶碗である。130は須恵器杯蓋でTK217型式併行である。131は灰釉陶器・132は山茶碗である。

範囲確認出土遺物は、133~136である。133は平瓦で、凹面に布目圧痕がつく。134は灰釉陶器皿である。K-14号窯併行期であろうか。135・136は山茶碗である。(原田)

## 第4節 小 結

今回の調査では、弥生終末~古墳初頭の土坑1基(SK4)、古墳後期の溝1条、奈良時代とみられる溝1条、土坑1基、古代の溝1条、土坑2基、平安~中世の耕作溝とみられる遺構を確認した。また、包含層からの出土遺物は灰釉陶器や山茶碗が微増しており、中島遺跡G・H区とも類似した傾向となる。昭和52・53年度調査で弥生終末~古墳初頭の堅穴建物、古墳前期・後期の溝や土坑、平安の掘建柱建物、鎌倉の土坑等が確認されており<sup>3)</sup>、今回の調査の遺構・遺物のあり方と概ね合致している。

なかでもSK4は平面規模が狭いにもかかわらず

多量の遺物が出土した。一括性の高い廃棄土坑といえよう。SK4から南へ向かって徐々に標高が低くなり、南に位置する金沢川遺跡では、当該期の遺構は希薄となる。昭和50年代に調査した箇所が居住域の中心となり、SK4 nearbyはその周辺域にあたりとみられる。SK4は壺・甕・高杯など主要器種が揃っていること、通常より大形の土器の出土(14・40・95など)がみられること、ススの付着した壺の出土など、廃棄に至るまでの使用状況を注視する必要がある。(原田)

### 注

- 三重県教育委員会1978『三重県埋蔵文化財年報8 昭和52年度』/三重県教育委員会1979『三重県埋蔵文化財年報9 昭和53年度』
- 土器等の分類・編年については以下の文献による。  
弥生土器：上村安生2002『伊勢・伊賀地域』『弥生土器の様式と編年』東海編、木耳社  
古式土師器：愛知県埋蔵文化財センター1990『瀬田遺跡』  
古代の土師器：斎宮歴史博物館2001『斎宮跡発掘調査報告1』  
須恵器：田辺昭三1966『陶色古窯址群1』平安学園考古クラブ  
灰釉陶器：橋崎彰一1983『鏡投窯の編年について』

- 『愛知県古窯跡群分布調査報告』Ⅲ、愛知県教育委員会山茶碗：藤沢良祐1994『山茶碗研究の現状と課題』『研究紀要』3、三重県埋蔵文化財センター  
古瀬戸・瀬戸美濃大窯：藤沢良祐2002『瀬戸美濃大窯編年の再検討』『瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要』第10輯/藤沢良祐2005『施釉陶器生産技術の伝播』『中世窯業の諸相~生産技術の展開と編年~』(発表要旨集) /藤沢良祐2008『古瀬戸前期・中期・後期様式の編年』『中世瀬戸窯の研究』高志書院  
常滑：中野晴久2005『瀬美・常滑』『中世窯業の諸相~生産技術の展開と編年~』(発表要旨集)
- 3) 前掲註(1)

調査 次数	調査区	遺構 番号	地区	性格	時代	長さ (m)	幅 (m)	深さ (m)	出土遺物	備考(前後関係、特徴等)
3	a	501	a6	溝	不明	-	0.45	0.32	土師器	
3	a	502	a7	溝	奈良中	-	0.91	0.11	土師器、銅器	東西方向
3	a	503	a7	溝	古墳初期	-	0.49	0.08	土師器、銅器	
3	a	504	a9	土坑	弥生期末～古墳初期	1.30	1.28	1.31	弥生土器、土師器	SK4-05K5
3	a	505	a9	土坑	古代	0.74	0.56	0.32	土師器、瓦、銅器	SK4-05K5
3	a	506	a9	土坑	古代	0.58	0.37	0.29	土師器	
3	a	507	a9	土坑	奈良中	0.90	0.55	0.25	土師器	
3	a	508	a9	溝	古代	-	0.58	0.04	銅器	
3	a	529	a10	一	平安～中世	3.00	0.45	0.06	土師器、瓦片陶器、山形瓦	耕作溝小

第VI-1表 双ツ塚遺跡(第3次)遺構一覧表

発掘 番号	調査 番号	種類	方位	地区	遺構 階位	部材 残存状況	計測値(m)		技法・文様の特徴	出土 遺物	構成	色調	特記事項
							口径	深さ					
1	041-05	埋設部	南直	a7	SK1 下層	11.6	-	3.9	内:土師器・土師器 外:土師器・土師器	溝	黄	灰白砂岩	
3	041-04	土師器	溝	a7	SK1 下層	12.6	-	-	内:土師器・土師器 外:土師器・土師器	中々実	内	黄(04101/1) 黄(04102/1)	
3	002-01	弥生土器	溝	a9	SK1 下層	16.8	7.8	27.0	内:土師器・土師器・土師器 外:土師器・土師器・土師器	溝(埋設部含む)	黄	土師器(04101/4) 土師器(04101/4)	
4	047-01	弥生土器	溝	a9	SK1 下層	14.5	1.7	-	内:土師器・土師器・土師器 外:土師器・土師器・土師器	溝	黄	土師器(04101/4)	
1	011-01	弥生土器	溝	a9	SK1 下層	14.12	10.0	6.0	28.3	内:土師器・土師器・土師器 外:土師器・土師器・土師器	溝(1～1.0mの 内:土師器の 埋設部含む)	内	内:土師器(04101/1) 外:土師器(04101/1)
6	021-01	弥生土器	溝	a9	SK1 下層	16.9	6.6	33.3	内:土師器・土師器・土師器 外:土師器・土師器・土師器	溝(1～0.8mの 埋設部含む)	黄	土師器(04101/3)	
7	001-01	弥生土器	溝	a9	SK1 下層	17.3	-	-	内:土師器・土師器 外:土師器・土師器	溝(1～2.0mの 埋設部含む)	黄	土師器(04101/4)	
8	014-01	弥生土器	溝	a9	SK1 下層	14.7	5.0	28.8	内:土師器・土師器・土師器 外:土師器・土師器・土師器	溝(1～0.8mの 埋設部含む)	黄	土師器(04101/4) 土師器(04101/4)	
9	010-01	弥生土器	溝	a9	SK1 下層	18.2	2.0	32.0	内:土師器・土師器・土師器 外:土師器・土師器・土師器	溝(1～0.8mの 埋設部含む)	黄	土師器(04101/4)	
10	004-01	弥生土器	溝	a9	SK1 下層	15.9	-	-	内:土師器・土師器・土師器 外:土師器・土師器・土師器	溝(1～0.7mの 埋設部含む)	黄	土師器(04101/3)	
11	009-01	弥生土器	溝	a9	SK1 下層	16.9	-	5.9	内:土師器・土師器・土師器 外:土師器・土師器・土師器	中々実(1～2.0 mの埋設部含む)	黄	土師器(04101/4) 土師器(04101/4)	
12	007-01	弥生土器	溝	a9	SK1 下層	16.2	15.6	6.2	31.8	内:土師器・土師器・土師器 外:土師器・土師器・土師器	中々実(1～0.8 mの埋設部含む)	内	土師器(04101/3) 外:土師器(04101/3)
13	038-01	弥生土器	溝	a9	SK1 下層	16.6	10.9	7.2	21.0	内:土師器・土師器・土師器 外:土師器・土師器・土師器	溝(1～0.8mの 埋設部含む)	内	土師器(04101/3) 外:土師器(04101/3)
14	040-01	弥生土器	溝	a9	SK1 下層	17.2	-	7.0	内:土師器・土師器・土師器 外:土師器・土師器・土師器	溝(1～0.8mの 埋設部含む)	黄	土師器(04101/3)+SK4	
15	046-01	弥生土器	溝	a9	SK1 下層	13.7	11.7	6.0	27.9	内:土師器・土師器・土師器 外:土師器・土師器・土師器	溝	黄	土師器(04101/4) 土師器(04101/4)
16	013-01	弥生土器	溝	a9	SK1 下層	13.8	6.2	26.2	内:土師器・土師器・土師器 外:土師器・土師器・土師器	溝(1～0.8mの 埋設部含む)	内	土師器(04101/3) 外:土師器(04101/3)	
17	053-01	弥生土器	溝	a9	SK1 下層	14.2	15.8	-	-	内:土師器・土師器・土師器 外:土師器・土師器・土師器	中々実	内	土師器(04101/3) 外:土師器(04101/3)
18	037-02	弥生土器	溝	a9	SK1 下層	13.9	9.0	-	-	内:土師器・土師器 外:土師器・土師器	溝(1～0.8mの 埋設部含む)	黄	土師器(04101/3) 土師器(04101/3)
19	033-01	弥生土器	溝	a9	SK1 下層	11.7	13.3	-	-	内:土師器・土師器 外:土師器・土師器	中々実(1～0.9 mの埋設部含む)	内	土師器(04101/3) 土師器(04101/3)
20	069-01	弥生土器	溝	a9	SK1 下層	14.7	15.2	-	-	内:土師器・土師器 外:土師器・土師器	中々実(1～0.9 mの埋設部含む)	黄	土師器(04101/3) 土師器(04101/3)
21	017-01	弥生土器	溝	a9	SK1 下層	13.8	11.3	35.2	22.0	内:土師器・土師器・土師器 外:土師器・土師器・土師器	中々実(1～0.9 mの埋設部含む)	黄	土師器(04101/3) 土師器(04101/3)
22	006-01	弥生土器	溝	a9	SK1 下層	14.8	11.3	35.2	22.0	内:土師器・土師器・土師器 外:土師器・土師器・土師器	中々実(1～0.9 mの埋設部含む)	黄	土師器(04101/3) 土師器(04101/3)
23	029-06	弥生土器	溝	a9	SK1 下層	16.6	10.7	6.2	21.0	内:土師器・土師器・土師器 外:土師器・土師器・土師器	溝(1～0.8mの 埋設部含む)	黄	土師器(04101/3) 土師器(04101/3)
24	031-04	弥生土器	溝	a9	SK1 下層	16.6	10.7	6.2	21.0	内:土師器・土師器・土師器 外:土師器・土師器・土師器	溝(1～0.8mの 埋設部含む)	黄	土師器(04101/3) 土師器(04101/3)
25	029-04	弥生土器	溝	a9	SK1 下層	16.6	10.7	6.2	21.0	内:土師器・土師器・土師器 外:土師器・土師器・土師器	溝(1～0.8mの 埋設部含む)	黄	土師器(04101/3) 土師器(04101/3)
26	019-04	弥生土器	溝	a9	SK1 下層	16.6	10.7	6.2	21.0	内:土師器・土師器・土師器 外:土師器・土師器・土師器	溝(1～0.8mの 埋設部含む)	黄	土師器(04101/3) 土師器(04101/3)
27	018-01	弥生土器	溝	a9	SK1 下層	16.6	10.7	6.2	21.0	内:土師器・土師器・土師器 外:土師器・土師器・土師器	溝(1～0.8mの 埋設部含む)	黄	土師器(04101/3) 土師器(04101/3)
28	005-01	弥生土器	溝	a9	SK1 下層	16.6	10.7	6.2	21.0	内:土師器・土師器・土師器 外:土師器・土師器・土師器	溝(1～0.8mの 埋設部含む)	黄	土師器(04101/3) 土師器(04101/3)
29	022-01	弥生土器	溝	a9	SK1 下層	16.6	10.7	6.2	21.0	内:土師器・土師器・土師器 外:土師器・土師器・土師器	溝(1～0.8mの 埋設部含む)	黄	土師器(04101/3) 土師器(04101/3)
30	026-02	弥生土器	溝	a9	SK1 下層	16.6	10.7	6.2	21.0	内:土師器・土師器・土師器 外:土師器・土師器・土師器	溝(1～0.8mの 埋設部含む)	黄	土師器(04101/3) 土師器(04101/3)
31	028-03	弥生土器	溝	a9	SK1 下層	16.6	10.7	6.2	21.0	内:土師器・土師器・土師器 外:土師器・土師器・土師器	溝(1～0.8mの 埋設部含む)	黄	土師器(04101/3) 土師器(04101/3)
32	033-04	弥生土器	溝	a9	SK1 下層	16.6	10.7	6.2	21.0	内:土師器・土師器・土師器 外:土師器・土師器・土師器	溝(1～0.8mの 埋設部含む)	黄	土師器(04101/3) 土師器(04101/3)
33	011-01	弥生土器	溝	a9	SK1 下層	16.6	10.7	6.2	21.0	内:土師器・土師器・土師器 外:土師器・土師器・土師器	溝(1～0.8mの 埋設部含む)	黄	土師器(04101/3) 土師器(04101/3)
34	031-01	弥生土器	溝	a9	SK1 下層	16.6	10.7	6.2	21.0	内:土師器・土師器・土師器 外:土師器・土師器・土師器	溝(1～0.8mの 埋設部含む)	黄	土師器(04101/3) 土師器(04101/3)
35	022-01	弥生土器	溝	a9	SK1 下層	16.6	10.7	6.2	21.0	内:土師器・土師器・土師器 外:土師器・土師器・土師器	溝(1～0.8mの 埋設部含む)	黄	土師器(04101/3) 土師器(04101/3)
36	003-01	弥生土器	溝	a9	SK1 下層	16.6	10.7	6.2	21.0	内:土師器・土師器・土師器 外:土師器・土師器・土師器	溝(1～0.8mの 埋設部含む)	黄	土師器(04101/3) 土師器(04101/3)
37	031-01	弥生土器	溝	a9	SK1 下層	16.6	10.7	6.2	21.0	内:土師器・土師器・土師器 外:土師器・土師器・土師器	溝(1～0.8mの 埋設部含む)	黄	土師器(04101/3) 土師器(04101/3)

第VI-2表 双ツ塚遺跡(第3次)遺物観察表1

報告 番号	調査 番号	種類	副種	地区	遺構 種類	発見 時期	計測値 (cm)	技法・文様の特徴			出土 層位	構成	色調	特記事項
								口径	底径	高さ				
36	025-02	弥生土器 土器類	甕	a9	SK1 下層	11/12	29.8	-	-	内ハタメ 外ハタメ	甕 1~1.0mの 砂状土層	-	紺2.036/9	-
39	026-01	弥生土器 土器類	付付甕	a9	SK1 下層	11/12	15.1	6.9	-	内ハタメ・ヨコナデ 外ハタメ・ヨコナデ・ナデ	甕 1~1.0mの 砂状土層	-	紺0106/6	№11
40	016-01	弥生土器 土器類	付付甕	a9	SK1 下層	11/12	33.2	-	-	内ハタメ・ハタメ・ヨコナデ 外ハタメ・ハタメ	甕 1~2.0mの 砂状土層	-	紺0407/1007/4 紺0107/6	№6・10
41	023-01	弥生土器 土器類	甕	a9	SK1 下層	6/12	12.8	-	-	内ハタメ・ヨコナデ 外ハタメ・ナデ	やや葉 甕 1~1.0mの 砂状土層	-	灰白0107/2	№3
42	032-02	弥生土器 土器類	甕	a9	SK1 下層	11/12	13.4	-	-	内ハタメ・ヨコナデ 外ハタメ・ナデ	やや葉 甕 1~1.0mの 砂状土層	-	灰白0107/2	№3
43	036-07	弥生土器 土器類	甕	a9	SK1 下層	11/12	17.6	-	-	内ハタメ・ヨコナデ 外ハタメ・ナデ	甕 1~1.0mの 砂状土層	-	紺0407/1007/4	№3
44	027-01	弥生土器 土器類	甕	a9	SK1 下層	5/12	26.4	-	-	内ハタメ・ヨコナデ 外ハタメ・ナデ	甕 1~2.0mの 砂状土層	-	紺0407/1007/4 外ハタメ・ヨコナデ	№7
45	018-01	弥生土器 土器類	甕	a9	SK1 下層	11/12	20.0	-	-	内ハタメ・ヨコナデ 外ハタメ・ナデ	甕 1~1.0mの 砂状土層	-	紺0407/1007/4	№7
46	016-02	弥生土器 土器類	甕	a9	SK1 下層	11/12	14.8	-	-	内ハタメ・ヨコナデ 外ハタメ・ナデ	甕 1~1.0mの 砂状土層	-	紺0407/1007/2	№1・15
47	038-02	弥生土器 土器類	甕	a9	SK1 下層	3/12	27.7	-	-	内ハタメ・ヨコナデ 外ハタメ・ナデ・刺突文・ハタメ	甕 1~3.0mの 砂状土層	-	紺07.0107/6	-
48	036-05	弥生土器 土器類	甕	a9	SK1 下層	11/12	16.0	-	-	内ハタメ・ヨコナデ 外ハタメ・ナデ	甕 1~1.0mの 砂状土層	-	内ハタメ・ヨコナデ 外ハタメ・ナデ	№6
49	027-01	弥生土器 土器類	甕	a9	SK1 下層	11/12	22.0	-	-	内ハタメ・ヨコナデ 外ハタメ・ナデ	甕 1~1.0mの 砂状土層	-	灰白01.017/2	№3
50	022-01	弥生土器 土器類	甕	a9	SK1 下層	11/12	18.0	-	-	内ハタメ・ヨコナデ 外ハタメ・ナデ	甕 1~1.0mの 砂状土層	-	灰黄2.017/2	-
51	039-01	弥生土器 土器類	甕	a9	SK1 下層	11/12	17.9	-	-	内ハタメ・ヨコナデ 外ハタメ・ナデ	甕 甕 1~1.0mの 砂状土層	-	灰黄2.016/1~灰黄1.01 灰黄1.017/2	8
52	032-04	弥生土器 土器類	甕	a9	SK1 下層	11/12	14.8	-	-	内ハタメ・ヨコナデ 外ハタメ・ナデ	甕 1~1.0mの 砂状土層	-	紺0407/1007/2	-
53	027-02	弥生土器 土器類	甕	a9	SK1 下層	11/12	14.8	-	-	内ハタメ・ヨコナデ 外ハタメ・ナデ	甕 1~1.0mの 砂状土層	-	紺0407/1007/2	-
54	033-06	弥生土器 土器類	甕	a9	SK1 下層	3/12	16.8	-	-	内ハタメ・ヨコナデ 外ハタメ・ナデ	やや葉 甕 1~1.0mの 砂状土層	-	灰白0107/2	-
55	018-02	弥生土器 土器類	5字甕	a9	SK1 下層	11/12	12.8	-	-	内ハタメ・ヨコナデ 外ハタメ・ナデ	やや葉 甕 1~1.0mの 砂状土層	-	灰白01.017/2	-
56	018-03	弥生土器 土器類	5字甕	a9	SK1 下層	11/12	15.1	-	-	内ハタメ・ヨコナデ 外ハタメ・ナデ	甕 甕 1~1.0mの 砂状土層	-	紺0407/1007/2	№13
57	036-06	弥生土器 土器類	5字甕	a9	SK1 下層	11/12	25.8	-	-	内ハタメ・ヨコナデ 外ハタメ・ナデ	甕 1~2.0mの 砂状土層	-	紺0407/1007/2	№3
58	008-01	弥生土器 土器類	5字甕	a9	SK1 下層	11/12	15.7	-	-	内ハタメ・ヨコナデ 外ハタメ・ナデ	やや葉 甕 1~1.0mの 砂状土層	-	灰黄2.016/3	-
59	017-01	弥生土器 土器類	5字甕	a9	SK1 中層 中弁	11/12	-	-	-	内ハタメ 外ハタメ	やや葉 甕 1~1.0mの 砂状土層	-	内ハタメ・ヨコナデ 外ハタメ・ナデ	№1 9字母 横直着
60	029-02	弥生土器 土器類	5字甕	a9	SK1 中層 中弁	11/12	-	-	-	内ハタメ 外ハタメ	甕 1~1.0mの 砂状土層	-	灰黄2.017/2	-
61	031-05	弥生土器 土器類	付付甕	a9	SK1 下層	11/12	-	5.4	-	内ハタメ 外ハタメ・ナデ	甕 1~1.0mの 砂状土層	-	内ハタメ・ヨコナデ 外ハタメ・ナデ	№1
62	017-02	弥生土器 土器類	甕	a9	SK1 中層 中弁	11/12	-	8.0	-	内ハタメ・ナデ 外ハタメ・ナデ	甕 1~2.0mの 砂状土層	-	紺0407/1007/2	-
63	017-01	弥生土器 土器類	5字甕	a9	SK1 中層 11/12	-	1.6	-	-	内ハタメ・ナデ 外ハタメ・ナデ	やや葉 甕 1~1.0mの 砂状土層	-	灰白2.016/2, 紺0407/1007/2, 紺0407/1007/3	-
64	023-02	弥生土器 土器類	付付甕	a9	SK1 下層	-	-	-	-	内ハタメ 外ハタメ	甕 1~1.0mの 砂状土層	-	灰黄2.017/3	-
65	015-05	弥生土器 土器類	5字甕	a9	SK1 下層	-	-	-	-	内ハタメ・ナデ 外ハタメ・ナデ	甕 1~1.0mの 砂状土層	-	紺0407/1007/2・2	№11
66	029-03	弥生土器 土器類	付付甕	a9	SK1 中層 中弁	11/12	7.7	-	-	内ハタメ・ナデ 外ハタメ・ナデ	甕 1~1.0mの 砂状土層	-	紺07.0107/1~紺0407/1007/2	-
67	029-05	弥生土器 土器類	甕	a9	SK1 下層	11/12	-	2.1	-	内ハタメ 外ハタメ	甕 1~1.0mの 砂状土層	-	紺07.0107/1~紺0407/1007/2	-
68	034-02	弥生土器 土器類	付付甕	a9	SK1 下層	11/12	14.8	-	-	内ハタメ・ナデ 外ハタメ・ナデ	甕 1~1.0mの 砂状土層	-	灰黄0108/3	横直着
69	038-02	弥生土器 土器類	甕	a9	SK1 下層	11/12	11.0	-	-	内ハタメ・ナデ 外ハタメ・ナデ	やや葉 甕 1~1.0mの 砂状土層	-	内ハタメ・ヨコナデ 外ハタメ・ナデ	№10
70	028-02	弥生土器 土器類	高杯	a9	SK1 中層 中弁	11/12	19.8	-	-	内ハタメ 外ハタメ	甕 1~1.0mの 砂状土層	-	紺07.0107/1~紺0407/1007/2	№15 至近3層・ №13
71	015-02	弥生土器 土器類	高杯	a9	SK1 下層	11/12	27.0	-	-	内ハタメ 外ハタメ	甕 1~3.0mの 砂状土層	-	灰黄0108/3	№11
72	023-01	弥生土器 土器類	高杯	a9	SK1 下層	11/12	28.8	-	-	内ハタメ 外ハタメ	甕 1~1.0mの 砂状土層	-	紺0106/6	-
73	031-02	弥生土器 土器類	高杯	a9	SK1 下層	11/12	-	-	-	内ハタメ 外ハタメ	甕 甕 1~1.0mの 砂状土層	-	灰黄0108/4	-
74	023-04	弥生土器 土器類	高杯	a9	SK1 下層	11/12	28.0	-	-	内ハタメ 外ハタメ	甕 1~1.0mの 砂状土層	-	紺07.0106/6	№14
75	024-01	弥生土器 土器類	高杯	a9	SK1 下層	11/12	36.8	-	-	内ハタメ・ナデ 外ハタメ・ナデ	甕 1~1.0mの 砂状土層	-	紺0407/1007/1	№1・10
76	035-01	弥生土器 土器類	高杯	a9	SK1 下層	11/12	20.0	15.8	-	内ハタメ 外ハタメ	やや葉 甕 1~1.0mの 砂状土層	-	紺0407/1007/1, 灰白 1.017/1, 紺0106/6, 紺0407/1007/2	№1 №2 №3
77	016-01	弥生土器 土器類	高杯	a9	SK1 下層	11/12	22.0	-	-	内ハタメ 外ハタメ	甕 1~1.0mの 砂状土層	-	紺07.0107/6	№1 至近3層
78	029-01	弥生土器 土器類	高杯	a9	SK1 下層	6/12	23.0	-	-	内ハタメ 外ハタメ	甕 1~1.0mの 砂状土層	-	灰黄07.0108/3	透孔3個
79	028-01	弥生土器 土器類	高杯	a9	SK1 下層	6/12	20.8	-	-	内ハタメ 外ハタメ	やや葉 甕 1~1.0mの 砂状土層	-	灰黄07.0108/3・7	透孔3個
80	008-02	弥生土器 土器類	高杯	a9	SK1 下層	11/12	15.5	-	-	内ハタメ 外ハタメ	甕 1~1.0mの 砂状土層	-	灰黄1.016/1~紺0407/1007/2	№2・7 透孔3個
81	019-01	弥生土器 土器類	高杯	a9	SK1 下層	11/12	15.0	-	-	内ハタメ 外ハタメ	甕 1~1.0mの 砂状土層	-	灰白01.017/2	№10 透孔3個
82	005-01	弥生土器 土器類	高杯	a9	SK1 下層	11/12	14.8	-	-	内ハタメ 外ハタメ	甕 1~1.0mの 砂状土層	-	紺0106/6	№2
83	008-01	弥生土器 土器類	高杯	a9	SK1 下層	11/12	14.7	-	-	内ハタメ 外ハタメ	甕 1~1.0mの 砂状土層	-	灰黄1.016/1~紺0407/1007/2	5字母(横直着) 透孔3個
84	019-02	弥生土器 土器類	高杯	a9	SK1 下層	11/12	23.0	-	-	内ハタメ 外ハタメ	甕 1~1.0mの 砂状土層	-	灰黄0108/3	透孔1個
85	022-03	弥生土器 土器類	高杯	a9	SK1 下層	11/12	20.8	-	-	内ハタメ 外ハタメ	やや葉 甕 1~1.0mの 砂状土層	-	紺0407/1008/4	透孔1個
86	022-04	弥生土器 土器類	高杯	a9	SK1 下層	11/12	20.8	-	-	内ハタメ 外ハタメ	甕 甕 1~1.0mの 砂状土層	-	灰黄2.017/4	透孔3個
87	019-01	弥生土器 土器類	高杯	a9	SK1 下層	11/12	13.8	-	-	内ハタメ 外ハタメ	やや葉 甕 1~1.0mの 砂状土層	-	灰黄0108/3	透孔1個
88	036-04	弥生土器 土器類	高杯	a9	SK1 下層	11/12	17.8	-	-	内ハタメ・ナデ 外ハタメ・ナデ	甕 1~1.0mの 砂状土層	-	紺0407/1008/4	透孔1個
89	018-03	弥生土器 土器類	高杯	a9	SK1 下層	11/12	15.8	-	-	内ハタメ 外ハタメ	やや葉 甕 1~1.0mの 砂状土層	-	紺07.0107/6	透孔1個・5 字母(横直着)

第VI-3表 双ツ塚遺跡(第3次)遺物観察表2



報告番号	調査年度	種類	種別	地区	遺構・層位	発見物件	計測値 (cm)			技法・文様の特徴	出土品	構成	色調	特記事項
							口径	直径	高さ					
80	829-01	弥生土層 / 土器類	高杯	a9	下層	口縁	17.7	18.9	-	内・外両面・縁部・底面に黒い土質の付着あり	黒 (～1.0mmの付着あり)	赤褐色	透孔1個	
81	015-03	弥生土層 / 土器類	高杯	a9	5層	口縁	-	14.0	-	内・外両面・口縁・底面に黒い土質の付着あり	黒 (～1.0mmの付着あり)	黒	透孔1個	
92	018-04	弥生土層 / 土器類	高杯	a9	5層	口縁	-	12.8	-	内・外両面・口縁・底面に黒い土質の付着あり	黒 (～1.0mmの付着あり)	赤褐色	透孔1個	
93	019-06	弥生土層 / 土器類	高杯	a9	5層	口縁	-	18.8	-	内・外両面・口縁・底面に黒い土質の付着あり	黒 (～1.0mmの付着あり)	赤褐色	透孔1個	
94	034-01	弥生土層 / 土器類	高杯	a9	16(6)層	口縁	-	13.0	-	内・外両面・口縁・底面に黒い土質の付着あり	黒 (～1.0mmの付着あり)	赤褐色	透孔1個	
95	022-02	弥生土層 / 土器類	高杯	a9	下層	口縁	-	12.0	-	内・外両面・口縁・底面に黒い土質の付着あり	黒 (～1.0mmの付着あり)	赤褐色	透孔1個	
96	026-03	弥生土層 / 土器類	高杯	a9	5層	口縁	-	13.0	-	内・外両面・口縁・底面に黒い土質の付着あり	黒 (～1.0mmの付着あり)	赤褐色	透孔1個	
97	018-05	弥生土層 / 土器類	高杯	a9	5層	口縁	-	15.4	-	内・外両面・口縁・底面に黒い土質の付着あり	黒 (～1.0mmの付着あり)	赤褐色	透孔1個	
98	032-05	弥生土層 / 土器類	高杯	a9	5層	口縁	-	14.4	-	内・外両面・口縁・底面に黒い土質の付着あり	黒 (～1.0mmの付着あり)	赤褐色	透孔1個	
99	012-01	弥生土層 / 土器類	鉢	a9	5層	口縁	24.8	26.8	-	内・外両面・口縁・底面に黒い土質の付着あり	黒 (～1.0mmの付着あり)	赤褐色	透孔1個	
100	022-03	弥生土層 / 土器類	鉢	a9	5層	口縁	25.8	-	-	内・外両面・口縁・底面に黒い土質の付着あり	黒 (～1.0mmの付着あり)	赤褐色	透孔1個	
101	027-01	弥生土層 / 土器類	鉢	a9	5層	口縁	25.2	6.6	25.0	内・外両面・口縁・底面に黒い土質の付着あり	黒 (～1.0mmの付着あり)	赤褐色	透孔1個	
103	036-02	陶器	山系瓶	a9	18(3)層	口縁	-	6.4	-	内・外両面・口縁・底面に黒い土質の付着あり	黒 (～1.0mmの付着あり)	赤褐色	透孔1個	
104	032-02	土器類	高杯	a9	5層	口縁	-	6.0	-	内・外両面・口縁・底面に黒い土質の付着あり	黒 (～1.0mmの付着あり)	赤褐色	透孔1個	
105	029-01	瓦	甲瓦	a9	16(5)層	口縁	-	-	-	内・外両面・口縁・底面に黒い土質の付着あり	黒 (～1.0mmの付着あり)	赤褐色	透孔1個	
106	044-01	土器類	盆	a9	5層	口縁	12.8	-	-	内・外両面・口縁・底面に黒い土質の付着あり	黒 (～1.0mmの付着あり)	赤褐色	透孔1個	
107	041-02	土器類	甕	a9	5層	口縁	-	-	-	内・外両面・口縁・底面に黒い土質の付着あり	黒 (～1.0mmの付着あり)	赤褐色	透孔1個	
108	041-03	土器類	甕	a9	5層	口縁	-	-	-	内・外両面・口縁・底面に黒い土質の付着あり	黒 (～1.0mmの付着あり)	赤褐色	透孔1個	
109	044-06	陶器	盆	a9	5層	口縁	17.2	10.8	-	内・外両面・口縁・底面に黒い土質の付着あり	黒 (～1.0mmの付着あり)	赤褐色	透孔1個	
110	041-07	瓦類	瓦	a10	52(9)層	口縁	-	-	-	内・外両面・口縁・底面に黒い土質の付着あり	黒 (～1.0mmの付着あり)	赤褐色	透孔1個	
111	042-01	陶器	山系瓶	a10	52(9)層	口縁	-	6.4	-	内・外両面・口縁・底面に黒い土質の付着あり	黒 (～1.0mmの付着あり)	赤褐色	透孔1個	
112	043-01	瓦類	瓦	a10	52(9)層	口縁	-	-	-	内・外両面・口縁・底面に黒い土質の付着あり	黒 (～1.0mmの付着あり)	赤褐色	透孔1個	
113	043-02	弥生土層 / 土器類	高杯	a11	17(3)層	口縁	-	-	-	内・外両面・口縁・底面に黒い土質の付着あり	黒 (～1.0mmの付着あり)	赤褐色	透孔1個	
114	042-03	弥生土層 / 土器類	甕	a3	15(4)層	口縁	-	-	-	内・外両面・口縁・底面に黒い土質の付着あり	黒 (～1.0mmの付着あり)	赤褐色	透孔1個	
115	043-03	陶器	利用瓦	a3	15(4)層	口縁	6.0	6.0	1.2	内・外両面・口縁・底面に黒い土質の付着あり	黒 (～1.0mmの付着あり)	赤褐色	透孔1個	
116	043-06	弥生土層 / 土器類	盆	a6	15(4)層	口縁	-	-	-	内・外両面・口縁・底面に黒い土質の付着あり	黒 (～1.0mmの付着あり)	赤褐色	透孔1個	
117	042-06	陶器	高杯	a7	15(4)層	口縁	-	-	-	内・外両面・口縁・底面に黒い土質の付着あり	黒 (～1.0mmの付着あり)	赤褐色	透孔1個	
118	043-05	陶器	山系瓶	a7	15(4)層	口縁	-	6.0	-	内・外両面・口縁・底面に黒い土質の付着あり	黒 (～1.0mmの付着あり)	赤褐色	透孔1個	
120	043-08	弥生土層 / 土器類	小皿	a8	15(4)層	口縁	7.4	-	-	内・外両面・口縁・底面に黒い土質の付着あり	黒 (～1.0mmの付着あり)	赤褐色	透孔1個	
121	044-03	土製品	土質	a9	15(4)層	口縁	6.2	1.9	6.6	内・外両面・口縁・底面に黒い土質の付着あり	黒 (～1.0mmの付着あり)	赤褐色	透孔1個	
122	044-04	土器類	甕	a9	15(4)層	口縁	-	-	-	内・外両面・口縁・底面に黒い土質の付着あり	黒 (～1.0mmの付着あり)	赤褐色	透孔1個	
123	043-07	土器類	甕	a9	15(4)層	口縁	20.8	-	-	内・外両面・口縁・底面に黒い土質の付着あり	黒 (～1.0mmの付着あり)	赤褐色	透孔1個	
124	043-05	瓦類	瓦	a9	15(4)層	口縁	4.5	-	-	内・外両面・口縁・底面に黒い土質の付着あり	黒 (～1.0mmの付着あり)	赤褐色	透孔1個	
125	043-02	瓦類	瓦	a9	15(4)層	口縁	10.8	-	-	内・外両面・口縁・底面に黒い土質の付着あり	黒 (～1.0mmの付着あり)	赤褐色	透孔1個	
126	043-03	瓦類	瓦	a9	15(4)層	口縁	7.8	-	-	内・外両面・口縁・底面に黒い土質の付着あり	黒 (～1.0mmの付着あり)	赤褐色	透孔1個	
127	043-04	陶器	山系瓶	a9	15(4)層	口縁	7.2	-	-	内・外両面・口縁・底面に黒い土質の付着あり	黒 (～1.0mmの付着あり)	赤褐色	透孔1個	
128	044-02	陶器	山系瓶	a9	15(4)層	口縁	7.8	-	-	内・外両面・口縁・底面に黒い土質の付着あり	黒 (～1.0mmの付着あり)	赤褐色	透孔1個	
129	044-01	陶器	山系瓶	a9	15(4)層	口縁	-	7.0	-	内・外両面・口縁・底面に黒い土質の付着あり	黒 (～1.0mmの付着あり)	赤褐色	透孔1個	
130	044-05	陶器	高杯	a9	15(4)層	口縁	-	-	-	内・外両面・口縁・底面に黒い土質の付着あり	黒 (～1.0mmの付着あり)	赤褐色	透孔1個	
131	044-07	瓦類	瓦	a10	15(4)層	口縁	-	6.6	-	内・外両面・口縁・底面に黒い土質の付着あり	黒 (～1.0mmの付着あり)	赤褐色	透孔1個	
132	044-06	陶器	山系瓶	a10	15(4)層	口縁	-	6.8	-	内・外両面・口縁・底面に黒い土質の付着あり	黒 (～1.0mmの付着あり)	赤褐色	透孔1個	
133	045-01	瓦	甲瓦	a10	123(9)層	口縁	-	-	-	内・外両面・口縁・底面に黒い土質の付着あり	黒 (～1.0mmの付着あり)	赤褐色	透孔1個	
134	045-01	瓦類	瓦	a10	123(9)層	口縁	-	14.8	-	内・外両面・口縁・底面に黒い土質の付着あり	黒 (～1.0mmの付着あり)	赤褐色	透孔1個	
135	045-02	陶器	山系瓶	a10	123(9)層	口縁	-	7.6	-	内・外両面・口縁・底面に黒い土質の付着あり	黒 (～1.0mmの付着あり)	赤褐色	透孔1個	
136	045-04	陶器	山系瓶	a10	123(9)層	口縁	-	6.0	-	内・外両面・口縁・底面に黒い土質の付着あり	黒 (～1.0mmの付着あり)	赤褐色	透孔1個	

第VI-4表 双ツ塚遺跡(第3次)遺物観察表3

報告番号	調査年度	種類	地区	遺構・層位	計測値 (cm)			重量	特記事項 (加工・破損・変形・保存処理)
					長	幅	厚		
102	027-06	磁器	a9	5層	4.7	3.9	2.9	6.9	
119	030-04	磁器	a7	15(4)層	10.1	7.2	2.4	305.9	

第VI-5表 双ツ塚遺跡(第3次)石製品観察表

## 第七章 金沢川遺跡（第1・2次）

### 第1節 調査の概要

金沢川遺跡は北を双ツ塚遺跡、南を天王遺跡に接し、金沢川下流南岸に位置する。

調査は既設の道路内に新たに埋置する水路部分のみを対象としたもので、2018・2019年度に範囲確認調査を実施し、その結果に基づいて2019・2020年度にそれぞれ本調査にあたる第1次・第2次調査を実施した。発掘調査期間はそれぞれ、範囲確認調査は2019年3月から5月、第1次調査は2019年7月から9月、第2次調査は2020年8月から2021年2月である。本調査は範囲確認調査で遺構を検出した箇所を対象としたため、第1次調査では3カ所、第2次調査では10カ所の調査区に分かれている。発掘調査面積は第1・2次の合計で、2,710㎡である。

調査区の基本層序は調査区が計13カ所に分かれているため、場所によってバラツキはあるものの、上から表土（道路アスファルトとその基盤となる砕石・

厚さ約20cm）、造成土（厚さ約50～100cm）、旧耕作土ないし床土（厚さ10～20cm）あるいはオリブ褐色砂質シルト・同色のシルト層（古代～中世の遺物包含層・厚さ20cm）、にぶい黄褐色～黄灰色粘土・黄褐色シルトのベースの順で堆積する。なお、遺構を検出なかった箇所、このベース（遺構検出面）をさらに掘り下げたところ、シルト層の下には粗砂層が堆積することを確認した。遺構検出面は調査区によっては、後世の造成によって遺構面が削平された状態にあるため、その標高は3.2～5.7mとやや幅がある。

遺構を密に検出した調査区（第1次A・B区、第2次3・6区）とそうではない調査区との差は大きい。密に検出した箇所では溝、土坑のほか、土壇墓、柱列を含む多数の柱穴といった遺構を検出している。（土橋）

### 第2節 遺 構

遺構の位置や詳細等は、遺構一覧表（第Ⅶ-1～4表）を参照されたい。

#### 1. 範囲確認調査（第Ⅶ-1表）

**S Z 200** 中世の常滑産甕が出土したため、調査時には落ち込み状の遺構と判断したが、第2次調査の状況からみて、後世の開発や耕作活動によるかく乱であろう。

#### 2. 第1次調査（第Ⅶ-1～5図・第Ⅶ-2表）

##### A区

**SK 1** 1.2m×1.36m以上の土坑。残存深0.55m。土師器や須恵器の小片が出土。遺構は古代に属する。

**SK 2** 2.66m×1.33mの土坑。残存深0.03m。土師器や須恵器の小片ほか、山茶碗の小片も出土していることからみて、遺構は中世以降に属する。

**SK 3** 0.8m×0.7mの土坑。残存深0.05m。土師器小片が出土したが、遺構の時期は不明である。

**SK 4** 0.96m×0.46mの土坑。残存深0.19m。土師器や須恵器の小片が出土。遺構は古代に属する。

**SK 5** 1.1m×0.64m以上の土坑。残存深0.49m。出土遺物は土師器の小片ながら、古代に属する。

**SK 6** 1.15m×0.8 m以上の土坑。残存深0.72m。土師器の小片が出土しているものの、遺構の時期は不明である。

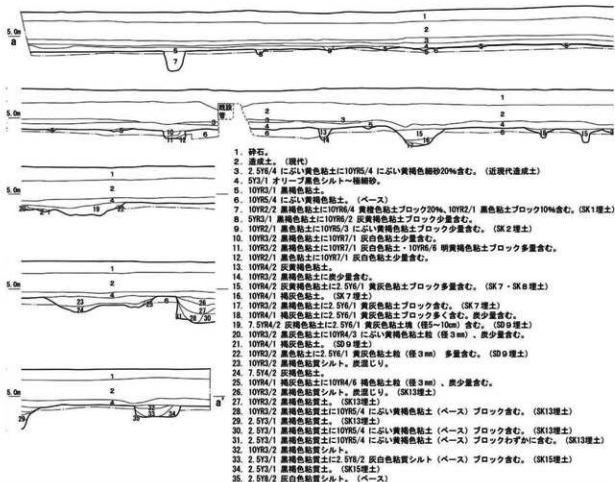
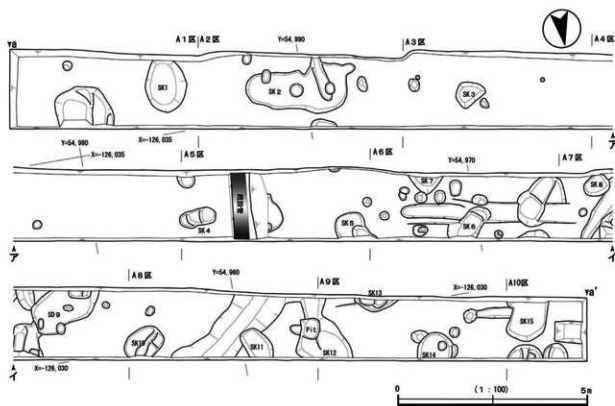
**SK 7** 0.93m×0.45m以上の土坑。残存深0.45m。土師器や須恵器の小片が出土している。須恵器には古代のものが目立つが、土師器片から中世の遺構と判断した。

**SK 8** 0.7m×0.57m以上の土坑。残存深0.28m。7世紀中から後半ごろの須恵器高杯が出土した。

**SD 9** 幅0.10m、長さ2.3m以上の南北溝。残存深0.26m。遺構は調査区外へ続いている。出土遺物はなく、時期は不明である。

**SK 10** 1.0m×0.8m以上の土坑。残存深0.34m。土師器が出土しているものの小片のため、遺構の時期は不明である。

**SK 11** 0.84m×0.76m以上の土坑。残存深0.1m。



第七-1図 金沢川遺跡(第1次)A区平面図・土層断面図(1:100)

土師器が出土しているものの小片のため、遺構の時期は不明である。

**SK12** 1.45m×1.03m以上の土坑。残存深0.43m。出土遺物には土師器の小片ほか、須恵器杯蓋がある。これらの様相からみて、7世紀末以降に埋没したものと見える。

**SK13** 1.16m×0.31m以上の土坑。残存深0.61m。土師器や須恵器の小片が出土していることから、遺構は古代に属するものであろう。

**SK14** 1.16m×0.67m以上の土坑。残存深0.48m。出土した土師器甕の様相から、平安時代ごろの遺構。

**SK15** 1.12m×1.04m以上の土坑。残存深0.24m。土師器や須恵器の小片が出土。遺構は、古代に属するものであろう。

#### B区

**SD16** 幅0.25m、長さ2.08m以上の南北溝。調査区外へさらに延びる。残存深0.21m。小穴P1・2・4・5に先行する遺構。土師器や須恵器の出土が認められ、飛鳥時代以降の溝と判断した。このほか、焼成粘土が出土している。

**SK17** 0.55m以上×0.41m以上の土坑。この溝か

らは、藤沢編年第3型式の山茶椀が出土していることから、遺構は12世紀以降のものとして判断した。

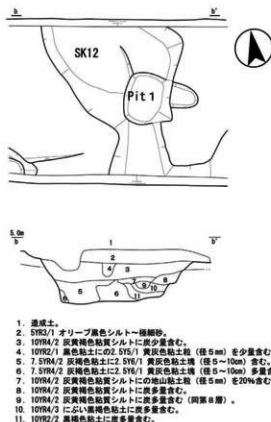
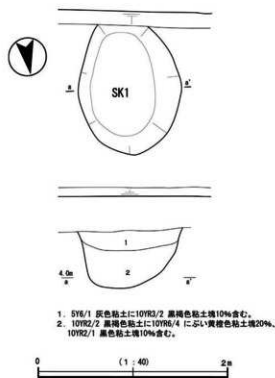
**SK18** 0.61m×0.51mの土坑。残存深0.46m。土師器が出土しているものの小片のため、遺構の時期は判断できなかった。

**SD19** 幅0.45m、長さ1.8m以上の南北溝。調査区外へさらに延びる。残存深0.15m。土師器や須恵器の小片が出土しており、これらは飛鳥時代から奈良時代初めごろのものである。

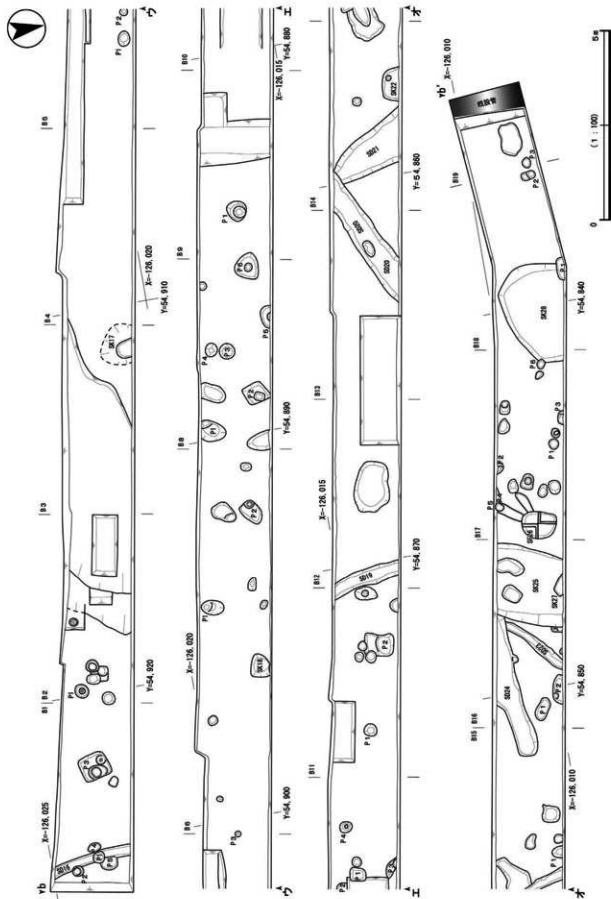
**SD20** 幅0.76m、長さ2.8m以上の南北溝。調査区外へさらに延びる。残存深0.44m。灰釉陶器が出土しており、平安時代以降に埋没したものと考えられる。小片ながら、平瓦が出土している。SD21と重複関係にある。

**SD21** 幅1.15m、長さ1.85m以上の南北溝。調査区外へさらに延びる。残存深0.12m。近世期の陶磁器が出土している。SD20と重複関係にあり、それに先行する。

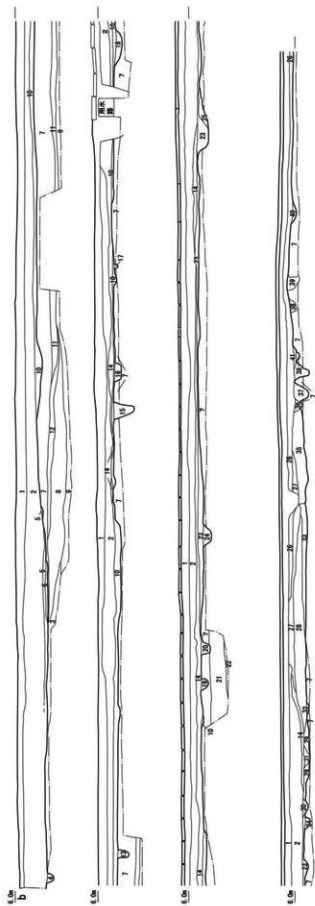
**SK22** 0.91m以上×0.45mの土坑。残存深0.18m。7世紀後半ごろの須恵器無台杯が出土しているほか、土師器の小片も出土した。これらから、遺構は7世



第七-2図 金沢川遺跡(第1次)SK1・12平面図・土層断面図(1:40)



第Ⅶ-3図 金沢川遺跡(第1次)B区平面図(1:100)



第VII-4図 金沢川遺跡(第1次)B区土層断面図(1:100)

- |  |  |
|--|--|
| <p>1. 埴土。(現代)</p> <p>2. 2.5W/2 褐色黄色粘質シルトに2.5W/3 黄褐色シルトを含む。(ベース)</p> <p>3. 2.5W/1 黄灰色粘質土。(300層土)</p> <p>4. 2.5W/1 黄灰色粘質土。(300層土)</p> <p>5. 107W/2 黄褐色粘質土。</p> <p>6. 2.5W/4 におい黄褐色シルト。</p> <p>7. 107W/6 黄褐色シルトに厚2~3mmの砂層10%、炭化物5%を含む。</p> <p>8. 107W/6 黄褐色粘質土に厚2~3mmの砂層20%を含む。(埋土層土)</p> <p>9. 2.5W/4 におい黄褐色シルトに厚2~3mmの砂層20%を含む。(埋土層土)</p> <p>10. 107W/4 におい黄褐色粘質土。</p> <p>11. 2.5W/6 明褐色粘質シルト。</p> <p>12. 2.5W/3 におい黄褐色粘質土に厚2~3mmの砂層10%、炭分多く含む。</p> <p>13. 107W/6 褐色シルトに厚2.5W/4 黄褐色シルト10%を含む。</p> <p>14. 107W/6 黄褐色粘質土に厚2.5W/4 黄褐色シルト10%を含む。(埋土)</p> <p>15. 2.5W/3 黄褐色粘質土に厚少量含む。(埋土)</p> <p>16. 107W/1 褐色粘質シルト。</p> <p>17. 2.5W/1 黄灰色粘質土。</p> <p>18. 2.5W/1 黄灰色粘質土に厚2.5W/4 オリーブ褐色シルト、炭を含む。</p> <p>19. 2.5W/2 黄褐色粘質土に厚2.5W/4 黄褐色シルト、炭、埋物多量含む。</p> <p>20. 19層に同じ。</p> | <p>21. 2.5W/3 におい黄褐色シルト。</p> <p>22. 2.5W/2 黄褐色シルト-粘質砂。</p> <p>23. 5W/3 黄オリーブ粘質土に厚2mmの埋多量、炭少量含む。(3200埋土/黄赤層)</p> <p>24. 5W/1 灰黄色粘土。(3200埋土)</p> <p>25. 5W/1 灰黄色粘土。(3200埋土)</p> <p>26. 2.5W/3 黄褐色粘質土。</p> <p>27. 107W/4 におい黄褐色粘土に107W/6 黄褐色粘質土ブロック多量含む。</p> <p>28. 7.5W/4 褐色粘土。</p> <p>29. 7.5W/4 褐色粘土。(包含層)</p> <p>30. 7.5W/2 灰黄色粘質土。</p> <p>31. 5W/1 オリーブ黄褐色粘土に厚2mmの砂層、炭多量含む。</p> <p>32. 31層に同じ。</p> <p>33. 2.5W/3 褐色粘土に厚2mmの砂層多量含む。(3204埋土)</p> <p>34. 2.5W/3 褐色粘土に厚2mmの砂層多量含む。(3205埋土)</p> <p>35. 7.5W/3 褐色粘土に厚含む。(3205埋土)</p> <p>36. 107W/4 におい黄褐色粘土に厚2mmの埋多量。</p> <p>37. 107W/6 黄褐色粘土に厚2mmの埋多量。</p> <p>38. 7.5W/4 褐色粘土に厚2mmの埋多量。</p> <p>39. 7.5W/4 褐色粘土に厚2mmの埋多量。</p> <p>40. 7.5W/4 褐色粘質土に厚土、炭、埋物多量含む。(3203埋土)</p> <p>41. 7.5W/2 灰褐色粘土に厚2mmの埋、炭含む。</p> |
|--|--|

0 5m (1:100)



紀後半ごろに属する。

**SD23** 幅0.31m、長さ1.85m以上の南北溝。調査区外へさらに延びる。残存深0.03m。土師器や須恵器の小片が出土しており、これらは飛鳥時代後半のものであろう。遺構は、7世紀後半ごろに属する。SD24と重複関係にあり、それに先行する。

**SD24** 幅0.74m、長さ3.7m以上の東西溝。調査区外へさらに延びる。残存深0.13m。土師器や須恵器の小片が出土しており、これらは7世紀末から8世紀前半ごろのものであろう。遺構は、飛鳥時代あるいは奈良時代初めごろのものか。SD23・SK25と重複関係にあり、SK25に先行する。

**SK25** 2.21m×1.74m以上の土坑。残存深0.22m。7世紀中ごろから後半にかけての遺物が出土。SD24と重複関係にある。

**SF26** 0.72m×0.91mの焼成土坑。残存深0.23m。土坑壁面が赤色化しており、被熱痕跡と考えられる。ただし、底部は壁面ほど赤色化していなかった。出土遺物が土師器の小片のみであったため、遺構の時期を特定することができなかった。

**SK27** 0.6m×0.24m以上の土坑。残存深0.02m。SK25底で検出した遺構。土師器の小片が出土しているが、遺構の時期の特定には至らなかった。なお、焼土や炭を埋土に多く含んでいた。

**SK28** 2.62m×1.73m以上の土坑。残存深0.28m。7世紀中ごろから後半にかけての土師器や須恵器が出土している。このほか、焼成粘土が出土している。

#### C区

**SK29** 1.7m×1.18m以上の土坑。残存深0.53m。古瀬戸産天目茶碗が出土しており、このことから15世紀前半以降に埋没したと考えられる。

**SD30** 幅1.0m、長さ2.45m以上の東西溝。調査区外へさらに延びる。残存深0.32m。須恵器小片が出土。遺構は古代に属する。SK31と重複関係にあり、それに先行する。

**SK31** 1.6m×1.8mの土坑。残存深1.09m。SD30と重複関係にある。出土遺物がないため、遺構の時期を特定することはできないが、SD30との重複関係からみて、少なくとも古代以降のものであろう。

**SK32** 2.35m以上×1.49m以上の土坑。残存深1.03m。出土した遺物は須恵器小片ながら、古代に

属する。

#### 3. 第2次調査（第七-6～26図・第七-3・4表）

4・5・7・9・10区では顕著な遺構はなかった。それ以外の調査区で検出した遺構について1区から順に述べる。

#### 1区

**SK41** 0.68m×0.39m以上の土坑。残存深0.32m。組み合わせがないので、不明だが柱穴の可能性がある。出土遺物は土師器、須恵器杯の小片がある。古墳時代後期から飛鳥時代ごろの遺構であろう。

**SK42** 壁面でのみ検出のため、平面規模は不明。残存深0.2m。古代の遺物を含む遺構。土師器小片、須恵器杯小片が出土した。調査区外へ遺構は広がっており、溝の可能性もある。

**SD43** 幅1.2m以上、長さ5.58m以上の東西溝。調査区外へさらに延びる。落ち込みの可能性もある。SD44と重複関係にあり、それに先行する。土師器・須恵器ともに小片が出土しているものの、時期の特定には至らなかった。

**SD44** 現代の遺物を含む東西溝。幅1.21m、長さ1.25m、残存深0.32m。SD43と重複関係にある。

**SD45** 幅0.3m以上、長さ1.45m以上の東西溝。残存深0.03m。SD46と重複関係にあり、それに先行する。落ち込みの可能性があるので、時期は不明である。

**SD46** 幅0.1m、長さ1.64m以上の南北溝。残存深0.16m。SD45と重複関係にある。出土遺物は土師器小片のみで、時期の特定ができなかった。

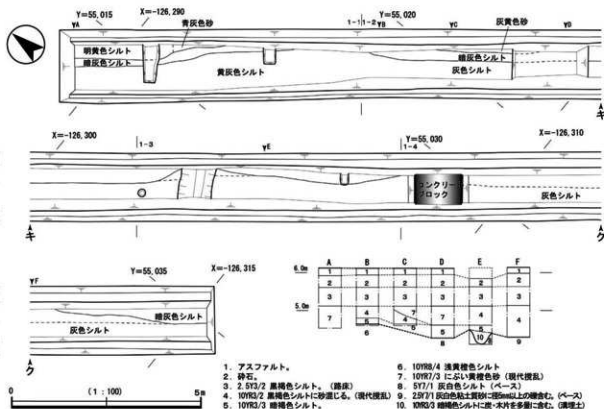
**SD47** 幅0.72m、長さ3.2m以上の東西溝。残存深0.28m。出土遺物は土師器小片や須恵器甕の破片など、いずれも円化できなかったものの7世紀後半ごろのものが大半であることから、その時期に廃絶した溝であろう。

**SK48** 0.94m以上×1.96mの土坑。残存深0.23m。弥生時代末期から古墳時代初めごろの高杯、台付甕などが出土した。

**SK49** 1.0m×0.7m以上の土坑。残存深0.27m。台付甕をはじめとした弥生時代末期から古墳時代初めごろの遺物が出土。SK50と重複関係にあり、それに先行する。

**SK50** 0.46m×0.41mの土坑。残存深0.58m。平





第Ⅶ-6図 金沢川遺跡(第2次)1区平面図・柱状図(1:100)

安時代ごろの土師器皿、灰軸陶器片、鉄製槍鉋が出土。土壇墓か。SK49と重複関係にある。

**SD51** 幅0.31m以上、長さ0.62mの東西溝。調査区外へさらに延びる。残存深0.4m。溝下層の小穴の可能性もある。土師器小片が出土しているが、時期の特定には至らなかった。

**SK52** 0.94m以上×0.33m以上の土坑。残存深0.41m。7世紀後半ごろの土師器片、須恵器高杯、杯、甕片のほか、ごく小片1点だが山茶碗片を含む。混入品であろうか。

**SK53** 0.8m×0.17mの土坑。調査区外へさらに広がる。残存深0.14m。7世紀後半以降と考えられる土師器小片や須恵器甕片が出土している。

**SK54** 0.44m以上×0.37mの土坑。調査時には溝としたが、再検討した結果土坑と判断した。残存深0.11m。7世紀後半以降と考えられる須恵器皿片あるいは壺底部片が出土している。

**SK55** 0.6m×0.4m以上の土坑。残存深0.22m。灰軸陶器が出土していることから、平安時代ごろの遺構。このほか土罐などが出土している。

**SK56** 0.4m×0.64mの土坑。残存深0.48m。7世紀後半ごろの須恵器甕が出土している。そのほか、

土師器甕片や須恵器甕片、焼成粘土などが出土した。

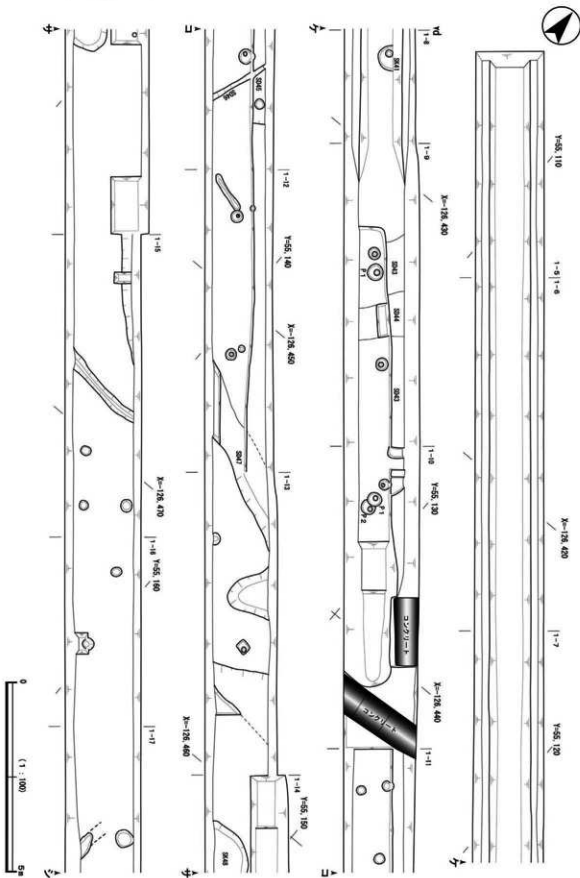
**SD57** 幅0.32m、長さ0.55m以上の東西溝。残存深0.38m。SD59と重複関係にあり、それに先行する。土師器小片が出土しているが、時期の特定には至らなかった。

**SD58** 幅0.35m、長さ6.87m以上の南北溝。残存深0.18m。いずれも小片につき固化したかったが、7世紀後半以降のものであろう土師器高杯、須恵器杯、甕などが出土している。

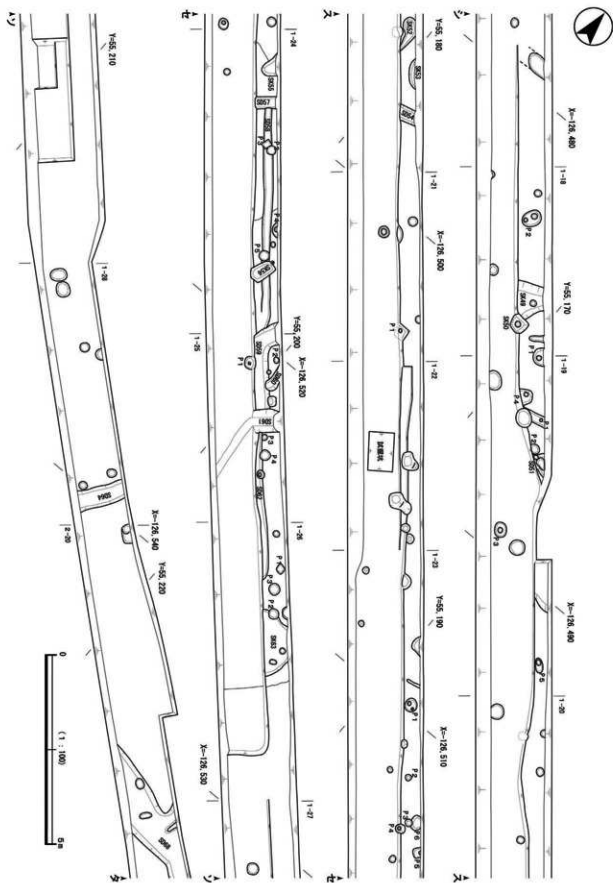
**SD59** 幅0.6m、長さ2.75m以上の溝。残存深0.31m。7世紀後半ごろの須恵器蓋つまみなどが出土しており、このころに廃絶された遺構であろう。SD57と重複関係にあるほか、SD60・61とも重複関係にあり、それに先行する。

**SD60** 幅0.26m、長さ0.5m以上の南北溝。残存深0.35m。須恵器瓶類のほか、固化できる遺物は少ないが7世紀後半ごろの土師器小片・須恵器小片が出土したことから、このころに廃絶したとみてよい。SD59・61と重複関係にある。

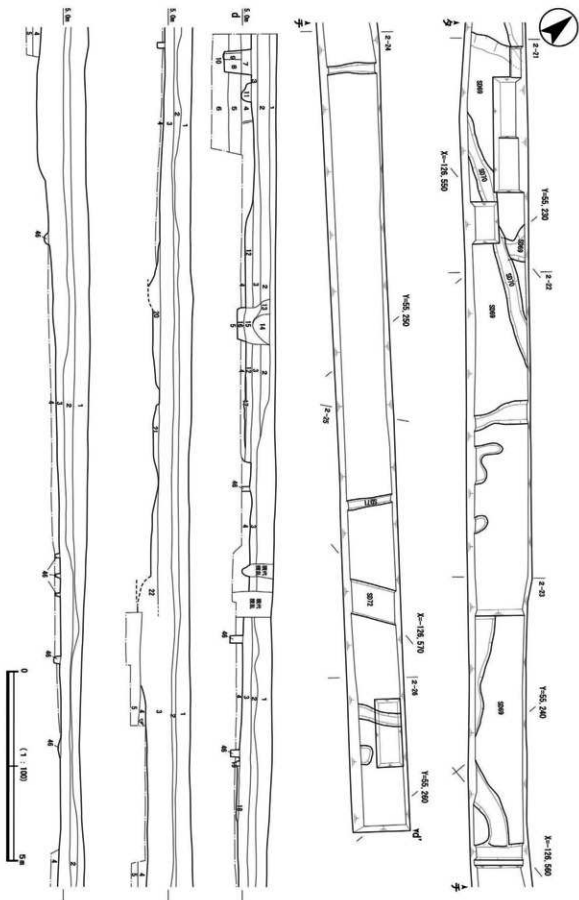
**SD61** 幅0.52m、長さ2.35m以上の南北溝。残存深0.44m。灰軸陶器が出土していることから、平安時代ごろに廃絶された溝であろう。SD62と重複関



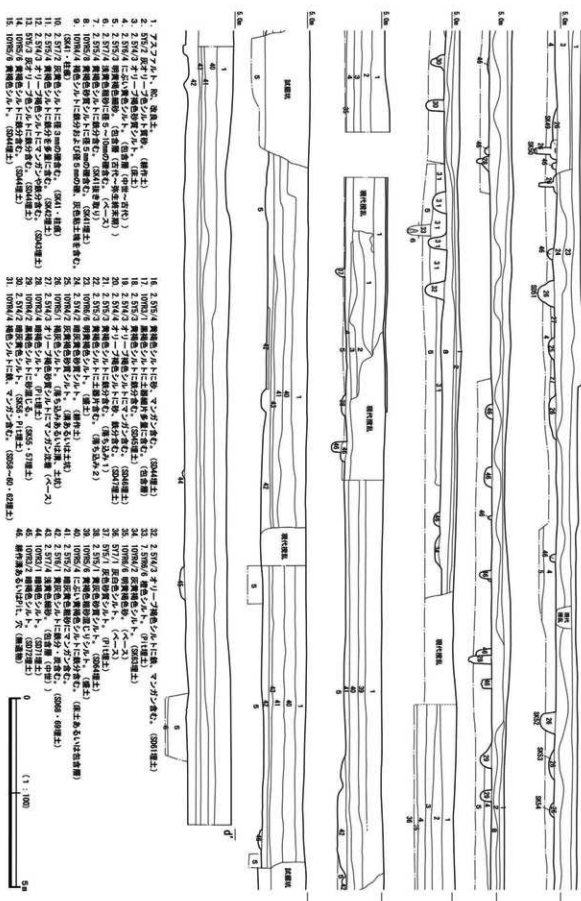
第Ⅶ-7図 金沢川遺跡(第2次)1・2区平面図1(1:100)



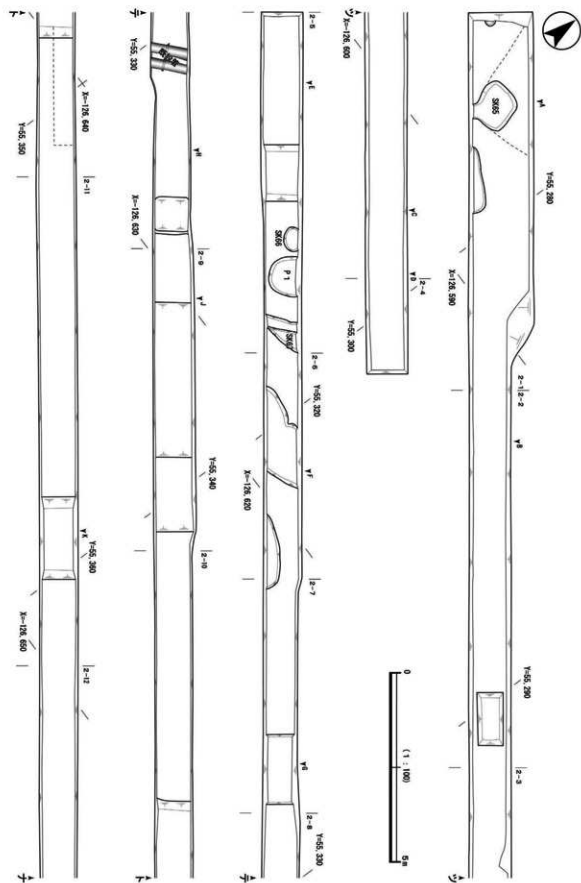
第Ⅶ-8図 命沢川遺跡(第2次)1・2区区平面図2(1:100)



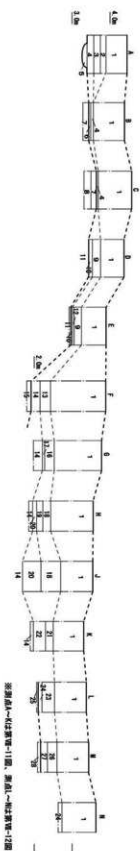
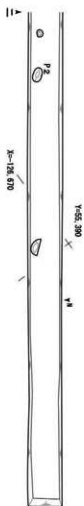
第Ⅶ-9 图 余沢川遺跡(第2次) 1・2区平面图 3・土層断面图 1(1:100)



第七-10図 金沢川遺跡(第2次) 1・2区土層断面図2 (1:100)



第VII-11圖 金沢川遺跡(第2次)2区平面圖1(1:100)



1. 7.5/7.5/1.0 既 遺構土
2. 100R/2 に点い貫地盤土に深3~8mmの掘り込み
3. 100R/7 貫地盤土に掘り込み
4. 貫地盤土 (包含層)
5. 貫地盤土 (包含層)
6. 7.5M/7 貫地盤土 (包含層)
7. 2.5M/6 貫地盤土 (包含層)
8. 100R/7 貫地盤土 (包含層)
9. 100R/6 貫地盤土
10. 51R/2 灰サリ一才地盤土
11. 51R/3 灰サリ一才地盤土に深2mmの貫り貫心 (包含層)
12. 貫地盤土 (包含層)
13. 貫地盤土 (包含層)
14. 貫地盤土に動物遺体多数に散在
15. 掘溝 (包含層)
16. 貫地盤土に7.5M/7 貫地盤土掘り貫心
17. 2.51R/6 貫地盤土に掘り貫心
18. 7.51R/7 貫地盤土に掘り貫心
19. 貫地盤土 (包含層)
20. 51R/7 貫地盤土 (包含層)
21. 51R/6 貫地盤土にサリ一才土掘り込み (包含層)
22. 100R/7 貫地盤土 (包含層)
23. 51R/2 貫地盤土
24. 51R/6 サリ一才土 (包含層)
25. 貫地盤土 (包含層)
26. 貫地盤土 (包含層)
27. 2.51R/2 貫地盤土
28. 灰サリ一才土に深2mmの掘り込み (包含層)

第VII-12図 命沢川遺跡(第2次)2区平面図2・柱状図(1:100)

係にあり、それに先行する。

**S D 62** 幅0.20m、長さ4.90m以上の溝。残存深0.18m。S D 58に接続する溝か。土師器小片が出土しているが、時期の特定には至らなかった。S D 61と重複関係にある。

**S K 63** 1.78m×0.65m以上の土坑。残存深0.07m。13世紀ごろの山茶碗の小片が出土している。このほか、土師器小片、須恵器甕片などが出土している。

**S D 64** 幅0.55m、長さ1.2m以上の南北溝。残存深0.08m。図化に耐えうるものはないが、7世紀後半ごろのものと考えられる土師器甕および須恵器杯底部の小片が出土している。

## 2区

**S K 65** 1.0m以上×1.09m以上の土坑。残存深0.23m。出土遺物には7世紀後半から8世紀初めごろの二段放射暗文を施す土師器杯A、須恵器杯Bをはじめと、官衙域などで出土するような食器類を含むほか、小片だが甕も出土している。このほか、焼成粘土を多数出土している。

**S K 66** 0.66m×0.38m以上の土坑。残存深0.12m。7世紀後半ごろの土師器小片や須恵器甕などが出土した。

**S K 67** 幅0.8m以上、長さ0.51m以上の土坑。残存深0.28m。土師器や須恵器の小片が出土した。

**S D 68** 幅2.97m、長さ2.71m以上の東西溝。7世紀後半ごろの須恵器平瓶が出土しているほか、土師器小片が出土。S D 69と重複関係にある。

**S D 69** S D 68に先行する溝。2区18～39m付近に広がる溝状の遺構。調査区外へ遺構が広がっているため、規模等は不明。古代の遺物包含層の可能性もある。出土した須恵器杯蓋には「かえり」があるものと、ないものが併存している。そのほか、須恵器杯B・瓦片などが出土していることから、この溝状遺構の時期については7世紀後半以降であろう。

**S D 70** 幅0.4m、長さ5.77m以上の東西溝。残存深0.11m。S D 69下層で検出した。出土遺物は、土師器小片のみのため時期の特定には至らなかった。

**S D 71** 幅0.26m、長さ1.21m以上の東西溝。残存深0.1m。遺物の出土がなく、時期は不明である。

**S D 72** 幅0.36m、長さ1.24m以上の南北溝。残存深0.14m。遺物の出土がなく、時期は不明である。

## 3区

**S D 73** 幅1.12m以上、長さ2.61m以上の南北溝。山茶碗が出土していることから、中世に属する。竪穴建物の可能性もある。S D 74と重複関係にあり、それに先行する。このほか土師器小片や、小片ながら須恵器杯H蓋、灰軸陶器なども出土しており、S D 73の機能期間は長期に及ぶ可能性もある。

**S D 74** 幅0.9m、長さ2.09m以上の溝。残存深0.85m。陶磁器片、土師器小片、平安時代ごろの瓦などが出土している。近代以降の溝であろう。S D 73とは重複関係にある。

**S D 75** 幅0.6m、長さ0.51m以上の溝。残存深0.21m。図化に耐えうるものはないものの、山茶碗小片、土師器小片が出土している。

**S K 77** 2.29m×0.47m以上の土坑。残存深0.4m。北端は調査区外へ広がる。底部から木製の鋤が出土した。このほか、7世紀後半ごろの須恵器高杯、杯H蓋などが出土している。

**S K 78** S X 80に帰属する土坑。調査時は別の遺構と判断していた。7世紀中ごろから後半ごろのものと考えられる須恵器杯Hが出土している。

**S K 79** 1.81m×0.62mの土坑。残存深0.27m。出土遺物がないため、時期の特定には至らなかった。

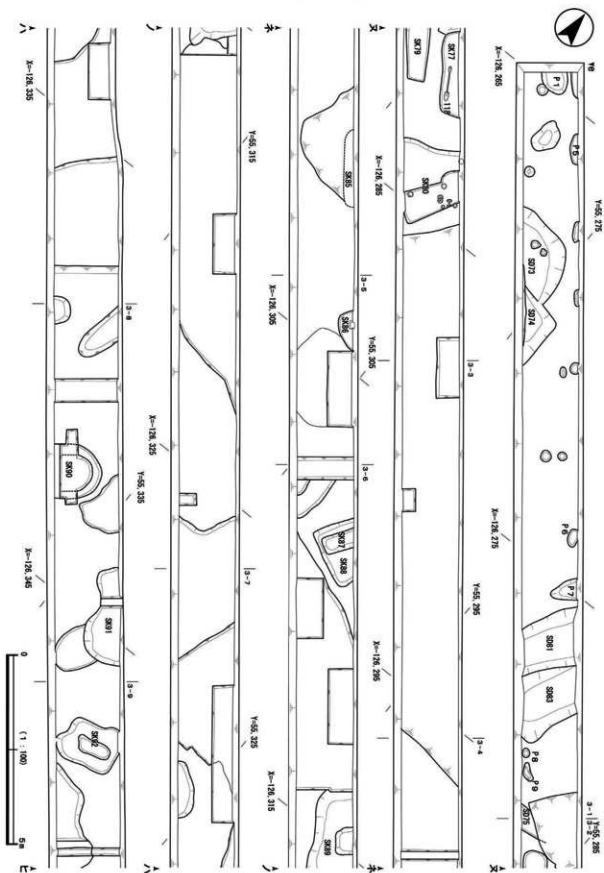
**S X 80** 2.28m×1.61m以上の南北方向に延びる土壇墓。残存深0.55m。南北の規模は両端とも調査区外へ広がっており、わからない。完形の須恵器供膳具類が集中して出土した状況からみて、土壇墓と考えられるが、人骨などは見つからなかった。底部に植物質の堆積が認められる。7世紀中ごろから後半に属する遺構と考えられる。

**S D 81** 幅1.54m、長さ1.57m以上の南北溝。残存深0.74m。S D 83と東肩を接している。いずれも図化できない小片だが、土師器、山茶碗、陶磁器などが出土している。近代以降の遺構であろう。

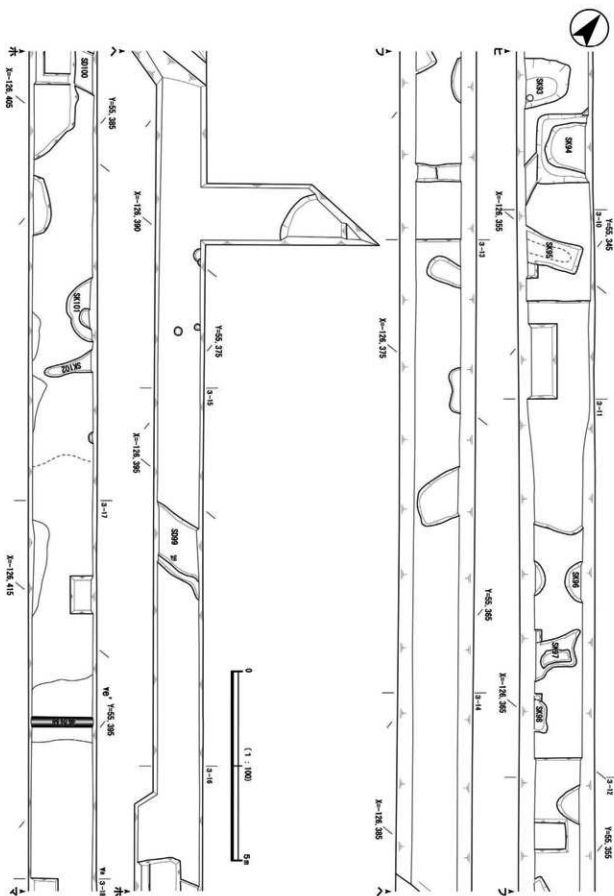
**S D 82** 溝。山茶碗が出土しているが、状況からみてかく乱溝であろう。

**S D 83** 幅1.81m、長さ1.6m以上の南北溝。残存深0.82m。S D 81西肩を接している。12世紀後半から13世紀前半ごろの山茶碗が出土していることから、この溝の廃絶時期もこのころであろう。山茶碗のほか、土師器が出土している。

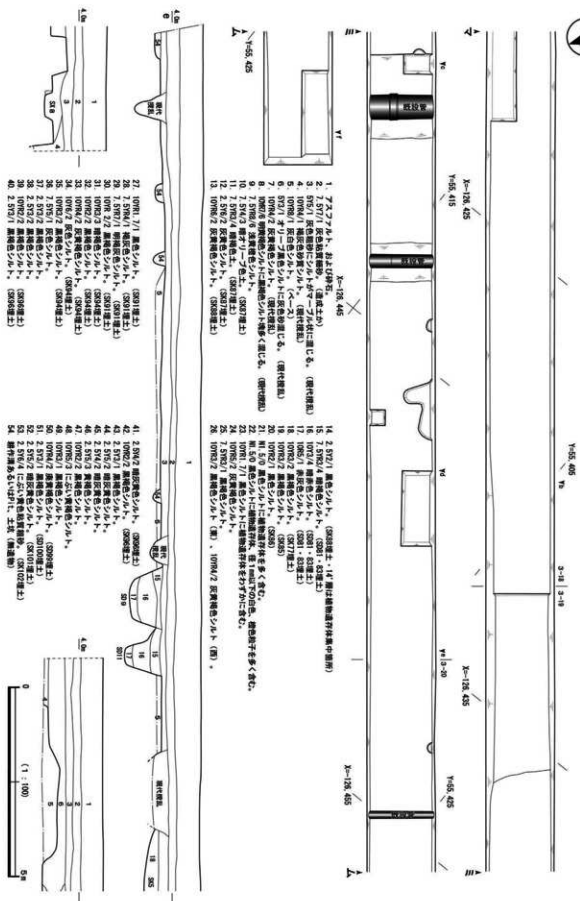




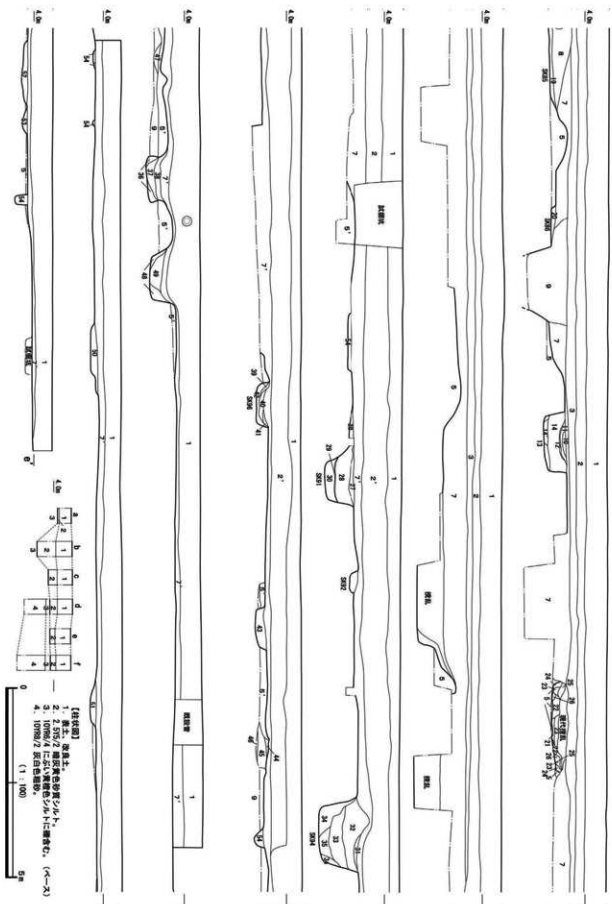
第Ⅶ-13図 金沢川遺跡(第2次)3区平面图1(1:100)



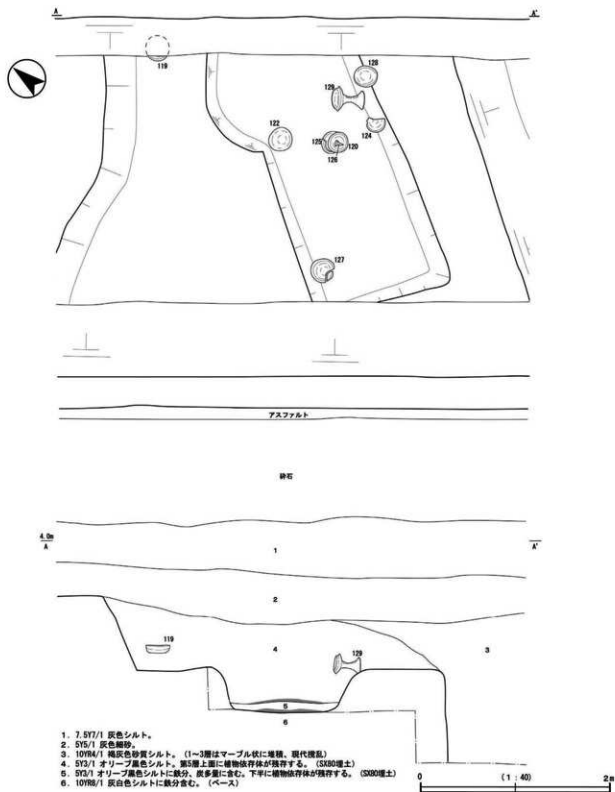
第VII-14図 金沢川遺跡(第2次)3区平面図2(1:100)



第七-15 図 河川遺跡跡(第2次)3区平面図3・十層断面図1 (1:100)



第七-16图 金沢川遺跡(第2次)3区土层断面图2・柱状图(1:100)



第VII-17図 金沢川遺跡(第2次)3区S×80平面図・土層断面図(1:40)

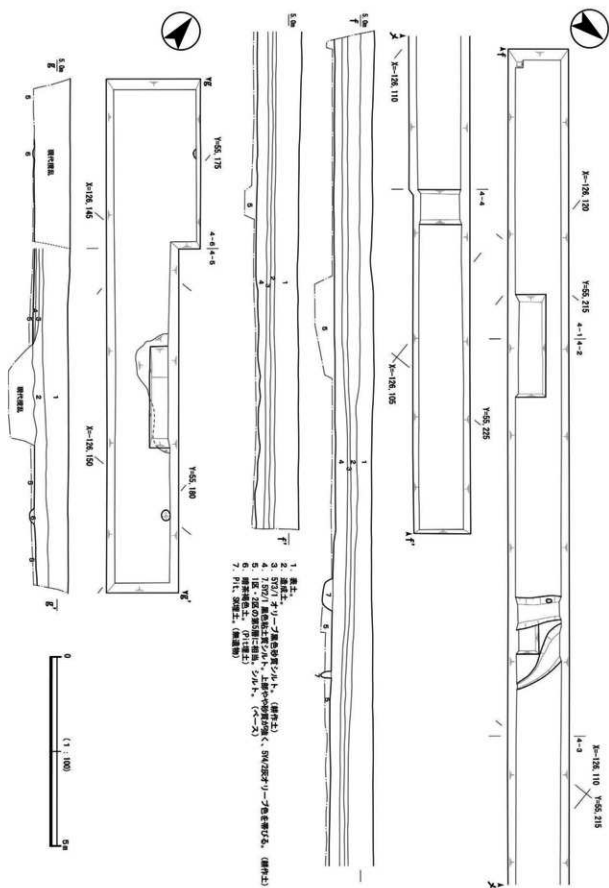
**SK84** 1.5m×0.9mの土坑。木片が出土。時期を判断できる遺物が出土しなかったため、特定には至らなかった。

**SK85** 2.05m以上×0.24m以上の土坑。残存深0.33m。土師器高杯が出土したほか、図化できない

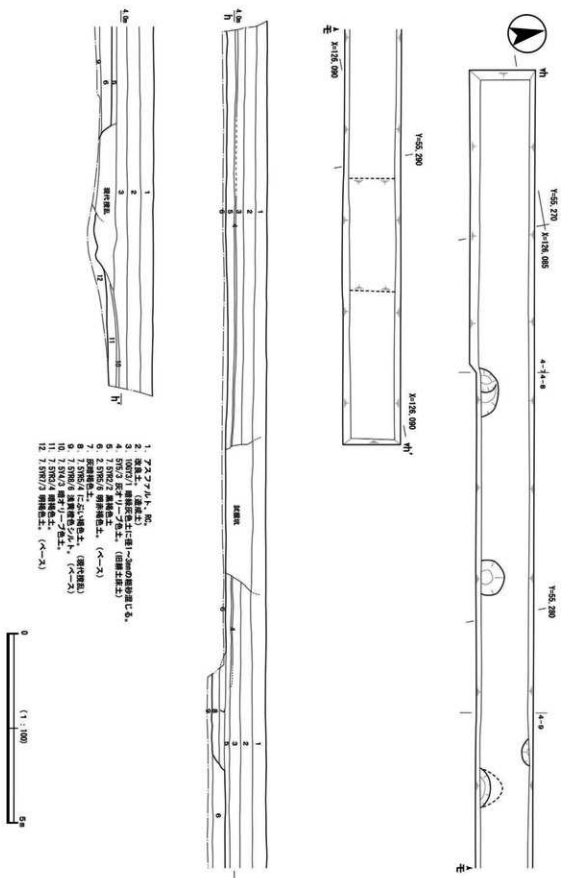
小片にも高杯や甕を含む。

**SK86** 1.07m以上×0.40m以上の土坑。残存深0.06m。土師器甕が出土。

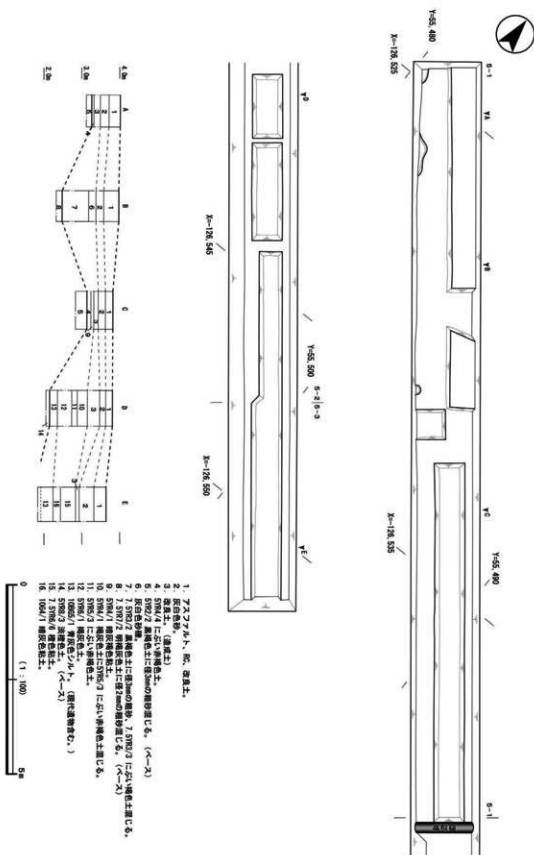
**SK87** 1.14m以上×1.66mの土坑。残存深0.57m。灰軸陶器が出土している。平安～中世ごろの遺構で、



第VII-18図 金沢川遺跡(第2次)4区平面図1・土層断面図1(1:100)



第七-19図 金沢川遺跡(第2次)4区平面図2・土層断面図2(1:100)



第七-20圖 金沢川遺跡(第2次)5区平面図・柱状図(1:100)



このほか、土鍾、須恵器瓶類が出土している。

**SD88** 溝としたが、落ち込みの可能性がある。山茶碗、小片だが土師器羽釜が出土している。中世の遺構か。

**SK89** 1.22m以上×2.37mの土坑。残存深0.28m。土師器小片が出土しているが、時期の特定には至らなかった。

**SK90** 1.43m×1.25m以上の土坑。残存深0.86m。遺物が出土しなかったため、時期は不明である。

**SK91** 2.61m×0.96m以上の土坑。残存深0.87m。遺物が出土しなかったため、時期の特定には至らなかった。

**SK92** 1.16m×1.66mの土坑。残存深0.31m。いずれも小片で、図化できるものはなかった。検出時、黒色の植物が面的に分布する状況であった。

**SK93** 1.18m以上×1.32mの土坑。残存深0.45m。いずれも小片で図化できるものはなかったが、土師器甕が出土した。古墳時代後期から平安時代ごろのうち、いずれかの時期に属するものだろう。

**SK94** 1.3m以上×1.81mの土坑。残存深1.07m。葉（種類不明）が出土した。葉以外の遺物が出土しなかったため、時期の特定には至らなかった。

**SK95** 1.58m以上×0.77mの土坑。残存深0.43m。遺物が出土しなかったため、時期の特定には至らなかった。

**SK96** 1.08m×0.46m以上の土坑。残存深0.54m。いずれも小片で図化できるものはなかったが、古式土師器台付甕が出土している。

**SK97** 1.2m以上×0.93mの土坑。残存深0.27m。7世紀後半以降の須恵器甕片が出土している。

**SK98** 0.86m×0.34m以上の土坑。残存深0.23m。遺物が出土しなかったため、時期の特定には至らなかった。

**SD99** 幅1.57m、長さ1.34m以上の東西溝。残存深0.21m。かえりのある須恵器杯蓋が出土している。このほか混入品と考えられる弥生土器を含む。

**SD100** 幅1.08m、長さ0.53m以上の東西溝。残存深0.12m。SD99出土遺物より少し古相にみえる須恵器高杯の脚部片、土師器甕片が出土している。

**SK101** 1.68m×0.65m以上の土坑。残存深0.11m。いずれも小片で図化できるものはなかったが、

土師器小片、須恵器杯、甕が出土していることから、古代に属する遺構である。

**SK102** 1.28m以上×0.58mの土坑。残存深0.11m。いずれも小片で図化できるものはなかったが、土師器小片、須恵器甕が出土していることから、古代に属する遺構である。

## 6区

**SD103** 幅0.4m、長さ3.3m以上の南北溝。残存深0.04m。いずれも小片で図化できるものはなかったが、土師器や須恵器が出土している。古代に属する遺構である。

**SD104** 幅0.44m、長さ1.5m以上の南北溝。残存深0.09m。いずれも図化できるものはなかったが、土師器小片や須恵器杯H蓋が出土していることのみで、古墳時代後期から飛鳥時代の遺構と判断した。

**SD105** 幅0.25m、長さ1.33m以上の東西溝。残存深0.06m。いずれも小片で図化できるものはなかったが、土師器片が出土している。時期の特定には至らなかった。

**SD106** 幅0.24m、長さ1.45m以上の斜行溝。残存深0.07m。いずれも図化できるものはなかったが、土師器小片、古代の須恵器甕が出土している。

**SK107** 0.72m×0.22mの土坑。残存深0.19m。遺物が出土しなかったため、時期の特定には至らなかった。

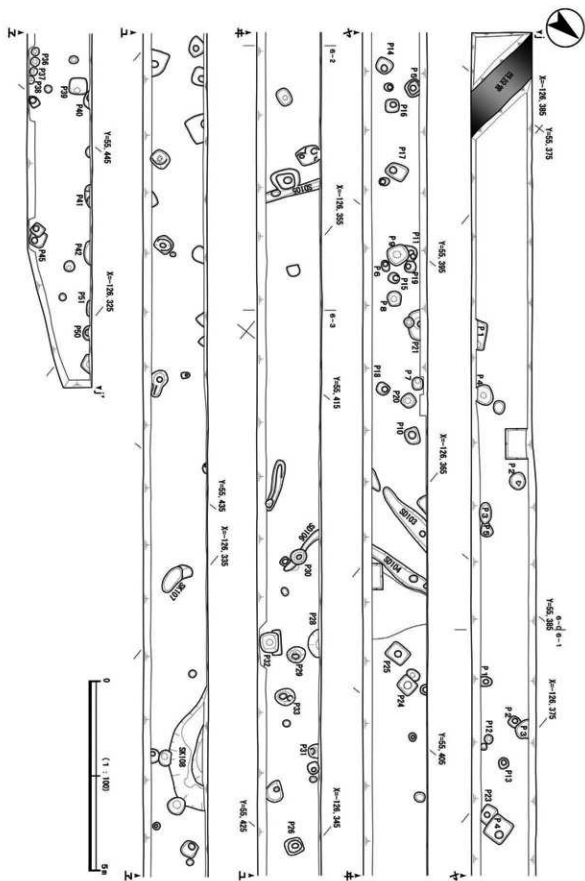
**SK108** 0.93m以上×3.3mの平面不定形土坑。残存深1.42m。調査区北へ広がっているため、南北規模は不明である。堆積状況から、徐々に埋まっていったものとみられるが、遺物に大きな時期差は認められない。出土遺物は遺構の規模に対し、多くはない。いずれも7世紀後半ごろのものである。

**SK109** 1.05m以上×2.68mの方形の浅い土坑。残存深0.37m。調査区外へ広がっている。須恵器杯Hと須恵器無台杯が出土している。いずれも7世紀後半ごろに属するものである。

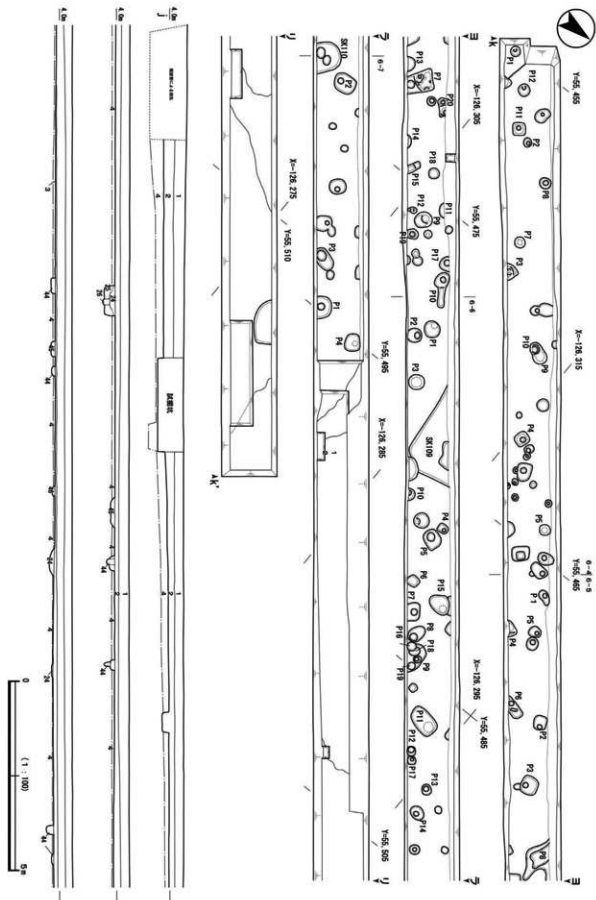
**SK110** 0.62m以上×1.04mの土坑。残存深0.68m。7世紀後半ごろの須恵器杯Hや高杯とともに、椀型鉄滓1点が出土している。土坑に被熱痕跡などは確認できなかった。飛鳥時代に属するものであろう。

## 8区

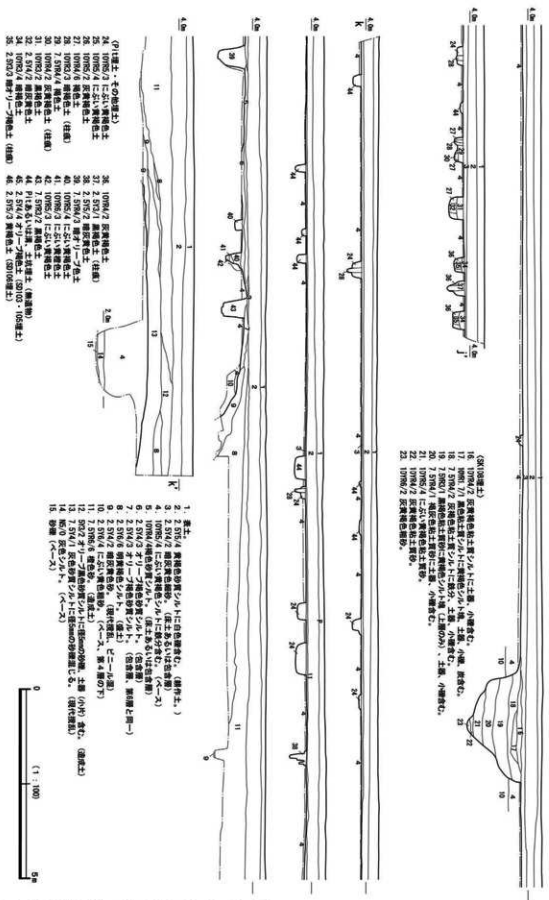
**SK111** 陶磁器、絵皿などが出土したことから、



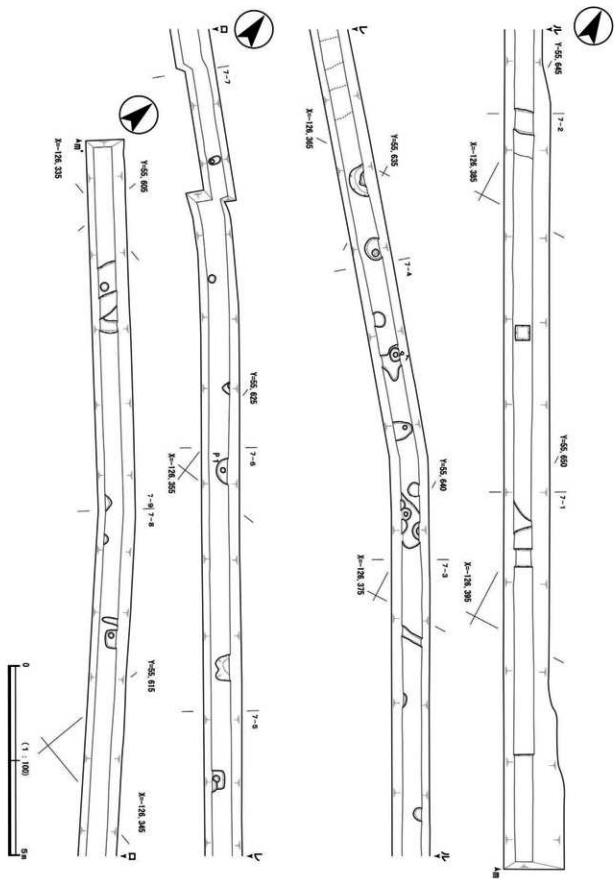
第Ⅶ-21圖 金沢川遺跡(第2次)6区平面圖1(1:100)



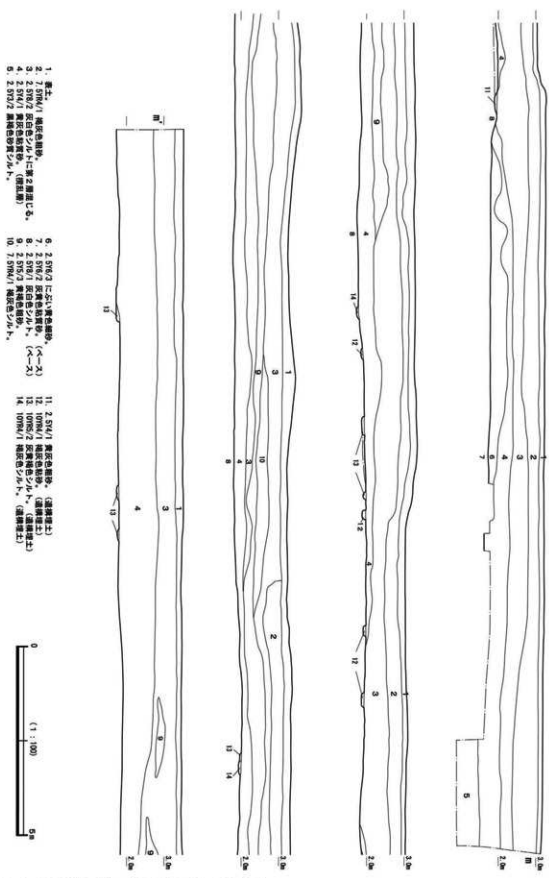
第Ⅶ-22図 金沢川遺跡(第2次)6区平面図2・土層断面図1(1:100)



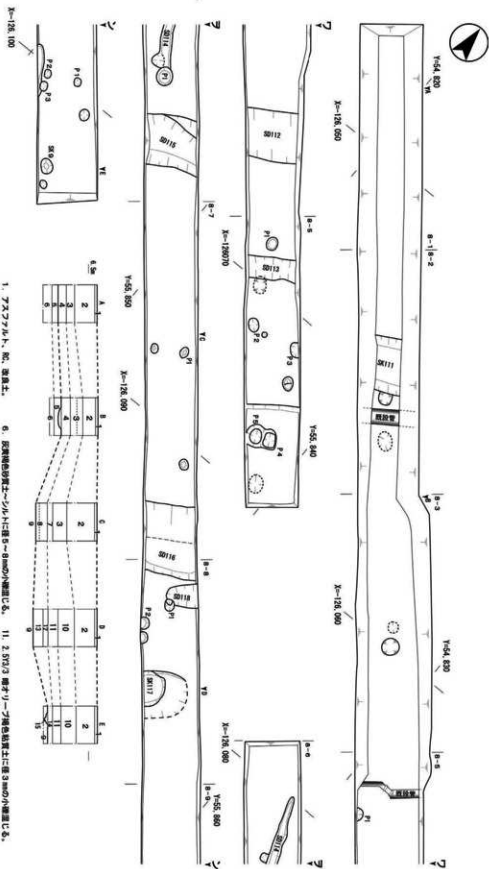
第VII-23図 金沢川遺跡(第2次)6区土層断面図2 (1:100)



第七-24図 金沢川遺跡(第2次)7区平面図(1:100)



第VII-25図 金沢川遺跡(第2次)7区土層断面図(1:100)



第七-26図 命沢川遺跡(第2次)8区平面図・柱状図(1:100)

近世以降の土坑であろう。規模は0.71m以上×1.52m。

**SD112** 幅1.34m、長さ1.41m以上の東西溝。いずれも小片で図化できるものはなかったが、土師器、常滑産陶器のほか、須恵器杯Hが出土している。常滑産陶器の出土から、中世以降に属する遺構と判断した。

**SD113** 幅0.6m、長さ1.35m以上の東西溝。残存深0.08m。いずれも小片で図化できるものはなかったが、古代の須恵器甕が出土している。

**SD114** 幅0.29m、長さ3m以上の南北溝。残存深0.2m。いずれも小片で図化できるものはなかったが、土師器、灰軸陶器椀皿類が出土している。小穴P1と重複関係にあり、それに先行する。

**SD115** 幅1.44m、長さ1.40m以上の東西溝。残存深0.16m。いずれも図化に耐えうるものはないが、

土師器小片や灰軸陶器小片が出土。平安時代以降に廃絶した溝か。

**SD116** 幅1.88m、長さ1.34m以上の溝。土師器甕とみられるものや、平安時代ごろの土師器杯のほか、小片ではあるが須恵器杯蓋が出土している。

**SK117** 0.96m×0.54m以上の土坑。残存深0.23m。7世紀後半ごろの須恵器高杯が出土している。

**SD118** 幅0.64m、長さ0.81m以上の溝。残存深0.1m。復元怪ながら、20cmを超える須恵器皿蓋が出土。奈良時代以降に埋没した溝であろうか。このほかに、いずれも小片だが、土師器、須恵器が出土している。

**SK119** 0.4m×0.3mの土坑。残存深0.35m。土師器小片のほか、木片が2点出土した。時期の特定には至らなかった。(土橋)

## 第3節 遺物

### 1. 概要

第1次調査の出土遺物は飛鳥時代から江戸時代の土器・陶磁器・瓦・石製品・鉄製品・木製品などで、総量はコンテナ換算で16箱(25.35kg、整理前、木製品を除く)である。第2次調査の出土遺物は弥生時代から鎌倉時代の土器・陶磁器・瓦・石製品・鉄製品・木製品などで、総量はコンテナ換算で34箱(56.45kg、整理前、木製品を除く)である。

ここでは、範囲確認調査及び第1次調査A～C区、第2次調査1～8区の遺構・包含層の出土遺物である土器・陶磁器等(石製品・金属製品・土製品を含む)と第2次調査出土の木製品を示す。第2次調査9・10区は顕著な遺物が出土していない。各遺物の詳細については遺物観察表(第VII-5～9表)を参照されたい。

### 2. 内容

#### (1) 範囲確認調査(第VII-27図)

**SZ200出土遺物(1)** 1は常滑産甕。近世のもの。

**包含層出土遺物(2～13)** 2は須恵器杯蓋。奈良時代以降のもの。3は須恵器杯B。底部に墨痕が残る。4～6は山茶碗、7は灰軸陶器皿、8は須恵器壺、9は土師器羽釜、10は土師器甕、11は陶器加工円盤、12は磁器碗、13は土師器壺。

#### (2) 第1次調査(第VII-28～30図)

**SK5出土遺物(14)** 14は土師器把手である。

**SK8出土遺物(15)** 15は須恵器高杯。7世紀中ごろから後半ごろのものといえる。

**SK12出土遺物(16)** 16は須恵器の杯蓋。SK12に隣接するP11出土の破片と接合した。かえりをもたないので、7世紀末以降のものである。

**SK14出土遺物(17)** 17は土師器甕。口縁部形態からみて10世紀以降のものである。

**SK17出土遺物(18)** 18は山茶碗。藤沢編年第3型式ごろのもの。高台にもみぞ痕があることからみて、第3型式の中でもやや新相のものか。

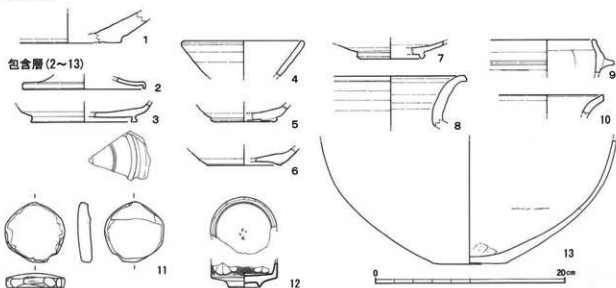
**SK20出土遺物(19～22)** 19は灰軸陶器碗。9世紀後半ごろのものである。20は灰軸陶器碗。19よりもやや新相で、10世紀後半から末ごろのものか。21・22は平瓦片である。

**SK22出土遺物(23)** 23は須恵器無台杯。底部の調整からみて、7世紀後半ごろのものである。

**SK25出土遺物(30～50)** 30・31は須恵器杯H蓋、32は須恵器杯H。30～32は7世紀中ごろのものである。33は土師器高杯で、脚部を欠く。34～36は須恵器高杯で、いずれも脚部のみ、34・36は透かしをもつ。33～36は7世紀中ごろのものか。37・38は土師



SZ200 (1)



第Ⅶ-27図 金沢川遺跡範囲確認調査遺物実測図(1:4)

器瓶、39は土師器甕、7世紀中から後半ごろのものか。40・41は土師器把手、42・43は土師器甕、44は須恵器横瓶、45は須恵器壺で口縁部のみ、46~49は須恵器甕、50は石製品砥石である。

**S K 28出土遺物(24~27)** 24は土製品土鏝、25は須恵器杯H蓋である。大きさからみて、杯Hは終末段階のもので7世紀後半ごろのものか。26は須恵器杯H。24よりやや古相を示す。7世紀中ごろのものである。27は須恵器高杯脚部のみで、透かしをもつ。26同様、7世紀中ごろのものである。

**S K 29出土遺物(28)** 28は古瀬戸産天目茶碗、鉄軸を施す。口縁部形態からみて古瀬戸産天目茶碗C類、15世紀前半ごろのものである。

**S K 32出土遺物(29)** 29は土師器把手。

**B区Pit出土遺物(51~54)** 51は土師器杯あるいは杯蓋で、つまみのみ残存する。52は須恵器無台杯で、外面底部に糸切痕跡があることからみて、奈良時代以降のものである。53・54は土師器甕。

**A区包含層(55~60)** 55は須恵器杯B。56は灰軸陶器段皿。57・58は灰軸陶器の皿あるいは碗か。59・60は山茶碗。

**B区包含層出土遺物(61~63)** 61は須恵器壺。体部より上は欠損している。62は加工円盤。63は平瓦、両面ともに工具を用いたナデ調整を施す。

**C区包含層出土遺物(64)** 64は土師器の羽釜。口縁部は欠損しており、穿孔の有無は不明である。

## (2) 第2次調査(第Ⅶ-31~34図)

### 1区

**S K 48出土遺物(65~67)** 65・66は高杯。65は杯部、66は脚部上半である。67は甕である。弥生時代末期から古墳時代初めごろのものか。

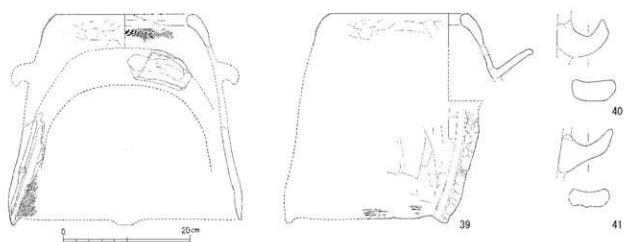
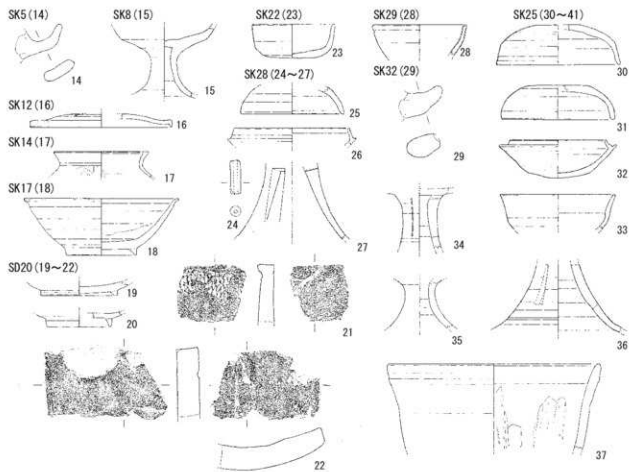
**S K 49出土遺物(68~70)** 68・69は土師器高杯。68は杯部、69は脚部上半である。70は土師器台付甕。口縁部はいわゆるS字甕B類。いずれも弥生時代末期から古墳時代初めごろのものである。

**S K 50出土遺物(71・72)** 71は土師器杯。平安時代ごろのものである。72は鉄製品、片面の中央部に稜線がみえることから、槍鉋であろうか。

**S K 52出土遺物(73~75)** 73は須恵器杯H蓋小片、74は須恵器高杯で脚部のみ、75は土師器甕である。混入品の可能性がある。

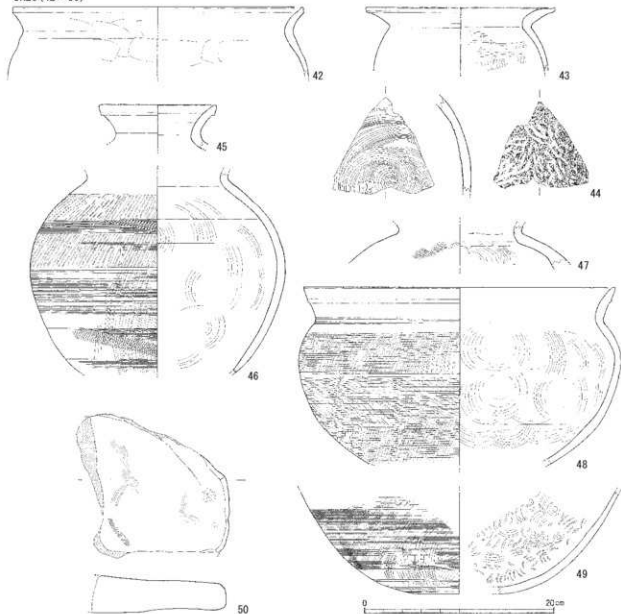
**S K 55出土遺物(76・77)** 76は灰軸陶器皿。77は土製品土鏝。

**S D 59出土遺物(78~81)** 78・79は須恵器杯H蓋で、いずれも7世紀中ごろから後半ごろのものである。80は須恵器杯蓋のつまみ部、7世紀後半以降のものである。81は須恵器杯Hで、7世紀後半ごろのものである。



第Ⅶ-28図 金沢川遺跡(第1次)遺物実測図1(1・4、27±1・6)

SK25 (42~50)



第Ⅶ-29図 金沢川遺跡(第1次)遺物実測図2(1:4)

**SK56出土遺物(82)** 82は須恵器甕。7世紀後半ごろのものである。

**2区**

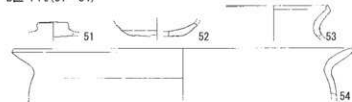
**SK65出土遺物(83~93)** 83は土師器杯A。内面に二段放射暗文を施す。84・85は須恵器無台杯、86・87は須恵器瓶類の底部。88は須恵器杯B。83~88は7世紀後半から8世紀初めごろのものである。89は高杯。この中ではやや新相にみえる。90・91は土師器甕小片で、焚口周辺を覆う底部である。92・93は土師器甕である。

**SK66出土遺物(94・95)** 94は須恵器横瓶、95は須恵器甕。7世紀後半ごろのものである。

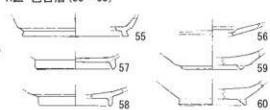
**SD68出土遺物(96)** 96は須恵器平瓶で口縁部から頸部まで残存する。7世紀後半ごろのものである。

**SD69出土遺物(97~115)** 97~99は須恵器杯蓋。口縁端部を折り込むことで生じる「かえり」があるもの(99)とないもの(97・98)がある。100は須恵器杯H蓋、101は須恵器無台杯、102は須恵器杯Bあるいは杯B、103は須恵器碗。7世紀後半ごろのものである。104は須恵器盤B。表面の摩擦が著しい。105~107は土師器皿Aで、内面に暗文は認められない。108~114は土師器甕である。115は平瓦、凹面には布目痕跡がある。

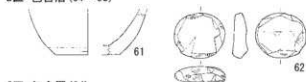
B区 Pit(51~54)



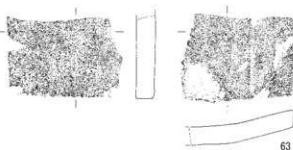
A区 包含層(55~60)



B区 包含層(61~63)



C区 包含層(64)



0 20cm

第VII-30図 金沢川遺跡(第1次)遺物実測図3(1:4)

## 3区

**S K 77出土遺物(116~118)** 116は須恵器杯H蓋、117は須恵器低脚高杯。7世紀後半ごろのものであろう。118は木製品鋸、使用材はコナラ属アカガシ亜属である。

**S X 80出土遺物(119~129)** 119~123は須恵器杯H蓋、123のみ小片で、ほかはほぼ完形のものが多い。124~127は須恵器杯Hで、いずれもほぼ完形である。128・129は須恵器高杯。128は意図的に脚部を打ち欠いている可能性がある。129は脚部の透かしは2段および2方向である。いずれも7世紀中ごろから後半までにおさまるものであろう。

**S K 78出土遺物(130)** 130は須恵器杯H。S X 80出土遺物同様、7世紀中ごろから後半のものである。

**S D 83出土遺物(131・132)** 131は山茶碗。藤沢福年第5あるいは6型式にあたり、12世紀後半から13世紀前半にかけてのものである。132は土鍾。

**S K 86出土遺物(133)** 133は土師器甕。

**S D 88出土遺物(134)** 134は山茶碗である。

**S D 99出土遺物(135・136)** 135は須恵器杯蓋。かえりがあるものである。136は弥生土器か。

**S D 100出土遺物(137)** 137は須恵器高杯の脚部。3方向透かしからみて、7世紀中ごろのものである。

**S K 97出土遺物(138)** 138は須恵器甕。7世紀後半

以降のものともみてよい。

## 6区

**S K 108出土遺物(139~154)** 139~143は須恵器杯H蓋。7世紀後半ごろのものである。144・145は須恵器杯蓋。144はかえりのないもので、145はかえりの有無不明である。146は須恵器杯H、147は須恵器鉢あるいは碗、148は須恵器瓶類の平瓶か。7世紀後半ごろのものである。149は土師器高杯の脚部、150~153は土師器甕、154は大型の土鍾か。

**S K 109出土遺物(155・156)** 155は須恵器杯H蓋、156は須恵器無台杯。7世紀後半ごろのものである。

**S K 110出土遺物(157~159)** 157は須恵器杯H、158は須恵器高杯の脚部上半。透かしはない。7世紀後半ごろのものである。159は鉄滓。いわゆる碗型鉄滓である。

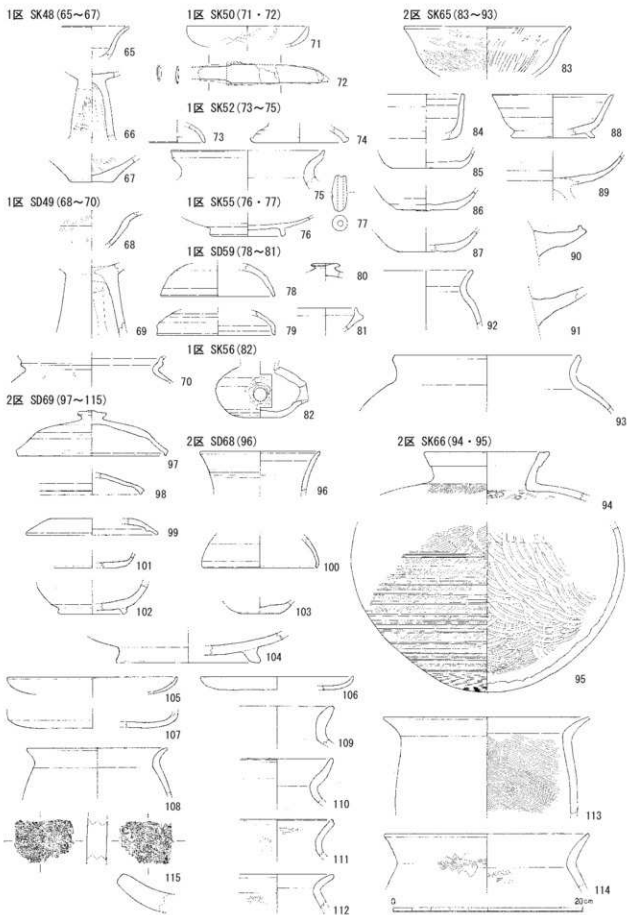
## 8区

**S D 115出土遺物(160・161)** 160は灰軸陶器碗、161は灰軸陶器皿。

**S D 116出土遺物(162・163)** 162は土師器杯、163は土師器瓶か。

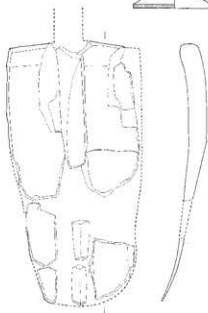
**S K 117出土遺物(164)** 164は須恵器高杯。杯部内面にはヘラ記号状の焼成前線刻がある。脚部に透かしがなく、7世紀後半以降のものであろう。

**S D 118出土遺物(165・166)** 165は須恵器皿蓋、7

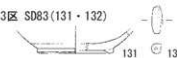


第Ⅶ-31圖 金沢川遺跡(第2次)遺物実測圖1(1:4)

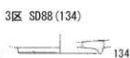
3区 SK77(116~118)



3区 SD83(131・132)



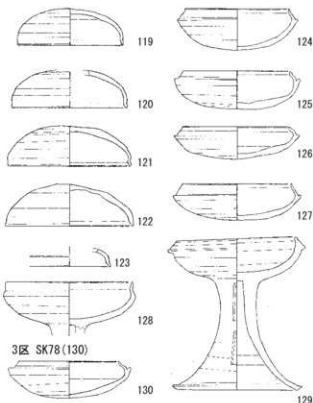
3区 SD88(134)



3区 SK86(133)



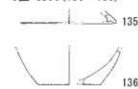
3区 SX80(119~129)



3区 SK78(130)



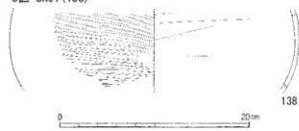
3区 SD99(135・136)



3区 SD100(137)



3区 SK97(138)



第Ⅶ-32図 金沢川遺跡(第2次)遺物実測図2(1:4)

世紀後半ごろのものである。166は土師器鍋。165とほぼ同時期のものであろう。

**1区Pit出土遺物(167・168)** 167は須恵器杯H蓋。7世紀後半ごろのものである。168は須恵器甕。7世紀後半ごろのものである。

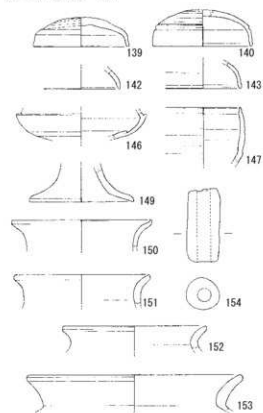
**3区Pit出土遺物(169)** 169は円筒埴輪小片。

**6区Pit出土遺物(170~179)** 170は須恵器杯H蓋、171・172は須恵器杯蓋。172は壺蓋の可能性もある。

173は須恵器杯H、174は須恵器杯。175は須恵器低脚高杯。杯部を欠く。176は須恵器円面硯。体部の透かしは十字透かしか。177は須恵器短頸壺。底部を欠く。178は須恵器高杯あるいは短頸壺。170~178は7世紀後半ごろのものである。179は鉄洋。159と同じく椀型鉄洋である。

**8区Pit出土遺物(180~183)** 180・181は土師器杯。182は須恵器長頸瓶。頸部以下を欠く。7世紀後半

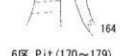
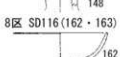
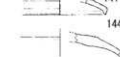
6区 SK108(139~154)



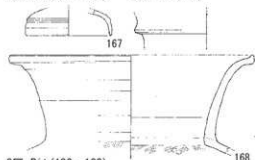
6区 SK109(155・156)



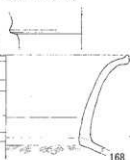
6区 SK110(157~159)



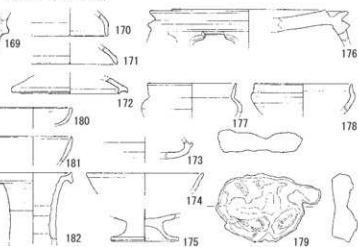
1区 Pit(167・168)



3区 Pit(169)



6区 Pit(170~179)



8区 Pit(180~183)



第VII-33図 金沢川遺跡(第2次)遺物実測図3(1:4)

ごろのものである。183は土師器甕。

1区包含層出土遺物(184~190) 184は須恵器杯蓋。かえりのないもの。185~187は山茶碗、189は須恵器壺で、口縁端部を欠いている。188は土師器把手、190は弥生土器壺か。

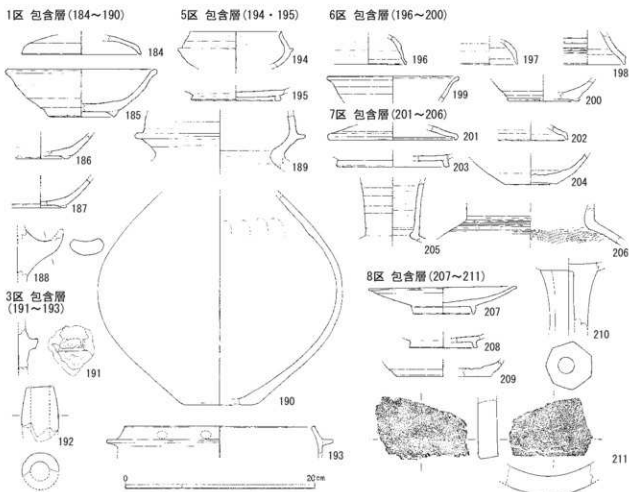
3区包含層出土遺物(191~193) 191は円筒埴輪か。192は土錘片、193は土師器羽釜で口縁部には焼成前

穿孔がある。

5区包含層出土遺物(194・195) 194は須恵器杯H、195は須恵器杯である。

6区包含層出土遺物(196~200) 196・197は須恵器杯H蓋、198は須恵器高杯脚部、199・200は山茶碗である。

7区包含層出土遺物(201~206) 201・202は須恵器



第Ⅶ-34図 金沢川遺跡(第2次)遺物実測図(1:4)

杯蓋、203は須恵器杯、204は須恵器壺底部。205は須恵器長頸瓶。口縁部および頸部以下を欠く。206は須恵器甕である。

**8区包含層出土遺物(207~211)** 207・208は灰釉陶器皿、209は須恵器壺底部である。210は土師器高杯脚部、7面に面取りしている。211は平瓦。凹面は布目痕跡がある。(土橋)



第Ⅶ-35図 金沢川遺跡(第2次)6区周辺表探遺物

## 第4節 小 結

### 1. 遺 構

金沢川遺跡のすぐ南西には、天王遺跡が所在しており、調査時からその関連を想定していた。

2度にわたる本調査の調査区は天王遺跡とは道路を隔てていることや、調査区の幅が2m前後と狹隘であったため、直接関連を示すような遺構を考えることは難しい。しかしながら、関連を示唆するよう

な遺構を検出することができた。

天王遺跡から北へ延びる第2次調査6区では、複数の小穴を検出した。その多くには柱痕跡があり、中には柱根が残存していたものもあった。さらに、これらの規模は小型なもの径0.2m前後だが大型のものに限定すれば、径あるいは一辺0.5m前後の丸形、あるいは方形の柱穴を数多く検出した。調査



区幅が狭く、建物等の検討は難しいものの、柱の形や規模からは古代の大規模建物とまではいかないが、規模のやや小さい建物、あるいは大規模建物や官衙に付随する施設の存在を想定することができる。これらの柱穴からは少量ながら8世紀初めごろのもの、これらの大半は7世紀後半から8世紀初めごろのものである。このことから、第2次調査6区検出の柱穴はその多くをこの時期に造営し、廃絶したことがうかがえる。この様相は隣接する天王遺跡の出土遺物<sup>19</sup>の年代とも合致してくる。

このほか天王遺跡との関連だけでなく、第2次調査3区の位置は昭和52年度県営園場整備事業に先立って実施した調査で検出した塚越3号墳に近接する。これに関連するものかは定かではないが、3区では土壇墓状の遺構S X 80を検出した。この遺構からは須恵器供献具である高杯や、杯Hなどが出土しており、その中には伊勢湾沿いにその出土分布域を限定する高杯の一種「脚付短頸壺」を含む。この器種は当該地域特有の器種とされている。塚越3号墳出土品では、底部を欠く短頸壺様の須恵器を「杯」として報告しているものがある。壺に比してやや扁平であることから杯として判断したと考えられるが、これについてもこの地域特有の器種、脚付短頸壺として理解するほうがよいだろう<sup>20</sup>。これまでの調査と今回の調査の結果をふまえると、金沢川遺跡3区一帯はこの脚付短頸壺を有する墓域であることが想定でき、須恵器の供給源は岸岡山古窯がその候補となりうるのではないだろうか<sup>21</sup>。

## 2. 遺物

本調査では、特筆すべき遺物がいくつか出土した。第2次調査1区では鉄製槍鉋が、2区では暗文を施した土師器杯類、3区では木燭や須恵器供献具類が出土した。6区では官衙城や邸宅跡、寺院跡などで出土するような円面硯や、やや残存率が低いため復元口径に不確定さはあるものの、大型食器が出土している。そのほか、鉄滓が2点出土している。

1区出土の鉄製槍鉋は平安時代ごろの土師器皿をともなって出土しており、これらが出土した小穴については土壇墓あるいは火葬墓であろう。3区の木燭や須恵器供献具類は、出土状況からみて副葬品とみてよいだろう。

6区出土の円面硯は、形からは7世紀後半のものと考えられ、天王遺跡や金沢川遺跡検出の遺構との年代とも合致する。また、この遺物の存在は少なくとも、周辺域に硯を使用するような官人位2人間の存在が想定できよう。同様に、大型食器や2区出土の暗文土師器は一般集落ではあまり出土しないものであるため、この一帯が官衙域であった可能性を示唆するものであろう。ただし、同調査区内で出土した鉄滓は武器類に使用できるような鋼を製錬した際の残留物であること、第2次調査1・2・6区で出土した焼成粘土、第1次調査B区S F 26の焼成土坑などからは、一帯にはなんらかの工房の存在も示唆できる。これらのことを勘案すると、6区を含む一帯は、天王遺跡に関連するような官衙域の可能性は高い。しかしながら、柱の規模や出土遺物からは中核施設よりも数段、重要度の低い空間であったと考えることができ、その候補としては工房・食堂のような存在などが想定できよう。

## 3. 金沢川遺跡の位置付け

本調査は危険ながらも遺構及び遺物からはこの一帯の歴史を知る上で、重要な情報を得ることができただろう。そこで、本調査から得た情報をふまえて、金沢川遺跡の位置づけをおこないたい。

遺構については大きく2時期の変遷がある。古墳時代後期、6世紀中ごろから7世紀後半ごろの金沢川一帯は、岸岡山古窯跡の須恵器供給を受ける墓域であったことがうかがえる。特に3区周辺は隣接する塚越1・3号墳の存在から、塚越古墳群の領域であった可能性がある。ただし、塚越3号墳に比して第2次調査6区SK110出土土師器の時期は、やや新相にみえるため、直接的な関係はないかもしれない。いずれにせよ、古墳時代後期ごろの金沢川下流南岸の野平部には古墳をはじめとした墓域が展開していたとみてよいだろう。

7世紀後半から8世紀初めごろ、天王遺跡を中心として、この一帯では土地利用の変化が生じる。天王遺跡出土遺物および遺構、本調査出土の円面硯、大型食器、暗文土師器や、やや大型の柱穴、そこに残存していた柱根などから考えると、寺院や邸宅、官衙などの機能を有する施設がこの一帯に広がっていたと考えられる。そして、その北限は第2次調査

6区で金沢川南岸までトレンチ状の調査をした結果、天王遺跡で見つかっているような区画溝、塀などの遺構を確認することができなかった。ただし、これは北限が金沢川によって区画されていた可能性もあり、今後の調査によって天王遺跡を含む諸施設の北限については再検討する必要がある。

そのほか、第2次調査2区でも組み合う柱はないものの、柱穴状の遺構や暗文土師器を始めとする7世紀後半ごろの土師器や須恵器が出土している。これらのことをふまえれば、天王遺跡をはじめとした諸施設の範囲は金沢川下流南岸の平野部の広範囲に

展開していた可能性がある。

以上のことから、金沢川下流域南岸の平野部は古墳時代後期ごろまでは墓域として展開していた。そして、古墳時代の終わりとともに律令制度が畿内を中心として敷設されはじめると、当地一帯は官衙あるいは地方豪族の邸宅など、この平野部の利用方法が変容したと理解できるだろう。

なお、周囲の田園からは7世紀後半ごろの土器を中心とする古代の須恵器や土師器の破片が多数出土しており(第VII-35図)、今後も周辺での開発に留意する必要がある。(土橋)

## 注

- (1) 土器等の分類・編年については以下の文献による。  
弥生土器・古式土師器：三重県埋蔵文化財センター『村竹コノ遺跡』2000年/愛知県埋蔵文化財センター『廻間遺跡』1990年。  
古代の土師器：斎宮歴史博物館『斎宮跡発掘調査報告I』2001年。  
須恵器：奈良文化財研究所『飛鳥・藤原宮発掘調査報告V』2017年。  
灰輪陶器：楢崎彰一「猿投窯の編年について」『愛知県古窯跡群分布調査報告』III、愛知県教育委員会、1983年。  
中世の土器：伊藤裕偉「南伊勢・志摩地域の中世土器」『三重県史』資料編考古2、三重県、2008年/伊藤裕偉「中世成立期における伊勢の土器相」『嶋技II』三重県埋蔵文化財センター、2000年。  
山茶碗：藤澤良祐「山茶碗研究の現状と課題」『研究紀要』3、三重県埋蔵文化財センター、1994年。  
古瀬戸・瀬戸美濃大窯：藤澤良祐「瀬戸美濃大窯編

年の再検討」『瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要』第10輯、高志書院、2008年。

常滑：中野晴久「瀬美・常滑」『中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～』(発表要旨集)2005年。

貿易陶磁：山本信夫「中世前期の貿易陶磁器」『概説 中世の土器・陶磁器』真福社/續伸一郎「中世後期の貿易陶磁器」(同上)。

瓦：山崎信二「中世瓦の研究」奈良国立文化財研究所、2000年/『近世瓦の研究』奈良文化財研究所、2008年。

- (2) 前川嘉宏「三重県における山茶碗の出土状況」『研究紀要』3、三重県埋蔵文化財センター、1994年。
- (3) 鈴鹿市教育委員会『天王遺跡-第3次発掘調査報告-』1998年。
- (4) 三重県教育委員会『鈴鹿市岸岡町 塚越3号墳』1978年。
- (5) 藤原秀樹「岸岡山2号窯跡出土の須恵器について」『海の研究』、鈴鹿市教育委員会、1995年。

調査 次数	調査区	地区	遺構番号 (報告)	遺構番号 (調査時)	性格	時代	長さ (m)	幅 (m)	高さ (m)	出土遺物	備考 (前後関係、特徴等)
範囲 確認	11-11	—	5280	—	—	—	—	—	—	青雉瓦葺	瓦片類

第Ⅴ-1表 金沢川遺跡範囲確認調査遺構一覧表

調査 次数	調査区	地区	遺構番号 (報告)	遺構番号 (調査時)	性格	時代	長さ (m)	幅 (m)	高さ (m)	出土遺物	備考 (前後関係、特徴等)
1	A	A1	981	981	土坑	古代	1.20	1.30	0.55	土師器・竇土器	
1	A	A2	982	982	土坑	中世以降	2.66	1.33	0.03	土師器・竇土器・山形物	
1	A	A3	983	983	土坑	中世	0.80	0.70	0.05	土師器	
1	A	A5	984	984	土坑	古代?カ	0.96	0.80	0.19	土師器・竇土器	
1	A	45+8	985	985	土坑	古代	1.10	0.69	0.89	土師器	
1	A	46	986	986	土坑	中世	1.15	0.80	0.77	土師器	
1	A	46	987	987	土坑	中世	0.93	0.45	0.65	土師器・竇土器	
1	A	47	988	988	土坑	縄文	0.70	0.77	0.28	竇土器	
1	A	47	989	989	溝	中世	2.30	0.10	0.30	土師器	南北方向
1	A	47+8	9810	9810	土坑	中世	1.00	0.80	0.34	土師器	
1	A	48	9811	9811	土坑	中世	0.84	0.70	0.10	土師器	
1	A	48+9	9812	9812	土坑	奈良	1.45	1.45	0.43	土師器・竇土器	
1	A	49	9813	9813	土坑	古代	1.18	0.57	0.61	土師器・竇土器	
1	A	49	9814	9814	土坑	平安	1.18	0.67	0.68	土師器	
1	A	49	9815	9815	土坑	古代	1.12	1.09	0.24	土師器・竇土器	
1	B	B1	9816	9816	溝	縄文以降	2.09	0.25	0.21	土師器・竇土器・埴土塊	P1・2・4・6・12に付、南北方向 埋没跡の連続
1	B	B3	9817	9817	土坑	鎌倉以降	0.65	0.47	0.22	山形物	
1	B	98	9818	9818	土坑	中世	0.61	0.61	0.60	土師器	
1	B	98+12	9819	9819	溝	縄文・奈良	1.69	0.65	0.15	土師器・竇土器	南北方向
1	B	98+14	9820	9820	溝	奈良・平安	2.80	0.76	0.41	河洲物類・瓦	9821に付、南北方向
1	B	98+14	9821	9821	土坑	近世	1.45	1.15	0.12	陶磁器	9820と重複、南北方向
1	B	98+14	9822	9822	土坑	縄文	0.89	0.45	0.19	土師器	竇土器
1	B	986	9823	9823	溝	縄文	1.65	0.33	0.03	土師器・竇土器	9824に付、南北方向
1	B	986	9824	9824	溝	縄文・奈良	2.70	0.33	0.13	土師器・竇土器	9825に付、東西方向
1	B	986	9825	9825	土坑	縄文・奈良	2.21	1.79	0.22	土師器・竇土器	9824に付、東西方向
1	B	987	9826	9826	積成土坑	中世	0.72	0.61	0.23	土師器	
1	B	986	9827	9827	土坑	中世	0.60	0.29	0.92	土師器	9828で埋没、埴土・砂多量混入
1	B	987+16	9828	9828	土坑	古墳期・縄文	2.62	1.77	0.78	土師器・竇土器・埴土塊	9829から入り
1	C	C3	9829	9829	土坑	中世	1.70	1.19	0.63	瓦片多量・土師器	
1	C	C3+2	9830	9830	溝	古代	2.45	1.00	0.32	竇土器	9831に付、東西方向
1	C	C3	9831	9831	土坑	中世	1.60	1.80	1.09	—	—
1	C	C3	9832	9832	土坑	古代	2.35	1.49	1.03	土師器・竇土器	土層で近世の陶磁器出土

第Ⅴ-2表 金沢川遺跡(第1次)遺構一覧表 \*斜体字の表記は記載の数値以上であることを示す

調査 次数	調査区	地区	遺構番号 (報告)	遺構番号 (調査時)	性格	時代	長さ (m)	幅 (m)	高さ (m)	出土遺物	備考 (前後関係、特徴等)
2	1	8	9831	981	柱穴?カ	古墳期・縄文	0.86	0.39	0.52	土師器・竇土器	柱穴(古墳時代初期)
2	1	8	9832	982	土坑	古代	—	—	0.20	土師器・竇土器	溝の可能性、壁でのみ確認
2	1	9	9833	983	溝	中世	0.50	1.20	0.20	土師器・竇土器	溝(北側、9842に付、東西方向)
2	1	9	9844	984	土坑	縄文	1.25	1.21	0.32	土師器	現代式、9843と重複、東西方向
2	1	11	9845	985	溝	中世	0.30	1.45	0.03	—	—
2	1	11	9846	986	溝	中世	1.69	0.10	0.16	土師器	溝、9843と重複、南北方向
2	1	12	9847	987	土坑	古代	1.20	0.72	0.28	土師器・竇土器	溝(埋没痕)・東西方向
2	1	14	9848	988	土坑	古墳前期	1.96	0.89	0.23	土師器	土坑(古墳時代初期)
2	1	18	9849	989	土坑	古墳前期	1.90	0.70	0.27	土師器	古墳時代初期?カ、9852に付
2	1	18	9850	9810	土坑	平安	0.66	0.41	0.58	土師器	*9849と重複
2	1	19	9851	9811	土坑	中世	0.62	0.27	0.40	土師器	溝の下部のみ、南北方向
2	1	20	9852	9812	土坑	縄文	0.99	0.27	0.43	土師器	土師器・竇土器
2	1	20	9853	9813	土坑	縄文	0.89	0.17	0.14	土師器	土師器・竇土器
2	1	24	9854	9814	土坑	古代	0.44	0.37	0.11	竇土器	土坑(古墳時代初期)、東西方向
2	1	24	9855	9815	土坑	平安以降	0.60	0.49	0.22	土師器・竇土器・河洲物類	9849に付
2	1	24	9856	9816	土坑	縄文	0.99	0.64	0.48	土師器	土師器・竇土器
2	1	24	9857	9817	土坑	中世	0.65	0.32	0.38	土師器	9859に付、東西方向
2	1	24	9858	9818	溝	古代	0.67	0.35	0.18	土師器	土師器
2	1	25	9859	9819	溝	縄文・奈良	2.75	0.60	0.31	竇土器	土師器・竇土器・9840に付、南北方向
2	1	25	9860	9820	溝	縄文・奈良	0.30	0.26	0.35	土師器	土師器
2	1	25	9861	9821	溝	平安以降	2.30	0.52	0.41	河洲物類	9862に付、南北方向
2	1	25+26	9862	9822	溝	中世	4.80	0.20	0.18	土師器	9863と重複?カ、南北方向
2	1	26	9863	9823	土坑	鎌倉	1.78	0.65	0.07	土師器	山形物・竇土器
2	1	26	9864	9824	土坑	古代	1.20	0.55	0.08	土師器	土師器
2	2	1	9865	984	土坑	縄文・奈良	1.00	1.09	0.23	土師器	古墳時代初期?カ、本表はこれよりも正確
2	2	6	9866	982	土坑	古代	0.66	0.20	0.12	土師器	土師器
2	2	6	9867	983	土坑	縄文	0.77	0.60	0.38	土師器	土師器
2	2	9	9868	9829	溝	奈良	2.77	2.97	0.17	土師器	土師器
2	2	24	9869	9811	溝	奈良・平安	—	—	—	土師器	土師器
2	2	24	9870	9822	溝	中世	0.77	0.40	0.11	土師器	9869?カ、9865に付、南北方向
2	2	25	9871	9824	溝	中世	1.77	0.26	0.10	—	—
2	2	25	9872	9825	溝	中世	1.29	0.36	0.14	—	—

第Ⅴ-3表 金沢川遺跡(第2次)遺構一覧表 \*斜体字の表記は記載の数値以上であることを示す

調査年度	調査区	地区	遺構番号(報告)	遺構番号(調査表)	物種	時代	長さ(m)	幅(m)	高さ(m)	出土遺物	備考(調査経緯、特徴等)	
2	3	1	5072	501	土	中世	2.67	1.27	0.50	土師器・弥生器・片断陶器・山形刺	壁柱状の瓦片が1面に先行、南北方向	
2	3	1	5071	502	土	古代	2.09	1.00	0.50	陶器類・古瓦片・土師器	503に近接	
2	3	2	5075	503	土	中世	0.57	0.40	0.21	山形刺	山形刺・土師器	
2	3	2	5076	504	土	中世	—	—	—	山形刺	瓦器	
2	3	2	5077	505	土	縄文・弥生	2.29	0.67	—	弥生器	5080に隣接する。遺跡は欠部で断続	
2	3	2	5078	506	土	縄文	—	—	—	弥生器	—	
2	3	2	5079	507	土	不明	1.91	0.62	0.27	—	—	—
2	3	2	5080	508	土	縄文	2.28	1.67	0.53	弥生器	—	—
2	3	2	5081	509	土	縄文	1.57	1.54	0.74	山形刺・土師器・陶器類	5083と東側を隔てる。南北方向	
2	3	3	5082	510	現代瓦片	現代	—	—	—	山形刺	タケラシテ	
2	3	2	5083	511	土	縄文	1.60	1.81	0.92	山形刺・土師	5084と西側を隔てる。南北方向	
2	3	4	5084	512	土	不明	1.50	0.90	—	木版片	—	—
2	3	1	5085	513	土	古墳	2.07	0.77	0.33	古式土師器	—	—
2	3	5	5086	514	土	古墳	1.07	0.40	0.06	宇板器	—	—
2	3	6	5087	515	土	平安京路	1.74	1.66	0.57	尺椀部・土師・弥生器	—	—
2	3	6	5088	516	土	鎌倉	—	—	—	山形刺・瓦器	—	—
2	3	6	5089	517	土	不明	1.27	0.37	0.28	土師器	—	—
2	3	9	5090	518	土	不明	1.43	1.25	0.98	—	—	—
2	3	9	5091	519	土	不明	2.61	0.80	0.47	—	—	—
2	3	9	5092	521	土	不明	1.16	1.60	0.24	—	—	—
2	3	10	5093	522	土	古墳・古代	2.78	1.32	0.43	土師器	—	—
2	3	10	5094	523	土	不明	1.30	1.81	0.17	—	—	—
2	3	10	5095	524	土	不明	1.08	0.77	0.43	—	—	—
2	3	11	5096	525	土	古墳	1.09	0.40	0.54	土師器	—	—
2	3	11	5097	526	土	古代	1.20	0.93	0.27	弥生器	—	—
2	3	11	5098	527	土	不明	0.66	0.79	0.23	—	—	—
2	3	15	5099	528	土	奈良路	1.74	1.57	0.21	弥生土師・土師器・弥生器	—	—
2	3	16	5100	529	土	古墳部・瓦器	0.57	1.09	0.12	弥生器	—	—
2	3	17	5031	530	土	古代	1.68	0.67	0.11	土師器・弥生器	—	—
2	3	17	5032	531	土	古代	1.29	0.59	0.11	弥生器・土師器	—	—
2	6	1	5033	501	土	不明	2.20	0.30	0.04	土師器・弥生器	—	—
2	6	1	5034	502	土	古墳部・瓦器	1.60	0.41	0.09	土師器	—	—
2	6	2	5035	520	土	不明	1.37	0.25	0.06	土師器	—	—
2	6	2	5036	504	土	古代	1.43	0.24	0.17	土師器・弥生器	—	—
2	6	2	5037	505	土	不明	0.72	0.22	0.19	土師器	—	—
2	6	3	5039	507	土	瓦器・奈良	0.67	3.30	1.42	弥生器・土師器・土師	—	—
2	6	6	5040	507	土	瓦器・奈良	1.07	2.68	0.37	土師器	—	—
2	6	6	5041	508	土	瓦器・奈良	0.67	1.04	0.68	土師器・弥生器・陶器	—	—
2	6	2	5041	504	土	古墳部	0.77	1.52	—	陶器	—	—
2	6	4	5042	502	土	中世	1.47	1.34	—	弥生器・土師器・青銅器	—	—
2	6	4	5043	503	土	古代	1.37	0.60	0.09	弥生器	—	—
2	6	6	5044	506	土	平安京路	1.00	0.29	0.28	土師器小片・尺椀部瓦片	—	—
2	6	6	5045	508	土	平安京路	1.60	1.41	0.18	土師器・尺椀部	—	—
2	6	6	5046	506	土	奈良路	2.74	1.80	0.53	土師器・弥生器	—	—
2	6	6	5047	507	土	瓦器・奈良	0.96	0.29	0.23	弥生器・奈良土	—	—
2	6	9	5048	526	土	奈良路	0.60	0.61	0.10	土師器・弥生器	—	—
2	6	9	5049	509	土	不明	0.60	0.30	0.30	土師器・木片	—	—

第Ⅴ-4表 金沢川遺跡(第2次)遺構一覧表2 \*斜体字の表記は記載の数値以上であることを示す

NO	調査番号	種類	調査区	遺構位置	形状・構造	口径	直径	高さ	技法・文様の特徴	出土	構成	色澤(特徴)	備考
1	015-01	陶器	遺	調査区15	SZ09	小片	-	-	内：H77 <sup>1)</sup> 外：H77 <sup>2)</sup>	赤	赤	100 6/9 赤	輪：2.518 4/2 両面、東 面
2	016-05	弥生器	碎産	調査区113	茨崎色粘土	口縁部/12	12.8	-	内：H77 <sup>1)</sup> 外：H77 <sup>2)</sup>	赤	赤	8 2/9 灰白	—
3	016-06	弥生器	碎	調査区119	-	底面/12	11.0	-	内：H77 <sup>1)</sup> 外：H77 <sup>2)</sup>	赤	赤	8 2/9 灰白	高台部に磨面あり
4	016-07	山形刺	刺	調査区104	茨崎色粘土	底面/12	-	6.2	内：H77 <sup>1)</sup> 外：H77 <sup>2)</sup>	赤	赤	8 6/9 灰白	—
5	016-08	山形刺	刺	調査区102	茨崎色粘土	底面/12	7.8	-	内：H77 <sup>1)</sup> 外：H77 <sup>2)</sup>	赤	赤	8 6/9 灰白	—
6	016-09	山形刺	刺	調査区102	茨崎色粘土	底面/12	-	6.5	内：H77 <sup>1)</sup> 外：H77 <sup>2)</sup>	赤	赤	8 6/9 灰白	—
7	016-10	尺椀	皿	調査区108	-	底面/12	-	-	内：H77 <sup>1)</sup> 外：H77 <sup>2)</sup>	赤	赤	8 6/9 灰白	—
8	016-04	弥生器	遺	調査区102	茨崎色粘土	口縁部片	-	-	内：H77 <sup>1)</sup> 外：H77 <sup>2)</sup>	赤	赤	8 6/9 灰白	—
9	015-10	土師器	瓦器	調査区100	包瓦部	小片	-	-	内：H77 <sup>1)</sup> 外：H77 <sup>2)</sup>	中・ 粗	中	2.108 8/3 灰白	—
10	015-03	土師器	筒	調査区117	茨崎色粘土	小片	-	-	内：H77 <sup>1)</sup> 外：H77 <sup>2)</sup>	赤	赤	1.008 6/9 赤	輪：5.09 4/1 概 定磨面径：6.2×6.2×1.6
11	015-09	和服	刺	調査区119	-	底面/12	5.0	-	内：H77 <sup>1)</sup> 外：H77 <sup>2)</sup>	赤	赤	8 6/9 灰白	輪：8 6/9 灰白
12	015-01	土師器	遺	調査区112	茨崎色粘土	底面/12	-	6.0	内： H77 <sup>1)</sup>	粗	粗	2.108 8/3 灰白	—

第Ⅴ-5表 金沢川遺跡範囲確認調査遺物観察表

№	調査 番号	種類	素材	調査次 地層	遺物 層位	形状 特徴	口径	直径	高さ	技法・文様の特徴	粘土	構成	色調 (内装)	備考
14	001-06	土師器	肥子	A5	S83	-	-	-	-	-	や中硬	2.000 6/3 浅黄緑		
15	003-09	灰土器	高杉	A7	S88	軒渡部~脚部	-	-	-	内：*F777* 外：*F777*	硬良	5.7/9 灰白		
16	002-07	灰土器	柳斎	B6	F111+SK12	1/1233 Y	14.9	-	-	内：*F777* 外：*F777* 底：*b777*	や中硬 半良	2.000 7/6 灰白		
17	001-03	土師器	豊	A9	S84	1/12	9.8	-	-	内：*F777* 外：*F777* 底：*b777*	硬良	2.000 7/6 灰白		
18	005-05	山形瓶	柳	B3	S87	3/12	16.2	7.4	6.0	内：*F777* 外：*F777* 底：*b777*	硬良	5.7/9 灰白	高台にも成形あり	
19	003-01	瓦輪 陶器	柳	B3	S89	高台1/12	-	8.0	-	内：*F777* 外：*F777* 底：*b777*	硬良	5.8/9 灰白		
20	003-02	瓦輪 陶器	柳	B3	S90	高台1/12	-	6.6	-	内：*F777* 外：*F777* 底：*b777*	硬良	5.8/9 灰白		
21	002-02	瓦	平瓦	B1	S89	-	-	-	-	内：*F777* 外：*F777*	硬良	5.7/9 灰白		
22	002-01	瓦	平瓦	B3	S89	-	-	-	-	内：*F777* 外：*F777*	硬良	5.7/9 灰白		
23	002-05	灰土器	柳	B4	S82	1/1233 Y	8.5	-	3.6	内：*F777* 外：*F777* 底：*b777*	硬良	5.8/9 灰白		
24	011-02	土師山	土師	B19	S828	底存	丸 0.4	軸 1.1	具 3.6	-	硬良	2.000 7/6 3000 3/1 黄緑	丸型6.4	
25	004-08	灰土器	柳斎	B17+18	S829+5+6	1/12	11.9	-	-	内：*F777* 外：*F777*	硬良	5.8/9 灰白	内面滑沢、焼けよけあり	
26	004-05	灰土器	柳	B19	S828	口縁1/12	12.2	-	-	外：*F777*	硬良	2.00 6/3 灰白		
27	003-08	灰土器	高杉	B19	S829	胴縁	-	-	-	外：*F777*	硬良	5.7/9 灰白	方型透かし（2段字）	
28	002-06	陶器	穴形茶碗	C3	S829	1/1233 Y	5.8	-	-	内：*F777* 外：*F777* 底：*b777*	硬良	2.00 6/2 灰白	輪（脚縁） 1000 7/4 に近い中硬、古 兼?	
29	001-07	土師器	肥子	C1	S832上	-	-	-	-	-	や中硬	2.000 6/2 灰白		
30	004-02	灰土器	柳斎	B16	S825	3/12	12.9	-	4.2	内：*F777* 外：*F777* 底：*b777*	硬良	5.8/9 灰白	外周面滑沢感強い	
31	005-04	灰土器	柳斎	B16	S825	4/12	11.9	-	3.7	内：*F777* 外：*F777* 底：*b777*	硬良	5.000 6/3 灰白	焼けよけあり	
32	004-01	灰土器	柳	B16	S825	7/12	10.0	-	3.9	内：*F777* 外：*F777* 底：*b777*	硬良	5.8/9 灰白		
33	005-02	土師器	高杉	B16	S825	軒渡1/12	12.0	-	-	-	硬良	2.00 7/9 灰白		
34	006-01	灰土器	高杉	B16	S825	胴縁	-	-	-	外：*F777*	硬良	5.7/9 灰白	脚縁方型透かし	
35	004-03	灰土器	高杉	B16	S825	胴縁	-	-	-	外：*F777*	硬良	2.00 6/1 灰白		
36	004-04	灰土器	高杉	B16	S825	胴縁	-	-	-	外：*F777*	硬良	5.8/9 灰白	方型透かし（2段字）	
37	006-01	土師器	柳	B16	S825	口縁部1/12	22.2	-	-	内：*F777* 外：*F777* 底：*b777*	硬良	2.000 6/6 灰白		
38	011-01	土師器	瓶	B16	S825	口縁部1/12	43.6	-	-	内：*F777* 外：*F777* 底：*b777*	硬良	2.000 7/9 灰白		
39	013-1* 2	土師器	壺	B16	S825	3/12	22.0	-	-	内：*F777* 外：*F777* 底：*b777*	硬良	2.000 7/6 灰白		
40	006-02	土師器	肥子	B16	S825	-	-	-	-	-	硬良	2.000 6/6 灰白		
41	006-03	土師器	肥子	B16	S825	-	-	-	-	-	硬良	5.00 7/8 灰白		
42	010-01	土師器	豊	B16	S825	口縁部6/12	30.6	-	-	内：*F777* 外：*F777* 底：*b777*	硬良	2.000 6/3 灰白		
43	005-01	土師器	豊	B16	S825	口縁部1/12	20.0	-	-	内：*F777* 外：*F777* 底：*b777*	硬良	2.000 7/6 灰白		
44	012-02	灰土器	磁皿	B16	S825	胴縁	-	-	-	内：*F777* 外：*F777* 底：*b777*	硬良	5.8/9 灰白		
45	003-03	灰土器	壺	B16	S825	口縁部1/12	11.2	-	-	内：*F777* 外：*F777* 底：*b777*	硬良	5.8/9 灰白		
46	009-01	灰土器	壺	B16	S825	胴縁~胴部3/12	-	-	-	内：*F777* 外：*F777* 底：*b777*	硬良	5.8/9 灰白		
47	010-02	灰土器	壺	B16	S825	胴縁	-	-	-	内：*F777* 外：*F777* 底：*b777*	硬良	5.1 6/1 灰白	粘土目付異様	
48	008-01	灰土器	壺	B16	S825	1/12	31.9	-	-	内：*F777* 外：*F777* 底：*b777*	硬良	2.000 6/2 灰白	脚式表	
49	012-01	灰土器	壺	B16	S825	胴縁	-	-	-	内：*F777* 外：*F777* 底：*b777*	硬良	5.8/9 灰白		
50	007-01	石製法	砥石	B16	S825	-	15.1	16.3	3.8	-	-	-	重量：1300g	
51	001-05	土師器	柳斎	B7	F113底縁	つまみ6/12	-	-	-	-	や中硬	1.000 6/9 赤黄		
52	002-04	灰土器	柳	B16	F112	2/12	-	-	-	内：*F777* 外：*F777* 底：*b777*	硬良	2.00 6/3 灰白		
53	004-04	土師器	豊	B1	F113	小片	-	-	-	内：*F777* 外：*F777* 底：*b777*	や中硬	2.000 6/3 灰黄緑		
54	001-01	土師器	豊	B16	F113	口縁部1/12	25.8	-	-	内：*F777* 外：*F777* 底：*b777*	や中硬	2.000 8/8 3000 6/3 灰黄緑		
55	003-06	灰土器	柳	A2	包首縁	高台1/12	-	11.0	-	内：*F777* 外：*F777* 底：*b777*	硬良	5.8/9 灰白	黄褐色粘土	
56	002-03	瓦輪 陶器	段蓋	B4	包首縁	小片	-	-	-	内：*F777* 外：*F777* 底：*b777*	硬良	5.8/9 灰白	輪（脚縁） 2.00 7/2 灰白	
57	003-03	瓦輪 陶器	柳	B4	包首縁	高台1/12	-	8.0	-	内：*F777* 外：*F777* 底：*b777*	硬良	5.8/9 灰白	黄褐色粘土	
58	003-04	瓦輪 陶器	柳	A7	包首縁	高台1/12	-	7.4	-	内：*F777* 外：*F777* 底：*b777*	硬良	5.8/9 灰白	オレンジ黄緑シルト	
59	003-07	山形瓶	柳	A7	包首縁	高台1/12	-	8.0	-	内：*F777* 外：*F777* 底：*b777*	硬良	5.8/9 灰白	オレンジ黄緑シルト	
60	003-05	山形瓶	柳	A1	包首縁	高台1/12	-	8.6	-	内：*F777* 外：*F777* 底：*b777*	硬良	5.8/9 灰白	黄褐色粘土	
61	014-02	灰土器	壺	B11	包首縁	底縁1/12	-	6.6	-	内：*F777* 外：*F777* 底：*b777*	硬良	5.7/9 灰白		
62	014-03	陶器	加子付壺	B11	包首縁	底存	-	-	-	-	や中硬	2.000 6/9 灰白	管線地：4.7×4.3×1.4	
63	014-01	瓦	平瓦	B12	包首縁	-	-	-	-	内：*F777* 外：*F777*	硬良	6.000 7/9 2.000 6/3 2.000 6/3		
64	001-02	土師器	柳斎	C3	包首縁	1/12	20.0	-	-	内：*F777* 外：*F777*	や中硬	5.00 7/8 灰白		

第Ⅴ-6表 金沢川遺跡（第1次）遺物観察表

№	発掘 番号	種類	器種	調査区 地層	遺物 層位	形状 特徴	口径	直径	器高	技法・文様の特徴 説明	粘土	構成	色調 (内装)	備考	
63	009-03	土師器	高杯	13C-14	SK19	新羅片	-	-	-	Pi- Pc-10	赤	-	2.030 6/9 高直筒	摩滅著しい	
64	011-03	土師器	高杯	13C-14	SK19	新羅片/12	-	-	-	Pi-2 Pc-11 Pc-12	赤	-	1.090 7/3 2.250 6/9 高直筒	新羅内装は摩滅により顕著不明	
67	009-04	土師器	甕	13C-14	SK19	流紋12/12	-	-	-	Pi-10a/b, a/b1 Pc-11	赤	-	1.090 6/3 2.250 6/9 高直筒	摩滅著しい	
68	009-01	土師器	高杯	13C-18	SK19	小片	-	-	-	Pi- Pc-11	赤	-	2.030 6/9 高直筒	摩滅著しい	
69	009-02	土師器	高杯	13C-18	SK19	新羅片/12	-	-	-	Pi- Pc-11	赤	-	2.030 7/9 高直筒	片断程度摩滅しい	
70	010-02	土師器	台付甕	13C-19	SK19	1/12	-	-	-	Pi-11, a/b1 Pc-10a, a/b1	赤	-	5.030 6/9 高直筒	-	
71	009-05	土師器	杯	13C-18	SK30	1/12	12.9	-	-	Pi-11, a/b1 Pc-10a, a/b1	赤	-	2.030 6/9 流直筒	-	
72	200-03	鉄製品	鉄鈿	13C-18	SK50	新羅欠	幅 0.9	縦 2.7	高 13.3	-	-	-	-	-	-
73	010-01	新石器	研鉢	13C-20	SK32	小片	-	-	-	Pi-a/b1 Pc-a/b1, a/b1c Pc-a/b1	赤 良	良	5.70 高直筒	-	
74	011-02	新石器	高杯	13C-20	SK32	新羅片/12	-	9.3	-	Pi-a/b1 Pc-a/b1, a/b1c Pc-a/b1	赤 良	良	6.30 高直筒	-	
75	010-04	土師器	高杯	13C-20	SK32	1/12	16.9	-	-	Pi-11, a/b1 Pc-10a, a/b1	赤	-	1.030 6/9 高直筒	摩滅著しい	
76	011-01	瓦器 陶器	皿	13C-21	SK33	1/12	-	7.3	-	Pi-a/b1 Pc-a/b1, a/b1c Pc-a/b1	赤 良	良	2.030 6/9 高直筒	-	
77	011-06	土師器	土師	13C-24	SK35	-	径 0.6	幅 1.6	高 3.8	-	-	-	-	-	-
78	010-06	新石器	研鉢	13C-25	S309	1/12	12.9	-	-	Pi-11, a/b1 Pc-a/b1, a/b1c Pc-a/b1	赤 良	良	1.030 6/9 高直筒	-	
79	009-08	新石器	研鉢	13C-25	S309	1/12	12.2	-	-	Pi-a/b1 Pc-a/b1, a/b1c Pc-a/b1	赤 良	良	5.70 高直筒	-	
80	011-05	新石器	研鉢	13C-25	S309	→新羅片/12	-	-	-	Pi-11, a/b1 Pc-a/b1, a/b1c Pc-a/b1	赤 良	良	5.70 高直筒	-	
81	010-03	新石器	研鉢	13C-25	S309	小片	-	-	-	Pi-a/b1 Pc-a/b1, a/b1c Pc-a/b1	赤 良	良	2.30 6/9 高直筒	-	
82	010-05	新石器	皿	13C-24	SK36上層	新羅	-	3.3	-	Pi-a/b1 Pc-a/b1, a/b1c Pc-a/b1	赤 良	良	5.30 高直筒	-	
83	006-05	土師器	惣行杯	23C-1	SK65	1/12	17.4	-	-	Pi-11, a/b1 Pc-10a, a/b1 Pc-10a, a/b1	赤	-	2.030 7/9 高直筒	-	
84	007-03	新石器	惣行杯	23C-1	SK65	小片	-	-	-	Pi-a/b1 Pc-a/b1, a/b1c Pc-a/b1	赤 良	良	6.30 高直筒	-	
85	007-02	新石器	惣行杯	23C-1	SK65	6/12	-	7.2	-	Pi-11, a/b1 Pc-10a, a/b1 Pc-a/b1	赤 良	良	5.70 高直筒	-	
86	007-06	新石器	惣行杯	23C-1	SK65	7/12	-	6.4	-	Pi-11, a/b1 Pc-10a, a/b1 Pc-a/b1	赤 良	良	5.30 高直筒	新羅内装の可能性あり	
87	006-01	新石器	惣行杯	23C-1	SK65	3/12	-	8.0	-	Pi-11, a/b1 Pc-10a, a/b1 Pc-a/b1	赤 良	良	5.70 高直筒	-	
88	006-03	新石器	杯	23C-1	SK65	2/12	12.6	6.3	4.6	Pi-11, a/b1 Pc-10a, a/b1 Pc-a/b1	赤 良	良	5.70 高直筒	-	
89	006-02	新石器	高杯	23C-1	SK65	小片	-	-	-	Pi- Pc-11 Pc-11, a/b1	赤 良	良	5.70 高直筒	-	
90	007-01	土師器	甕	23C-1	SK65	小片	-	-	-	Pi- Pc-11 Pc-11, a/b1	赤	-	2.030 7/9 2.250 6/9 高直筒	-	
91	007-05	土師器	甕	23C-1	SK65	小片	-	-	-	Pi- Pc-11 Pc-11, a/b1	赤	-	2.030 7/9 高直筒	-	
92	007-04	土師器	甕	23C-1	SK65	小片	-	-	-	Pi-11, a/b1 Pc-10a, a/b1 Pc-10a, a/b1	赤	-	2.030 6/9 2.250 6/9 高直筒	新羅内装。摩滅著しい	
93	006-04	土師器	甕	23C-1	SK65	1/12	19.4	-	-	Pi- Pc-11 Pc-11, a/b1	赤	-	2.030 7/9 高直筒	摩滅著しい	
94	008-02	新石器	磨鉢	23C-6	SK66	16/12	12.7	-	-	Pi-a/b1, a/b1c Pc-a/b1, a/b1c Pc-a/b1, a/b1c	赤	-	5.30 高直筒	-	
95	005-03	新石器	甕	23C-6	SK66	2/12	-	-	-	Pi-11, a/b1 Pc-10a, a/b1 Pc-a/b1	赤 良	良	5.30 高直筒	-	
96	005-02	新石器	甕(1平瓶)	23C-20	SK68	1/12	12.6	-	-	Pi-a/b1 Pc-10a, a/b1 Pc-a/b1	赤 良	良	5.70 高直筒	-	
97	005-01	新石器	研鉢	23C-26	S309	1/133F	15.9	-	4.1	Pi-11, a/b1 Pc-a/b1, a/b1c Pc-a/b1	赤 良	良	5.30 高直筒	-	
98	006-06	新石器	研鉢	23C-21	S360	小片	-	-	-	Pi-a/b1 Pc-a/b1, a/b1c Pc-a/b1	赤 良	良	5.70 高直筒	新羅内装あり	
99	004-05	新石器	研鉢	23C-22	S360	1/12	13.8	-	-	Pi-11, a/b1 Pc-10a, a/b1 Pc-a/b1	赤 良	良	6.30 高直筒	-	
100	008-05	新石器	研鉢	23C-23	S360	1/12	12.9	-	-	Pi-a/b1 Pc-a/b1, a/b1c Pc-a/b1	赤 良	良	5.30 高直筒	-	
101	008-04	新石器	惣行杯	23C-21	S360	小片	-	-	-	Pi-11, a/b1 Pc-10a, a/b1 Pc-a/b1	赤 良	良	5.30 高直筒	-	
102	004-04	新石器	杯	23C-22	S360	3/12	-	6.8	-	Pi-a/b1 Pc-10a, a/b1 Pc-a/b1	赤 良	良	6.30 高直筒	-	
103	008-03	新石器	皿	23C-21	S360	12/12	-	4.2	-	Pi-11, a/b1 Pc-10a, a/b1 Pc-a/b1	赤 良	良	5.30 高直筒	-	
104	004-06	新石器	甕	23C-23	S360	3/12	-	15.0	0	Pi- Pc-11 Pc-11, a/b1	赤	-	5.30 高直筒	摩滅著しい	
105	001-02	土師器	皿	23C-22	S360	2/12	17.8	-	-	Pi- Pc-11 Pc-11, a/b1	赤	-	1.030 7/9 2.250 6/9 高直筒	摩滅程度著しい	
106	003-02	土師器	皿	23C-21	S360	1/12	16.9	-	1.4	Pi- Pc-11 Pc-11, a/b1	赤	-	2.030 6/9 高直筒	内装とも摩滅著しい	
107	003-08	土師器	皿	23C-22	S360	2/12	-	-	-	Pi- Pc-11 Pc-11, a/b1	赤	-	2.030 6/9 高直筒	摩滅程度著しい	
108	003-05	土師器	甕	23C-22	S360	1/12	14.9	-	-	Pi- Pc-11 Pc-11, a/b1	赤	-	2.030 7/9 2.250 6/9 高直筒	摩滅程度著しい	
109	003-04	土師器	甕	23C-22	S360	小片	-	-	-	Pi- Pc-11 Pc-11, a/b1	赤	-	1.030 6/9 高直筒	摩滅程度著しい	
110	003-07	土師器	甕	23C-22	S360	小片	-	-	-	Pi- Pc-11 Pc-11, a/b1	赤	-	2.030 7/9 2.250 6/9 高直筒	摩滅程度著しい	
111	003-06	土師器	甕	23C-22	S360	小片	-	-	-	Pi-a/b1 Pc-10a, a/b1 Pc-a/b1	赤	-	1.030 7/9 2.250 6/9 高直筒	摩滅程度著しい	
112	003-01	土師器	甕	23C-22	S360	小片	-	-	-	Pi- Pc-11 Pc-11, a/b1	赤	-	2.030 6/9 高直筒	摩滅程度著しい	
113	004-03	土師器	甕	23C-22	S360	1/12	21.6	-	-	Pi-11, a/b1 Pc-10a, a/b1 Pc-a/b1	赤	-	2.030 7/9 2.250 6/9 高直筒	内装の摩滅程度著しい	
114	001-01	土師器	甕	23C-22	S360	1/12	22.4	-	-	Pi-a/b1, a/b1c Pc-10a, a/b1 Pc-a/b1	赤	-	2.030 7/9 高直筒	新羅内装	
115	003-01	瓦	平瓦	23C-21	S360	-	-	-	-	Pi-新羅 Pc-新羅	赤 良	良	30 7/3 高直筒	-	
116	002-06	新石器	研鉢	23C-2	SK77	完整	13.0	-	4.1	Pi-11, a/b1 Pc-10a, a/b1 Pc-a/b1	赤 良	良	5.30 高直筒	-	
117	002-03	新石器	磨鉢高杯	30C-2	SK77	白磁新片/12 流紋/12	11.9	8.7	7.6	Pi-11, a/b1 Pc-10a, a/b1 Pc-a/b1	赤 良	良	3.030 5/9 高直筒	-	
118	100-01	木製品	杓	30C-2	SK77	新羅欠	幅 2.1	縦 15.0	高 26.0	-	-	-	-	-	-

第Ⅶ-7表 金沢川遺跡(第2次)遺物観察表1

№	調査 番号	種類	部種	調査区 地番	遺構 部位	形状 特殊形状	口径	直径	高さ	技法・文様の特徴	粘土	構成	色調 (写真)	備考
119	001-01	灰土器	杯蓋	30X-2	S300	光面	11.2	-	3.9	P <sub>1</sub> -17 <sup>+</sup> , aH4 <sup>+</sup> R <sub>1</sub> -17b <sup>+</sup> , aH6 <sup>+</sup> ?	赤良	1000-6/1 灰白	取り上げ済	
120	002-02	灰土器	杯蓋	30X-2	S300	1/12	13.2	-	4.9	P <sub>1</sub> -17b <sup>+</sup> R <sub>1</sub> -17b <sup>+</sup> , aH6 <sup>+</sup> ?	赤良	5/5/1 灰	取り上げ済	
121	002-04	灰土器	杯蓋	30X-2	S300	8/12	13.9	-	4.2	P <sub>1</sub> -17 <sup>+</sup> , aH4 <sup>+</sup> R <sub>1</sub> -17b <sup>+</sup> , aH6 <sup>+</sup> ?	赤良	2.00 4/1 灰		
122	001-02	灰土器	杯蓋	30X-2	S300	光面	13.1	-	4.3	P <sub>1</sub> -17b <sup>+</sup> , aH4 <sup>+</sup> R <sub>1</sub> -17b <sup>+</sup> , aH6 <sup>+</sup> ?	赤良	5/5/1 灰	取り上げ済 内蔵ニ集行付金物あり	
123	002-01	灰土器	杯蓋	30X-2	S300	小片	-	-	-	P <sub>1</sub> -17b <sup>+</sup> R <sub>1</sub> -17b <sup>+</sup>	赤良	5/5/1 灰		
124	002-03	灰土器	杯蓋	30X-2	S300	3/12	11.9	-	4.4	P <sub>1</sub> -17 <sup>+</sup> , aH4 <sup>+</sup> R <sub>1</sub> -17b <sup>+</sup> , aH6 <sup>+</sup> ?	赤良	1000-6/1 灰	取り上げ済	
125	001-04	灰土器	杯蓋	30X-2	S300	光面	11.3	-	3.1	P <sub>1</sub> -17 <sup>+</sup> , aH4 <sup>+</sup> R <sub>1</sub> -17b <sup>+</sup> , aH6 <sup>+</sup> ?	赤良	2.37 6/1 灰	取り上げ済	
126	004-05	灰土器	杯蓋	30X-2	S300	光面	11.3	-	3.4	P <sub>1</sub> -17 <sup>+</sup> , aH4 <sup>+</sup> R <sub>1</sub> -17b <sup>+</sup> , aH6 <sup>+</sup> ?	赤良	5/1 6/1 灰	取り上げ済	
127	002-05	灰土器	杯蓋	30X-2	S300	8/12	11.6	-	3.8	P <sub>1</sub> -17 <sup>+</sup> , aH4 <sup>+</sup> R <sub>1</sub> -17b <sup>+</sup> , aH6 <sup>+</sup> ?	赤良 半焼	1000-2/2 灰白(裏側)	取り上げ済	
128	004-03	灰土器	長脚高杯	30X-2	S300	縦線(左, 断面)	13.3	-	-	P <sub>1</sub> -17 <sup>+</sup> , aH4 <sup>+</sup> R <sub>1</sub> -17b <sup>+</sup> , aH6 <sup>+</sup> ?	赤良	1000-6/1 灰	取り上げ済 内蔵ニ蓋あり	
129	001-06	灰土器	長脚高杯	30X-2	S300	光面	12.5	13.7	16.2	P <sub>1</sub> -17 <sup>+</sup> , aH4 <sup>+</sup> R <sub>1</sub> -17b <sup>+</sup> , aH6 <sup>+</sup> ?	赤良	5/5/1 灰	取り上げ済	
130	002-08	灰土器	杯蓋	30X-2	S300	9/12	10.4	-	3.9	P <sub>1</sub> -17 <sup>+</sup> , aH4 <sup>+</sup> R <sub>1</sub> -17b <sup>+</sup> , aH6 <sup>+</sup> ?	赤良	5/1 7/1 灰		
131	013-02	山梨製 土製品	陶	30X-2	S003上面	磨面1/12	-	7.8	-	P <sub>1</sub> -17b <sup>+</sup> R <sub>1</sub> -17b <sup>+</sup> , aH6 <sup>+</sup> ?	赤良	5/5/0 灰		
132	013-03	土製品	土埴	30X-2	S003上面	丸 0.4 縦 1.1 横 2.9	15.9	-	-	P <sub>1</sub> -17b <sup>+</sup> R <sub>1</sub> -17b <sup>+</sup> , aH6 <sup>+</sup> ?	赤良	1000-6/1 灰		
133	001-01	土埴器	壺	30X-6	S008	10/12	15.9	-	-	P <sub>1</sub> -17b <sup>+</sup> R <sub>1</sub> -17b <sup>+</sup> , aH6 <sup>+</sup> ?	中・半焼	2.300 6/1 灰白		
134	013-04	山梨製 土製品	陶	30X-6	S008	磨面2/12	-	8.8	-	P <sub>1</sub> -17b <sup>+</sup> R <sub>1</sub> -17b <sup>+</sup> , aH6 <sup>+</sup> ?	中・半焼	5/5/0 灰		
135	014-02	灰土器	壺	30X-15	S009	小片	-	-	-	P <sub>1</sub> -17b <sup>+</sup> R <sub>1</sub> -17b <sup>+</sup>	赤良	5/7/0 灰		
136	014-01	灰土器	壺	30X-15	S009	3/12	-	8.2	-	P <sub>1</sub> -17 <sup>+</sup> R <sub>1</sub> -17b <sup>+</sup>	中・半焼	1000-3/2 灰白	摩滅著しい	
137	014-03	灰土器	高杯	30X-16	S0100	磨面	-	-	-	P <sub>1</sub> -17b <sup>+</sup> R <sub>1</sub> -17b <sup>+</sup>	赤良	5/5/0 灰	三方角ニ破面あり	
138	013-01	灰土器	壺	30X-11	S007	1/12	-	-	-	P <sub>1</sub> -17 <sup>+</sup> R <sub>1</sub> -17b <sup>+</sup>	赤良	5/7/0 灰		
139	016-08	灰土器	杯蓋	60X-2	S0100	6/12	10.9	-	3.1	P <sub>1</sub> -17b <sup>+</sup> R <sub>1</sub> -17b <sup>+</sup> , aH6 <sup>+</sup> ?	赤良	1000-6/1 灰		
140	015-07	灰土器	杯蓋	60X-3	S0100層	4/12	10.2	-	-	P <sub>1</sub> -17 <sup>+</sup> , aH4 <sup>+</sup> R <sub>1</sub> -17b <sup>+</sup> , aH6 <sup>+</sup> ?	赤良	5/5/0 灰		
141	016-01	灰土器	杯蓋	60X-3	S0100層	3/12	10.8	-	-	P <sub>1</sub> -17b <sup>+</sup> R <sub>1</sub> -17b <sup>+</sup> , aH6 <sup>+</sup> ?	赤良	5/5/0 灰		
142	016-02	灰土器	杯蓋	60X-2	S0100	小片	-	-	-	P <sub>1</sub> -17b <sup>+</sup> R <sub>1</sub> -17b <sup>+</sup>	赤良	2.00 4/1 灰		
143	016-03	灰土器	杯蓋	60X-3	S0100層	小片	-	-	-	P <sub>1</sub> -17b <sup>+</sup> R <sub>1</sub> -17b <sup>+</sup>	赤良	10 6/1 灰		
144	016-09	灰土器	杯蓋	60X-3	S0100	小片	-	-	-	P <sub>1</sub> -17b <sup>+</sup> R <sub>1</sub> -17b <sup>+</sup>	赤良	5/5/0 灰		
145	016-04	灰土器	杯蓋	60X-3	S0100層	小片	-	-	-	P <sub>1</sub> -17 <sup>+</sup> , aH4 <sup>+</sup> R <sub>1</sub> -17b <sup>+</sup> , aH6 <sup>+</sup> ?	赤良	2.00 6/1 灰		
146	016-05	灰土器	杯蓋	60X-3	S0100層	1/12	交差 13.9	-	-	P <sub>1</sub> -17b <sup>+</sup> R <sub>1</sub> -17b <sup>+</sup> , aH6 <sup>+</sup> ?	赤良	5/5/0 灰		
147	016-07	灰土器	鉢	60X-2	S0100層	小片	-	-	-	P <sub>1</sub> -17b <sup>+</sup> R <sub>1</sub> -17b <sup>+</sup> , aH6 <sup>+</sup> ?	赤良	1000-6/1 灰	内面自然剥落	
148	016-06	灰土器	平皿	60X-3	S0100層	口縁部2/12	5.6	-	-	P <sub>1</sub> -17b <sup>+</sup> R <sub>1</sub> -17b <sup>+</sup>	赤良	2.00 5/1 灰		
149	015-05	土埴器	高杯	60X-3	S0100層	磨面3/12	-	11.0	-	P <sub>1</sub> -17 <sup>+</sup> R <sub>1</sub> -17b <sup>+</sup>	赤良	1000-6/0 灰	摩滅著しい	
150	015-02	土埴器	壺	60X-3	S0100層	1/12	14.9	-	-	P <sub>1</sub> -17 <sup>+</sup> R <sub>1</sub> -17b <sup>+</sup>	赤良	1000-2/1 灰	摩滅著しい	
151	015-04	土埴器	壺	60X-3	S0100層	1/12	14.0	-	-	P <sub>1</sub> -17 <sup>+</sup> R <sub>1</sub> -17b <sup>+</sup>	赤良	2.00 6/0 灰	摩滅著しい	
152	015-03	土埴器	壺	60X-3	S0100層	1/12	15.9	-	-	P <sub>1</sub> -17 <sup>+</sup> R <sub>1</sub> -17b <sup>+</sup>	赤良	1000-6/0 灰	摩滅著しい	
153	015-01	土埴器	壺	60X-3	S0100層	1/12	22.4	-	-	P <sub>1</sub> -17 <sup>+</sup> R <sub>1</sub> -17b <sup>+</sup>	赤良	2.000 6/0 灰	摩滅著しい	
154	015-06	土製品	土埴	60X-3	S0100層	-	丸 1.1 縦 3.1 横 7.3	-	-	P <sub>1</sub> -17b <sup>+</sup> R <sub>1</sub> -17b <sup>+</sup> , aH6 <sup>+</sup> ?	赤良	2.00 6/2 灰	摩滅著しい	
155	017-01	灰土器	杯蓋	60X-6	S0109	1/12	13.0	-	-	P <sub>1</sub> -17b <sup>+</sup> R <sub>1</sub> -17b <sup>+</sup>	赤良	5/5/0 灰		
156	017-02	灰土器	惣存鉢	60X-6	S0109	1/12	-	10.8	-	P <sub>1</sub> -17b <sup>+</sup> R <sub>1</sub> -17b <sup>+</sup> , aH6 <sup>+</sup> ?	赤良	2.00 6/1 灰		
157	017-03	灰土器	杯蓋	60X-6	S0110	小片	-	-	-	P <sub>1</sub> -17b <sup>+</sup> R <sub>1</sub> -17b <sup>+</sup> , aH6 <sup>+</sup> ?	赤良	10 5/1 灰		
158	017-04	灰土器	高杯	60X-6	S0110	磨面2/12	-	-	-	P <sub>1</sub> -17 <sup>+</sup> , aH4 <sup>+</sup> R <sub>1</sub> -17b <sup>+</sup> , aH6 <sup>+</sup> ?	赤良	5/5/0 灰		
159	200-02	その他 灰土器	高杯	60X-6	S0110	-	縦 2.3 丸 3.6 横 7.1	-	-	-	-	-	-	
160	018-01	灰土器	杯蓋	60X-6	S0111	小片	-	-	-	P <sub>1</sub> -17b <sup>+</sup> R <sub>1</sub> -17b <sup>+</sup>	赤良	5/5/0 灰		
161	018-02	灰土器	鉢	60X-6	S0111	1/12	-	7.0	-	P <sub>1</sub> -17b <sup>+</sup> R <sub>1</sub> -17b <sup>+</sup>	赤良	5/5/0 灰		
162	018-03	土埴器	壺	60X-6	S0116	小片	-	-	-	P <sub>1</sub> -17 <sup>+</sup> R <sub>1</sub> -17b <sup>+</sup>	中・半焼	2.000 6/0 灰	摩滅著しい	
163	018-04	土埴器	壺	60X-6	S0116	3/12	-	11.0	-	P <sub>1</sub> -17 <sup>+</sup> R <sub>1</sub> -17b <sup>+</sup>	中・半焼	1000-2/0 灰	摩滅著しい, 鉢小	
164	022-06	灰土器	長脚高杯	60X-5	S0117	磨面のみ	-	-	-	P <sub>1</sub> -17 <sup>+</sup> , aH4 <sup>+</sup> R <sub>1</sub> -17b <sup>+</sup> , aH6 <sup>+</sup> ?	赤良	5/7/0 灰	断面内面にヘラ記号あり	
165	018-05	灰土器	壺蓋	60X-6	S0118	1/12	25.9	-	-	P <sub>1</sub> -17b <sup>+</sup> R <sub>1</sub> -17b <sup>+</sup> , aH6 <sup>+</sup> ?	赤良	5/5/0 灰		
166	018-06	土埴器	壺	60X-6	S0118	1/12	25.9	-	-	P <sub>1</sub> -17b <sup>+</sup> R <sub>1</sub> -17b <sup>+</sup>	中・半焼	2.000 6/0 灰	摩滅著しい, 把手付	
167	012-03	灰土器	杯蓋	10X-26	P111	2/12	8.8	-	-	P <sub>1</sub> -17b <sup>+</sup> R <sub>1</sub> -17b <sup>+</sup> , aH6 <sup>+</sup> ?	赤良	5/5/0 灰		
168	012-02	灰土器	壺蓋	10X-23	P111	2/12	25.4	-	-	P <sub>1</sub> -17b <sup>+</sup> , 底に高直線(同心円)3 25-aH4 <sup>+</sup> , P11	赤良	5/5/0 灰		
169	014-04	灰土器	平皿	30X-1	P111	小片	-	-	-	P <sub>1</sub> -17 <sup>+</sup>	赤良	1000-6/2 灰		
170	019-06	灰土器	杯蓋	60X-2	P113	小片	-	-	-	P <sub>1</sub> -17b <sup>+</sup> R <sub>1</sub> -17b <sup>+</sup> , aH6 <sup>+</sup> ?	赤良	5/5/0 灰		

第Ⅴ-8表 金沢川遺跡(第2次)遺物観察表2

№	調査 番号	種類	素材	調査 状況 地蔵	遺物 部位	形状 特徴	口径	直径	高さ	技法・文様の特徴	粘土	構成	色澤 (写真)	備考
171	019-01	塚志郎	柳蓋	80X-3	P1136	小片	-	-	-	P1136-1017 P1136-1017	赤	良	5.7/9 既出	
172	019-05	塚志郎	柳蓋	80X-2	P1136	1/12	10.2	-	-	P1136-1017 P1136-1017	赤	良	5.8/9 既出	舟型陶片あり
173	019-02	塚志郎	柳	80X-6	P113	小片	-	-	-	P1136-1017 P1136-1017	赤	良	5.8/9 既出	粘土片あり
174	019-03	塚志郎	柳	80X-5	P117	1/12	-	-	-	P1136-1017 P1136-1017	赤	良	5.8/9 既出	
175	019-09	塚志郎	高杯	80X-7	P1143	1/12	-	7.0	-	P1136-1017 P1136-1017	赤	良	5.7/9 既出	
176	017-05	塚志郎	片蓋類	80X-9	P112	2/12	16.9	-	-	P1136-1017 P1136-1017	赤	良	5.8/9 既出	破面使用痕(厚肌)あり
177	019-04	塚志郎	短脚蓋	80X-6	P1112	2/12	3.2	-	-	P1136-1017 P1136-1017	赤	良	5.7/9 既出	
178	019-08	塚志郎	短脚蓋	80X-3	P1143	1/12	10.2	-	-	P1136-1017 P1136-1017	赤	良	5.7/9 既出	
179	200-04	その他	高杯	80X-3	P1142	-	径 5.4	高 7.2	厚 11.0	-	-	-	-	
180	018-08	土師器	杯	80X-5	P113	小片	-	-	-	P1137-1017 P1137-1017	中～赤	-	510 7/9 既出	
181	018-09	土師器	杯	80X-5	P113	小片	-	-	-	P1137-1017 P1137-1017	中～赤	-	5100 7/13 に似る	
182	018-07	塚志郎	長脚蓋	80X-9	P111	断面1/12	8.9	-	-	P1137-1017 P1137-1017	赤	良	5.7/9 既出	
183	019-01	土師器	蓋	80X-0	P113	2/12	25.9	-	-	P1137-1017 P1137-1017	中～赤	-	510 8/1 既出	断面観察したい
184	020-05	塚志郎	柳蓋	13X-13	包査層	1/12	12.5	-	-	P1137-1017 P1137-1017	赤	良	5.8/9 既出	
185	020-02	山家駒	駒	13X-11	包査層	4/12	15.9	4.6	5.0	P1137-1017 P1137-1017	赤	良	2.9 8/1 既出	自然融あり
186	020-01	山家駒	駒	13X-15	包査層	小片	-	-	-	P1137-1017 P1137-1017	赤	良	2.9 8/1 既出	
187	020-06	山家駒	駒	13X-15	包査層	小片	-	-	-	P1137-1017 P1137-1017	赤	良	5.8/9 既出	
189	020-04	土師器	把子	13X-12	包査層	-	-	-	-	P1137-1017 P1137-1017	赤	-	510 7/9 既出	
189	011-04	塚志郎	把子	13X-13	藤3込62	断面1/12	-	-	-	P1137-1017 P1137-1017	赤	良	5.7/9 既出	内側に染戻り着
190	012-01	陶土 土師	蓋	13X-11	ベース	3/12	-	5.8	-	P1137-1017 P1137-1017	中～赤	-	7.100 8/13 既出	断面観察したい
191	020-08	短脚	片蓋	30X-7	包査層	小片	-	-	-	P1137-1017 P1137-1017	赤	-	1000 7/22 に似る	
192	020-01	土師器	土師	33X-15	包査層	-	径 2.9	高 3.35	厚 -	P1137-1017 P1137-1017	赤	-	510 6/9 既出	
193	013-05	土師器	短脚	33X-6	包査層	1/12	20.1	-	-	P1137-1017 P1137-1017	中～赤	-	1000 8/2 既出	つばより下部より着
194	020-07	塚志郎	杯	30X-2	包査層	1/12	9.6	-	-	P1137-1017 P1137-1017	赤	良	5.8/1 既出	
195	020-09	塚志郎	杯	30X-2	包査層	9/12	-	3.2	-	P1137-1017 P1137-1017	赤	良	5.7/9 既出	
196	021-06	塚志郎	柳蓋	80X-3	包査層	小片	-	-	-	P1137-1017 P1137-1017	赤	良	5.6/1 既出	
197	021-02	塚志郎	柳蓋	80X-3	包査層	小片	-	-	-	P1137-1017 P1137-1017	赤	良	5.7/9 既出	
198	021-01	塚志郎	高杯	80X-2	包査層	小片	-	-	-	P1137-1017 P1137-1017	赤	良	5.7/9 既出	
199	021-05	山家駒	駒	80X-2	包査層	1/12	15.6	-	-	P1137-1017 P1137-1017	赤	良	51 7/1 既出	自然融あり
200	021-08	山家駒	駒	80X-2	包査層	1/12	-	5.9	-	P1137-1017 P1137-1017	赤	良	51 8/1 既出	
201	022-03	塚志郎	柳蓋	73X-6	包査層	1/12	-	-	-	P1137-1017 P1137-1017	赤	良	2.9 7/1 既出	
202	021-07	塚志郎	柳蓋	73X-6	包査層	小片	-	-	-	P1137-1017 P1137-1017	赤	良	5.7/9 既出	
203	021-03	塚志郎	杯	73X-4	包査層	2/12	-	11.5	-	P1137-1017 P1137-1017	赤	良	2.100 7/1 既出	
204	021-09	塚志郎	杯	73X-5	包査層	3/12	-	5.1	-	P1137-1017 P1137-1017	赤	良	5.7/9 既出	
205	021-04	塚志郎	短脚蓋	73X-6	包査層	4/12	-	-	-	P1137-1017 P1137-1017	赤	良	5.6/1 既出	
206	022-04	塚志郎	蓋	73X-6	包査層	-	-	-	-	P1137-1017 P1137-1017	赤	良	2.9 8/1 既出	
207	022-02	瓦類 陶器	皿	80X-5	包査層	2/12	15.3	6.2	2.9	P1137-1017 P1137-1017	赤	良	2.9 7/1 既出	
208	022-08	瓦類 陶器	皿	80X-6	包査層	2/12	-	7.0	-	P1137-1017 P1137-1017	赤	良	5.8/9 既出	
209	022-05	塚志郎	蓋	80X-0	包査層	2/12	-	10.0	-	P1137-1017 P1137-1017	赤	良	5.8/9 既出	
210	022-01	土師器	高杯	80X-5	包査層	杯蓋・底面欠	-	-	-	P1137-1017 P1137-1017	赤	-	5100 7/4 既出	
211	022-07	瓦	平瓦	80X-8	包査層	-	-	-	-	P1137-1017 P1137-1017	赤	-	2.9 9/1 既出	

第Ⅶ-9表 金沢川遺跡(第2次)遺物観察表3



## 第八章 自然科学分析

### 第1節 中島遺跡・深田遺跡（第3次）にかかる微化石分析

#### はじめに

令和3年度農地整備事業（経営体育成型）鈴鹿川沿岸6期地区に伴う埋蔵文化財発掘調査において、中島遺跡・深田遺跡（第3次）の花粉分析、珪藻分析、植物珪酸体分析を行い、植生及び古環境の復原を行う。

#### 1) 試料

分析試料は、以下の9点である（Ⅷ-1表参照）。中島遺跡と深田遺跡は概ね600mから700m離れ、いずれの調査区も微高地と落ち込み状の凹地が複雑に入り組んでいる。採取は落ち込み状の層序から採取されたものである。

#### a. 花粉分析

##### i) はじめに

花粉分析は、第四紀で多く扱われ、生層序によるゾーン解析で地層を区分し、ゾーン比較によって植生や環境の変化を復原する方法である。そのため普通は湖沼などの堆積物が対象となり、堆積層単位など比較的広域な植生・環境の復原を行う方法として用いられる。遺跡調査においては遺構内の堆積物など局地的でかつ時間軸の短い堆積物も対象となり、より現地性の高い植生・環境・農耕の復原もデータ比較の中で行える場合もある。さらに遺物包含層など、乾燥的な環境下の堆積物も対象となり、その分解性も環境の指標となる。また、風媒花や虫媒花などの散布能力などの差で、狭い範囲の植生に由来する結果が得られるなど、陸域の堆積物が分析に適さないわけではない。

##### ii) 方法

花粉の分離抽出は、中村（1967）の方法をもとに、以下の手順で行った。

#### 1) 試料から1cm<sup>3</sup>を採量

2) 0.5%リン酸三ナトリウム（12M）溶液を加え15分間湯煎

3) 水洗処理の後、0.25mmの篩で種などの大きな粒子を取り除き、沈澱法で砂

粒を除去

4) 25%フッ化水素酸溶液を加えて30分放置

5) 水洗処理の後、氷酢酸によって脱水し、アセトリシス処理（無水酢酸9：濃硫酸1のエルドマン氏液を加え1分間湯煎）を施す

6) 再び氷酢酸を加えて水洗処理

7) 沈澱にチール石炭酸フクシン染色液を加えて染色し、グリセリンゼリーで封入してプレバート作製

#### 8) 検鏡・計数

検鏡は、生物顕微鏡（Nikon ECLIPSE Ci）によって300～1000倍で行った。花粉の分類は同定レベルによって、科、亜科、属、亜属、節および種の階級で分類し、複数の分類群にまたがるものはハイフン（-）で結んで示した。同定分類には所有の現生花粉標本、島倉（1973）、中村（1980）を参照して行った。イネ属については、チール石炭酸フクシンで染色を施すことにより特徴がより鮮明になるため、中村（1974, 1977）を参考にして、現生標本の表面模様・大きさ・孔・表層断面の特徴と対比して同定している。なお、花粉分類では樹木花粉（AP）及び非樹木花粉（NAP）となるが非樹木花粉（NAP）は草本花粉として示した。

#### iii) 結果

##### (1) 分類群

出現した分類群は、樹木花粉29、樹木花粉と草本花粉を含むもの3、草本花粉25、シダ植物胞子2形態の計59分類群である。これらの学名と和名及び粒

試料No.	遺跡名	グリッド	層序	含まれる土層およびその年代
1	深田遺跡 (第3次)	D4	7層	弥生時代後期
2			30層	
3			31層	古墳時代(5・6世紀)
4			33層	
5			45層(埋山)	
6	中島遺跡	B20	4層	縄間1式堂行・6世紀代
7			6層	弥生～古墳(縄間1式堂行)
8			7層	
9			8層(埋山)	

Ⅷ-1表 中島遺跡・深田遺跡（第3次）分析資料

数を第Ⅷ-2表に示し、花粉数が100個以上計数できた試料については、周辺の植生を復原するために花粉総数を基数とする花粉ダイアグラムを第Ⅷ-1図に示し、近隣の森林植生及び気候帯の変遷を推定するために樹木花粉総数を基数とする樹木花粉ダイアグラムを第Ⅷ-2図に示す。また、主要な分類群は顕微鏡写真に示した。同時に、寄生虫卵についても

検出した結果、1分類群が検出された。以下に出現した分類群を記載する。

〔樹木花粉〕

マキ属、モミ属、トウヒ属、ツガ属、マツ属複雑管束胚乳属、スギ、コウヤマキ、イチイ科-イチイガヤ科-ヒノキ科、クルミ属、サワグルミ、ハンノキ属、カバノキ属、ハシバミ属、クマシデ属-アサダ、ク

Taxa(分類群)		深川遺跡(第3次)B4グリッド					中島遺跡 B20グリッド			
Scientific name(学名)	Japanese name(和名)	1	2	3	4	5	6	7	8	9
<b>Arboreal pollen</b>										
<i>Podocarpus</i>	マキ属	2	1	1						
<i>Abies</i>	ヒノキ属	1	1	1						
<i>Pinus</i>	トウヒ属									
<i>Tsuga</i>	ツガ属	4	4	3			2		1	
<i>Pinus subgen. Diploxylon</i>	マツ属複雑管束胚乳属	7	5	20	7		2			
<i>Corymbium japonica</i>	スギ	5	34	60	67		9	2		8
<i>Scots pine verticillata</i>	コウヤマキ		1	3						
<i>Taxaceae-Cephalotaxaceae-Cepressaceae</i>	イチイ科-イチイガヤ科-ヒノキ科		5	11	6		2			
<i>Juglans</i>	クルミ属								1	
<i>Platanus rhoides</i>	カバノキ属		1	1						
<i>Alnus</i>	ハンノキ属	9	46	42	4		5		7	
<i>Betula</i>	カバノキ属		4	5	4					
<i>Corylus</i>	ハンノキ属		2	1						
<i>Carpinus-Carya japonica</i>	カマヅミ属-アサダ	1	1	6						
<i>Castanea crenata</i>	クマシデ	2	5	8	11		15		5	
<i>Castanopsis</i>	シイ属	2	13	32	21		16		4	
<i>Fagus</i>	ブナ属		3	3	1					
<i>Quercus subgen. Lepidobalanus</i>	コナラ属-コナラ亜属	2	27	44	22		1		22	9
<i>Quercus subgen. Cyclobalanopsis</i>	コナラ属-アカガシ亜属	1	20	66	29		1		17	3
<i>Ulmus-Zelkova serrata</i>	コナラ属-ツカキ		2	7	1					
<i>Celtis-Aphananthe aspera</i>	カシノキ属-スナコキ		1	3						
<i>Ilex</i>	カシノキ属	1								
<i>Colubacaceae</i>	カシノキ科			3						1
<i>Araliacae turbinata</i>	トウモロコシ		2		1					
<i>Vitis</i>	ブドウ属						1			
<i>Ericaceae</i>	ツツジ科		1							
<i>Symplocos</i>	ハイノキ属								1	
<i>Onoclea</i>	オウゴン科		1	1						
<b>Arboreal - Nonarboreal pollen</b>										
<i>Moraceae-Urticaceae</i>	カワノイ-ウツク科	2	3	2	9		9	11	4	4
<i>Saxifragaceae</i>	ユキノシタ科						1			3
<i>Ligustrum</i>	マユ科		1		1					
<b>Nonarboreal pollen</b>										
<i>Typha-Sparganium</i>	ヨモギ属-シクリ属				1					
<i>Alisma</i>	アジサイ科-アジサイ属		1	1	1					
<i>Sagittaria</i>	サギ科						1			
<i>Gramineae</i>	イネ科	63	81	125	54	3	99	40	37	2
<i>Oryza</i>	イネ属	4	10	11	6		5	1		
<i>Cyperaceae</i>	カマヅミ科-アザミ科	2	47	102	26		26	4		2
<i>Monocotyle</i>	シズメイネ属			1						
<i>Allium</i>	ネギ属		2							
<i>Polygonum</i>	タデ属		1							
<i>Polygonum sect. Persicaria</i>	タデ属-オキタデ亜属	1	2	4	3					
<i>Fagopyrum</i>	ソウ属	1								
<i>Chenopodiaceae-Amaranthaceae</i>	アカザ科-ユコ科	1					10		16	
<i>Caryophyllaceae</i>	アザミ科	1								
<i>Ranunculaceae</i>	カズラ科								1	1
<i>Cruciferae</i>	アブラナ科	250	1				2		11	
<i>Sonchitaceae</i>	ランコウ科			6	7					
<i>Rubiaceae</i>	カシノキ科				2					
<i>Halimolobos-Myriophyllum</i>	アキノトウゴク属-フサコ属		1	1						1
<i>Hydrocotylidaceae</i>	オトメアザミ科		14							
<i>Asteraceae</i>	アザミ科		4	14	12	2	18		3	
<i>Labiatae</i>	シソ科								1	
<i>Lactucoidae</i>	タンポポ科	5	3	6	1		5		1	1
<i>Asteroidae</i>	カタタリ科		4	8	7		9		2	4
<i>Xanthium</i>	オウゴン科								1	
<i>Asteris</i>	カシノキ科	8	24	28	124	2	109	35	18	1
<b>Arboreal pollen</b>										
<i>Arboreal - Nonarboreal pollen</i>	樹木・草本花粉	30	191	363	183	2	91	36	39	1
<i>Nonarboreal pollen</i>	樹木・草本花粉	2	4	2	10	0	10	11	7	0
<i>Total pollen</i>	樹木花粉	336	196	317	244	7	287	115	62	3
	非樹木花粉	368	381	692	437	9	386	162	104	4
<b>Pollen frequencies at 1cm<sup>2</sup></b>										
	試料1cm <sup>2</sup> 中の花粉頻度	6.9	3.4	1.8	1.1	0.7	3.5	1.2	1.3	0.3
		$\times 10^3$	$\times 10^3$	$\times 10^3$	$\times 10^3$	$\times 10^3$	$\times 10^3$	$\times 10^3$	$\times 10^3$	$\times 10^3$
<b>Unknown pollen</b>										
	未知花粉	2	10	9	8	1	3	7	7	0
<b>Fern spore</b>										
	シダ類胞子									
<b>Mosslike type spore</b>										
	蘚類胞子	9	4				14	18	8	
<b>Trilete type spore</b>										
	三葉胞子	1	18	2	2		16	6	10	0
<b>Total Fern spore</b>										
	シダ類胞子総数	10	22	2	2	0	30	24	18	0
<b>Parasite eggs</b>										
	寄生虫卵									
<i>Unknown eggs</i>	不明虫卵			1						
<i>Total</i>	計	0	0	1	0	0	0	0	0	0
<b>Parasite eggs frequencies of 1cm<sup>2</sup> 試料1cm<sup>2</sup>中の寄生虫卵頻度</b>										
				1.1	0	0	0	0	0	0.0
				$\times 10$						$\times 10$
<b>Stone cell</b>										
	石細胞	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
<b>Digitalis - rimata</b>										
	シシトリスズシ	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
<b>Charcoal + wood fragments</b>										
	黒炭粒+木屑	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)
<b>炭粒類+木屑類(炭粒+木屑)</b> ( $\times 10^3$ )										
	未分解毒体片		0.4	2.3	1.4		0.5		0.6	
	分解毒体片		53.5	8.8	39.0	49.5	0.4	35.7	20.8	1.7
	炭化炭体片(炭粒)		9.9	0.8		1.6	0.5	1.1	1.1	0.8

第Ⅷ-2表 中島遺跡・深川遺跡(第3次)における花粉分析結果

リ、シイ属、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、ニレ属ケヤキ、エノキ属ムクノキ、ウルシ属、モチノキ属、ニシキギ科、トチノキ、ブドウ属、ツツジ科、ハイノキ属、モクセイ科

〔樹木花粉を含むもの〕

クワ科—イラクサ科、ユキノシタ科、マメ科

〔草本花粉〕

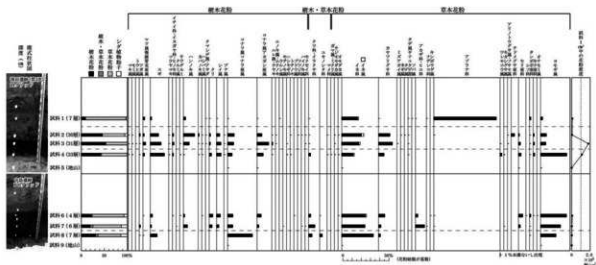
ガマ属—ミクリ属、サジオモダカ属、オモダカ属、イネ科、イネ属、カヤツリグサ科、ミズアオイ属、

ネギ属、タデ属、タデ属サナエタデ節、ソバ属、アカザ科—ヒユ科、ナデシコ科、キンボウグ属、アブラナ科、ワレモコウ属、キカシグサ属、アリノトウグサ属—フサモ属、チドメグサ亜科、セリ亜科、シソ科、タンポポ亜科、キク亜科、オナモミ属、ヨモギ属

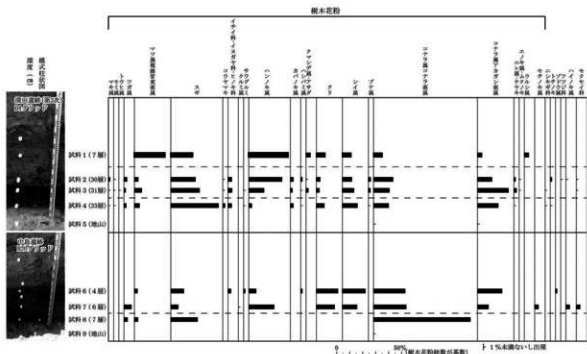
〔シダ植物孢子〕

単条溝孢子、三条溝孢子

〔寄生虫卵〕



第七-1 図 中島遺跡・深田遺跡(第3次)における花粉ダイアグラム



第七-2 図 中島遺跡・深田遺跡(第3次)における樹木花粉ダイアグラム

#### 不明虫卵 Unknown eggs

卵の大きさはおよそ70 $\mu$ mで卵殻は薄く淡黄色、一端に小蓋があるが欠落している。

#### (2) 花粉群集の特徴

各地点、下位より花粉構成と花粉組成の変化の特徴を記載する。

##### 1) 深田遺跡 (第3次) D4グリッド

試料5 (45層 (地山)) では、密度が極めて低く、花粉はほとんど検出されない。試料4 (33層) では、樹木花粉より草本花粉の占める割合が高く、樹木花粉が42%、草本花粉が56%、樹木・草本花粉が2%を占める。樹木花粉では、スギの出現率が高く、コナラ属アカガシ亜属、シイ属、コナラ属コナラ亜属、クリが伴われる。草本花粉では、ヨモギ属の出現率が高く、次いでイネ科が多く、カヤツリグサ科、セリ亜科が出現する。低層だが、イネ属やサジオモダカ属、オモダカ属、ガマ属-ミクリ属が出現する。試料3 (31層)、試料2 (30層) では、花粉組成、構成ともに類似した出現傾向を示す。下位よりスギは減少し、ハンノキ属、コナラ属コナラ亜属が増加傾向を示す。シイ属は減少傾向を示し、コナラ属アカガシ亜属は、増加しその後減少する。草本花粉では、イネ科 (イネ属含む)、カヤツリグサ科が増加し、ヨモギ属は減少する。試料1 (7層) では、草本花粉が89%を占めるようになり、アブラナ科が極めて高率に出現する。下位から継続してイネ科 (イネ属含む) が出現する。

##### 2) 中島遺跡 B20グリッド

下位より花粉構成と花粉組成の変化の特徴を記載する。

下位の試料9 (8層 (地山)) では、密度が極めて低く、花粉はほとんど検出されない。試料8 (7層) では、樹木花粉より草本花粉の占める割合が高く、樹木花粉が31%、草本花粉が49%、樹木・草本花粉が6%、シダ植物胞子が14%を占める。樹木花粉では、コナラ属コナラ亜属が優占し、次いでスギが多く、ツガ属、マツ属複雑管束亜属が出現する。草本花粉では、イネ科、ヨモギ属の出現率が高い。樹木・草本花粉では、クワ科-イラクサ科、ユキノシタ科が出現する。試料7 (6層) では、樹木花粉が19%、草本花粉が62%を占める。樹木花粉では、

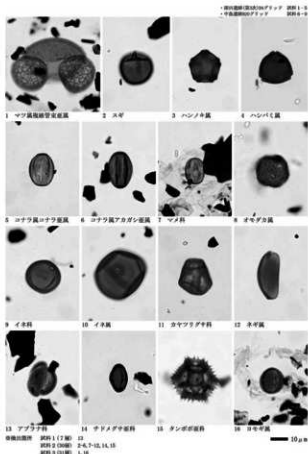
ハンノキ属、クリ、シイ属、コナラ属アカガシ亜属が増加し、下位で優占したコナラ属コナラ亜属、スギは減少する。草本花粉では、イネ科、ヨモギ属の出現率が高く、アカザ科-ヒユ科が伴われる。わずかだがイネ属がカヤツリグサ科を伴い出現する。試料6 (4層) では、樹木花粉が22%、草本花粉が69%を占める。下位の試料7と出現傾向が類似し、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、クリ、シイ属の出現率がやや高く、スギ、ハンノキ属が出現する。コナラ属アカガシ亜属、シイ属、スギは増加し、ハンノキ属は減少する。草本花粉では、ヨモギ属、セリ亜科、カヤツリグサ科が増加し、アカザ科-ヒユ科は減少する。イネ科、イネ属は継続して出現し、オモダカ属が出現する。

#### iv) 花粉分析から推定される植生と環境

花粉群集の特徴から、植生と環境及びその変遷を復原する。

##### 1) 深田遺跡 (第3次) D4グリッド

下位の試料5 (45層 (地山)) の時期は、花粉密



第Ⅲ-3図 中島遺跡・深田遺跡(第3次)の花粉

度が極めて低く、花粉などの有機質遺体が分解される乾燥した堆積環境であったか、土壌生成作用により分解されたと推定される。試料4（33層）の時期は最もヨモギ属が多く、周辺の植生としてはやや乾燥した草地在り分布していた。堆積地とその周囲は、やや多く検出されるイネ科とカヤツリグサ科と指標となる水生植物のガマ属-ミクリ属、サジオモダカ属、オモダカ属、タデ属サナエタデ節が出現することから、これら水草の生育する浅い水域から湿地であったと推定され、水田の環境も含まれるため、水田であった可能性もある。試料3（31層）、試料2（30層）の時期にかけては、ヨモギ属が減少し、ハンノキ属、イネ科（イネ属を含む）、カヤツリグサ科が増加し、周辺でヨモギ属が生育するやや乾燥した草地在り化し、ハンノキの湿地林およびイネ科（イネ属を含む）やカヤツリグサ科の生育する水域ないし湿地が拡大する。近隣地域の森林植生としては、層的变化はほとんどなく、スギ林、コナラ属アカガシ亜属とシイ属を要素とする照葉樹林と、コナラ属コナラ亜属の落葉広葉樹が分布していた。スギ林は上位に向かい縮小し、ハンノキ林は拡大する。

試料1（7層）の時期になると、アブラナ科が卓越し、周囲でアブラナなどのアブラナ科の畑作が集約的に行われるようになり、現代も水田の裏作として春先に行われるアブラナの畑作が行われたとみなされる。一般的にアブラナ栽培は近代以降に盛行する。近隣には、ハンノキの湿地林とコナラ属コナラ亜属、クリの落葉広葉樹、シイ属の照葉樹が分布し、地域的な森林要素としては、アカマツの二次林とスギ林が分布する。アカマツの二次林とアブラナ栽培から試料1（7層）の時期は、近世以降の可能性が示唆される。

## 2) 中島遺跡B20グリッド 試料6~9

下位の試料9（8層（地山））の時期は、花粉密度が極めて低く、花粉などの有機質遺体が分解される乾燥した堆積環境であったか、土壌生成作用などにより分解されたと推定される。試料8（7層）の時期には、コナラ属コナラ亜属の落葉広葉樹が近隣周辺の森林として分布し、コナラやクスギの二次林と考えられる。堆積地周辺はイネ科、ヨモギ属が優勢で、水生植物が伴わないことから、比較的乾燥

してこれら草本の生育する草地在り推定される。試料7（6層）、試料6（4層）の時期になると、コナラ属コナラ亜属が減少し、草本のヨモギ属やアカガシ属-ヒユ属、カヤツリグサ科が増加するため、コナラ属コナラ亜属の二次林が減少し、ヨモギ属やアカガシ属-ヒユ属の乾燥を好む草本の生育域とカヤツリグサ科やイネ科（イネ属を含む）の水生草本の湿潤な生育域が拡大した。上部の試料6（4層）では、イネ属が水田雑草の性格をもつカヤツリグサ科、オモダカ属を伴っており、水田の可能性も考えられる。本遺跡においては、イネ属は低率であり、稲作が行われた期間が短かったか、周囲を反映したかが考えられる。

## b. 植物珪酸体分析

### i) はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内に珪酸（ $\text{SiO}_2$ ）が蓄積したもので、植物が枯れたあともガラス質の微化石（プラント・オパール）となって土壌中に半永久的に残っている。植物珪酸体分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する方法であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定及び古植生・古環境の推定などに応用されている（杉山、2000、2009）。また、イネの消長を検査することで埋蔵水田跡の検証や探査も可能である（藤原・杉山、1984）。

### ii) 試料

分析試料は、深田遺跡（第3次）D4グリッドから採取された5点、および中島遺跡B20グリッドから採取された4点の計9点である。試料採取箇所を分析結果の土層断面図（写真）に示す。

### iii) 分析法

植物珪酸体の抽出と定量は、ガラスビーズ法（藤原、1976）を用いて、次の手順で行った。

- 1) 試料を105℃で24時間乾燥（絶乾）
- 2) 試料約1gに対し直径約40 $\mu\text{m}$ のガラスビーズを約0.02g添加（0.1mgの精度で秤量）
- 3) 電気炉灰化法（550℃・6時間）による脱有機物処理
- 4) 超音波水中照射（300W・42kHz・10分間）による分散
- 5) 沈底法による20 $\mu\text{m}$ 以下の微粒子除去

検出密度 (単位: ×100個/g)

Japanese name(和名)	Scientific name(学名)	深田遺跡(第3次)D4グリッド					中島遺跡 R20グリッド					
		1	2	3	4	5	6	7	8	9		
イネ科	Gramineae											
イネ	<i>Oryza sativa</i>	22			5		16	5				
コシノ楯	<i>Panicum</i>	5		11	5		5			5		
キビ属型	<i>Panicum type</i>	5	16	16	5		5	5				
ススキ属型	<i>Miscanthus type</i>	5	5	11	5		5	5		6	5	
ウツクサ属A	<i>Andropogoneae A type</i>	22	16	11	10		5	21		6	11	
ヒトタイ	<i>B. type</i>			5						6	27	
タケ亜科	Bambusoideae											
メダケ属型	<i>Pholidanthus sect. Nipponocalamus</i>	27	21	16	36		21	48		58	38	
ネギヤシ属型	<i>Pholidanthus sect. Neesus</i>	124	173	59	215	11	154	361		724	242	
ナマキヤシ属型	<i>Sasa sect. Sasa etc.</i>	5	10	5	15		11	16		12	27	
ミヤコザシ属型	<i>Sasa sect. Crassinodi</i>	11	10	5	5		5	12		5	11	
未分類型	Others	59	31	27	15	11	32	91		98	102	
その他のイネ科	Others											
表皮毛起源	Husk hair origin	16	16	21	15		5	5		6	5	
棒状柱胞体	Rod-shaped	54	31	86	77		64	43		46		
茎節起源	Stem origin				5			5				
未分類等	Others	168	121	139	118	17	117	129		156	113	
シダ亜科	Ferns				11						5	
樹木起源	Asheral											
クスノキ科	Lauraceae							5				
その他	Others		5	11	5		11	5	6	5		
(菌類等計)	Sponge spicules	5					5					
植物性有機体総数	Total	543	462	433	528	40	461	768	1135	567		

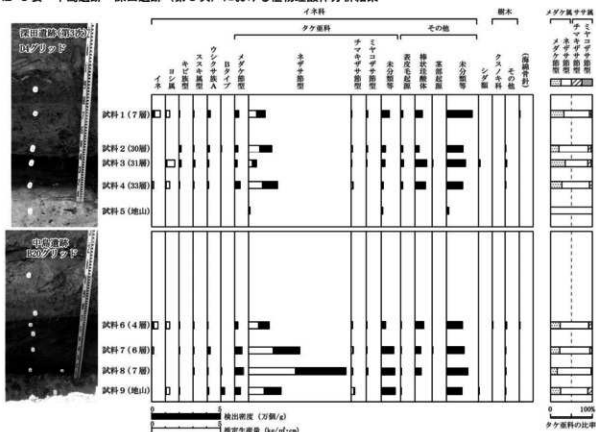
おもな分類群の推定生産量 (単位: kg/m<sup>2</sup>・cm) : 試料の乾比重を1.0と仮定して算出

イネ	<i>Oryza sativa</i>	0.63			0.15		0.47	0.16				
コシノ楯	<i>Panicum</i>	0.34		0.67	0.32		0.33				0.34	
ススキ属型	<i>Miscanthus type</i>	0.07	0.07	0.13	0.06		0.07	0.07	0.07			
メダケ属型	<i>Pholidanthus sect. Nipponocalamus</i>	0.31	0.24	0.19	0.42		0.25	0.56	0.67	0.44		
ネギヤシ属型	<i>Pholidanthus sect. Neesus</i>	0.59	0.83	0.28	1.03	0.06	0.74	1.83	3.48	1.16		
ナマキヤシ属型	<i>Sasa sect. Sasa etc.</i>	0.04	0.08	0.04	0.12		0.08	0.12	0.09	0.20		
ミヤコザシ属型	<i>Sasa sect. Crassinodi</i>	0.03	0.03	0.02			0.02	0.02	0.03			

タケ亜科の比率 (%)

メダケ属型	<i>Pholidanthus sect. Nipponocalamus</i>	32	21	35	27		23	22	16	24		
ネギヤシ属型	<i>Pholidanthus sect. Neesus</i>	61	70	54	66	100	68	72	81	65		
ナマキヤシ属型	<i>Sasa sect. Sasa etc.</i>	4	7	8	7		7	5	2	11		
ミヤコザシ属型	<i>Sasa sect. Crassinodi</i>	3	3	3			1	1				
メダケ率	Melake ratio	93	91	89	93	100	91	95	97	89		

第Ⅲ-3表 中島遺跡・深田遺跡(第3次)における植物珪酸体分析結果



第Ⅲ-4図 中島遺跡・深田遺跡(第3次)における植物珪酸体分析結果

6) 封入剤 (オイキット) 中に分散してプレパラート作成

#### 7) 検鏡・計数

同定は、400倍の偏光顕微鏡下で、おもにイネ科植物の機動細胞に由来する植物珪酸体を対象として行った。計数は、ガラスビーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート1枚分の精査に相当する。試料1gあたりのガラスビーズ個数に、計数された植物珪酸体とガラスビーズ個数の比率をかけて、試料1g中の植物珪酸体個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重 (1.0と仮定) と各植物の換算係数 (機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重) をかけて、単位面積で層厚1cmあたりの植物体生産量を算出した。これにより、各植物の繁茂状況や植物間の占有割合などを具体的にとらえることができる (杉山, 2000)。タケ亜科については、植物体生産量の推定値から各分類群の比率を求めた。

#### iv) 分析結果

検出された植物珪酸体の分類群は以下のとおりである。これらの分類群について定量を行い、その結果を第Ⅷ-3表及び第Ⅷ-4図に示した。主要な分類群について顕微鏡写真を示す。

#### 【イネ科】

イネ、ヨシ属、キビ族型、ススキ属型 (おもにススキ属)、ウシクサ族A (チガヤ属など)、Bタイプ【イネ科-タケ亜科】

メダケ節型 (メダケ属メダケ節・リュウキュウチク節、ヤダケ属)、ネザザ節型 (おもにメダケ属ネザザ節)、チマキザサ節型 (ササ属チマキザサ節・チシマザサ節など)、ミヤコザサ節型 (ササ属ミヤコザサ節など)、未分類等

#### 【イネ科-その他】

表皮毛起源、棒状珪酸体 (おもに結合組織細胞由来)、茎部起源、未分類等

#### 【シダ類】

#### 【樹木】

クスノキ科、その他

#### v) 考察

#### (1) 稲作跡の検討

稲作跡 (水田跡) の検証や探査を行う場合、一般

にイネの植物珪酸体 (プラント・オパール) が試料1gあたり5,000個以上と高い密度で検出された場合に、そこで稲作が行われていた可能性が高いと判断している (杉山, 2000)。なお、密度が3,000個/g程度でも水田遺構や畑遺構が検出される事例があることから、ここでは判断の基準を3,000個/gとして検討を行った。

#### 1) 深田遺跡 (第3次) D4グリッド

D4グリッドでは、試料1 (7層) から試料5 (45層 (地山)) までの層準について分析を行った。その結果、試料1 (7層) と試料4 (33層) からイネが検出された。イネの密度は、2,200個/g及び500個/gと比較的低い値である。イネの密度が低い原因としては、稲作が行われていた期間が短かったこと、土層の堆積速度が速かったこと、採取地点が畦畔など耕作面以外であったこと、及び上層や他所からの混入などが考えられる。

#### 2) 中島遺跡 B20グリッド

B20グリッドでは、試料6 (4層) から試料9



第Ⅷ-5図 中島遺跡・深田遺跡 (第3次) における植物珪酸体 (プラント・オパール)

(8層(地山))までの層準について分析を行った。その結果、試料6と試料7からイネが検出された。イネの密度は、1,600個/gおよび500個/gと比較的低い値である。イネの密度が低い原因としては、前述のようなことが考えられる。

## (2) イネ科栽培植物の検討

植物珪酸体分析で同定される分類群のうち栽培植物が含まれるものには、イネ以外にもムギ類、ヒエ属型(ヒエが含まれる)、エノコログサ属型(アワが含まれる)、キビ属型(キビが含まれる)、ジュズダマ属型(ハトムギが含まれる)、オヒシバ属型(シコクビエが含まれる)、モロコシ属型、トウモロコシ属型などがあるが、これらの分類群はいずれの試料からも検出されなかった。

イネ科栽培植物の中には検討が不十分なものもあるため、その他の分類群の中にも栽培種に由来するものが含まれている可能性が考えられる。また、キビ族型にはヒエ属やエノコログサ属に近似したものも含まれている。これらの分類群の給源植物の究明については今後の課題としたい。なお、植物珪酸体分析で同定される分類群は主にイネ科植物に限定されるため、根菜類などの畑作物は分析の対象外となっている。

## (3) 植物珪酸体分析から推定される植生と環境

### 1) 深田遺跡(第3次)D4グリッド

試料1(7層)から試料4(33層)にかけては、ネザサ節型が比較的多く検出され、ヨシ属、キビ族型、ススキ属型、ウシクサ族A、メダケ節型、チャキザサ節型、ミヤコザサ節型、樹木(その他)なども認められた。下位の試料5(地山)では、植物珪酸体がほとんど検出されなかった。おもな分類群の推定生産量によると、試料5(45層(地山))以外ではおおむねネザサ節型が優勢となっている。

以上の結果から、試料5(45層(地山))を除く各層準の堆積当時は、メダケ属(おもにネザサ節)をはじめ、キビ族、ススキ属、ウシクサ族なども生育するイネ科植生であったと考えられ、部分的にヨシ属が生育するような湿潤なところも存在していたと推定される。また、遺跡周辺には何らかの樹木が生育していたと考えられる。

### 2) 中島遺跡B20グリッド

各試料ともネザサ節型が多量に検出され、とくに試料8(7層)では密度が72,400個/gとかなり高い値である。また、キビ族型、ススキ属型、ウシクサ族A、メダケ節型、チャキザサ節型、ミヤコザサ節型、樹木(その他)なども検出され、部分的にヨシ属も認められた。おもな分類群の推定生産量によると、全体的にネザサ節型が優勢であり、とくに試料6(4層)ではネザサ節型が卓越している。

以上の結果から、各層準の堆積当時はメダケ属(おもにネザサ節)をはじめ、キビ族、ススキ属、ウシクサ族なども生育するイネ科植生であったと考えられ、部分的にヨシ属が生育するような湿潤なところも存在していたと推定される。また、遺跡周辺には何らかの樹木が生育していたと考えられる。

## c. 珪藻分析

### i) はじめに

珪藻は、珪酸質の被殻を有する単細胞植物であり、海水域や淡水域などの水域をはじめ、湿った土壌、岩石、コケの表面にまで生息している。珪藻の各分類群は、塩分濃度、酸性度、流水性などの環境要因に応じて、それぞれ特定の生息場所を持っている。珪藻化石群集の組成は、当時の堆積環境を反映しており、水域を主とする古環境復原の指標として利用されている。

### ii) 方法

以下の手順で、珪藻の抽出と同定を行った。

- 1) 試料から1cm<sup>3</sup>を採量
- 2) 10%過酸化水素水を加え、加温反応させながら1晩放置
- 3) 上澄み液を捨て、細粒のコロイドを水洗(5~6回)
- 4) 残渣をマイクロピペットでカバーガラスに滴下して乾燥
- 5) マウントメディアによって封入し、プレパラート作製
- 6) 検鏡、計数

検鏡は、生物顕微鏡(Nikon ECLIPSE C1)によって600~1500倍で行った。計数は珪藻被殻が200個体以上になるまで行い、少ない試料についてはプレパラート全面について精査を行った。



### iii) 結果

#### (1) 分類群

試料から出現した珪藻は、真塩性種（海水生種）1分類群、中一貧塩性種（汽-淡水生種）1分類群、貧塩性種（淡水生種）50分類群である。破片の計数は基本的に中心域を有するものと、中心域がない種については両端2個につき1個と数えた。分析結果を第Ⅷ-4表に示し、珪藻総数を基数とする百分率

を算定した珪藻ダイアグラムを第Ⅷ-6図に示す。珪藻ダイアグラムにおける珪藻の生態性はLowe (1974)の記載により、陸生珪藻は小杉 (1986) により、環境指標種群は海水生種から汽水生種は小杉 (1988) により、淡水生種は安藤 (1990) による。現生珪藻のCMB仮説と呼ばれる分類体系も用いられるが、科や属によってすべてを再分類できているわけではなく、混乱を避けるため従来分類を用いた。また、

分類群	深田遺跡(第3次)D4グリッド					中島遺跡 K29グリッド			
	1	2	3	4	5	6	7	8	9
真塩性種 (海水生種)									
<i>Achnanthes lawleyi</i>					2				
<i>Achnanthes minutissima</i>					3				
<i>Amphora fontinalis</i>					1				
<i>Aulacoseira condensis</i>		27	2			2			
<i>Aulacoseira</i> spp.		3			2		3		
<i>Caloneis laeta</i>					1				
<i>Caloneis molaris</i>					4				
<i>Cocconeis placentula</i>		1							
<i>Cymbella cuspidata</i>		1							
<i>Cymbella gracilis</i>			2						
<i>Cymbella silicicola</i>			1						
<i>Cymbella sinuata</i>					1				
<i>Cymbella tergestina</i>		4	1		6				
<i>Ecetia bilamaria</i>					1				
<i>Ecetia minor</i>					6				
<i>Ecetia pulchra-rhomboides</i>					4				
<i>Ecetia puerile</i>					2				166
<i>Ecetia serru</i>	1	1		6					
<i>Ecetia</i> spp.				2					
<i>Fragilaria capucina</i>		4							
<i>Frustulia rhomboides</i>		1							
<i>Gomphonema acuminatum</i>					1				
<i>Gomphonema clevei</i>		1							
<i>Gomphonema minutum</i>					1				
<i>Gomphonema parvulum</i>		1			6			1	
<i>Gomphonema pusillum</i>		1			1				
<i>Hantzschia amphioxys</i>	1				5		5		
<i>Meridion circulare</i> s. <i>constrictum</i>					1				
<i>Nannula cubiti</i>					1				
<i>Nannula contorta</i>					1				
<i>Nannula elginensis</i>			1		1				
<i>Nannula guppertiana</i>			7		26				
<i>Nannula laevissima</i>			2						
<i>Nannula mollis</i>		1	3		4			1	
<i>Nannula pupula</i>		1							
<i>Nitzschia nana</i>					2				
<i>Nitzschia parviboides</i>			1						
<i>Pinnularia aestuarii</i>					1		1		
<i>Pinnularia appendiculata</i>					1				
<i>Pinnularia borealis</i>		1	3		17		1	1	
<i>Pinnularia divergens</i>					2				
<i>Pinnularia gibba</i>			2				1		
<i>Pinnularia ligusticollis</i>					2				
<i>Pinnularia microstaurum</i>					7				
<i>Pinnularia nodosa</i>					1				
<i>Pinnularia stomatophora</i>			2		1				
<i>Pinnularia viridis</i>					4				
<i>Pinnularia</i> spp.			1		1				
<i>Rhopalodia gibberula</i>		3	14		32				
<i>Tabellaria fenestrata-flocculosa</i>		1			3				
中一貧塩性種 (汽-淡水生種)									
<i>Plagiotripis leptoptera</i>						1	1		
真塩性種 (海水生種)									
<i>Grammatophora oceanica</i>						1			
合 計	2	52	57	331	0	7	13	1	0
未同定	0	1	1	1	0	0	0	0	0
破片	11	87	363	374	0	31	24	0	0
試料 1 cm <sup>2</sup> 中の個体密度	0.4 ×10 <sup>2</sup>	1.1 ×10 <sup>2</sup>	1.2 ×10 <sup>2</sup>	3.6 ×10 <sup>2</sup>	-	1.4 ×10 <sup>1</sup>	2.6 ×10 <sup>1</sup>	0.2 ×10 <sup>0</sup>	-
完形残存率 (%)	-	37.9	13.8	47.0	-	-	-	-	-

第Ⅷ-4表 中島遺跡・深田遺跡(第3次)における珪藻分析結果

主要な分類群は顕微鏡写真に示した。以下にダイアグラムで表記した主要な分類群を記載する。

〔中一貧塩性種〕

*Plagiotropis lepidoptera*

〔貧塩性種〕

*Achnanthes lanceolata*, *Aulacoseira canadensis*, *Aulacoseira* spp., *Caloneis molaris*, *Cymbella gracilis*, *Cymbella turgidula*, *Eunotia minor*, *Eunotia paludosa-rhomboides*, *Eunotia praerupta*, *Eunotia serra*, *Eunotia* spp., *Fragilaria capucina*, *Gomphonema minutum*, *Gomphonema parvulum*, *Gomphonema pumilum*, *Hantzschia amphioxys*, *Navicula elginensis*, *Navicula goeppertiana*, *Navicula laevisissima*, *Navicula mutica*, *Nitzschia nana*, *Pinnularia aestuarii*, *Pinnularia borealis*, *Pinnularia divergens*, *Pinnularia gibba*, *Pinnularia lagerstedtii*, *Pinnularia microstauron*, *Pinnularia* spp., *Pinnularia stomatophora*, *Pinnularia viridis*, *Rhopalodia gibberula*, *Tabellaria fenestrata-flocculosa*

(2) 珪藻群集の特徴

それぞれの地点において、下位より珪藻構成と珪藻組成の変化の特徴を記載する。

1) 深田遺跡 (第3次) D4グリッド

下位の試料5 (45層 (地山)) では、密度が極めて低く、珪藻は検出されなかった。試料4 (33層) では、流水不定性種が78%、陸生珪藻が10%、真・好止水性種が7%、真・好流水性種が5%を占め、密度は低い。流水不定性種で沼沢湿地付着種の *Eunotia praerupta* が高率に出現し、他に *Rhopalodia gibberula*, *Navicula goeppertiana*, *Eunotia paludosa-rhomboides* と陸生珪藻の *Pinnularia borealis* が出現する。試料3 (31層) では、流水不定性種が66%、真・好止水性種が19%、陸生珪藻が11%、真・好流水性種が4%を占め、密度は低い。流水不定性種では、*Rhopalodia gibberula*, *Navicula goeppertiana*, *Eunotia paludosa-rhomboides* の出現率がやや高く、好止水性種では *Eunotia serra*, 陸生珪藻では *Navicula mutica*, *Pinnularia borealis* が出現する。試料2 (30層) では、真・好止水

性種が64%、流水不定性種が19%、真・好流水性種が13%、陸生珪藻の4%を占め、密度は低い。好止水性種で沼沢湿地付着種の *Aulacoseira canadensis* が高率に出現し、好流水性種の *Cymbella turgidula*, 流水不定性種の *Fragilaria capucina*, *Rhopalodia gibberula* が出現する。試料1 (7層) では、密度が極めて低く、珪藻はほとんど検出されなかった。

2) 中島遺跡 B20グリッド

いずれの試料も密度が極めて低く、珪藻は検出されないか、検出されても極わずかであった。わずかではあるが、試料7 (6層) で陸生珪藻の *Hantzschia amphioxys*、好止水性種の *Aulacoseira* spp. が出現する。

iv) 珪藻分析から推定される堆積環境

1) 深田遺跡 (第3次) D4グリッド

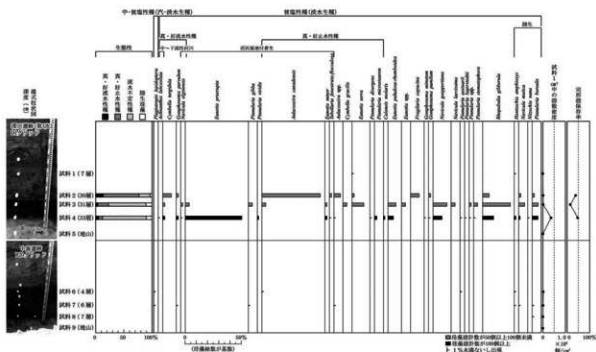
下位の試料5 (45層 (地山)) の時期には、密度が極めて低く、珪藻の生育できない乾燥した堆積環境であったか、土壌のPHなどにより分解された可能性が考えられる。試料4 (33層) の時期は、流水不定性種で沼沢湿地付着種の *Eunotia praerupta* が高率に出現することから、流水と止水が繰り返す不安定で浅く水草が繁茂する水域が示唆される。試料3 (31層) の時期には流水不定性種で占められ、好流水性種、好止水性種、陸生珪藻も出現するが少なく、流水と止水が繰り返す不安定な浅い水域の環境が考えられる。試料2 (30層) の時期には、好止水性種で沼沢湿地付着種の *Aulacoseira canadensis* が高率に優占し、水草の繁茂する浅くやや広い安定した池状の水域が示唆される。試料1 (7層) の時期には、密度が極めて低く、珪藻の生育できない乾燥した堆積環境であったか、土壌のPHなどにより分解された可能性が考えられる。

2) 中島遺跡 B20グリッド

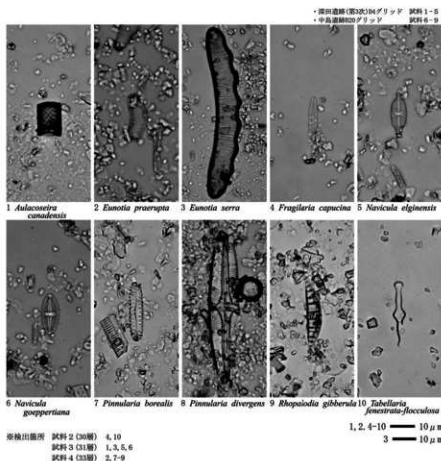
いずれの試料も密度が極めて低く、珪藻の生育できない乾燥した堆積環境であったか、堆積速度が速く珪藻が集積出来なかったか、土壌のPHなどにより分解された可能性も考えられる。

d. 考察とまとめ

深田遺跡 (第3次) では、下位より33層 (試料4) の時期は、ヨモギ属とネザサ属などのイネ科の繁茂するやや乾燥した植生が周辺に広く分布し、試料採



第Ⅶ-6図 中島遺跡・深田遺跡(第3次)における主要珪藻ダイアグラム



第Ⅶ-7図 中島遺跡・深田遺跡(第3次)の珪藻

取した堆積地と周囲は、ヨシ属などのイネ科とカヤツリグサ科およびガマ属-ミクリ属、サジオモダカ属、オモダカ属、タデ属サナエタデ節の水田雑草を含む水生植物が生ずる浅い水域であった。イネないしイネ属は、花粉も植物珪酸体も低率ないし少量であり、周囲からの流れ込みの反映か、期間が短いまたは狭い範囲の水田であったためと考えられるが断定しにくい。このことは、上位層準(試料2、3)および中島遺跡(B20グリッド)においても、同様である。31層(試料3)と30層(試料2)では、乾燥した草地が縮小し、ハンノキの湿地林とイネ科とカヤツリグサ科やサジオモダカ属などの水田雑草の性格をもつ水生植物の生ずる浅くやや広い安定した池状の水域が拡大する。イネ属の花粉は上位に向かい増加し、周辺において水田が拡大したと考えられる。試料採取された堆積地は、水草の生ずる水域で水田雑草は分布しているがイネの植物珪酸体は検出されず、水田かどうかは不明である。地域的な森林植生は、33層(試料4)、31層(試料3)と30層(試料2)にかけて大きくは変化せず、近隣とみられるハンノキの湿地林を除けば、スギ林、シイ属とコナラ属アカガシ亜属の照葉樹林、コナラ属コナラ亜属とクリの二次林が分布していた。上位の7層(試料1)は、アブラナなどのアブラナ科の集約的な裏作が行われ、近世から近代の時期とみなされる。中島遺跡(B20グリッド)では、下位の7層(試料8)で、ヨモギ属とメダケ属(おもにネザサ節)などのイネ科とコナラ属ヤクズギ(コナラ属コナラ亜

#### 参考文献

- 金原正明・金原正子(2013) 植生と農耕における土壌層分析の実証的研究。日本文化財科学会第30回大会研究発表要旨集, p. 112-113.  
 金原正明・金原正子(2015) 堆積物と植物遺体の総合的研究。日本文化財科学会第32回大会研究発表要旨集, p. 146-147.  
 中村 純(1967) 「花粉分析」, 古今書院, 232p.  
 島倉巳三郎(1973) 日本植物の花粉形態。大阪市立自然科学博物館収蔵目録, 5, 60p.  
 中村 純(1974) イネ科花粉について、とくにイネ(*Oryza sativa*)を中心として。第四紀研究, 13, p. 187-193.  
 中村 純(1977) 編作とイネ花粉。考古学と自然科学, no. 10, p. 21-30.  
 中村 純(1980) 日本産花粉の標本。大阪自然科学博物館収蔵目録第13集, 91p.  
 金原正明(1993) 花粉分析法による古環境復原。木下正史編「新版古代の日本 第10巻 古代資料研究の方法」, 角川書店, p. 248-262.  
 杉山真二・藤原宏志(1986) 機動細胞珪酸体の形態によるタケ亜科植物の同定-古環境推定の基礎資料として-。考古学と自然科学, 19, p. 69-84.

属)の草原から森林が分布していた。人里植物ないし耕地雑草や、コナラ属ヤクズギの二次林から人為活動による干渉が行われていたとみなされる。6層(試料7)から4層(試料6)の時期では、コナラ属コナラ亜属の森林が縮小し、ヨモギ属やアカガシ科-ヒユ科の乾燥を好む草本の分布する草地とカヤツリグサ科やイネ科(イネ属を含む)の水生草本の生ずる湿地が拡大した。4層(試料6)においては、イネ植物珪酸体およびイネ属花粉がやや低密度ないし低率に検出がされるが、明らかな水田を示唆するには低い値である。

以上の二地点を花粉層序として対比した場合、深田遺跡(第3次)が上部で、その下位の33層(試料4)が中島遺跡(B20グリッド)の上位の4層(試料6)と6層(試料7)と重なり、コナラ属コナラ亜属の優勢な7層(試料8)が最下部と対比できると考えられる。よって、弥生時代(廻間I式並行)から古墳時代の周辺の植生は、イネ科やヨモギ属の草本とコナラ属コナラ亜属の優勢な二次林と考えられる森林の分布から、コナラ属コナラ亜属の森林の縮小に伴うクリとシイ属およびハンノキの増加を経て、ハンノキの湿地林とスギ林の分布へと変遷する。最上位では、アカマツの二次林が成立する。草本では、ヨモギ属やアカガシ科-ヒユ科が増加し、イネ科とカヤツリグサ科の優勢へと変化し、最上位ではアブラナ科の優占へと変遷していく。

(一般社団法人 文化財科学研究センター)

- 杉山真二(2000) 植物珪酸体(プラント・オパール)。考古学と植物学, 同成社, p. 189-213.  
 杉山真二(2009) 植物珪酸体と古生態。人と植物の関わりあい④。大地と森の中で-縄文時代の古生態系-。縄文の考古学Ⅲ, 小杉康ほか編。同成社, p. 105-114.  
 藤原宏志(1976) プラント・オパール分析法の基礎的研究(1)-数種イネ科植物の珪酸体標本と定量分析法-。考古学と自然科学, 9, p. 15-29.  
 藤原宏志・杉山真二(1984) プラント・オパール分析法の基礎的研究(5)-プラント・オパール分析による水田址の探査-。考古学と自然科学, 17, p. 73-85.  
 Warnock, P. J. and Reinhard, K. J. (1992) Methods for Extracting Pollen and Parasite Eggs from Latrine Soils. *Journal of Archaeological Science*, 19, p. 231-245.  
 Hustedt, F. (1937-1938) Systematische und ologische Untersuchungen über die Diatomen Flora von Java, Bali und Sumatra nach dem Material der Deutschen Limnologischen Sunda-Expedition. *Arch. Hydrobiol. Suppl.* 15, p. 131-506. Low, R.L. (1974) Environmental Requirements and pollution tolerance of freshwater diatoms. 333p., National Environmental Reser

ch. Center.  
 K. Krammer · H. Lange-Bertalot (1986-1991) Bacillariophyceae, vol. 2, no. 1-no. 4  
 Asai, K. & Watanabe, T. (1995) Statistic Classification of Epilithic Diatom Species into Three Ecologic Groups relating to Organic Water Pollution (2) Saprophilous and saproxenous taxa. Diatom, 10, p. 35-47.  
 安藤一男 (1990) 淡水産珪藻による環境指標種の設定と古環境復原への応用. 東北地理, 42, p. 73-88.  
 伊藤良永・堀内誠示 (1991) 陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析への応用. 珪藻学会誌, 6, p. 23-45.  
 小杉正人 (1986) 陸生珪藻による古環境解析とその意義一

わが国への導入とその展望一. 植生史研究, 第1号, 植生史研究会, p. 29-44.  
 小杉正人 (1988) 珪藻の環境指標種の設定と古環境復原への応用. 第四紀研究, 27, p. 1-20.  
 渡辺仁治 (2005) 淡水珪藻生態図鑑 群集解析に基づく汚濁指数DALPO, pH耐性態. 内田老鶴園, 666p.  
 Theriot, E. C., J. J. Cannone, R. R. Gutell & A. J. Alverson 2009. The limits of nuclear-encoded SSU rDNA for resolving the diatom phylogeny. Eur. J. Phycol. 44, p. 277-290.  
 鈴木秀和・南雲保 (2013) 珪藻類の分類体系 (総説) ～ 現生珪藻の属ランクのチェックリスト. 日本プランクトン学会報60(2), p. 60-79.

## 第2節 金沢川遺跡 (第1次) ・中島遺跡における樹種同定・昆虫同定

### はじめに

本分析調査では、金沢川遺跡 (第1次) ・中島遺跡 (第1次) から出土した木材・炭化材及び昆虫の同定を実施し、遺跡周辺の環境や木材利用に関する資料を作成する。

#### a 樹種同定

##### i) 試料

試料は、金沢川遺跡 (第1次) から出土した木材 (生材) 3点 (試料No. 1～3)、中島遺跡から出土した木材 (生材) 3点 (試料No. 4、9、10)、炭化材3点 (試料No. 5～7) の計9点である。試料の詳細は、結果とともに第Ⅴ-5表に示す。

##### ii) 方法

生材は剃刀を用いて木口 (横断面) ・柎目 (放射断面) ・板目 (接線断面) の3断面の切片を製作する。光学顕微鏡 (使用機器; Nikon E600) で木材組織の種類や配列を観察する。炭化材は剃刀を用いて木口 (横断面) ・柎目 (放射断面) ・板目 (接線断面) の3断面の断面を製作する。実体顕微鏡 (使用機器; Carl Zeiss Stemi2000-C) や走査型電子顕微鏡 (使用機器; 日本電子株式会社 JCM5700) で木材組織の種類や配列を観察する。

木材組織の特徴を現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベースと比較して種類 (分類群) を同定する。なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東 (1982)、Wheeler他 (1998)、Richter他 (2006) を参考にする。日本産木材の組織配列は、林 (1991) や伊東 (1995, 1996, 1997, 1998, 1999) を参考にする。

##### iii) 結果

結果を第Ⅴ-5表に示す。針葉樹2分類群 (ヒノ

キ属、カヤ)、広葉樹3分類群 (ツバキ属、トチノキ、カキノキ属) に同定された。以下、遺跡別に記す。

#### <金沢川遺跡 (第1次)>

試料No. 1 (B 2 Pit 1)、試料No. 2 (B 3 Pit) の柱痕はヒノキ属に同定された。試料No. 3 (B 7 Pit 3) の柱痕片は、広葉樹の節の部分で、柎目、板目が通常の組織ではないため、樹種は不明である。

以下、ヒノキ属の解剖学的特徴等を述べる。

#### ・ヒノキ属 (*Chamaecyparis*) ヒノキ科

仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか〜やや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞が晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞壁は滑らか。分野壁孔は基本的にヒノキ型だが、保存が悪く観察できない箇所もある。放射組織は単列、1～15細胞高。

ヒノキ属にはヒノキとサワラがあり、木材組織の違いにより識別できる場合もあるが (Noshiro, 2011)、今回は遺物の破壊を極力抑えることに主眼を置き、両者を区別できるような試料採取 (広範囲かつ保存状態の良い場所からの採取) を行っていないため、ヒノキ属としている。

#### <中島遺跡>

試料No.	種別	遺跡名	出土地点	分類群
1	生材 (柱痕)	金沢川	B2 Pit 1	ヒノキ属
2	生材 (柱痕)	金沢川	B3 Pit 1	ヒノキ属
3	生材 (柱痕片)	金沢川	B7 Pit 3	広葉樹の節
4	生材 (炭材)	中島	B7 SEK22	ヒノキ属
5	炭化材	中島	B1 SK101最下層	ツバキ属
6	炭化材	中島	B6 SK109no. 1付近	トチノキ
7	炭化材	中島	B7 SK112	カヤ
9	生材	中島	C7 S2205	カキノキ属
10	生材 (炭材)	中島	C7 S2205	カヤ

第Ⅴ-5表 金沢川遺跡 (第1次) ・中島遺跡樹種同定結果

生材は、試料No.4 (D7 SE322)の曲物がヒノキ属、試料No.9 (C7 SZ205)がカキノキ属、試料No.10 (C7 SZ205)の「木桶か」がカヤに同定された。炭化材は、試料No.5 (B1 SK101最下層)がツバキ属、試料No.6 (B6 SK109No.1付近)がトチノキ、試料No.7 (B7 SK112)がカヤに同定された。

以下、各分類群の解剖学的特徴を述べる。

・ヒノキ属 (*Chamaecyparis*) ヒノキ科

仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やかへやや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞が晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞壁は滑らか。分野壁孔は基本的にヒノキ型だが、保存が悪く観察できない箇所もある。放射組織は単列、1~15細胞高。

・カヤ (*Torreya nucifera* Sieb. et Zucc.) イチイ科カヤ属

輪方向組織は仮道管のみで構成され、樹脂道および樹脂細胞は認められない。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は狭い。仮道管内壁にある2本が対をなしたらせん肥厚が特徴である。放射組織は柔細胞のみで構成される。

・ツバキ属 (*Camellia*) ツバキ科

散孔材で、管壁は薄く、単独および2~3個が複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は階段穿孔を有し、壁孔は対列~階段状に配列する。放射組織は異性、1~5細胞幅、1~40細胞高。

・トチノキ (*Aesculus turbinata* Blume) トチノキ科トチノキ属

散孔材で、管壁は、単独または2~3個が複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列。放射組織は同性、単列、1~15細胞高で階層状に配列。

・カキノキ属 (*Diospyros*) カキノキ科

散孔材で、管壁は厚く、横断面では楕円形、単独または2~4個が時に年輪界をはさんで複合する。道管は単穿孔、壁孔は対列状。放射組織は異性、1~3細胞幅、10~20細胞高で階層状に配列。

iv) 考察

<金沢川遺跡 (第1次) >

B2 Pit1とB3 Pitより出土した柱根は、針葉

樹のヒノキ属に同定された。ヒノキ属は、硬さは中庸で耐朽性があり、水湿にも強い。加工は容易で、割裂にも向く。このため、建築材として有用であるばかりでなく、器具や建具などにも頻繁に用いられる有用材である。伊東・山田編(2012)の出土木製品用材データベースによれば、県内で出土した柱材にはヒノキが多い。その他、針葉樹ではスギ、マキ属やコウヤマキ、広葉樹ではクリやコナラ節など水湿に強い種類が使われる傾向にある。

<中島遺跡>

D7 SE322より出土した曲物が針葉樹のヒノキ属、C7 SZ205より出土した木桶と考えられている生材が針葉樹のカヤ、他が広葉樹のカキノキ属に同定された。ヒノキ属は、加工は容易で、割裂しやすいため、曲物に使われることが多い。伊東・山田編(2012)の出土木製品用材データベースによれば、曲物に使われる木材は、遠江より西ではヒノキ科が多いとされ、今回の結果は調和的といえる。その他、カヤとカキノキ属は、木材として堅く、器具材などに用いられることが多い。これらは温暖な地方に生育するため、木材は海岸沿いや西日本での出土例が多く、遺跡周辺に生育していたとみられる。カキノキ属は人家に植栽されることが多いため、植栽樹の可能性もある。

炭化材は、針葉樹のカヤ、広葉樹のツバキ属、トチノキに同定され、燃料材等の可能性がある。伊東・山田編(2012)の出土木製品用材データベースによれば、燃料材は遺跡周辺の樹木を採取して利用するため、樹種が雑多となる。炭化材で確認された樹種は、いずれも現在の本地域にも分布しており、当時の遺跡周辺でも手に入れることができたと考えられる。

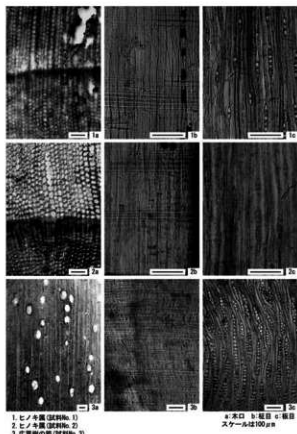
b) 昆虫同定

i) 試料

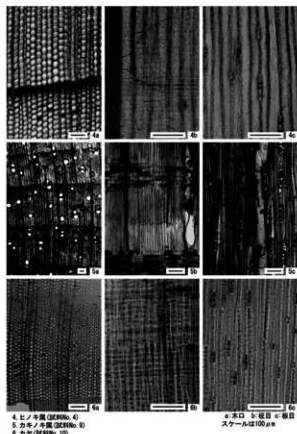
試料は、中島遺跡より出土した昆虫2点(試料No. 8-1、8-2)である。試料No. 8-2には、3片の昆虫が認められたため、便宜上1~3の枝番号を付した。試料の詳細は、結果とともに第Ⅷ-6表に示す。

ii) 分析方法

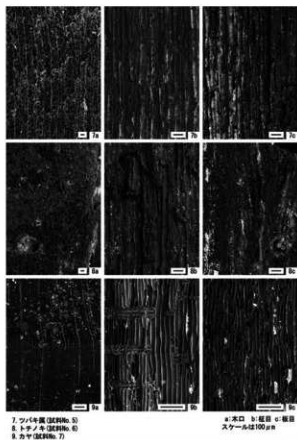
試料を双眼実体顕微鏡(使用機器: Carl Zeiss Stemi2000-C)で観察し、表面に付着した土壌を除去しながら、形態的特徴より同定を実施する。



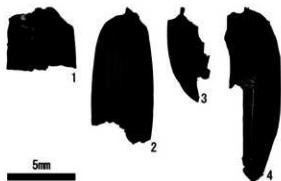
第Ⅶ-8図 金沢川遺跡の木材



第Ⅶ-9図 中島遺跡の木材



第Ⅶ-10図 中島遺跡の炭化材



1. ヒメコガネ 左上翅 基部 (試料No. 8-1)
2. オオゴミムシ 左上翅 基部 (試料No. 8-2)
3. オオゴミムシ 左上翅 基部 (試料No. 8-2)
4. コガネムシ 左後翅 基部 (試料No. 8-2)

第Ⅶ-11図 中島遺跡の昆虫

試料No.	出土地点	投番	種名	部位	備考
8-1	D7 SE322	-	ヒメコガネ	左上翅	残存 1/4
		1	オオゴミムシ	左上翅	残存 2/3
		2	オオゴミムシ	左上翅	残存 1/3
8-2	E2 土坑	3	コガネムシ	左上翅	ほぼ完形
				左後翅	ほぼ完形

第Ⅶ-6表 中島遺跡昆虫同定結果

### iii) 結果

結果を第Ⅷ-6表に示す。試料No. 8-1(D7 SE322)はヒメコガネ(*Anomala rufocuprea*)の左上翅、試料No. 8-2(E2土坑)はオオゴミムシ(*Lesticus magnus*)の左上翅とコガネムシ(*Mimela splendens*)の左上翅、左後翅に同定された。

### iv) 考察

D7 SE322より出土したヒメコガネは日本各地にみられる普通種で、幼虫は植物の根を、成虫はさ

#### 引用文献

- 林 昭三, 1991, 日本産木材顕微鏡写真集. 京都大学木質科学研究所.  
伊東隆夫, 1995, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ. 木材研究・資料, 31, 京都大学木質科学研究所, 81-181.  
伊東隆夫, 1996, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ. 木材研究・資料, 32, 京都大学木質科学研究所, 66-176.  
伊東隆夫, 1997, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ. 木材研究・資料, 33, 京都大学木質科学研究所, 83-201.  
伊東隆夫, 1998, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ. 木材研究・資料, 34, 京都大学木質科学研究所, 30-166.  
伊東隆夫, 1999, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ. 木材研究・資料, 35, 京都大学木質科学研究所, 47-216.  
伊東隆夫・山田昌久(編), 2012, 木の考古学 出土木製品用材データベース. 海青社, 449p.  
Noshiro Shuichi, 2011, Identification of Japanese species of Cupressaceae from wood

さまざまな植物の葉を摂食する。E2土坑より出土したコガネムシも日本各地にみられる普通種で、幼虫は植物の根を、成虫は広葉樹の葉などを摂食する。オオゴミムシも日本各地にみられる普通種で、地表を徘徊し、昆虫などの死骸を食する。これらは、現在でも人家近くの山野に普通にみられることから、当時も遺跡周辺に生息していたと考えられる。

(パリオ・サーヴェイ株式会社)

- structure. Japanese Journal of Historical Botany, 19, 125-132.  
Richter H.G., Grosse D., Heinz I. and Gasson P.E. (編), 2006, 針葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト. 伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部久・内海泰弘(日本語版監修). 海青社, 70p. [Richter H.G., Grosse D., Heinz I. and Gasson P.E. (2004) IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification].  
島地 謙・伊東隆夫, 1982, 図説木材組織. 地球社, 176p.  
Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E. (編), 1998, 広葉樹材の識別 IAWAによる光学顕微鏡的特徴リスト. 伊東隆夫・藤井智之・佐伯 浩(日本語版監修). 海青社, 122p. [Wheeler E.A., Bass P. and Gasson P.E. (1989) IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification].

## 第3節 金沢川遺跡(第2次)における樹種同定及び植物遺体同定

### 1. 樹種同定

#### 1. はじめに

本報告では、遺跡より出土した木製品に対して、木材組織の特徴から樹種同定を行う。木製品の材料となる木材は、セルロースを骨格とする木部細胞の集合体であり、木材構造から概ね属レベルの同定が可能である。木材は、花粉などの微化石と比較して移動性が少ないことから、比較的近隣の森林植生の推定が可能であるが、木製品では樹種による利用状況や流通を探る手がかりにもなる。

#### 2. 試料と方法

試料は、SK77より出土した鋤1点、Pitより出土した柱材4点、SK84より出土した不明木製品1点の計6点である。試料の詳細は第Ⅷ-7表に記す。なお、柱材はいずれも異なる建物のものである。

方法は、試料からカミソリを用いて新鮮な横断面(木口と同義)、放射断面(径目と同義)、接線断面(板目と同義)の基本三断面の切片を複製し、切片をマウントクイックアクエオス(Mount-Quick

"Aqueous": 大道産業)で封入し、プレバートを作製する。観察は生物顕微鏡(OPTIPHOTO-2; Nikon)によって40~1000倍で行った。同定は、木材構造の特徴および現生標本との対比によって行った。

### 3. 結果

第Ⅷ-7表に結果を示し、主要な分類群の顕微鏡写真を示す。以下に同定根拠となった特徴を記す。

#### 1) マツ属複維管束東亜属 *Pinus* subgen.

##### *Diploxylo* マツ科

仮道管、放射柔細胞、放射仮道管及び垂直、水平樹脂道などから構成される針葉樹材である。早材から晩材への移行は急な箇所と緩やかな箇所があり、垂直樹脂道が見られる。放射柔細胞の分厚壁孔は窓状で、放射仮道管の内壁には鋸歯状肥厚が存在する。接線断面では、放射組織が単列の同性放射組織型であるが、水平樹脂道を含むものは紡錘形を呈する。

以上の特徴からマツ属複維管束東亜属に同定される。マツ属複維管束東亜属にはクロマツとアカマツがあり、どちらも北海道南部、本州、四国、九州に分布する



常緑高木である。

2) コウヤマキ *Sciadopitys verticillata* Sieb. et Zucc. コウヤマキ科

仮道管と放射柔細胞から構成される針葉樹材である。早材から晩材への移行は比較的緩やかで、晩材部の幅はきわめて狭い。放射柔細胞の分野壁孔は窓状である。放射組織は単列の同性放射組織型で、1~15細胞高であるが多くは10細胞高以下である。

以上の特徴からコウヤマキと同定される。コウヤマキは福島県以南の本州、四国、九州に分布する。日本特産の常緑高木で、通常高さ30m、径80cmに達する。

3) スダジイ *Castanopsis sieboldii* Hatusima ブナ科

年輪のはじめに中型から大型の道管がやや疎に数列配列する環孔材である。晩材部で小道管が火炎状に配列する。道管の穿孔は単穿孔で、放射組織は平伏細胞からなる単列の同性放射組織型を示す。

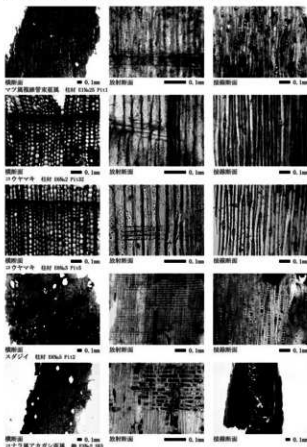
以上の特徴からスダジイに同定される。スダジイは本州（福島県、新潟県佐渡以南）、四国、九州に分布する。常緑の高木で、高さ20m、径1.5mに達する。

4) コナラ属アカガシ亜属 *Quercus* subgen. *Cyclobalanopsis* ブナ科

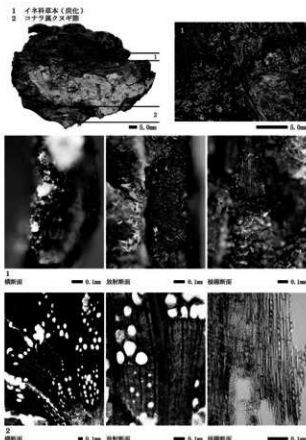
中型から大型の道管が、1~数列幅で年輪界に關係なく放射方向に配列する放射孔材である。道管は単独で複合しない。道管の穿孔は単穿孔で、放射組織は平伏細胞からなる同性放射組織型で、単列のもの

試料No.	器種	遺構名	取り上げNo.	結果 (学名/和名)
1	櫛	3IX SK77	木櫛	<i>Quercus subgen. Cyclobalanopsis</i> コナラ属アカガシ亜属
2	柱材	6IX-2 P1x32	—	<i>Sciadopitys verticillata</i> Sieb. et Zucc. コウヤマキ
3	柱材	8IX-5 P1x5	—	<i>Sciadopitys verticillata</i> Sieb. et Zucc. コウヤマキ
4	柱材	8IX-5 P1x2	—	<i>Castanopsis sieboldii</i> Hatusima スダジイ
5	柱材	1IX-25 P1x1	—	<i>Pinus subgen. Diphysalis</i> マツ属短葉亜属
6	不明	3IX SK84	—	<i>Quercus subgen. Cyclobalanopsis</i> コナラ属アカガシ亜属

第Ⅷ-7表 金沢川遺跡(第2次) 樹種同定結果



第Ⅷ-12図 金沢川遺跡(第2次)の木材



第Ⅷ-13図 金沢川遺跡(第2次)の植物遺体

のと大型の広放射組織からなる複合放射組織である。

以上の特徴からコナラ属アカガシ亜属に同定される。コナラ属アカガシ亜属にはアカガシ、イチイガシ、アラカシ、シラカシなどがあり、本州、四国、九州に分布する。常緑高木で、高さ30m、径1.5m以上に達する。

#### 4. 所見

同定の結果、金沢川遺跡（第2次）の木製品はコウヤマキ2点、マツ属複雑管束亜属1点、スダジイ1点、コナラ属アカガシ亜属2点であった。

柱材にはマツ属複雑管束亜属、コウヤマキ、スダジイが利用されている。マツ属複雑管束亜属、コウヤマキは水湿によく耐え、腐りにくく建築部材の中でも水質の影響がある柱、礎板などに用いられる。なお、コウヤマキは弥生時代から古墳時代にかけて近畿地方中央部で木棺や割りものなどに用いられ、律令期には柱を中心として建築部材に利用されたが、中世からは大きな材が取れなくなったのか類例は少ないもの、下駄などの日用品や器具に多様に用いられるようになる。本遺跡では柱材として2点見られること、コウヤマキが紀伊半島などに分布していることから、比較的大きなコウヤマキ材を利用できる時代や地域であったと考えられる。なお、コウヤマキは古代には宮殿建築の柱材としてよく利用されていた。スダジイはやや硬で耐朽・保存性は低い材であるが、礎板や柱などの建築部材に見ることができる。これはタンニンが多く防腐防虫効果を持つことから、建築部材として用いられた可能性がある。

船、不明木製品にはコナラ属アカガシ亜属が利用されている。コナラ属アカガシ亜属は堅硬な材であり、広く用いられるが、西南日本では弥生時代以降、特に農耕具を中心に用いられる傾向にある。

同定された樹種は温帯および温帯下部の暖温帯に分布する樹木であった。マツ属複雑管束亜属は土壌条件の悪い岩山に生育し二次林を形成するアカマツと、砂地の海岸林を形成するクロマツとがある。コウヤマキは適潤性であるが乾燥した環境にも耐え、尾根、急峻地または岩盤上にも生育する。コナラ属アカガシ亜属、スダジイは照葉樹林を形成する構成要素であり、山野に分布する。これらの樹木は当時遺跡周辺にも分布しており、遺跡周辺からか、流通

によってもたらされたと推定される。

## II. 植物遺体同定

### 1. はじめに

植物の種子や果実は比較的強靱なものが多く、堆積物中に残存する。堆積物から種実等を検出しその群集の構成や組成を調べ、過去の植生や群落の構成要素を明らかにし古環境の推定を行うことが可能である。また出土した単体試料等を同定し、栽培植物や固有の植生環境を調べることができる。

### 2. 試料

試料は、遺構名3区のS X 80より検出された植物遺体1点である。試料は土壌層と考えられており、その土坑の底面より検出された。厚さ約5cm程度の粘土層で上面には4mmほどの厚さで炭化物が入り、下面には約1cm程度の小枝や細片はいはいる。

### 3. 方法

試料（堆積物）に以下の物理処理を施して、抽出および同定を行う。

- 1) 試料500cm<sup>3</sup>に水を加え放置し、泥化
- 2) 攪拌した後、沈んだ砂礫を除去しつつ、0.25mmの篩で水洗選別
- 3) 残渣を双眼実体顕微鏡で観察し、種実の同定計数

試料を肉眼及び双眼実体顕微鏡で観察し、形態的特徴および現生標本との対比によって同定を行う。結果は同定レベルによって科、属、種の階級で示す。

### 4. 結果

選別の結果、種実などは検出されず、上面からイネ科Gramineaeの草本の稈（茎）、下面の枝材はコナラ属クヌギ節*Quercus* sect. *Aegilops*であった。堆積物については水洗選別を行うものその他の植物は検出されなかった。以下記載を示す。

・イネ科 Gramineae 草本 稈（茎）

年輪はなく、通直で中央は空洞となる。タケ亜科に似た維管束が観察される。

・コナラ属クヌギ節*Quercus* sect. *Aegilops* 枝片  
ブナ科

髄を含む2ないし3年輪ほどの枝材であり、環孔材で孔圏外は厚膜の中小道管がやや放射状に配列する。広放射組織を有し、他は単列同性である。

### 5. 所見

観察過程で表面の炭化した植物とその下に確認でされた木材片の数が所から採取を行った結果、表面4mmほどの厚さの炭化物はイネ科草本の稈(茎)が観察された。ススキやヨシなどの大型のイネ科草本であり、燃焼し炭化した状態である。粘土層下面の参考文献

伊東隆夫・山田昌久(2012)木の考古学, 雄山閣, p. 449.  
佐伯浩・原田浩(1985)針葉樹材の細胞, 木材の構造, 文永堂出版, p. 20-48.  
佐伯浩・原浩(1985)広葉樹材の細胞, 木材の構造, 文永堂出版, p. 9-100.  
島地謙・伊東夫(1982)図説木材組織, 地球社, p. 176.  
島地謙・伊東夫(1988)日本の遺跡出土木製品総覧, 雄

木片は、コナラ属クヌギ節の小枝や細片であった。いずれも同種のものが土坑に敷かれた可能性も考えなければならぬ。

(一般社団法人 文化財科学研究センター)

山閣, p. 296  
山田昌久(1993)日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成, 植生史研究特別第1号, 植生史研究会, p. 242.  
笠原安夫(1985)日本雑草図説, 養賢堂, 494p.  
南木睦彦(1993)葉・果実・種子, 日本第四紀学会編, 第四紀試料分析法, 東京大学出版会, p. 276-283.

## 第4節 金沢川遺跡(第2次)出土鉄滓の調査

### 1. 調査対象

三重県鈴鹿市岸岡町に所在する、金沢川遺跡(第2次)出土鉄滓2点を調査した。

### 2. 調査方法

#### (1) 外観観察

目視での調査前の観察所見を記載した。

#### (2) マクロ組織

試料を端部から切り出した後、断面をエメリー研磨紙の#150、#240、#600、#1000、及びダイヤモンド粒子の3 $\mu$ mと1 $\mu$ mで順を追って研磨し、断面の全体像を撮影した。

#### (3) 顕微鏡組織

光学顕微鏡(顕二コンソリレーションズ製 ECLIPSE LV150NA)を用いて、鉄滓断面を観察した後、代表的・特徴的な視野を撮影した。

#### (4) ビッカース断面硬度

ビッカース断面硬度計(Vickers Hardness Tester 株式会社フューチャテック社製 FM-300)を用いて硬度を測定した。試料は顕微鏡用を併用し、荷重は50gfで測定した。ビッカース硬度は測定箇所(圧子(136°)の頂角をもったダイヤモンド)を押し込んだ時の荷重と、それにより残された窪み(圧痕)の対角線長さから求めた表面積から算出される。

#### (5) EPMA調査

EPMA(日本電子製機 JXA-8230)を用い、鉄滓や鉄中非金属介在物の組成を調査した。測定条件は以下の通りである。加速電圧:15kV、照射電流(分析電流):2.00E-8A。

#### (6) 化学組成分析

全鉄分(Total Fe)、金属鉄(Metallic Fe)、酸化第一鉄(FeO):容量法。

炭素(C)、硫黄(S):燃焼容量法、燃焼赤外吸収法。

二酸化珪素(SiO<sub>2</sub>)、酸化アルミニウム(Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>)、酸化カルシウム(CaO)、酸化マグネシウム(MgO)、酸化カリウム(K<sub>2</sub>O)、酸化ナトリウム(Na<sub>2</sub>O)、酸化マンガン(MnO)、二酸化チタン(TiO<sub>2</sub>)、酸化クロム(Cr<sub>2</sub>O<sub>3</sub>)、五酸化燐(P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>)、バナジウム(V)、銅(Cu)、二酸化ジルコニウム(ZrO<sub>2</sub>):ICP(Inductively Coupled Plasma Emission Spectrometer):誘導結合プラズマ発光分光分析法。

### 3. 調査結果

#### KNZ-1: 椀形鍛冶滓

(1) 外観観察: やや大形の椀形鍛冶滓(245.0g)である。広い範囲で黄褐色の土砂や茶褐色の錆化鉄が薄く付着するが、まとまった鉄部はみられない。滓の色調は灰褐色で弱い着磁性がある。表層部はやや風化気味で、上下面とも長さ15mm程の木炭痕が多数残存する。全体に気孔は少なく、緻密で重量感のある滓である。

(2) マクロ組織: 第VIII-14図①に示す。素地部分は鍛冶滓である。また写真右下の黒色部は木炭破片で、板目目が観察される。

(3) 顕微鏡組織: 第VIII-14図②③に示す。②の青灰色粒は錆化鉄である。内部にはセメントタイト(Cementite:Fe<sub>3</sub>C)痕跡が残存する。この過共析(C>



た。造滓成分 ( $\text{SiO}_2 + \text{Al}_2\text{O}_3 + \text{CaO} + \text{MgO} + \text{K}_2\text{O} + \text{Na}_2\text{O}$ ) の割合は16.34%と低めで、このうち塩基性成分 ( $\text{CaO} + \text{MgO}$ ) は2.25%であった。製鉄原料の砂鉄 (含チタン鉄鉱) 起源の二酸化チタン ( $\text{TiO}_2$ ) は0.20%、バナジウム (V) が<0.01%、酸化マンガン ( $\text{MnO}$ ) 0.10%と低値であった。銅 (Cu) も<0.01%と低値である。

当鉄滓は鉄酸化物の割合が高く、製鉄原料起源の脈石成分 [砂鉄 ( $\text{TiO}_2$ , V)、塊状鉄鉱石 ( $\text{CaO}$ ,  $\text{MgO}$ ,  $\text{MnO}$ ) など] はいずれも低値であった。この特徴から、主に熱間での鍛打加工時に鉄素材の吹き減り (酸化に伴う損失) で生じた鍛錬鍛冶滓と推定される。

#### KNZ-2: 椀形鍛冶滓

(1) 外観観察: やや小形で扁平な椀形鍛冶滓 (68.5g) である。広い範囲で黄褐色の土砂や茶褐色の錆化鉄が薄く付着するが、まとまった鉄部はみられない。上面側には黒色ガラス質滓が観察される。これは羽口先端の溶融物と推測される。鍛冶滓部分の色調は暗灰色で、着磁性は非常に弱い。全体に気孔は少なく緻密な滓である。また下面表層には淡褐色の鍛冶炉床土が付着する。

(2) マクロ組織: 第Ⅷ-15図①に示す。写真上側の黒灰~暗灰色部はガラス質滓である。内部には熱影響を受けた石英 (Quartz:  $\text{SiO}_2$ ) などの砂粒が点在する。羽口先端の溶融物と推定される。これに対して、中央の明灰色部は鍛冶滓である。さらに写真下側の黒灰色部は鍛冶炉床土である。

(3) 顕微鏡組織: 第Ⅷ-15図②③に示す。②は上面のガラス質滓部分の拡大である。滓中の明白色粒は金属鉄である。また③は鍛冶滓部分の拡大である。滓中の灰褐色多角形結晶はマグネタイト (Magnetite:  $\text{FeO} \cdot \text{Fe}_2\text{O}_3$ ) とヘルシナイト (Hercynite:  $\text{FeO} \cdot \text{Al}_2\text{O}_3$ ) を主な端成分とする固溶体と推定される。さらに淡灰色結晶ファヤライトが晶出する。

(4) ピッカース断面硬度: 第Ⅷ-15図③の灰褐色多角形結晶の硬度を測定した。硬度値は939、960、985Hvと硬質であった。マグネタイトとヘルシナイトを主な端成分とする固溶体と推定される。また淡灰色結晶の硬度値は683、707、730Hvである。ファヤライトの文献硬度値と比較すると、やや軟質の傾

向がみられる。ただし結晶の色調と形状、さらに後述するEPMAの調査結果から、ファヤライトと推定される。

(5) EPMA調査: 第Ⅷ-15図④にガラス質滓部分の反射電子像 (COMP) を示す。写真右側の暗灰色粒の定量分析値は100.1% $\text{SiO}_2$  (分析点6) であった。石英 (Quartz:  $\text{SiO}_2$ ) である。素地の定量分析値は54.1% $\text{SiO}_2$ -7.7% $\text{Al}_2\text{O}_3$ -8.4% $\text{CaO}$ -2.4% $\text{MgO}$ -3.4% $\text{K}_2\text{O}$ -21.4% $\text{FeO}$  (分析点7) であった。非晶質珪酸塩である。微細な灰褐色結晶の定量分析値は85.2% $\text{FeO}$ -2.6% $\text{Al}_2\text{O}_3$  (分析点8) であった。マグネタイト (Magnetite:  $\text{FeO} \cdot \text{Fe}_2\text{O}_3$ ) で、アルミナ ( $\text{Al}_2\text{O}_3$ ) を少量固溶する。

もう1視野、鍛冶滓部分の組成を調査した。第Ⅷ-15図⑤に反射電子像 (COMP) を示す。灰褐色多角形結晶の定量分析値は74.7% $\text{FeO}$ -16.7% $\text{Al}_2\text{O}_3$ -1.9% $\text{TiO}_2$  (分析点9) であった。マグネタイト (Magnetite:  $\text{FeO} \cdot \text{Fe}_2\text{O}_3$ ) とヘルシナイト (Hercynite:  $\text{FeO} \cdot \text{Al}_2\text{O}_3$ ) を主な端成分とする固溶体で、さらにチタン (Ti) を少量固溶する。また部分的に確認された明灰色針状結晶の定量分析値は83.0% $\text{FeO}$ -8.8% $\text{SiO}_2$ -3.8% $\text{Al}_2\text{O}_3$  (分析点10) であった。イスコライト (Iscoreite: 5  $\text{FeO} \cdot \text{Fe}_2\text{O}_3 \cdot \text{SiO}_2$ ) と推測される。白色粒状結晶の定量分析値は95.8% $\text{FeO}$  (分析点11) で、ウスタイト (Wustite:  $\text{FeO}$ ) と推定される。淡灰色柱状結晶の定量分析値は69.2% $\text{FeO}$ -29.4% $\text{SiO}_2$  (分析点12) であった。ファヤライト (Fayalite: 2 $\text{FeO} \cdot \text{SiO}_2$ ) と推定される。さらに素地部分の定量分析値は49.6% $\text{SiO}_2$ -17.3% $\text{Al}_2\text{O}_3$ -5.1% $\text{CaO}$ -6.7% $\text{K}_2\text{O}$ -19.7% $\text{FeO}$  (分析点13) であった。非晶質珪酸塩である。

(6) 化学組成分析: 第Ⅷ-8表に示す。全鉄分 (Total Fe) 44.35%に対して、金属鉄 (Metallic Fe) は0.11%、酸化第1鉄 ( $\text{FeO}$ ) が40.82%、酸化第2鉄 ( $\text{Fe}_2\text{O}_3$ ) 17.89%の割合であった。造滓成分 ( $\text{SiO}_2 + \text{Al}_2\text{O}_3 + \text{CaO} + \text{MgO} + \text{K}_2\text{O} + \text{Na}_2\text{O}$ ) の割合は35.59%と高めであるが、このうち塩基性成分 ( $\text{CaO} + \text{MgO}$ ) は1.07%と低値であった。製鉄原料の砂鉄 (含チタン鉄鉱) 起源の二酸化チタン ( $\text{TiO}_2$ ) は0.35%、バナジウム (V) が<0.01%と低値であった。また酸化マンガン ( $\text{MnO}$ ) 0.10%、銅 (Cu) は0.02%と低値であった。

当鉄滓は主に鉄酸化物 ( $\text{FeO}$ ) と炉材粘土 ( $\text{SiO}_2$  主成分) の溶融物からなり、製鉄原料起源の脈石成

分〔砂鉄 (TiO<sub>2</sub>、V)、塊状鉄鉱石 (CaO、MgO、MnO) など〕は低値であった。この特徴から、熱間での鍛打加工に伴う鍛錬鍛治滓と推定される。

#### 4. まとめ

金沢川遺跡 (第2次) 出土鉄滓2点 (KNZ-1、2) は、ともに鍛錬鍛治滓と推定される。遺跡内で鉄素材を熱間で鍛打加工して、鍛造鉄器を製作したものと推定される。

梶形鍛治滓 (KNZ-1) は鉄酸化物の割合が高く、主に熱間での鍛打加工時に鉄素材の吹き減り (酸化に伴う損失) で生じた滓と判断される。これに対して梶形鍛治滓 (KNZ-2) は羽口先端の溶融物と推定される。黒色ガラス質滓部分が確認されるなど、

#### (注)

(1) 日刊工業新聞社1968『焼結鉱組織写真および識別法』ウスタイトは約450~500Hv、マグネタイトは約500~600Hv、ファイヤライトは約600~700Hvの範囲が提示されている。ウルボスピネル (Ulvospinel: 2FeO·TiO<sub>2</sub>) の硬度値範囲の明記はないが、マグネタイト (Magnetite: FeO·Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>) と同じスピネル類の化合物で、チタニアを固溶するためマグネタイトよりも硬質である。ウルボスピネル組成であれば通常600Hv以上の値を示す。ヘルシナイト (Hercynite: FeO·Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>) はさらに硬質で1000Hvを超える。

炉材粘土の溶融物 (SiO<sub>2</sub>主成分) の影響が大きい滓であった。しかし、どちらも製鉄原料起源の脈石成分〔砂鉄 (TiO<sub>2</sub>、V)、塊状鉄鉱石 (CaO、MgO、MnO) など〕は低値であった。

また梶形鍛治滓 (KNZ-1) 中には、微細な錆鉄粒が確認された (第VIII-14図②)。残存する金属組織の痕跡から、炭素量は1.5%前後の高炭素鋼と推定される。当遺跡で搬入された鉄素材の少なくとも一部は、鍛造鉄器の刃先などに適した高炭素材料=「刃金」で、こうした材料を熱間で鍛打加工して、鍛造鉄器を製作していたものと考えられる。

(日鉄テクノロジー株式会社 九州事業所)

## 第IX章 総括

今回、農地整備事業（経営体育成型）鈴鹿川沿岸6期地区に伴い、平成30年度から令和2年度にかけて5遺跡の発掘調査を行った。それぞれの調査区は狭小ではあるものの、それぞれの遺跡を縦横断する形となり、調査結果については一定の成果が得られた。また、金沢川とその支流である田古知川に挟まれた地区では、昭和50年代前半に深田遺跡や双ツ塚遺跡、塚越3号墳が、平成9年以降に天王遺跡の調査が実施されている<sup>10</sup>。これらの調査成果もあわせて、当該地域の遺跡分布の変化及び遺構や遺物の特記事項を概観することにより、総括としたい。

**自然環境** 当該地は、大きく分けると現在公共施設や住宅地の集中する南西部が台地となっており、そこから北東の金沢川へ向かって低くなり沖積地となっている。土地条件図から、金沢川下流域は金沢川と田古知川の合流地点近くに位置する天王遺跡・金沢川遺跡付近まで海が入り込み、入り江となっていたことがわかる。天王遺跡が台地部に、深田・双ツ塚西方・中島・双ツ塚・金沢川各遺跡が沖積地に展開している。

**弥生時代** 後期に、天王遺跡で2重の環濠が認められる。遺跡の東半は調査されていないため範囲は不明瞭であるが、ほぼ不整形円形に閉鎖していたものと推定される。環濠内の当該期の様相は不明である。周辺遺跡では、深田遺跡・中島遺跡で当該期の遺構・遺物が認められるものの、数は少ない。

**古墳時代** 弥生終末～古墳初頭になると、沖積地で集落が形成される。微地形の状況がわかり、地形にあわせた土地利用をしているようである。特に深田遺跡1次B区・3次、中島遺跡B・D区、双ツ塚遺跡1～3次では、沖積地のなかでも微高地となる箇所が点在して認められる。居住域の縁辺部では、土師器壺内に土師器高杯脚部が入った状態で出土した中島遺跡SK323や残りが良い土器が一括で出土した双ツ塚遺跡3次SK4など特異な出土状況を示す土坑がみられる。また、居住域周辺には大小の凹地があった。なかでも中島遺跡C・E・F区の凹地部はグライ化した粘土層となっており、1～

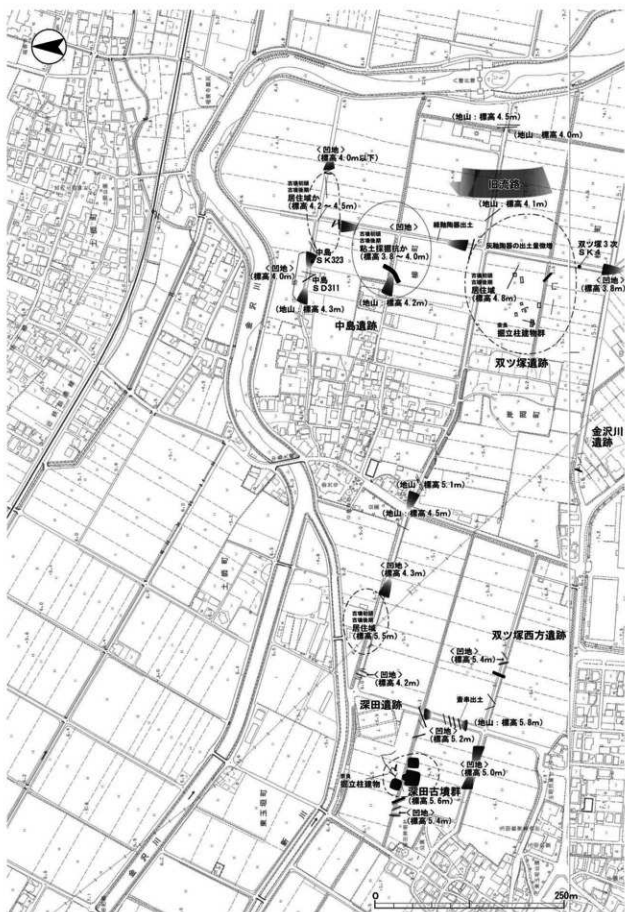
2m程度の不整形の土坑が多く確認された。掘形の肩が急勾配となるものが多いこと、埋土にブロック土が入るものが多いことなどから、粘土探掘坑の可能性が指摘される。金沢川遺跡でも当該期の遺構はみられるものの、その密度はかなり希薄である。

前期は深田遺跡3次、中島遺跡、双ツ塚遺跡1・2次で遺構・遺物は認められるが、弥生終末～古墳初頭の分布・密度と比較するとかなり希薄である。

中期末～後期初頭を契機に、沖積地でも標高の高い西側で深田古墳群が築造される（深田遺跡1次A区・2次A区）。深田1号墳は一辺20.4m（周溝含む）の造出方墳と推定され、周溝から一定量の須恵器及び大量の埴輪が出土した。2号墳は一辺8m（内法）以上の方墳で、周溝内埋葬も認められた。3号墳は一辺15m程度（周溝含む）の方墳とみられる。しかし、深田古墳群の築造開始段階は、それ以外の遺跡では遺物量も少なく、居住域は捉えがたい状況である。近隣では深田古墳群の築造開始から約半世紀ほど後に、深田遺跡3次で堅穴建物群が確認できるようになる。

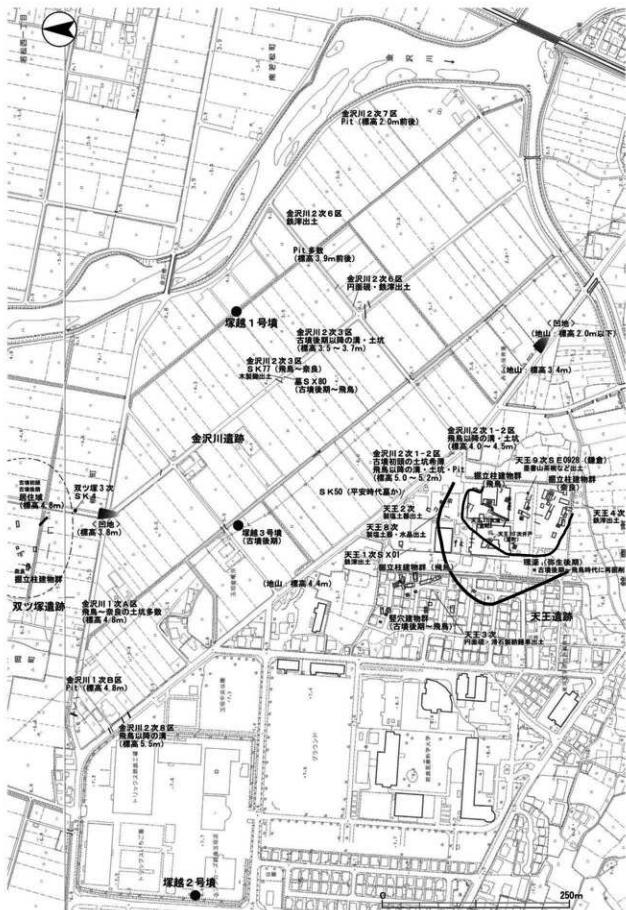
後期は、深田古墳群よりも標高の低いエリアで塚越3号墳、金沢川遺跡2次SX80など、小規模の古墳や土壇墓が散見される。SX80から須恵器が11点出土したが、その中に岸岡山窯で特徴的な脚付短頸甕が含まれている。また、初頭段階で居住域となっていた箇所（深田遺跡3次・双ツ塚遺跡1・2次）で再び堅穴建物群が確認されるようになる。中島遺跡B区では平面プランが捉えられなかったもののカメラは確認でき、当該期の遺物の包含量の多さからみても居住域であったと推定される。この段階に再び低地部での活動が活発になるようである。中島遺跡C区でも土坑の掘削が認められる。また、台地部でも天王遺跡3次で堅穴建物群が認められる。天王遺跡は弥生後期に環濠が造られたのち一定の空白期間があり、この段階を契機に居住域の形成がなされたようである。天王遺跡に隣接する金沢川遺跡でも、当該期の遺構は散見される。

**古代** 飛鳥・奈良時代は、天王遺跡で掘立柱建物群



第IX-1図 各遺跡調査概略図1 (1:5,000)





第IX-2図 各遺跡調査概略図2(1:5,000)

が集中して認められる。7世紀中葉～8世紀後葉に遺跡内で場所を変えつつL字形やコの字形に配置された掘立柱建物群が確認されており、遺跡内でそれぞれの時期での中心的役割を果たしていたものと考えられている。漆の付着した須恵器、鉄製品、紡錘車、鉄滓などの出土から、手工業生産に関わる工房の存在も指摘されている。蹄脚礎をはじめとする礎の出土も天王遺跡の性格を考えるうえで特筆される。また、埋没あるいは埋没途上にあった弥生後期の環壕に沿うように溝を再掘削している。溝上層埋土から出土した須恵器群は岸岡山窯で焼かれた可能性が高い。それらは焼け歪みや融着・割れなどの不良品が目立つことから、須恵器の集積・選別・廃棄などの作業が行われていたことが想定されている。さらに、知多式製塩土器の出土から、海を介した物流交流の拠点と捉えられている。これらの状況から、7世紀後葉までの時期はミヤケ・豪族居宅・端的な評衙などが候補に挙げられ、8世紀代は国府・郡衙に付属する港湾施設が想定されている。金沢川遺跡は狭い調査区であるため遺構配置は明瞭ではないが、2次6区では柱穴が多く認められ、円面礎や鉄滓の出土など、天王遺跡と類似した様相である。また、双塚遺跡1・2次では、奈良時代の掘立柱建物が複数棟確認されている。深田遺跡1次A区でも掘立柱建物が1棟認められる。一方、中島遺跡では当該期の遺物は認められるものの、遺構は少ない。これらの事から天王遺跡で想定されるような施設のエリアが少なくとも金沢川遺跡・双塚遺跡辺りまで広がっていた可能性が高い。

平安時代は、金沢川遺跡2次1区・3区・6区・8区で溝・土坑・Pitなどが認められる。2次1区SK50からは土師器・灰軸陶器と共に鉄製槍鉋が出土し、墓の可能性が推定される。遺構の様相は不明

## 注

(1) 今回の本報告以外の発掘調査については、下記文献を参照した。  
 深田遺跡：三重県教育委員会1978『鈴鹿市東玉垣町深田遺跡』『昭和53年度県営園場整備地域埋蔵文化財調査報告2』  
 双塚遺跡：三重県教育委員会1978『三重県埋蔵文化財年報8 昭和52年度』／三重県教育委員会1979『三重県埋蔵文化財年報9 昭和53年度』／伊藤幸幸2005『双塚遺跡』『三重県史』資料編 考古1 三重県塚越3号墳：三重県教育委員会1978『鈴鹿市岸岡町塚越3号墳』『昭和53年度県営園場整備地域埋蔵文化財

調査報告2』  
 天王遺跡：鈴鹿市教育委員会1998『天王遺跡-第3次発掘調査報告-』／2002『天王遺跡(第5次)発掘調査報告』／鈴鹿市考古博物館2000『鈴鹿市考古博物館年報』1 平成10年度版／2001『鈴鹿市考古博物館年報』2 平成11年度版／2003『鈴鹿市考古博物館年報』4 平成12年度版／2004『鈴鹿市考古博物館年報』5 平成13年度版／2005『鈴鹿市考古博物館年報』6 平成14年度版／2006『鈴鹿市考古博物館年報』7 平成15年度版／林和範2008『天王遺跡』『三重県史』資料編 考古2 三重県

中世 鎌倉時代では、天王遺跡9次で確認されたSE0928からは、「上」「さうや?」「北岸」などの墨書山茶碗が出土した。中でも「北岸」の出土から伊勢神宮領である御厨の存在が想定されている。同11次では、御厨に関する施設又は倉庫の可能性が想定される掘立柱建物や井戸などが確認されている。深田遺跡2次A・B区では、SD3と6、SD11と15・17が直交する溝で区画溝の可能性が考えられる。中島遺跡・金沢川遺跡では遺物は認められるが、遺構は溝を確認した程度である。生活の拠点は台地及び沖積地でも標高の高い所が中心となったのだろう。

室町時代は、天王遺跡11次では区画溝が確認された。また、同10次では井戸2基とPitを確認しており、区画溝内の居住域が想定されている。当該の報告した遺跡では遺物が少量認められるが、遺構は少ない。

以上、時代ごとに概観した。天王遺跡を中心とした既往の調査成果に加え、今回の一連の調査で、沖積地部分の状況を垣間見ることができた。弥生終末～古墳時代初頭では微高地を中心に集落が形成された。古墳中後期には古墳や土壇墓が点在するようになり、改めて居住域が形成される。また、台地上にある天王遺跡でも居住域が認められる。古代以降は、天王遺跡で港湾施設が想定され、その範囲は双塚遺跡・金沢川遺跡まで広がっていたとみられる。逆に中島遺跡では遺構が希薄となる。これは、金沢川の乱流の影響や田畠などの耕作地となっていたことによると推察される。(原田)



A区全景（東から）



A区全景（西から）



SD 8（南東から）



SD 8（東から）



SD8 遺物出土状況（西から）



SD8 遺物出土状況（北から）



SD 8 完掘状況（北東から）



SD 9（西から）



SK10検出状況（東から）



SD 9 遺物出土状況（西から）



SK10（西から）

写真図版 4

Ⅲ 深田古墳群・深田遺跡 (第2次)



SD2 (南から)



SD3 (東から)



SD4 (北から)



SD6 (北から)



SD12 (北東から)



SD13 (北東から)





B4-7（南から）



B8-9（北から）



SD17（東から）



SZ16（南から）



SZ16遺物出土状況（南から）



SD18・B7 Pit 1 (北から)



SD18・B7 Pit 1 (西から)



SD19 (西から)



SD20 (南から)



SD21 (南西から)



SD21 (西から)





SD21・22（南から）



SK24（北から）



SK24（北から）



SZ23（南から）

写真図版 8

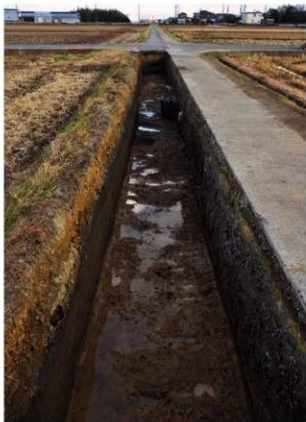


C5-12 (西から)

Ⅲ 深田古墳群・深田遺跡 (第2次)



C14-17 (西から)



C21-25 (西から)



S025・S226 (西から)



SD25（南から）



SK27（南西から）



SR28（北から）



SK27（南から）



SR28（東から）



d1-4 (東から)



d5-9 (西から)



d10-15 (西から)



d16-22 (西から)



d28-32（東から）



d31-32（西から）



d33-36（西から）





d37-38 (西から)



d39-41 (西から)



d41-44 (西から)



d45-46 (南から)



d49-50 (西から)



d47-48 (西から)



d50-51 (西から)



SD31（北西から）



SZ33（西から）



SD31（北東から）



SZ33土壌試料採取状況（北から）



SD37（北東から）



SK39（北西から）



SD37（北東から）



SD43・45（北東から）



SH49 (東から)



SH76、SD55・56 (北西から)



SH53 (北西から)



SK57 (南西から)



SH58 (北西から)





SH61 (北西から)



SH66 (北西から)



SH58 (北西から)



d21 Pit 3、SH66炉跡 (南から)



SZ67 (北東から)



SZ67・SD69 (北西から)



SH68 (北東から)



SH68 (西から)



SH68 (北から)



SH68 (北東から)



SD72 (北西から)



SZ71 (北東から)



SD73 (北西から)



A区出土遺物 1



A区出土遺物2



A区出土遺物3



A区出土遺物4





A~C区出土遺物



D区出土遺物 1





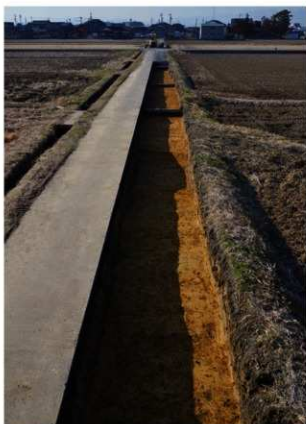
D区出土遺物 2



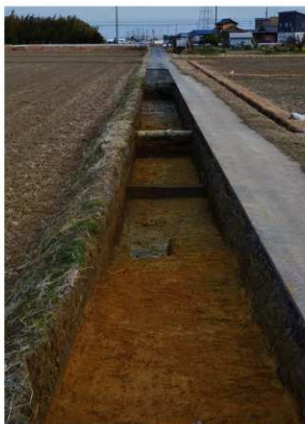
A2-5 (西から)



A2-7 (東から)



A9-18 (東から)



A18-24 (西から)



A25-37 (西から)



A37-49 (東から)



SD 1 (東から)



SZ 2 (西から)



SD 1 (南東から)



SK 3 (東から)



SK 4 (北から)



SK 4・5 (北西から)



SK 4 (北から)



SK 6 (北から)



SK 6・7 (東から)



SK 7 (西から)



A48・49Pit (東から)



出土遺物



A6・7 (東から)



作業風景 (西から)



SD2付近土層 (北西から)



A11 (北から)



A6-10 (東から)





調査前風景（東から）



B4-6（西から）



B1-3（東から）



B1-6（東から）



B7-10（西から）



B11-16 (東から)



B16-21 (東から)



B11-20 (西から)



SK101 (西から)



SD102 (南東から)



SF136 (南西から)



SF137下土坑 (北東から)





SF137 (西から)



SH115 (北西から)



03・4 (東から)



土壌サンプル採取状況 (北から)



05・6 (東から)



C8-11(西から)



C11-15(東から)



C19・20(東から)



C4 木出土状況(東から)



SK208(南東から)



SK214 (北から)



SK215 (南西から)



SK218 (北から)



SK215 (西から)



SK217 (東から)



D1-3(西から)



D2(北西から)



D15-17 (東から)



D17-21 (西から)



SE322 (北から)



SE322 (北東から)



SD311 (東から)





SK323 (北東から)



SK323 (北から)



SK323 (北から)



SD325 (北東から)



D15 Pit8 (南から)



SH330 (西から)



SD335・336 (北から)



E1 (南から)



E2-4 (北から)



E4-6 (南から)



E9-11 (北から)





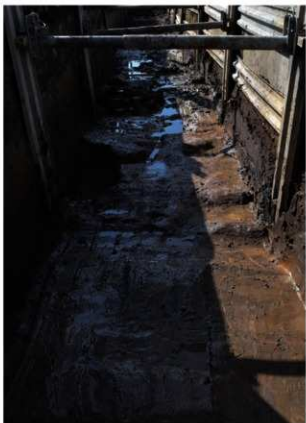
E11・12 (南から)



E13・14 (北から)



E15・16 (南から)



E17 (北から)



E17・18 (北から)



E18・19 (北から)



E19-22 (北から)



SK403 (南から)



SK404 (南から)



SK406 (東から)



SK404 (東から)



SK406 (西から)



SD407 (東から)



SD408 (南東から)



SD407 (西から)



SK409 (西から)



SD410 (北から)



SD411 (北から)



SD410 (北西から)



SD411 (南から)



SD412 (南東から)



SD411 (南東から)



E18 包含層遺物出土状況(東から)



SD416(東から)



SD415(東から)



SD417(南東から)



SK419(東から)



SK420(東から)



SK421(西から)



SK422(東から)





F区全景(西から)



F区全景(東から)



61-2 (北から)



62-3 (南から)



63-5 (南から)



65-8 (北から)



G8-10(南から)



G11-14(北から)



G14-18(南から)



G14-18(北から)





G19-24(南から)



G19-24(北から)



G23・24(北から)



SD601 (西から)



SD603・604 (南東から)



SK602 (北西から)



SK605 (南から)



SK606 (北から)



SK605 (南東から)



SK607 (東から)



SK608 (西から)



SK609 (南から)



SK608 (北西から)



SK609 (南から)



SK610 (南東から)



SK612 (南西から)



SK611 (南東から)



SE613 (東から)



H1・2 (西から)



H3-5 (南西から)



H5-7 (西から)



H9・10 (東から)



H10・11 (南西から)



H11・12 (西から)



H11-13 (西から)



H16-18 (西から)





H18-21 (西から)



H21-24 (西から)



H26-28 (西から)



H29・30 (西から)



H30-32 (西から)



H33-35 (西から)



SD707 (南東から)



SD708 (西から)



SD708 (南から)



A・B区出土遺物







C区出土遺物





D区出土遺物 1









F~H区出土遺物





a1-6(北から)



a5-13(北から)



a13-18(南から)



SD 2・3 (北から)



SK 4 (北東から)



SK 4 (南西から)



SK 4 (北西から)



SK 4 (東から)



SK4～7(北東から)



SZ9(北東から)



a11 Pit(北東から)



b区全景(南から)



a区出土遺物 1



12



14



15



16



20



27



36



28



30



39口縁部



40体部下半



39台部



44



40





a区出土遺物3



A1区全景(東から)



A1区SK1断面(東から)



A2区全景(東から)



A3区全景(東から)



A4・5区全景(南西から)



A6区全景(西から)



A7区全景(東から)



A8区全景(東から)



A9区全景(東から)



B1区全景(東から)



B2区全景(東から)



B3区全景(東から)



B4・5区全景(西から)



B6・7区全景(東から)



B8区全景(東から)



B9・10区全景(東から)





B11・12区全景(東から)



B13・14区全景(西から)



B15区全景(東から)



B16・17区全景(東から)



B16区SF26断面(南から)



B16区SF26(東から)



B18・19区全景・SK28(南東から)



C1～5区全景(西から)



C1～5区全景(東から)



C1区SD30・SK32(東から)



C1区SK31(北から)



C1区SK32南側断面(北から)



C3区SK29南側断面(北から)



1-1区全景(西から)



1-3区全景(西から)



1-5区全景(西から)



1-9区全景(南から)



1-10区全景(西から)



1-12区全景(西から)



1-14区SK48遺物出土状況(北から)



1-16区全景(西から)





1-19区全景(北から)



1-24区全景(北西から)



1-25区全景(北西から)



1-26区全景(北西から)



1-28区全景(北西から)



2-1区全景(北西から)



2-2区全景(北西から)



2-3区全景(南東から)



2-5区全景(西から)



2-6区全景(西から)



2-4区全景(南東から)



2-8区全景(西から)



2-11区全景(西から)



2-7区全景(西から)



2-12区全景(西から)



2-13区全景(西から)



2-21区全景(南から)



2-22区全景(南から)



2-24区全景(南から)



2-25区全景(南から)





3-9区全景(北東から)



3-10区全景(北から)



3-11区全景(南東から)



3-12区全景(北東から)



3区SX80遺物出土状況(東から)



3区SX80(南から)



3区SK86遺物出土状況(南から)



3区SK89(南から)



3-16区全景(西から)



3-17区全景(西から)

Ⅶ 金沢川遺跡(第2次)

写真図版81



4-10区全景(西から)



5-1区全景(西から)



5-2区東半全景(西から)



5-2区西半全景(西から)



6-0区Pit2円面現出土状況(東から)



6-3区Pit32柱根出土状況(東から)



6区SK108(東から)



6-3区全景(北から)



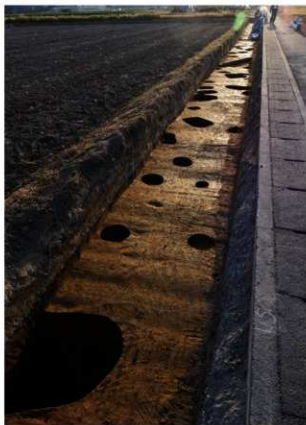
6-2区全景(北から)



6-4区全景(北から)



6-5区全景(北から)



6-6区全景(北から)





7-1区全景(西から)



7-3区全景(西から)



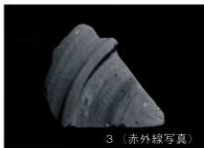
7-4区全景(西から)



8-5区全景(東から)



8-6区全景(西から)





出土遺物 2









出土遺物 5



出土遺物 6



出土遺物 7



出土遺物 8



出土遺物 9





出土遺物11



出土遺物12





出土遺物13

# 報告書抄録

ふりがな	ふかだこふんでん ふかだいせき (だいに・さんじ) ふたつづがせいはういせき なかしまいせき ふたつづがせいせき (だいにさんじ) かなさいがわいせき (だいにいち・にじ) はくつちようさほうこく							
書名	深田古墳群 深田遺跡 (第2・3次) 双ツ塚西方遺跡 中島遺跡 双ツ塚遺跡 (第3次) 金沢川遺跡 (第1・2次) 発掘調査報告							
副書名								
巻次								
シリーズ名	三重県埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号	413							
編著者名	穂積裕昌 原田恵理子 土橋明梨紗							
編集機関	三重県埋蔵文化財センター							
所在地	〒515-0325 三重県多気郡明和町竹川503 TEL. 0596-52-1732							
発行年月日	2023年3月9日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因	
深田古墳群	鈴鹿市 東玉垣町	24207	1350 1351 1352	34度51分53秒	136度35分44秒	20181015 ~ 20181218 20191105 ~ 20200110	1,265㎡	農地整備 事業 (経 営体育成 型) 鈴鹿 川沿岸6 期地区
深田遺跡	鈴鹿市 東玉垣町	24207	815	34度51分52秒	136度35分50秒			
双ツ塚西方遺跡	鈴鹿市 東玉垣町	24207	691	34度51分48秒	136度35分52秒	20181219 ~ 20190222	504㎡	
中島遺跡	柳町 中島	24207	874	34度51分53秒	136度36分11秒	20190902 ~ 20200120	1,890㎡	
双ツ塚遺跡	柳町 双ツ塚	24207	690	34度51分46秒	136度36分15秒	20200114 ~ 202006127	228.06㎡	
金沢川遺跡	岸岡町	24207	714	34度51分33秒	136度36分21秒	20190716 ~ 20190903 20200804 ~ 20210204	2,710㎡	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
深田古墳群	古墳	古墳	周溝	土師器、須恵器、埴輪				
深田遺跡	集落跡	弥生～中世	竪穴建物、土坑、溝	弥生土器、土師器、須恵器、埴輪、陶器、磁器、木製品 (倉庫)、砥石				
双ツ塚西方遺跡	散布地	弥生～中世	土坑、溝	弥生土器、土師器、須恵器、埴輪、陶器、大形土製品、瓦、金属製品 (鋸葉)				
中島遺跡	集落跡	弥生～中世	竪穴建物、土坑、溝	弥生土器、土師器、須恵器、陶器、磁器、瓦、砥石				
双ツ塚遺跡	集落跡	弥生～中世	土坑、溝	弥生土器、土師器、須恵器、陶器				
金沢川遺跡	集落跡	弥生～中世	柱穴、土坑、	弥生土器、土師器、須恵器、陶器、磁器、瓦、埴輪、鉄片、木製品 (船)				
要 旨	<p>今回の発掘調査は、標高4.6～6 m程度の金沢川下流沖積地に立地し、金沢川遺跡付まで入り江であったとみられている所で複数の遺跡を対象に行われた。</p> <p>深田古墳群は、遺出をもつ方墳である1号墳、周溝内埋葬を伴う2号墳、方墳である3号墳で構成され、5世紀末～6世紀初頭を築機に築造された。1号墳は周溝から多数の埴輪が出土した。</p> <p>深田遺跡・中島遺跡・双ツ塚遺跡では、弥生時代終末～古墳時代初期の集落を確認した。当時の微高地に居住域が認められ、微地形にあわせて土地利用をしていた様子が見えてくる。古墳時代後期もほぼ同じ範囲で集落が形成された。</p> <p>金沢川遺跡では、古墳時代後期の土堀堀、古代の溝・土坑・柱穴などを確認した。大型食器や碗、鉄片出土もあり、南側台地上に、公的機関にかかわる施設と想定される天王遺跡が所在し、天王遺跡との関連が考えられる。</p> <p>双ツ塚西方遺跡は、微高地で古代とみられる溝を確認した。出土遺物は、大形土製品、鋸葉が特筆される。</p>							

## 三重県埋蔵文化財調査報告413

### 深田古墳群 深田遺跡 (第2・3次) 双ツ塚西方遺跡 中島遺跡 双ツ塚遺跡 (第3次) 金沢川遺跡 (第1・2次) 発掘調査報告 ～鈴鹿市東玉垣町・柳町・岸岡町所在～

2023 (令和5)年3月

編集・発行 三重県埋蔵文化財センター  
印刷 共立印刷株式会社





